整理センター国田分館

茨城県教育財団文化財調査報告第191集

島名境松遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ

中　巻

平成14年3月

茨　城　県
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第191集

島名境松遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ

中　巻

平成14年3月

茨　城　県
財団法人　茨城県教育財団

遺跡遠景

第1号土器焼成遺構

目　　次

第４章　島名境松遺跡の調査の成果 ……319
第１節　遺跡の概要 ……319
第２節　基本層序 ……319
第３節　遺構と遺物 ……323
1　縄文時代の遺構と遺物 ……323
（1）竪穴住居跡 ……323
（2）炉跡 ……422
（3）土器焼成遺構 ……424
（4）土器埋設遺構 ……429
（5）土坑 ……430
ア　大形土坑 ……430
イ　円筒形土坑 ……440
ウ　フラスコ状土坑 ……454
エ　その他の土坑 ……458
2　古墳時代の遺構と遺物 ……524
（1）竪穴住居跡 ……524
3　その他の遺構と遺物 ……559
（1）土坑 ……559
（2）不明遺構 ……574
4　遺構外 ……579
（1）遺構外出土遺物 ……579
（2）南斜面部 ……589
第４節　まとめ ……591
写真図版
付図

第４章　島名境松遺跡の調査の成果

第１節　遺跡の概要

平成12年度調査区域の総面積は9,288㎡で，現況は山林と畑地である。調査区は舌状台地上に位置し，「つくばエクスプレス」の路線幅での調査となり，南北最大長は約230mである。調査区内には市道が２本横切って，３区に分断されているため，便宜上Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区に分けて調査した。（第２図）

調査の結果，当遺跡は縄文時代中期及び古墳時代後期に集落が営まれた複合遺跡であることが判明し，縄文時代の竪穴住居跡32軒，炉跡３基，土器焼成遺構１基，土器埋設遺構１基，土坑238基（大形４基，円筒形12基，フラスコ状５基，その他の土坑217基），古墳時代の竪穴住居跡７軒，時期不明の土坑451基，不明遺構４基を確認した。また，縄文土器，土師器，土製品，石器，石製品などの遺物が出土している。

第２節　基本層序

調査区域は，標高22.0～22.5mの台地上に位置し，南部の一部は東谷田川からのびる支谷に面しているため標高差３mの斜面部となっている。テストピットは，調査区中央部のＦ７d3区にテストピットⅠを掘削し，斜面部の土層を検討するため南部のＦ７a4区にもう一つのテストピットⅡを設けた。テストピット間の地表面の標高差は１mである。当遺跡付近の一般的な土層は，テストピットⅠのものと考えられるため基本土層はテストピットⅠを用いる。テストピットⅠにおける地表面の標高は22.4mで，地表面から深度3.25mほど掘削した。テストピット断面の実測図を第１図に示す。

基本土層は，色調・構成粒子・含有物・粘性などから15層に細分される。これらの土層は大きく表土・関東ローム層・常総粘土層に区分され，１層が表土に，２～13層が関東ローム層に，14層と15層は常総粘土層に対比される。

表土は，多量の腐植物を含む腐植土である。関東ローム層は，層厚2.5mで，地表面から深度0.8mと深度2.0mの2層準に暗色帯が認められる。また，最下部に黄橙色の軽石を含む層（11～13層）が認められ，特に12層に含まれる軽石の量が多い。茨城県南部の取手市大山Ⅰ遺跡の調査例では，常総粘土層の直上に黄褐色の軽石層が報告され箱根－東京軽石（約49,000年前）と推定されている。[(1)(2)] 本層も常総粘土層との層序関係から箱根－東京軽石に対比されると考えられる。

遺構は２層上面で確認した。

各層の特徴を述べる。

１層は，暗褐色を呈する腐植土層で，少量のローム小ブロックやローム粒子を含む。粘性は弱くしまりは普通であり，厚さは26～36cmである。

２層は，明褐色を呈するローム層である。粘性は弱く，しまりは普通である。厚さは24cmである。

３層は，褐色を呈するローム層である。粘性は弱く，しまりは強い。厚さは８～24cmである。

４層は，褐色を呈するローム層である。粘性は弱く，しまりは強い。厚さは10～15cmである。

５層は，暗褐色を呈するローム層である。粘性は弱く，しまりは強い。厚さは18～30cmである。

６層は，褐色を呈するローム層である。粘性は弱く，しまりは強い。厚さは５～10cmである。

7層は，褐色を呈するローム層である。粘性は弱く，しまりは強い。厚さは18～30cmである。

8層は，褐色を呈するローム層である。粘性は普通で，しまりは強い。厚さは26～30cmである。

9層は，褐色を呈するローム層である。粘性は普通で，しまりは強い。厚さは14～40cmである。

10層は，暗褐色を呈するローム層である。粘性は普通で，しまりは強い。厚さは42～62cmである。

11層は，明褐色を呈するローム層で，径3～5mmの黄橙色をした軽石を微量含む。粘性は普通でしまりは強い。厚さは5～15cmである。

12層は，明褐色を呈するローム層で，径3～5mmの黄橙色をした軽石を少量含む。粘性は普通でしまりは強い。厚さは10～30cmである。

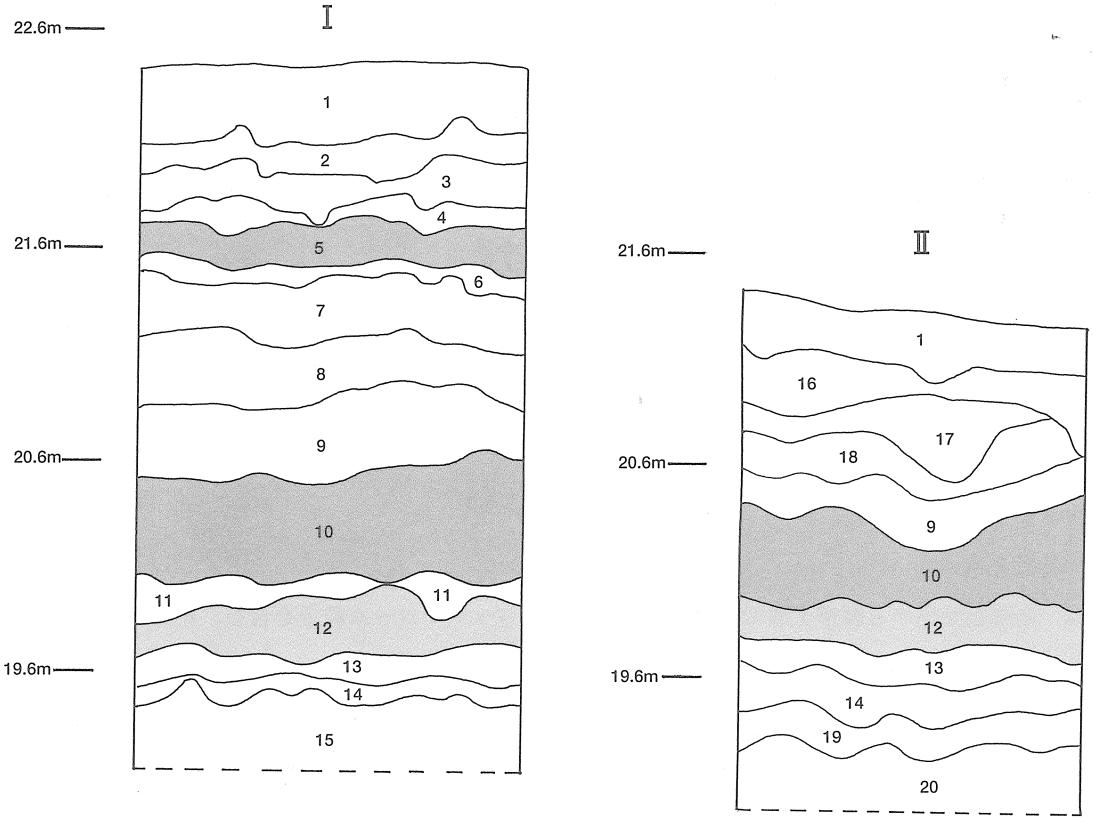
13層は，明褐色を呈するローム層で，径3～5mmの黄橙色をした軽石を微量含む。粘性は普通でしまりは強い。厚さは5～20cmである。

14層は，淡黄色を呈する砂質粘土層で，ローム粒子を微量含む。また，暗赤褐色や黒色をした斑点が認められ，粘性・しまりは，ともに強い。厚さは8～10cmである。

15層は，にぶい黄色を呈する砂質粘土層である。暗赤褐色や黒色をした斑点が認められ，粘性・しまりはともに強い。厚さは25～30cmである。

テストピットⅡの土層について述べる。

斜面にあるためテストピットⅡでは，関東ローム層が1.2mほど削平されている。9層より上の土層は，腐植物や炭化物，焼土粒子をわずかに含んだロームより構成され調査区南部の斜面部に特徴的な土層である。これらの土層は，降雨などにより谷津に向かい流された炭化物や焼土粒子などがローム層に混入して，二次的に形



第1図　基本土層図

成されたと考えられる。

また12層に含まれる箱根－東京軽石は層状に密集していた。常総粘土層に対比される土層は、主に砂から構成される。水平方向へ粘土層から砂層への変化は，常総粘土層に一般的にみられる特徴である。

斜面部に見られる土層の特徴を述べる。

16層は，褐色を呈するローム層で炭化粒子や腐植物をわずかに含む。粘性は弱く，しまりは普通である。厚さは５～16cmである。

17層は，褐色を呈するローム層で炭化粒子や焼土粒子をわずかに含む。粘性は弱く，しまりは普通である。厚さは５～30cmである。

18層は，褐色を呈するローム層である。粘性は弱く，しまりは普通である。厚さは５～20cmである。

19層は，明褐色を呈するローム層で，砂粒をわずかに含み，黒色の斑点が少量みられ，粘性は普通で，しまりは強い。厚さは10～14cmである。

20層は，明黄褐色を呈する砂質粘土層である。粘性は弱く，しまりは強い。厚さは30～35cmである。

註

（１）　茨城県教育財団　旧石器時代研究班　「茨城県南部における立川ローム層の層序区分について」『研究ノート』６号　1997年

（２）　町田　洋，新井房夫　「火山灰アトラス」東京大学出版会　1992年

第２図　島名境松遺跡調査区設定図

第３節　遺構と遺物

１　縄文時代の遺構と遺物

今回の調査で，縄文時代の竪穴住居跡32軒，炉跡３基，土器焼成遺構１基，土器埋設遺構１基，土坑238基（大形４基，円筒形12基，フラスコ状５基，その他の土坑217基）を検出した。以下，検出した遺構と遺物について記載する。

（１）竪穴住居跡

第１号住居跡（第３・４図）

位置　調査区北部，Ｃ６b5区の平坦部に立地しており，本跡南には第３～５号住居跡が位置している。

重複関係　北部を第６号土坑に掘り込まれている。また，トレンチャーによる撹乱をうけている。

規模と形状　覆土のほとんどが削平されているが，長径7.58m，短径7.52mの楕円形と推定され，長径方向は，N－33°－Eである。壁はほとんど削平されているが，最も残りが良好な部分の高さは３～５cmで，ほぼ直立する。

床　平坦であり，中央部がやや踏み固められている。

炉　２か所。炉１は中央部東側に付設され，炉２はその南側に隣接している。炉１は長径75cm，短径55cmの楕円形で，床面を５cmほどⅢ状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は赤変しており，中央部は径20cmの円形で深さ20cmほどの撹乱を受けている。炉２は径70cmの円形で，深さ20cmほどⅢ状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は，火熱を受けて赤変硬化している。

炉１土層解説
1　褐　　色　焼土粒子・炭化物微量
2　にぶい褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

炉２土層解説
1　褐　　色　ロームブロック・炭化物微量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化物微量
3　暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
4　赤　褐　色　焼土粒子中量，焼土ブロック少量

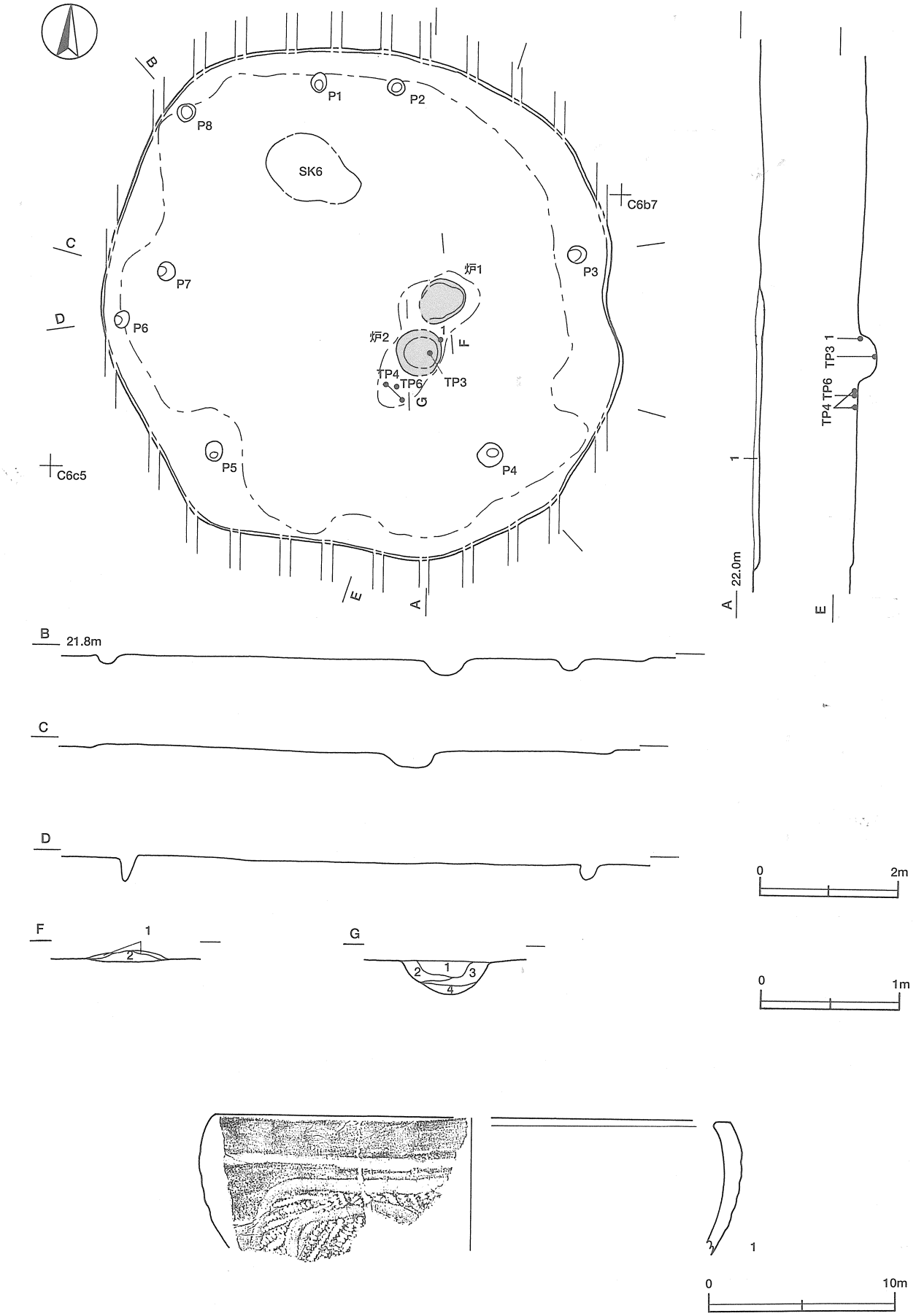
ピット　８か所。Ｐ１～Ｐ８は深さ15～33cmで，規模や配列から主柱穴と考えられる。

覆土　単一層で自然堆積の状況を示している。

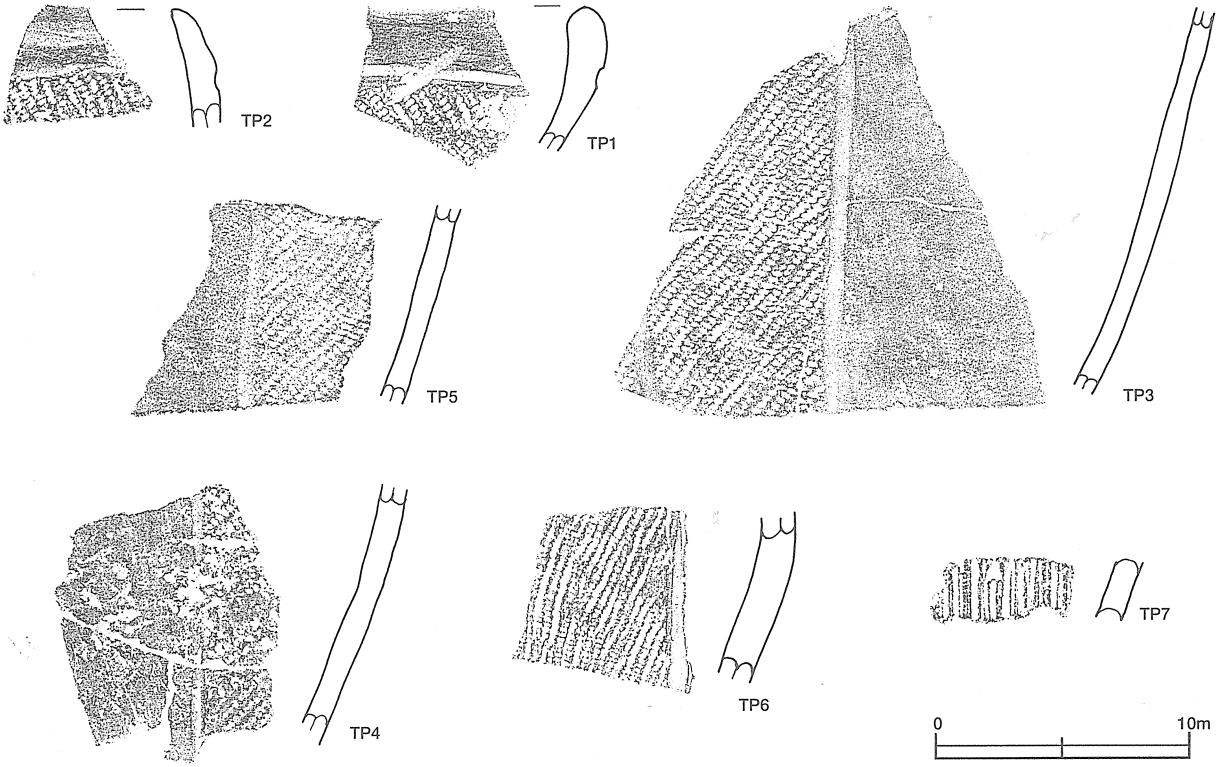
土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片139点（口縁部９，胴部130）が出土し，深鉢の胴部片が多く，炉２の南西側の床面から散在した状態で出土している。時期は縄文時代中期の加曽利EⅡ～Ⅲ式期の土器が混在しているが，多くは加曽利EⅢ式期のものである。１は炉２の覆土上層，TP３は炉２の覆土下層から出土し，炉を囲む埋設土器の一部である。TP４・TP６は炉２の南西側床面から出土している。TP１・TP７は北東部，TP２は南東部の覆土中からそれぞれ出土し，TP５は炉２内の覆土中から出土している。

所見　本跡は，トレンチャーによる撹乱が激しいが，硬化面の範囲と柱穴の配列から住居規模が推定できた。炉が２か所検出されており，炉２は炉１より深く掘り窪められた土器埋設炉である。本跡の時期は出土土器から，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。



第3図　第1号住居跡・出土遺物実測図



第４図　第１号住居跡出土遺物実測図

第１号住居跡出土遺物観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
1	縄文土器	深　鉢	[28.0]	(7.2)	－	口辺部は沈線で無文帯を区画，胴部は沈線で文様帯を区画し，区画内にＲＬの単節縄文充填	長石･石英･雲母	普通	にぶい黄橙	炉上層 ＰＬ24

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
1・2	縄文時代中期後葉	口縁部片で，無文帯を有し，胴部にはＲＬの単節縄文施文	覆土中	
3～6	縄文時代中期後葉	胴部片で，ＲＬの単節縄文地に沈線を懸垂させ，沈線間磨消	3炉部底面,5覆土中,4･6中央部底面	ＰＬ31
7	縄文時代中期後葉	縦位の条線文施文	覆土中	

第２号住居跡（第５図）

位置　調査区北部，Ｄ６b3区の平坦部に立地し，第６号住居跡と重複している。北には第３号住居跡，北東には第５号住居跡が，本跡から７ｍほどに位置している。

重複関係　第６号住居跡に掘り込まれている。また，トレンチャーによる撹乱を受けている。

規模と形状　長径4.90m，短径4.50mの楕円形と推定されるが，壁はほとんど削平されている。

床　ほぼ平坦であり，中央部がやや踏み固められている。

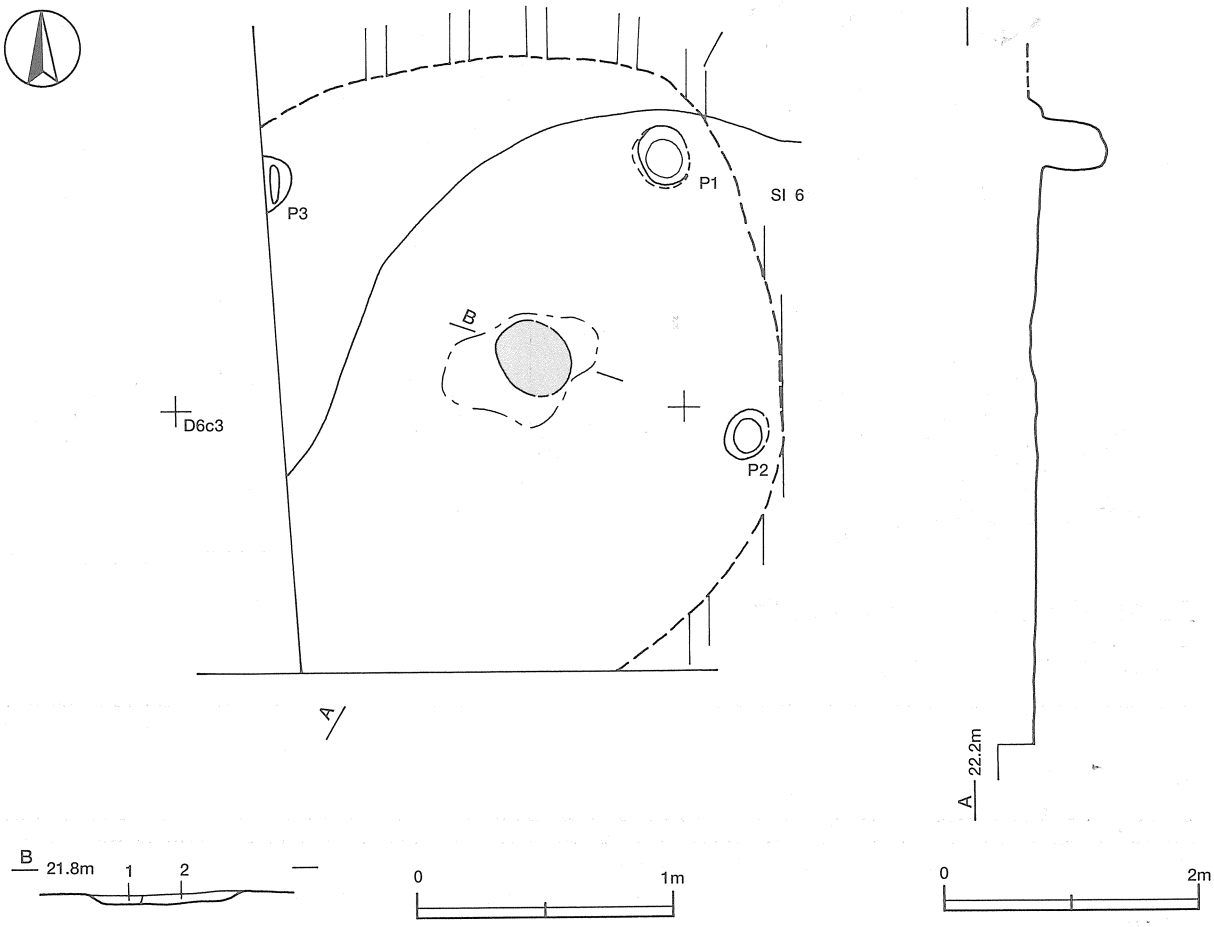
炉　中央部に付設されており，長径65cm，短径54cmの楕円形で，床面を４cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は火熱を受けて，赤変硬化している。

炉土層解説
1　極暗赤褐色　焼土ブロック・焼土粒子中量，ロームブロック微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック多量，ロームブロック微量

ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ36～55cmで，規模や配列から主柱穴と考えられる。

遺物出土状況　覆土のほとんどが削平されており，隣接している第６号住居跡にも掘り込まれているために，遺物は出土していない。

所見　本跡も，トレンチャーによる撹乱が激しく，第６号住居跡にも掘り込まれているが，硬化面の範囲と柱穴の配列から住居規模が推定できた。出土遺物はないものの，切り合い関係や住居の形態などから，第６号住居跡とほぼ同時期の縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。



第５図　第２号住居跡実測図

第３号住居跡（第６～８図）

位置　調査区北部，Ｃ６j3区の平坦部に立地しており，本跡の南東には第５号住居跡，南には第２・６号住居跡がそれぞれ位置している。

確認状況　西部は調査区域外に延びており，トレンチャーによる撹乱も受けている。

規模と形状　長径3.85m，短径2.82mの楕円形であると推定され，長径方向はN－７°－Wであり、壁高は12～22cmで直立する。

床　ほぼ平坦であり，ほとんど硬化面は認められない。

炉　中央部に付設されて，平面形は長径33cm，短径は25cmだけ確認され，円形と推定される，床面を35cmほど皿状に掘り窪めた地床炉であるが，炉床面はわずかに赤変している程度である。

炉土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土ブロック微量
3　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量

ピット　6か所。P1～P5は深さ15～26cmで，規模や配列から主柱穴と考えられるが，P6の性格は不明である。

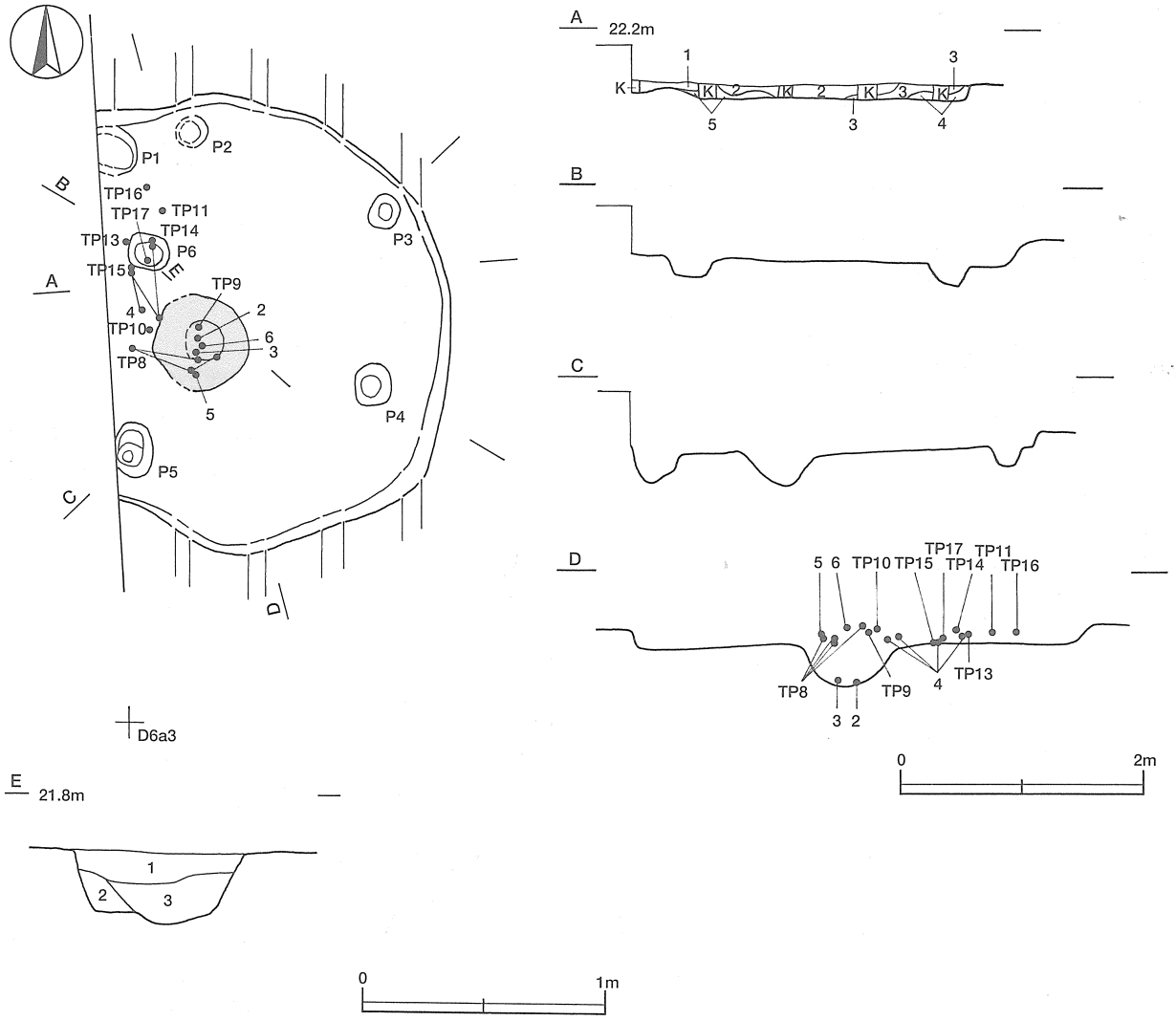
覆土　5層からなる。1層は不自然な堆積状況のため人為堆積であり，2～4層は，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

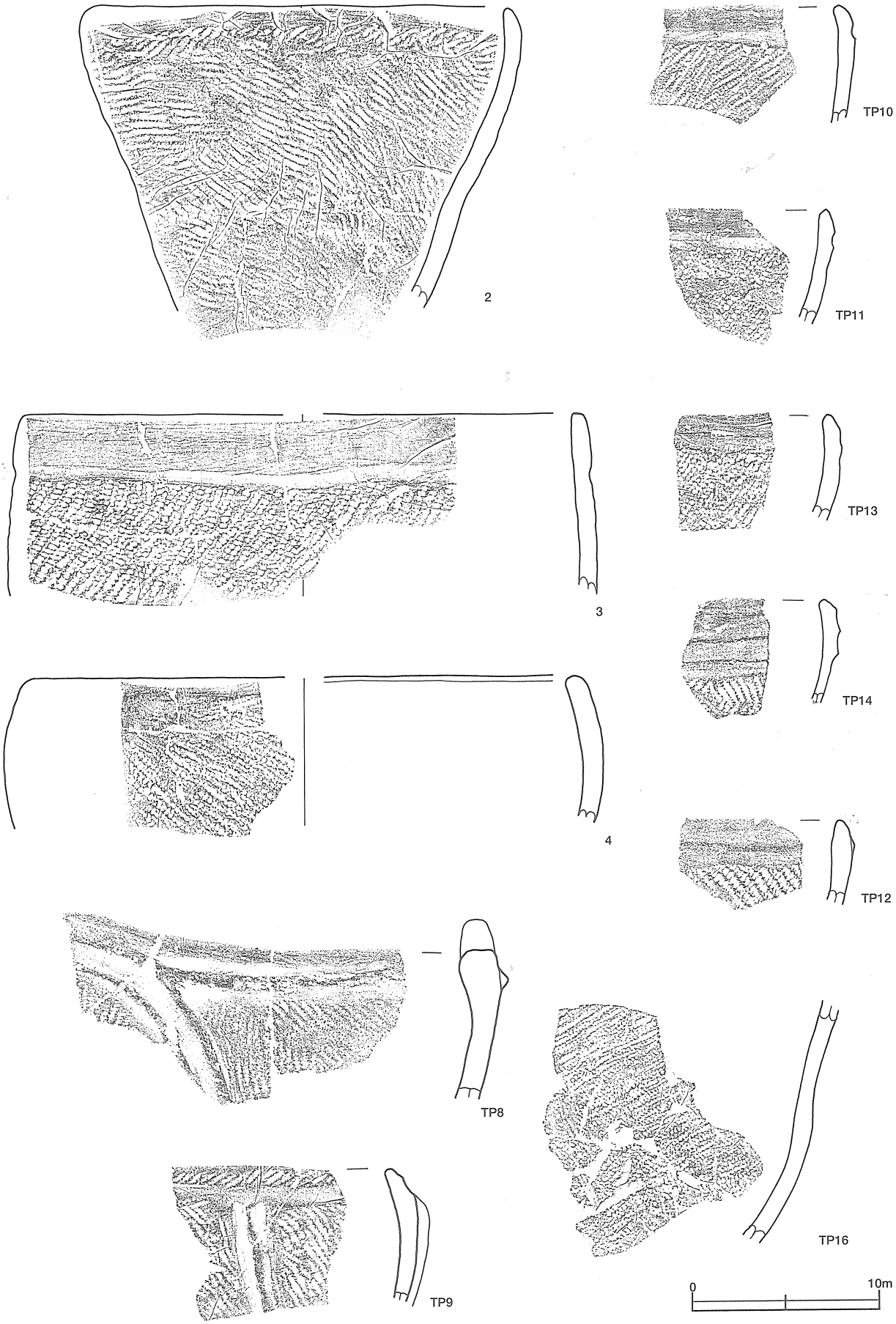
1　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
2　黒褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量
4　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
5　暗褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片296点（口縁部13，胴部280，底部3），礫2点であり，炉内部と炉北側の覆土中層から床面にかけて出土したものがほとんどである。4はP6の上面と炉の北西側の覆土中層から出土した土器の接合資料である。また，6は炉中央部の覆土上層，2・3は炉の底面よりやや浮いた状態で出土している。

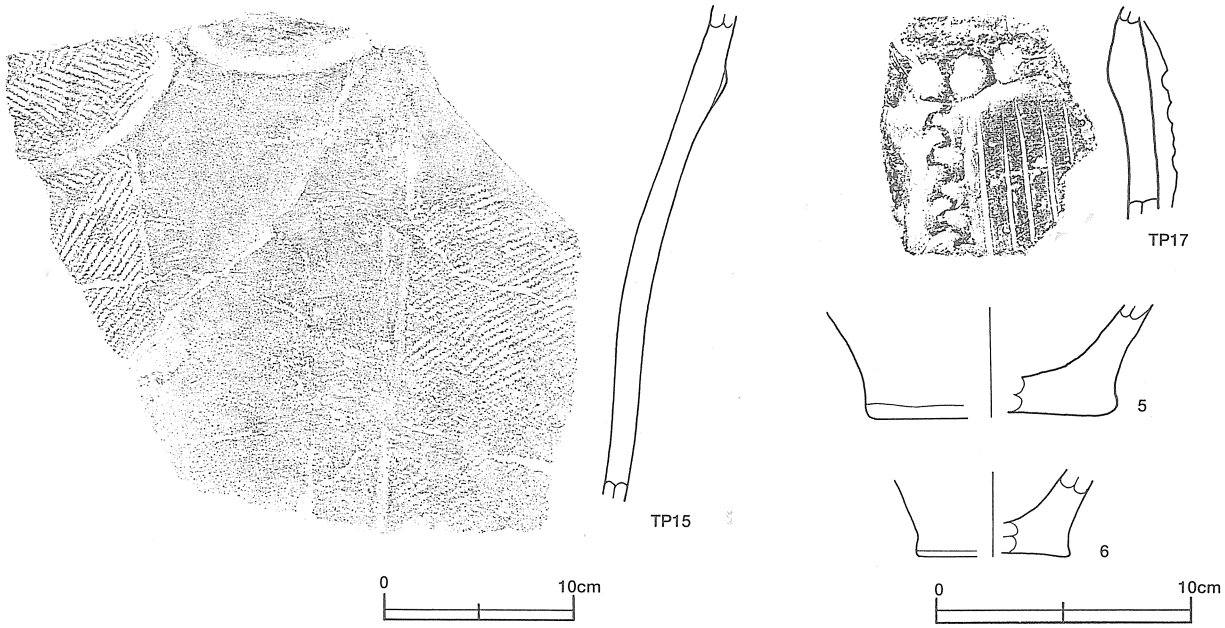
所見　本跡は西部が調査区域外に延び，トレンチャーによる撹乱も受けている。炉の底面よりやや浮いた状態で出土している深鉢片は，火熱を受けているため炉の埋設土器の可能性も考えられる。本跡の時期は出土土器から，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。



第6図　第3号住居跡実測図



第7図　第3号住居跡出土遺物実測図(1)



第8図　第3号住居跡出土遺物実測図(2)

第3号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
2	縄文土器	深鉢	22.4	(16.5)	−	口縁部直下にわずかに無文帯を残し，無節縄文が施文	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	炉底面 ＰＬ24
3	縄文土器	深鉢	[30.2]	(9.8)	−	口辺部に無文帯を区画，胴部はＲＬの単節縄文施文	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	炉底面
4	縄文土器	深鉢	[29.4]	(8.0)	−	口辺部に無文帯区画，胴部はＲＬの単節縄文が施文	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	北西部中層
5	縄文土器	深鉢	−	(4.4)	[9.2]	底部片で，ヘラ削り	長石・雲母・白色粒子	普通	にぶい黄橙	炉上面
6	縄文土器	深鉢	−	(3.4)	[6.0]	底部片で，ヘラ削り	長石・雲母・白色粒子	普通	橙	中央部上層

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
8・9	縄文時代中期後葉	口縁部片で,隆帯により文様帯区画し,単節縄文を施文	中央部上層	ＰＬ31
10～14	縄文時代中期後葉	口縁部片で,口縁部直下に沈線を巡らす10･11と,微隆帯を有する12～14があり,胴部にRLの単節縄文が施文	10中央部上層,11･13･14北西部中層,12覆土中	
15	縄文時代中期後葉	胴上部片で,口辺部に沈線により口辺部文様帯を有し,胴部は沈線区画の懸垂文で,区画内にRL縄文を施文	北西部下層	
16	縄文時代中期後葉	胴部片でRLの単節縄文を施文	北西部中層	
17	縄文時代中期後葉	頸部に押圧隆帯を周回させ,また垂下する押圧隆帯も見られる,地文は縦位の沈線文が施文	北西部下層	

第4号住居跡（第9～11図）

位置　調査区北部，C6i0区の平坦部に立地しており，西には第5号住居跡が位置している。

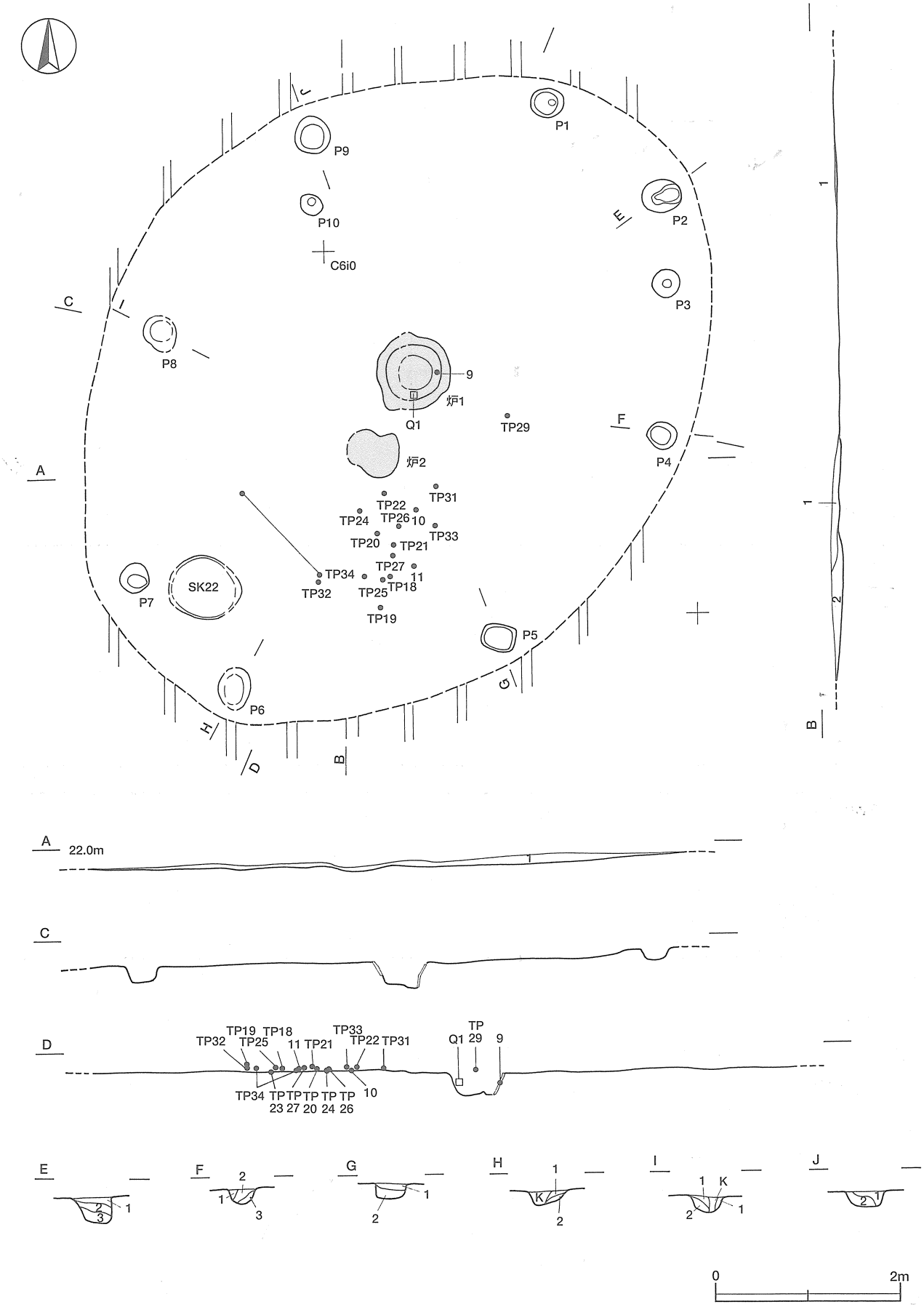
規模と形状　覆土が削平されているため，壁の立ち上がりを捉えることができなかったが，柱穴の配列などから長径8.0m，短径6.2mの楕円形と推定され，長径方向は，N－42°－Eである。

床　ほぼ平坦であり，硬化面はほとんど認められない。

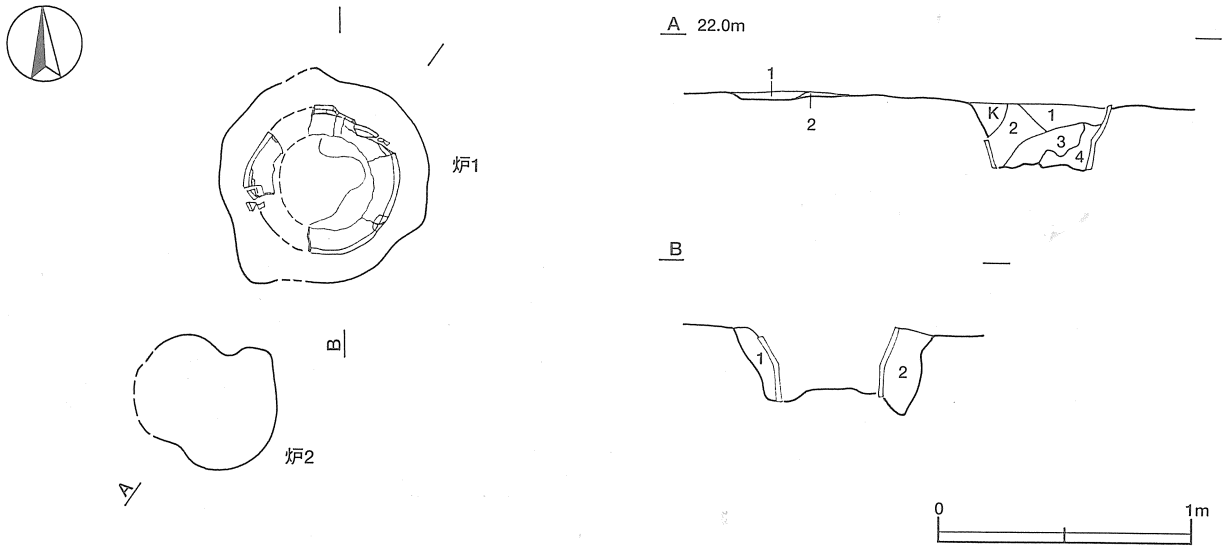
炉　中央部に2か所確認されている。炉1は中央部に位置した長径85cm，短径80cmの円形の土器埋設炉である。炉床面及び炉体土器は火熱を受け，赤変硬化している。炉2はその南側に隣接し，長径55cm，短径40cmの楕円形で，3cmほど掘り窪めた地床炉である。炉床面は火熱を受け，赤変硬化している。

炉1土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，炭化物微量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量
3　赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック中量，炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量



第9図　第4号住居跡実測図



第10図　第４号住居跡実測図

炉２土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
2　赤　褐　色　焼土小ブロック多量

ピット　10か所。Ｐ２・Ｐ４～Ｐ６・Ｐ８・Ｐ９は深さ14～29cmで，規模や配列から主柱穴と考えられるが，その他のピットの性格は不明である。

Ｐ２土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量
2　暗褐色　ローム粒子中量
3　暗褐色　ローム粒子少量

Ｐ４土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量
2　褐　色　ロームブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子少量

Ｐ５土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量
2　暗褐色　ロームブロック少量

Ｐ６土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量
2　暗褐色　ロームブロック少量

Ｐ８土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量
2　暗褐色　ローム粒子中量　締まり有り

Ｐ９土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量

覆土　２層から成り，堆積状況や含有物から人為堆積と考えられる。

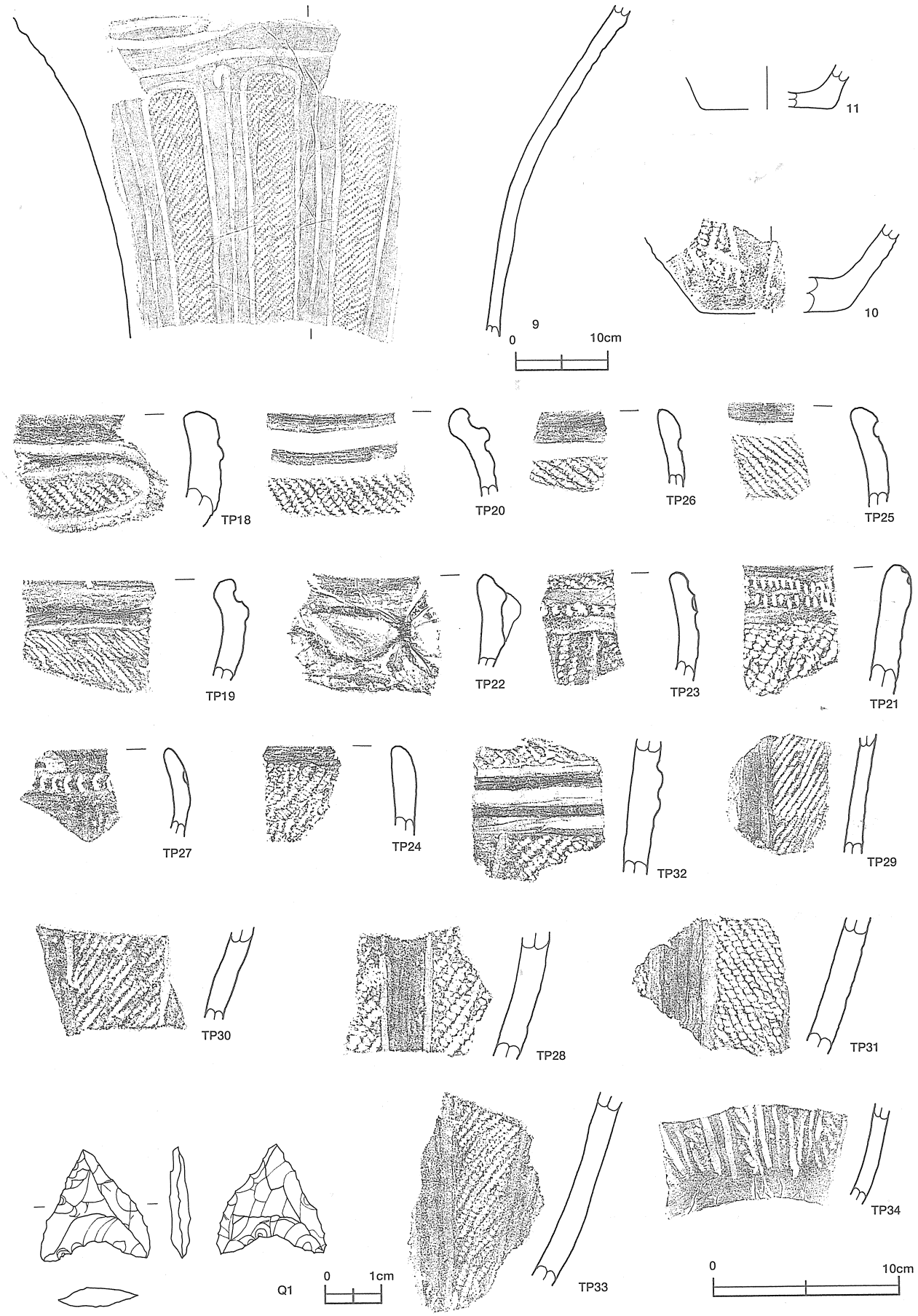
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片494点（口縁部42，胴部444，底部８），石鏃１点，粘土塊１点，礫２点が出土している。９は埋設土器であり，Ｑ１は炉１の南壁中層から出土している。土器の多くは南部の覆土中を中心に散在しており，南側から投棄されたものと思われる。これらは加曽利ＥⅡ～Ⅲ式期の土器片がほとんどであるが，阿玉台式期の土器片も若干含まれており，混入である。

所見　本跡はトレンチャーによる撹乱が激しく，壁の立ち上がりを捉えられなかったが，柱穴の配列などから住居規模を推定できた。出土土器は南部を中心に投棄されたもので，本跡の時期は埋設土器から，縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅢ式期）と考えられる。

第４号住居跡出土遺物観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
9	縄文土器	深　鉢	－	(36.0)	－	胴部の懸垂文は上端が連結し,区画内にRLの単節縄文が充填され,無文帯に蕨手状の沈線が垂下	長石･石英･雲母	普通	橙	炉１　ＰＬ24
10	縄文土器	深　鉢	－	(4.7)	[8.0]	底部下端に,単節縄文が施文	石英･白色粒子･雲母	普通	明赤褐	南部底面



第11図　第４号住居跡出土遺物実測図

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
11	縄文土器	深　鉢	－	(2.4)	[7.2]	ヘラ削りがなされ，無文	石英･白色粒子･雲母	普通	橙	南部底面

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
18	縄文時代中期後葉	口縁部片で,隆帯により文様帯を区画し,区画内に単節縄文を充填	南部床面	ＰＬ31
19･20･25･26	縄文時代中期後葉	口縁部片で,横位の沈線が巡り,20･25･26はRLの単節縄文,19は無節縄文が施文	19南部中層，20・25・26南部床面	ＰＬ31
22	縄文時代中期後葉	口縁部片で,隆帯によって口縁部文様帯区画	南部床面	
21・23・27	縄文時代中期後葉	口縁部片で27は口辺部に半截竹管刺突文が,21は2段に刻みが巡り,RLの単節縄文が施文,23は横位の沈潜間に刺突文施文	南部床面	
24	縄文時代中期後葉	口辺部に幅の狭い無文帯を有し,胴部はRLの単節縄文施文	南部床面	
32	縄文時代中期後葉	頸部片で2本の横位の隆帯により文様帯区画,胴部には懸垂区画文施文	南部床面	
28～31・33・34	縄文時代中期後葉	胴部片で,沈線による磨消懸垂文を有す,地文は28～30･33RL単節縄文,31･34がLR単節縄文	29中央部床面，31・33・34南部床面，28・30覆土中	ＰＬ31

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重さ	石　材	特　徴	出土位置	備考
Q.1	石　鏃	2.0	2.0	0.35	1.0	凝灰岩	灰褐色を呈し，無茎鏃	炉１中層	

第５号住居跡（第12・13図）

位置　調査区北部，Ｄ６a6区の平坦部に立地しており，北西には第３号住居跡，南西には第６号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　北西部を第１号不明遺構に掘り込まれており，第２号不明遺構との重複関係は不明である。また，トレンチャーによる撹乱を受けている。

規模と形状　長径5.11m，短径4.6mの楕円形と推定され，長径方向はN－90°－Wである。最も残りの良い部分の壁高は８cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，中央部が踏み固められている。

炉　中央部に付設されている。径１mほどの円形で，床面を20cmほど掘り窪めた地床炉である。炉床面は火熱を受けて，赤変している。

炉土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量,焼土ブロック少量,炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量
3　赤 褐 色　焼土ブロック多量，炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化物微量

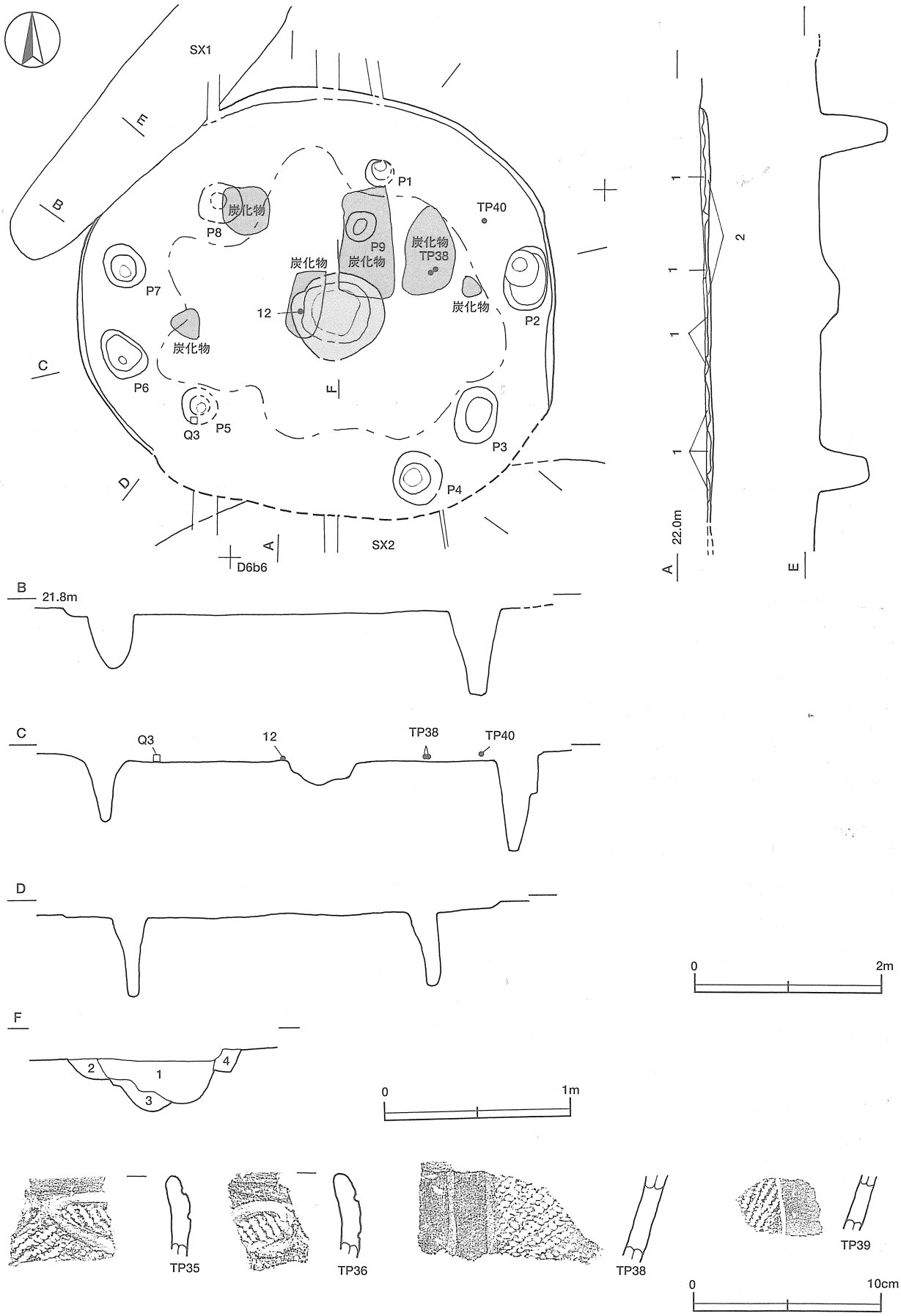
ピット　９か所。Ｐ１～Ｐ８は深さ53～100cmで，規模や配列から主柱穴と考えられるが，Ｐ９の性格は不明である。

覆土　２層からなり，自然堆積の状況を示している。

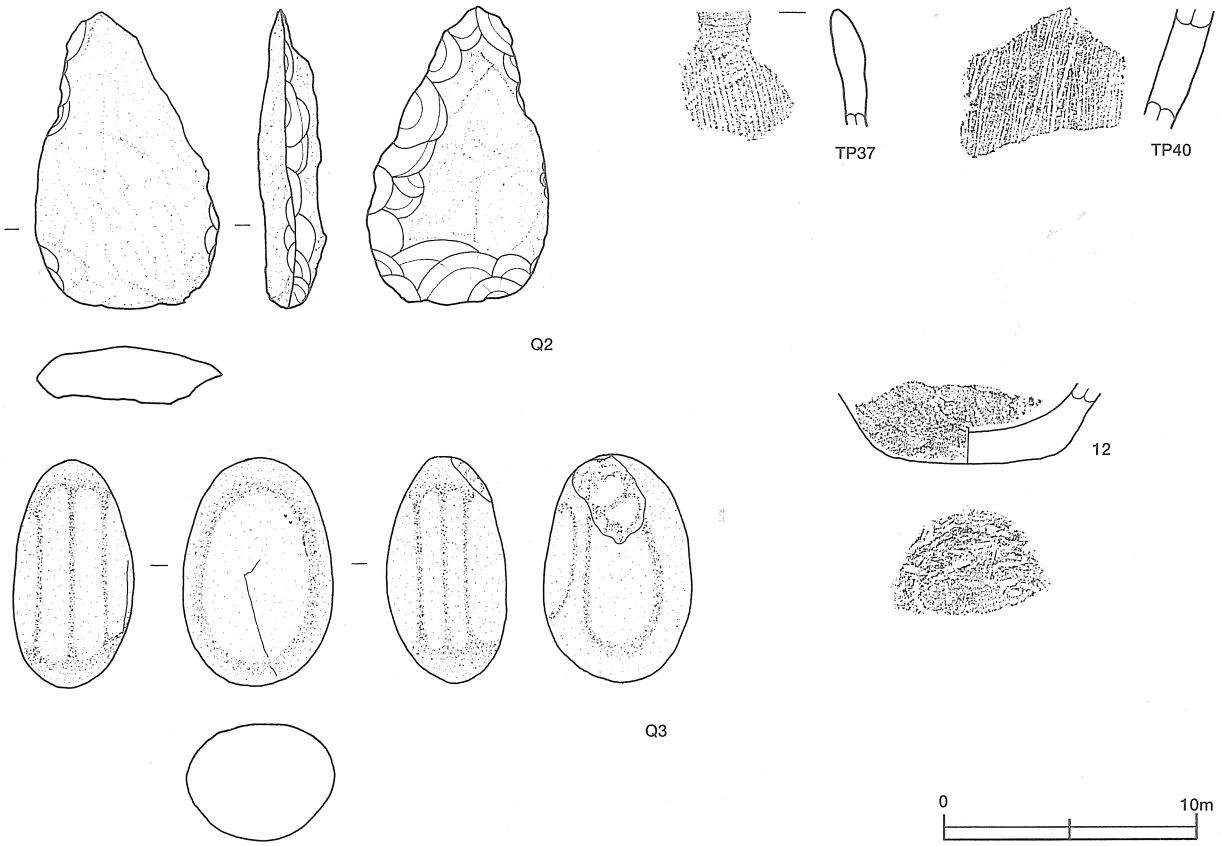
土層解説
1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土ブロック・炭化物微量
2　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片197点（口縁部17，胴部178，底部２），磨石１点，炭化物が出土している。土器片のほとんどは，東西壁際の覆土中からの出土であるが，12は炉の直上から出土している。

所見　本跡は，トレンチャーによる撹乱が激しく，第１号不明遺構にも掘り込まれているが，出土土器から，縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅢ式期）と考えられる。



第12図　第５号住居跡・出土遺物実測図



第13図　第５号住居跡出土遺物実測図

第５号住居跡出土遺物観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
12	縄文土器	深　鉢	－	(3.2)	7.0	底部片で，無文	長石・赤色粒子	普通	橙	中央部底面

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
35・36・38・39	縄文時代中期後葉	口縁部片は35･36では沈線による口辺部文様帯を区画し,LRの単節縄文を施文 38･39は胴部辺で懸垂文内にRLの単節縄文充填	35・36・39覆土中，38北東部中層	
37・40	縄文時代中期後葉	37は口縁部片,40は胴部片で縦位の条線文施文	37覆土中，40北東部中層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重さ	石　材	特　徴	出土位置	備考
Q２	打製石斧	11.8	7.3	2.7	212.0	雲母片岩	片面剥離調整	覆土中	
Q３	磨　石	9.1	5.9	4.63	(347.0)	砂岩	裏面上端部敲打による破損	南西部底面	ＰＬ39

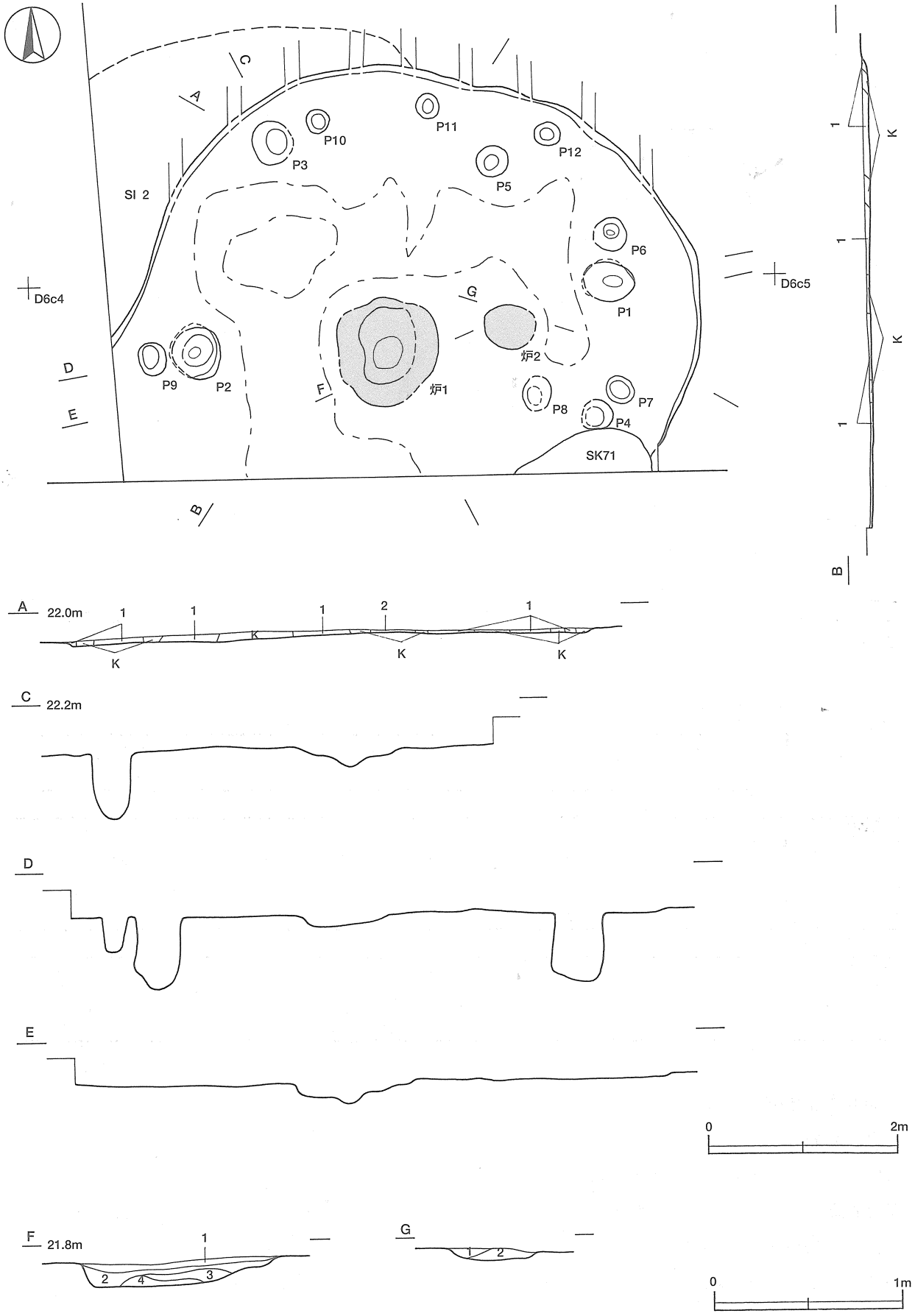
第６号住居跡（第14・15図）

位置　調査区北部，Ｄ６b4区の平坦部に立地し，第２号住居跡と重複している。北約７ｍに第３号住居跡，北東約６ｍに第５号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　東部を第71号土坑に掘り込まれており，第２号住居跡の東部を掘り込んでいる。また，トレンチャーによる撹乱を受けている。

規模と形状　調査区域外に延びているため検出された長径は5.88m，短径4.65mの楕円形と推定され，長径方向はN－20°－Wである。壁は高さ４cmほどで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，中央部が踏み固められている。



第14図　第６号住居跡実測図

炉　2か所。炉1は中央部に付設された径1.20mほどの円形で，床面を20cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。炉2は，炉1の東部に隣接して付設された長径55cm，短径45cmの楕円形の地床炉である。深さ5cmほど掘り窪め，炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉1土層解説

1　極暗赤褐色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化物微量
4　赤褐色　焼土ブロック多量

炉2土層解説

1　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
2　暗赤褐色　ロームブロック多量

ピット　12か所。P1～P3は深さ70～82cmで規模や配列から主柱穴と考えられる。P4～P6は主柱穴の間に配列されており，深さが24～30cmとやや小形であることから補助柱穴と思われ，その他のピットの性格は不明である。

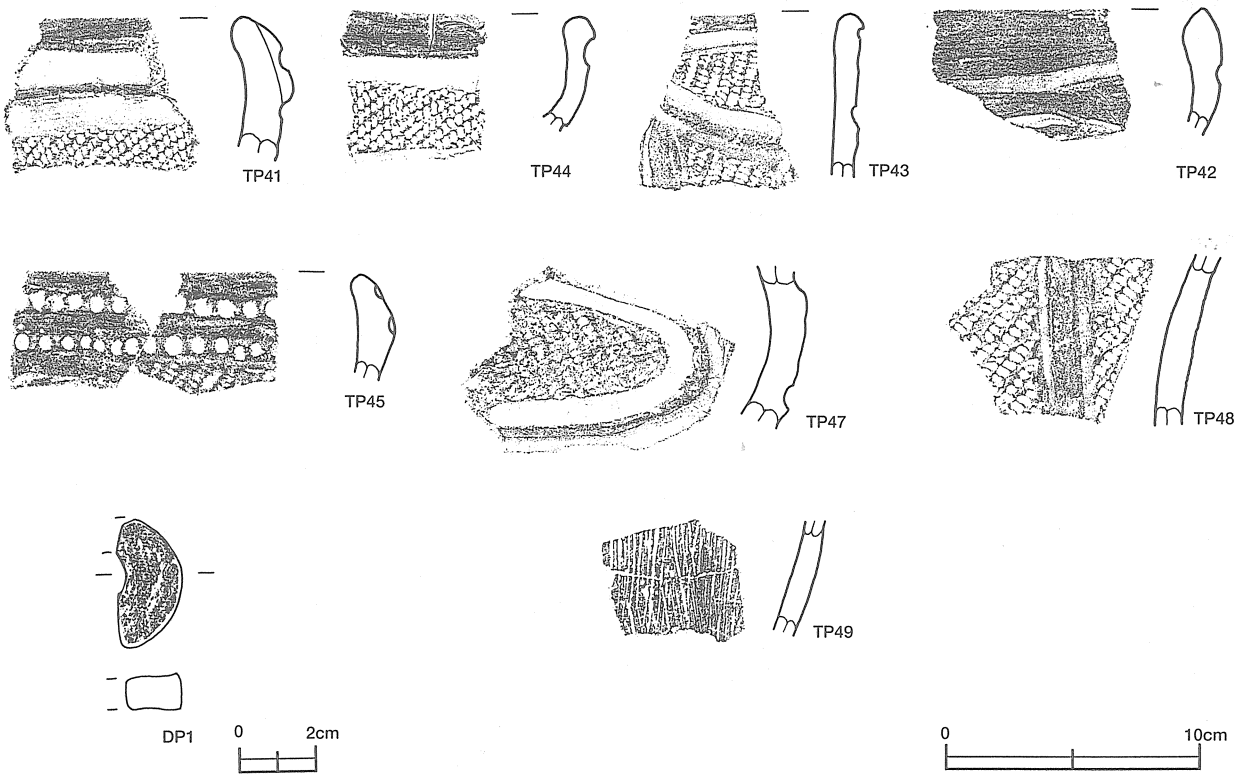
覆土　2層からなる。自然堆積と考えられる。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子多量，焼土ブロック・炭化物微量
2　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片58点（口縁部16，胴部38，底部4），土製品1点が出土している。遺物は少なく，北東部の覆土中からの出土がほとんどである。

所見　本跡は，トレンチャーによる撹乱が激しいが，壁の立ち上がりを捉えることができた。また，時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。



第15図　第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
DP1	玦状耳飾	3.4	(1.4)	1.0	(6.1)	土製	無文，半欠	覆土中	PL37

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
41·43·44·47	縄文時代中期後葉	隆帯による口辺部文様帯を有し，47は口縁部を欠いている	覆土中	
42	縄文時代中期後葉	口辺部に横位の沈線が施文，無文帯区画	覆土中	
45	縄文時代中期後葉	口辺部に横位の円形刺突文を二列に配し，胴部は単節縄文施文	覆土中	
48	縄文時代中期後葉	胴部片で，ＲＬの単節縄文地文に沈線による磨消懸垂文施文	覆土中	
49	縄文時代中期後葉	縦位の条線文が施文	覆土中	

第７号住居跡（第16～18図）

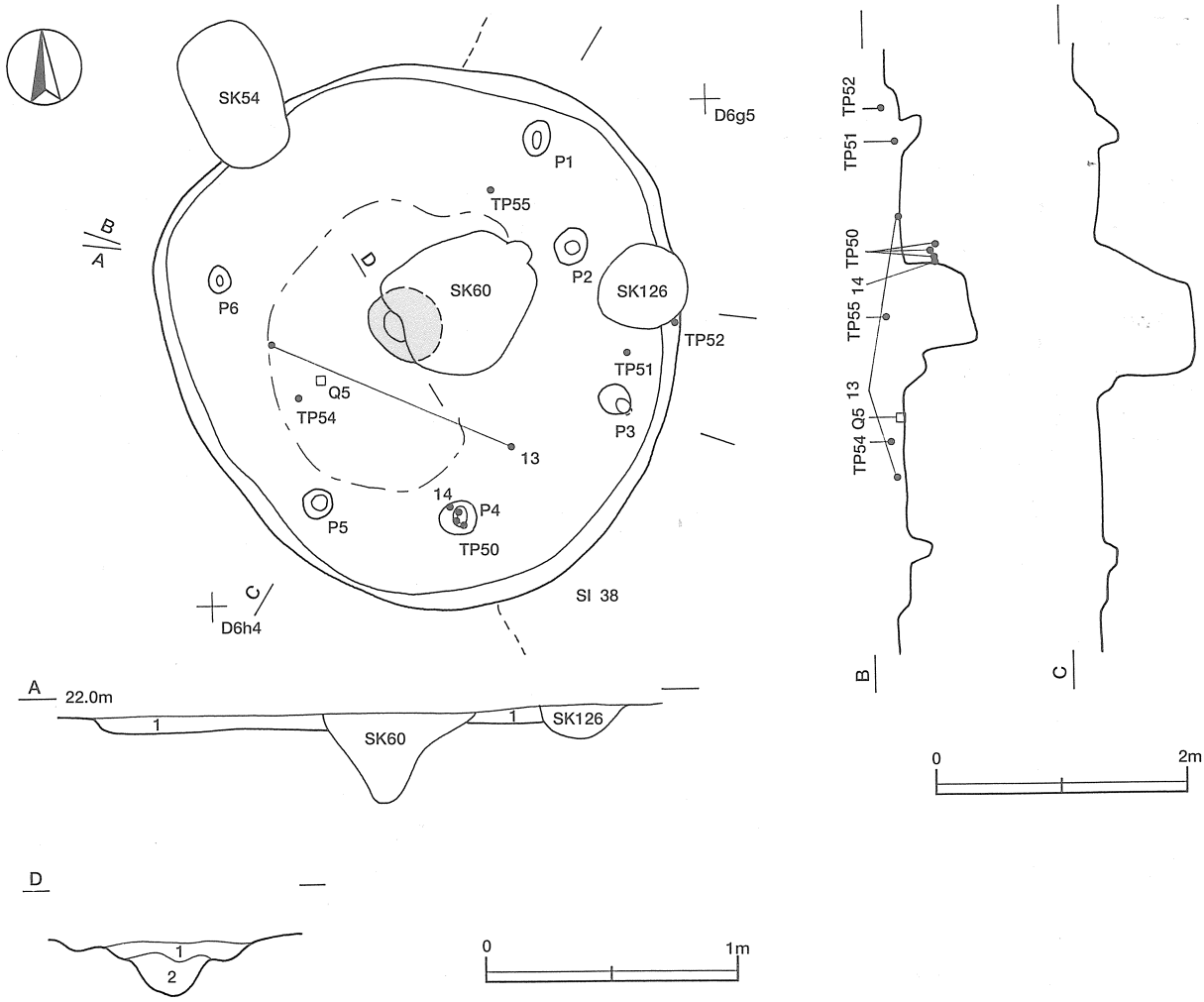
位置　調査区北部，Ｄ６g4区の平坦部に立地し，第38号住居跡と重複している。南には第８・９号住居跡，南東には第37号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　第38号住居跡の西部を掘り込んでおり，第54・60・126号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長径4.28m，短径4.12mの楕円形で，長径方向はN－34°－Wである。壁高は６～14cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，中央部が踏み固められている。

炉　中央部に付設されているが，一部第60号土坑に掘り込まれている。径57cmほどの円形で，床面を20cmほど皿状に掘り窪めた地床炉であり，炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。



第16図　第７号住居跡実測図

炉土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
2　明赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量

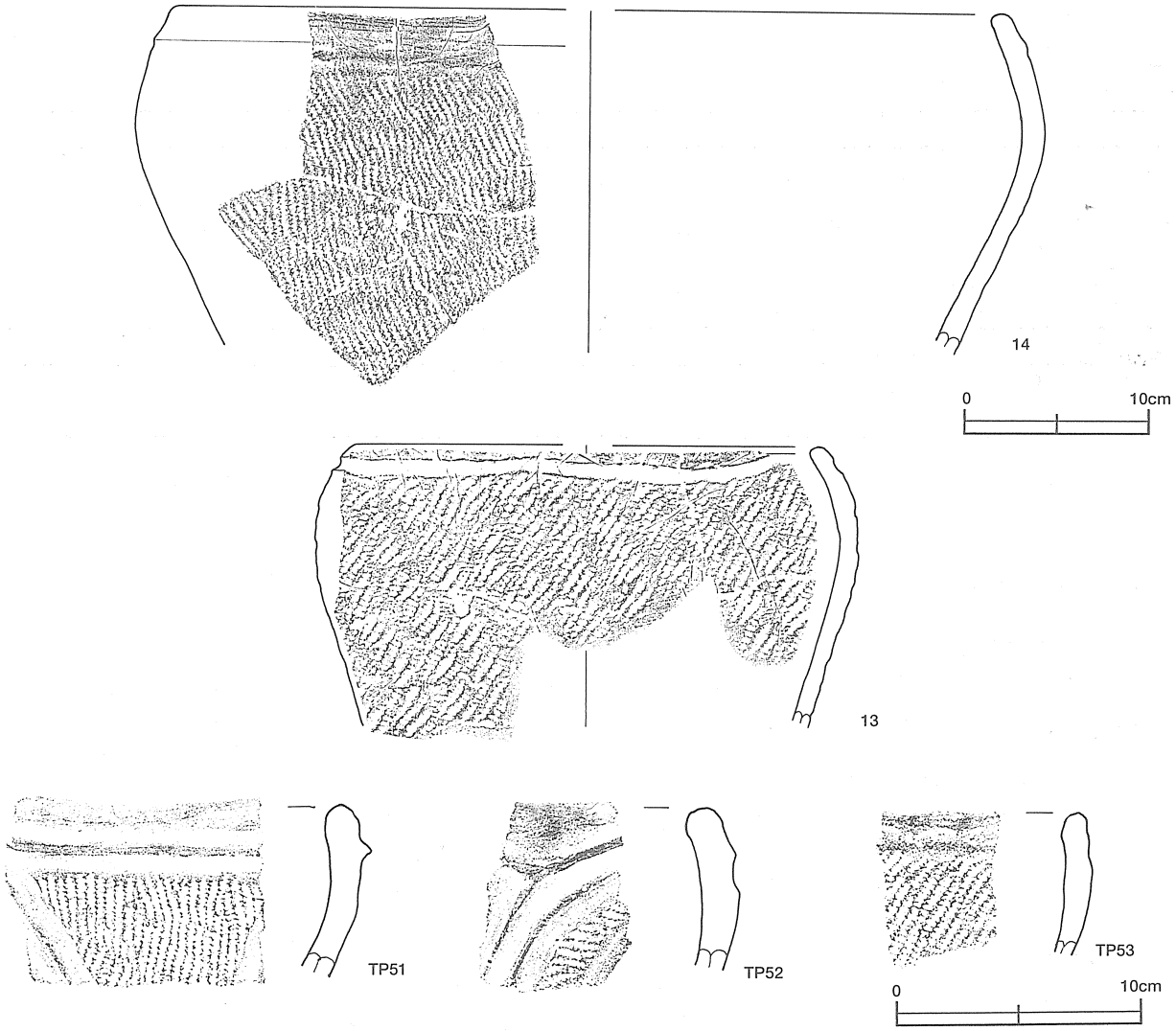
ピット　6か所。P1・P3・P5・P6は深さ8～19cmで，規模や配列から主柱穴と考えられる。また，P2・P4は9～27cmで位置的に補助柱穴と考えられる。

覆土　単一層からなり，自然堆積と考えられる。

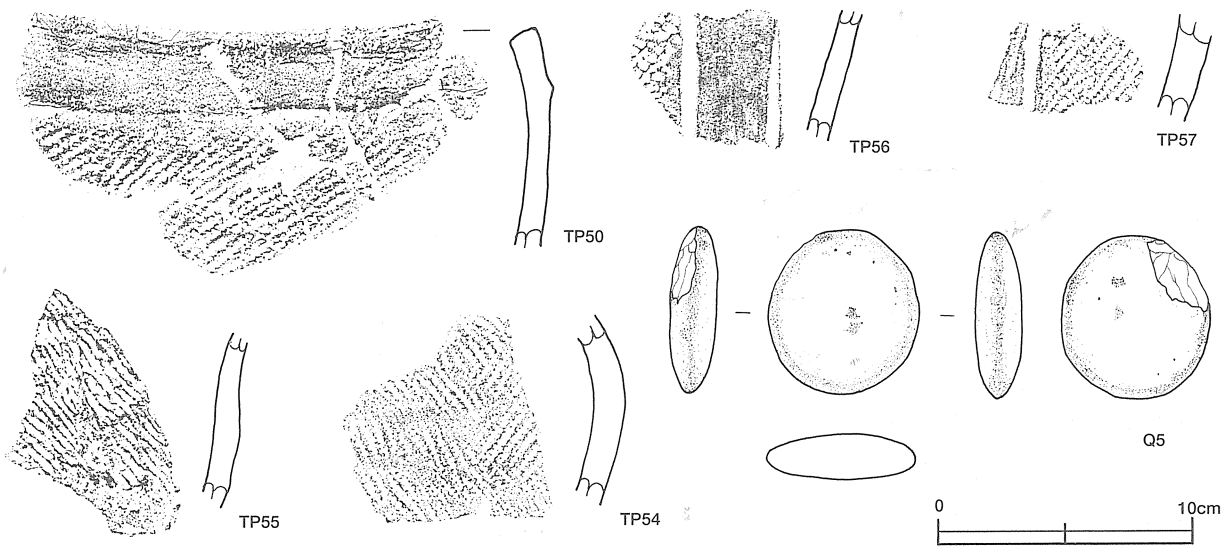
土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片162点（口縁部22，胴部138，底部2），磨石1点，剥片1点，礫5点が出土している。遺物は少量で全体的に散在しているが，とくに南側床面からの出土が多い。13は炉の西側と南側床面出土の破片が接合したものであり，14とTP50はP4の覆土中層から出土している。また，Q5は炉南西側の覆土下層から出土している。

所見　本跡は第38号住居跡を掘り込んでいるが，出土土器や遺構の形態などから，第38号住居跡とはそれほど時間差は認められず，時期は縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。



第17図　第7号住居跡出土遺物実測図(1)



第18図　第７号住居跡出土遺物実測図(2)

第７号住居跡土遺物出観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
13	縄文土器	深鉢	[19.4]	(11.6)	－	口縁部直下に沈線を巡らし，胴部はＲＬの単節縄文施文	長石･白色粒子･雲母	普通	にぶい黄橙	南部・西部の床面 ＰＬ24
14	縄文土器	深鉢	[45.6]	(18.8)	－	口縁部は無文帯で，胴部はＲＬの単節縄文施文	長石･雲母	普通	橙	Ｐ４中層 ＰＬ24

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
51・52	縄文時代中期後葉	口縁部片で,隆帯により文様帯を区画し,RLの単節縄文を施文	51東部床面，52東部上層	
50・53	縄文時代中期後葉	口縁部片で,口縁部直下は微隆帯で無文帯を区画し,以下にはRLの単節縄文施文	50Ｐ４中層，53覆土中	
56・57	縄文時代中期後葉	胴部片で,懸垂帯にRLの単節縄文施文	覆土中	
54・55	縄文時代中期後葉	胴部片で,55はLRの単節縄文,54はRLの単節縄文がそれぞれ施文	54西部中層，55北部上層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重さ	石　材	特　徴	出土位置	備考
Ｑ５	磨　石	6.5	5.9	1.85	(105.0)	砂岩	右側縁部敲打による破損	西部床面	

第８号住居跡（第19～21図）

位置　調査区北部，Ｄ６j4区の平坦部に立地しており，第９号住居跡と重複している。北には第７・38号住居跡，東には第37号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　東部を第９号住居跡に掘り込まれているが，掘り込みが浅いため遺構の残りは良好である。

規模と形状　西側半分は調査区域外に延びている為，長径8.88m，短径は3.78mの楕円形と推定される。壁高は17～30cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦であるが，硬化面はほとんど認められない。

炉　長径90cm，短径は20cmほど確認され楕円形と推定される。中央部に付設されている。床面を14cmほど皿状に掘り窪めた地床炉であり，炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　焼土ブロック・炭化粒子微量
4　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化物微量

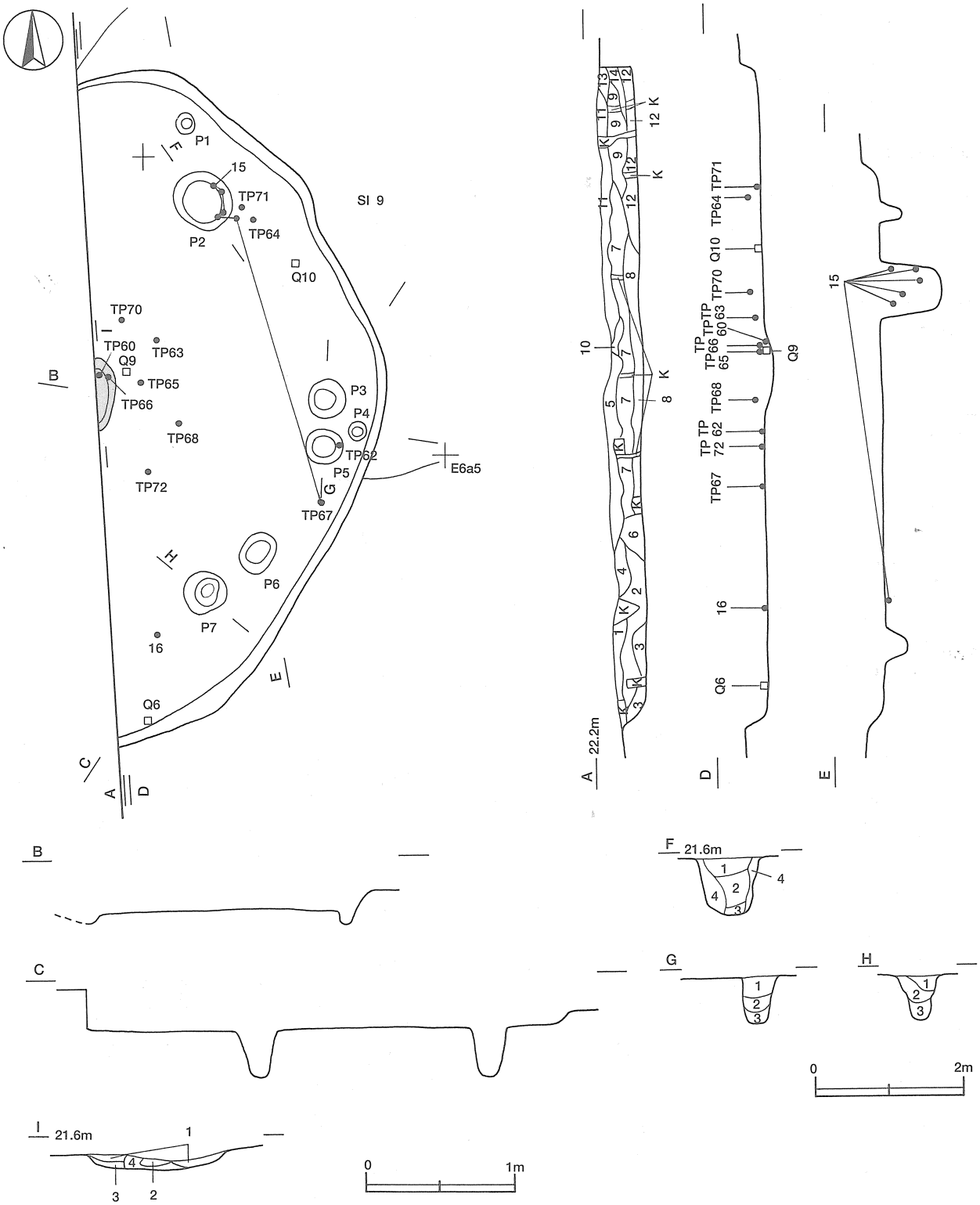
ピット　7か所。P2・P3・P7は深さ61～83cmで，規模や配列から主柱穴と考えられる。P5・P6はP3とP7の間に位置し，深さは12～28cmの補助柱穴と思われる。その他のピットの性格は不明である。

P2土層解説

1　暗褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

P3土層解説

1　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量



第19図　第8号住居跡実測図

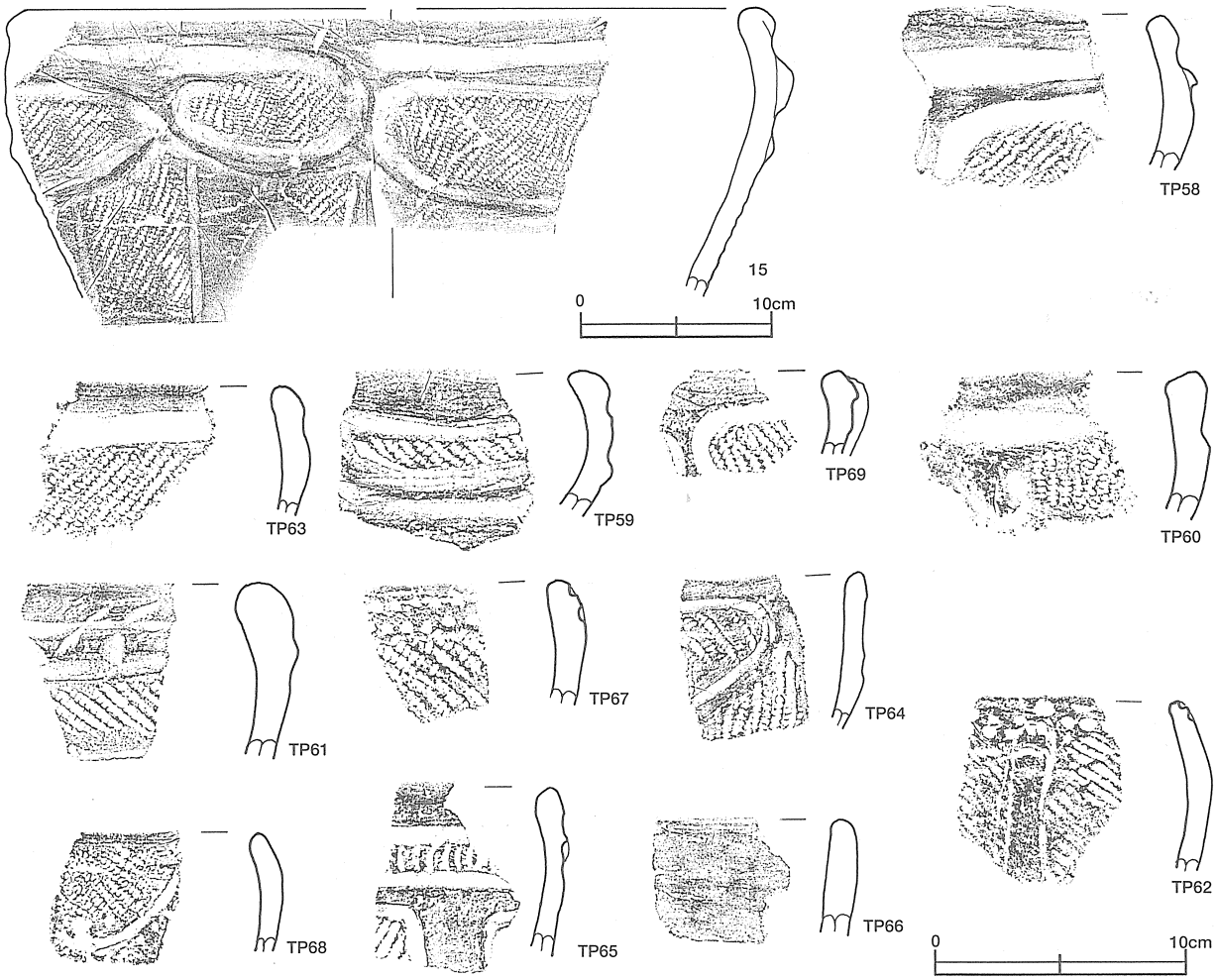
P７土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・炭化物少量，焼土粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化物・焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

覆土　14層からなり，自然堆積の状況を示している。

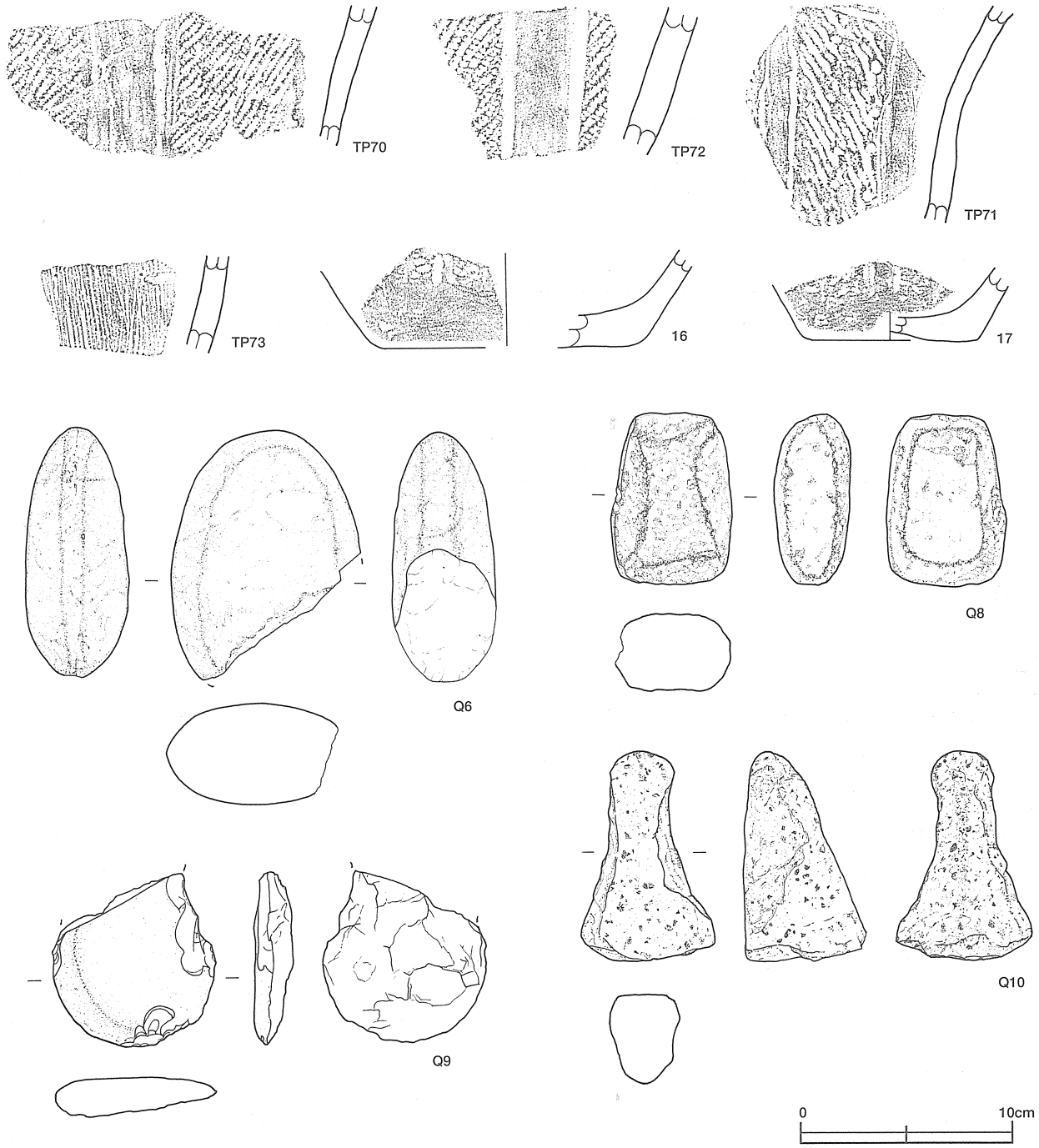
土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　黒 褐 色　ロームブロック・炭化粒子少量
5　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量
6　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック・炭化粒子微量
7　暗 褐 色　ロームブロック少量
8　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
9　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
10　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
11　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック・炭化物微量
12　極暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
13　極暗褐色　ロームブロック微量
14　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片916点（口縁部82，胴部823，底部11），磨石２点，打製石斧１点，石槌１点，礫８点，土師器１点が出土している。縄文土器はほとんど深鉢で，土師器は混入したものである。中央部には覆土中層から床面にかけて，投棄された遺物が集中して出土している。15はＰ２の上層から下層にかけて出土した土器と東部壁の床面の出土の土器の接合資料である。

所見　本跡は，西側半分が調査区域外に延びているため，調査できた範囲は狭いが，掘り込みが深くて遺存状態は良好である。時期は土器の出土状況などから，縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅡ～Ⅲ式期）と考えられる。



第20図　第８号住居跡出土遺物実測図(1)



第21図　第８号住居跡出土遺物実測図(2)

第８号住居跡出土遺物観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
15	縄文土器	深鉢	[38.6]	(15.5)	－	口縁部は隆帯によって区画し,胴部は沈線間をRLの単節縄文充填	長石･白色粒子･赤色粒子	普通	にぶい橙	Ｐ２上層・下層 ＰＬ24
16	縄文土器	深鉢	－	(4.5)	[12.0]	底部下端に,単節縄文が施文	長石･石英	普通	橙	南部床面
17	縄文土器	深鉢	－	(3.5)	[8.4]	底部下端に,単節縄文が施文	長石･石英	普通	明赤褐	覆土中

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
58･59･61･63･69	縄文時代中期後葉	口縁部片で，沈線によって区画され，区画内にＲＬの単節縄文充填	63中央部中層，58・59・61・69 覆土中	

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
60	縄文時代中期後葉	口縁部片で，隆帯と沈線によって区画され，区画内にＲＬの単節縄文充填	炉上面	
62・67	縄文時代中期後葉	口縁部片で，口辺部に２列の円形刺突文を配し，67はＲＬの単節縄文，62はＬＲの単節縄文地文に磨り消し懸垂文施文	62・67東部床面	
64・68	縄文時代中期後葉	口縁部片で，沈線によって区画し，区画内に単節縄文を充填	64北部中層，68中央部中層	
65・66	縄文時代中期後葉	口縁部片で，65は沈線によって区画し，区画内に単節縄文充填，口辺部の隆帯にはキザミ目を有す，66は無文	65中央部床面，66炉上面	
70～72	縄文時代中期後葉	胴部片で沈線を懸垂させ，沈線間を70・72がＲＬ，71がＬの無節縄文充填	中央部70中層･72床面,71北東部床面	
73	縄文時代中期後葉	胴部片で，縦位の条線文が施文	覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重さ	石　材	特　徴	出土位置	備考
Ｑ６	磨　石	(11.7)	(9.0)	4.9	(610.0)	砂岩	左側縁に顕著な磨面を有し，下部欠損	南部床面	
Ｑ８	磨　石	8.1	3.7	3.7	206.0	安山岩	多孔質安山岩製，全面研磨	覆土中	
Ｑ９	打製石斧	(8.2)	7.5	1.8	(138.0)	安山岩	上端破損の分銅型打製石斧で片面を主に剝離	中央部床面	
Q10	石　槌	10.0	5.8	5.6	305.0	石英斑岩	両側縁を敲打によって抉り，下端部摩滅	北東部床面	ＰＬ39

第９号住居跡（第22・23図）

位置　調査区北部，Ｄ６j4区の平坦部に立地しており，第８号住居跡と重複している。北には第７・38号住居跡，東には第37号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　第８号住居跡の東部を掘り込んでいる。

規模と形状　西部は調査区域外に延びているため検出された長径は7.85m，短径4.28mの楕円形と推定され，長径方向はN－69°－Wである。壁高は６～10cmで外傾して立ち上がる。

床　平坦であるが，硬化面はほとんど認められない。

炉　長径98cm，短径88cmの楕円形で，中央部よりやや東側に付設され，床面を５cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変している。

炉土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化物微量

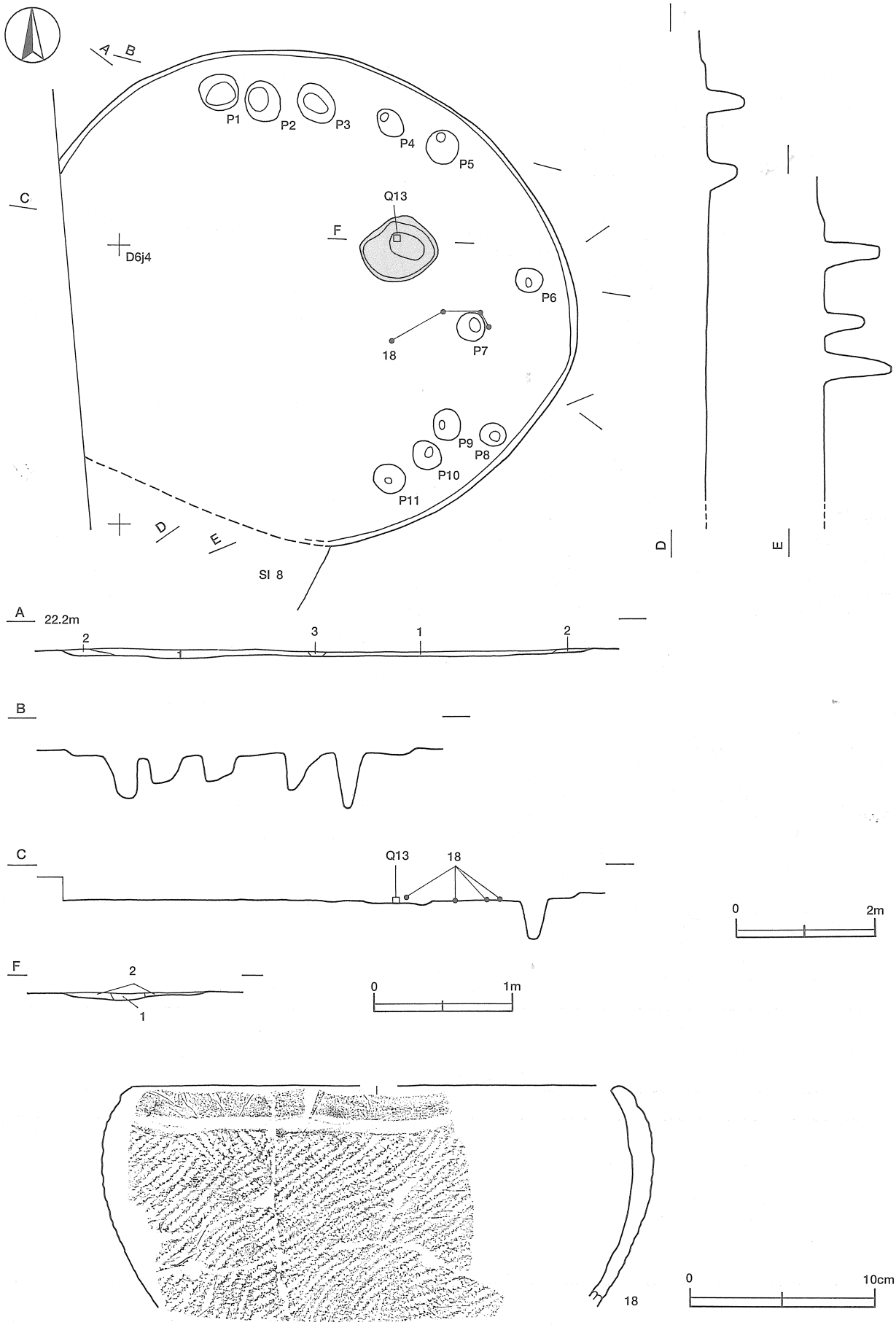
ピット　11か所。Ｐ１・Ｐ５・Ｐ６・Ｐ８・P11は深さ57～94cmで規模や配列から主柱穴と考えられる。Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ９・P10は主柱穴の間に位置し，補助柱穴と思われる。Ｐ７の性格は不明である。

覆土　３層からなり，自然堆積の状況を示している。

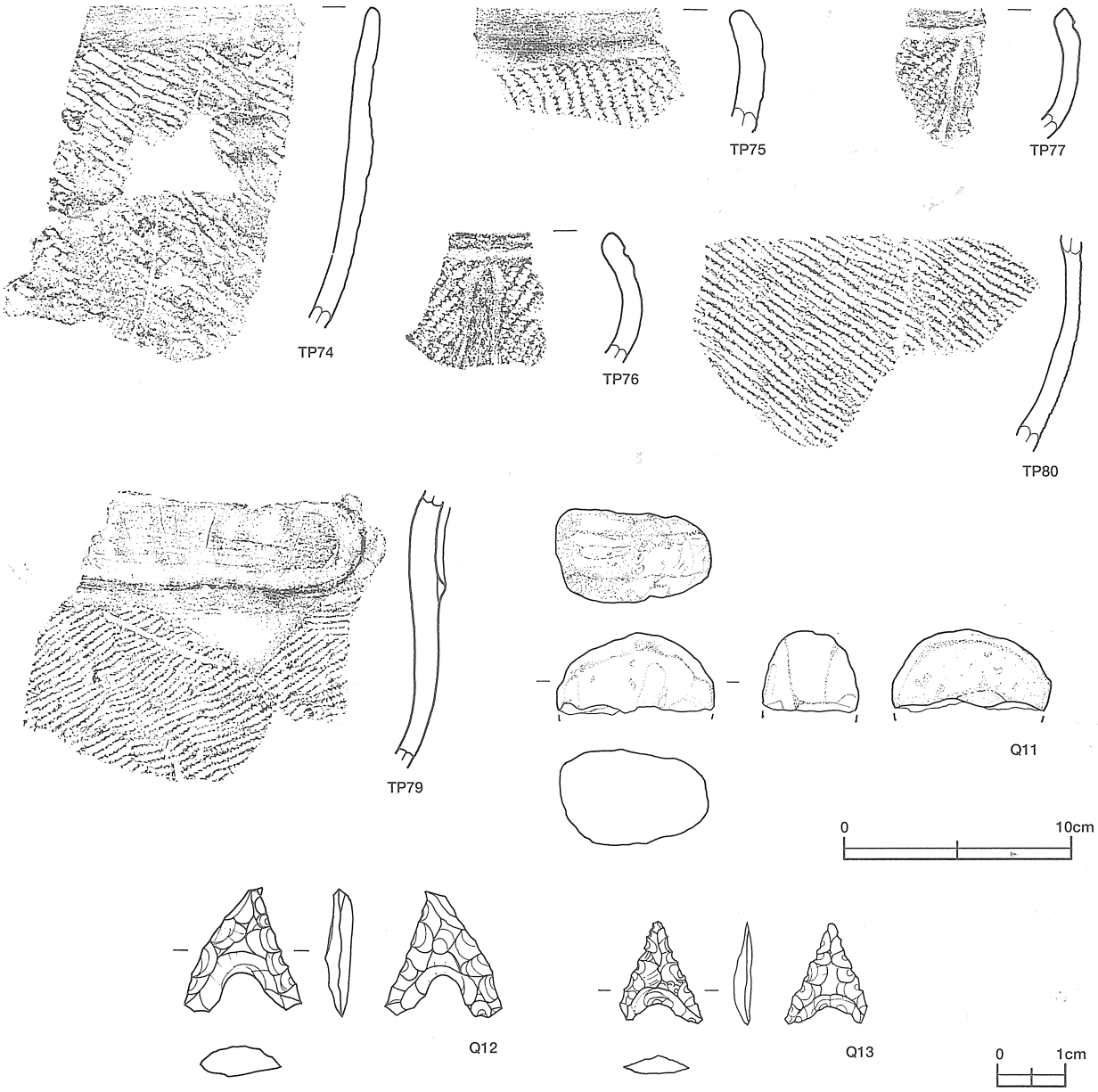
土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
2　褐　　色　ローム粒子多量
3　暗赤褐色　ローム粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片113点（口縁部14，胴部94，底部５），石鏃２点，磨石１点，礫２点が出土している。遺物は少量で中央部とＰ７周辺からの出土がほとんどであるが，18はＰ７周辺の床面及び覆土下層の土器が接合し，Q13は炉の火床部から出土している。

所見　本跡は第８号住居跡の東部を掘り込んでいるが，全体的に掘り込みが浅いため，遺存状況は比較的良くない。出土土器や遺構の形態から，第８号住居跡との時期差が認められ，本跡の時期は縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ～Ⅳ式期）と考えられる。



第22図　第９号住居跡・出土遺物実測図



第23図　第９号住居跡出土遺物実測図

第９号住居跡出土遺物観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
18	縄文土器	深　鉢	[26.4]	(12.1)	－	口縁部直下に沈線を巡らし，胴部はＲＬの単節縄文が施文	長石･白色粒子･赤色粒子	普通	にぶい黄橙	東部床面

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
74・75	縄文時代中期後葉	74は口縁部から胴部片で，口縁部直下は無文帯，以下はＬの無節縄文施文，75は口縁部片で無文帯下にＲＬの単節縄文施文	覆土中	
76・77	縄文時代中期後葉	口縁部片で，沈線によって文様を描出し，ＲＬの単節縄文施文	覆土中	
79・80	縄文時代中期後葉	79は頸部から胴部片で，隆帯によって区画し，胴部にＲＬの単節縄文施文，80は胴部片で，ＬＲの単節縄文施文	覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重さ	石　材	特　徴	出土位置	備考
Q11	磨　　石	(3.5)	7.8	4.2	(87.0)	花崗岩	下端部破損，上側縁に磨面	覆土中	
Q12	石　　鏃	1.8	1.7	0.5	0.8	安山岩	基部を大きく抉られた無茎鏃	覆土中	ＰＬ38
Q13	石　　鏃	1.48	1.15	0.25	0.3	チャート	小型の無茎鏃	炉底面	

第10号住居跡（第24～26図）

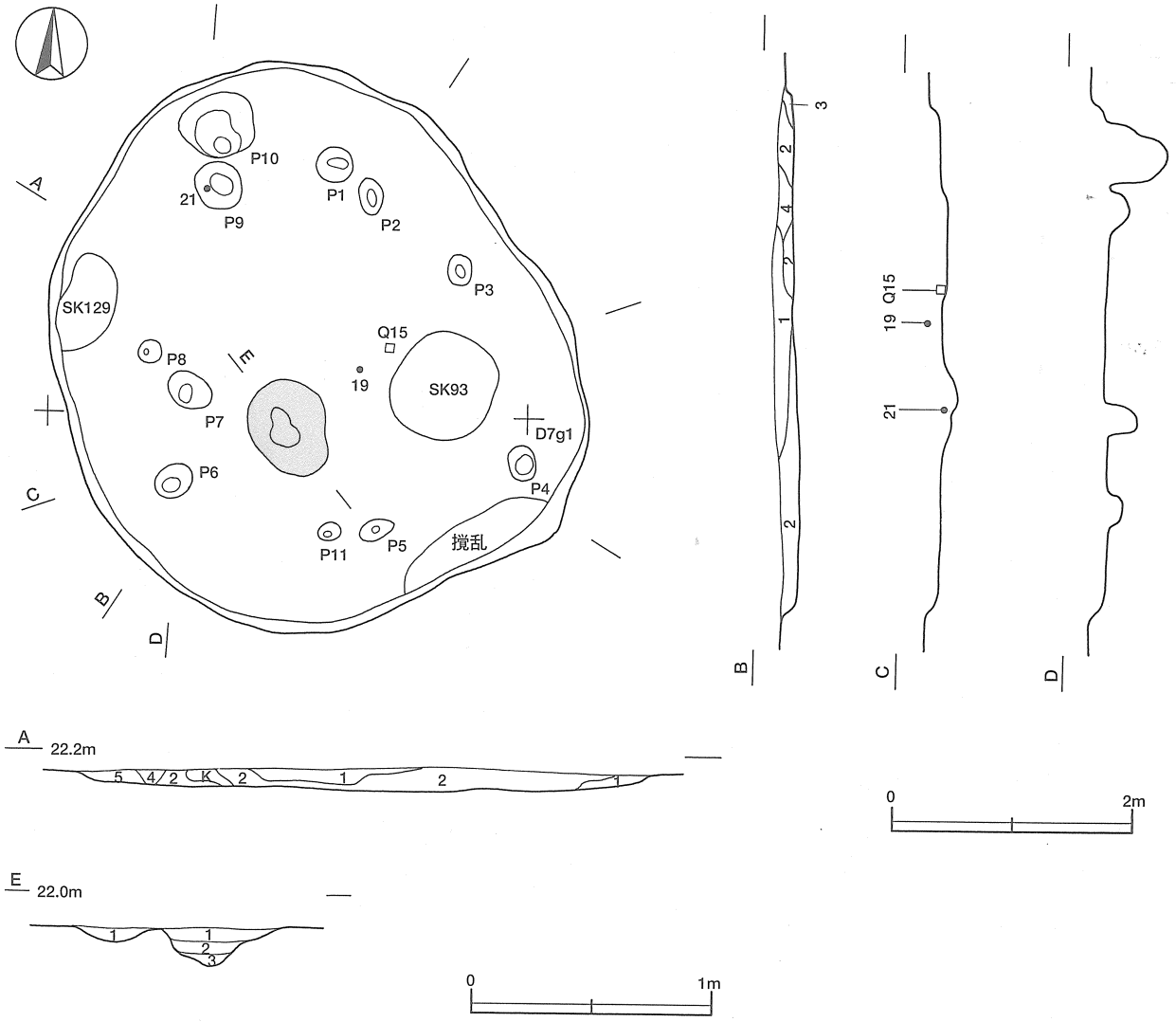
位置　調査区北部，Ｄ６f0区の平坦部に立地し，南東約５ｍに第39号住居跡，南西約９ｍに第37号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　第93・129号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長径4.75m，短径4.16mの楕円形であり，長径方向はN－35°－Wである。壁高は11～14cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦であるが，硬化面はほとんど認められない。

炉　長径85cm，短径67cmほどの楕円形で，中央部よりやや南側に付設され，床面を17cmほど掘り窪めた地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。



第24図　第10号住居跡実測図

炉土層解説
1　暗　　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
3　暗　　褐　　色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量

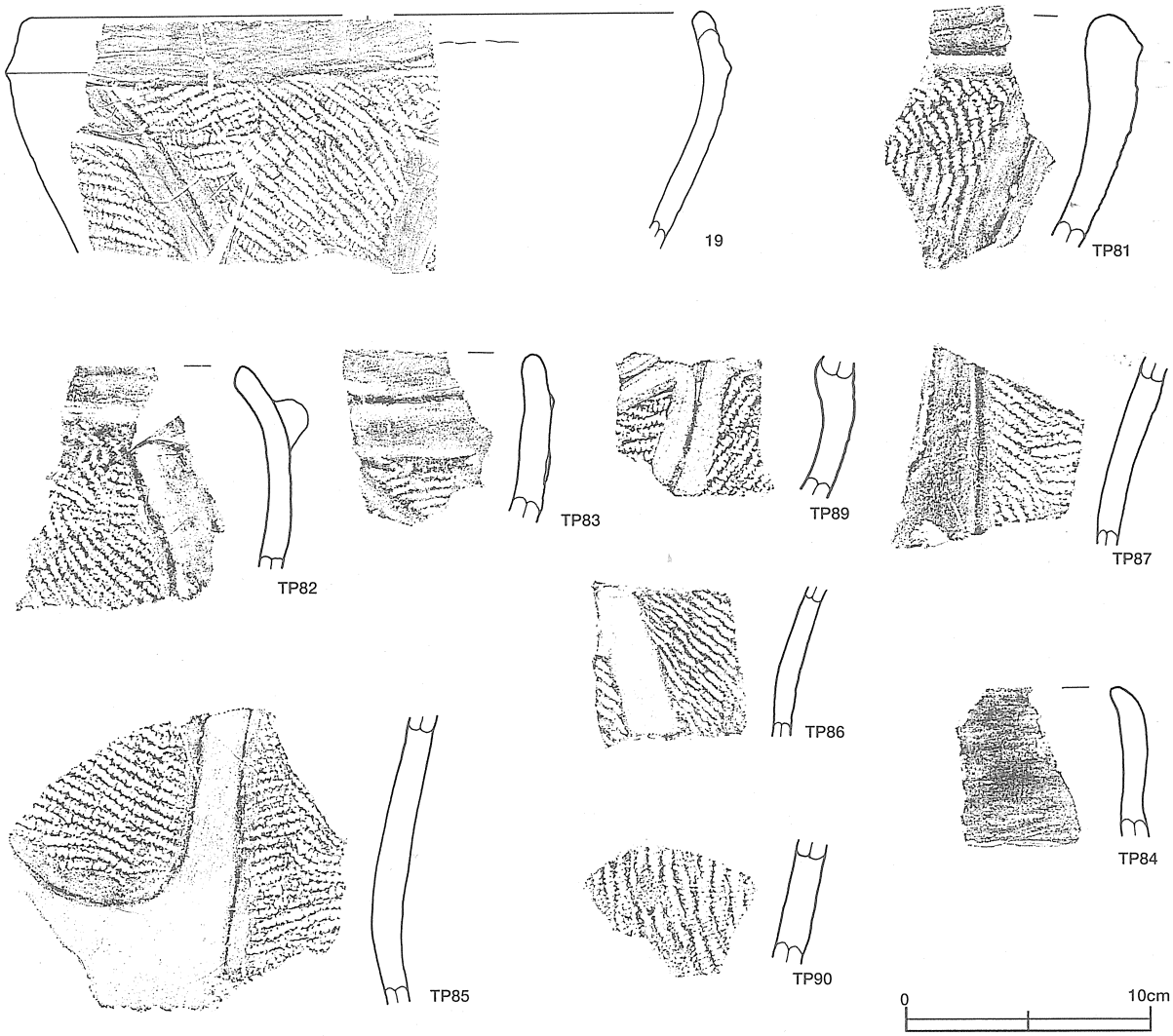
ピット　11か所。P１・P４・P６・P９は深さ13～26cmで，規模や配列から主柱穴と考えられる。P２・P３・P７・P８，P11は主柱穴の間に位置し，深さ11～29cmの規模で補助柱穴の可能性がある。P５・P10の性格は不明である。

覆土　５層からなり，自然堆積の状況を示している。

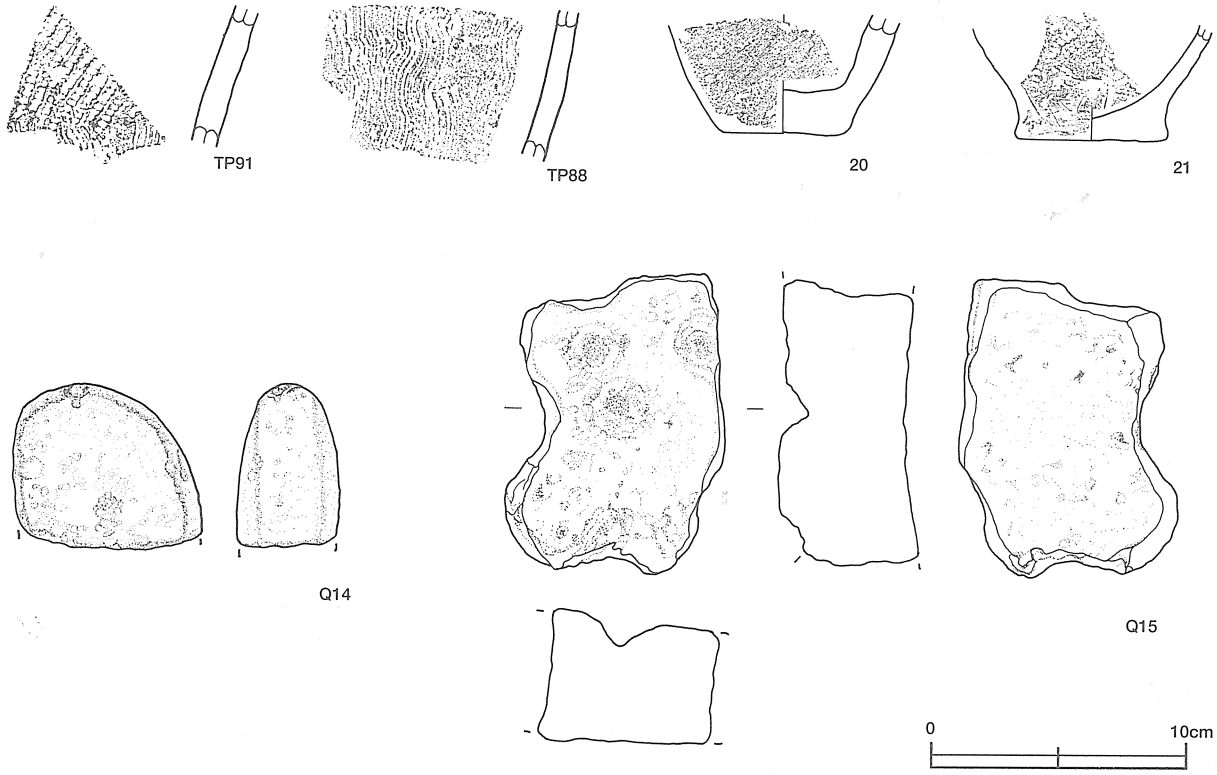
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子多量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子多量

遺物出土状況　縄文土器片525点（口縁部36，胴部481，底部８），磨石１点，石皿兼用凹石１点が出土している。土器片は住居跡中央部の覆土上層からの出土がほとんどであり，投棄されたものである。

所見　本跡は，土器のほとんどが覆土上層からの出土であり，投棄パターンの状況を示している。時期的には周りの住居跡との関係や出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。



第25図　第10号住居跡出土遺物実測図(1)



第26図　第10号住居跡出土遺物実測図(2)

第10号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
19	縄文土器	深鉢	[28.0]	(9.7)	−	微隆帯によって文様を描出し，RLの単節縄文が施文	長石･赤色粒子･雲母	普通	にぶい橙	中央部上層
20	縄文土器	深鉢	−	(4.7)	4.6	無文帯	長石･石英･雲母	普通	にぶい橙	覆土中
21	縄文土器	深鉢	−	(4.6)	5.8	単節縄文が施文	長石･白色粒子･雲母	普通	にぶい橙	北部底面

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
81〜83･85〜87･89	縄文時代中期後葉	微隆帯区画を有する土器群で，胴部に逆U字状の区画帯を有す	覆土中	PL31
84	縄文時代中期後葉	口辺部に無文帯	覆土中	
88	縄文時代中期後葉	胴部片で縦位に波状の条線文が施文	覆土中	
90・91	縄文時代中期後葉	90・91はRLの単節縄文が施文，91はさらに縦位の条線文が施文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q14	磨石	(6.6)	7.4	4.0	(239.0)	安山岩	右側縁に磨面，上端部に敲打痕	覆土中	
Q15	石皿	(11.8)	(7.7)	5.2	(752.0)	安山岩	裏面に凹みを有し，裏面を研磨面として使用	中央部床面	PL40

第11号住居跡（第27〜29図）

位置　調査Ⅱ区北部，E6a0区の平坦部に立地しており，西には第13号住居跡，北西には第38号住居跡，北東には第39号住居跡，南には第12号住居跡が位置している。

規模と形状　東側部分が削平されているが，長径5.10m，短径5.00mの楕円形と推定され，長径方向はN－5°－Eである。壁高は7〜18cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦であり，中央部がやや踏み固められている。

炉　長径130cm，短径100cmの楕円形で，中央部に付設されており，床面を20cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は，火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

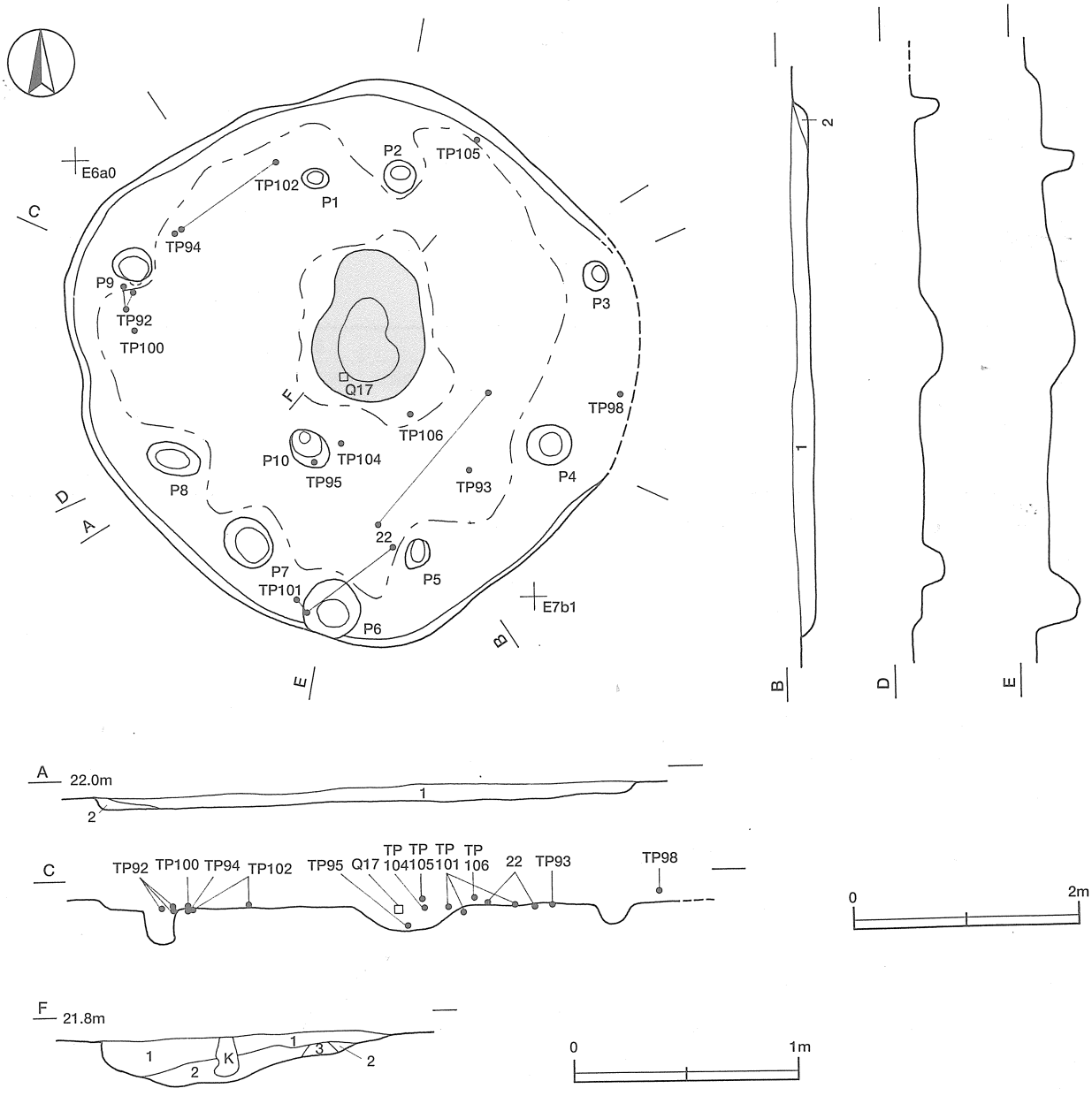
1　暗褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
2　赤　褐　色　焼土ブロック多量，炭化物少量，ロームブロック微量
3　赤　褐　色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　10か所。P２～P４・P６・P８・P９は深さ18～35cmで規模や配列から主柱穴と考えられ，その他のピットの性格は不明である。

覆土　２層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説

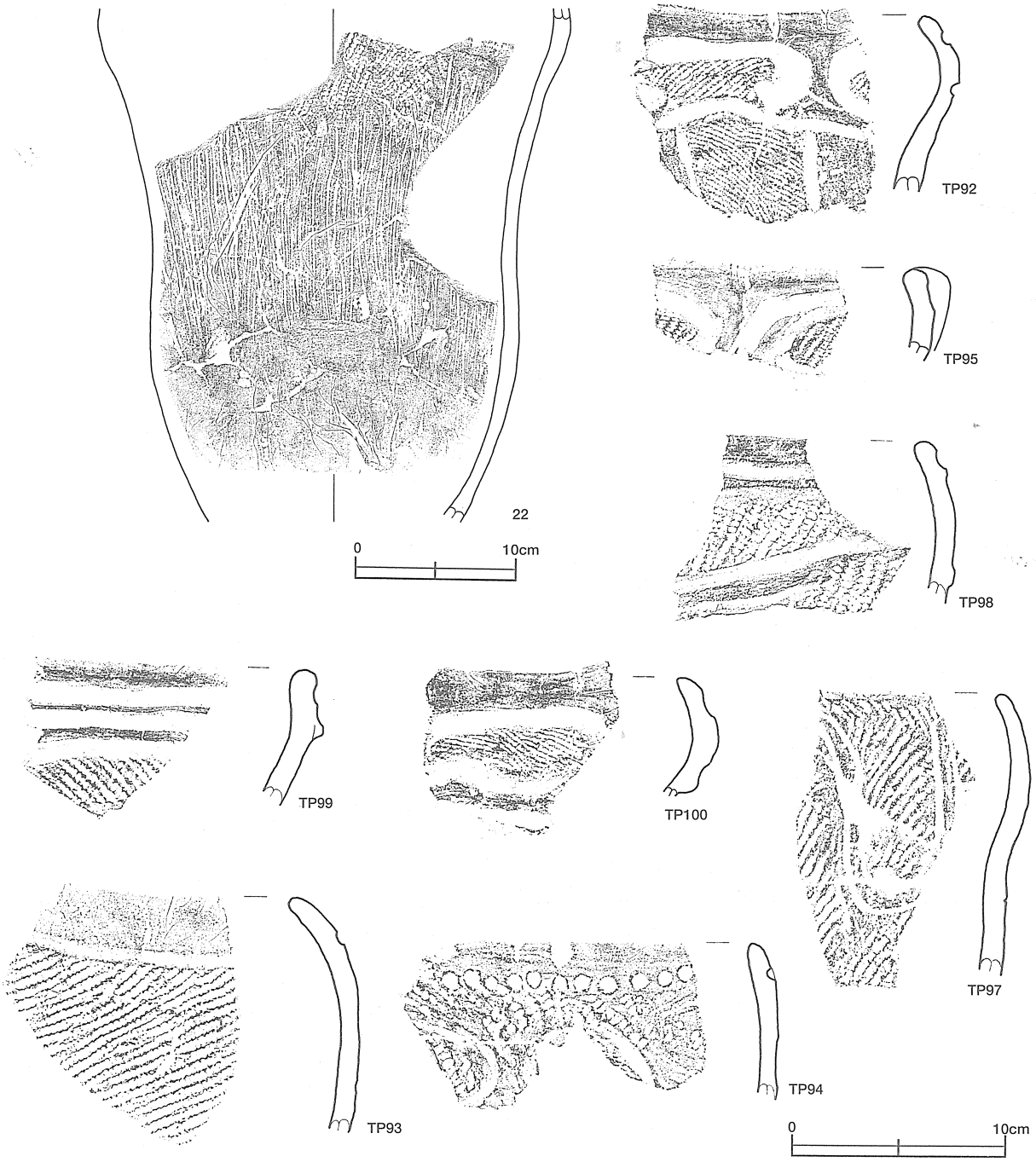
1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量



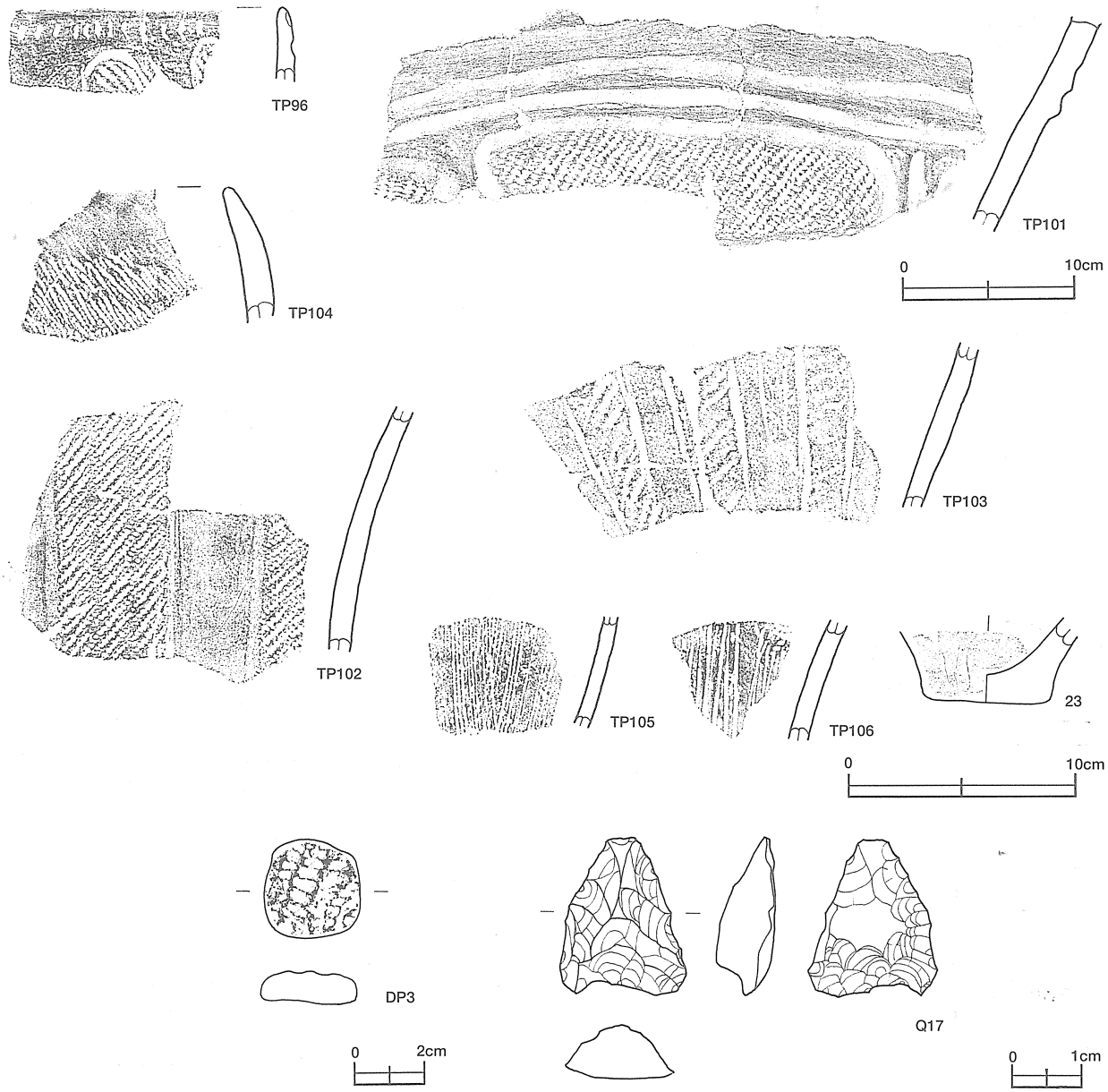
第27図　第11号住居跡実測図

遺物出土状況　縄文土器片528点（口縁部59，胴部459，底部10），土製品（円板）１点，石鏃未製品１点が出土している。土器は全体に散在しているが，特に中央部からの出土量が多く，時期的には加曽利EⅢ式期のものが多く含まれている。22は南部と東部の床面から出土した接合資料であり，TP94は北西部壁寄りの床面から約50×25cmの長方形状に並べられたような状態で出土している。また，覆土中から出土しているDP３は縄文土器片を利用して作成された円盤状の土製品である。

所見　本跡は炉の大きさの割合にしては比較的小規模な住居跡であるが，全体的に土器が散在しており，量も多い。また，意図的に別個体の破片が並べられたような状態で出土したTP94は特異であるが，その理由は不明である。時期は出土土器から，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。



第28図　第11号住居跡出土遺物実測図(1)



第29図　第11号住居跡出土遺物実測図(2)

第11号住居跡出土遺物観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
22	縄文土器	深鉢	－	(32.5)	－	頸部には単節縄文が施され，胴部は粗い条線文が施文	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	南・東部床面 PL24
23	縄文土器	深鉢	－	(3.9)	5.6	底部片で，無文	長石・雲母	普通	にぶい橙	覆土中

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
92・100	縄文時代中期後葉	口縁部片で,沈線によって文様帯を区画し,無節縄文が充填	92・100西部床面	
95・98・99	縄文時代中期後葉	口縁部片で,隆帯と沈線によって文様帯を区画し,区画内にRLの単節縄文充填	95P10底面，98東部上層，99覆土中	
93	縄文時代中期後葉	口縁部片で,無文帯を一条の沈線で区画し,胴部にLRの単節縄文施文	南東部床面	PL31
94・97	縄文時代中期後葉	口縁部片で,94はLRの単節縄文地文に沈線により文様を描出し,口縁部直下に円形刺突文が施されている,97はRLの単節縄文地文に沈線により文様を描出	94北西部床面，97覆土中	PL32
96・104	縄文時代中期後葉	口縁部片で,口辺部にキザミ目を有し,以下沈線により文様を描出して,区画内にLRの単節縄文を充填,104は単節縄文が施文	96覆土中，104中央部床面	

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
102･103･105･106	縄文時代中期後葉	胴部片で,102･103は沈線による懸垂文帯にRLの単節縄文施文,105･106は縦位の条線文が施文	102北部床面・105北部上層，106中央部中層，103覆土中	
101	縄文時代中期後葉	頸部片で,隆帯と沈線によって文様帯を区画し,区画内にRLの単節縄文が充填	南部壁際床面	PL32

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重さ	石　材	特　徴	出土位置	備考
Q17	石鏃(未製品)	2.3	0.8	1.9	2.8	チャート	両側縁･基部に二次加工を施し,基部は凹形に抉る	炉上層	

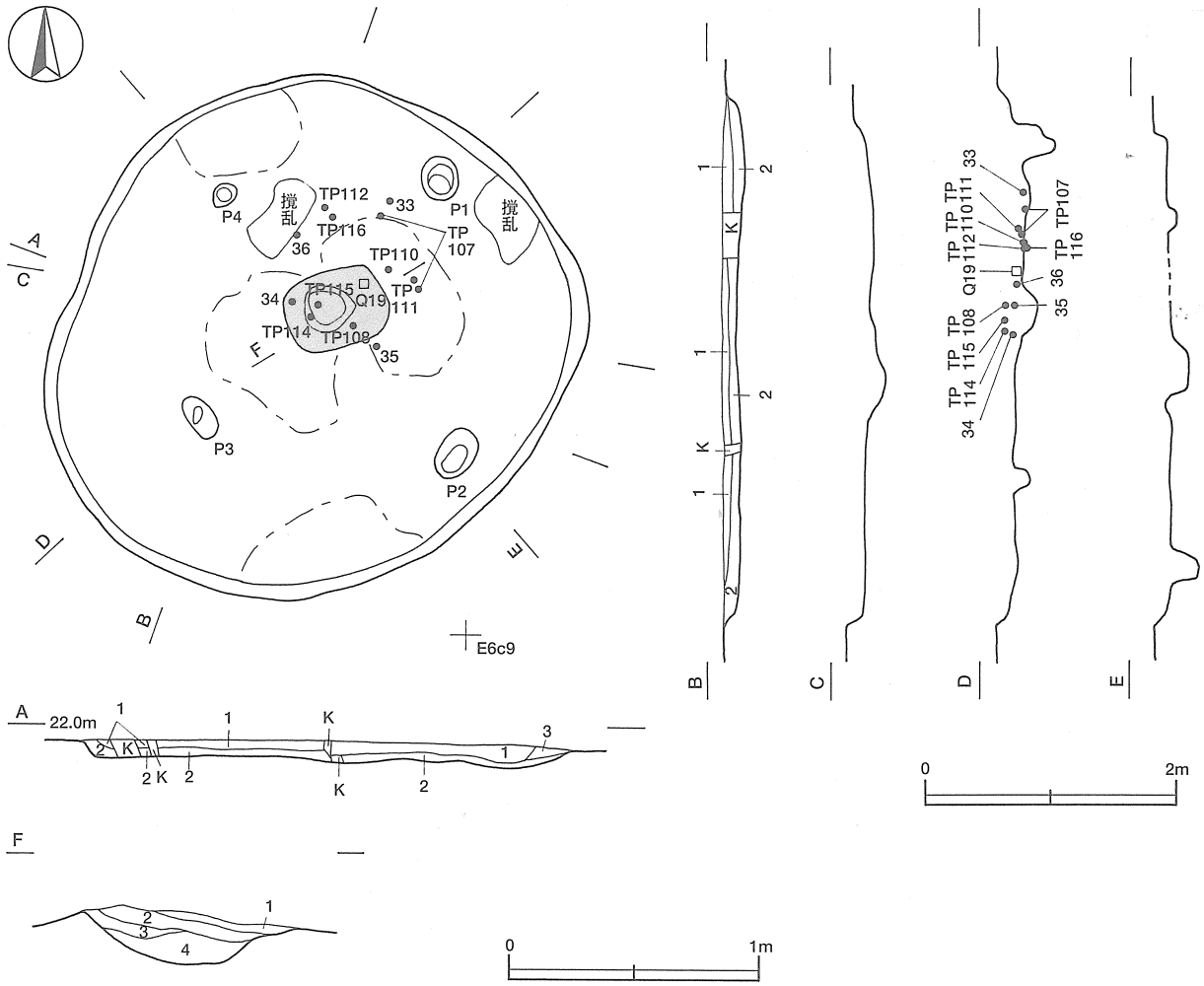
番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重さ	材　質	特　徴	出土位置	備考
DP3	土器円板	2.9	2.9	0.9	9.9	土製	周縁部を研磨して成形	覆土中	PL37

第13号住居跡（第30～32図）

位置　調査Ⅱ区北部，E6b8区の平坦部に立地しており，東には第11・12号住居跡が，位置している。

確認状況　縄文土器片が散在した状態で確認された。

規模と形状　長径4.37m，短径3.90mの楕円形で，長径方向はN－41°－Eであり，壁高は12～20cmで外傾して立ち上がる。



第30図　第13号住居跡実測図

床　ほぼ平坦であり，中央部と北壁際と南壁際の一部がよく踏み固められている。

炉　長径80cm，短径63cmの楕円形で中央部に付設され，床面を13cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は，火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　極暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化物少量
2　赤　褐　色　焼土ブロック多量，炭化物微量
3　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量

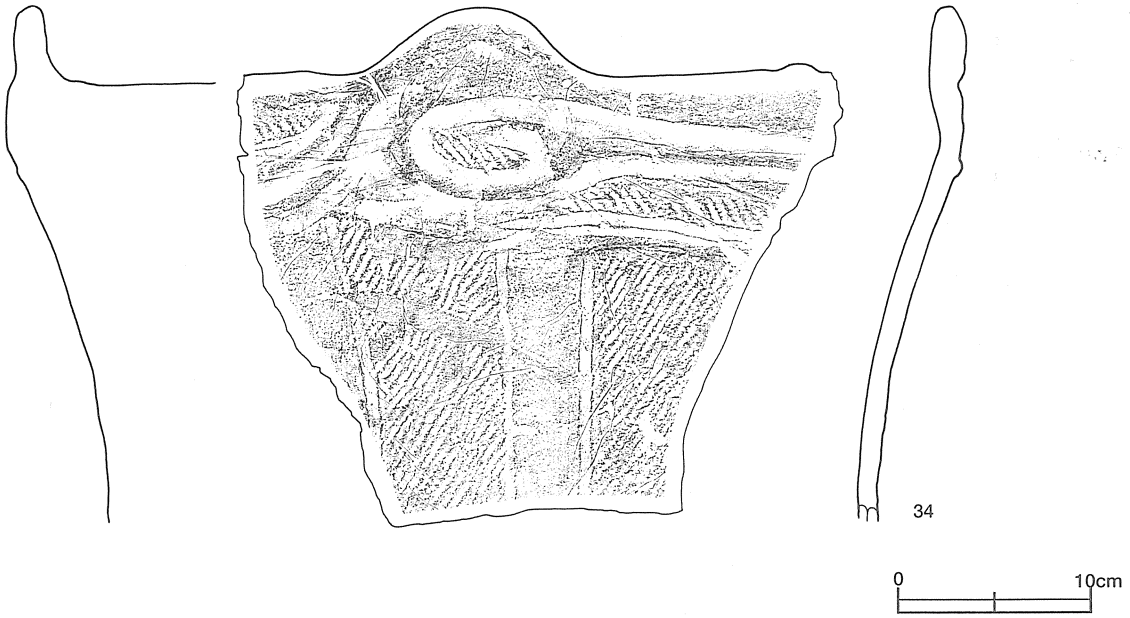
ピット　4か所。P1～P4は深さ10～29cmで，規模や配列から主柱穴と考えられる。

覆土　3層からなり，自然堆積の状況を示している。

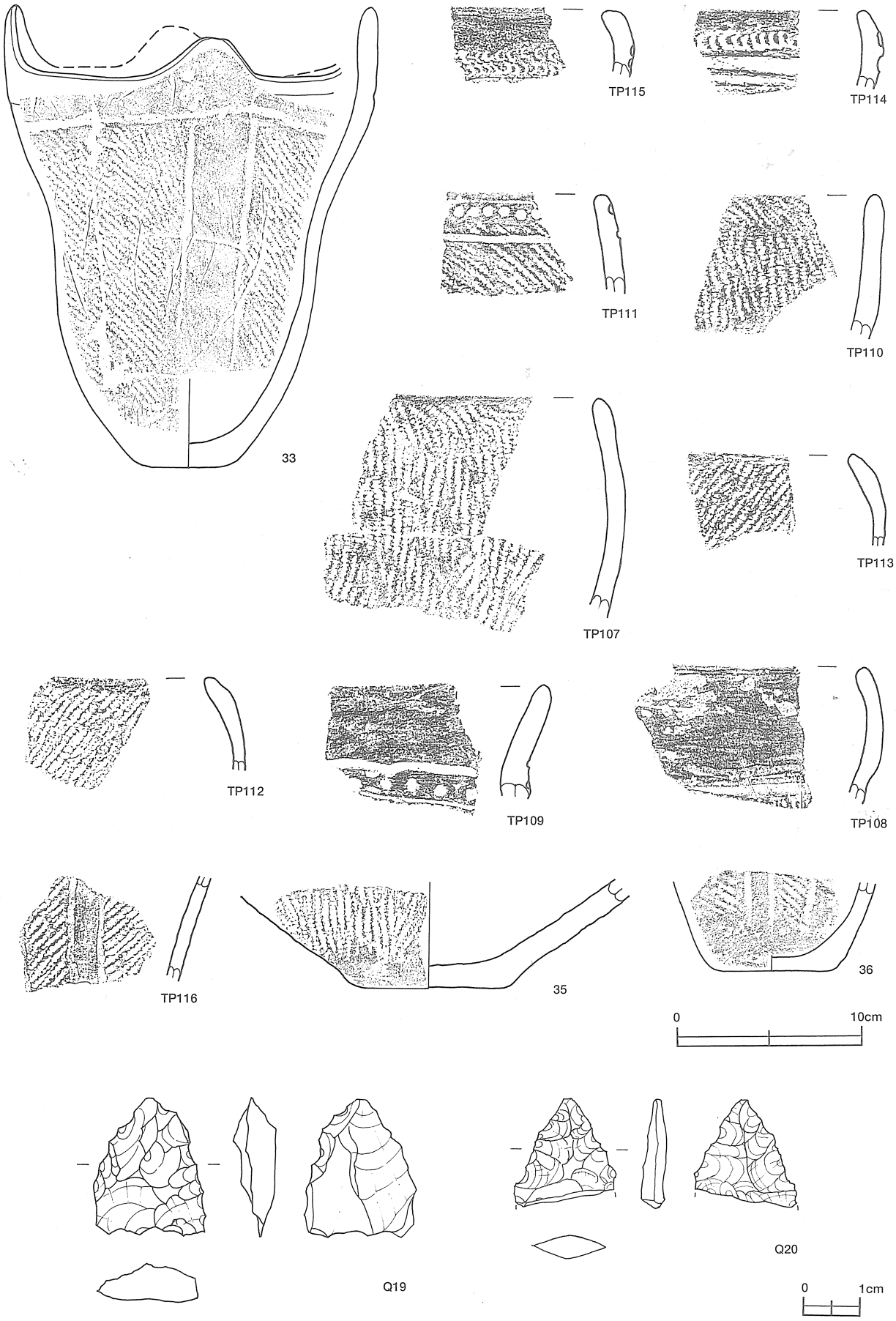
土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，ローム粒子・炭化物微量
3　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片875点（口縁部64，胴部797，底部14），土師器片4点，石鏃2点，礫12点が出土している。土師器片は混入である。全体的に土器は中央部の覆土中層からの出土で，投棄された状況を示し，時期的には加曽利EⅡ～Ⅲ式期の土器が混在している。33はP1周辺の床面から押し潰された状態で出土した土器であり，TP107は炉の北側床面から出土した土器と東側床面から出土した土器が接合した資料である。

所見　本跡は，東部の一部分が木の根により撹乱を受けているが，遺構の遺存状況は良好である。炉も赤変硬化しており，住居は長期にわたって使用されたと想定される。本跡の時期は出土土器の状況から，縄文時代中期後葉（加曽利EⅡ～Ⅲ式期）と考えられる。



第31図　第13号住居跡出土遺物実測図(1)



第32図　第13号住居跡出土遺物実測図(2)

第13号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
33	縄文土器	深鉢	[19.1]	25.0	4.0	口辺部に一条の沈線を巡らし，胴部の懸垂文帯にはＬＲの単節縄文施文	長石･石英･雲母	普通	橙	北部床面 ＰＬ24
34	縄文土器	深鉢	[48.0]	(27.3)	4.6	口縁部は隆帯によって口辺部文様帯が区画され，胴部の懸垂文帯にはＲＬの単節縄文施文	長石･石英･雲母	普通	にぶい橙	炉上層 ＰＬ24
35	縄文土器	深鉢	－	(6.6)	8.0	底部で，単節縄文施文	長石･石英･赤色粒子	普通	橙	中央部床面
36	縄文土器	深鉢	－	(4.8)	6.0	底部片で，胴部懸垂文帯にＬＲの単節縄文施文	長石･赤色粒子	普通	橙	中央部床面

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
111･114･115	縄文時代中期後葉	口縁部片で,111は,口辺部に円形刺突文を有し,横位の沈線が施文,114･115は同様に爪形文施文	111中央部床面,114･115中央部中層	
107･110･112･113	縄文時代中期後葉	口縁部片で,単節縄文が施文	107･110中央部床面,112北部床面,113覆土中	
108･109	縄文時代中期後葉	口縁部片で,109は広幅の無文帯を有し,沈線区画内に円形刺突文が施文,108は無文	108中央部中層,109覆土中	
116	縄文時代中期後葉	胴部片で,懸垂文帯にRLの単節縄文施文	北部床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q19	石鏃	2.5	2.0	0.8	3.1	桂質頁岩	無茎鏃，未製品	炉上層	
Q20	石鏃	(2.0)	1.8	0.4	(1.1)	チャート	下部欠損	覆土中	

第18号住居跡（第33～38図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｅ７f1区の平坦部に立地し，第19号住居跡と重複している。北には第12号住居跡，南には第20号住居跡が位置している。

重複関係　第158号土坑に掘り込まれており，第19号住居跡の南西部を掘り込んでいる。

規模と形状　長径7.94m，短径7.54mの楕円形で，長径方向はN－74°－Wである。壁高は６～26cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，中央部が踏み固められている。

炉　長径1.2mほどの円形で，中央部に付設され，床面を45cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は，火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子中量
4　灰褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量
6　赤褐色　焼土ブロック多量
7　褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　９か所。Ｐ１・Ｐ３～Ｐ６・Ｐ８は深さ67～87cmで，規模や配列から主柱穴と考えられ，その他のピットの性格は不明である。

覆土　24層からなり，含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

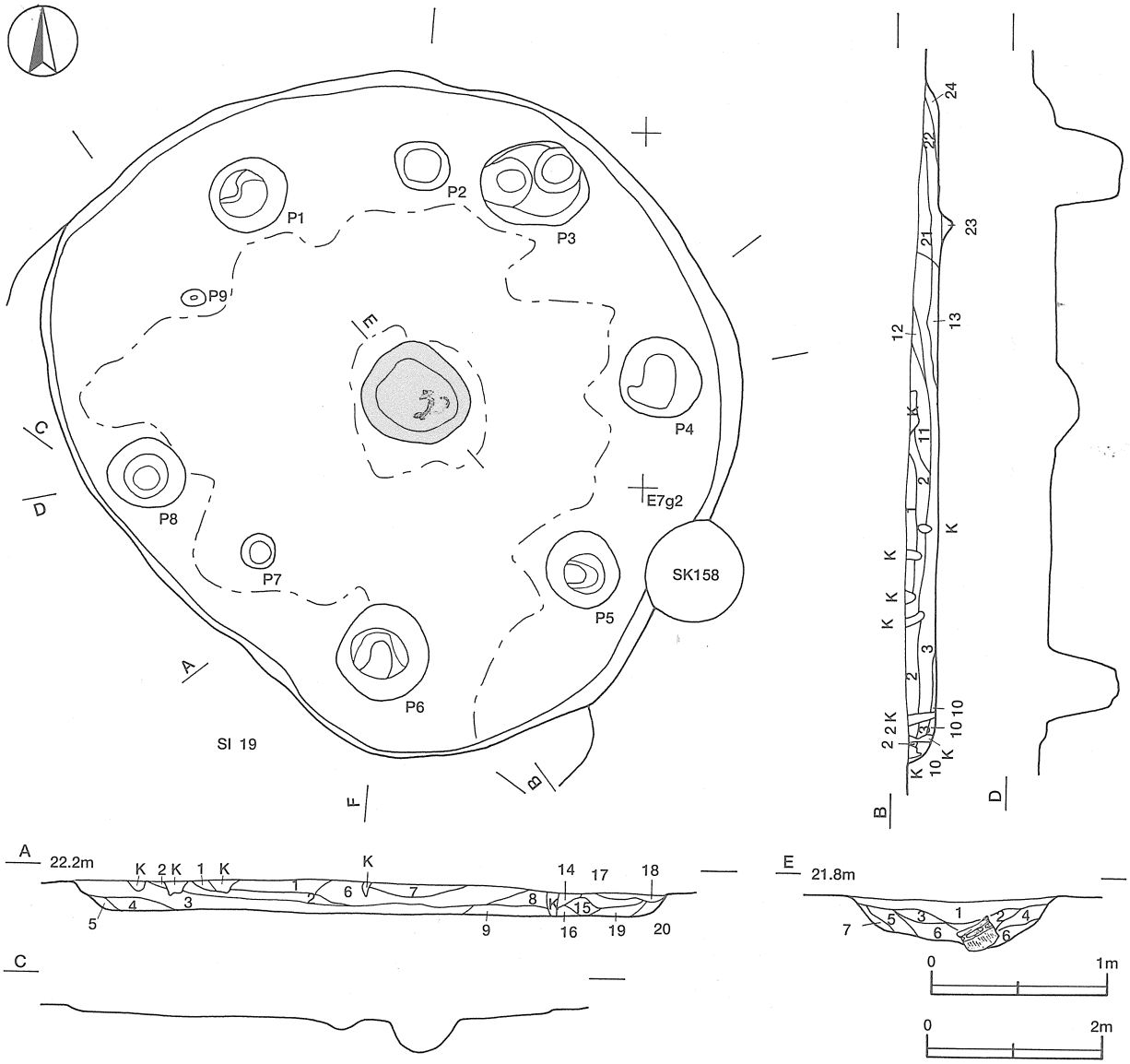
土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
3　黒褐色　ロームブロック・炭化物・焼土ブロック微量
4　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
5　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
7　暗褐色　炭化材少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
8　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
9　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック微量
10　褐色　ロームブロック中量
11　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量
12　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量

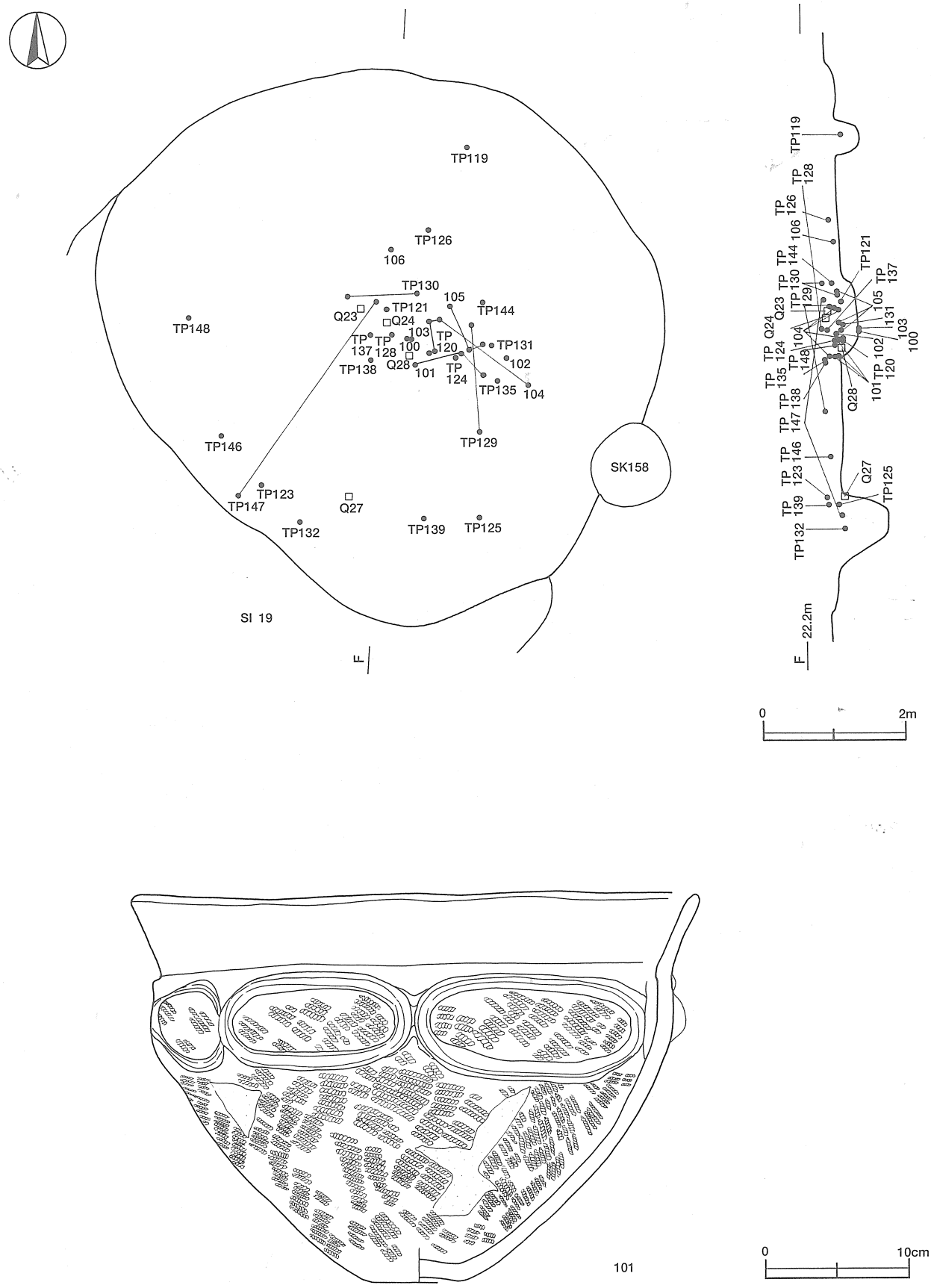
13　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
14　黒 褐 色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
15　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
16　極暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
17　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
18　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量
19　極暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
20　褐　　色　ロームブロック少量
21　極暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
22　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量
23　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
24　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量　締まり有り

遺物出土状況　縄文土器片3,086点（口縁部357，胴部2673，底部56），剥片１点，磨製石斧１点，石皿１点，敲石１点，凹石３点，礫18点が出土している。土器片は床面から覆土中にかけて全体的に散在しているが，特に中央部から多く出土し，投棄された状況を示している。時期的に縄文時代中期の加曽利EⅡ～Ⅲ式期の土器が混在している。100は炉の底面から出土している。また，102は炉とP４の間の床面から出土し，それぞれ本跡に伴うものと考えられる。

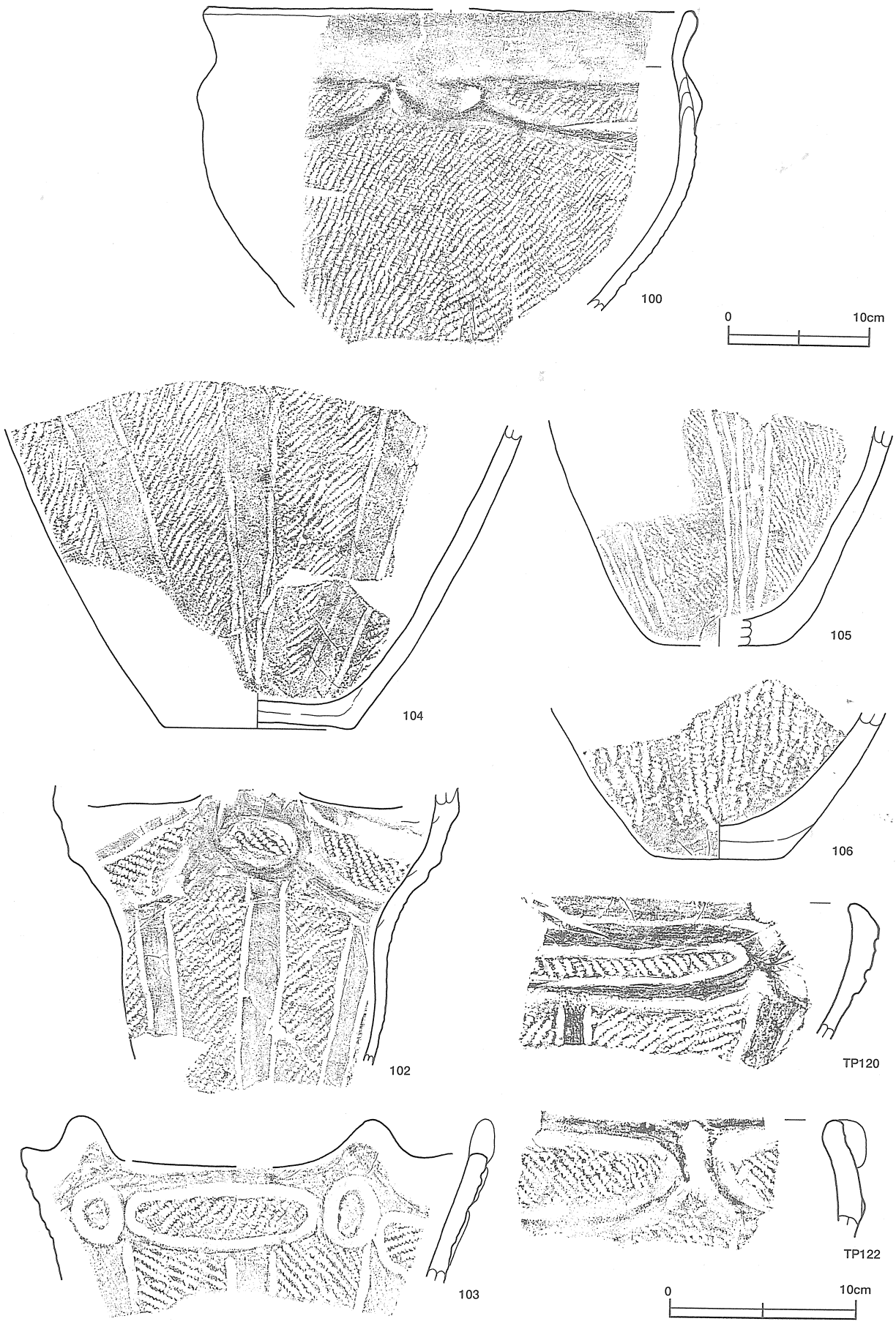
所見　本跡は遺存状況も良好で，炉の掘り込みが深く炉の周辺からも土器が出土している。中央部上面に集中している土器は，床面の土器とやや時期差があることから住居廃絶後，時が経ってから投棄されたものと思われる。時期は，炉及び床面出土の土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅡ～Ⅲ式期）と考えられる。



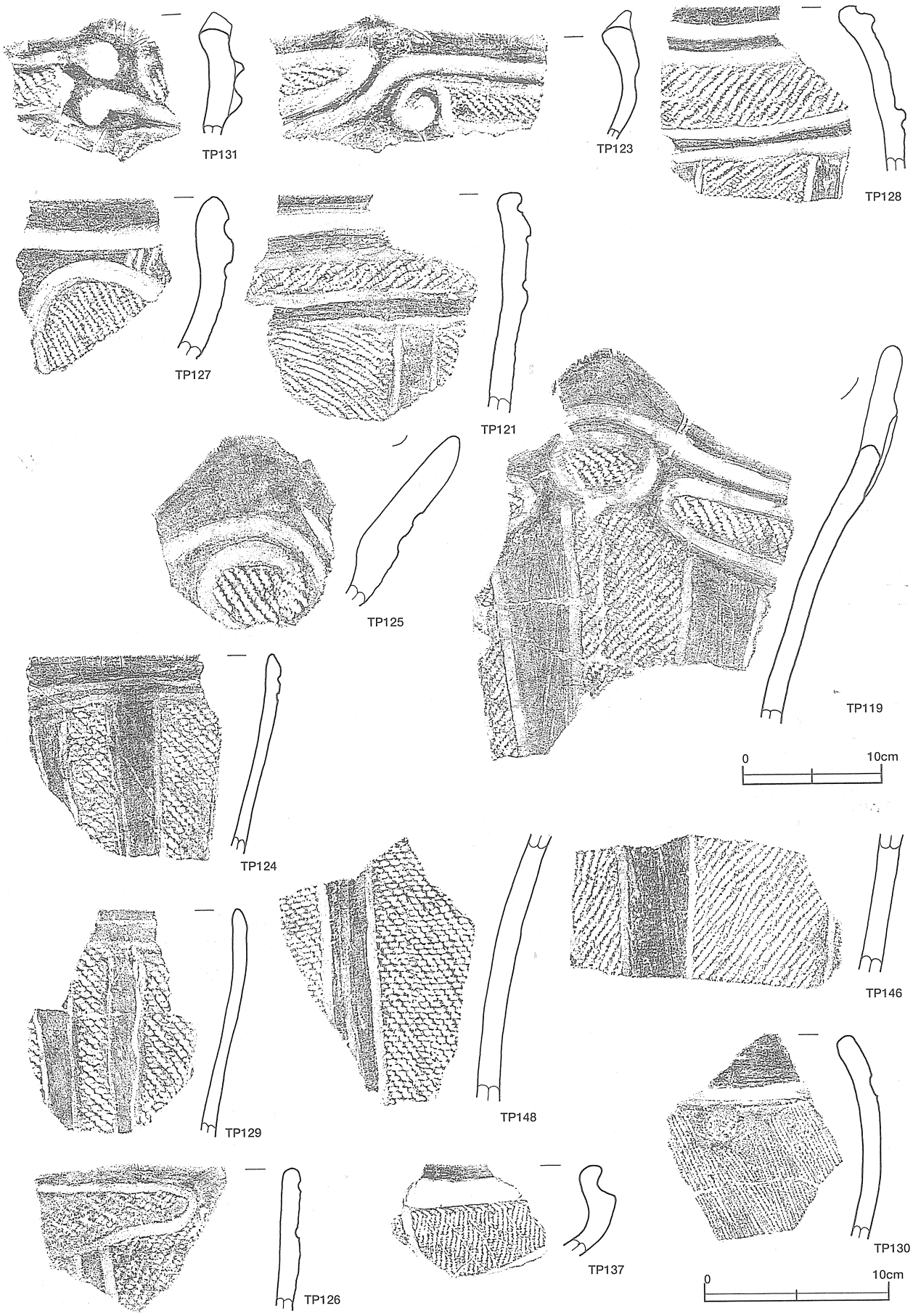
第33図　第18号住居跡実測図



第34図　第18号住居跡・出土遺物実測図

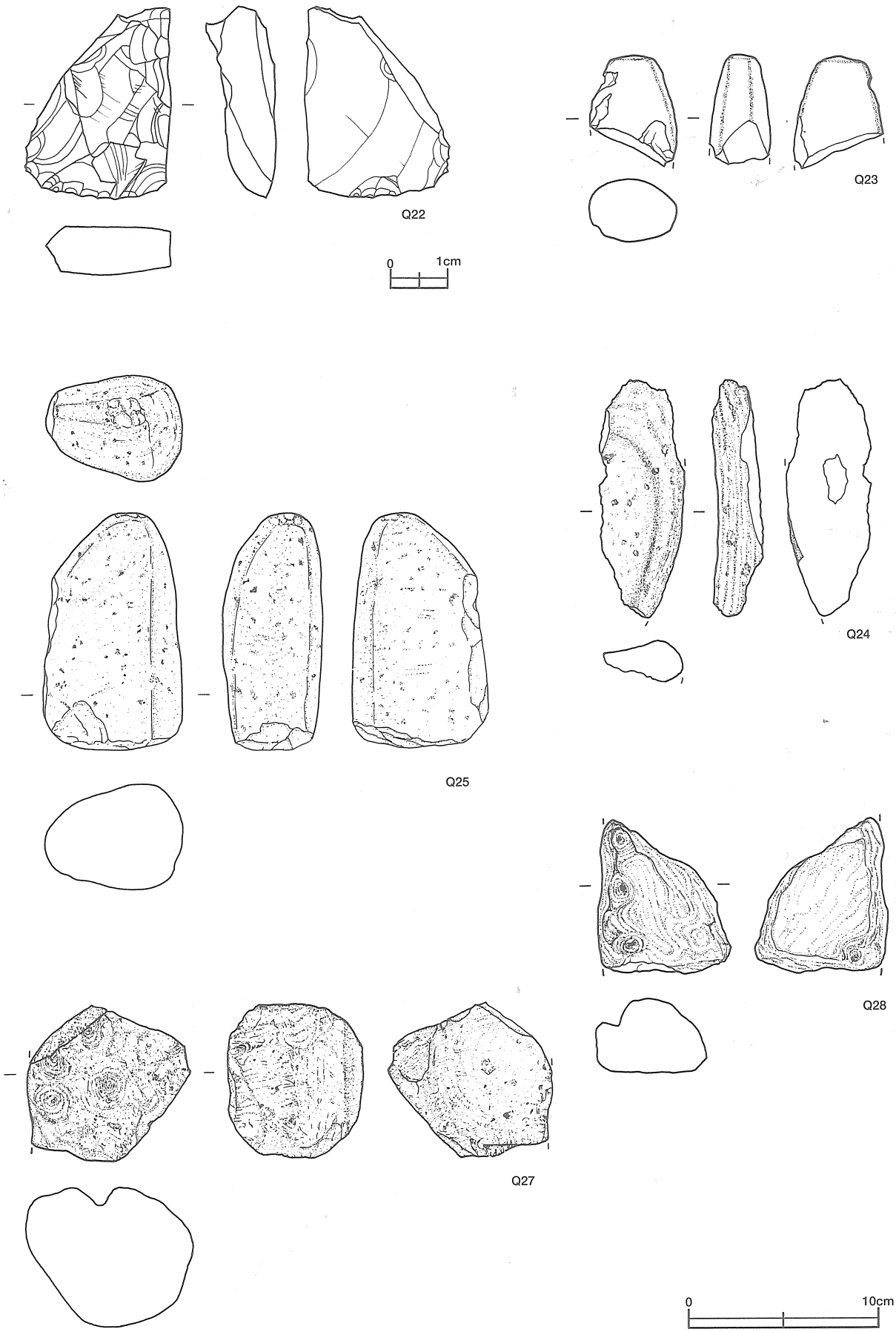


第35図　第18号住居跡出土遺物実測図(1)



第36図　第18号住居跡出土遺物実測図(2)

第37図　第18号住居跡出土遺物実測図(3)



第38図　第18号住居跡出土遺物実測図(4)

第18号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
100	縄文土器	鉢	[35.0]	(21.7)	−	口辺部は無文帯で，頸部は隆帯によって区画され，ＲＬの単節縄文地文施文	長石･雲母	普通	橙	炉底面 ＰＬ24
101	縄文土器	鉢	[39.4]	27.5	[6.4]	口辺部は無文帯で，頸部は隆帯によって区画され，ＬＲの単節縄文地文施文	長石･赤色粒子･雲母	普通	にぶい橙	炉上層 ＰＬ24
102	縄文土器	深鉢	[19.8]	(14.9)	−	口辺部は隆帯によって渦巻文や楕円区画文を施し，胴部は懸垂文帯で，ＲＬの単節縄文充填	長石･石英･雲母	普通	にぶい黄橙	中央部底面 ＰＬ24
103	縄文土器	深鉢	[24.6]	(9.0)	−	口辺部は沈線によって区画文を施し，胴部は懸垂文帯で，ＲＬの単節縄文充填	長石･白色粒子･赤色粒子	普通	橙	炉底面 ＰＬ24
104	縄文土器	深鉢	−	(16.4)	[10.0]	胴部は懸垂文帯で，ＲＬの単節縄文が施文	長石･雲母	普通	橙	炉・東部中層 ＰＬ24
105	縄文土器	深鉢	−	(12.2)	7.0	胴部は懸垂文帯で，ＲＬの単節縄文施文	長石･赤色粒子･雲母	普通	橙	中央部床面
106	縄文土器	深鉢	−	(8.0)	7.0	胴部はＲＬの単節縄文が施文	長石･白色粒子･赤色粒子	普通	にぶい橙	中央部下層

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
119	縄文時代中期後葉	口辺部は沈線で文様帯を区画し，ＲＬの単節縄文を施文し，胴部は沈線を懸垂させＲＬの単節縄文を施文	北部床面	ＰＬ32
120･122･123･131	縄文時代中期後葉	口縁部片で，隆帯と沈線で文様帯を区画しＲＬの単節縄文施文	120･131中央部床面,123南西部上層,122覆土中	ＰＬ32
121･128	縄文時代中期後葉	口縁部片で，隆帯で文様帯を区画し，胴部は懸垂文帯に単節縄文施文	121炉上層,128中央部上層	ＰＬ32
125･127･137	縄文時代中期後葉	口縁部片で，沈線で文様帯を区画し，区画内にＲＬの単節縄文充填	125南部床面,137中央部上層,127覆土中	ＰＬ32
124･126･129	縄文時代中期後葉	口縁部文様帯が衰退し，沈線により懸垂文が施文され，区画内に単節縄文充填，126は口縁部片でＬＲの縄文地文に沈線で文様帯区画	124中央部上層,126･129中央部中層	ＰＬ32
146･148	縄文時代中期後葉	胴部片で，懸垂文帯にＬＲの単節縄文を施文	146西部中層･148西武床面	ＰＬ32
130･132･138	縄文時代中期後葉	口縁部片で，130は口辺部に無文帯を一条の沈線で区画し，以下に斜位の条線文が施文138縄文地に沈線によって文様帯を描出し，132はＲＬの単節縄文施文	130中央部床面･炉上面,132南部床面,138中央部上層	
133･134	縄文時代中期後葉	口縁部片で，沈線により渦巻文が施文され，134にＲＬの単節縄文施文	覆土中	
136･140･141･143	縄文時代中期後葉	口縁部片で，口辺部に136・140は円形刺突文，143は沈線部施文，141には爪形状の刺突文が施文	覆土中	ＰＬ32
139･142･144	縄文時代中期後葉	口縁部片で，139は２列に爪形状の刺突文が見られ，142・144にも円形刺突を施文	139南部上層,144中央部中層,142覆土中	
135	縄文時代中期後葉	口縁部片で，橋状把手を有す	中央部上層	
145･147	縄文時代中期後葉	145は斜位の沈線を施文，147は縦位斜位の細い沈線を頸部の上下に有し，頸部に太い押圧隆帯貼り付け	147中央部上層･南西部床面,145覆土中	ＰＬ32

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q22	剝片	3.4	2.6	1.2	9.7	頁岩	二次加工痕のある剝片	覆土中	
Q23	磨製石斧	(6.0)	4.5	3.3	(137.0)	安山岩	全面研磨，刃部破損	中央部上層	
Q24	石皿	(12.6)	(4.5)	(2.7)	(98.0)	安山岩	中央を凹めた石皿の一部	中央部上層	
Q25	敲石	12.6	7.4	5.6	710.0	火山礫凝灰岩	敲打面は５か所以上	覆土中	
Q26	凹石	(10.9)	(11.1)	5.8	(887.0)	砂岩	凹み両面	覆土中	ＰＬ40
Q27	凹石	(8.1)	(8.7)	7.5	(408.0)	安山岩	凹み片面	南部床面	
Q28	凹石	(8.2)	(7.1)	4.0	(254.0)	雲母片岩	凹み両面	炉上層	

第19号住居跡（第39～41図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｅ６ｇ0区の平坦部に立地しており，第18号住居跡と重複し，北には第12号住居跡，南には第20号住居跡が位置している。

重複関係　第18号住居跡に掘り込まれている。

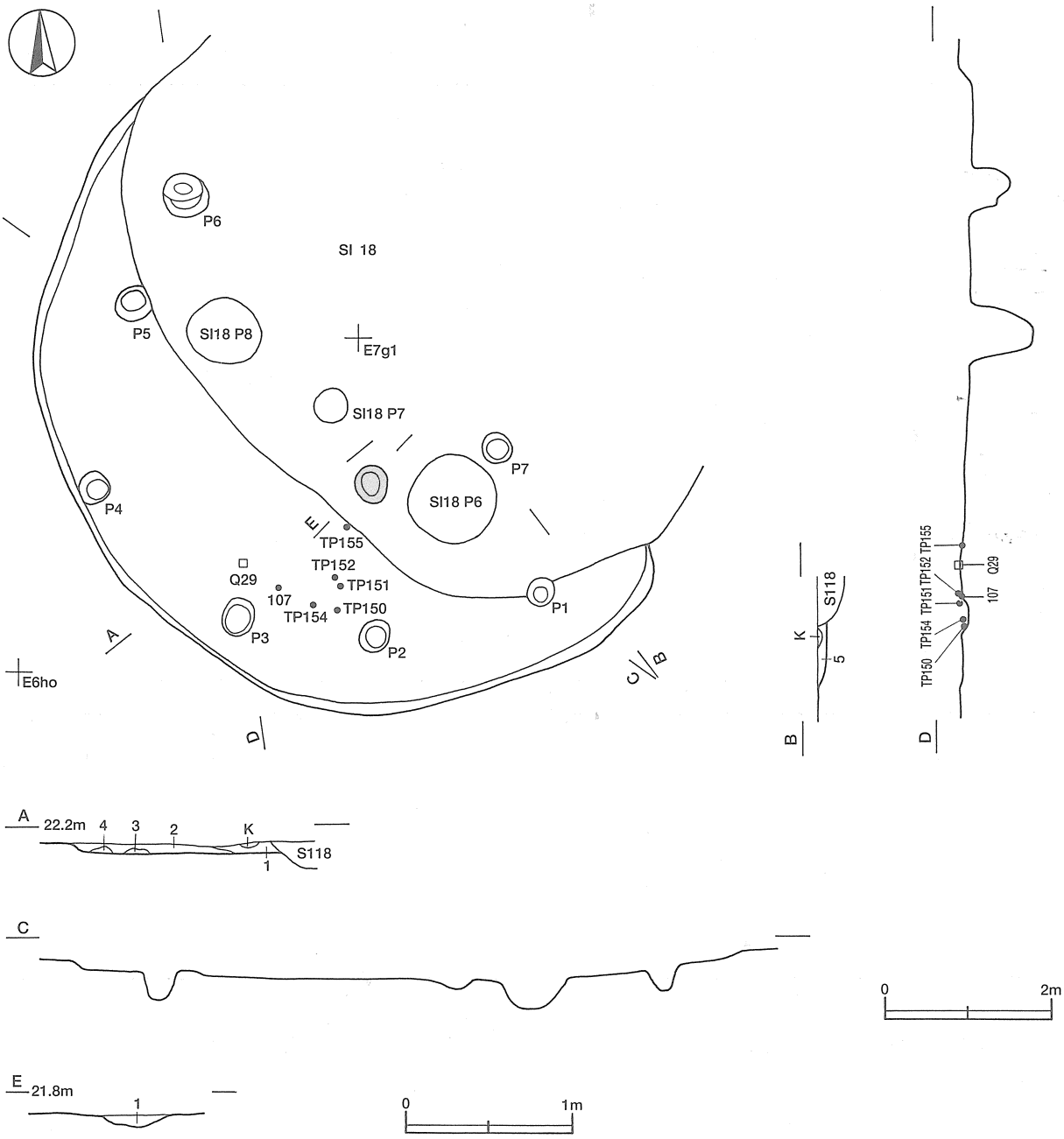
規模と形状　北東部分を第18号住居跡に掘り込まれているために長径8.40m，短径は2.30mだけが検出され，N－46°－Wを長径方向とする楕円形または円形と推定される。壁高は４～12cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床　平坦であるが，ほとんど硬化面は認められない。

炉　径40cmほどの円形で，南部に付設されているが，第18号住居跡によってほとんどが削平され，現存部で７cmほど皿状に掘り窪められた炉床部である。炉床面は，火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　明赤褐色　ロームブロック・焼土粒子多量

ピット　７か所。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４～Ｐ６は深さ17～35cmで，規模や配列から主柱穴と考えられ，Ｐ３は主柱穴



第39図　第19号住居跡実測図

の間に配列されており，深さが８cmとやや浅いことから補助的な柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

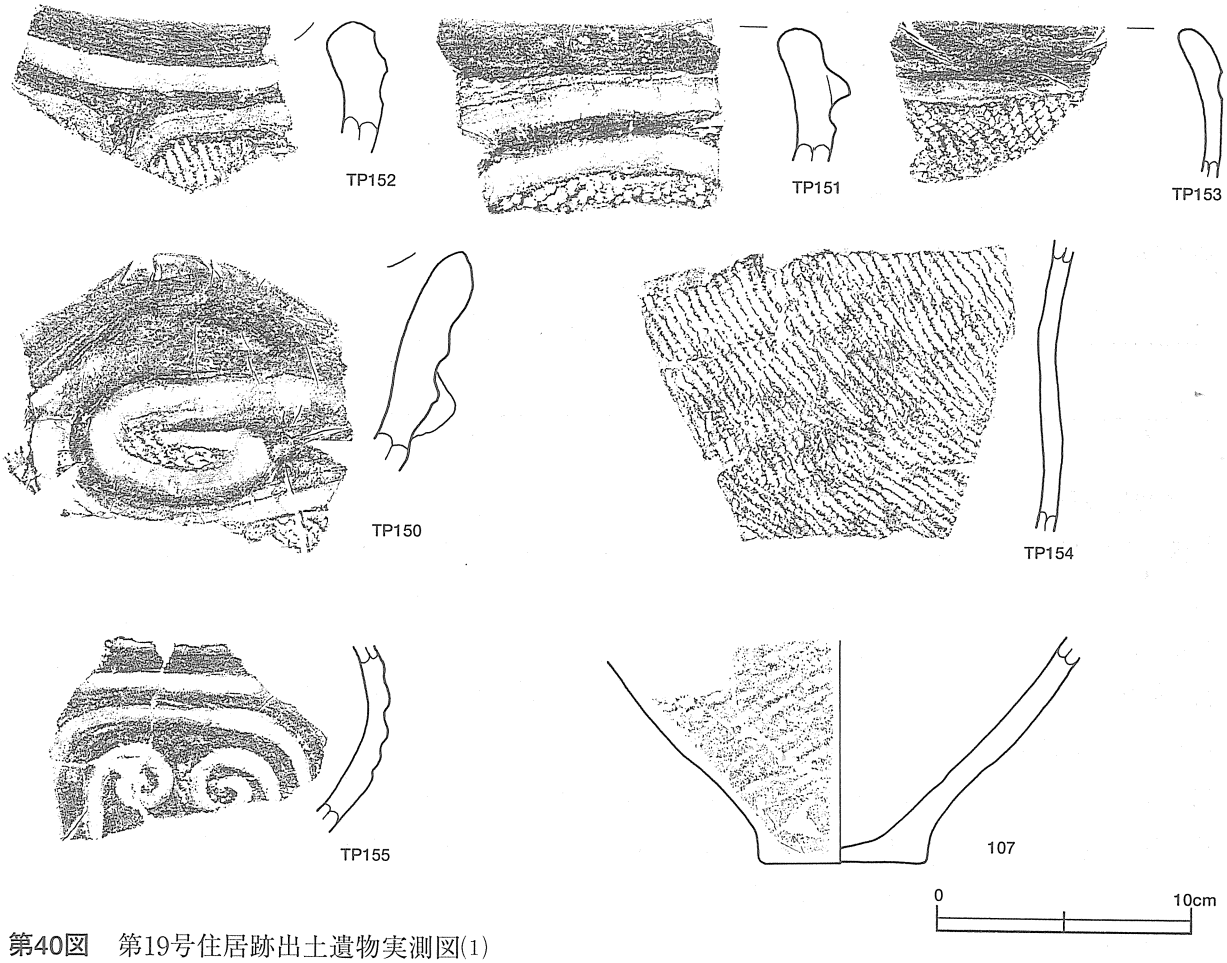
覆土　５層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説

1　黒褐色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
2　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　褐　色　ロームブロック少量
4　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片310点（口縁部37，胴部265，底部８），凹石１点が出土している。全体的に遺物が少なく，覆土中からの出土がほとんどである。Ｐ２とＰ３周辺からTP150～152，TP154が出土しているが，覆土上層のため投棄された土器と考えられる。

所見　本跡は重複関係から，第18号住居跡よりやや古い段階の住居跡と考えられるが，出土土器からほとんど時期差はなく縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅡ～Ⅲ式期）と考えられる。

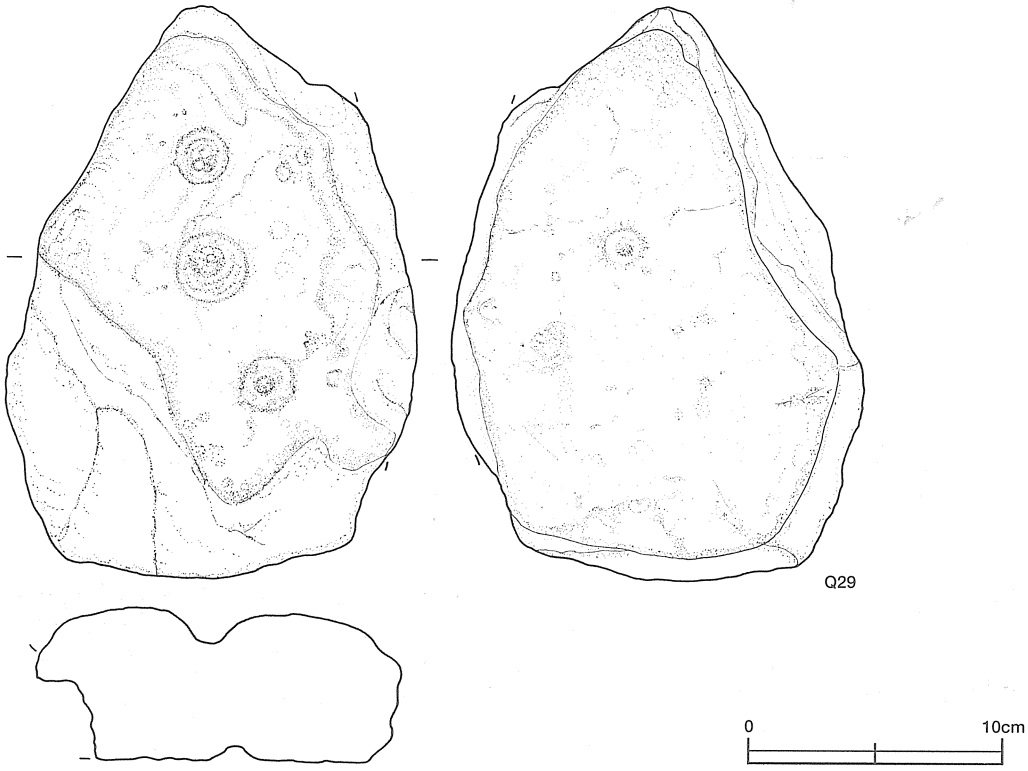


第40図　第19号住居跡出土遺物実測図(1)

第19号住居跡出土遺物観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
107	縄文土器	深　鉢	－	(8.8)	6.5	胴部はＲＬの単節縄文が施文，底部下端は無文	長石･雲母	普通	にぶい橙	南部床面

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
150～155	縄文時代中期後葉	150～152は口縁部で,隆帯によって文様帯を区画し,区画内に単節縄文充填,153は口辺部に微隆帯を有す,154は胴部片で,RLの単節縄文施文,155は沈線によって文様を描出	150～152・154・155南部床面,153覆土中	



第41図　第19号住居跡出土遺物実測図(2)

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重さ	石　材	特　徴	出土位置	備考
Q29	凹　　石	(22.7)	(16.3)	6.2	(2,990.0)	花崗岩	凹み両面	南部床面	ＰＬ40

第20号住居跡（第42・43図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｅ７i1区の平坦部に立地しており，第162号土坑と重複し，北には第19号住居跡，西には第23号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　第162号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長径4.39m，短径3.90mの楕円形であり，長径方向はＮ－２°－Ｅである。壁高は13～20cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，炉跡南側の一部が踏み固められている。

炉　長径75cm，短径60cmの楕円形で，中央部に付設され，床面を35cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は，火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗 褐 色　焼土粒子・炭化物少量，ローム粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化物微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック多量，焼土粒子・炭化物微量
4　赤 褐 色　焼土ブロック多量，炭化物微量

ピット　13か所。Ｐ１・Ｐ５・Ｐ７・Ｐ９・P11は深さ９～20cmで規模や配列から主柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

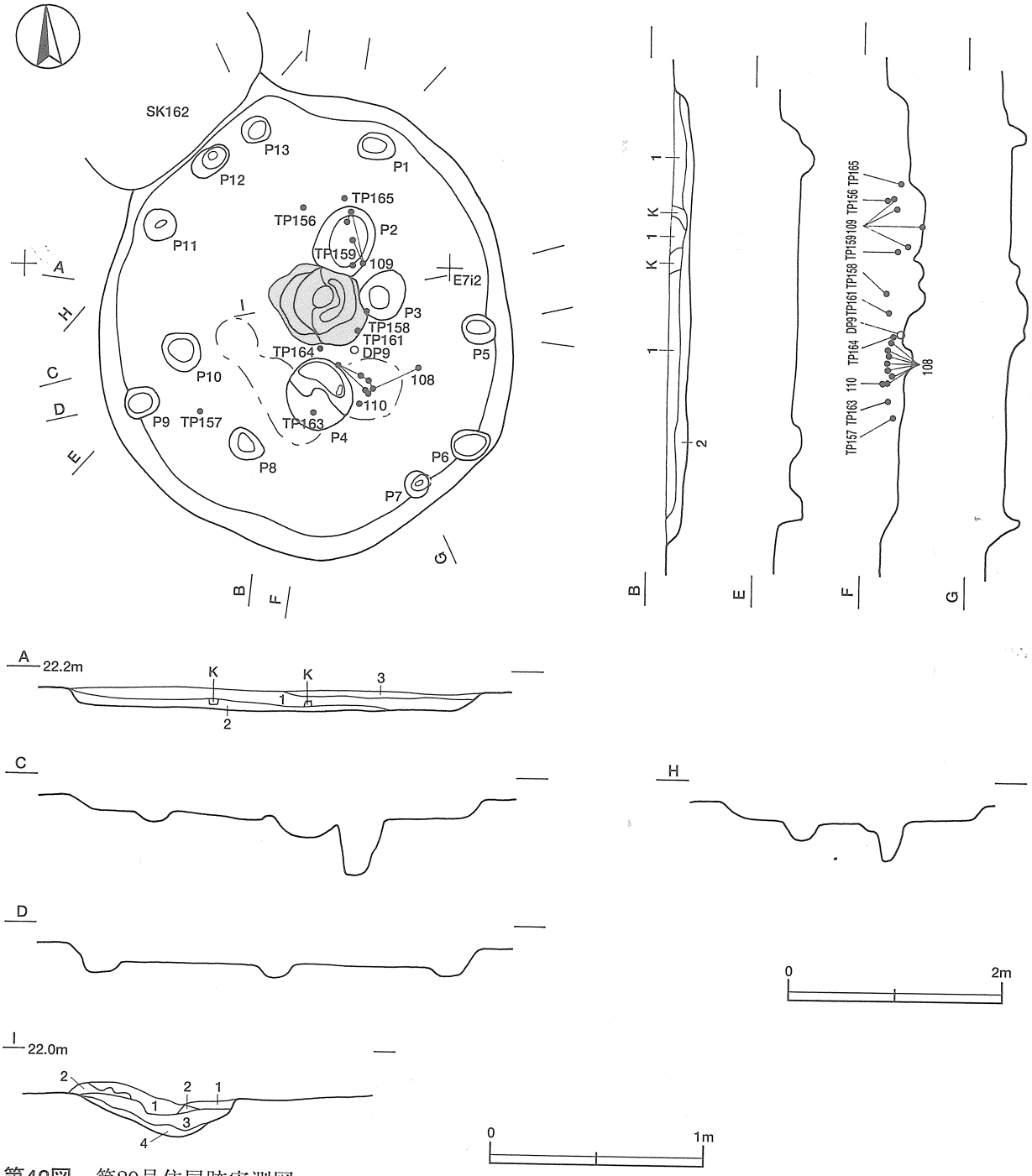
覆土　３層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説

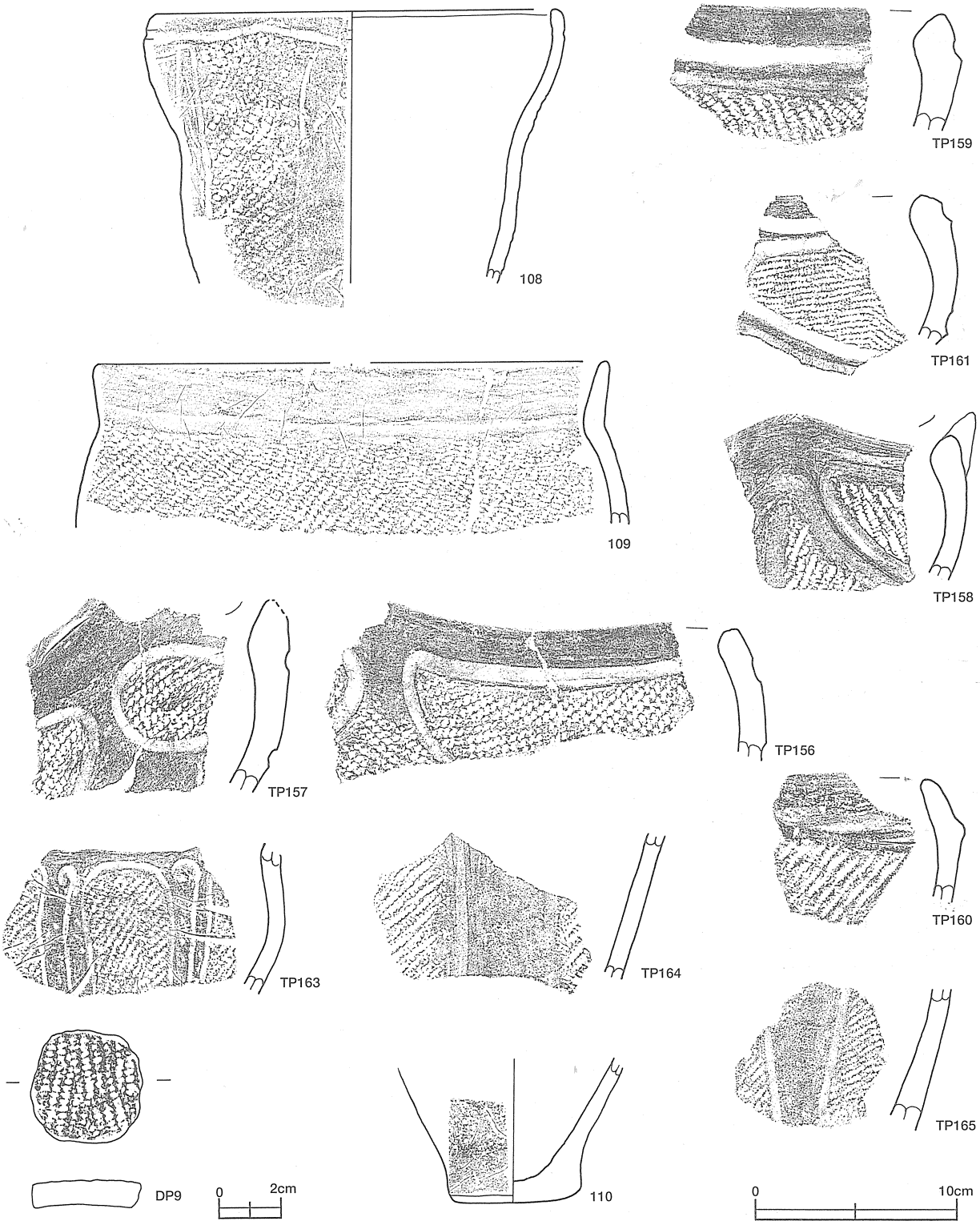
1　褐　　色　ローム粒子・炭化物少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片696点（口縁部76，胴部602，底部18），土製品（円板）１点，礫13点が出土している。土器は中央部の覆土中層から多く出土しており，投棄された状況を示している。TP157は南西部下層から出土し，本跡に伴う土器と考えられる。時期的には，縄文時代中期の加曽利EⅢ～Ⅳ式期の土器が混在しているが，多くは加曽利EⅢ式期のものである。

所見　本跡は炉火床面の状況から，長期にわたって使用された住居と想定され，時期は，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。



第42図　第20号住居跡実測図



第43図　第20号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
108	縄文土器	深鉢	19.6	(13.5)	－	口辺部に一条の沈線を巡らし，胴部には懸垂文帯を区画し，ＲＬの単節縄文施文	長石･石英	普通	にぶい橙	南東部上層 ＰＬ25
109	縄文土器	深鉢	[25.0]	(8.1)	－	口辺部は無文帯で，頸部に一条の沈線を巡らし，胴部にはＲＬの単節縄文が施文	長石･赤色粒子･雲母	普通	にぶい橙	Ｐ２底面 ＰＬ25
110	縄文土器	深鉢	－	(7.1)	6.6	底部は無文である	長石･石英･雲母	普通	明赤褐	南部上層

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
158～161	縄文時代中期後葉	口縁部片で,隆帯によって文様帯を区画し,区画内に158･160はRLの単節縄文,159･161はLRの単節縄文充填	158・161中央部上層，159中央部中層，160覆土中	ＰＬ33
156･157	縄文時代中期後葉	口縁部片で,沈線によって文様帯を区画し,区画内にはLRの単節縄文充填	156北部上層，157南西部下層	ＰＬ33
163	縄文時代中期後葉	胴上部片で,懸垂文帯は上端を連結して区画し,区画内にはRLの単節縄文充填,無文部に蕨手状沈線が垂下	南部中層	
164･165	縄文時代中期後葉	胴部片で,懸垂文帯にLRの単節縄文施文	164中央部下層，165北部下層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重さ	材　質	特　徴	出土位置	備考
DP9	土器円板	3.8	3.5	0.8	16.0	土製	周縁部を雑に研磨	中央部床面	ＰＬ37

第21号住居跡（第44～50図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｆ６g7区の平坦部に立地しており，第14号住居跡，第１号土器焼成遺構と重複している。また，北西には第25号住居跡が位置している。

重複関係　南部を第14号住居跡，中央部を第１号土器焼成遺構，西部を第255号土坑に掘り込まれており，第661号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　第14号住居跡に約３分の１掘り込まれているため，全貌は明らかではないが径7.75mほどの円形と推定され，長径方向はN－70°－Eである。壁高は22～39cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，中央部がやや踏み固められている。

炉　４か所。炉１は中央部に付設されており，長径115cm，短径95cmの楕円形で，床面を17cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉２は炉１の西側に付設された，長径75cm，短径55cmの楕円形で，床面を５cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉３は炉１の東側に付設された長径90cm，短径70cmの楕円形で，床面を５cmほど掘り窪めた地床炉である。炉４は炉１の南東側に付設され，第14号住居跡に掘り込まれて一部を削平されているが，長径35cm，短径30cmの楕円形と推定される。また，床面を５cmほど皿状に掘り窪めており，いずれの炉跡も炉床面は火熱を受けて，赤変硬化している。

炉１土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　赤　褐　色　焼土ブロック多量，炭化物微量
3　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

炉２土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，炭化粒子微量

炉３土層解説
1　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック中量，炭化物微量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量,ローム粒子少量,炭化粒子微量
3　赤　褐　色　焼土ブロック多量,ローム粒子少量,炭化粒子微量

炉４土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，炭化粒子微量

ピット　８か所。Ｐ１～Ｐ３・Ｐ４・Ｐ６・Ｐ７は深さ40～85cmで規模や配列から主柱穴と考えられ，その他のピットの性格は不明である。

Ｐ１土層解説
1　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量
3　褐　色　ロームブロック中量

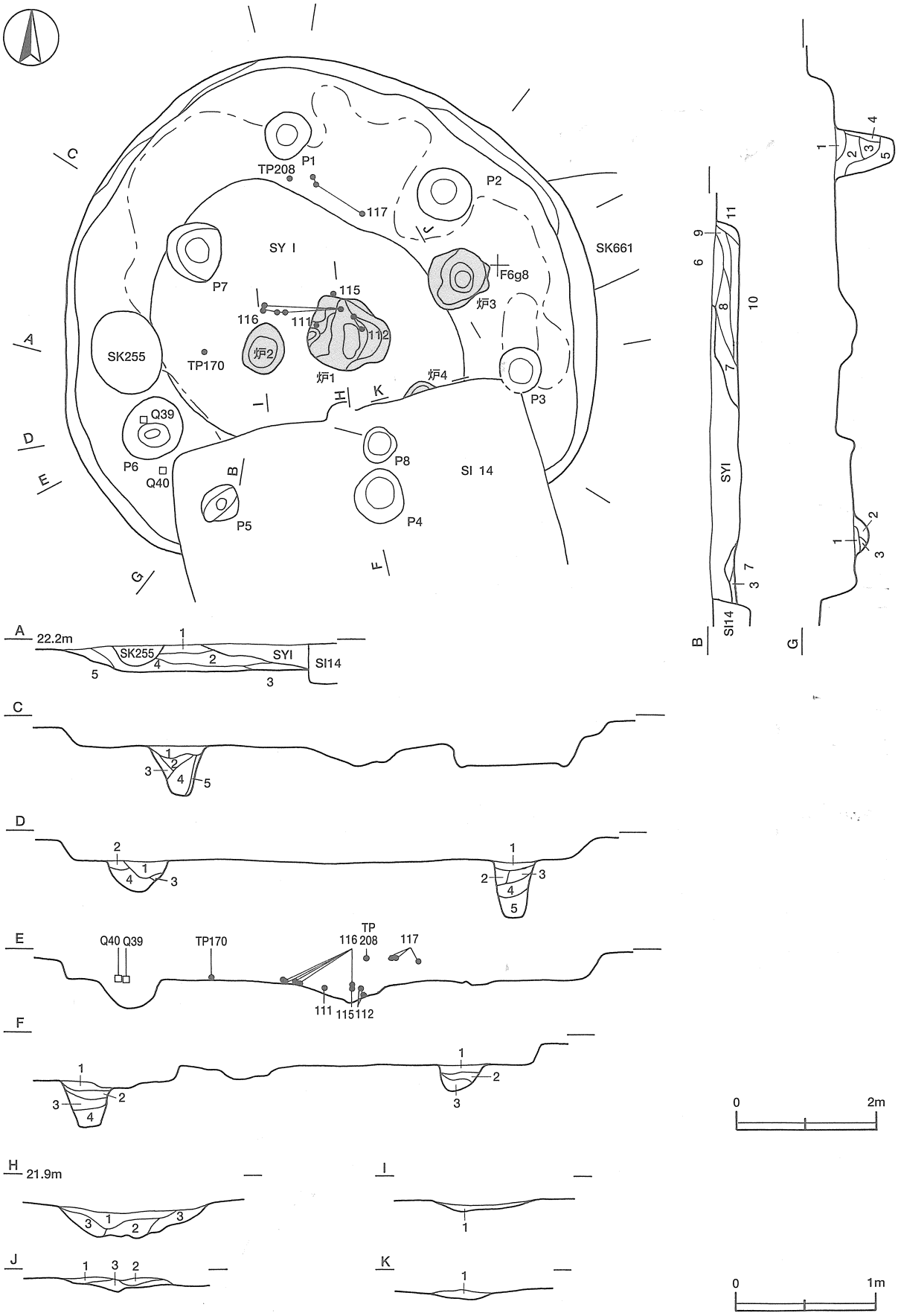
Ｐ２土層解説
1　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
2　暗褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，炭化物微量
4　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量

Ｐ３土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
2　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，炭化物微量
4　暗褐色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
5　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量

Ｐ４土層解説
1　褐　色　ロームブロック中量
2　褐　色　ロームブロック中量，ローム小ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，炭化物微量
4　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

Ｐ６土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量
2　暗褐色　ロームブロック中量
3　暗褐色　ローム粒子中量
4　褐　色　ロームブロック少量

Ｐ７土層解説
1　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
4　黒褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
5　暗褐色　ロームブロック中量



第44図　第21号住居跡実測図

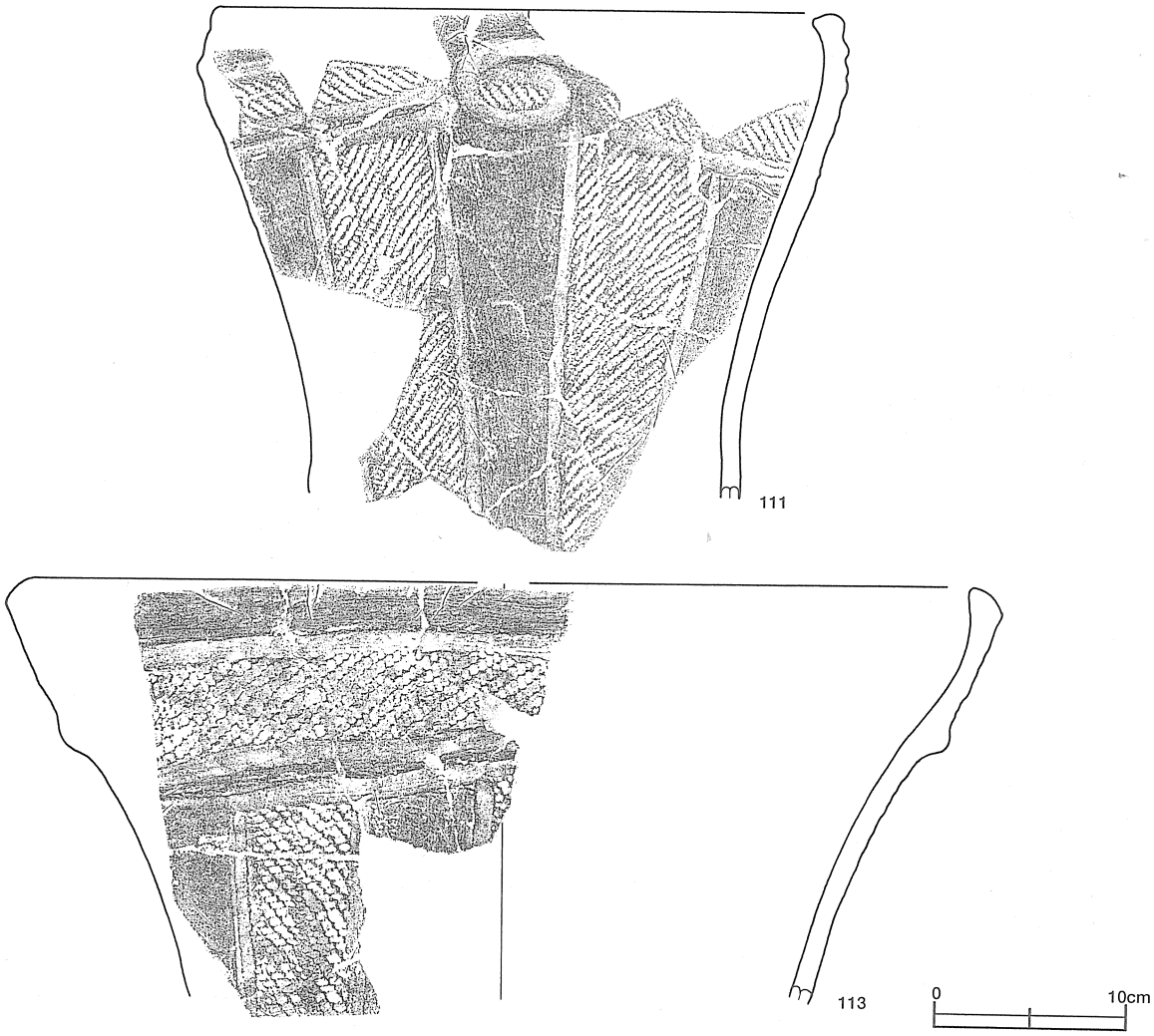
覆土　11層からなり，上層部の６層は投棄された状況を示し，他の層は自然堆積の状況を示している。

土層解説

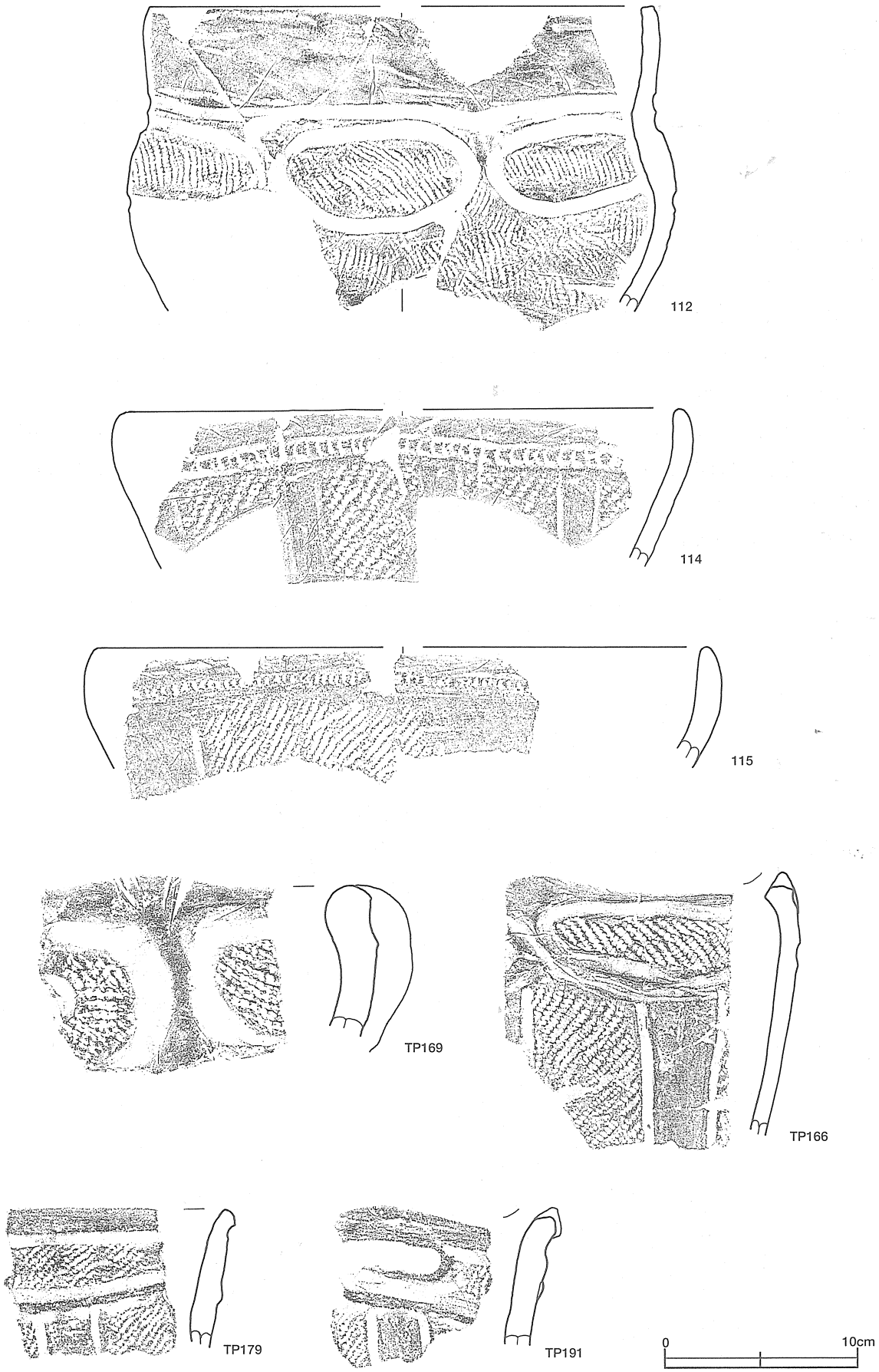
1	褐	色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
2	褐	色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
3	にぶい赤褐	色	ロームブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
4	褐	色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
5	褐	色	ローム粒子中量，焼土粒子微量
6	褐	色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
7	暗　褐	色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
8	褐	色	ローム粒子多量，焼土粒子微量
9	暗　褐	色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
10	暗　褐	色	ローム粒子中量，炭化物微量
11	褐	色	ローム粒子多量

遺物出土状況　縄文土器片6,344点（口縁部697，胴部5555，底部92），石鏃５点，剥片２点，石核１点，磨石１点，凹石２点が出土している。土器はほぼ全体的に散在しており，特に覆土上層からの出土量が多く，投棄された状況を示しているが，住居中央部の土器焼成遺構に伴う土器が覆土上層部に散在したものと考えられる。111は炉１の上層，112は炉１の上層と床面から出土した土器が接合した資料であり，Q39はP６の上面，Q40はP６南側の床面から出土し，それぞれ本跡に伴う遺物と考えられる。

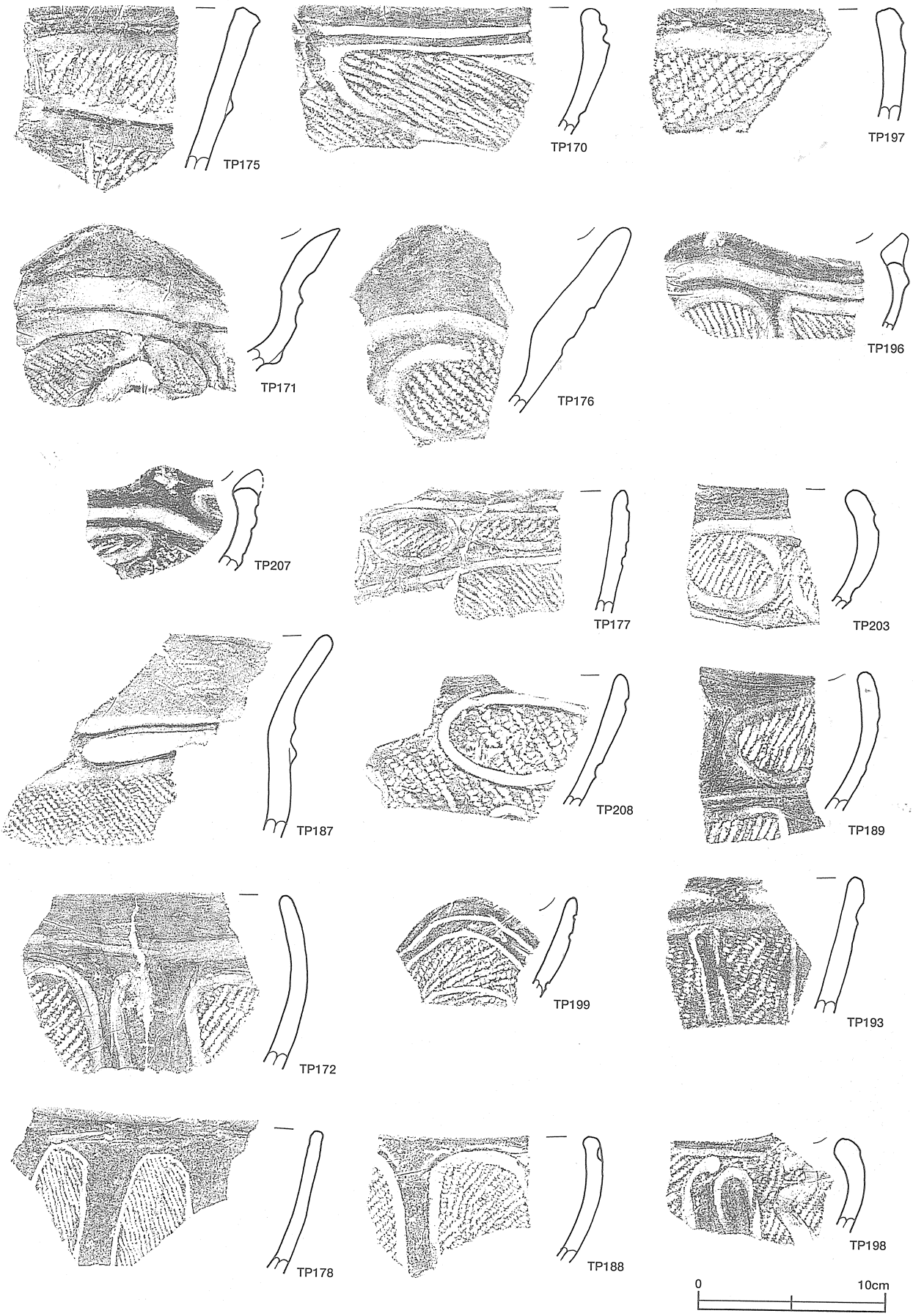
所見　本跡は，南部を第14号住居跡に掘り込まれており，中央部に土器焼成遺構が重複しているが，掘り込みが深いため遺存状態は比較的良好である。炉は４か所検出されており，炉１は掘り込みも深く，炉床面が厚く赤変硬化していることから主体的な炉であり，他の炉は補助的な炉としての使用が考えられる。時期は，出土土器から縄文時代中期後葉（加曽利EⅡ～Ⅲ式期）と考えられる。



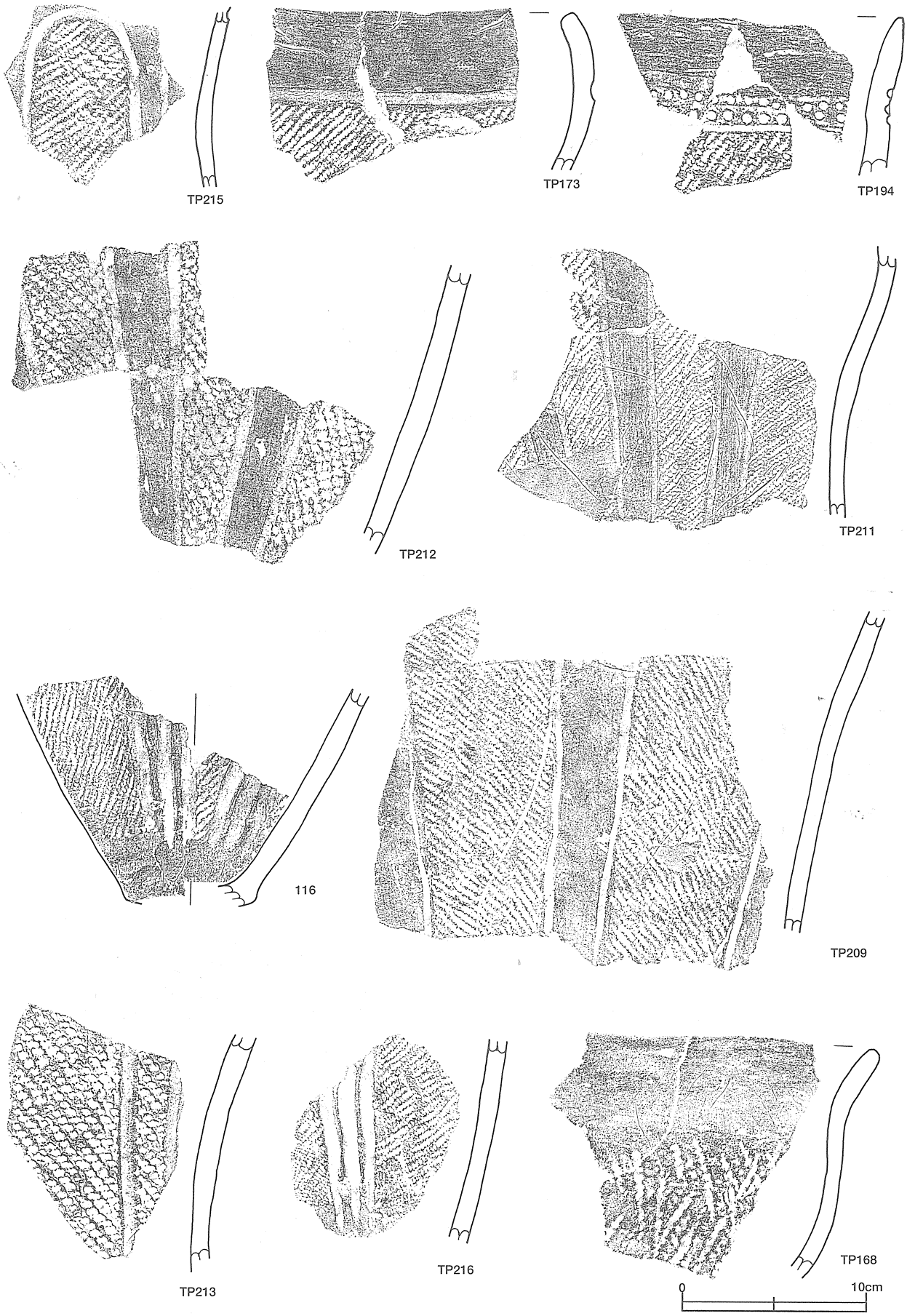
第45図　第21号住居跡出土遺物実測図(1)



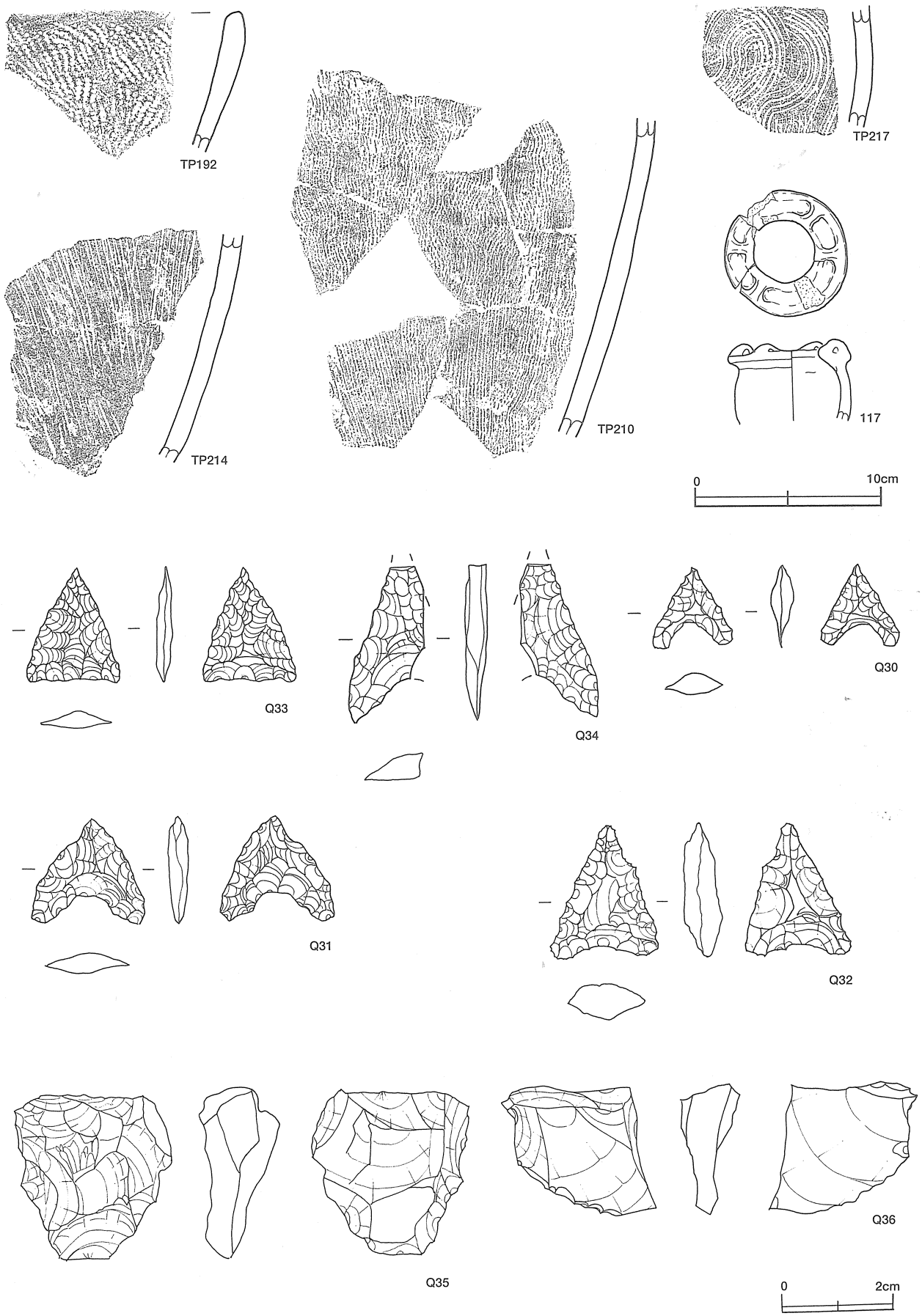
第46図　第21号住居跡出土遺物実測図(2)



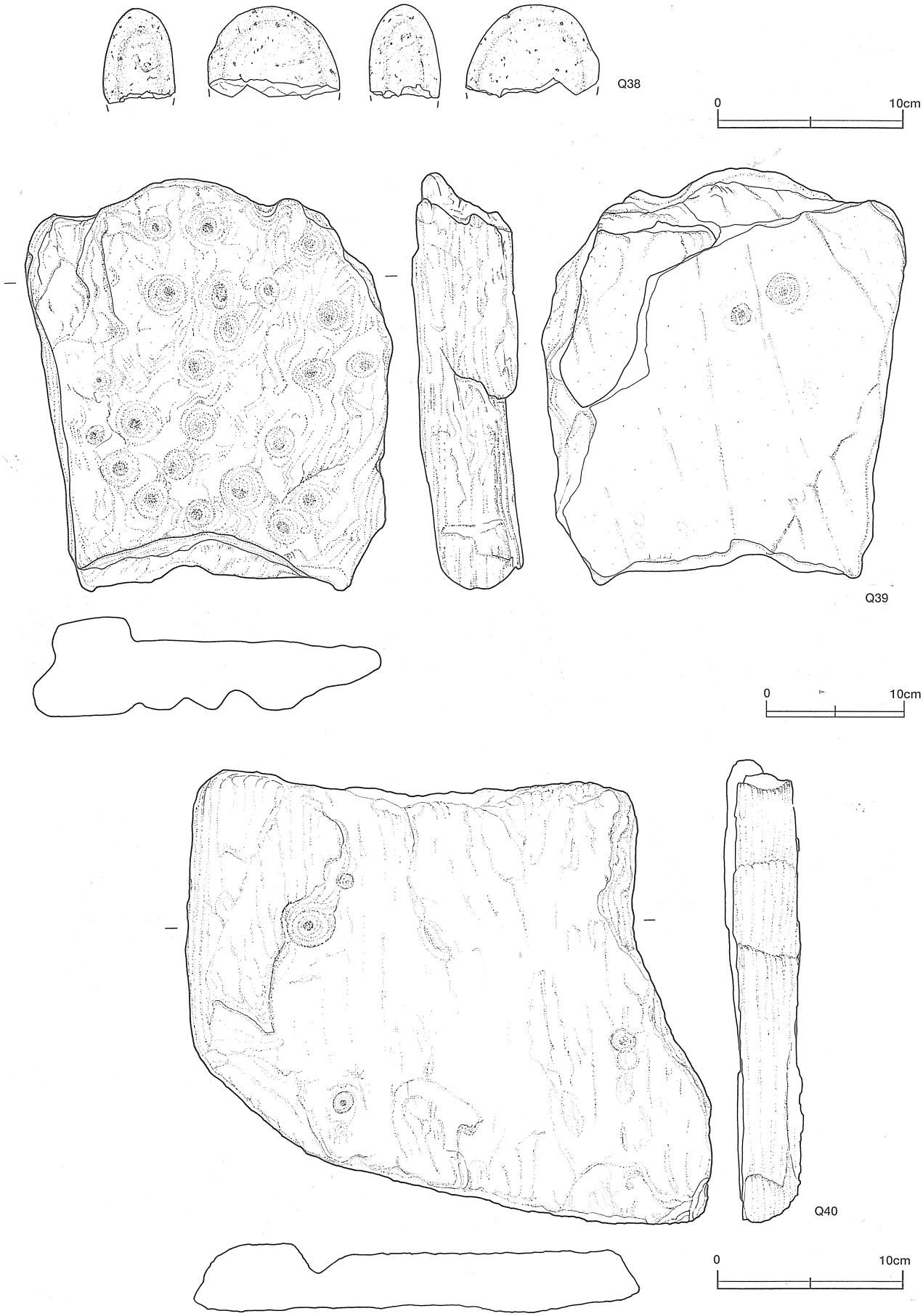
第47図　第21号住居跡出土遺物実測図(3)



第48図　第21号住居跡出土遺物実測図(4)



第49図　第21号住居跡出土遺物実測図(5)



第50図　第21号住居跡出土遺物実測図(6)

第21号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
111	縄文土器	深鉢	32.1	(25.9)	−	口辺部は隆帯によって区画，胴部の懸垂文帯にはＲＬの単節縄文施文	長石・赤色粒子・雲母	普通	にぶい橙	炉１上層 ＰＬ25
112	縄文土器	深鉢	[26.0]	(15.7)	−	口辺部は無文帯で，頸部に一条の沈線を巡らし，胴上部には沈線により文様帯を描出しＲＬの単節縄文施文	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	炉１上層と底面 ＰＬ25
113	縄文土器	深鉢	[49.4]	(21.2)	−	口辺部は隆帯により区画され，胴部の懸垂文帯にはＬＲの単節縄文施文	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐色	覆土中 ＰＬ25
114	縄文土器	深鉢	[28.6]	(8.0)	−	口辺部に刻みを巡らし，胴部の懸垂文帯にはＲＬの単節縄文施文	長石・赤色粒子	普通	にぶい橙	覆土中 ＰＬ25
115	縄文土器	深鉢	[31.4]	(6.2)	−	口辺部に刻みを巡らし，胴部の懸垂文帯にはＲＬの単節縄文施文	長石・赤色粒子・雲母	普通	にぶい黄橙	炉１上層
116	縄文土器	深鉢	−	(11.9)	[7.2]	底部下端は無文で，胴部の懸垂文帯にはＲＬの単節縄文施文	長石・石英	普通	明赤褐	中央部床面 ＰＬ25
117	縄文土器	小形	6.2	(4.3)	−	口辰部に把手が付く，無文の壺形土器	砂粒・雲母	普通	にぶい褐	北部上層 ＰＬ25

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
169	縄文時代中期後葉	口縁部片で,隆帯に沿う沈線により文様帯を区画し,RLの単節縄文施文	覆土中	ＰＬ33
166・175・179・191	縄文時代中期後葉	口縁部片で,地文に,沈線により文様帯を区画し,懸垂文帯にRLの単節縄文施文	覆土中	ＰＬ33
170・197	縄文時代中期後葉	口縁部片で,沈線により文様帯を区画し,LRの単節縄文施文	170西部床面，197覆土中	
171・176・196・207	縄文時代中期後葉	口縁部片で,沈線により文様帯を区画し,区画内にRLの単節縄文充填	覆土中	ＰＬ33
177・203	縄文時代中期後葉	口縁部片で,沈線によって文様帯を区画し,RLの単節縄文施文	覆土中	
187	縄文時代中期後葉	口縁部片で,幅広の口辺部無文帯を有し,隆帯によって頸部に文様帯を区画し,LRの単節縄文施文	覆土中	
199・208	縄文時代中期後葉	口縁部片で,LRの単節縄文地を沈線によって文様帯区画	208北部上層，199覆土中	
172・188・189	縄文時代中期後葉	口縁部片で,沈線によって文様帯を区画し,区画内にRLの単節縄文充填	覆土中	ＰＬ33
178	縄文時代中期後葉	口縁部片で,沈線によって文様帯を区画し,区画内にLRの単節縄文充填	覆土中	
193・198	縄文時代中期後葉	口縁部片で,沈線によって文様帯を描出し,LRの単節縄文施文	覆土中	
215	縄文時代中期後葉	胴部片で,沈線によって文様帯を区画し,区画内にRLの単節縄文充填	覆土中	
173・194	縄文時代中期後葉	口縁部片で,173は口辺部は無文帯,194は2列の円形刺突文を有し,横位の沈線以下はそれぞれRLの単節縄文施文	覆土中	ＰＬ33
209・211・212	縄文時代中期後葉	胴部片で,懸垂文帯に212・209はLRの単節縄文,211はRLの単節縄文をそれぞれ充填	覆土中	ＰＬ33
213・216	縄文時代中期後葉	胴部片で,LRの単節縄文地に沈線垂下	覆土中	ＰＬ33
168・192	縄文時代中期後葉	口縁部片で,RLの単節縄文施文	覆土中	
210・214・217	縄文時代中期後葉	胴部片で,条線文施文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q30	石鏃	1.5	1.5	0.4	0.4	チャート	無茎鏃	覆土中	ＰＬ38
Q31	石鏃	1.9	2.0	0.4	0.9	チャート	無茎鏃	覆土中	ＰＬ38
Q32	石鏃	2.4	1.9	0.7	2.0	頁岩	無茎鏃	覆土中	ＰＬ38
Q33	石鏃	2.0	1.6	0.4	0.8	黒曜石	無茎鏃	覆土中	ＰＬ38
Q34	石鏃	(2.8)	(1.4)	0.5	(1.3)	頁岩	無茎鏃，先端部と片側欠損	覆土中	
Q35	剥片	3.0	2.9	1.5	9.0	チャート	調整剥片	覆土中	
Q36	剥片	2.3	2.7	1.1	4.7	頁岩	調整剥片	覆土中	
Q38	磨石	(5.0)	7.2	3.9	(191.0)	安山岩	下部欠損	覆土中	
Q39	凹石	29.7	26.1	7.1	7,630.0	雲母片岩	凹み両面	Ｐ６上面	ＰＬ40
Q40	凹石	25.2	28.4	4.0	3,800.0	雲母片岩	裏面剥落	南西部床面	

第23号住居跡（第51～54図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｅ６j6区の平坦部に立地しており，北東には第18・19号住居跡，南西には第25号住居跡がそれぞれ位置している。

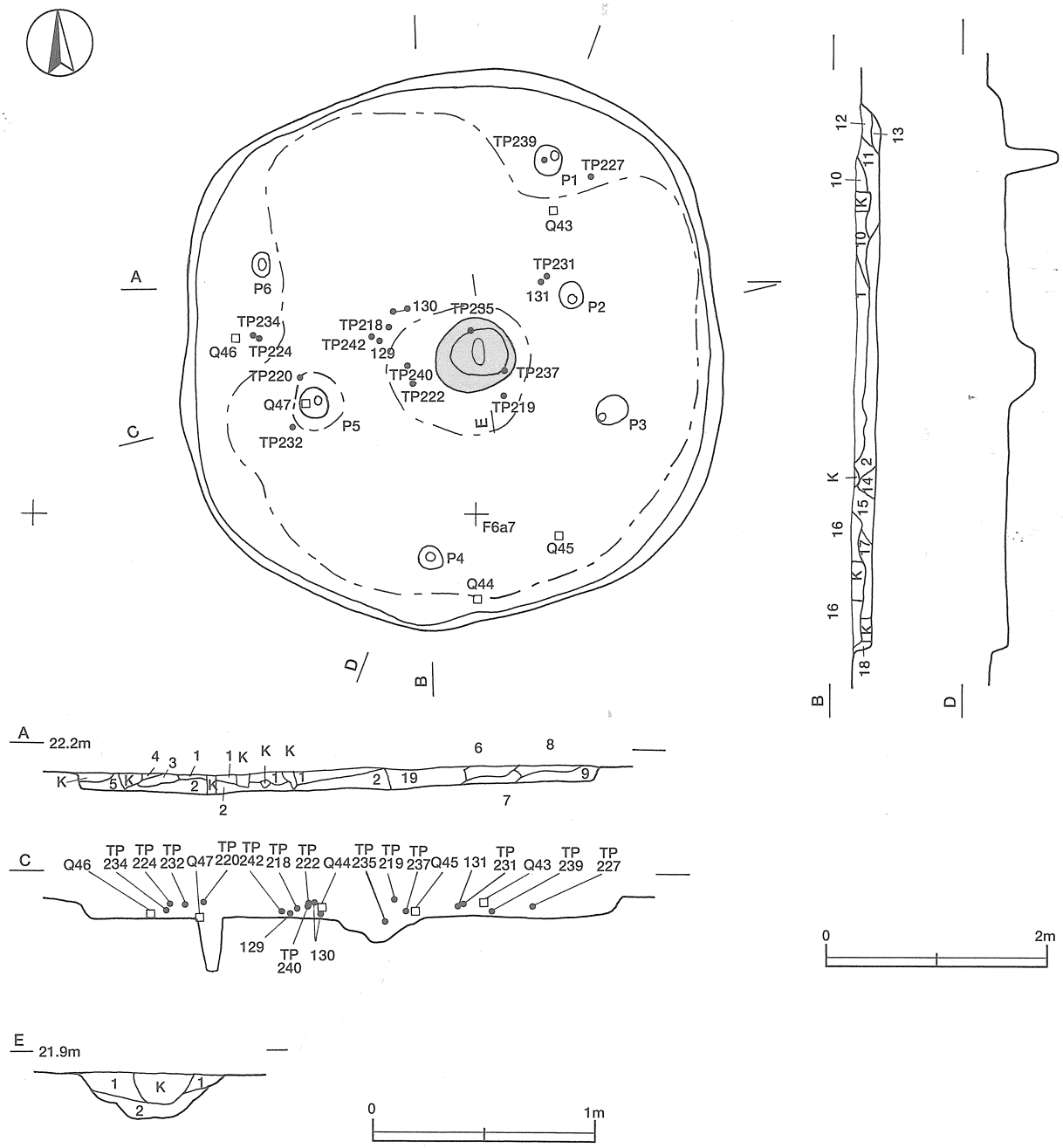
規模と形状　長径5.15m，短径5.02mの円形で，長径方向はN－57°－Eである。壁高は12～20cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦であり，全体的に踏み固められている。

炉　長径75cm，短径65cmほどの楕円形で，中央部よりやや東側に付設され，床面を20cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は，火熱を受けて赤変している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック多量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量



第51図　第23号住居跡実測図

ピット　6か所。P1・P3・P5は深さ31～52cmで規模や配列から主柱穴と考えられ，その他のピットの性格は不明である。

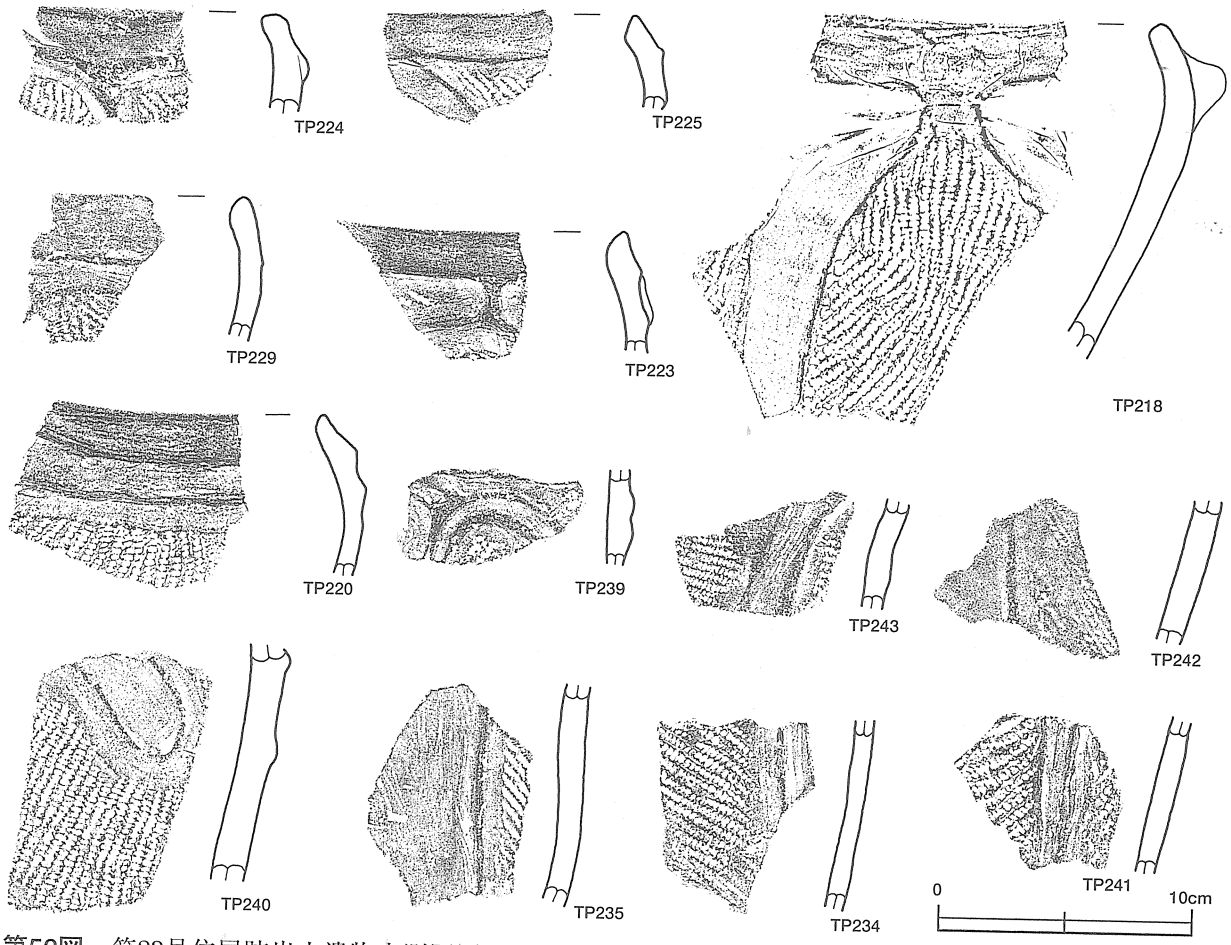
覆土　19層からなり，ロームブロック，焼土ブロック及び炭化物を含んだ，不自然な堆積状況から，人為堆積の状況を呈している。

土層解説

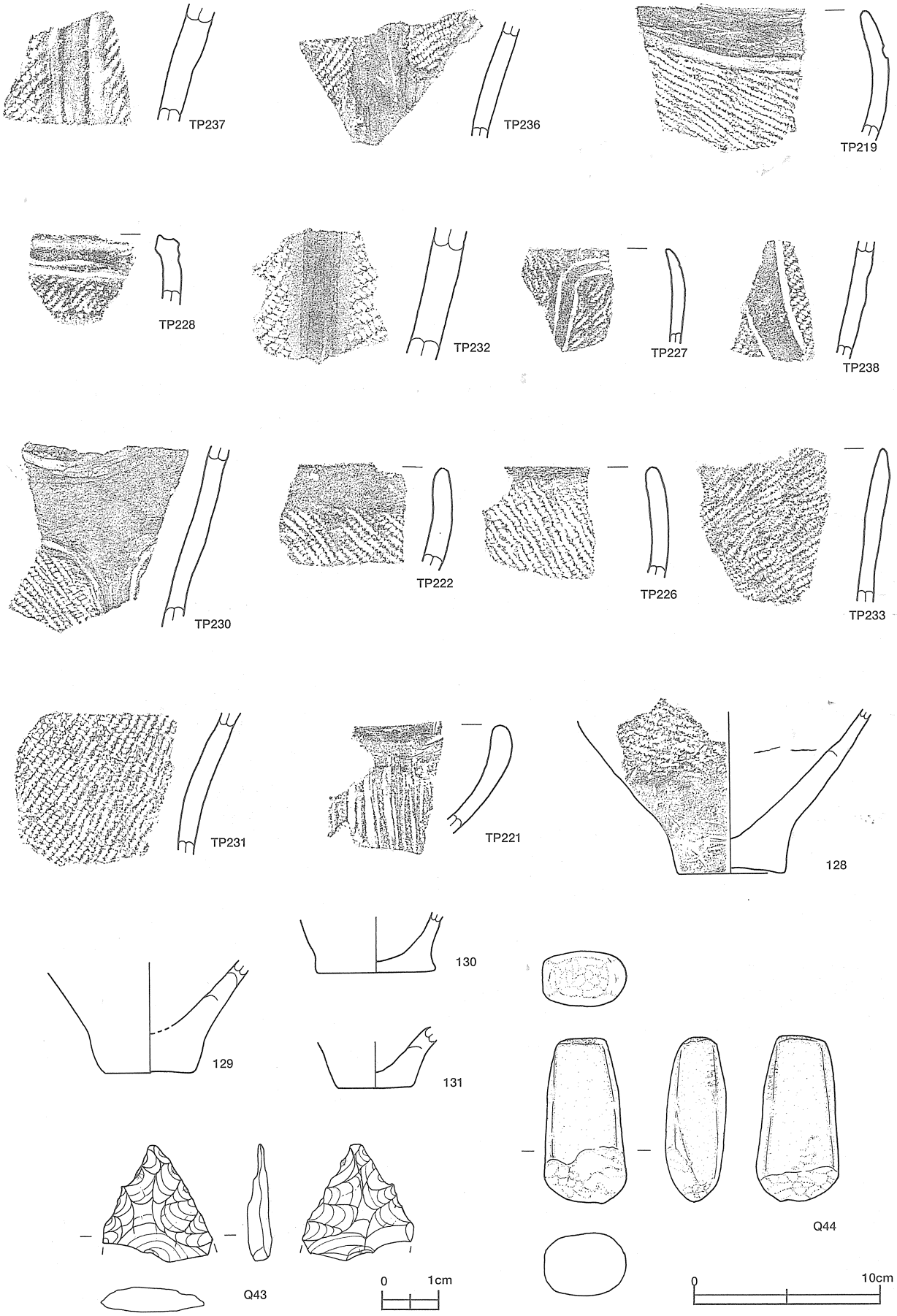
1　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック微量
2　暗褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック・炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　褐　色　ロームブロック中量
6　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック微量
7　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
8　褐　色　ロームブロック中量
9　褐　色　ロームブロック中量，ローム粒子微量
10　極暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
11　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
12　褐　色　ロームブロック中量
13　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
14　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
15　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
16　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
17　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
18　褐　色　ロームブロック多量
19　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量

遺物出土状況　縄文土器片980点（口縁部86，胴部878，底部16），石鏃1点，石斧1点，石棒1点，凹石2点，礫15点が出土している。遺物は炉周辺と西部の覆土中から出土しているものが多く，投棄された状況を示している。また，TP235は炉の上層，TP237は中央部中層，TP239は北部中層，Q47はP5の上層からそれぞれ出土し，本跡に伴う遺物と考えられる。さらに，Q45は南部の南を向いた横位で床面からやや浮いた状態で出土し，側面は火熱を受けて赤変している。

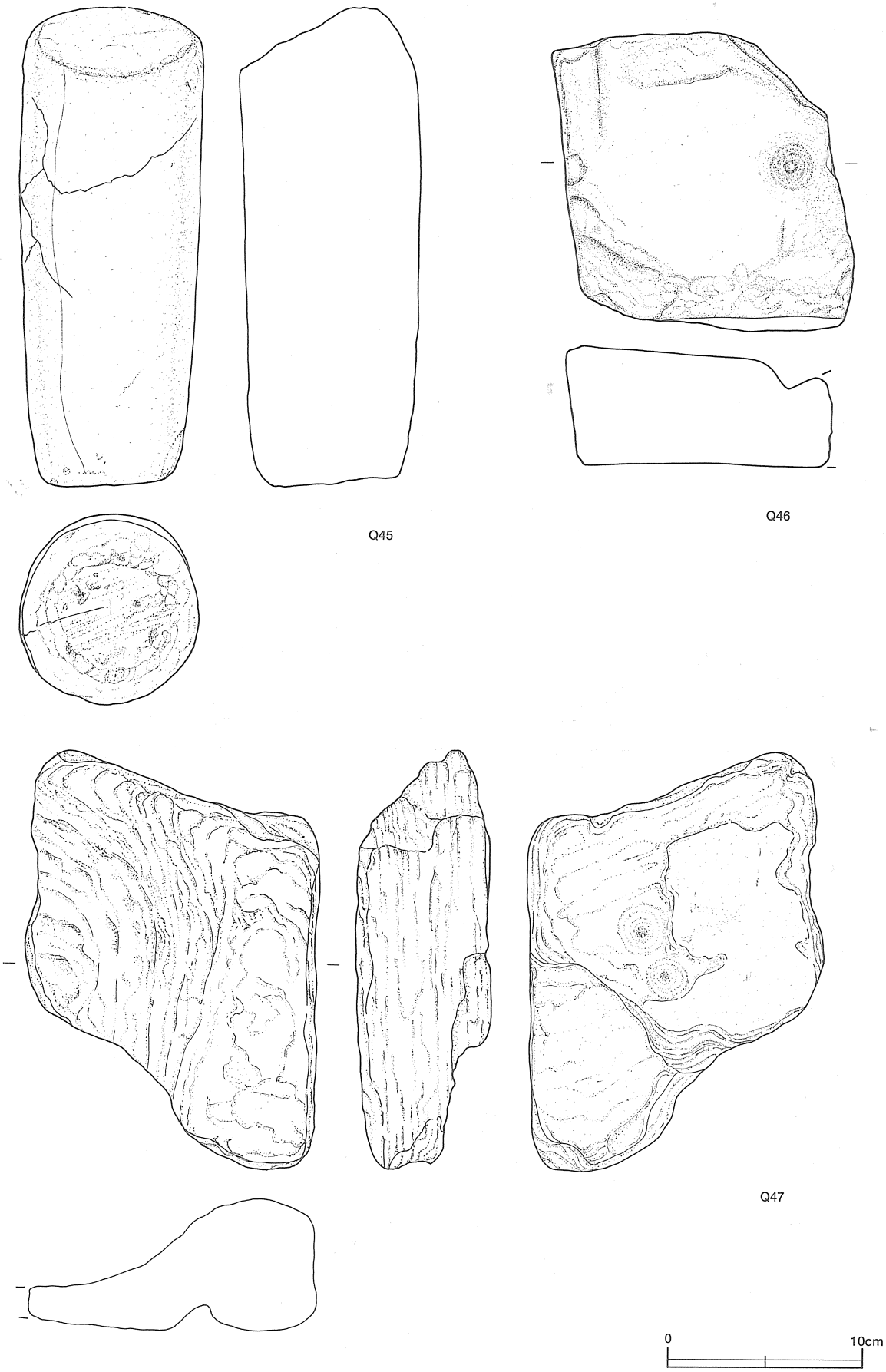
所見　本跡は火熱を受け側面が赤変している石棒が出土し，一種の祭祀的な性格を有した住居跡の可能性もある。土器は加曽利EⅢ～Ⅳ式期の土器が出土しているが，主体となる土器からみて時期は縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。



第52図　第23号住居跡出土遺物実測図(1)



第53図　第23号住居跡出土遺物実測図(2)



第54図　第23号住居跡出土遺物実測図(3)

第23号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
128	縄文土器	深鉢	－	(8.8)	5.8	底部下端は無文で，胴部はＲＬの単節縄文施文	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土中
129	縄文土器	深鉢	－	(5.5)	4.8	底部は無文	長石・石英・雲母	普通	橙	中央部床面
130	縄文土器	深鉢	－	(3.3)	6.4	底部片で，無文	長石・赤色粒子	普通	にぶい褐色	中央部床面
131	縄文土器	深鉢	－	(3.2)	4.0	底部片で，無文	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	中央部中層

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
223・224・225・229	縄文時代中期後葉	口縁部片で，微隆帯によって文様帯を区画し，区画内に単節縄文充填，器面やや荒れ	224西部上層，他覆土中	
218・220	縄文時代中期後葉	口縁部片で，微隆帯により文様帯を区画し，区画内にＲＬの単節縄文充填	218中央部中層，220西部上層	ＰＬ33
239	縄文時代中期後葉	胴部片で，沈線によって文様帯描出	北部中層	
234・235・236・241・243	縄文時代中期後葉	胴部片で，微隆帯によって文様帯を区画し，区画内にＲＬの単節縄文充填	234西部下層，235炉上層，他覆土中	
237・242	縄文時代中期後葉	胴部片で，微隆帯によって文様帯を区画し，区画内にＬＲの単節縄文充填	237中央部中層，242中央部下層	
240	縄文時代中期後葉	胴部片で，ＲＬの単節縄文地に隆帯で曲線的な文様帯区画	中央部中層	ＰＬ33
232	縄文時代中期後葉	胴部片で，懸垂文帯にＲＬの単節縄文施文	西部上層	
219・228	縄文時代中期後葉	口縁部片で，沈線によって文様描出	219中央部上層，228覆土中	
227・230・238	縄文時代中期後葉	沈線によって文様帯を区画し，区画内に238はＲＬの単節縄文，230はＬＲの単節縄文充填	227北東部中層，230・238覆土中	
222・226	縄文時代中期後葉	口縁部片で，ＬＲの単節縄文施文	222中央部中層，226覆土中	
233・231	縄文時代中期後葉	233は口縁部片，231は胴部片であり，それぞれＲＬの単節縄文施文	231中央部中層，233覆土中	
221	縄文時代中期後葉	口縁部片で，縦位に沈線施文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q43	石鏃	(2.2)	1.9	0.4	(1.3)	チャート	無茎鏃，下部欠損	北部中層	
Q44	磨製石斧	8.8	4.5	3.3	227.0	花崗岩	破損した刃部を再加工	南部中層	
Q45	石棒	24.5	9.2	－	2,900.0	凝灰岩	側面に火熱痕有り	南部下層	
Q46	凹石	(15.4)	(15.5)	6.3	(2,490.0)	砂岩	凹み片面	西部床面	
Q47	石皿	21.5	14.8	6.8	2,230.0	雲母片岩	凹石兼用，凹み裏面	西部床面	

第25号住居跡（第55・56図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｆ６d4区の平坦部に立地し，第17号住居跡と重複している。北東には第23号住居跡，南東には第21号住居跡が位置している。

重複関係　第284号土坑を掘り込み，第17号住居跡と第315号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　北側部分が第17号住居跡に掘り込まれ，また，西側部分が調査区域外に延びているため長径5.27mと，短径の4.61mだけが検出され，N－20°－Wを長径方向とする楕円形であると推定される。壁高は9～16cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，炉周辺が若干踏み固められている。炉の下には第284号土坑があり，土坑の覆土上層を固めて床面を構築している。

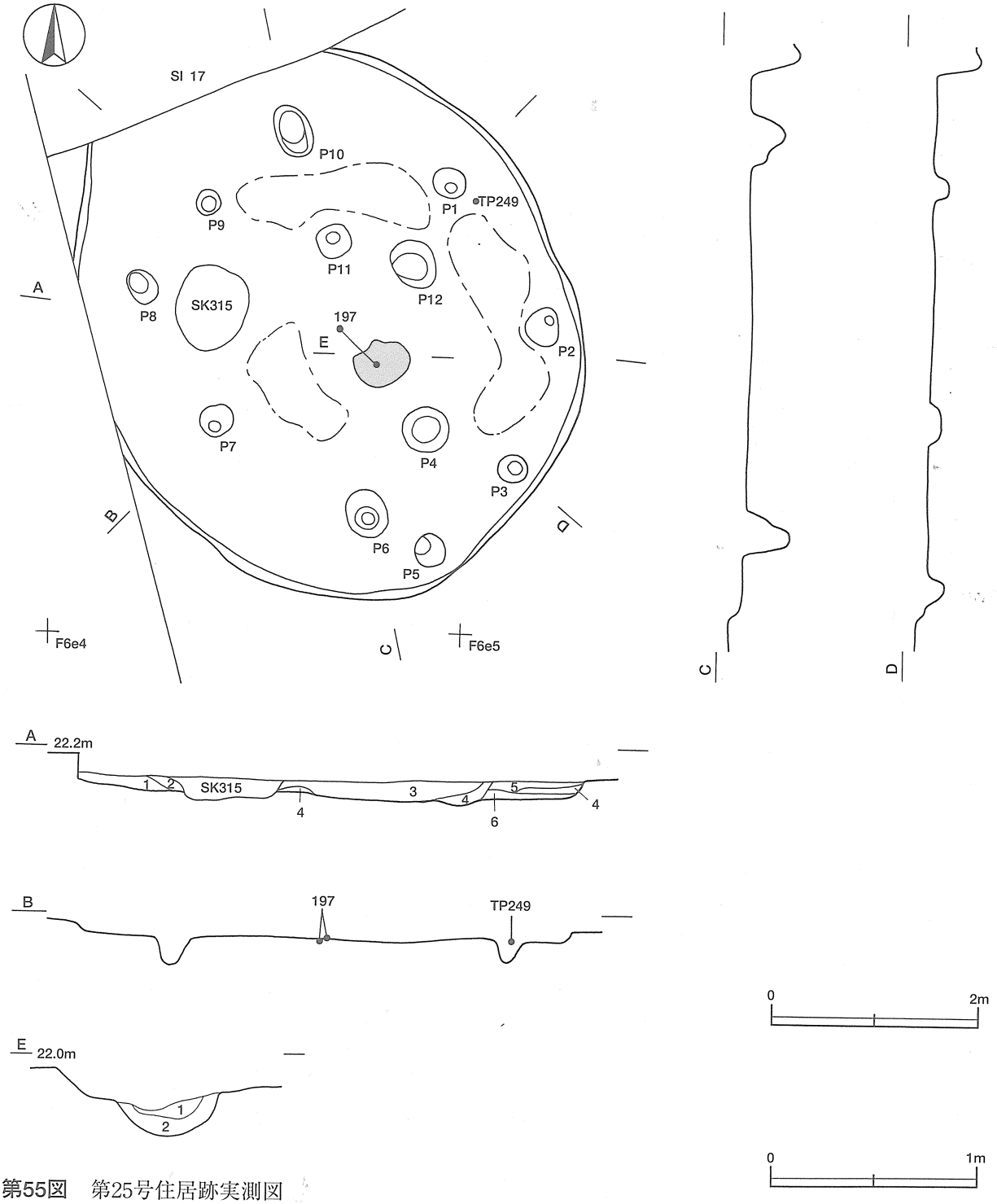
炉　長径52cm，短径40cmほどの楕円形で，中央部のやや南東側に付設され，床面を15cmほど掘り窪めた地床炉である。炉床面は，火熱を受けて赤変している。

炉土層解説
1　赤　褐　色　焼土ブロック多量，炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量

ピット　12か所。P１～P３・P６～P10は深さ18～36cmで，規模や配列から主柱穴と考えられ，その他のピットの性格は不明である。

覆土　６層からなり，含有物と不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

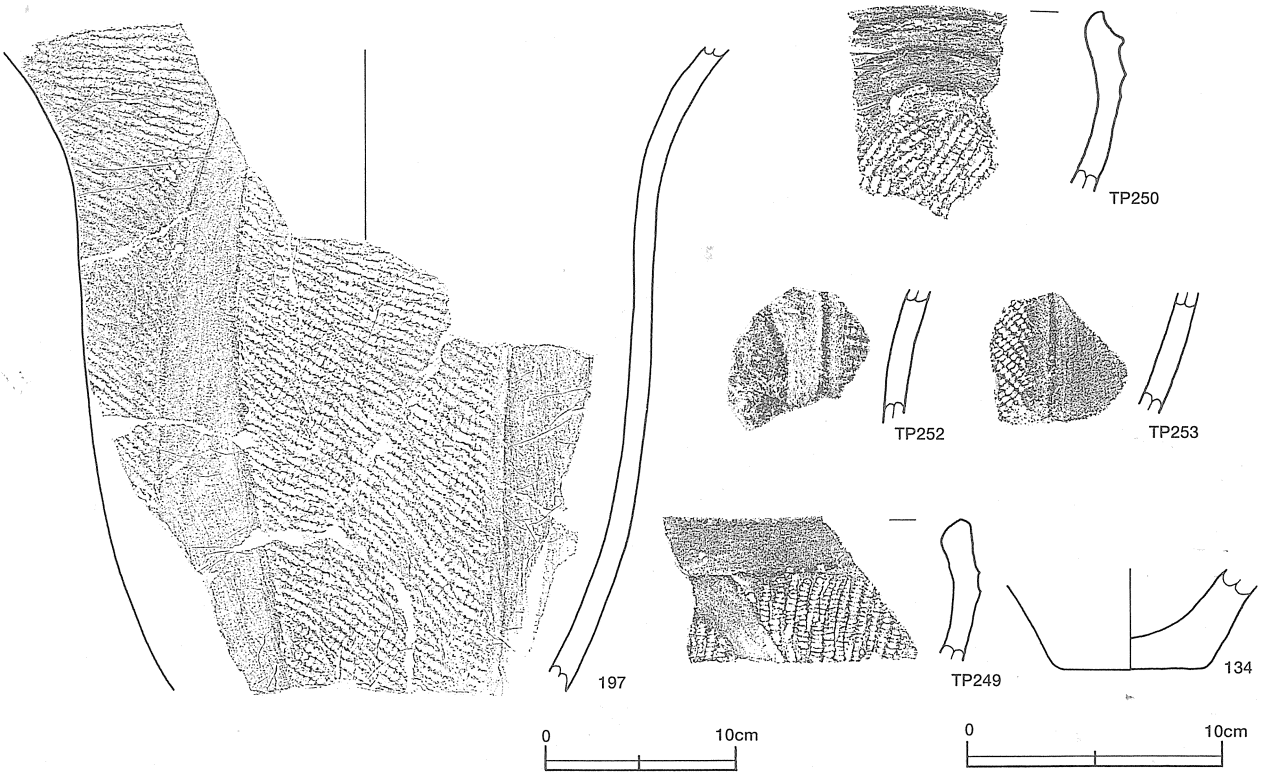
土層解説
1　褐　色　ロームブロック中量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック中量
5　褐　色　ロームブロック中量
6　褐　色　ロームブロック中量，ローム粒子微量



第55図　第25号住居跡実測図

遺物出土状況　縄文土器片200点（口縁部９，胴部190，底部１），礫４点が出土している。土器は少量であるが中央部の覆土中から出土しているものがほとんどである。197は中央部床面と炉の覆土上層から出土している土器が接合された資料であり，また，TP249はP１東側の床面から出土しており，それぞれ本跡に伴う土器と考えられる。

所見　本跡の時期は出土土器から，縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。



第56図　第25号住居跡出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
134	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	6.0	底部片で，無文	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	覆土中
197	縄文土器	深鉢	－	(33.9)	－	微隆帯によって文様帯を描出し，区画文内にＲＬの単節縄文充填	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	中央部床面 ＰＬ25

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
249・250	縄文時代中期後葉	口縁部片で,微隆帯によって文様を描出し,RLの単節縄文充填	249北東部床面，250覆土中	
252・253	縄文時代中期後葉	胴部片で,微隆帯によって文様を描出,253はRLの単節縄文充填,252は器面がやや摩滅	覆土中	

第26号住居跡（第57～59図）

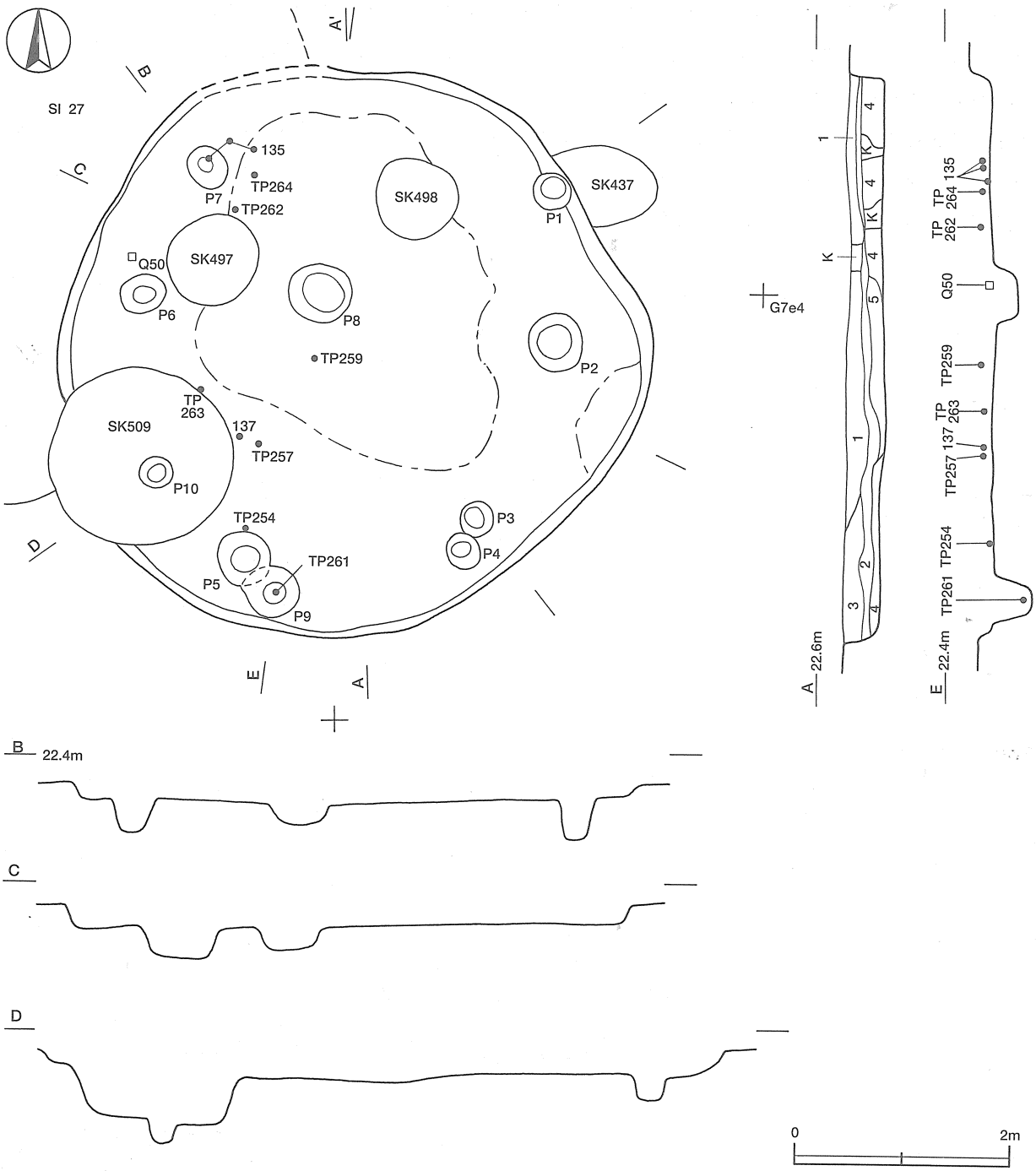
位置　調査Ⅱ区南部，Ｇ７e2区の平坦部に立地し，第27号住居跡と重複し，北西には第36号住居跡が，南には第33号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　第27号住居跡と第437・491・496号土坑を掘り込んでおり，第497・498・509号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長径5.58m，短径5.32mの円形で，長径方向はN－90°－Wである。壁高は10～22cmで，ほぼ直立する。

床　ほぼ平坦であり，中央部がやや踏み固められている。

ピット　10か所。P２・P５・P７は深さ30～39cmで，規模や配列から主柱穴と考えられ，その他のピットの性格は不明である。



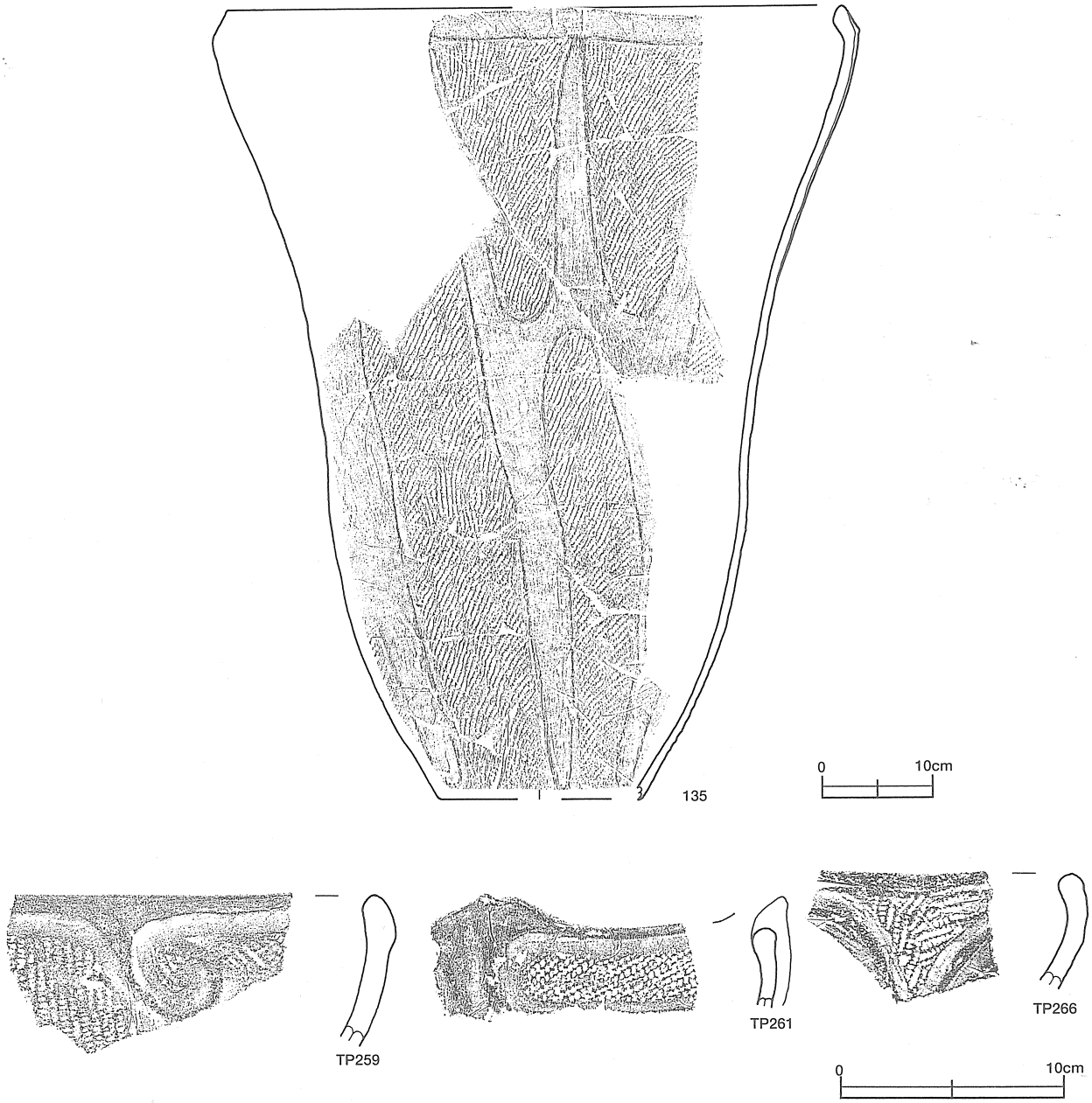
第57図　第26号住居跡実測図

覆土　5層からなり，含有物と不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

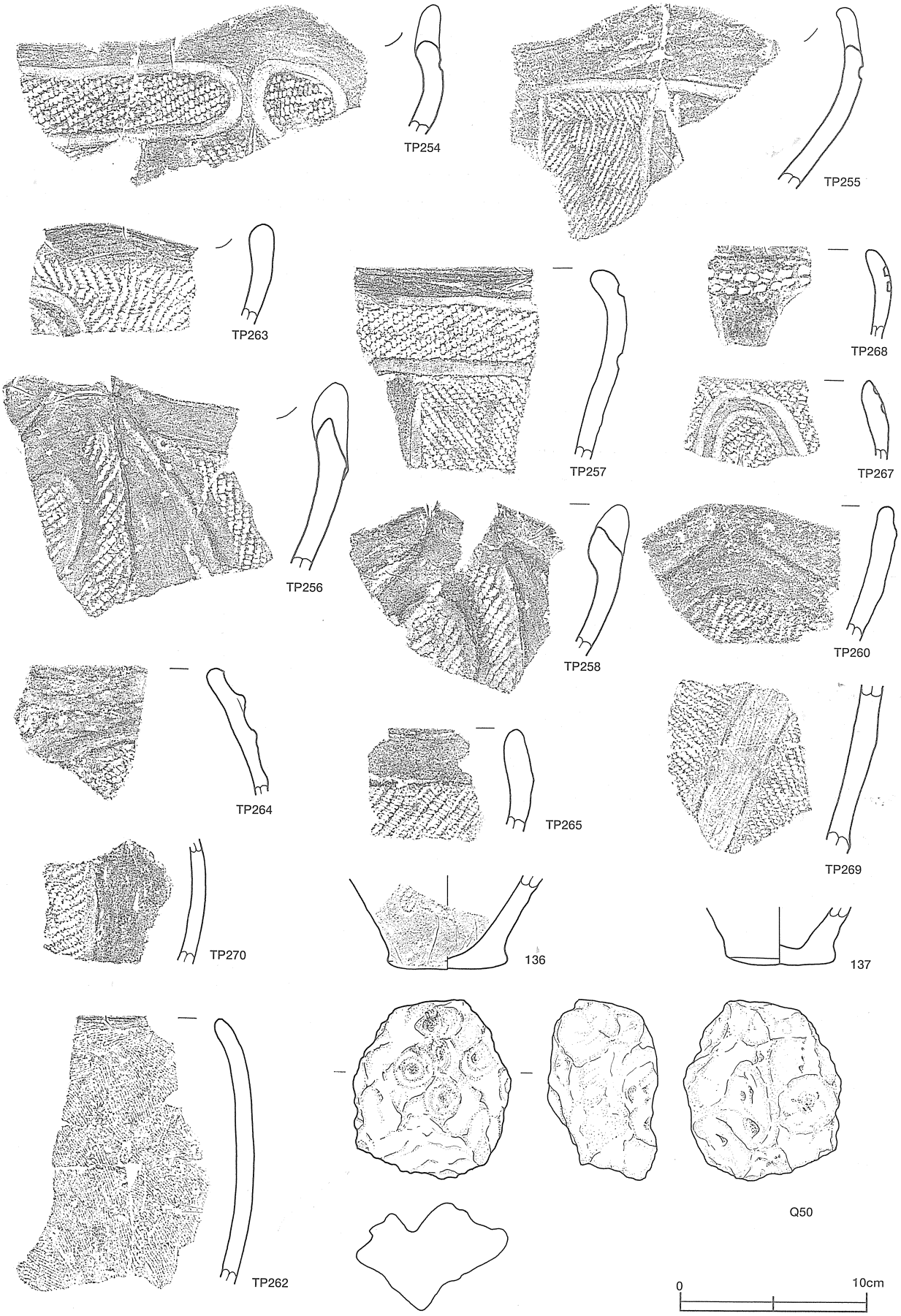
土層解説
1　黒褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化物微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物・焼土ブロック微量
3　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子中量，炭化物・焼土ブロック微量
5　黒褐色　ロームブロック・炭化物・焼土ブロック微量

遺物出土状況　縄文土器片834点（口縁部88，胴部736，底部10），凹石１点，礫６点が出土している。土器の多くは南部の黒褐色帯の土層から出土し，投棄された状況を示している。135は北西部の床面から出土した土器片が接合された資料で，本跡に伴う土器と考えられる。

所見　本跡は数基の土坑に掘り込まれているため，炉が検出されていない。また，土器はほとんどが南部の覆土上層に投棄されたものであり，加曽利EⅢ～Ⅳ式期の土器が混在しているが，主体となる土器から時期は縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。



第58図　第26号住居跡出土遺物実測図(1)



第59図　第26号住居跡出土遺物実測図(2)

第26号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
135	縄文土器	深鉢	[54.9]	72.6	[18.0]	微隆帯によってW字状の文様帯を区画し，区画文内にはＲＬの単節縄文充填	長石･雲母	普通	にぶい褐	北西部床面 ＰＬ25
136	縄文土器	深鉢	－	(5.1)	6.5	底部はＲＬの単節縄文施文，下端は無文	長石･石英･雲母	普通	明褐	覆土中
137	縄文土器	深鉢	－	(3.1)	5.9	底部片で，無文	長石･石英･赤色粒子	普通	明褐	南西部中層

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
259･261･266	縄文時代中期後葉	口縁部片で,隆帯によって文様帯を描出,259は渦巻文,261は楕円文をそれぞれ構成	259中央部中層,261P9下層,266覆土中	
254･257 263･267	縄文時代中期後葉	口縁部片で,口辺部文様帯が沈線で区画され,胴部に懸垂文帯施文	254南部床面,257･263南西部中層, 267覆土中	
255･268	縄文時代中期後葉	口縁部片で,口辺部文様帯が寡退し,胴部の区画内にはRLの単節縄文充填,268は2列の刺突文施文	覆土中	
256･258･260･264	縄文時代中期後葉	口縁部片で,口辺部に幅狭の無文帯を,微隆帯によって区画され,区画内にはRLの単節縄文充填	264北西部下層,他覆土中	ＰＬ33
265･269･270	縄文時代中期後葉	265は口縁部片で,口辺部無文帯を微隆帯で区画し,以下縄文施文,269･270は微隆帯によって文様帯を区画し,区画内には単節縄文充填	覆土中	
262	縄文時代中期後葉	口縁部から胴部片,条線文施文	北西部中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q50	凹石	(9.2)	(8.5)	6.0	(268.0)	花崗岩	凹み両面	西部床面	

第27号住居跡（第60・61図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｇ７d2区の平坦部に立地し，第26号住居跡と重複している。北西には第36号住居跡，南には第33号住居跡が位置している。

重複関係　第26号住居跡，第461・509号土坑に掘り込まれ，第３号不明遺構を掘り込んでいる。

規模と形状　南東側部分が第26号住居跡に掘り込まれているため，長径6.00mと短径は3.57mだけが検出され，長径方向はN－26°－Eの楕円形と推定される。壁高は７～10cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，炉の北部と南部が踏み固められている。

炉　長径90cm，短径60cmほどの楕円形で，中央部よりやや北西側に付設され，床面を16cmほど掘り窪めた地床炉である。炉床面は，火熱を受けて赤変している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック多量，ロームブロック・炭化物少量
2　極暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化物少量

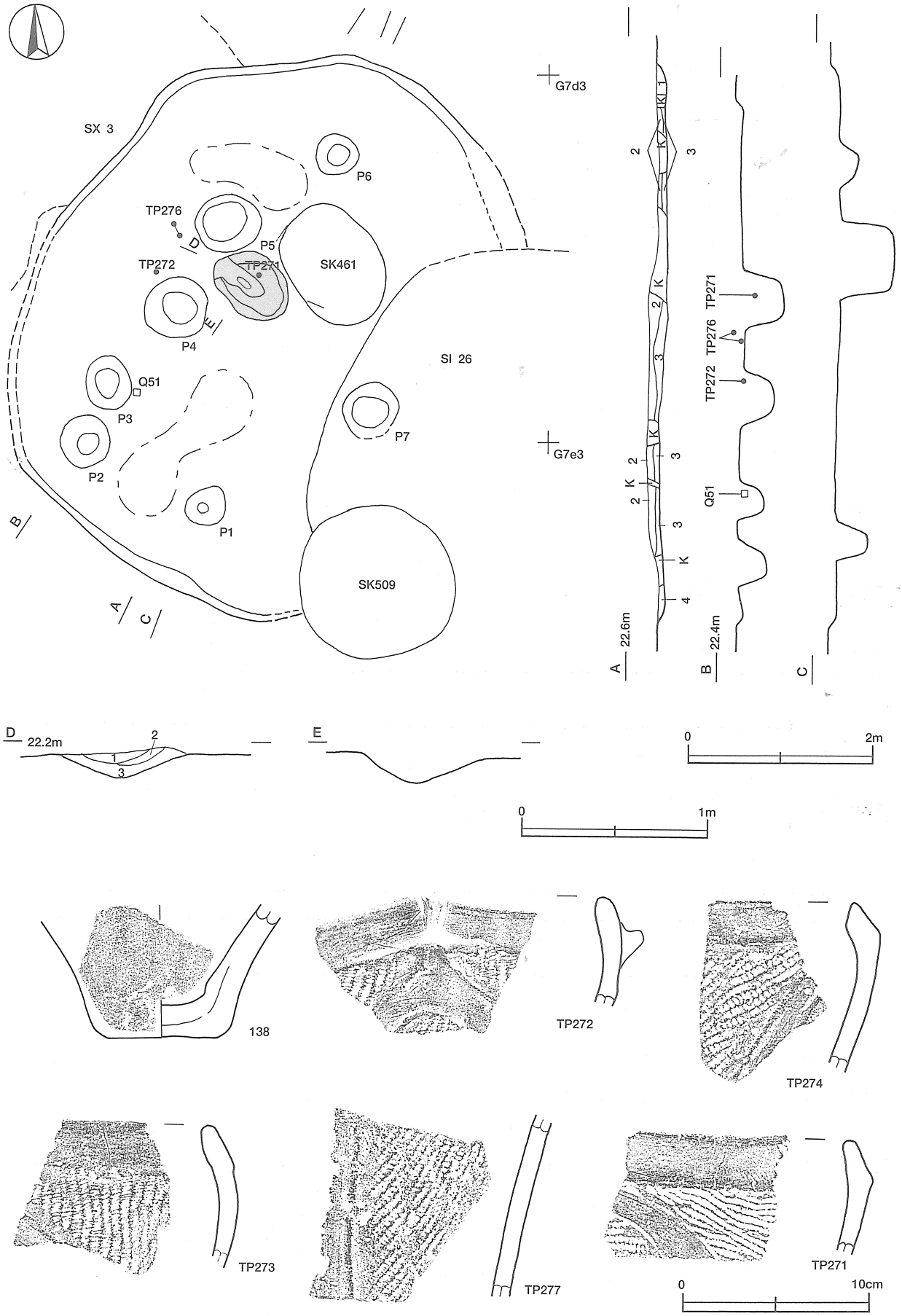
ピット　７か所。Ｐ３・Ｐ６・Ｐ７は深さ18～30cmで規模や配列から主柱穴と考えられ，その他のピットの性格は不明である。

覆土　４層からなり，自然堆積の状況を示している。

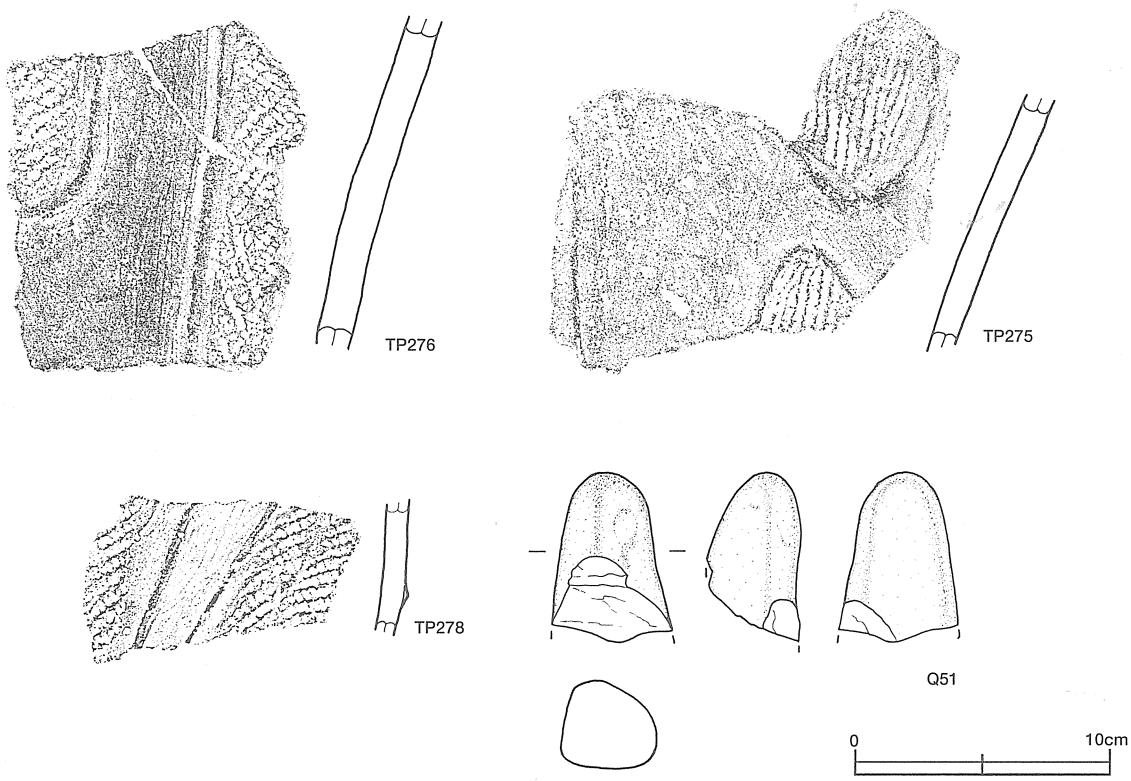
土層解説
1　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
2　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック･焼土ブロック微量　締まり有り
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片202点（口縁部13，胴部184，底部５），磨製石斧１点，礫１点，粘土塊１点が出土している。土器は中央部を中心に覆土中から出土したものがほとんどある。TP271は炉の覆土中層から出土し，また，炉西側から出土しているTP276は，床面と覆土中層出土の土器が接合された資料であり，それぞれ本跡に伴う土器と考えられる。

所見　本跡は第26号住居跡に掘り込まれて，調査された範囲は少ないが，出土土器から第26号住居跡との時期差はそれほど認められず，時期は縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。



第60図　第27号住居跡・出土遺物実測図



第61図　第27号住居跡出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
138	縄文土器	深　鉢	－	(7.2)	[6.0]	底部辺で，無文であり，若干器面荒れ	長石・石英	普通	橙	覆土中

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
272～274	縄文時代中期後葉	口縁部片で,微隆帯により文様帯を区画し,区画内に単節縄文充填	272西部床面,273・274覆土中	
271	縄文時代中期後葉	口縁部片で,口辺部を無文帯で区画し,沈線による区画内にRの無節縄文施文	炉下層	
275～278	縄文時代中期後葉	胴部片で,微隆帯によって文様帯を区画し,区画内に275～277はRLの単節縄文,278はLRの単節縄文がそれぞれ充填	276北西部床面，275・277・278覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重さ	石　材	特　徴	出土位置	備考
Q51	磨製石斧	(5.7)	(4.8)	3.5	(126.0)	安山岩(溶岩)	下部欠損	南西部床面	

第29号住居跡（第62～64図）

位置　調査Ⅱ区南部，G 6 g0区の平坦部に立地し，北西には第34号住居跡が位置し，南には第30号住居跡が隣接している。

規模と形状　長径5.30m，短径5.00mの円形で，長径方向はN－18°－Eである。壁高は16～24cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，北東部の一部が若干踏み固められている。また，中央部東側の床面直上からは炭化物・炭化材を含んだ厚さ10cmほどの土層と炉２の北側に隣接した厚さ20cmほどの焼土層が検出されている。

炭化物土層解説

1　黒　褐　色　炭化物中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　炭化物多量，ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　炭化物中量,炭化材少量,ロームブロック･焼土粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量

焼土土層解説

1　暗 褐 色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
2　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子少量
3　暗 褐 色　ロームブロック・焼土粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
5　褐　　色　ロームブロック少量
6　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
7　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

炉　2か所。炉1は長径39cm，短径32cmの楕円形で，中央部からやや北側に付設され，床面を20cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は，火熱を受けて赤変している。炉2は径75cmほどの不整円形で，炉1の南側の中央部に付設されている。また，床面を15cmほど皿状に掘り窪めた地床炉であり，炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉1土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子・炭化物微量
2　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土粒子中量
3　にぶい赤褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック中量

炉2土層解説

1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物微量
3　黒　褐　色　炭化物多量,焼土ブロック少量,ロームブロック･灰微量
4　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量,炭化物少量,ローム粒子･灰微量
5　灰　褐　色　焼土ブロック・炭化物・ロームブロック・灰微量
6　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化物・ロームブロック・灰微量
7　にぶい赤褐色　焼土ブロック・炭化物・ロームブロック・灰微量

ピット　11か所。P1・P5・P9・P11は深さ10～23cmで規模や配列から主柱穴と考えられ，その他のピットの性格は不明である。

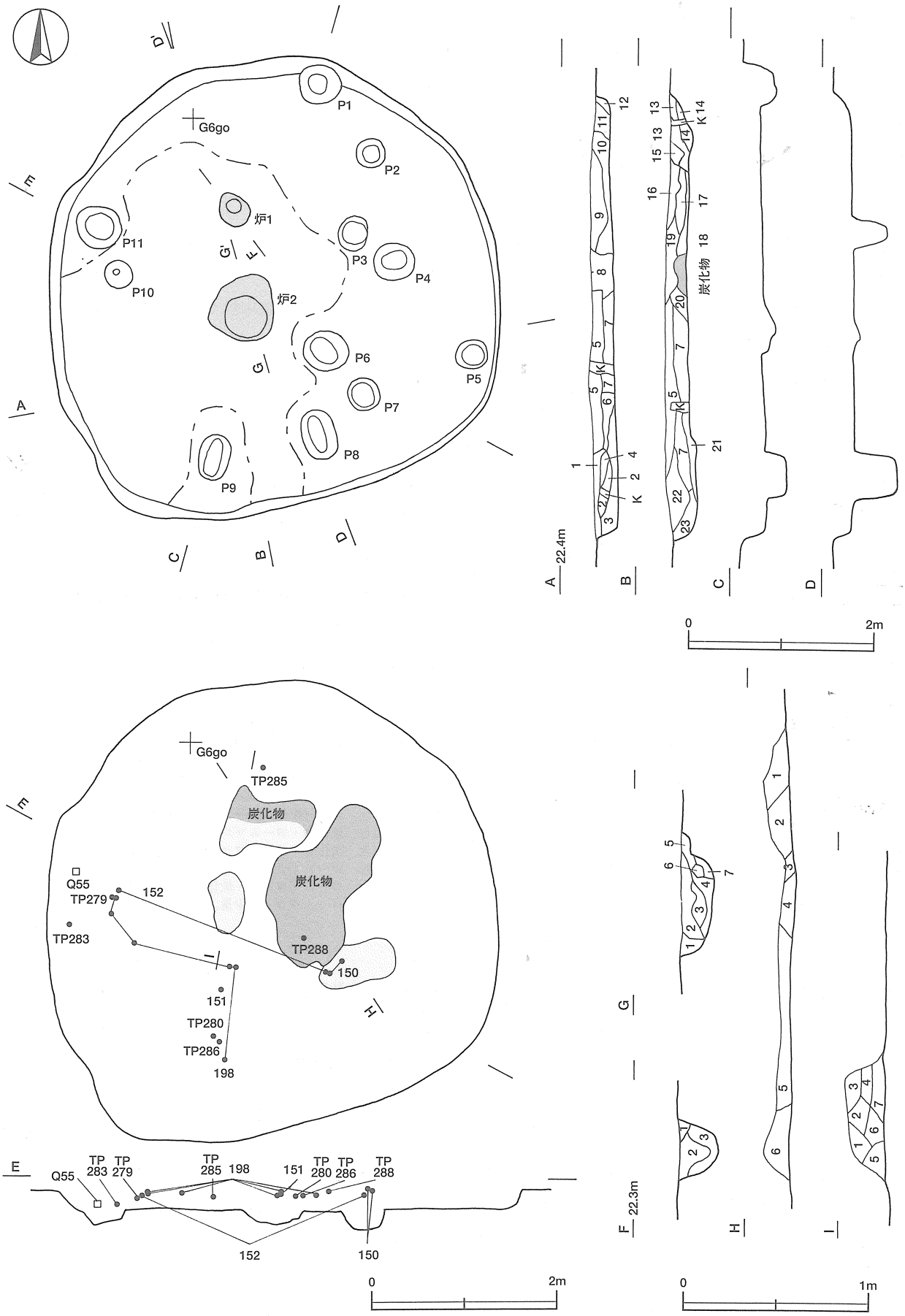
覆土　23層からなり，不連続な堆積状況と含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

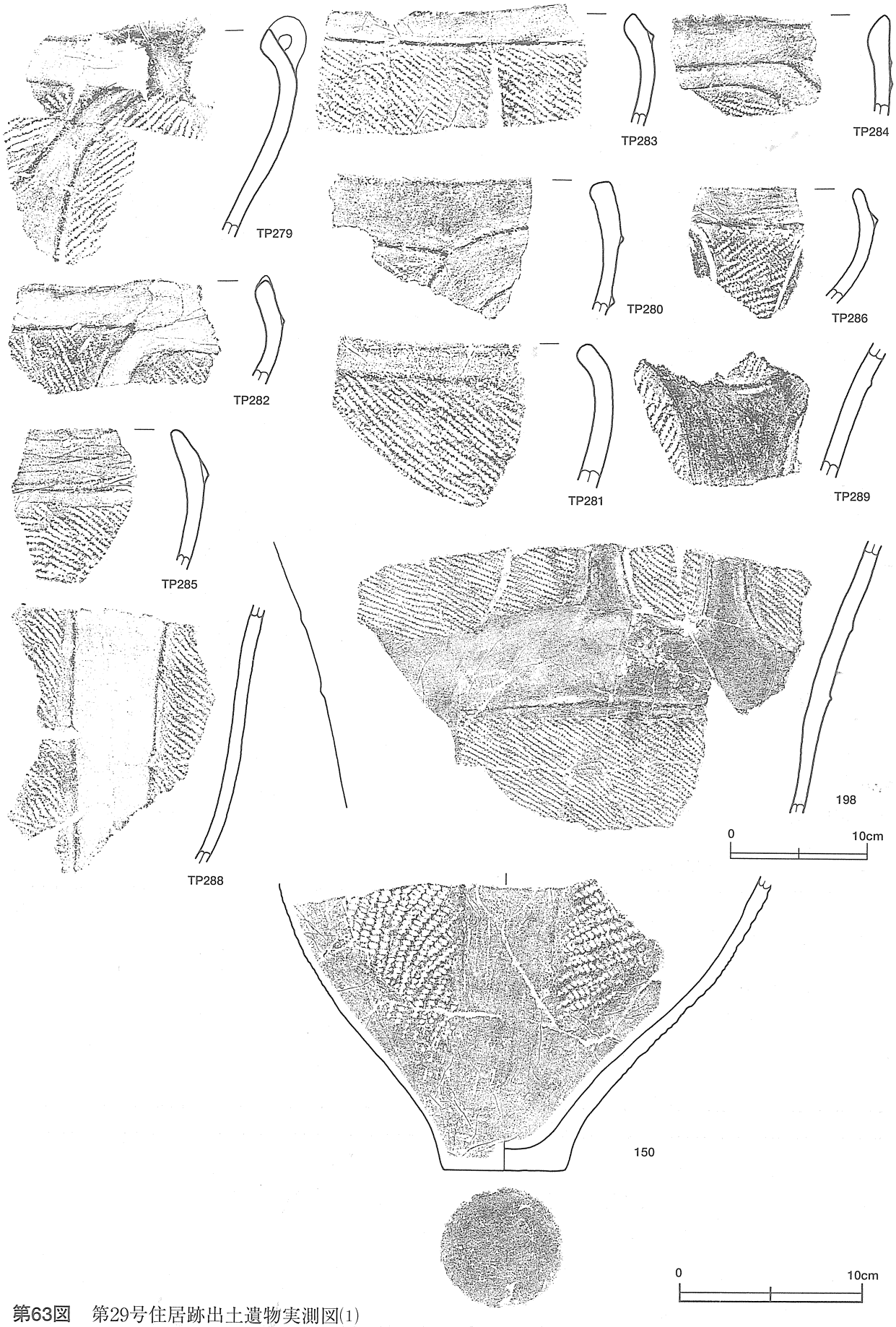
1　黒 褐 色　炭化物中量，ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2　黒 褐 色　炭化物中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒 褐 色　炭化物中量，ロームブロック・焼土ブロック微量
5　黒 褐 色　炭化物中量，ロームブロック少量，焼土ブロック微量
6　黒 褐 色　炭化物中量，ロームブロック・焼土ブロック少量
7　極暗褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
8　暗赤褐色　炭化材多量，焼土ブロック中量，ロームブロック微量
9　黒 褐 色　炭化材中量，ロームブロック少量，焼土ブロック微量
10　極暗褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
11　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
12　褐　　色　ロームブロック多量
13　褐　　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
14　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
15　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
16　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
17　黒 褐 色　炭化材多量，ロームブロック・焼土ブロック少量，
18　黒 褐 色　炭化材中量，ロームブロック少量
19　暗赤褐色　炭化物・ロームブロック少量，焼土ブロック微量
20　暗赤褐色　炭化物・焼土ブロック少量，ロームブロック微量
21　暗 褐 色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
22　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
23　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量

遺物出土状況　縄文土器片757点（口縁部87，胴部656，底部14），土製円板1点，凹石1点，礫5点が出土している。土器の多くは西部と南部の覆土中から出土し，152も西部と中央部の覆土上層から出土している接合資料であり，いずれも投棄されたものと想定される。また，床面から炭化物や焼土が出土しており，焼失家屋と考えられる。

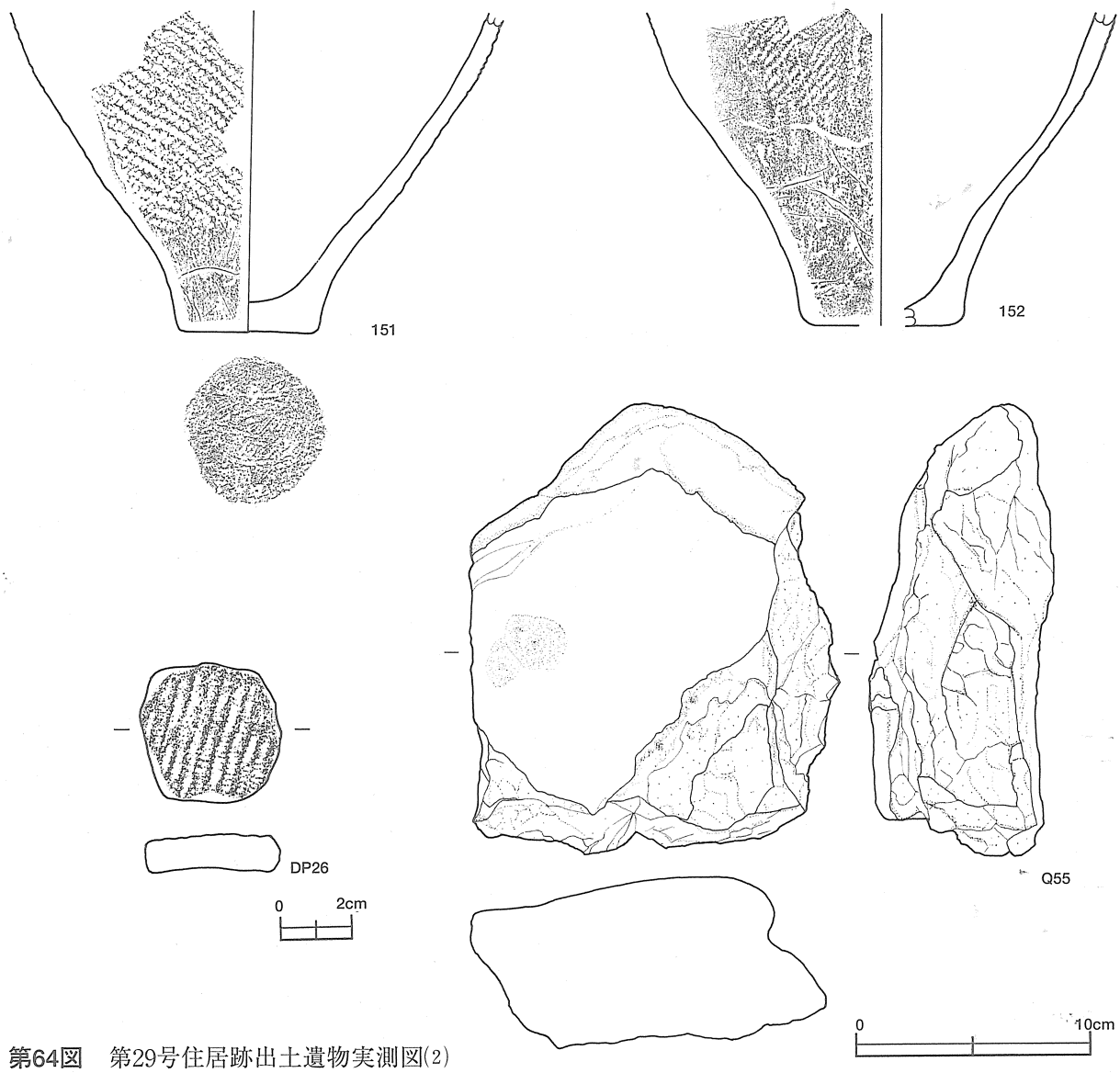
所見　本跡の遺存状態は比較的良好であり，床面から炭化物や焼土が出土している焼失家屋と考えられる。また，炉跡が2か所検出され，炉2は炉床面の状況から主体的な炉と考えられ，炉1は補助的な炉と考えられる。床面出土の土器と覆土中の土器はほぼ同時期であり，住居が焼失して後間もなく投棄されたものと想定される。時期は出土土器から縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。



第62図　第29号住居跡実測図



第63図　第29号住居跡出土遺物実測図(1)



第64図　第29号住居跡出土遺物実測図(2)

第29号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
150	縄文土器	深鉢	−	(16.2)	6.6	底部は無文で，胴部は微隆帯によって区画され，区画内にはＲＬの単節縄文充填	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	中央部上層 PL26
151	縄文土器	深鉢	−	(13.9)	6.2	底部は無文で，胴部はＬＲの単節縄文施文	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	中央部上層 PL25
152	縄文土器	深鉢	−	(13.5)	[6.0]	底部は無文で，胴部は微隆帯によって区画され，区画内にはＲＬの単節縄文充填	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	中央部・西部上層 PL25
198	縄文土器	深鉢	−	(19.8)	−	胴部は微隆帯によって区画され，区画内にはＲＬの単節縄文充填	長石・石英・雲母	普通	橙	中央部・南部・西部上層 PL25

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
279・280・282・284	縄文時代中期後葉	279は口縁部片で,口縁部に橋状把手を有して微隆帯によって文様帯を区画し,区画内にRLの単節縄文充填,280・282・284も口縁部片で,微隆帯によって文様帯を区画し,区画内に280はRLの単節縄文,282・284はLRの単節縄文充填	279西部・280南部上層,他覆土中層	
286	縄文時代中期後葉	口縁部片で,口辺部無文帯を区画し,沈線によって文様帯を描出し,区画内に単節縄文施文	南部上層	
281・283・285・288・289	縄文時代中期後葉	281・283・285は口縁部片で,口辺部無文帯を区画し,胴部に単節縄文施文,288・289は胴部片で,微隆帯によって文様帯を区画し,単節縄文充填	283西部・285北部中層,288中央部上層,281・289覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重さ	材　質	特　徴	出土位置	備考
DP26	土 器 円 板	3.9	4.1	1.0	20.0	土製	周縁部は雑な研磨	覆土中	P L 37

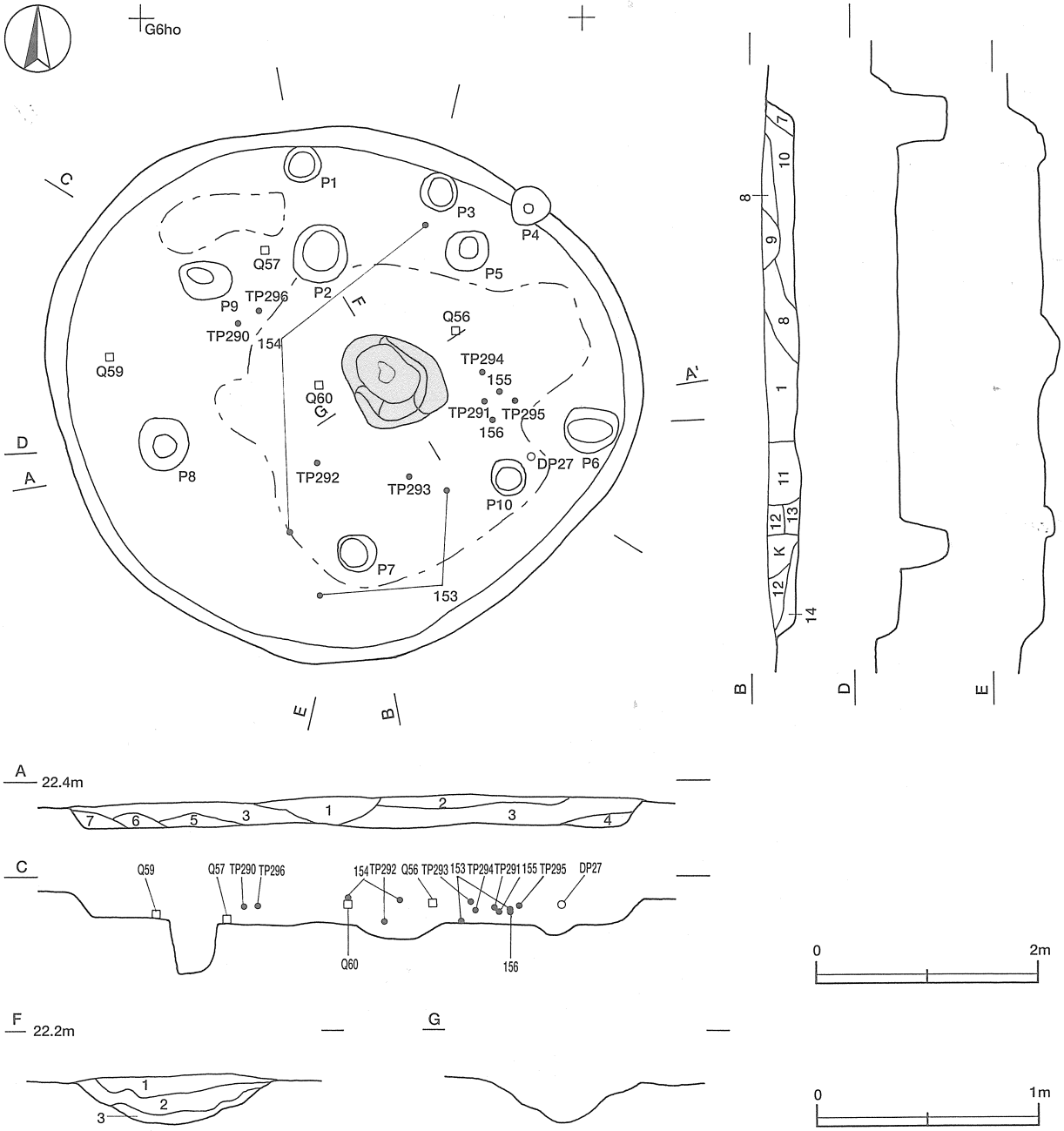
番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重さ	石　材	特　徴	出土位置	備考
Q55	凹　　石	(18.9)	(15.3)	(7.6)	(3,150.0)	角閃岩	凹み表面	西部中層	

第30号住居跡（第65～68図）

位置　調査Ⅱ区南部，G 6 h0区の平坦部に立地し，北には第29号住居跡，東には第28号住居跡が隣接している。

規模と形状　長径5.38m，短径4.88mの楕円形で，長径方向はN－75°－Wである。壁高は17～22cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦であり，炉周辺が踏み固められている。



第65図　第30号住居跡実測図

炉　長径100cm，短径84cmほどの楕円形で，中央部のやや東寄りに付設され，床面を19cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は，火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，ロームブロック・炭化物・灰微量
3　赤　褐　色　焼土ブロック多量，灰少量，ロームブロック・炭化物微量

ピット　10か所。P２・P５・P７～P10は深さ11～49cmで規模や配列から主柱穴と考えられ，その他のピットの性格は不明である。

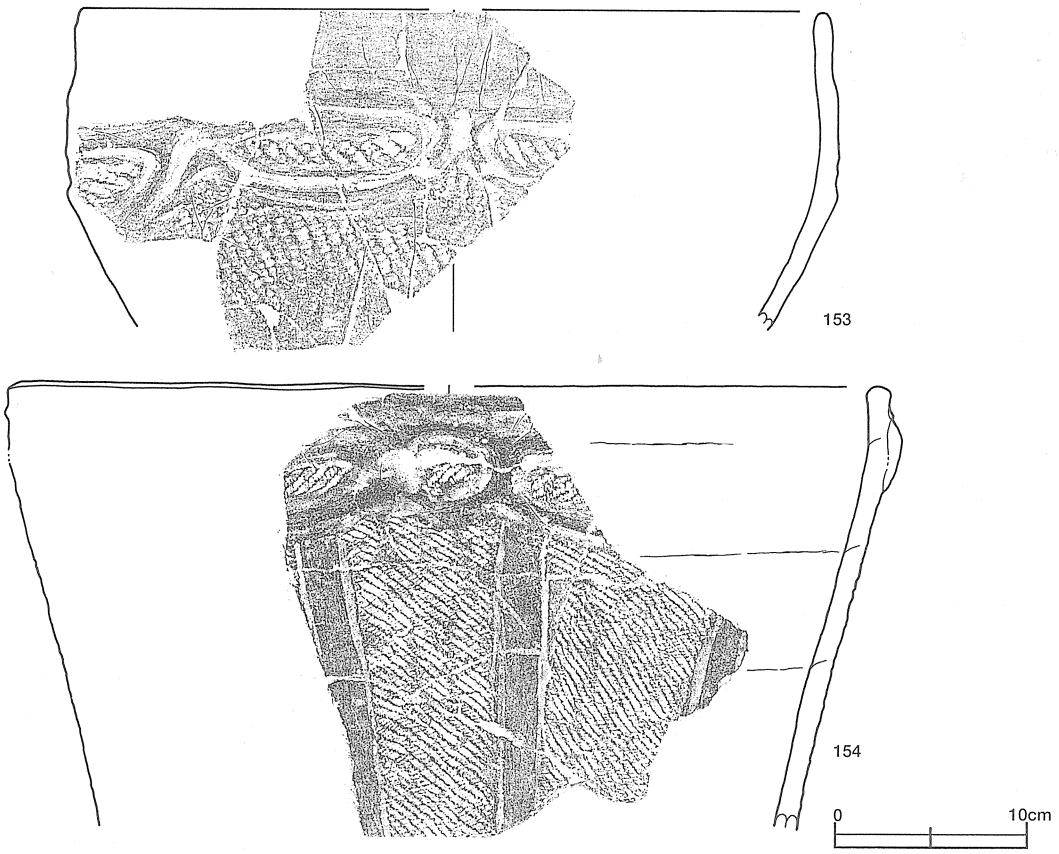
覆土　14層からなり，含有物や不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

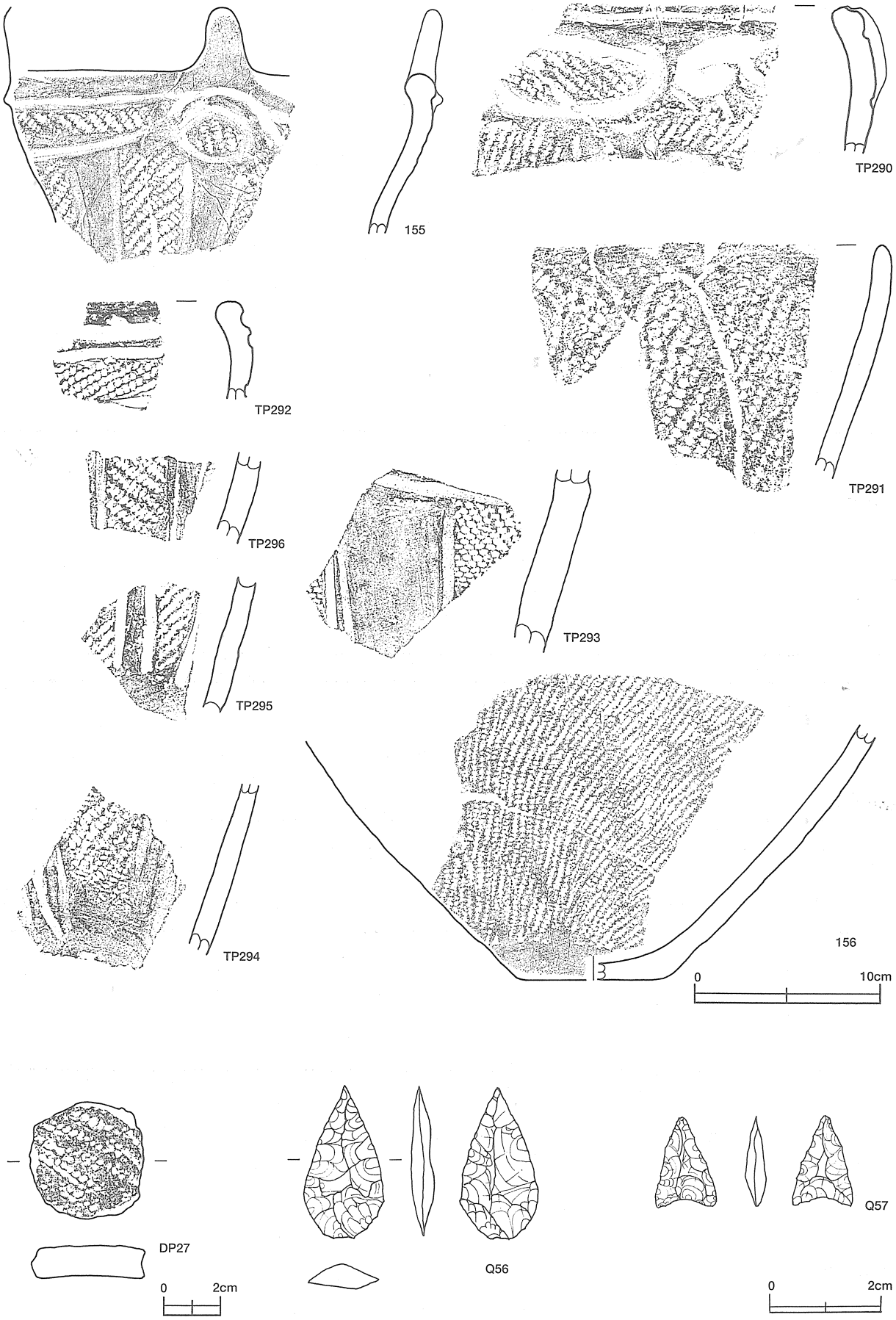
1　暗 褐 色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物少量
2　褐　　色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　褐　　色　ロームブロック多量
4　褐　　色　ロームブロック多量，ローム粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック中量
6　褐　　色　ロームブロック中量，ローム粒子微量
7　明 褐 色　ロームブロック多量
8　褐　　色　ロームブロック中量
9　極暗褐色　ロームブロック中量
10　褐　　色　ロームブロック中量，ローム粒子微量
11　暗 褐 色　ロームブロック中量
12　褐　　色　ロームブロック多量，炭化物微量
13　褐　　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
14　褐　　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　縄文土器片699点（口縁部88，胴部592，底部19），土製円板１点，石鏃２点，磨製石斧１点，敲石１点，凹石１点，礫25点が出土している。土器の多くは中央部の覆土中から出土しており，投棄された状況を示している。また，153は南部の床面と東部の覆土中層出土の土器が接合された資料であり，本跡に伴う土器と考えられる。

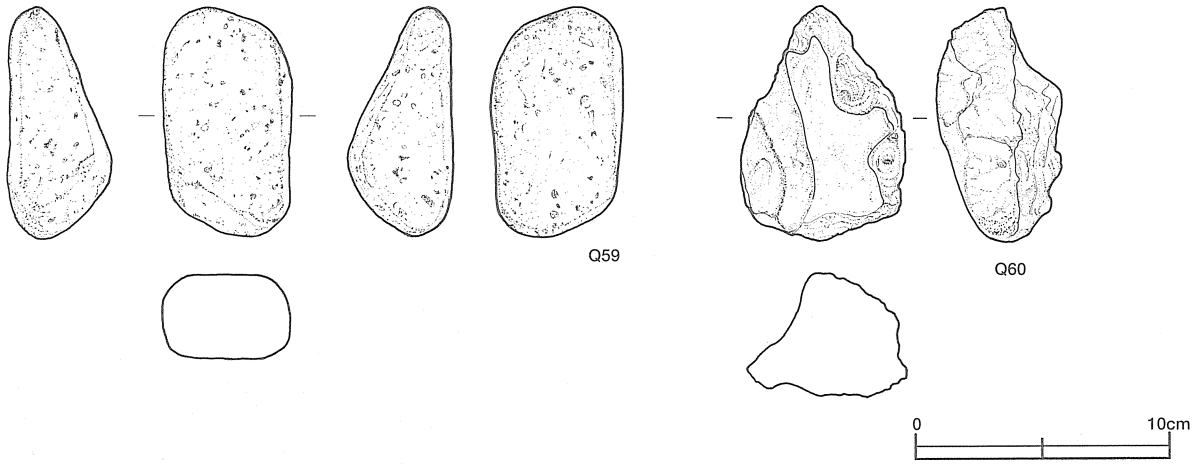
所見　本跡の遺存状態は比較的良好で，床面と覆土中の土器にあまり時期差は認められず，住居廃絶後間もなく投棄されたものと想定される。時期は出土土器から縄文時代中期後葉（加曽利EⅡ～Ⅲ式期）と考えられる。



第66図　第30号住居跡出土遺物実測図(1)



第67図　第30号住居跡出土遺物実測図(2)



第68図　第30号住居跡出土遺物実測図(3)

第30号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
153	縄文土器	深鉢	[39.0]	(16.9)	－	口辺部は無文帯で，胴上部に隆帯による楕円区画がなされＬＲの単節縄文施文	長石･石英･赤色粒子	普通	にぶい橙	南部床面・中央部床面 ＰＬ26
154	縄文土器	深鉢	[45.0]	(23.6)	－	口辺部は隆帯によって楕円区画文が施文され，胴部の懸垂文帯にはＬＲの単節縄文施文	長石･石英･雲母	普通	にぶい橙	北部・南部上層 ＰＬ26
155	縄文土器	深鉢	－	(12.0)	－	口縁部は隆帯と沈線によって区画され，胴部は懸垂文帯にＬＲの単節縄文施文	長石･白色粒子	普通	にぶい黄褐	東部中層 ＰＬ26
156	縄文土器	深鉢	－	(13.6)	[8.1]	底部片で，胴部にはＲＬの単節縄文施文	長石･石英･雲母	普通	にぶい黄橙	東部中層 ＰＬ26

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
290･292	縄文時代中期後葉	口縁部片で,290は隆帯によって楕円区画文や渦巻文を有し,RLの単節縄文施文。292は隆帯に沿って沈線区画し,区画内にLRの単節縄文充填。	290中央部中層，292中央部床面	ＰＬ33
291･293～296	縄文時代中期後葉	291は口縁部片で,RLの単節縄文地に沈線によって文様を描出。293～296は胴部片で,懸垂文帯に293はLRの単節縄文,294～296はRLの単節縄文施文。	中央部291・294・296中層，293上層，295東部上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
DP27	土器円板	4.2	4.1	1.1	28.0	土製	周縁部雑な研磨	東部上層	

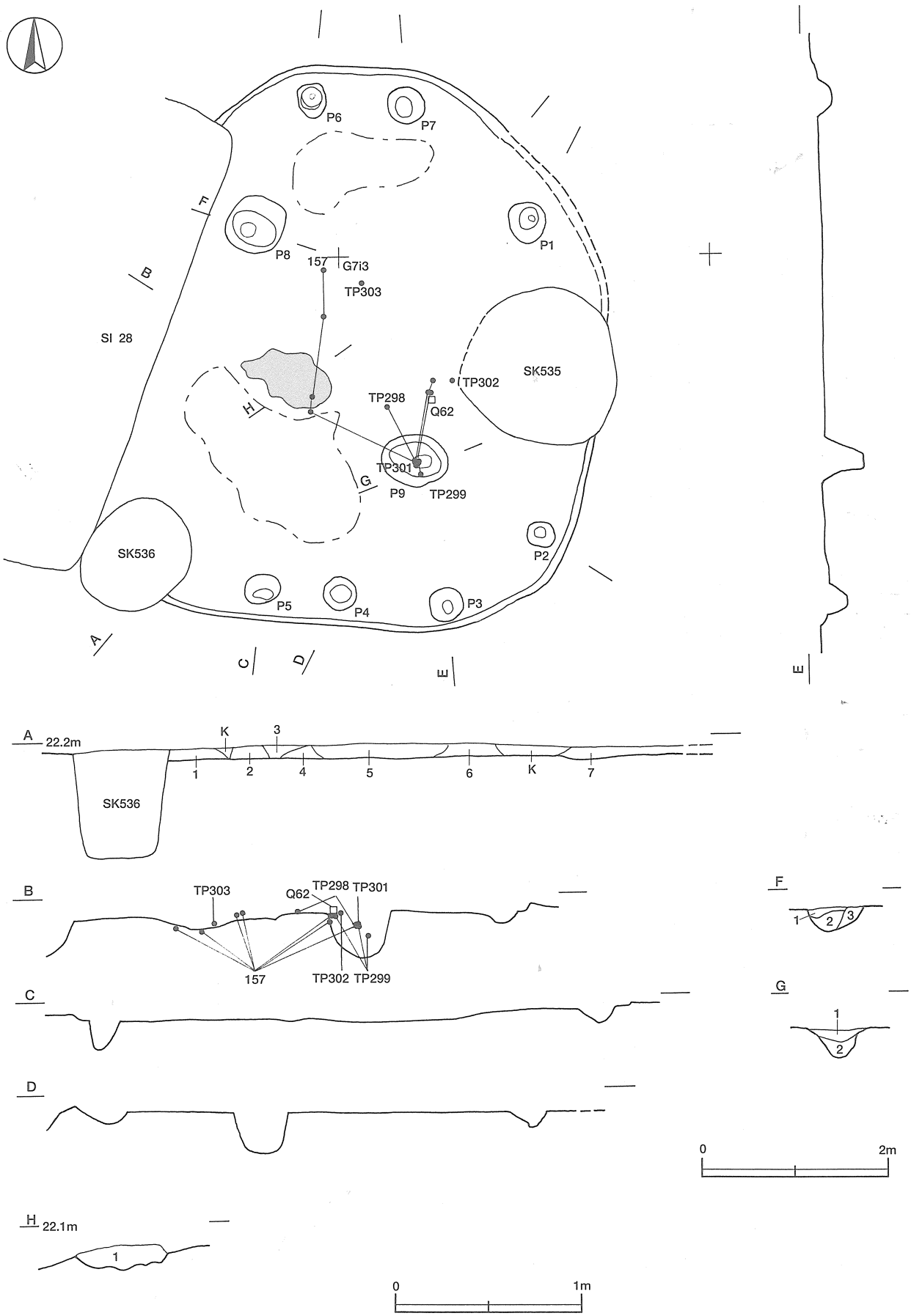
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q56	石鏃	2.8	1.4	0.4	1.3	チャート	尖頭器型	中央部上層	ＰＬ38
Q57	石鏃	1.6	1.1	0.4	0.5	チャート	無茎鏃	北部床面	
Q59	敲石	9.1	5.2	4.1	266.0	安山岩	両端部に打撃痕有り	西部床面	
Q60	凹石	(9.3)	(6.6)	(5.0)	(171.0)	安山岩	凹み片面	中央部上層	

第31号住居跡（第69～71図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｇ７i3区の平坦部に立地し，第28号住居跡と重複している。北には第33号住居跡，南には第35号住居跡が隣接している。

重複関係　第28号住居跡，第535・536号土坑に掘り込まれており，第428号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　第28号住居跡に西部を掘り込まれており，検出されたのは長径6.22mと短径4.76mの楕円形と考えられ，長径方向はN－20°－Eである。壁高は４～10cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。



第69図　第31号住居跡実測図

床　ほぼ平坦であり，炉の南側がよく踏み固められている。炉の下には第428号土坑があり，土坑の覆土上層を固めて床面を構築している。

炉　長径100cm，短径60cmほどの不整形で，中央部に付設され，床面を12cmほど皿状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は，火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化物中量

ピット　9か所。P8・P9は深さ34～38cmで規模や配列から主柱穴と考えられ，P1～P7は深さ12～32cmで壁際に配列されていることから壁柱穴と考えられる。

P8土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量
2　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量　締まり有り
3　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

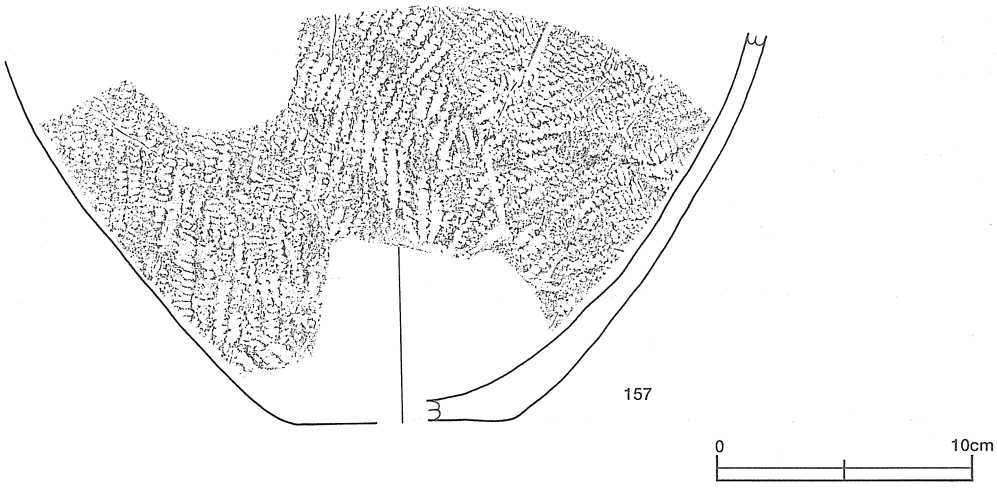
P9土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量

覆土　7層からなり，不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
3　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
4　極暗赤褐色　焼土ブロック多量，ロームブロック・炭化物微量
5　極暗赤褐色　炭化物中量，焼土ブロック・ロームブロック微量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック少量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片433点（口縁部64，胴部365，底部4），土器片錘1点，石鏃1点，剥片1点，石槌状石器1点が出土している。土器片の多くは，中央部の床面から出土している。157は炉の直上から出土し，P9の覆土中や中央部の床面から出土した土器が接合されていた資料であり，本跡に伴う土器と考えられる。

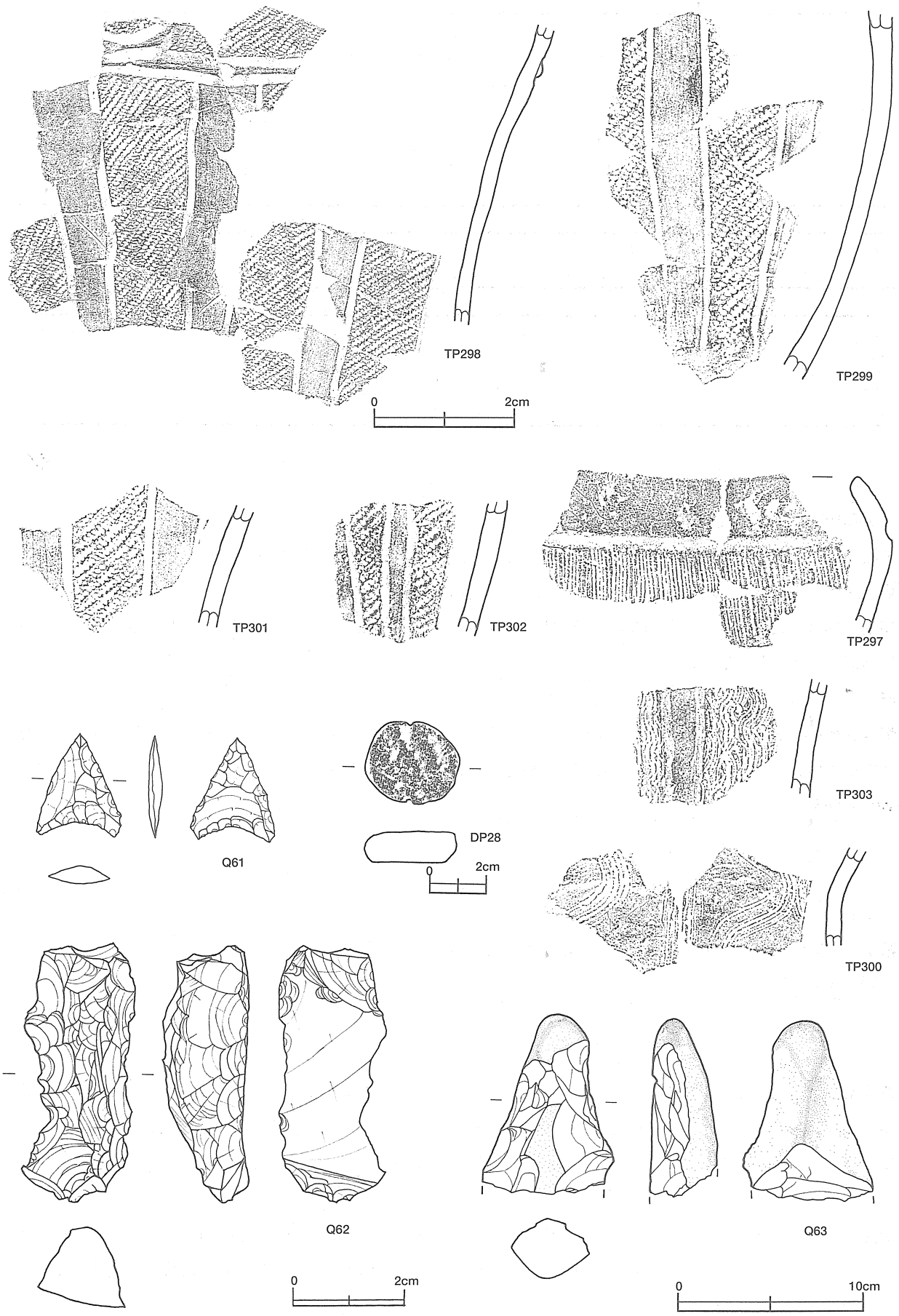
所見　本跡は西部を第28号住居跡に，東部及び南部を第535号・536号土坑にそれぞれ掘り込まれ，また，硬化面の範囲も狭く遺構の遺存状況はあまり良くないが，出土土器から時期は縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。



第70図　第31号住居跡出土遺物実測図(1)

第31号住居跡出土遺物観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
157	縄文土器	深　鉢	－	(15.0)	［9.0］	底部片で，胴部にはRLの単節縄文施文	長石･石英･赤色粒子	普通	にぶい橙	中央部床面 PL26



第71図　第31号住居跡出土遺物実測図(2)

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
298･299	縄文時代中期後葉	298は頸部から胴部片で,懸垂文帯にRLの単節縄文施文,口辺部も沈線によって文様帯区画,299は胴部片で,懸垂文帯にRLの単節縄文を施文	298中央部床面・P9上層，299P9上層・中層	
301･302	縄文時代中期後葉	胴部片で,懸垂文帯にRLの単節縄文施文	301P9中層，302中央部床面	
297	縄文時代中期後葉	口縁部片で,口辺部は横位の沈線で区画し,胴部に縦位の条線文施文	覆土中	
300･303	縄文時代中期後葉	胴部片で,いずれも条線文が見られ300は波状,303は懸垂文帯に波状の条線文施文	303中央部床面，300覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重さ	材　質	特　徴	出土位置	備考
DP28	土器片錘	3.0	3.4	1.2	13.0	土製	短軸両端に抉り入り部作出，周辺部研磨	覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重さ	石　材	特　徴	出土位置	備考
Q61	石　鏃	2.0	1.6	0.3	0.6	安山岩	無茎鏃	覆土中	ＰＬ38
Q62	剝　片	4.6	2.0	1.6	13.0	黒曜石	舟底型石核状	中央部床面	
Q63	石槌状石器	(9.7)	(7.1)	(3.2)	(214.0)	安山岩	下部欠損	覆土中	ＰＬ39

第32号住居跡（第72図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｈ６b0区の緩斜面部に立地し，北東には第35号住居跡が隣接している。

重複関係　第460号土坑を掘り込んでおり，第473号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長径4.81m，短径4.32mの楕円形で，長径方向はN－22°－Wである。壁高は11cmほどで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床　平坦であり，ほとんど硬化面は認められない。

炉　長径84cm，短径35cmほどの楕円形で，中央部から西寄りに付設され，床面を13cmほどⅢ状に掘り窪めた地床炉である。炉床面は，火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
4　にぶい赤褐色　ロームブロック・焼土粒子中量，炭化物微量
5　暗赤褐色　ロームブロック・焼土粒子中量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

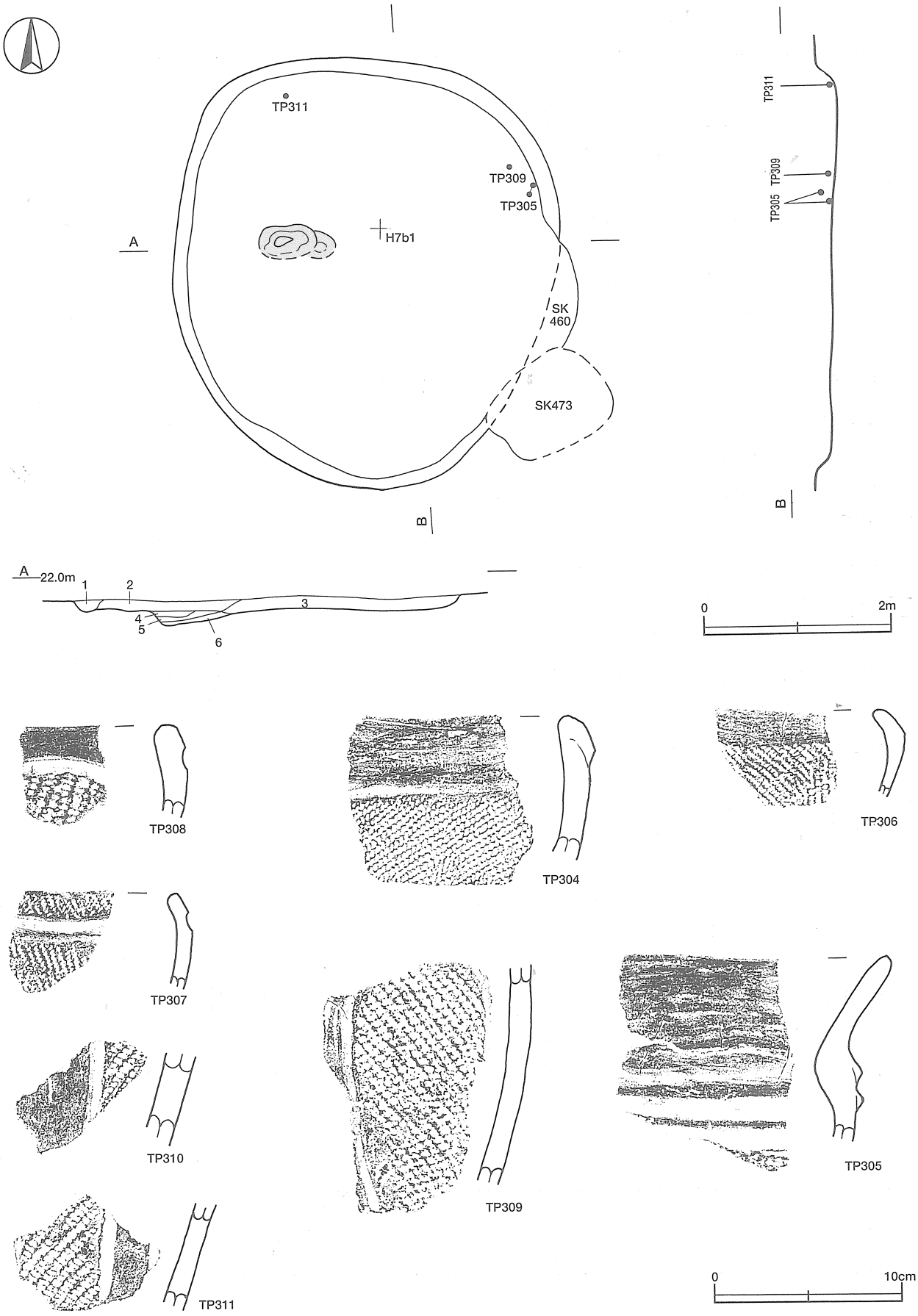
ピット　検出されなかった。

覆土　３層からなり，含有物や不連続な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化物少量
3　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片276点（口縁部46，胴部223，底部7），土師器片５点，礫３点が出土している。土師器片は混入である。出土土器は細片で，東部の覆土中から出土しているものが多く，時期的には加曽利EⅢ式期を中心としたものである。拓影図で取り上げた土器は床面から出土した土器で，本跡に伴うものと考えられる。

所見　東部は第460号土坑を掘り込こんで構築しているが遺存状況は悪く，床面も軟弱である。また，柱穴は床面からは検出されず，壁外の可能性が想定されたがいずれも不明である。時期は縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。



第72図　第32号住居跡・出土遺物実測図

第32号住居跡出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
305･308	縄文時代中期後葉	口縁部片で,口辺部に無文帯を有し,頸部に沈線によって文様帯を描出し,以下単節縄文施文	305東部中層，308覆土中	
304･306	縄文時代中期後葉	口縁部片で,口辺部の無文帯を微隆帯で区画し,以下単節縄文施文	覆土中	
307	縄文時代中期後葉	口縁部片で,RLの単節縄文を地文に横位の沈線施文	覆土中	
309～311	縄文時代中期後葉	胴部片で,懸垂文帯に単節縄文施文	309東部中層，311北部床面，310覆土中	

第33号住居跡（第73図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｇ７g3区の平坦部に立地し，北には第26号住居跡が位置し，南には第31号住居跡が隣接している。

重複関係　第551・553・554・555・557・558・560・603号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長径5.22m，短径4.86mの円形で，長径方向はN－65°－Wである。壁高は５～12cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床　平坦であり，ほとんど硬化面は認められない。

炉　長径65cm，短径45cmほどの楕円形で，中央部に付設され，床面を５cmほど掘り窪めた地床炉である。炉床面は，火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量
2　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化物微量

ピット　９か所。Ｐ１・Ｐ２，Ｐ６～Ｐ９は深さ10～20cmで，規模や配列から主柱穴と考えられ，その他のピットの性格は不明である。

覆土　18層からなり，含有物と不連続な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

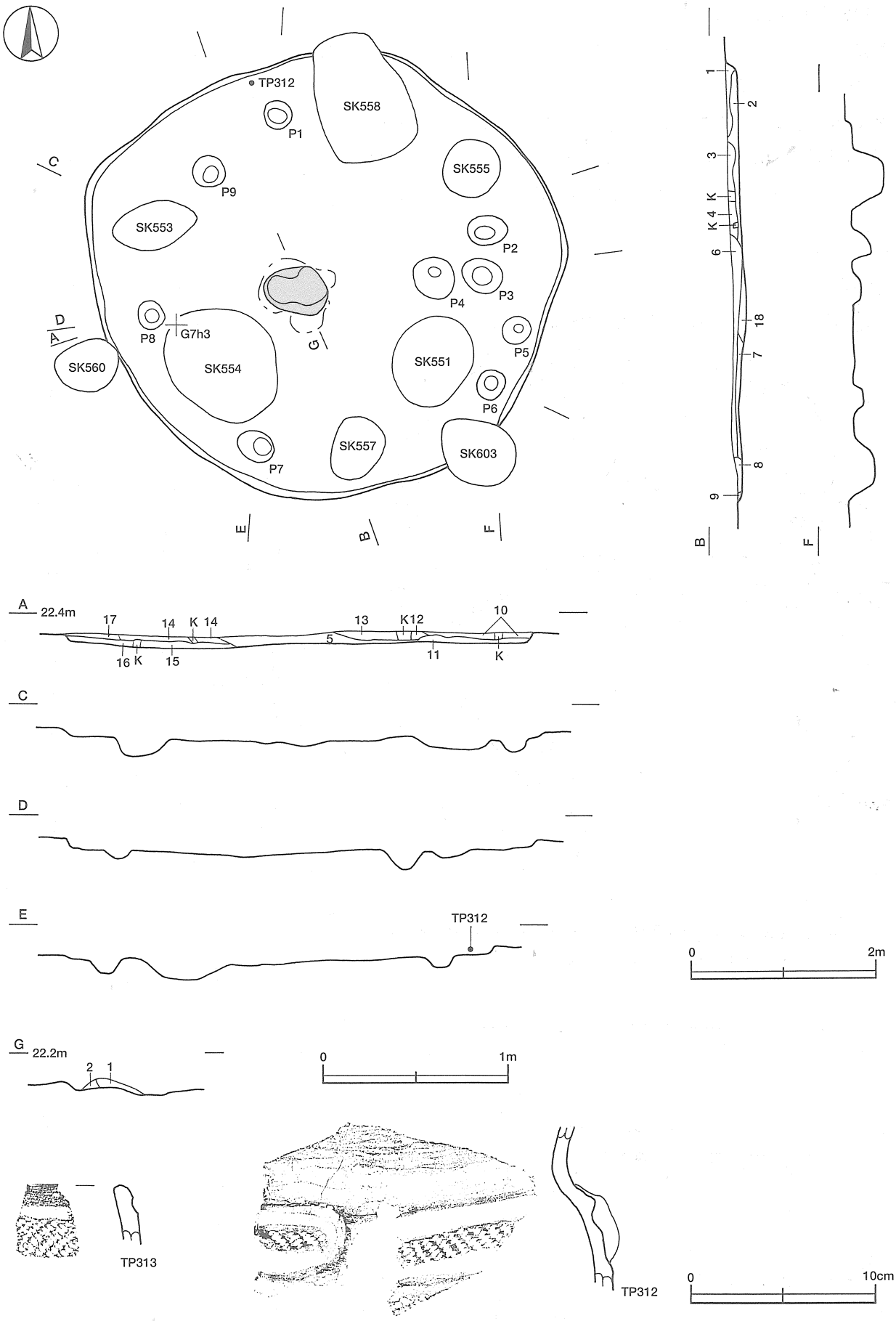
土層解説
1　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量
1　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　暗赤褐色　ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化物微量
6　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
7　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
8　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック微量
9　褐　色　ロームブロック中量
10　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量
11　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
12　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量，炭化粒子微量
13　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量
14　暗褐色　ロームブロック中量，炭化物微量
15　暗褐色　ロームブロック中量，ローム粒子・炭化物微量
16　極暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
17　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量
18　暗赤褐色　ロームブロック・焼土粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片87点（口縁部４，胴部82，底部１）が散在した状態で覆土中から出土している。TP312はＰ１の北西床面から出土しており，本跡に伴うものである。

所見　本跡は多くの土坑に掘り込まれているため，検出された範囲は狭く遺存状況は不良であり，時期は縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅢ式期）と考えられる。

第33号住居跡出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
312･313	縄文時代中期後葉	313は口縁部片で，口辺部文様帯を区画，312は胴部片で，胴上部に沈線による文様帯を区画し，区画内に単節縄文充填	312北部中層，313覆土中	



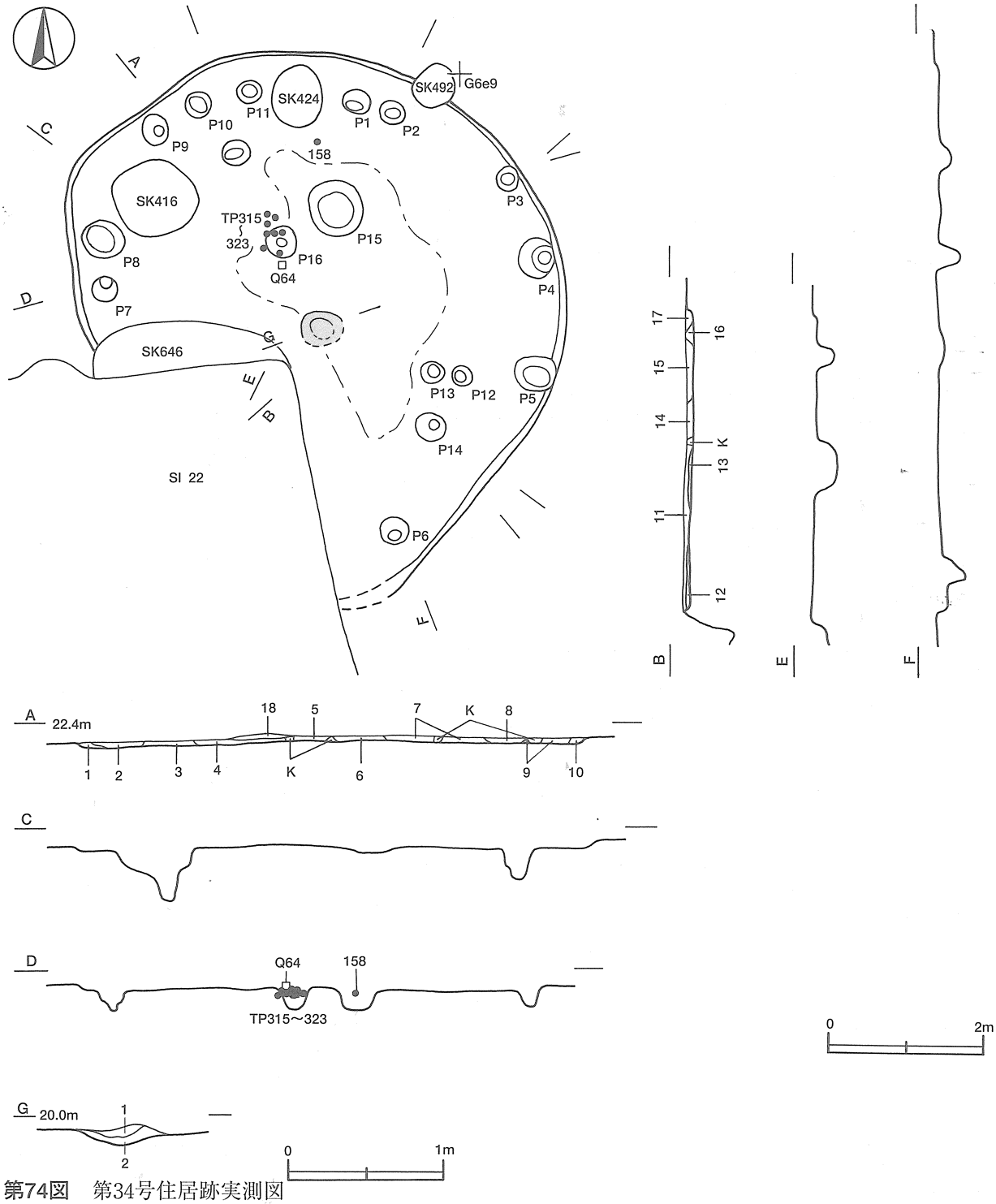
第73図　第33号住居跡・出土遺物実測図

第34号住居跡（第74・75図）

位置　調査Ⅱ区南部，G 6 e8区の平坦部に立地し，第22号住居跡と重複している。北東には第36号住居跡，南東には第29号住居跡が位置している。

重複関係　第22号住居跡と第416・424・492・646号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　南西部は第22号住居跡と第646号土坑に掘り込まれており，検出されたのは長径6.52m，短径3.85mだけで楕円形と推定され，長径方向はN－38°－Wである。壁高は5cmほどで，緩やかに外傾して立ち上がる。



第74図　第34号住居跡実測図

床　平坦であり，炉の北側がやや踏み固められている。

炉　炉の南部が撹乱を受けているため，検出されたのは長径55cm，短径45cmほどの楕円形と推定され，中央部に付設されている。床面を８cmほど掘り窪めた地床炉であり，炉床面は，火熱を受けて赤変している。

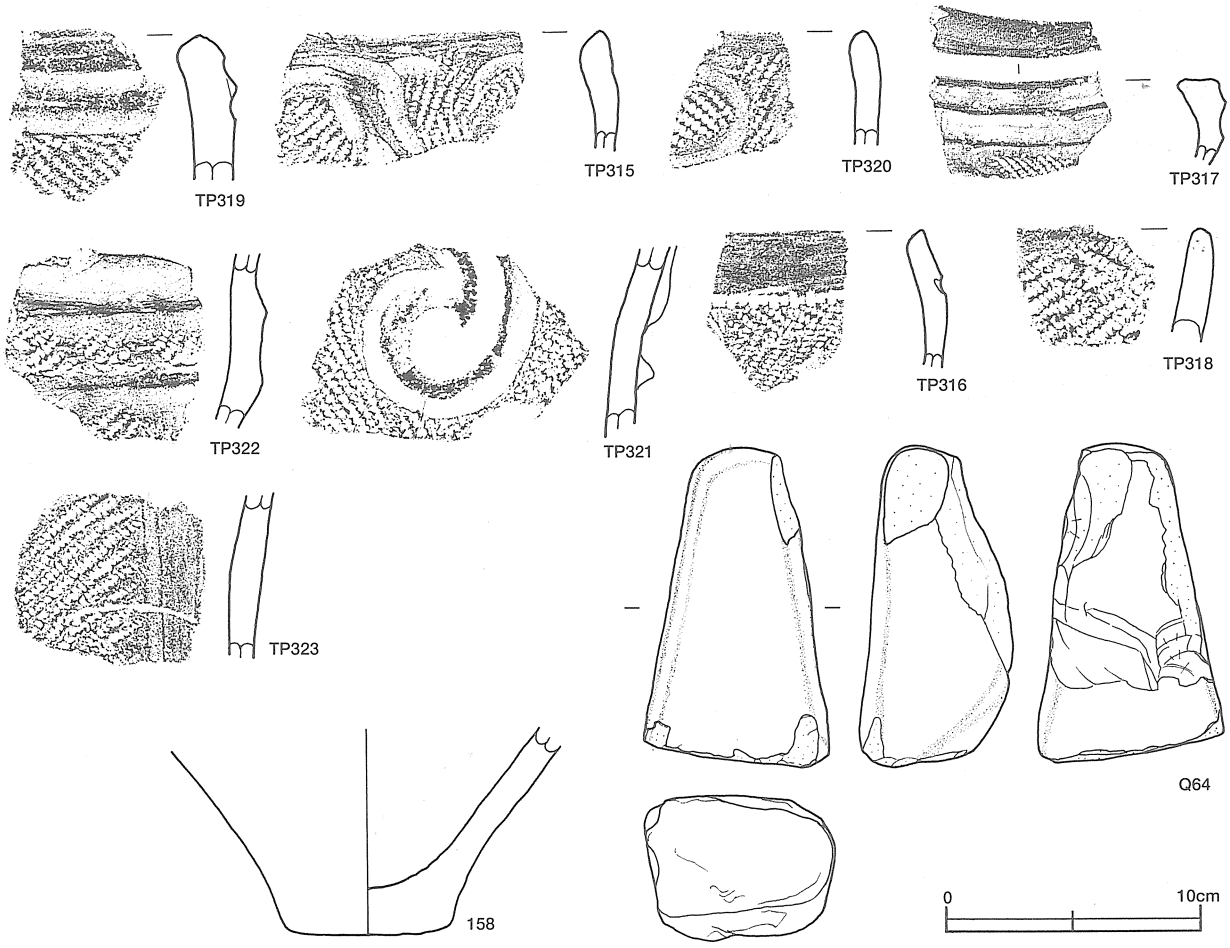
炉土層解説
1　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化粒子微量

ピット　16か所。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ５・Ｐ６・Ｐ８・P10は深さ20～32cmで，規模や配列から主柱穴と考えられ，その他のピットの性格は不明である。

覆土　18層からなり，含有物や不連続な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
6　にぶい褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック，炭化物微量
7　極 暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
9　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
10　暗　褐　色　ロームブロック中量，ローム粒子・炭化物微量
11　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
12　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
13　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
14　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
15　極 暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
16　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
17　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
18　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量

遺物出土状況　縄文土器片81点（口縁部15，胴部61，底部５）が出土している。TP315～323を含め，縄文土器片の多くはP16の上層から出土し，投棄されたものと想定される。時期的には加曽利EⅢ式期を中心としたものである。158はP15の北側床面から出土し，本跡に伴うものと考えられる。



第75図　第34号住居跡出土遺物実測図

所見　本跡は古墳時代の住居跡や土坑に掘り込まれており，遺存状況は比較的良くない。また，炉は炉床面の状況から，使用頻度は少なかったと想定される。時期は出土土器から縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第34号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
158	縄文土器	深鉢	－	(8.2)	6.7	底部片で，無文	長石・石英	普通	にぶい橙	北部床面

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
317・319	縄文時代中期後葉	口縁部片で,横位の隆帯に沿う沈線によって区画され,単節縄文施文	中央部床面	
315・320	縄文時代中期後葉	口縁部片で,沈線によって文様帯を描出し,RLの単節縄文施文	中央部床面	
316・318	縄文時代中期後葉	口縁部片で,316は口辺部に刺突文を配し,胴部はRLの単節縄文が羽状に施文	中央部床面	
321・322	縄文時代中期後葉	胴部片で,322は隆帯によって文様帯を区画し,区画内にRLの単節縄文充填,321は隆帯と沈線によって渦巻文を施文しLRの単節縄文施文	中央部床面	
323	縄文時代中期後葉	胴部片で,懸垂文帯に単節縄文施文	中央部床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q64	礫器	12.7	7.4	6.1	732.0	花崗岩	敲打器として使用	中央部床面	PL39

第35号住居跡（第76～78図）

位置　調査Ⅱ区南部，G7j2区の緩斜面部に立地し，北には第28・30・31号住居跡，南には第32号住居跡が隣接している。

規模と形状　長径7.30m，短径7.00mの円形であり，長径方向はN－35°－Eである。壁高は6～16cmで，緩やかに外傾している。

床　全体的にほぼ平坦であるが，北部から南部にかけてやや傾斜し，北部がよく踏み固められている。

炉　3か所。炉1は径120cmほどの円形で，北東部に付設されており，床面を25cmほど掘り窪めた地床炉である。炉2は長径90cm，短径54cmほどの不整楕円形で北西部に付設されており，床面を25cmほど掘り窪めた地床炉である。炉3は径95cmほどの円形で炉2の南側に付設されており，床面を20cmほど掘り窪めた地床炉である。いずれの炉床面も火熱を受けて赤変硬化している。

炉1土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
2　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量
3　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量,炭化物少量,ローム粒子・灰微量
4　暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化物少量，灰微量
5　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量,ロームブロック・炭化物・灰微量
6　暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化物少量，灰微量
7　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，炭化物・灰微量
8　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化物少量，ローム粒子・灰微量
9　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，炭化物・灰微量

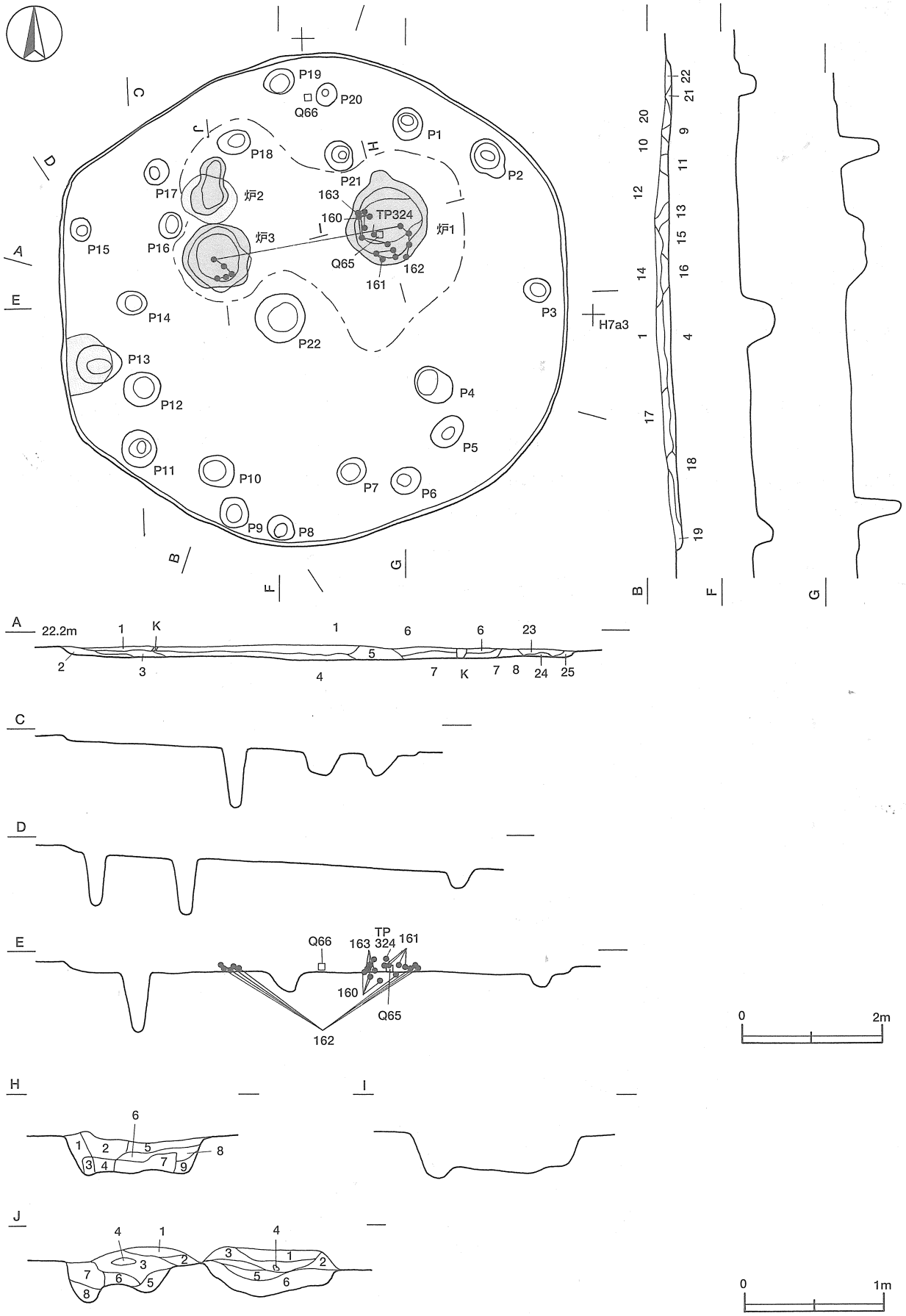
炉2土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量,ロームブロック・炭化物・灰微量
2　にぶい赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量,炭化粒子微量
3　にぶい赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック中量,炭化物・灰微量
4　暗褐色　ロームブロック多量,焼土ブロック・炭化粒子微量
5　赤褐色　ロームブロック多量，焼土粒子少量
6　褐色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
7　にぶい赤褐色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
8　褐色　ロームブロック多量

炉3土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物微量
2　褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量,ロームブロック・炭化物・灰微量
4　暗赤褐色　焼土ブロック中量,ロームブロック少量,炭化物微量
5　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量,炭化粒子微量
6　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

ピット　22か所。P2・P4・P8・P12・P17・P20は深さ23～46cmで，規模や配列から主柱穴と考えられ，その他のピットの性格は不明である。



第76図　第35号住居跡実測図

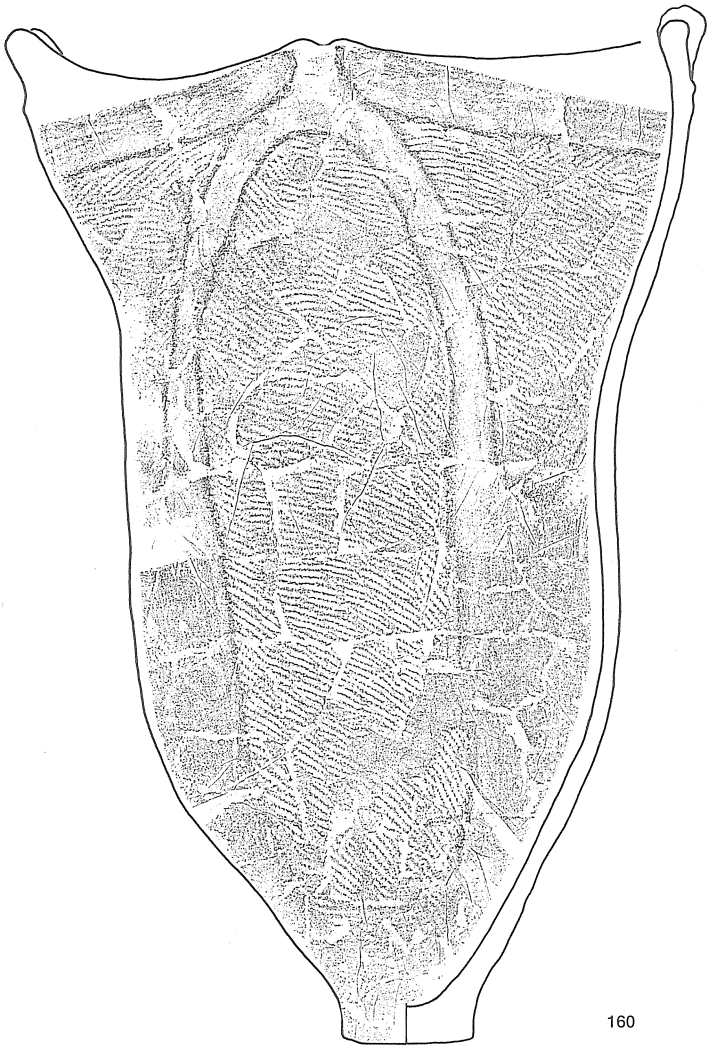
覆土　25層からなり，不連続な堆積状況と含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒 褐 色	ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
2	極暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3	暗 褐 色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
4	暗 褐 色	ロームブロック中量，炭化物微量
5	暗 褐 色	ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化物微量
6	黒 褐 色	ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
7	極暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
8	褐　　色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
9	褐　　色	ロームブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
10	黒 褐 色	ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
11	暗 褐 色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
12	暗 褐 色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
13	暗 褐 色	ロームブロック中量，ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
14	極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
15	褐　　色	ロームブロック多量，炭化粒子微量
16	暗 褐 色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
17	黒 褐 色	ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
18	極暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
19	黒 褐 色	ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
20	暗 褐 色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
21	暗 褐 色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
22	極暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
23	黒 褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量
24	暗 褐 色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
25	暗 褐 色	ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片1,209点（口縁部86，胴部1115，底部８），石鏃１点，磨石１点，礫23点が出土している。炉１の覆土中から上面にかけては多くの土器が出土し，ある程度の形まで接合できるものがほとんどである。160・161は炉１から，162は炉１と炉３の上層から出土した土器が接合された資料であり，本跡に伴うものと考えられる。Q66は北部の覆土中層から出土し，磨石や凹石としての多用途の使用が想定される。

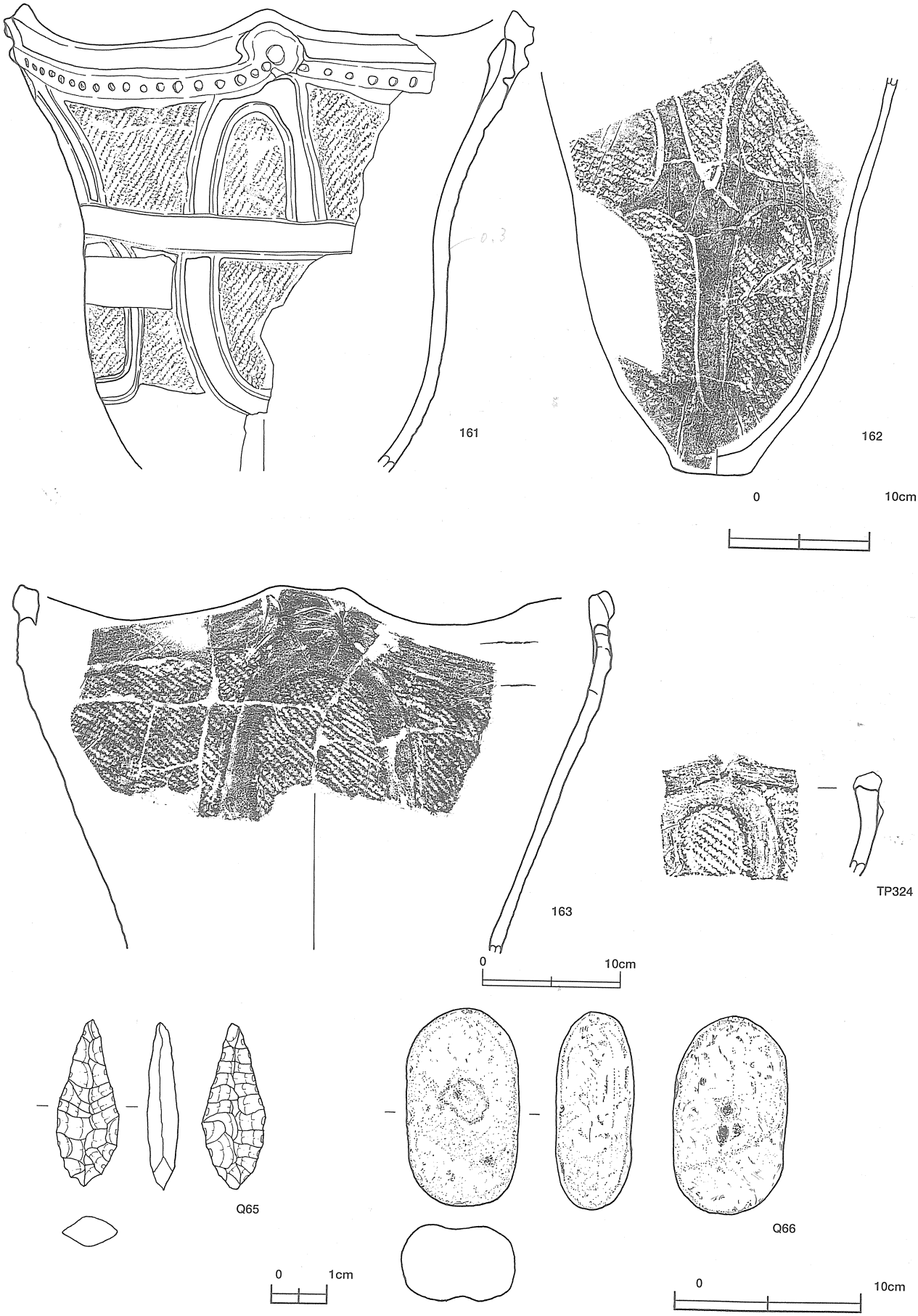
所見　本跡は炉が３か所検出され，炉１は特に掘り込みもしっかりしており，その状況から主体的な使用が考えられる。時期は出土土器から縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。



160

0　10cm

第77図　第35号住居跡出土遺物実測図(1)



第78図　第35号住居跡出土遺物実測図(2)

第35号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
160	縄文土器	深鉢	35.6	54.8	7.0	文様は微隆帯によって，波頂部を起点とするＹ字状文の区画文を描出し，区画文内にはＲＬの単節縄文充填	長石･赤色粒子	普通	にぶい橙	炉１上層 ＰＬ26
161	縄文土器	深鉢	[35.1]	(33.9)	－	口辺部に円形刺突文を巡らし，胴部文様は微隆帯によって描出し，区画文内にはＲＬ単節縄文充填	長石･雲母	普通	橙	炉１上層 ＰＬ26
162	縄文土器	深鉢	－	(29.0)	5.7	文様は沈線によって描出した上下２段構成で，区画文内にはＬＲの単節縄文充填	長石･石英･雲母	普通	にぶい橙	炉１・炉３上層 ＰＬ26
163	縄文土器	深鉢	[41.6]	(26.5)	－	文様は微隆帯によって描出し，波頂部を起点とするＹ字状文の区画で，区画文内にはＬＲの単節縄文充填	長石･石英･赤色粒子	普通	にぶい黄橙	炉１上層 ＰＬ26

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
324	縄文時代中期後葉	口縁部片で,微隆帯によって文様帯を区画し,区画内にLRの単節縄文充填。	炉１上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q65	石鏃	3.1	1.1	0.6	1.6	安山岩	尖頭状	炉１上層	ＰＬ38
Q66	磨石	10.7	6.1	4.2	404.0	安山岩	側縁に磨面，上下端部に敲打痕	北部中層	

第36号住居跡（第79・80図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｇ６b9区の平坦部に立地し，南西には第34号住居跡，南東には第27号住居跡が位置している。

重複関係　第385・386・458・465・476・478・479・482・485・486号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長径8.21m，短径7.89mの円形で，長径方向は，Ｎ－80°－Ｗである。壁高は５～21cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦であり，ほとんど硬化面は認められない。

炉　東側半分ほどがやや撹乱を受けているため，長径70cm，短径55cmの楕円形と推定される。中央部に付設され，床面を37cmほど皿状に掘り窪めた地床炉であり，炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

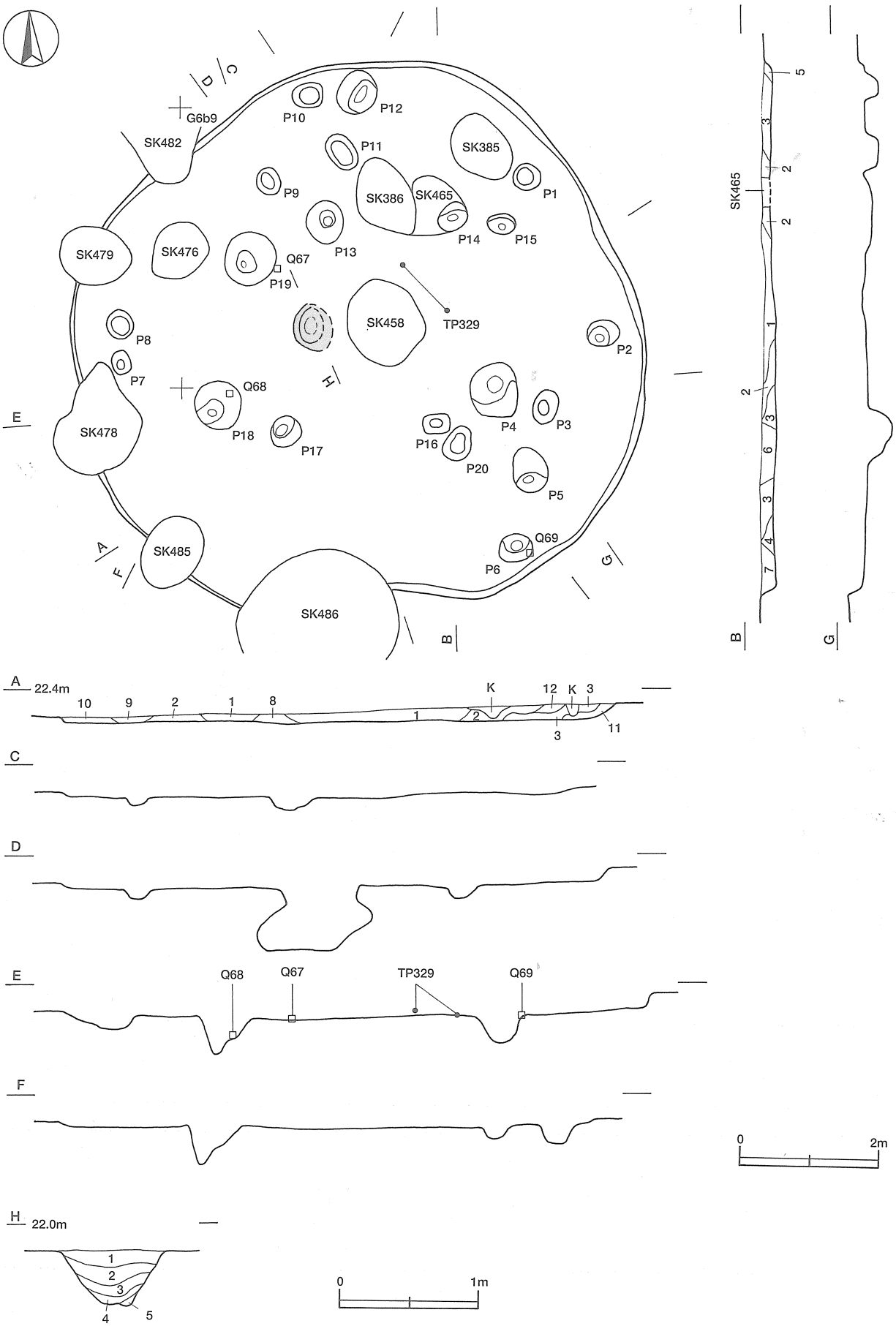
1　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
2　暗褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
3　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，ロームブロック・炭化物微量
4　暗褐色　焼土ブロック多量,炭化物少量,ロームブロック･灰微量
5　暗赤褐色　焼土ブロック多量,炭化物･灰少量,ロームブロック微量

ピット　20か所。Ｐ４・P14・P18・P19は深さ35～57cmで規模や配列から主柱穴と考えられる。また，Ｐ１・Ｐ２・Ｐ６・Ｐ７・Ｐ８は，深さ16～30cmで壁周辺部に配列されており，壁柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

覆土　12層からなり，不連続な堆積状況と含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

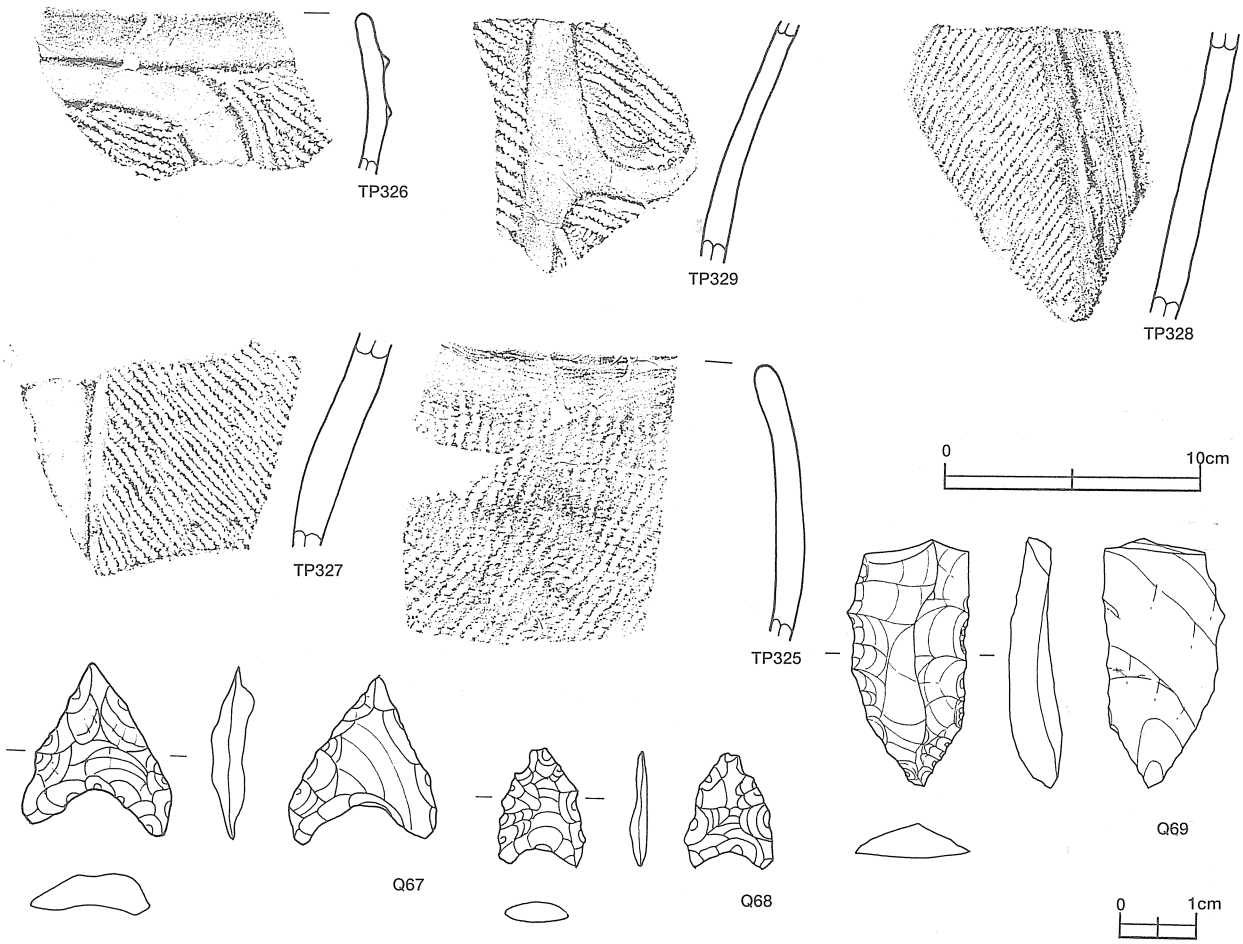
1　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐色　ロームブロック中量
5　褐色　ロームブロック中量
6　暗褐色　ロームブロック少量
7　暗褐色　ロームブロック中量
8　褐色　ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子少量
10　暗褐色　ローム粒子中量
11　褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
12　褐色　ローム粒子少量



第79図　第36号住居跡実測図

遺物出土状況　縄文土器片173点（口縁部13，胴部152，底部８），石鏃２点，ナイフ形石器１点が出土している。ナイフ形石器は混入である。土器は中央部の覆土中層から出土しているものが多く，329は中央部の床面と覆土中層の土器片が接合された資料で，本跡に伴う土器と考えられる。

所見　本跡は多くの土坑に掘り込まれているが，遺構の遺存状況は比較的良好である。時期は出土土器から縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。



第80図　第36号住居跡出土遺物実測図

第36号住居跡出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
326～329	縄文時代中期後葉	326は口縁部片,327～329は胴部片,いずれも微隆帯によって文様帯を区画し,区画内に単節縄文充填	329中央部床面・中層，他覆土中	ＰＬ33
325	縄文時代中期後葉	口縁部片で,口辺部に無文帯を有し,胴部はRLの単節縄文施文	覆土中	

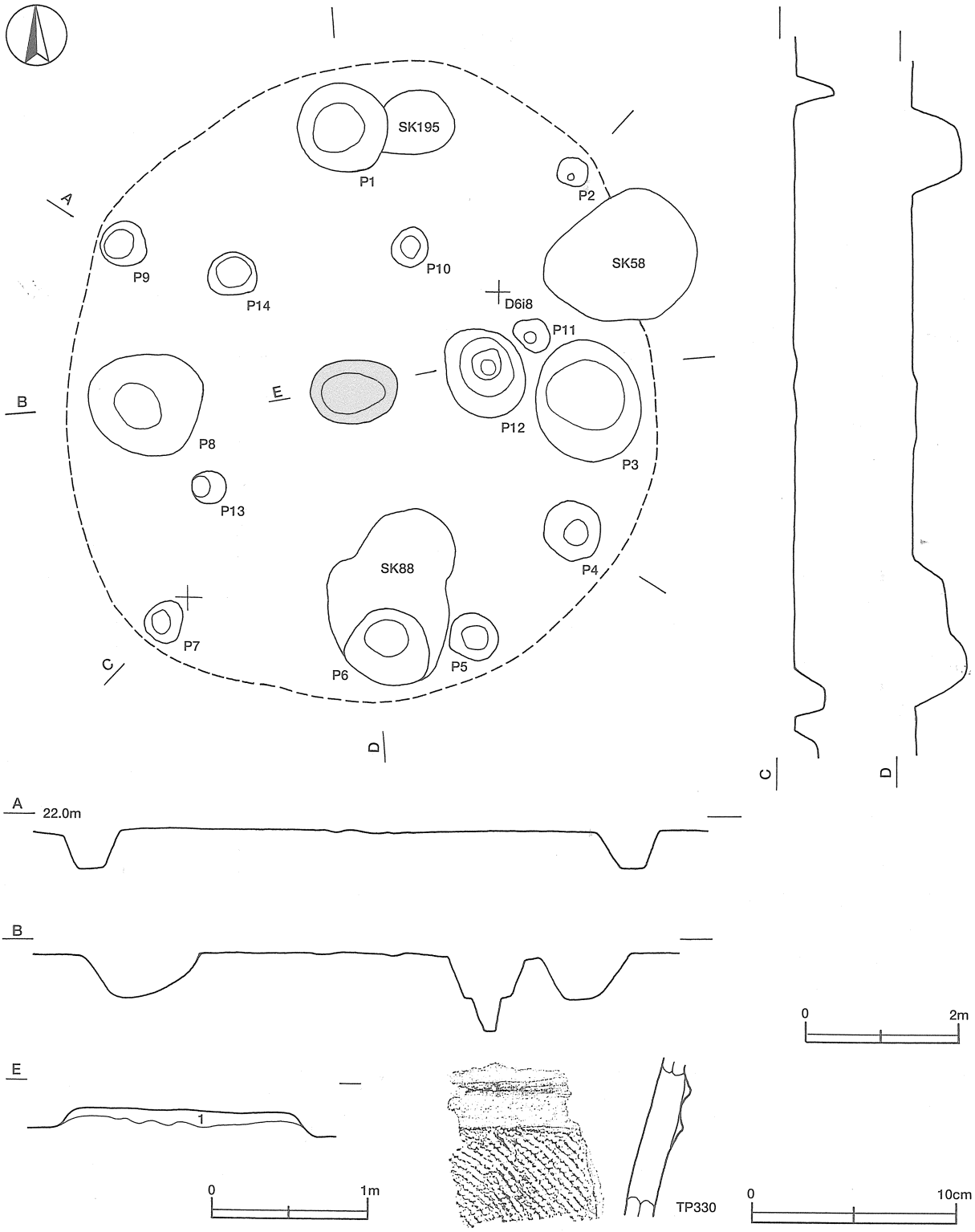
番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重さ	石　材	特　徴	出土位置	備考
Q67	石　鏃	2.3	1.9	0.6	1.3	チャート	無茎鏃	中央部床面	ＰＬ38
Q68	石　鏃	1.6	1.2	0.4	0.4	黒曜石	小形無茎鏃	Ｐ18中層	ＰＬ38
Q69	ナイフ形石器	3.3	1.6	0.7	2.7	硬質頁岩	縦長剥片を素材とする上半部は主要剥離面側から折損，二側縁加工	南東部床面	旧石器 ＰＬ38

第37号住居跡（第81図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｄ６i7区の平坦部に立地し，北西には第38号住居跡，西には第９号住居跡が位置している。

重複関係　第58・88・195号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　壁は削平されているが，炉や柱穴の配置から長径8.20m，短径7.60mほどの円形と推定される。



第81図　第37号住居跡・出土遺物実測図

床　平坦であり，ほとんど硬化面は認められない。

炉　長径110cm，短径84cmの楕円形で，中央部に付設されており，床面を２cmほど掘り窪めた地床炉であり，炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック・ロームブロック少量，炭化物微量

ピット　14か所。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ６・Ｐ８は深さ50～65cmで規模や配列から主柱穴と考えられ，その他のピットの性格は不明である。

覆土　削平されているため検出されなかった。

遺物出土状況　縄文土器片17点（胴部17）が散在している状態で出土している。

所見　本跡の壁はすでに削平されているため炉や柱穴の配列から住居規模が推定できた。時期は出土土器や住居形態などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第37号住居跡出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
330	縄文時代中期後葉	胴上部片で，隆帯と沈線によって区画され，ＬＲの単節縄文施文	覆土中	

第38号住居跡（第82図）

位置　調査区北部，Ｄ６g5区の平坦部に立地し，南には第９号住居跡，南東には37号住居跡が位置している。

重複関係　第７号住居跡や第１号土器埋設遺構，第51・52・56・57・60・62・126号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　壁は削平されているが，炉や柱穴の配列から長径7.90m，短径6.70mほどの楕円形と推定される。

床　ほぼ平坦であり，ほとんど硬化面は認められない。

炉　長径128cm，短径67cmの楕円形で中央部に付設され，床面を５cmほど掘り窪めた地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量
3　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
4　褐　　色　ロームブロック中量

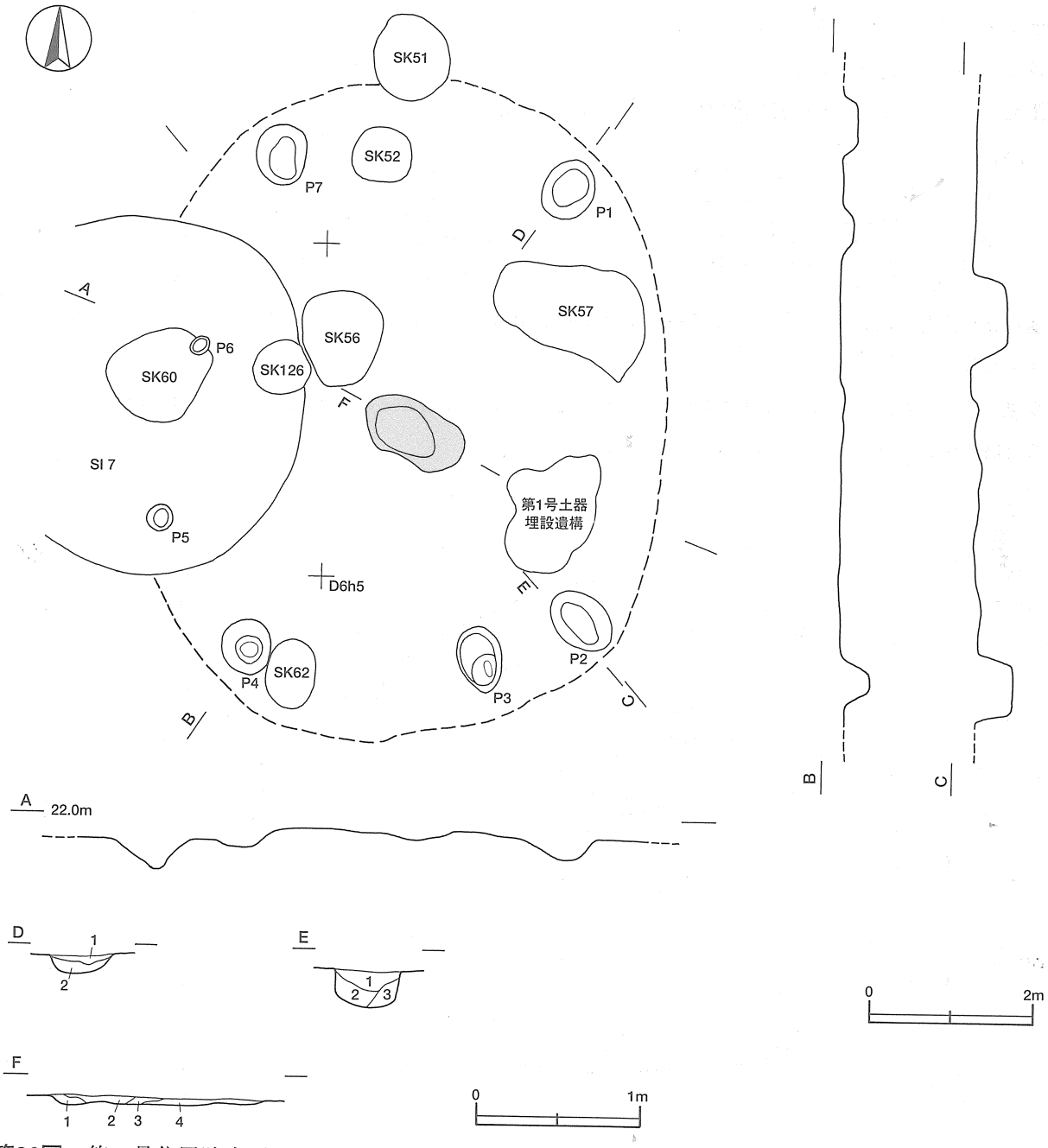
ピット　７か所。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ７は深さ20～48cmで規模や配列から主柱穴と考えられ，その他のピットの性格は不明である。

Ｐ１土層解説
1　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック中量
Ｐ２土層解説
1　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量
3　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

覆土　削平されているため，検出されなかった。

遺物出土状況　縄文土器片19点（口縁部４，胴部15）が床面に散在した状態で出土しているが，細片のため図示できるものはない。

所見　本跡は，削平されているため壁の立ち上がりを確認することができなかったが，炉と柱穴の配列から住居規模が推定できた。時期は出土土器や重複関係から，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。



第82図　第38号住居跡実測図

第39号住居跡（第83・84図）

位置　調査Ⅱ区北部，D７i1区の平坦部に立地し，北西には第10号住居跡が，南西には第11号住居跡が位置している。

規模と形状　北東部の壁は削平されているが，長径5.00m，短径4.60mほどの円形と推定され，確認された壁は８～12cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，ほとんど硬化面は認められない。

炉　中央部に付設され，長径70cm，短径59cmの楕円形と推定される。床面を10cmほど掘り窪めた地床炉である。炉床面は火熱を受けてやや赤変している。

炉土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量

ピット　6か所検出されているが，いずれも主柱穴とは考えにくい。また，壁外からも発見されていないため，各ピットの性格は不明である。

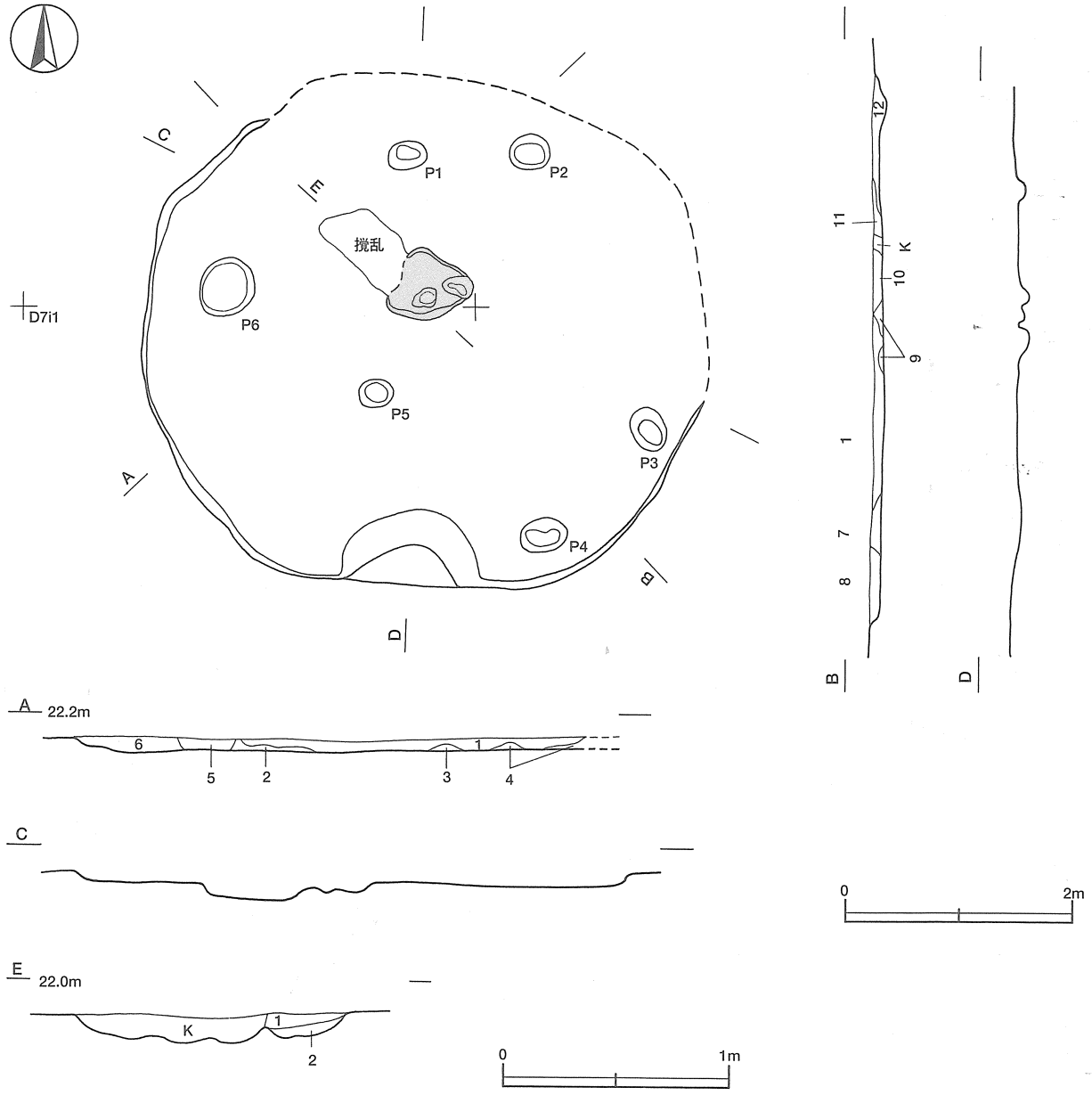
覆土　12層からなり，不連続な堆積状況と含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

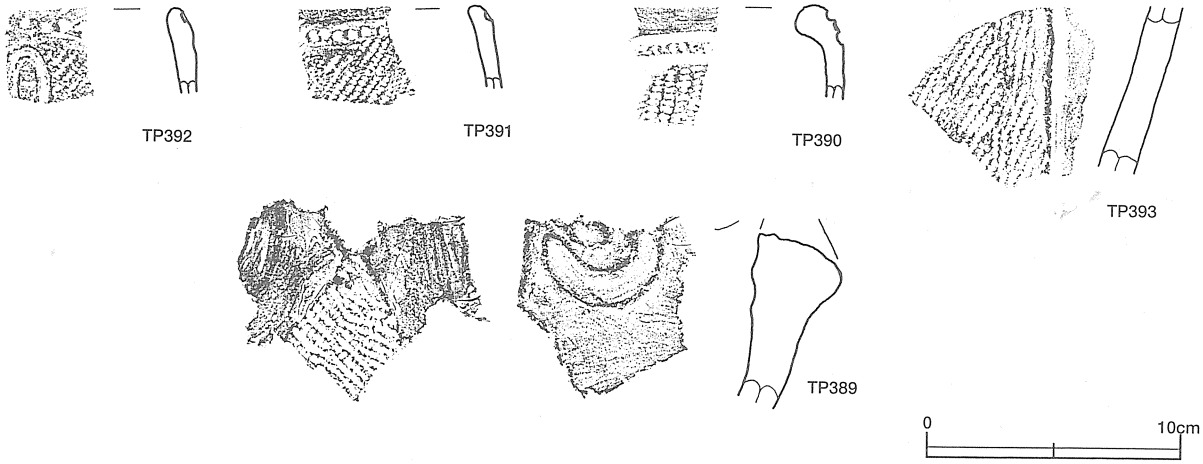
1	暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	
2	褐　色	ロームブロック少量	
3	褐　色	ロームブロック少量	
4	暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	
5	暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	
6	褐　色	ロームブロック少量	
7	暗褐色	ロームブロック少量	
8	暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	
9	暗褐色	ロームブロック少量，炭化物微量	
10	極暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	
11	褐　色	ロームブロック少量	
12	暗褐色	ロームブロック少量，炭化物微量	

遺物出土状況　縄文土器片70点（胴部69，底部1）が床面に散在した状態で出土しており，本跡に伴うものと考えられる。

所見　本跡は炉跡の状況や床面の状況から，使用された期間は短かったと想定される。時期は出土土器から，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ～Ⅳ式期）と考えられる。



第83図　第39号住居跡実測図



第84図　第39号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
390～392	縄文時代中期後葉	390～392は口縁部片で,RLの単節縄文地文に口辺部に刺突文を施文した土器で,392は沈線で文様を描出,390は横位の沈線によって文様帯を区画	覆土中	
389・393	縄文時代中期後葉	微隆帯による文様帯を区画し,389は把手部,393は胴部片であり,区画内にRLの単節縄文充填	覆土中	

第40号住居跡（第85・86図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｅ６f4区の平坦部に立地し，西には古墳時代後期の第15号住居跡，南西には第16号住居跡が位置している。

規模と形状　長径3.34m，短径3.10mほどの隅丸方形と推定され，壁高は31cmほどで外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，ほとんど硬化面は認められない。

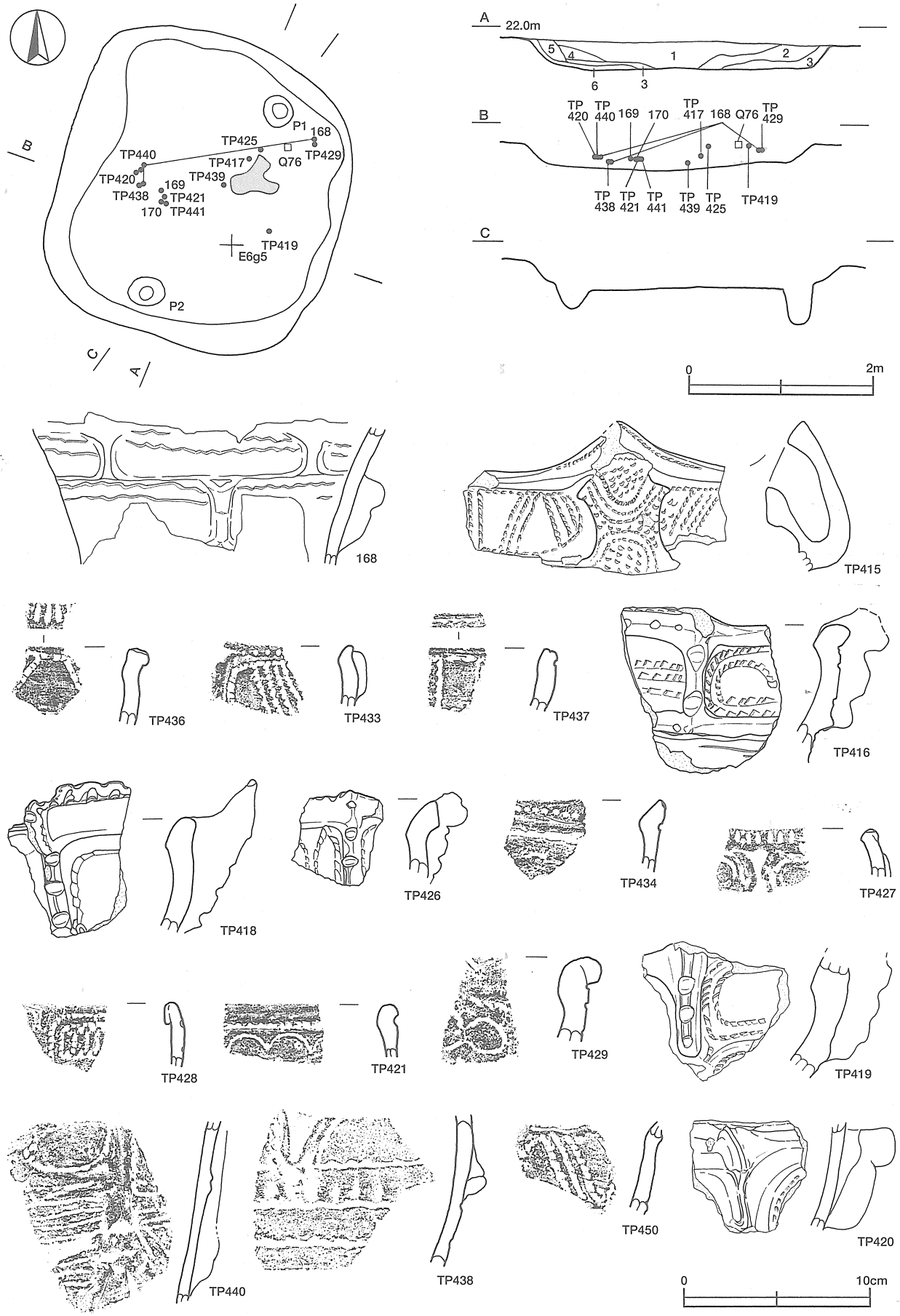
ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ25～43cmで主柱穴と考えられる。

覆土　６層からなる。最上層は投棄された状況を示し，その下の層は自然堆積の状況を示している。

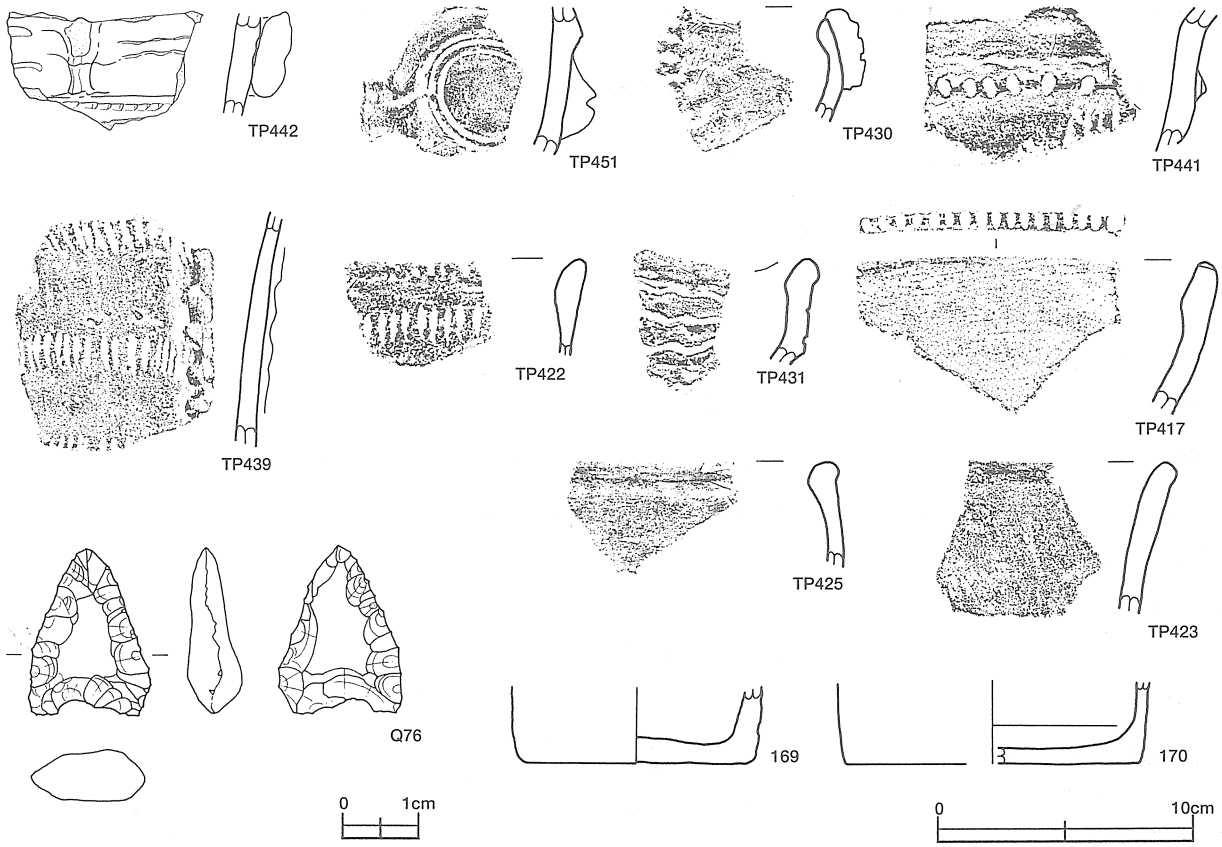
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
2　暗褐色　ロームブロック中量，炭化物微量
3　褐　色　ロームブロック中量
4　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
5　暗褐色　ロームブロック少量
6　黒褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片486点（口縁部48，胴部414，底部24），石鏃１点，礫８点が出土している。土器は中央部から北東にかけて多く出土し，投棄された状況を示している。時期的には阿玉台Ⅰb～Ⅱ式期のものが中心に出土し，168は中央部からやや西側寄りの覆土中層から出土した土器と東部上層から出土した土器が接合された資料である。また，中央部東寄りの床面から焼土が出土しており，炉として短期間使用されたものと想定される。

所見　本跡は，住居としてはやや小形であり，古式の阿玉台期の形態と類似している。時期は出土土器と住居の形態から，縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅰb～Ⅱ式期）と考えられる。



第85図　第40号住居跡・出土遺物実測図



第86図　第40号住居跡出土遺物実測図

第40号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
168	縄文土器	深鉢	－	(7.5)	－	隆帯によって文様帯を区画し，区画内には2組の角押文施文，外面はやや摩滅	長石・雲母	普通	橙	東部上層・西部中層
169	縄文土器	深鉢	－	(3.0)	[9.4]	底部片で，網代痕が確認されるが，器面は若干荒れ目立つ	長石・石英・雲母	普通	明褐	中央部中層
170	縄文土器	深鉢	－	(3.3)	[11.6]	底部片で，網代痕確認	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	中央部中層

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
415・442	縄文時代中期前葉	415は把手を有した口縁部片で,442は頸部片で,角押文によって文様描出	覆土中	PL33
416・418・426	縄文時代中期前葉	口縁部片で,隆帯と角押文によって文様を描出し,隆帯には刻みが施文	覆土中	PL33
433・434・436・437	縄文時代中期前葉	口縁部片で,436は口唇部に刻みを有し,437は口唇部に半裁竹管による横圧,433・434は口辺部に円形刺突文が施文され,角押文によって文様描出	覆土中	
421・427～429	縄文時代中期前葉	口縁部片で,角押文によって文様を描出している,427は口唇部に刻みを有す	429東部中層，427・428覆土中，421中央部中層	
419・420 450	縄文時代中期前葉	頸部片で,419・420は隆帯と角押文によって文様を描出し,特に419は隆帯部に刻み確認,450は鋸歯状に角押文施文	419東部上層，420西部中層，他覆土中	
438・440	縄文時代中期前葉	胴部片で,小波状の平行竹管文を施文し,さらに,440は角押文によって文様描出,また,438は爪形文施文	438・440西部中層	
431・451・441	縄文時代中期前葉	431は口縁部片,441・451は頸部片451は半裁竹管による沈線文が円形に施文431・441は竹管による横位の沈線文を有し,441は隆帯に横位の刺突文施文	441中央部中層，他覆土中	PL33
422・430・439	縄文時代中期前葉	422・430は口縁部片で,422は口唇部に刻みを有し,胴部には爪形文施文。430は突起部に刻みを配す。439は縦位の隆帯を押圧し,胴部には爪形文施文	439中央部下層，他覆土中	
417・423・425	縄文時代中期前葉	口縁部片で,無文帯である,さらに,425は口唇部に刻みを有す	417中央部中層・425北東部上層，423覆土中	

番号	種　別	長さ	幅	厚さ	重さ	石　材	特　徴	出土位置	備考
Q76	石　　鏃	2.2	1.5	0.7	2.2	チャート	無茎鏃，一部未調整	北東部上層	

（2）炉跡

今回の調査では，炉跡が3か所調査されている。

第1号炉跡（第87図）

位置　調査Ⅱ区北部，E6c7区の平坦部に立地し，北東には第13号住居跡が位置している。

規模と形状　長径0.75m，短径0.47mの不整楕円形で，長径方向はN－60°－Eである。深さは6cmほどで，底面には凹凸があり，中央部が火熱を受けて赤変している。壁は外傾して立ち上がる。

覆土　3層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　本跡に伴う遺物は出土していないが，形態や他の炉跡との比較から縄文時代中期の住居跡に伴う炉跡と考えられ，床・柱穴などについては不明である。

第2号炉跡（第87図）

位置　調査Ⅱ区北部，D7j2区の平坦部に立地し，北には第39号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.10m，短径0.90mの不整円形で，長径方向はN－45°－Wである。深さは10cmほどで，底面には凹凸があり，中央部が火熱を受けて赤変している。壁は外傾して立ち上がる。

覆土　3層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
3　赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子微量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　本跡に伴う遺物は出土していないが，形態や他の炉跡との比較から縄文時代中期の住居跡に伴う炉跡と考えられ，床・柱穴などについては不明である。

第3号炉跡（第87図）

位置　調査Ⅱ区中央部，E7g3区の平坦部に立地し，西には第18・19号住居跡が位置している。

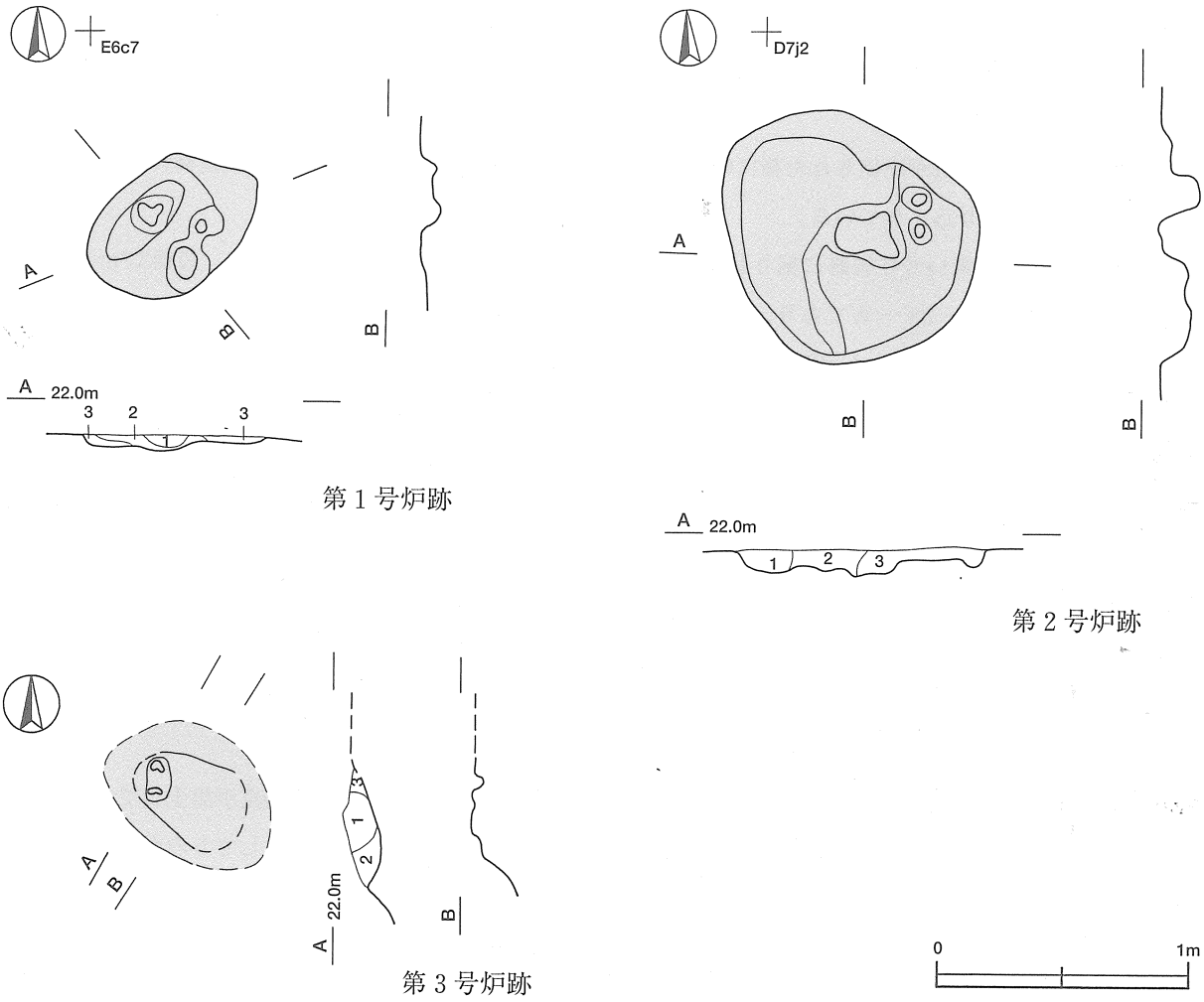
規模と形状　東部と西部が削平されているため，検出されたのは長径0.70m，短径0.50mで，本来は楕円形と推定される。長径方向はN－48°－Wであり，深さは7cmほどである。底面には凹凸があり，西部は火熱を受けて赤変している。壁は削平されていたため，立ち上がりを確認することはできない。

覆土　3層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　本跡に伴う遺物は出土せず，遺存状況もあまり良くないが，形態や他の炉跡との比較から縄文時代中期の住居跡に伴う炉跡と考えられ，床・柱穴などについては不明である。



第87図　炉跡実測図

炉跡一覧表

炉跡番号	位　置	長径方向	平 面 形	規　　模（m）	深さ	底面	覆土	主な出土遺物	備　　考
1	E 6 c7	N－60°－E	不整楕円形	0.75　×　0.47	6	凹凸	自然		縄文時代中期
2	D 7 j2	N－45°－W	不 整 円 形	1.10　×　0.90	10	凹凸	自然		縄文時代中期
3	E 7 g3	N－48°－W	［楕　円　形］	(0.70)　×　(0.50)	7	凹凸	自然		縄文時代中期

（3）土器焼成遺構

今回の調査で，廃絶住居跡から縄文土器を焼いた土器焼成遺構１基を検出した。

第１号土器焼成遺構（第88～91図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｆ６g7区の平坦部に立地し，第14号住居跡・第21号住居跡と重複している。また，北西には第25号住居跡が位置している。

確認状況　焼成遺構上面は黒褐色土が広がっており，多くの縄文土器片が確認された。調査当初は単独遺構として調査を進めたが，第１層目を約10cm掘り下げたところで焼土が広範囲に検出されたため，住居跡以外の遺構があることが判明した。

重複関係　第21号住居跡が廃絶された後に中央部の窪地にやや掘り込みを加えて土器焼成遺構に利用し，第14号住居跡に南部を掘り込まれている。

規模と形状　南部を第14号住居跡に掘り込まれているため，検出できたのは長径が3.8m，短径3.7mの楕円形である。長径方向はN－38°－Wであり，深さは40cmほどで，緩やかに外傾して立ち上がる。窪地をやや掘り込んだ中で焼かれた焼土範囲は，南部を掘り込まれているため長径は2.65m，短径2.55mである。形状は楕円形を呈し，焼土の厚さは35cmほどである。

底面　第21号住居跡の窪地を利用しているためやや皿状を呈している。

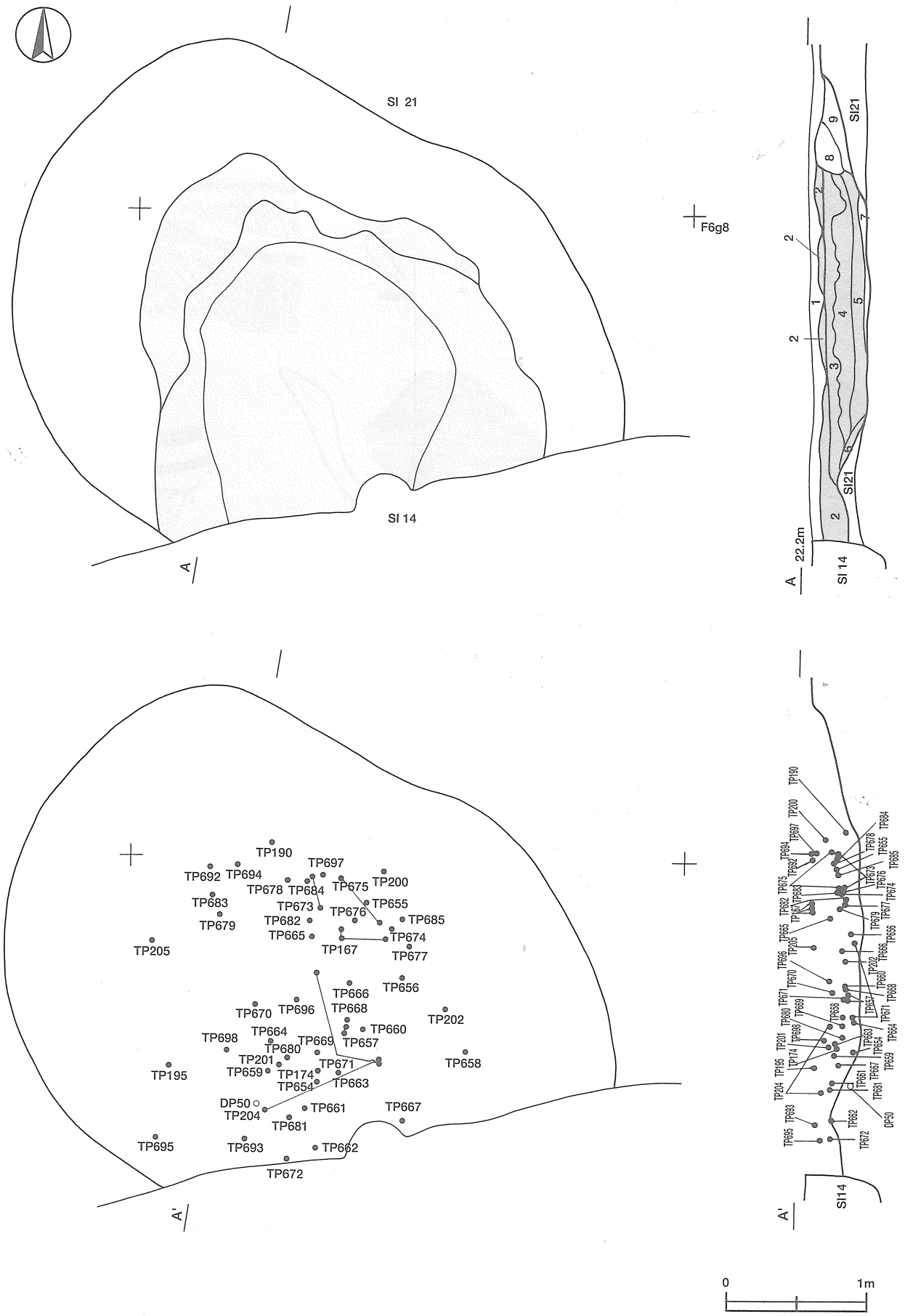
覆土　９層からなり，少なくとも３度は土器を焼いている状況を示している。特に，３～５層は焼土が厚く堆積しており大量に火を焚いた痕跡を示している。

土層解説

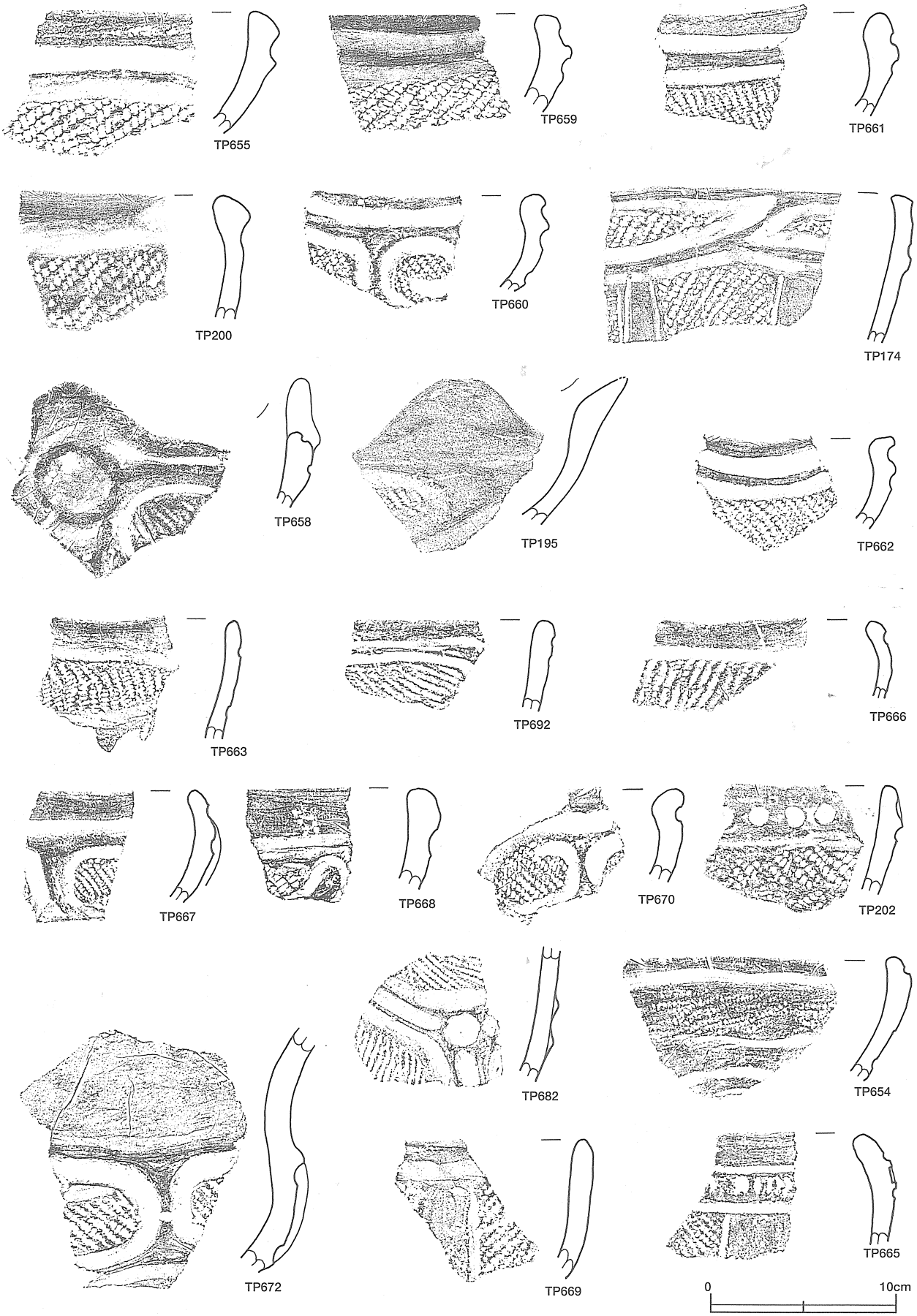
1	黒褐色	ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
2	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量
3	赤褐色	焼土ブロック多量，炭化物微量　締まり極めて強い
4	赤褐色	焼土ブロック多量，炭化粒子少量
5	赤褐色	焼土ブロック多量，炭化物・ローム粒子微量
6	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，ローム粒子微量
7	極暗褐色	炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子微量
8	極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量
9	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片722点（口縁部103，胴部601，底部18），粘土塊１点，礫20点が出土している。破片でとりあげたものを含めて，土器は２層からも出土しているが，３～５層内から出土してものがほとんどであり，多くはここで焼かれたものと想定される。覆土下層の５層から出土した土器は，廃絶後の住居がまだ埋まりきらない段階に掘り込み加えて，焼かれた最初のものと想定される。覆土中層の４層は，一番焼土の層が厚く，土器が大量に焼かれたものと考えられる。覆土上層の２・３層から出土した土器は，当遺構での最終段階に焼かれたものと想定される。各層とも上面は火床部として赤変硬化しており，これらの面からの土器の出土が多い。焼成された粘土塊は５層から出土し，成形前のものと想定される。

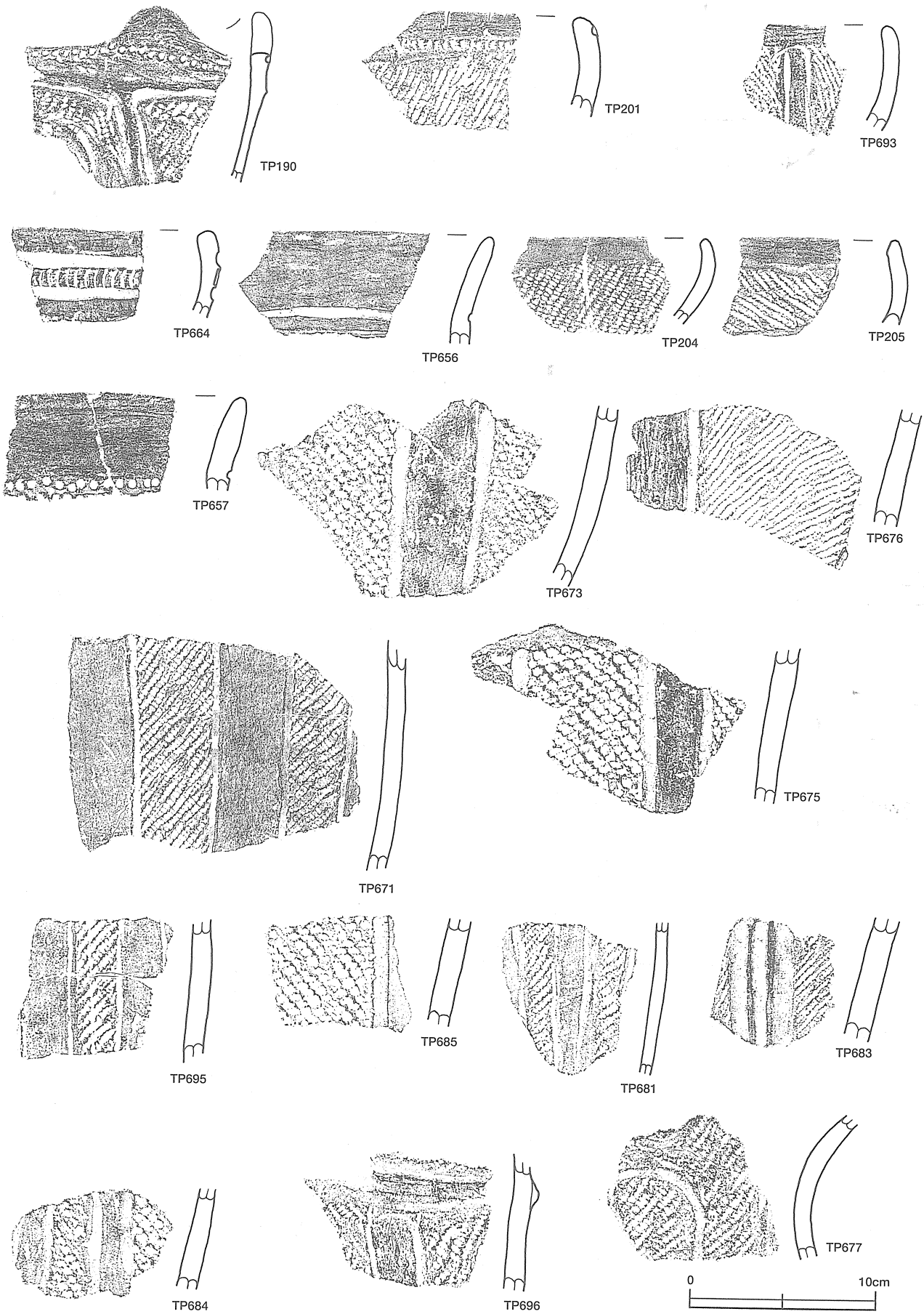
所見　検出した焼土範囲を把握し，平面的に調査を進めると，多くの土器が３～５層の赤変硬化した面の間から出土し，赤変硬化した面は，火床部と想定される。本跡は遺物的には第21号住居跡と若干時期差が見られ，廃絶した住居跡の窪地にやや掘り込み加えて利用した土器焼成のための遺構である。遺構周辺にも多量の土器が出土しており，本跡で焼かれたものと想定できる。視覚的特徴としては，他の遺構出土の土器と比べて焼土中にあったため赤みを帯びている土器が多く，焼成された粘土塊も出土している。また，土器は加曽利EⅢ式土器がほとんどであるため，３～５層で焼かれた土器の時期差は確認されず，時期は縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。



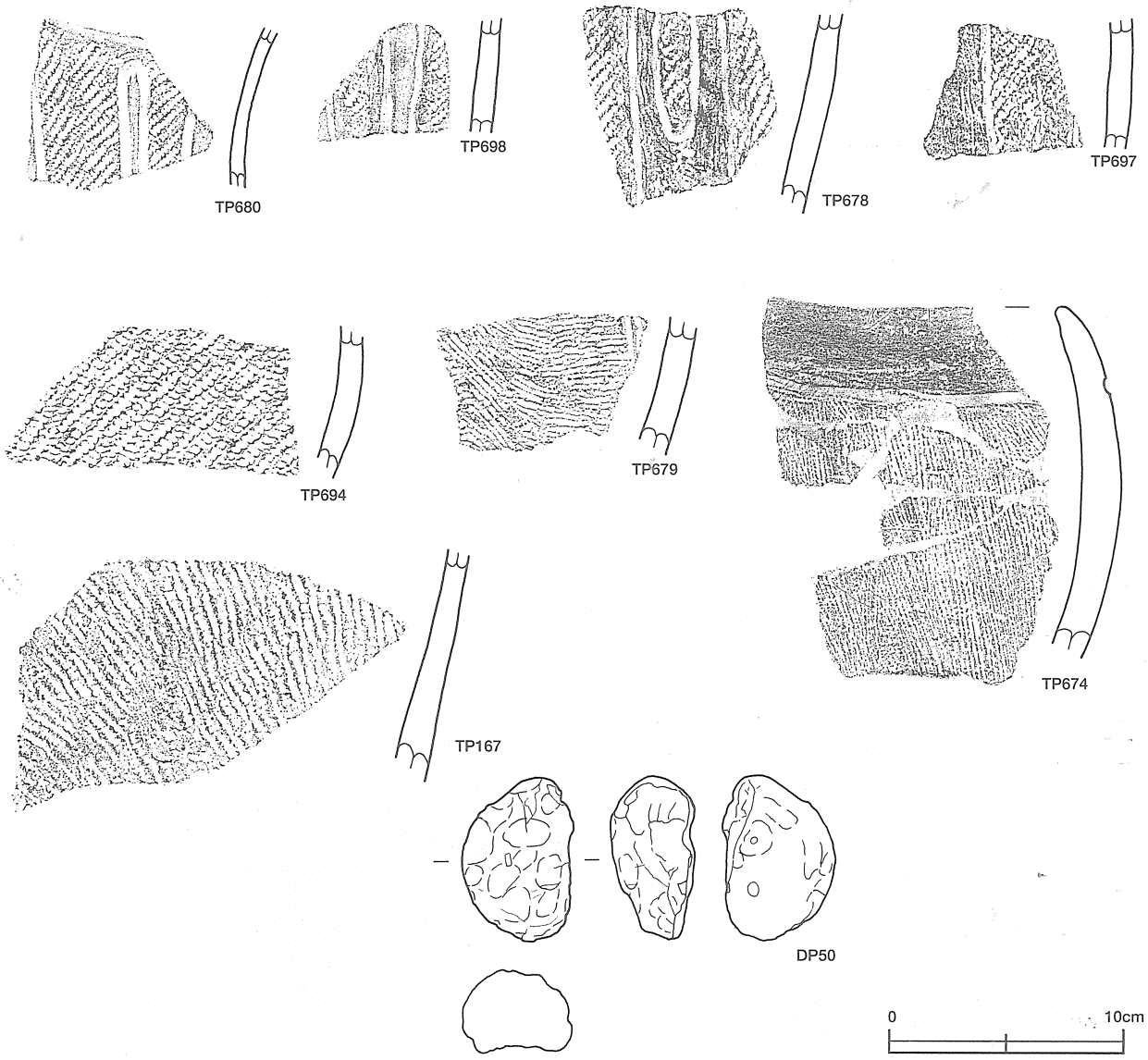
第88図　第１号土器焼成遺構実測図



第89図　第１号土器焼成遺構出土遺物実測図(1)



第90図　第１号土器焼成遺構出土遺物実測図(2)



第91図　第１号土器焼成遺構出土遺物実測図(3)

第１号土器焼成遺構出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
200･655･659･661	縄文時代中期後葉	口縁部片で,横位の沈線で口辺部を区画し,200･655はLRの単節縄文,658･661はRLの単節縄文施文	200・661 3層，655・659 4層	ＰＬ34
174･660･662	縄文時代中期後葉	口縁部片で,隆帯と沈線で口辺部文様帯を区画し,区画内にRLの単節縄文施文,174は沈線による懸垂文帯が胴部に施文	174・660 4層，662 3層	ＰＬ34
195･658	縄文時代中期後葉	口縁部片で,いずれも隆帯と沈線によって口辺部文様帯を区画し,区画内にRLの単節縄文施文	195 2層，658 4層	ＰＬ34
654･663･666･692	縄文時代中期後葉	口縁部片で,沈線によって口辺部文様帯を区画し,区画内にRLの単節縄文充填	654 5層，663・666 4層，692 2層	ＰＬ34
202･667･668･670	縄文時代中期後葉	口縁部片で,隆帯に沿う沈線により文様帯を区画し,区画内にRLの単節縄文充填,202は口唇部無文帯を横位の沈線で区画し,区画内に円形刺突文を有し,以下RLの単節縄文施文	4層	ＰＬ34
665･669	縄文時代中期後葉	口縁部片で,口辺部文様帯が衰退沈線によって口辺部文様帯を区画し,665は口辺部に刺突文を有す	4層	ＰＬ34

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
672・682	縄文時代中期後葉	頸部片で,672は隆帯に沿う沈線によって楕円区画文を描出し,区画内にRLの単節縄文充填 682も隆帯によって文様帯区画	672 2層，682 4層	ＰＬ34
190・201・ 664・657	縄文時代中期後葉	口縁部片で,190は隆帯によって文様帯を区画し,201は口辺部に半截竹管文を有す,190は, 横位の沈線間に刻みを充填し,さらに657は口辺部無文帯に刺突文施文	190・664 5層，201 3層， 657 4層	ＰＬ34
204・205・ 656	縄文時代中期後葉	口縁部片で,204・205は口辺部無文帯を有し,以下RLの単節縄文施文656は幅広の口辺部 無文帯に横位の沈線が巡る	204 2・3層，205 2層，656 5層	ＰＬ34
693	縄文時代中期後葉	口縁部片で,懸垂区画帯にLRの単節縄文施文	2層	
671・676	縄文時代中期後葉	胴部片で,671・676は懸垂区画帯にRLの単節縄文施文	676 4層，671 5層	ＰＬ34
673・675	縄文時代中期後葉	胴部片で,懸垂区画帯にLRの単節縄文施文	4層	ＰＬ34
681・683・ 684・685・ 695	縄文時代中期後葉	胴部片で,いずれも懸垂区画帯を有し,区画内に単節縄文充填	681 3層，695 2層，683・684・ 685 4層	ＰＬ34
677・696	縄文時代中期後葉	胴部片で,沈線による上部の連結する懸垂区画帯施文,696は頸部に横位の隆帯で文様帯を区分	4層	
678・697・ 698・680	縄文時代中期後葉	胴部片で,沈線による懸垂区画帯を描出し,LRの単節縄文充填	678・680 4層，697 3層，698 2層	
167・674・ 679・694	縄文時代中期後葉	167は口縁部片で,口辺部無文帯を区画し,以下縦位の条線文施文,他も胴部片で,674はRL の単節縄文,679はLの無節縄文,694はRLの単節縄文施文	167・694 2層，674・679 3層	ＰＬ34

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置	備考
DP50	粘　土　塊	7.1	4.8	3.7	99.0	粘土塊に指頭痕有り，火熱を受けて赤変	5層	

（4）土器埋設遺構

第１号土器埋設遺構（第92図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｄ６g5区の平坦部に立地し，南には第９号住居跡が位置している。

重複関係　第38号住居跡の南東部を掘り込んでいる。

規模と形状　中央部に深鉢形土器が埋設されているが，掘り方は長径1.59m，短径0.88mの不定形であり，長径方向はN－34°－Eである。深さは25cm，底面はやや皿状を呈し，壁は南西部に緩やかに立ち上がり，その他は外傾して立ち上がる。

覆土　２層からなり，土器を埋設の際に埋め戻された土層である。

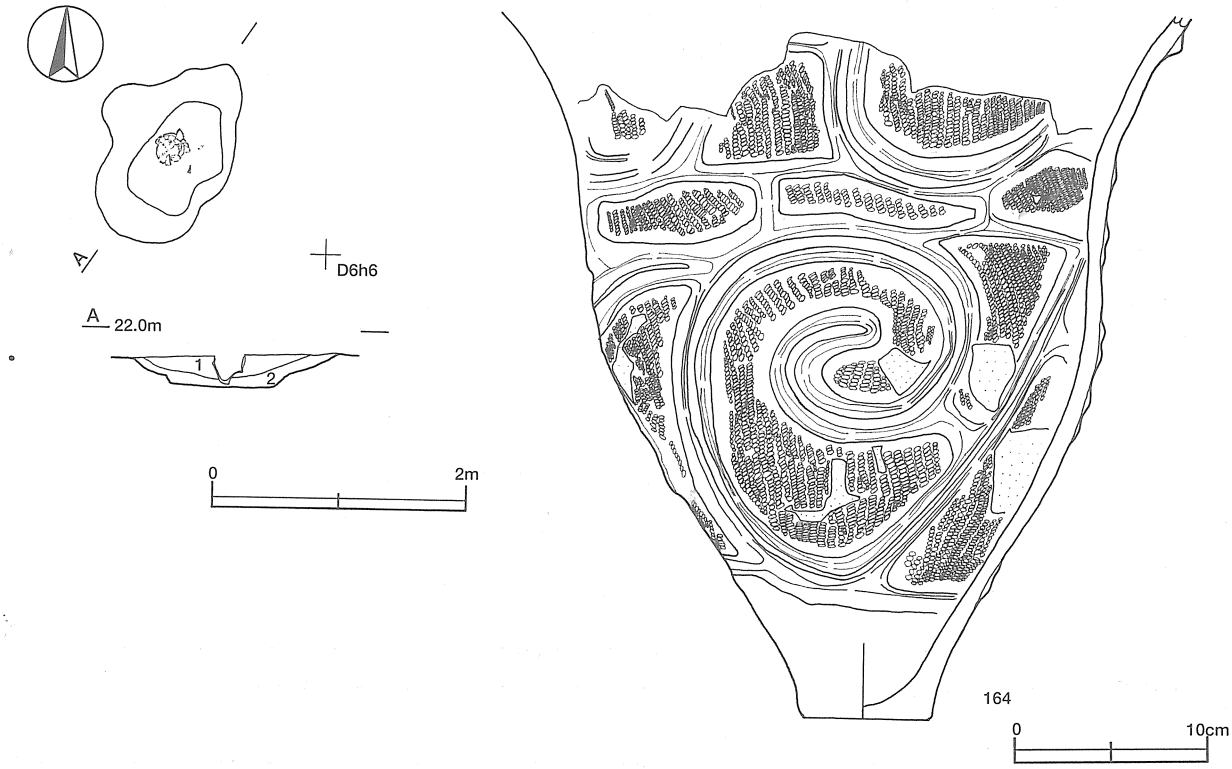
土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片深鉢１点，礫２点が出土している。164は掘方の中央部に正位で埋められた状態で，出土している。

所見　本跡は埋設土器であり，墓壙の可能性も考えられる。時期は縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅢ式期）である。また，第38号住居跡に伴うかどうかは不明である。

第１号土器埋設遺構出土遺物観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
164	縄文土器	深　鉢	—	(37.5)	6.5	胴部には隆帯による４単位の渦巻文が施文され，ＲＬ の単節縄文を充填	長石・石英・雲母	普通	橙	埋設 ＰＬ27



第92図　第１号土器埋設遺構・出土遺物実測図

（５）土坑

形状，覆土の堆積状況，出土遺物等について検討した結果，形状から次のように分類した。

（ア）大形土坑（長軸及び長径が３m以上）

（イ）円筒形土坑

（ウ）フラスコ状土坑

（エ）その他の土坑

以上，文章記述以外のものについては，平面図・土層解説及び一覧表で対応する。

（ア）大形土坑

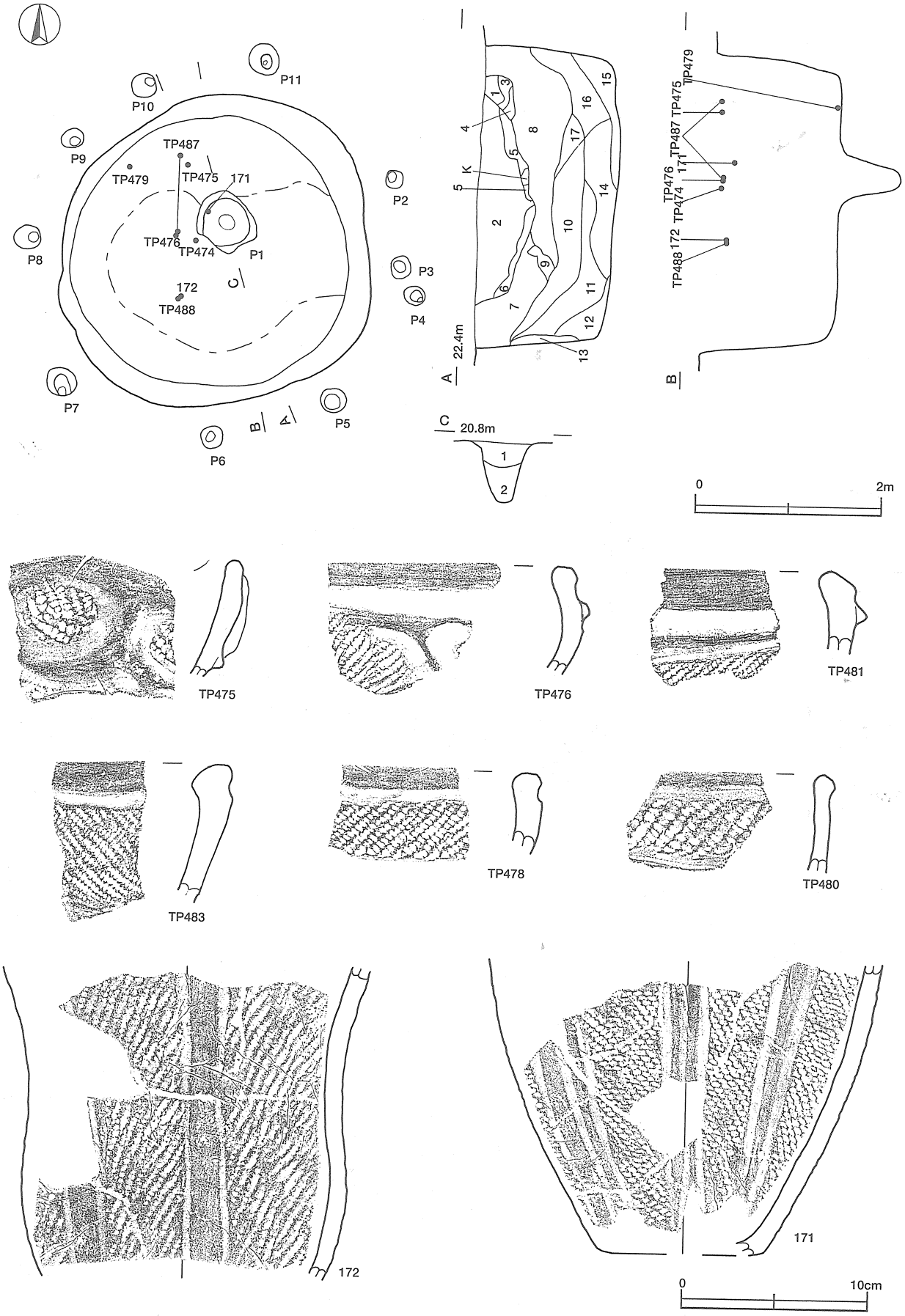
第273号土坑（第93・94図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｆ７i1区の平坦部に立地し，北西には第14号住居跡，西には第36号住居跡，南には364号土坑が位置している。

規模と形状　長径3.58m，短径3.36mの円形で，深さは145cmである。底面はほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。ピットは11か所検出され，Ｐ１は底面中央部からやや北寄りに位置し，深さ68cmである。Ｐ２～P11は深さ15～52cmで土坑の周りで検出されている。

Ｐ１土層解説
1　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化物少量

覆土　17層からなる。上層の２・５・６層は投棄された状況を示し，下層は自然堆積の状況を示している。この状況は，自然に埋まりきらない時点で窪地への土砂が投棄されたものと考えられる。



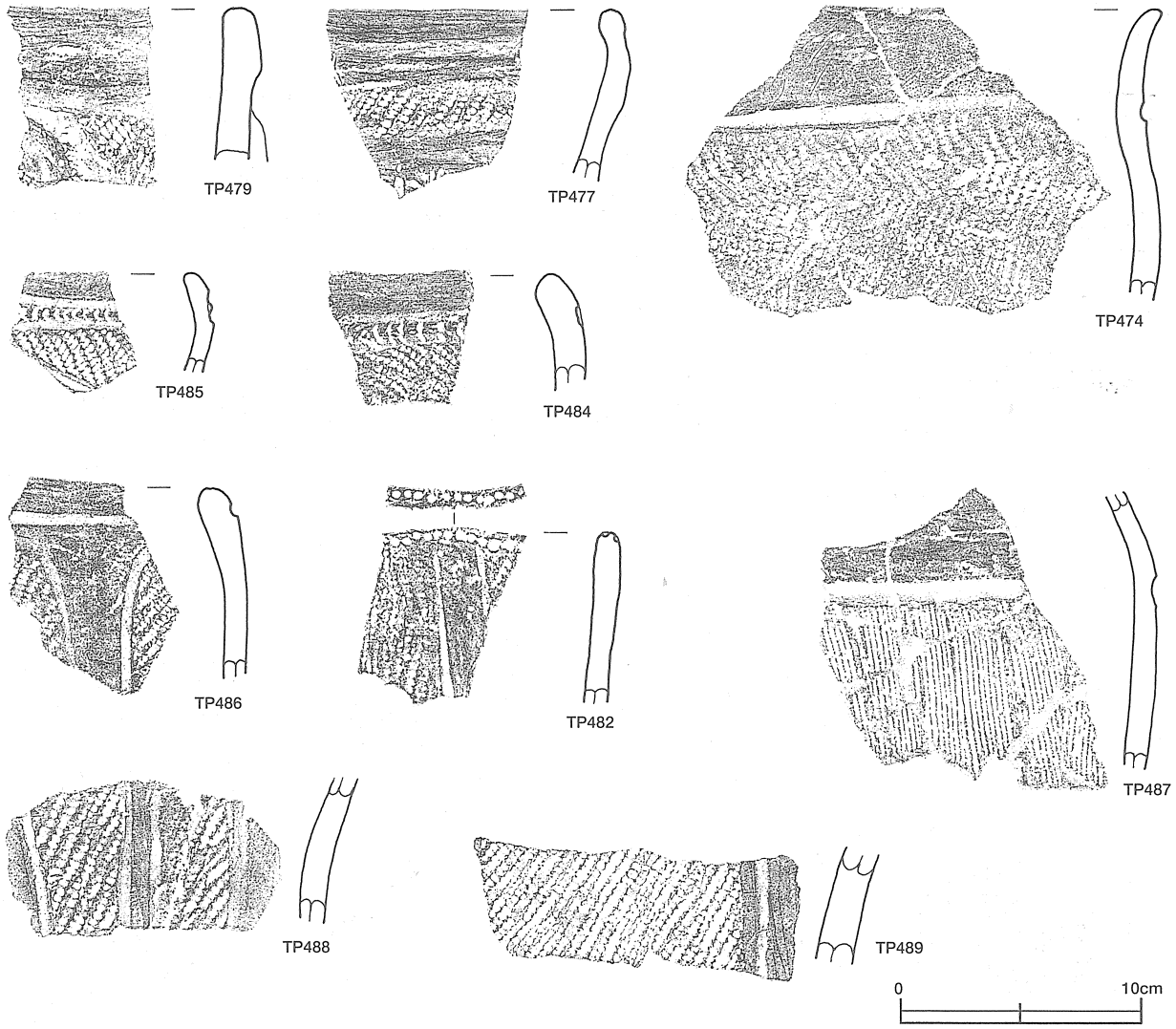
第93図　第273号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
6　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
7　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
8　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量　締まり有り
9　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
10　黒 褐 色　ロームブロック・炭化粒子少量
11　暗 褐 色　ロームブロック中量
12　暗 褐 色　ロームブロック中量
13　褐　　色　ロームブロック多量
14　暗 褐 色　ロームブロック中量
15　褐　　色　ロームブロック中量
16　暗 褐 色　ロームブロック中量
17　暗 褐 色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片931点（口縁部100，胴部811，底部20），礫17点が出土している。土器は中央部の覆土上層から多く出土して投棄された状況を示し，TP479は北西部の底面よりやや浮いた状態で出土している。時期的には縄文時代中期の加曽利EⅡ～Ⅲ式期の土器が混在しているが，多くは加曽利EⅢ式期のものである。

所見　ピットが本跡を取り囲むように存在しており，上屋構造を持った土坑の可能性も考えられる。さらに，中央部覆土上層から出土している土器は，底面の土器とほぼ同時期であることから土坑廃絶後，間もなく投棄されたものと思われる。時期は底面出土の土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。



第94図　第273号土坑出土遺物実測図

第273号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
171	縄文土器	深鉢	—	(15.8)	[9.0]	胴下部で，懸垂文帯にＬＲの単節縄文施文	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	中央部上層
172	縄文土器	深鉢	—	(16.9)	—	胴部で，懸垂文帯にＲＬの単節縄文施文	長石・石英	普通	にぶい黄褐	中央部上層 ＰＬ37

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
475・476・479・481	縄文時代中期後葉	口縁部片で,隆帯によって文様帯を区画し,区画内に単節縄文充填	475北部・476中央部上層，479北西部底面，481覆土中	ＰＬ35
477・478・480・483	縄文時代中期後葉	口縁部片で,沈線によって文様帯を区画し,区画内に単節縄文充填	覆土中	
474・487	縄文時代中期後葉	474は口縁部片で,口辺部無文帯を区画し,以下単節縄文施文,487は胴部片で,縦位の条線文施文	中央部上層	
482・484～486	縄文時代中期後葉	口縁部片で,484・485は2本の沈線で区画され,区画内に爪形文施文,482は口唇部に刺突文を有し,486は口辺部無文帯を区画し,以下単節縄文が施文	覆土中	
488・489	縄文時代中期後葉	胴部片で,懸垂文帯を有し,区画内にRLの単節縄文充填	488中央部上層，489覆土中	

第364号土坑（第95・96図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｇ７ｂ2区の平坦部に立地し，北には第273号土坑，西には第36号住居跡が位置している。

重複関係　第388号土坑に一部掘り込まれ，第403号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長径3.95m，短径3.85mの円形であり，深さは約120cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。ピット１は中央部に検出され，深さは110cmである。また，南西部には長径1.10m，短径0.96mの楕円形で円筒状のピット２が見られ，深さは80cmほどである。

Ｐ１土層解説

1　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
2　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量　締まり有り
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化材微量
4　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量

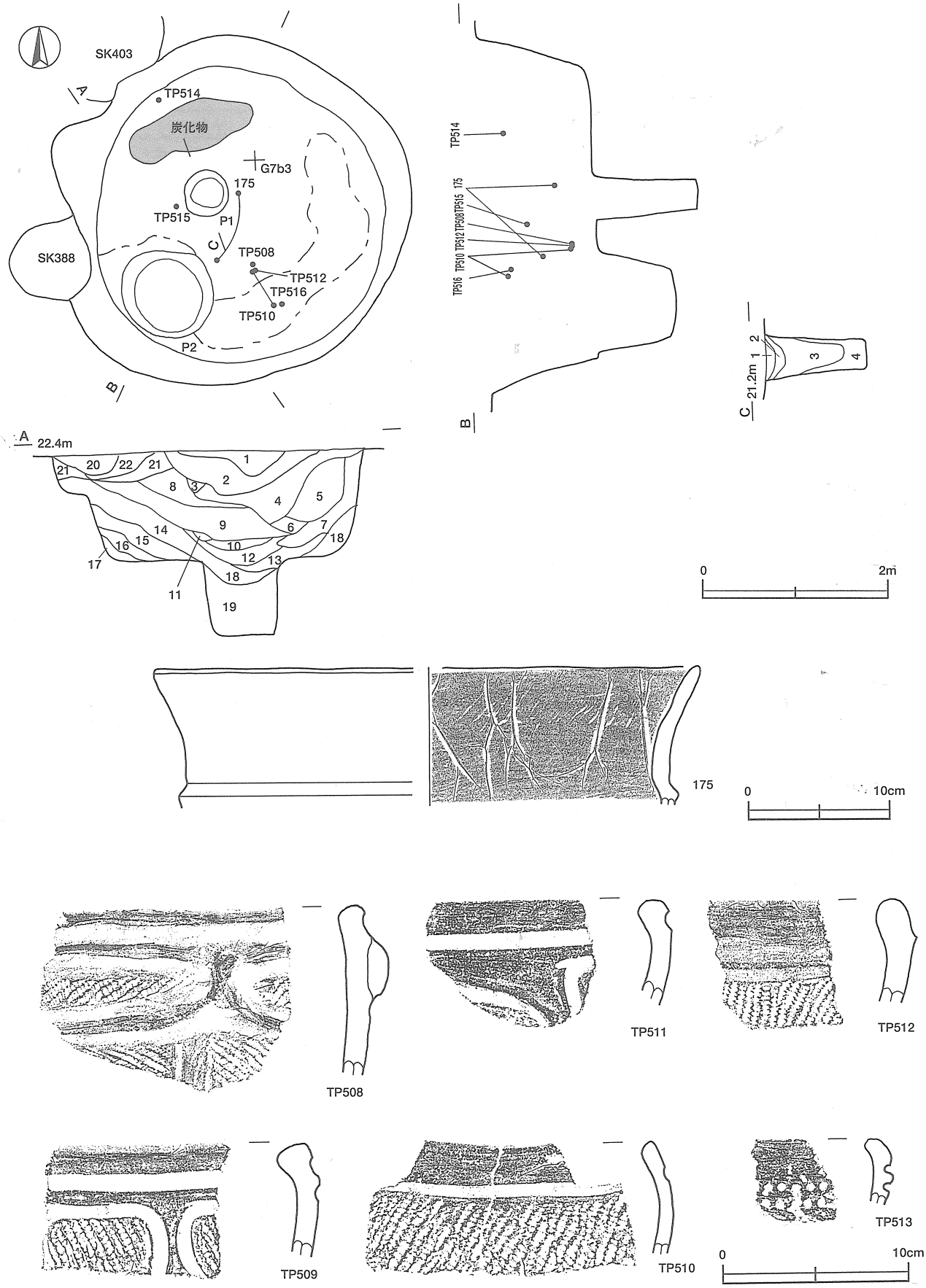
覆土　22層からなり，含有物や不連続な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

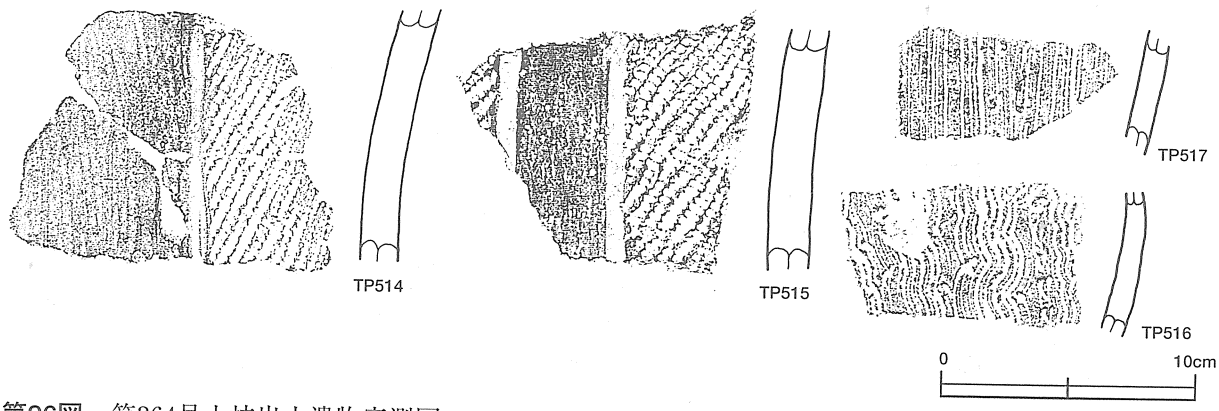
1　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
2　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量　締まり有り
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
4　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
5　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物・焼土ブロック微量
6　褐　色　ロームブロック少量
7　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量　締まり有り
8　暗褐色　ロームブロック少量，ローム粒子・炭化物微量
9　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
10　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
11　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
12　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
13　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
14　黒褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
15　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
16　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
17　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
18　暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
19　暗褐色　ロームブロック中量，炭化物微量（Ｐ２）
20　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量
21　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
22　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片570点（口縁部67，胴部497，底部6），礫9点が出土している。土器は中央部の覆土上層から中層かけて出土しているものが多く，投棄された状況を示している。175は覆土下層から出土し，中央部の土器が接合された資料である。時期的には加曽利EⅡ～Ⅲ式期の土器が混在しているが，多くは加曽利EⅢ式期の土器である。また，北部床面から炭化物が検出されている。

所見　北部床面から炭化物が確認され，敷物などの痕跡とも想定されるが，明確ではない。また，床面の中央部からピットが検出され，上屋構造をもった土坑の可能性も考えられる。本跡の時期は，遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。



第95図　第364号土坑・出土遺物実測図



第96図　第364号土坑出土遺物実測図

第364号土坑出土遺物観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
175	縄文土器	深　鉢	[39.0]	(10.1)	—	口縁部は，幅広の無文を有す	長石･石英･雲母	普通	橙	中央部中層

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
508･509･511	縄文時代中期後葉	口縁部片で，隆帯や沈線によって口辺部文様帯を区画し，508は懸垂文を区画	508中央部下層，他覆土中	ＰＬ35
510～512	縄文時代中期後葉	口縁部片で，隆帯と沈線が口辺部周回	510南部上層・下層，512南部下層	
513	縄文時代中期後葉	口縁部片で，口辺部に刺突文施文	覆土中	
514～517	縄文時代中期後葉	胴部片で，514・515は懸垂文帯を有し，517，516は条線文を施文し，516は波状を呈す	514北部・516南部上層，515中央部中層	ＰＬ35

第429号土坑（第97～99図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｈ７a3区の緩斜面部に立地し，北西には第35号住居跡が隣接している。

規模と形状　径3.00mほどの円形で，深さは113～145cmである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がる。ピットは中央部に位置し，深さは４cmほどである。

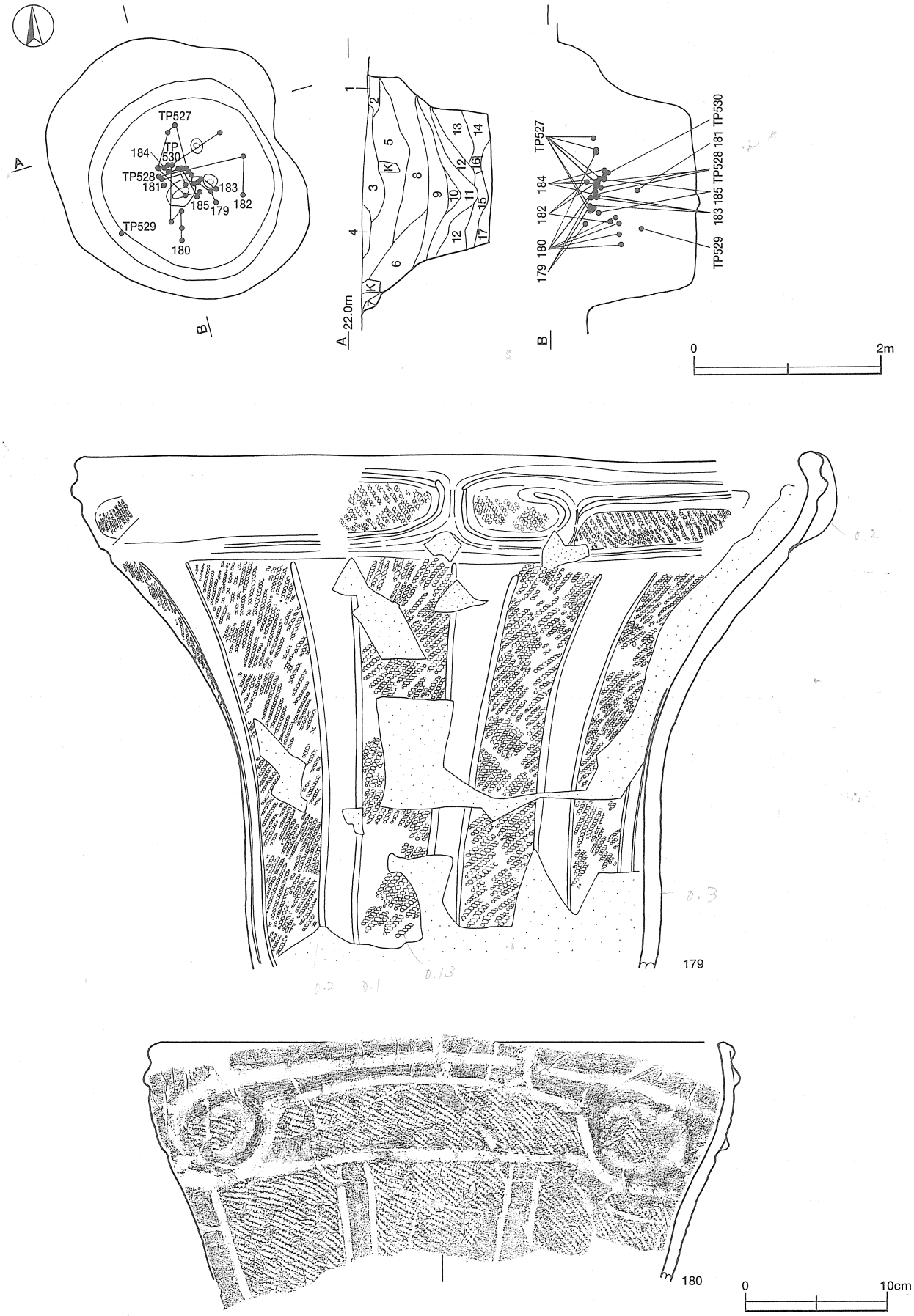
覆土　17層からなり，含有物や不自然な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

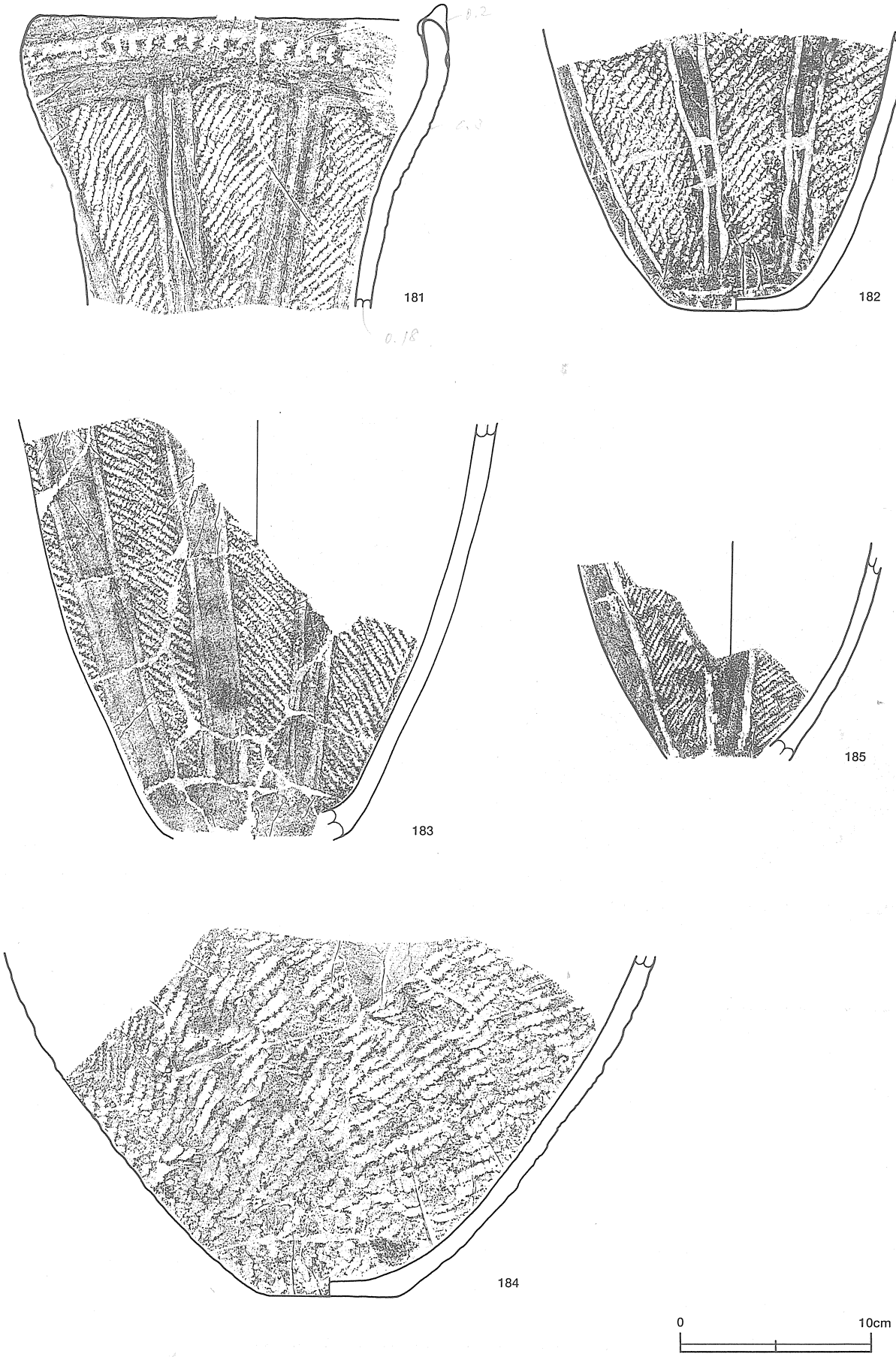
1　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量
4　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量　締まり有り
5　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
6　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
7　褐　　色　ロームブロック少量
8　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
9　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
10　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
11　極暗褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
12　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
13　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
14　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化物微量
15　暗 褐 色　ロームブロック中量，焼土粒子，炭化粒子微量
16　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物微量
17　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片667点（口縁部69，胴部588，底部10），礫45点が出土している。土器は中央部に投棄された状況を示しており，時期的には加曽利ＥⅡ～Ⅲ式期の土器が混在している。179は覆土上層からの土器片が接合された資料である。

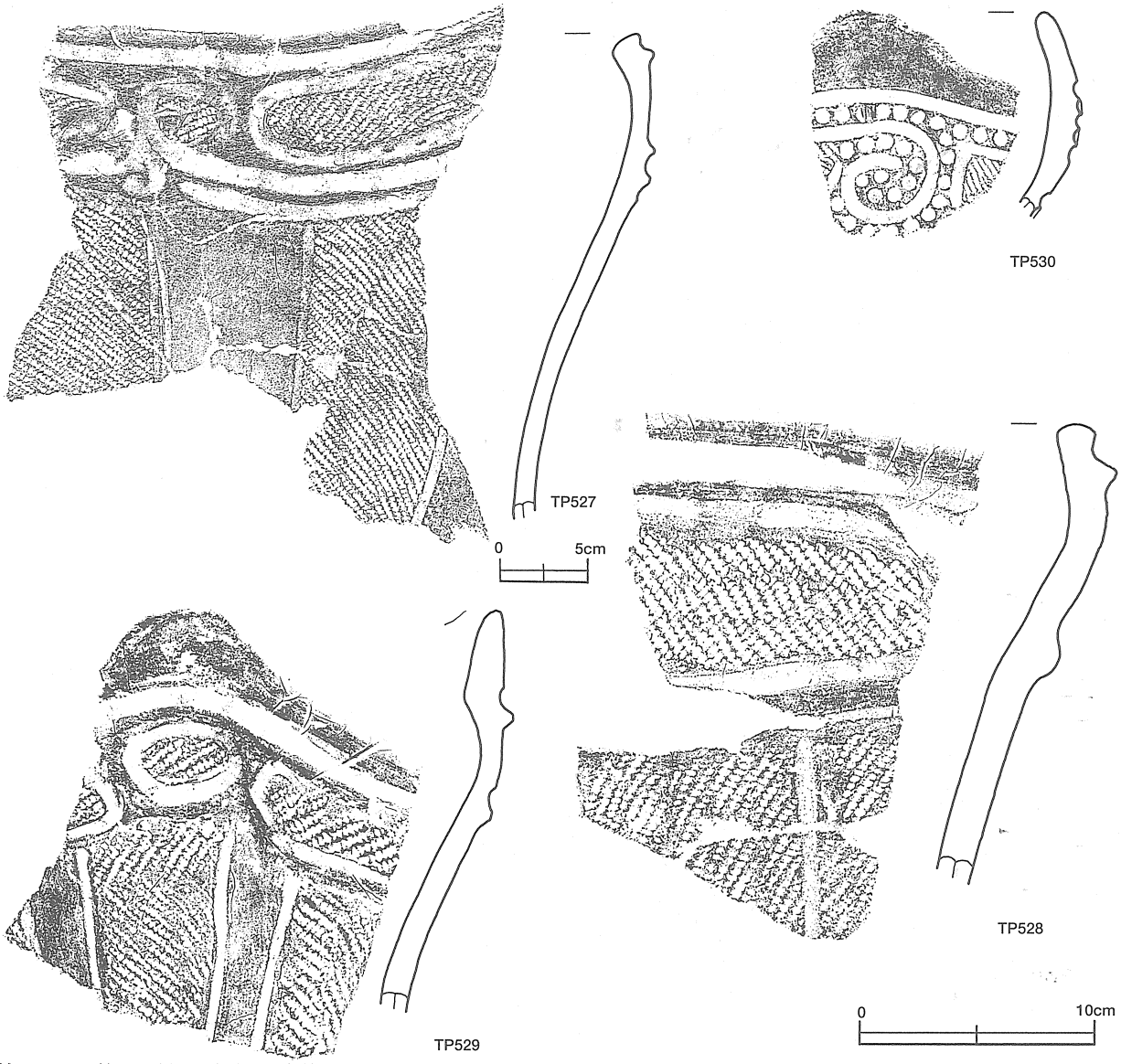
所見　本跡の時期は遺構の形態や主体的な土器などから縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅡ～Ⅲ式期）と考えられる。



第97図　第429号土坑・出土遺物実測図



第98図　第429号土坑出土遺物実測図(1)



第99図　第429号土坑出土遺物実測図(2)

第429号土坑出土遺物観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
179	縄文土器	深鉢	51.6	(37.1)	—	口辺部に渦巻文や楕円区画文を施文し，胴部は懸垂文帯にＲＬの単節縄文施文	長石･石英･赤色粒子	普通	赤褐	中央部上層 ＰＬ27
180	縄文土器	深鉢	[40.4]	(17.3)	—	口辺部は渦巻文や楕円区画文を施文し，胴部は懸垂文帯に，ＲＬの単節縄文施文	長石･赤色粒子･雲母	普通	橙	中央部上・中層
181	縄文土器	深鉢	[20.4]	(16.2)	—	口辺部に爪形文が巡らされ，沈線による上部が連結した懸垂文内にはＲＬの単節縄文施文	長石･石英･雲母	普通	橙	中央部中層
182	縄文土器	深鉢	—	(14.8)	[7.0]	胴部は懸垂文帯で，区画内にＲＬの単節縄文施文	長石･雲母	普通	にぶい黄橙	中央部・東部上層
183	縄文土器	深鉢	—	(22.0)	—	胴部は懸垂文帯で，区画内にＲＬの単節縄文施文	長石･白色粒子･雲母	普通	にぶい赤褐	中央部上層
184	縄文土器	深鉢	—	(18.0)	7.0	底部から胴部にかけて，ＲＬの単節縄文施文	長石･赤色粒子･雲母	普通	橙	中央部上層

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
185	縄文土器	深　鉢	—	(11.5)	—	胴部は懸垂文帯で，区画内にＲＬの単節縄文施文	長石･白色粒子･雲母	普通	橙	中央部上層

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
527～529	縄文時代中期後葉	口縁部片で，隆帯に沿う沈線によって口辺部文様帯を区画し，胴部は懸垂文帯を有す	527北部・中央部・528中央部上層，529西部中層	ＰＬ35
530	縄文時代中期後葉	口縁部片で，２条の沈線によって文様帯を描出し，沈線間に円形刺突文が施文され，他にはＲＬの単節縄文施文	中央部上層	ＰＬ35

第677号土坑（第100図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｇ７h4区の平坦部に立地し，第676・700号土坑と重複している。西には第31・33号住居跡が隣接している。

重複関係　第606・676・700号土坑に掘り込まれている。

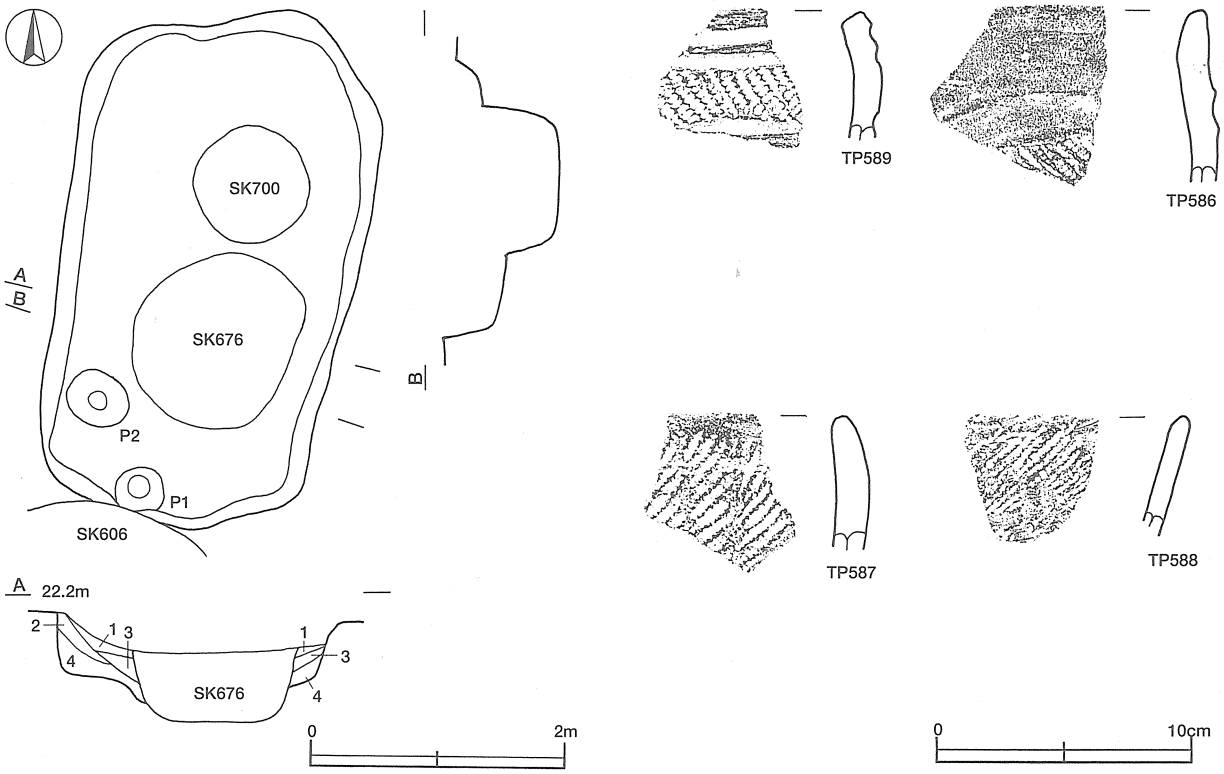
規模と形状　長軸4.15m，短軸2.33mの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－９°－Ｅである。深さは32cm，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。また，ピットは南部に２か所検出されたがその性格は不明である。

覆土　４層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片306点（口縁部28，胴部273，底部５），礫５点が出土している。土器のほとんどはTP586～589も含めて覆土中から出土し，時期的には加曽利ＥⅢ～Ⅳ式期の土器が混在している。

所見　本跡の時期は出土土器から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅢ～Ⅳ式期）と考えられる。



第100図　第677号土坑・出土遺物実測図

第677号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
586･589	縄文時代中期後葉	口縁部片で，口縁部文様帯を沈線で区画し，区画内にＲＬの単節縄文充填	覆土中	
587･588	縄文時代中期後葉	口縁部片で，単節縄文施文	覆土中	

（イ）円筒形土坑

第333号土坑（第101・102図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｆ７j1区の平坦部に立地し，北には第273号土坑，南西には第36号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　第356・358号土坑に掘り込まれている。

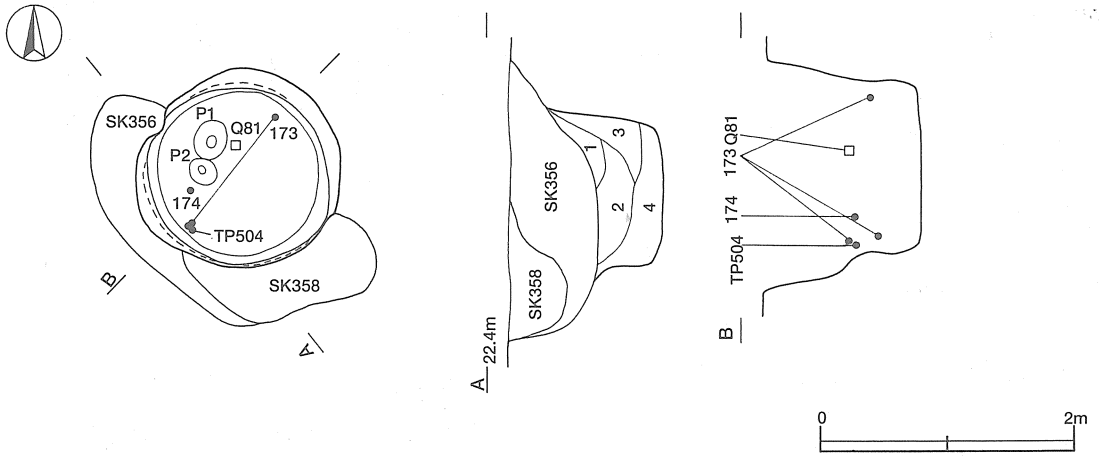
規模と形状　径1.60mの円形で，深さは123cmである。底面はほぼ平坦であり，中央部が踏み固められている。壁はやや内傾して立ち上がる。ピットは２か所検出され，Ｐ１は北西部，Ｐ２はＰ１の南側に隣接し，ともに深さ４cmほどである。

覆土　４層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
2　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック中量，炭化物微量
4　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片154点（口縁部18，胴部134，底部２），礫１点が出土している。土器は北部，西部，南部の壁際の覆土中層から下層にかけて出土しているものが多く，時期的には加曽利ＥⅣ式期を中心としている。173は南西部覆土中層や覆土下層と北東部覆土中層から出土した土器が接合された資料であり，本跡に伴うものと考えられる。

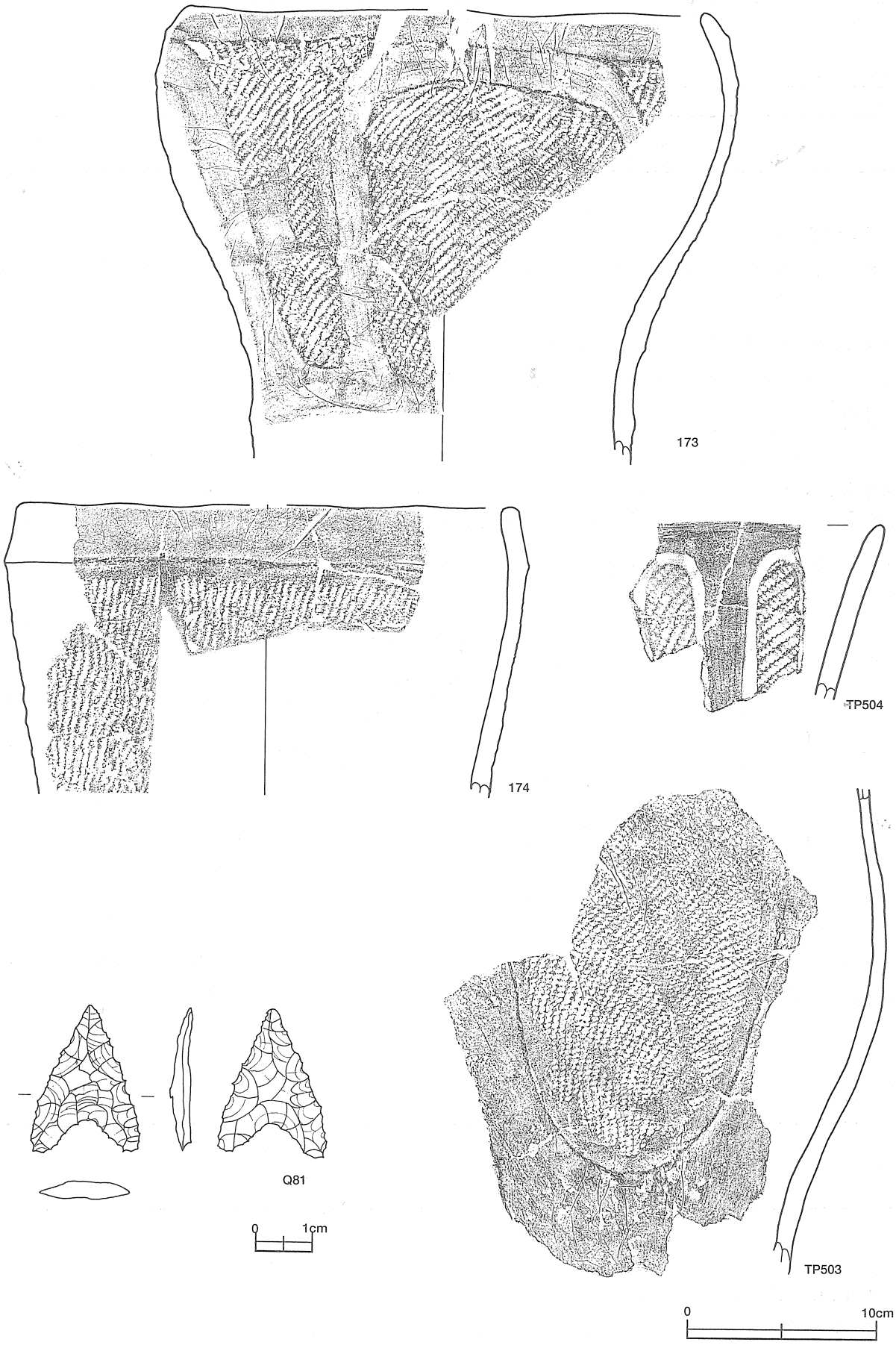
所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅣ式期）と考えられる。



第101図　第333号土坑実測図

第333号土坑出土遺物観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
173	縄文土器	深　鉢	[27.4]	(24.0)	—	微隆帯によって描出した区画文を上下二段とし，区画内にはＲＬの単節縄文充填	長石･石英･赤色粒子･雲母	普通	にぶい橙	南部北部中層 ＰＬ27
174	縄文土器	深　鉢	[26.0]	(15.4)	—	口縁部は，微隆帯で無文帯を区画し，胴部はＲＬの単節縄文施文	長石･石英･雲母	普通	にぶい褐	西部中層



第102図　第333号土坑出土遺物実測図

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
504	縄文時代中期後葉	口縁部片で，沈線によって文様帯を区画し，区画内にＲＬの単節縄文充填	南西部中層	ＰＬ35
503	縄文時代中期後葉	胴部片で，微隆帯によって文様帯を区画し，区画内にＲＬの単節縄文充填	覆土中	ＰＬ35

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	石　材	特　徴	出土位置	備考
Q81	石　鏃	2.1	1.8	0.3	1.1	チャート	無茎鏃	中央部中層	ＰＬ38

第335号土坑（第103図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｆ６j9区の平坦部に立地し，北西には第14号住居跡，南には第36号住居跡がそれぞれ位置している。

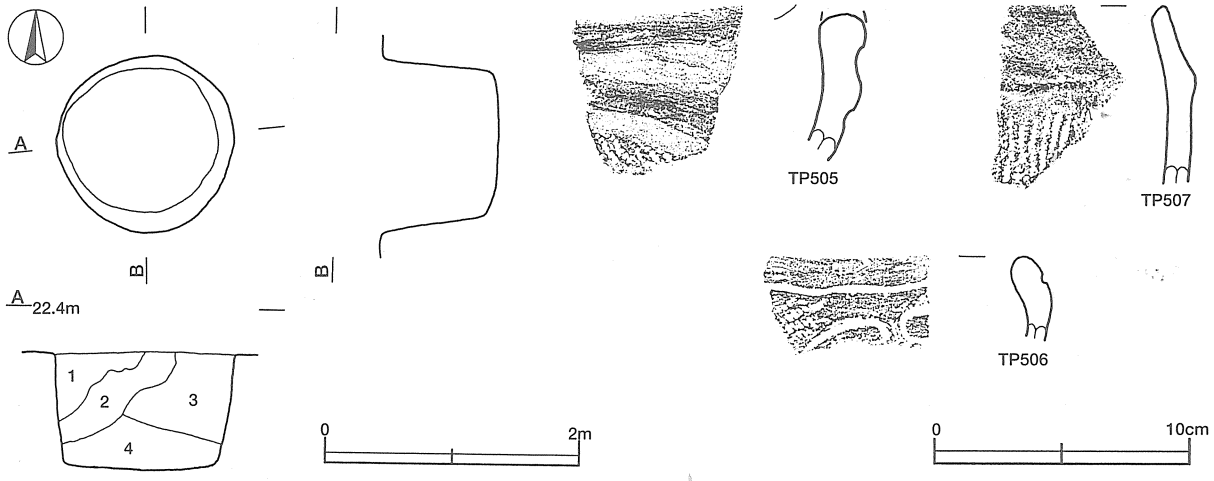
規模と形状　径1.39mの円形で，深さは91cmである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなり，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量
2　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
4　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片74点（口縁部９，胴部63，底部２），礫３点，炭化物が出土している。土器はTP505～TP507をはじめ覆土中から出土しており，時期的には加曽利EⅢ～Ⅳ式期を中心としたものである。

所見　本跡の時期は遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ～Ⅳ式期）と考えられる。



第103図　第355号土坑・出土遺物実測図

第355号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
505～507	縄文時代中期後葉	口縁部片で，505は隆帯と沈線によって口辺部文様帯を区画し，RLの単節縄文充填，506は沈線区画にLRの単節縄文施文，507は微隆帯で無文帯を区画し，以下RLの単節縄文施文	覆土中	

第425号土坑（第104図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｇ６i7区の平坦部に立地し，北には第22号住居跡が位置している。

規模と形状　径1.60mほどの円形で，深さは60cmである。底面は平坦で，壁はほぼ直立する。ピットは北東部

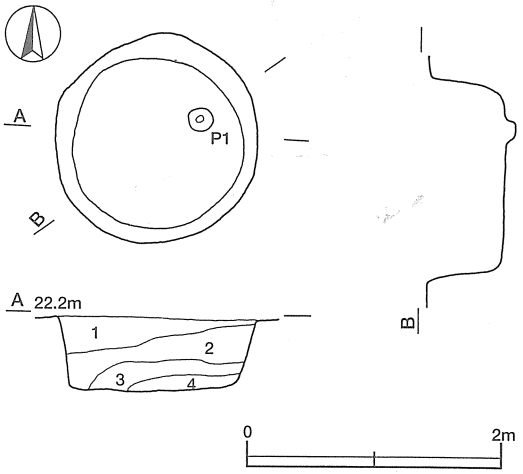
で１か所検出され，深さは６cmほどである。

覆土　４層からなり，含有物や不自然な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
2　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量
3　黒褐色　ロームブロック少量・炭化物微量
4　黒褐色　ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片17点（口縁部４，胴部12，底部１），礫２点が出土しているが，摩滅や細片のため図示できるものはない。

所見　本跡の時期は遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期後葉と考えられる。



第104図　第425号土坑実測図

第428号土坑（第105・106図）

位置　調査Ⅱ区南部，G７i3区の平坦部に立地し，北には第273号土坑，西には第36号住居跡が位置している。

重複関係　第31号住居跡，第535号土坑に掘り込まれている。

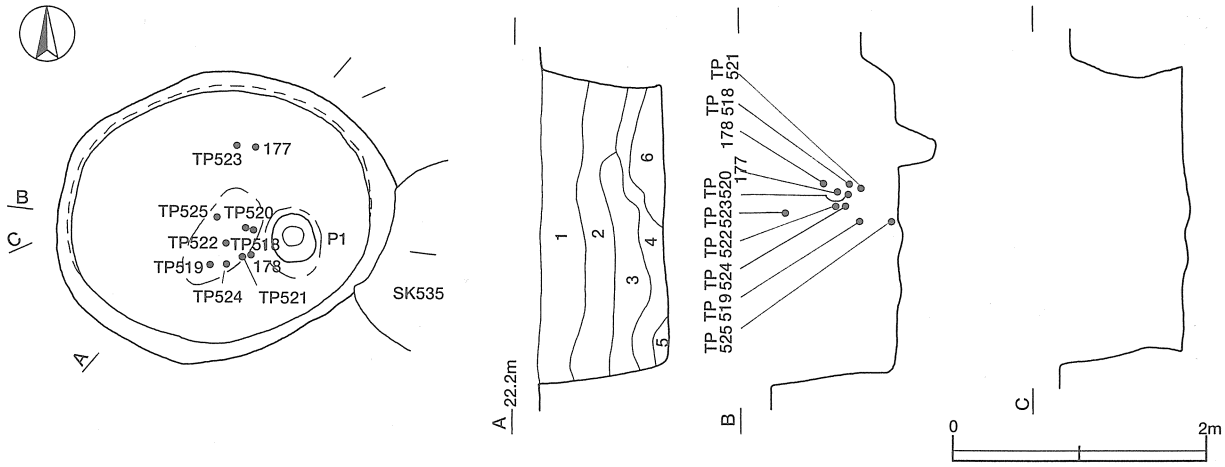
規模と形状　長径2.74m，短径2.25mの楕円形で，長径方向はN－80°－Eである。深さは約100cm，底面はほぼ平坦であり，壁は直立する。ピットは南東部に１か所検出され，深さ34cmほどである。

覆土　６層からなり，含有物と不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

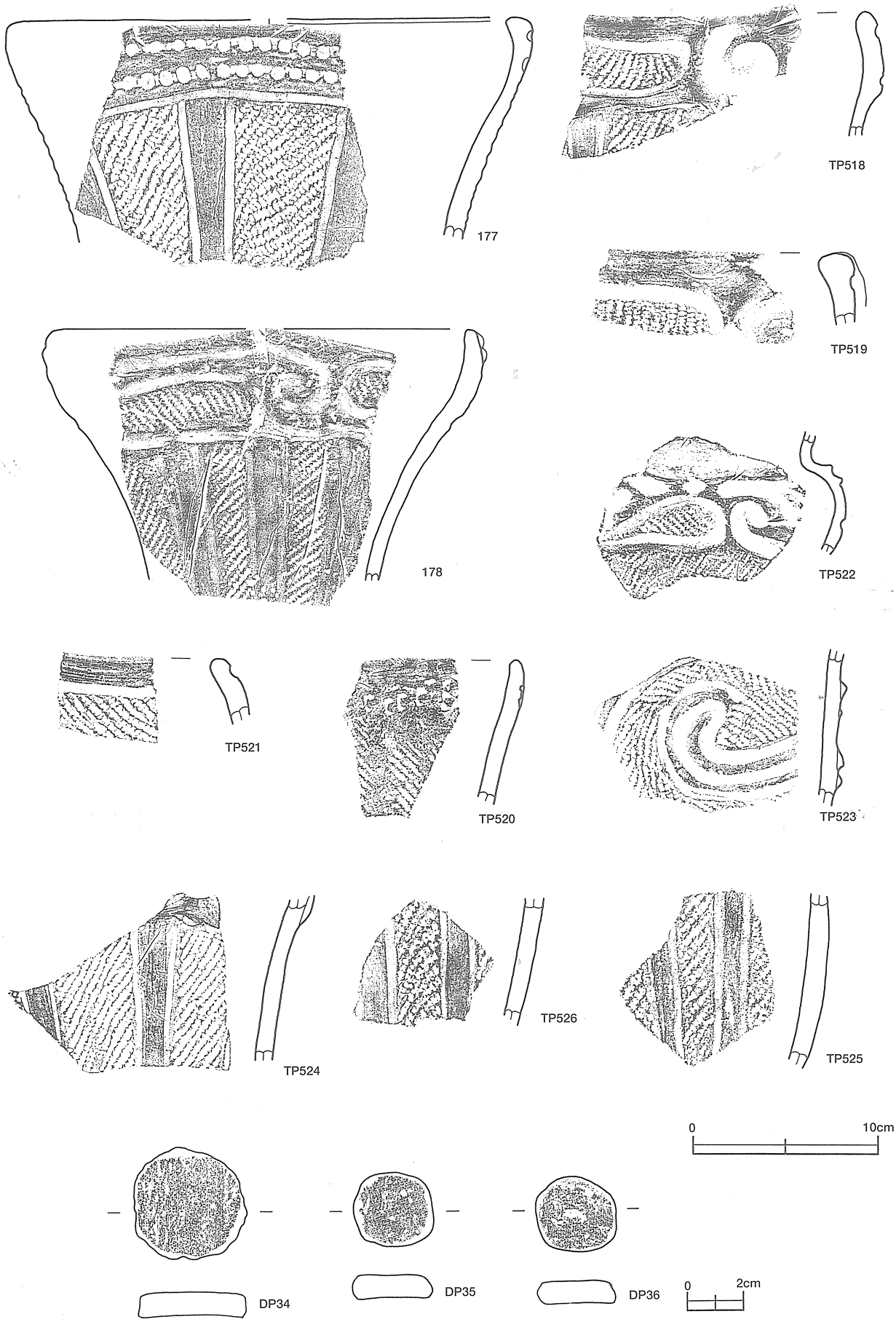
土層解説
1　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
2　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
3　暗褐色　ロームブロック・炭化物少量
4　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
5　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片455点（口縁部61，胴部387，底部７），土製円板３点，礫６点が出土している。土器は中央部に投棄された状況を示しており，加曽利EⅡ～Ⅲ式土器が混在している。TP525は床面から出土しており，本跡に伴う土器と考えられる。

所見　本跡の時期は，形態や主体となる土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅡ～Ⅲ式期）と考えられる。



第105図　第428号土坑実測図



第106図　第428号土坑出土遺物実測図

第428号土坑出土遺物観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
177	縄文土器	深　鉢	[28.2]	(12.1)	—	口辺部に2段の，円形刺突文が巡り，胴部は懸垂文区画内にＲＬの単節縄文施文	長石・赤色粒子・雲母	普通	にぶい褐	中央部中層 ＰＬ27
178	縄文土器	深　鉢	[22.0]	(13.6)	—	口辺部は隆帯による渦巻文や楕円区画文を施し，胴部は懸垂文区画内にＲＬの単節縄文施文	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄褐	中央部中層 ＰＬ27

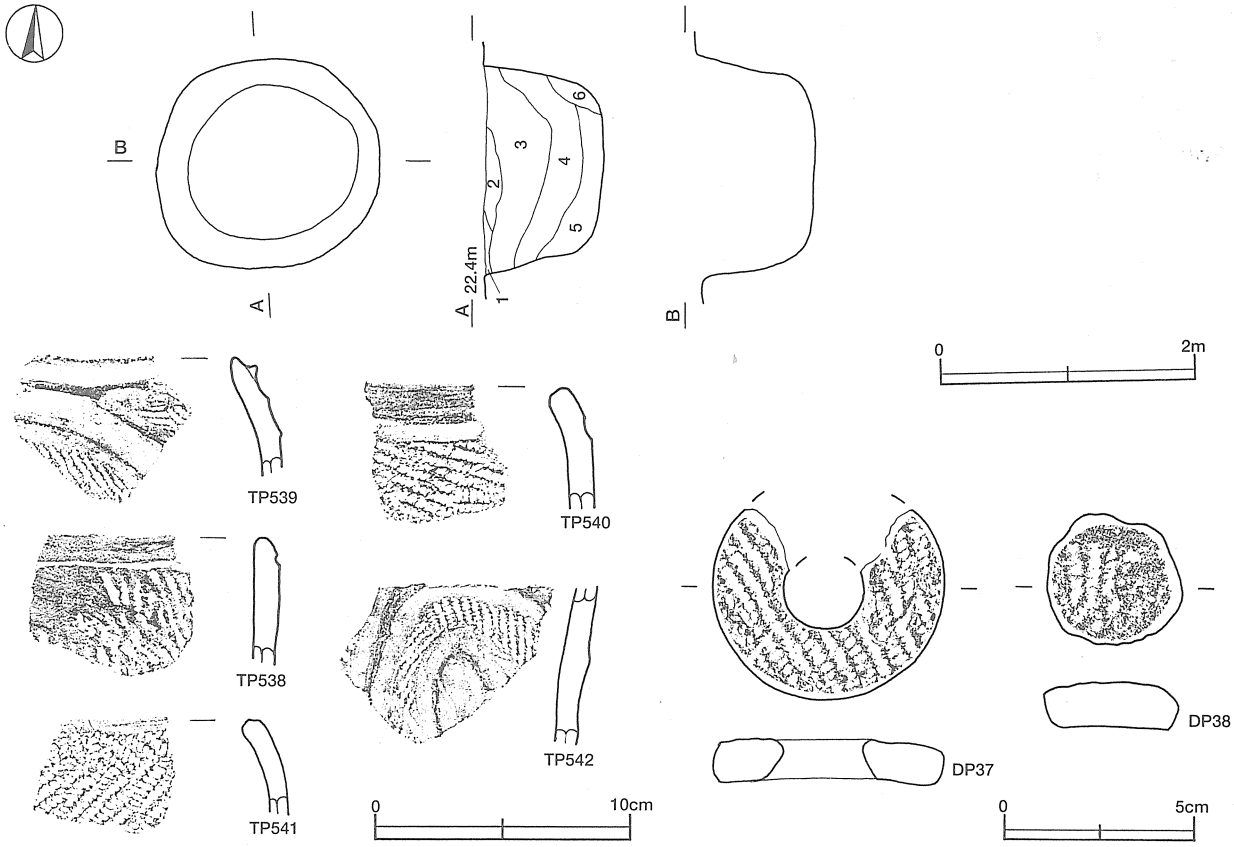
TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
518・519・521	縄文時代中期後葉	口縁部片で,隆帯による楕円区画や渦巻文を描出し,区画内に単節縄文充填	中央部中層	
522	縄文時代中期後葉	胴部片で,頸部は無文,胴上部には沈線による区画文が描出され,胴部にRLの単節縄文施文	中央部中層	
520	縄文時代中期後葉	口縁部片で,口辺部に刺突文を有し,以下LRの単節縄文施文	中央部中層	
523～526	縄文時代中期後葉	胴部片で,523は隆帯と沈線による渦巻文施文,524～526は懸垂文区画を有す	523中央部上層・524中層・525下層，526覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備考
DP34	土器円板	4.0	4.1	0.9	18.0	土製	周縁部雑な研磨	覆土中	ＰＬ37
DP35	土器円板	2.7	3.0	0.9	9.0	土製	周縁部雑な研磨	覆土中	ＰＬ37
DP36	土器円板	2.7	2.9	0.9	9.0	土製	周縁部雑な研磨	覆土中	ＰＬ37

第456号土坑（第107図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｇ６g5区の平坦部に立地し，東には第22号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.84m，短径1.68mの円形で，深さは92cmである。底面はほぼ平坦で，外傾して立ち上がる。



第107図　第456号土坑・出土遺物実測図

覆土　6層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説

1　暗褐色　ロームブロック少量
2　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量
3　暗褐色　ロームブロック中量，炭化物少量
4　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量
5　極暗褐色　ロームブロック中量，炭化物微量
6　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片623点（口縁部67，胴部543，底部13），礫11点が出土している。土器は中央部の覆土中層から出土しているものが多く，時期的には加曽利EⅢ～Ⅳ式期の土器が混在している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ～Ⅳ式期）と考えられる。

第456号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
539･542	縄文時代中期後葉	539は口縁部片で,542は胴部片,微隆帯によって文様帯を区画し,区画内にRLの単節縄文施文	覆土中	
538･540･541	縄文時代中期後葉	口縁部片で,538･540は口辺部無文帯を沈線で区画し,以下単節縄文施文,541はRLの単節縄文施文	覆土中	

番号	種　別	長さ	幅	厚さ	重量	特　徴	出土位置	備考
DP37	有孔円板	(5.0)	6.1	1.2	(30.0)	土器円板に1孔を穿つ，RLの単節縄文施文，孔径2.2cm	覆土中	PL37
DP38	土器円板	3.5	3.6	1.2	17.0	周縁部雑な研磨	覆土中	PL37

第460号土坑（第108図）

位置　調査Ⅱ区南部，H7b1区の緩斜面部に立地し，第32号住居跡と重複している。北には第35号住居跡が隣接している。

重複関係　第32号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状　長径2.39m，短径2.21mの円形で，深さは108cmである。底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立する。ピットが中央部に検出され，深さは3cmほどである。

覆土　12層からなり，含有物や不自然な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

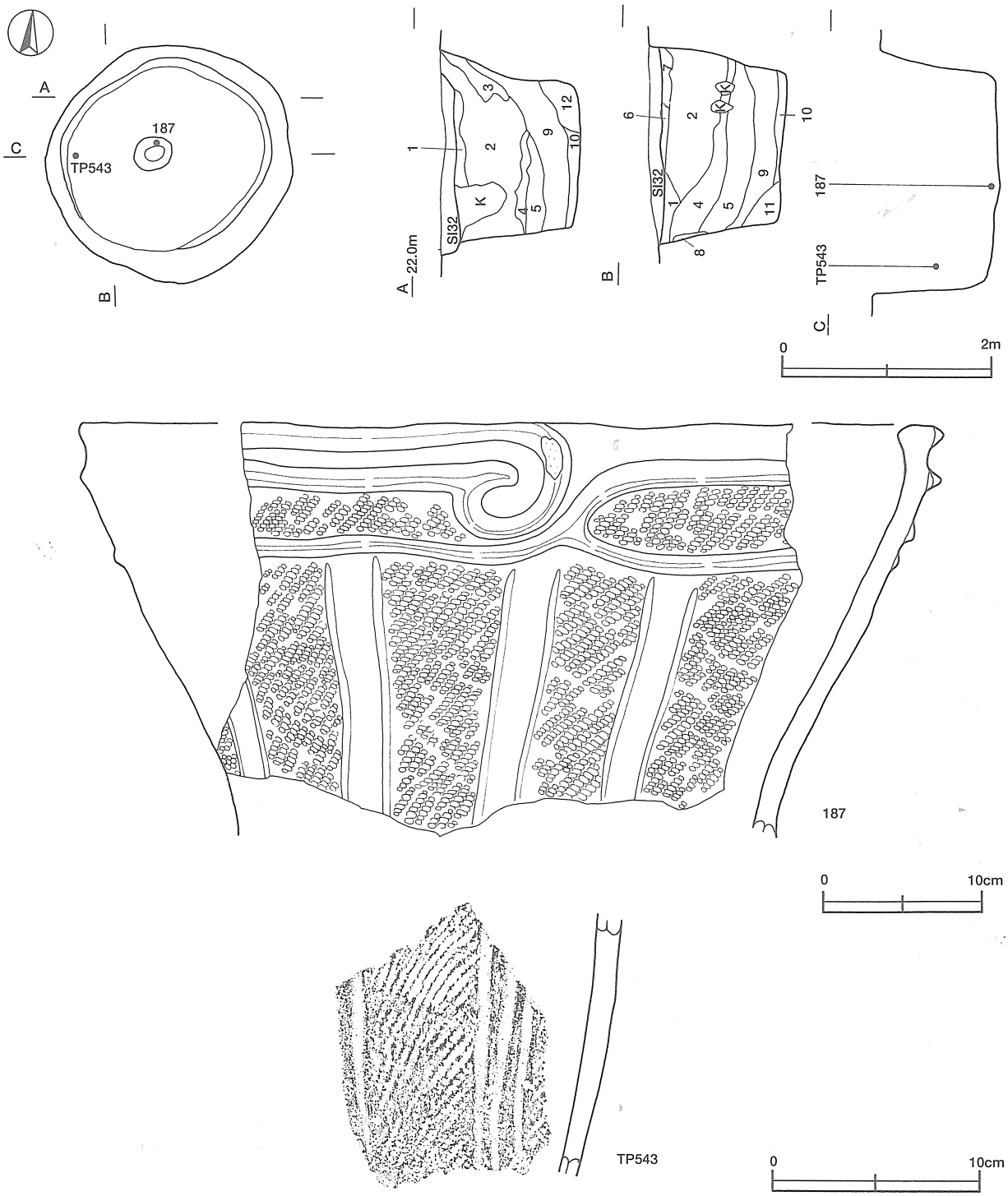
土層解説

1　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック多量，焼土粒子少量，炭化物微量
3　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子
4　黒褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
5　黒褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物少量
6　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
7　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
8　黒褐色　ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化物微量
9　極暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
10　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
11　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
12　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片379点（口縁部27，胴部346，底部6），礫11点，粘土塊1点が覆土中から出土している。時期的には加曽利EⅡ～Ⅲ式期の土器が混在しており，187は中央部の覆土下層から出土している。

また，南東部壁際から底面にかけて焼土が検出され，投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は遺構の形態や主体的な出土土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅡ式期）と考えられる。



第108図　第460号土坑・出土遺物実測図

第460号土坑出土遺物観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
187	縄文土器	深　鉢	[54.0]	(26.7)	—	口辺部は渦巻文や楕円区画文を施文し，胴部は懸垂文帯で，区画内にＲＬの単節縄文施文	長石･赤色粒子･白色粒子･雲母	普通	にぶい橙	中央部下層 ＰＬ27

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
543	縄文時代中期後葉	胴部片で，懸垂文区画内にＲＬの単節縄文施文	西部中層	

第535号土坑（第109図）

位置　調査Ⅱ区南部，G７i3区の平坦部に立地している。

重複関係　第31号住居跡・第428号土坑の東部を掘り込んでいる。

規模と形状　径1.70mの円形で，深さは80cmである。底面はほぼ平坦であり，壁は直立する。

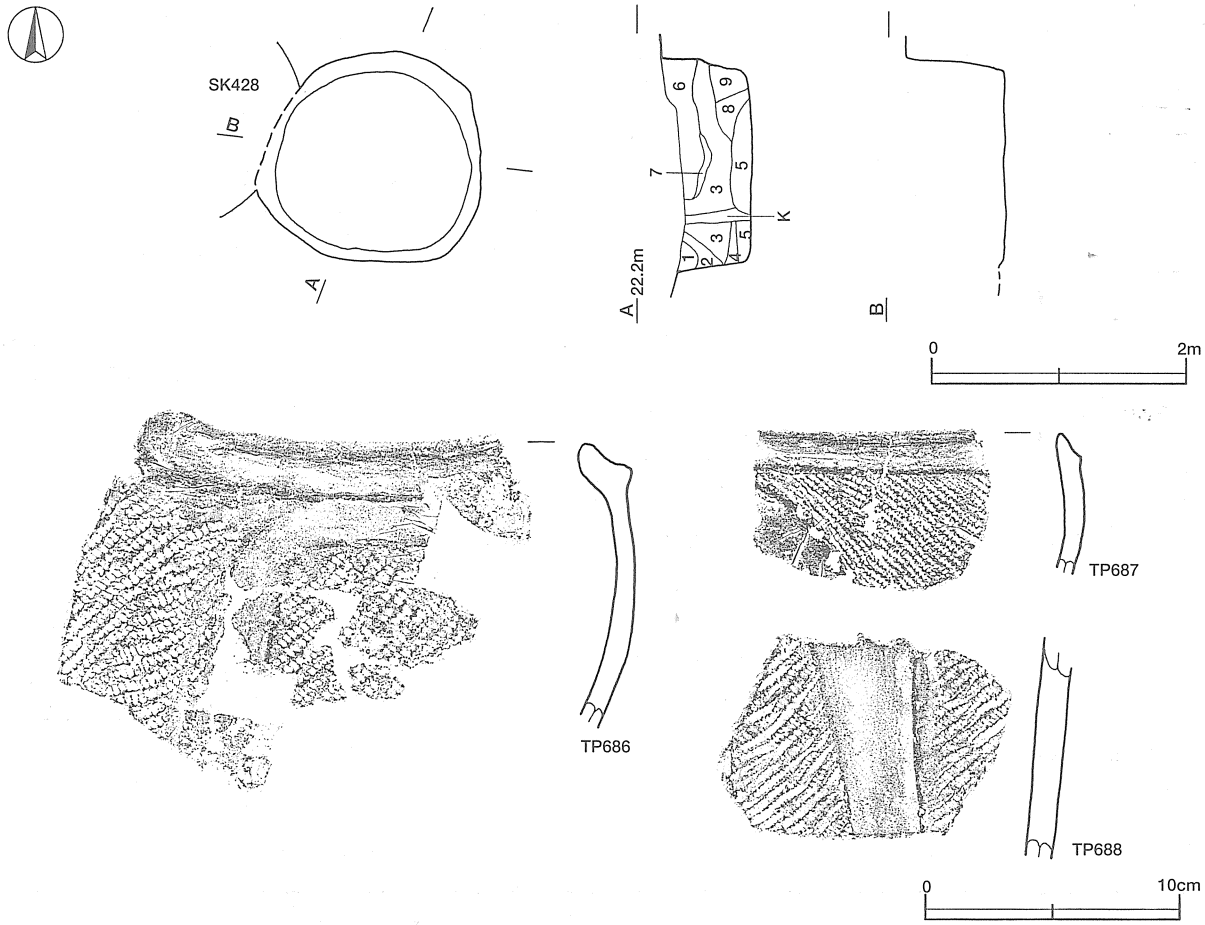
覆土　９層からなり，含有物と不連続な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
4　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
5　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
6　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
7　極暗褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
8　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
9　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片178点（口縁部18，胴部157，底部３），礫１点が出土している。土器は覆土上層から中層にかけて出土しているものが多く，投棄された状況を示している。時期的には加曽利EⅣ式期を中心としたもので，TP686は中央部の覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。



第109図　第535号土坑・出土遺物実測図

第535号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
686~688	縄 文 時 代 中 期 後 葉	686･687は口縁部片で,688は胴部片,いずれも微隆帯によって文様帯を区画し,区画内に単節縄文充填	覆土中	

第536号土坑（第110図）

位置　調査Ⅱ区南部，G 7 i3区の平坦部に立地している。

重複関係　第31号住居跡の南西部を掘り込んでいる。

規模と形状　長径1.25m，短径1.05mの楕円形で，長径方向はN－20°－Eである。深さは110cmで底面はほぼ平坦であり，壁は直立する。

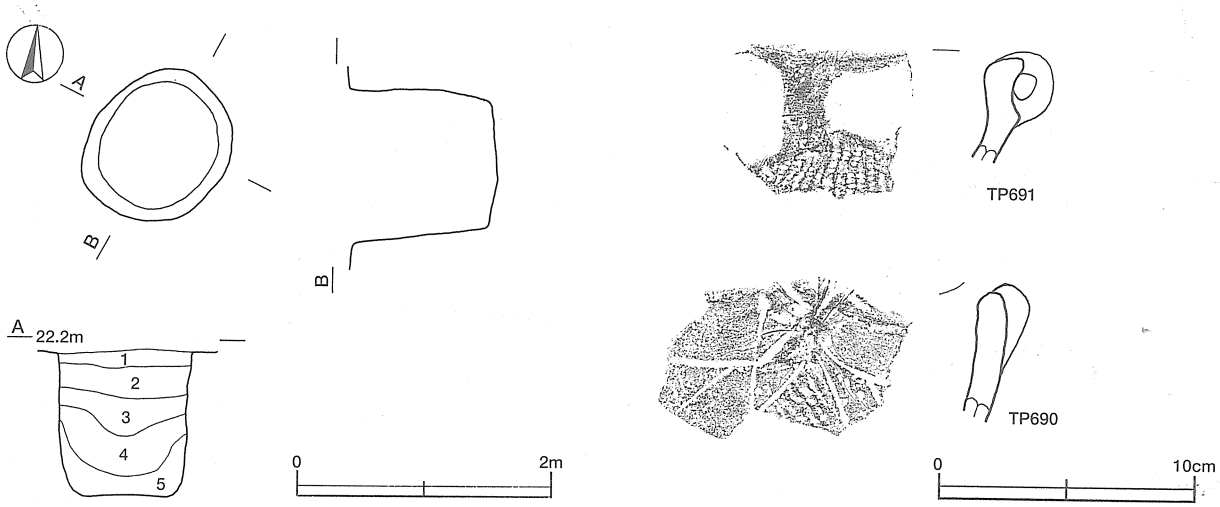
覆土　5層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説

1　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
4　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
5　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片54点（口縁部7，胴部47），礫１点が出土している。TP690・TP691を含めた土器は，覆土中から出土しているものが多く，時期的には加曽利EⅣ式期を中心としている。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。



第110図　第536号土坑・出土遺物実測図

第536号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
690･691	縄文時代中期後葉	691は把手を有する口縁部片で,微隆帯によって区画,690も口縁部片で,沈線によって文様帯を区画し,区画内に縄文施文	覆土中	

第601号土坑（第111図）

位置　調査Ⅱ区南部，G 6 j0区の緩斜面部に立地し，第673号土坑が重複しており南東には第600号土坑が隣接している。

重複関係　第673号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長径2.66m，短径2.22mの楕円形で，長径方向はN－５°－Wである。深さは180cmで底面は皿状を呈し，壁は外傾して立ち上がる。

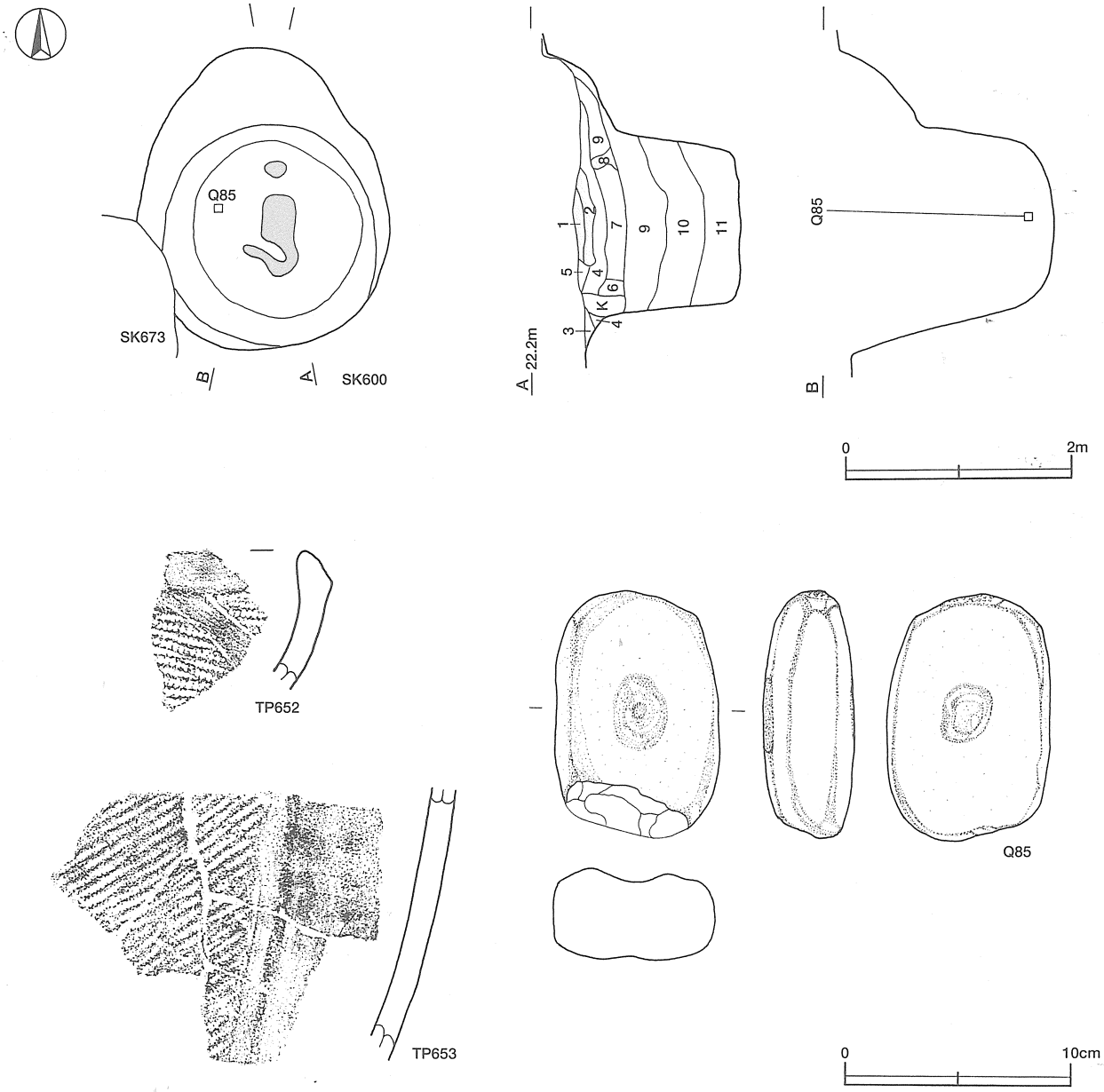
覆土　11層からなり，自然堆積の状況を示している。上層の１・２層は焼土層であり，大量に火を焚いた痕跡を示している。

土層解説

1	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物・灰微量	
2	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，灰少量，ローム粒子・炭化物微量	
3	暗　褐　色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	
4	暗　褐　色	ロームブロック少量，炭化粒子微量　締まり有り	
5	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	
6	極暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量	
7	黒　褐　色	炭化物少量，ロームブロック微量	
8	暗赤褐色	焼土ブロック中量，炭化物・ロームブロック・灰微量	
9	暗　褐　色	ロームブロック中量，炭化粒子微量	
10	暗　褐　色	ロームブロック中量，炭化粒子微量	
11	極暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量	

遺物出土状況　縄文土器片283点（口縁部16，胴部254，底部13），石器１点（磨石及び凹石を兼用），礫５点が出土している。土器は中央部の覆土中から出土しているものがほとんどであるが，摩滅しているものや細片が多い。時期的には加曽利EⅢ～Ⅳ式期の土器が混在しているが，多くは加曽利EⅣ式期のものである。Q85は覆土下層から出土し，磨石や凹石など多用途の使用が想定される。

所見　本跡は上面に焼土層が確認されているが，その用途については不明である。しかし，大量に火を焚いたものであることが想定される。時期は主体的な出土土器から縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。



第111図　第601号土坑・出土遺物実測図

第601号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
652･653	縄文時代中期後葉	652は口縁部片,653は胴部片,微隆帯によって文様帯を区画し,区画内に単節縄文をそれぞれ充填	覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	石　材	特　徴	出土位置	備考
Q85	磨石(凹石)	11.0	7.4	4.1	498.0	安山岩	全側面使用，表裏凹み，頂部打撃痕	西部下層	ＰＬ40

第606号土坑（第112図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｇ７i3区の平坦部に立地し，第677号土坑が隣接している。

規模と形状　長径2.15m，短径2.12mの不整円形であり，長径方向はＮ－57°－Ｗである。深さは55～60cmで，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

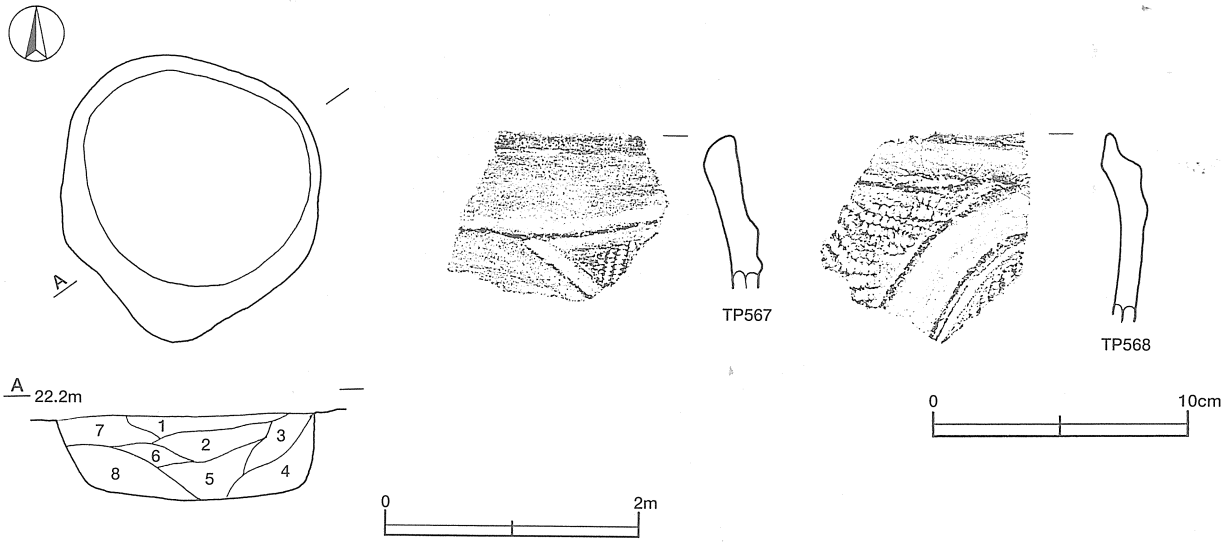
覆土　８層からなり，含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ロームブロック少量
5　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック微量
6　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　暗褐色　炭化物少量，ロームブロック微量
8　褐　色　炭化物少量，ロームブロック微量

遺物出土状況　縄文土器片54点（口縁部10，胴部44）が覆土中から出土している。土器は摩滅や細片のために，図示できるものはないが，時期的には加曽利ＥⅣ式期の土器が中心である。

所見　本跡の時期は，主体的な出土土器から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅣ式期）と考えられる。



第112図　第606号土坑・出土遺物実測図

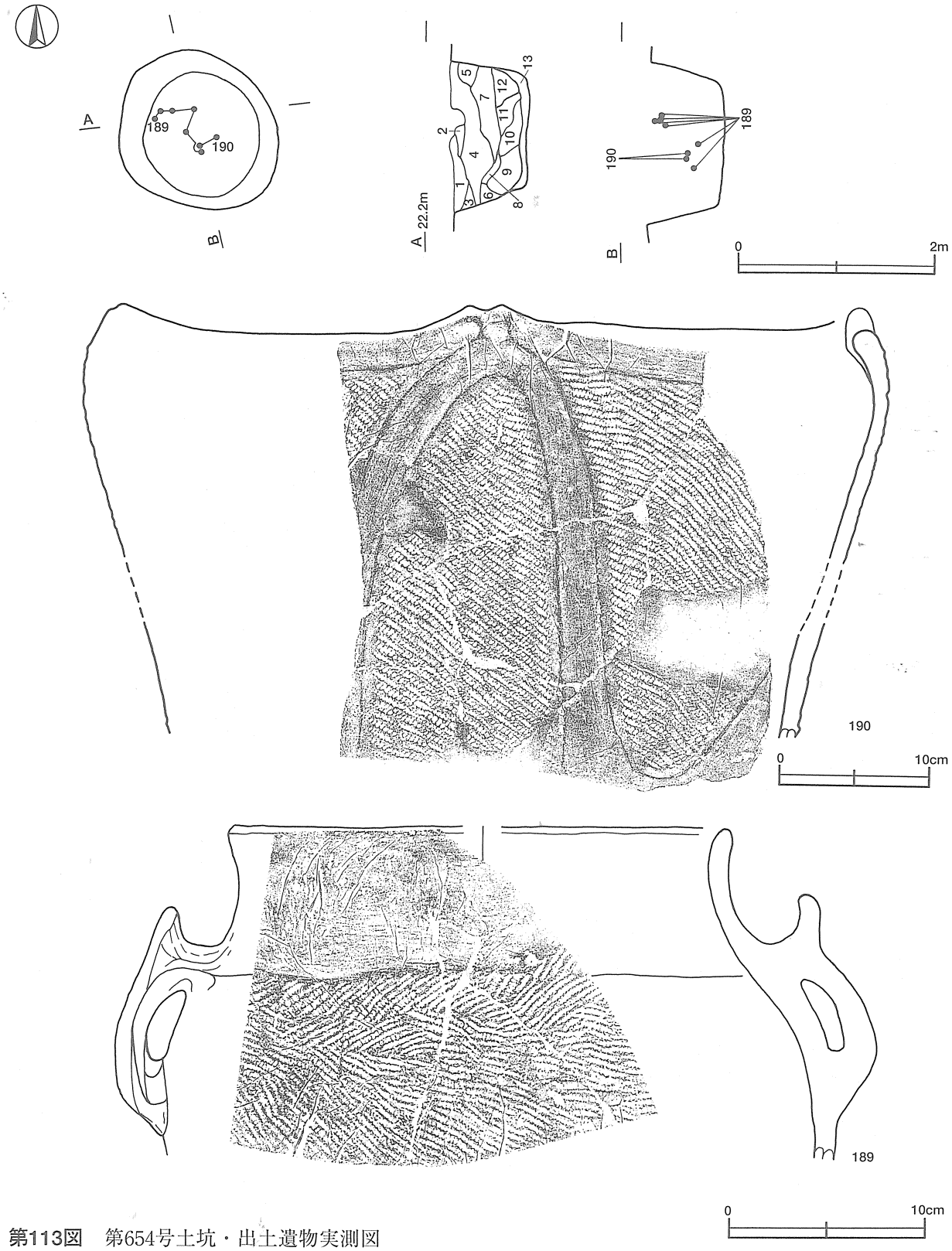
第606号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
567･568	縄文時代中期後葉	口縁部片で，微隆帯により文様帯を区画し，区画内にＲＬの単節縄文充填	覆土中	

第654号土坑（第113図）

位置　調査Ⅱ区南部，G７j4区の緩斜面部に立地し，第653号土坑が隣接している。

規模と形状　長径1.75m，短径1.57mの楕円形であり，長径方向はN－39°－Wである。深さは80cmで，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。



第113図　第654号土坑・出土遺物実測図

覆土　13層からなり，含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

1　暗 褐 色　ロームブロック・炭化物微量
2　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子中量
3　黒 褐 色　ロームブロック微量
4　極暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
5　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子少量
6　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
9　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物微量
10　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
11　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
12　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量
13　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量

遺物出土状況　縄文土器片368点（口縁部32，胴部334，底部２）が出土している。土器は摩滅や細片が多く，時期的には加曽利EⅣ式期の土器が中心である。189は西部覆土上層と中央部覆土下層から出土した土器が接合された資料であり，190は中央部の覆土中層から出土した土器同士が接合された資料である。

所見　本跡の時期は，出土土器から縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。

第654号土坑出土遺物観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
189	縄 文 土 器	広口壺	[26.0]	(17.1)	—	口辺部は無文帯で，橋状把手部及び胴部にはＲＬの単節縄文が施文	長石･赤色粒子･雲母	普通	浅黄橙	中央部中層・西部上層 ＰＬ27
190	縄 文 土 器	深　鉢	[51.0]	(29.5)	—	微隆帯によって文様帯を描出し，区画文内にはＬＲの単節縄文施文	長石･石英･雲母	普通	にぶい黄褐	中央部中層 ＰＬ27

第675号土坑（第114図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｇ６i9区の平坦部に立地し，東には第30号住居跡が隣接している。

規模と形状　長径2.70m，短径2.44mの楕円形で，長径方向はN－85°－Eである。深さは65cmで底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

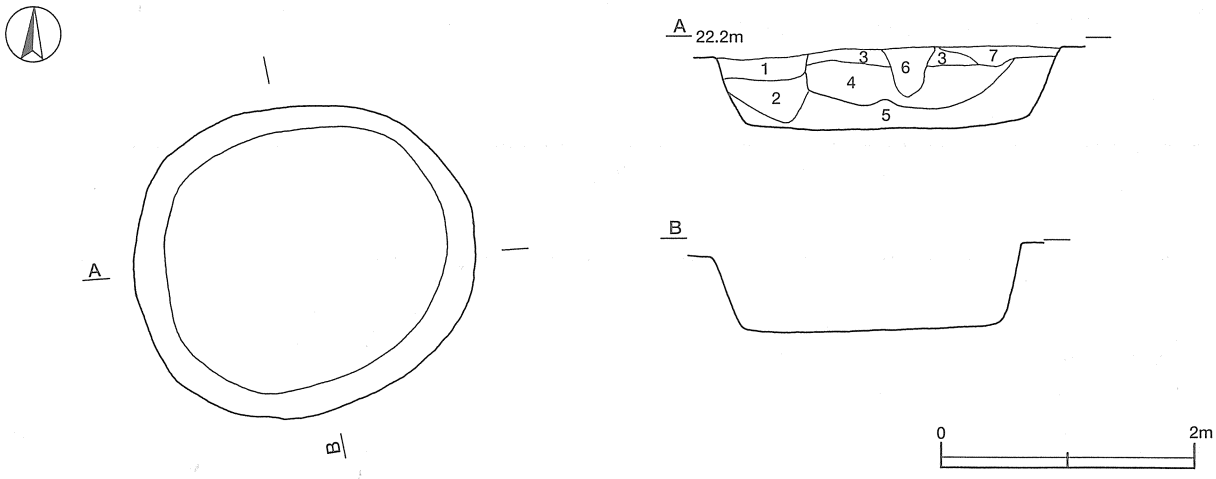
覆土　７層からなり，含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
5　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
6　黒　色　炭化物多量，ロームブロック・焼土ブロック微量
7　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック微量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　本跡の時期は，遺構の形態等から縄文時代中期と考えられる。



第114図　第675号土坑実測図

（ウ）フラスコ状の土坑

第445号土坑（第115図）

位置　調査Ⅱ区南部，G７a3区の平坦部に立地し，南には第364号土坑が位置している。

重複関係　第402号土坑の北西部を掘り込んでいる。

規模と形状　長径1.25m，短径1.19mの楕円形で，長径方向はN－62°－Eである。深さは88cm，底面はほぼ平坦で，壁は下方が袋状を呈している。ピットが中央部に１か所検出され，深さは３cmほどである。

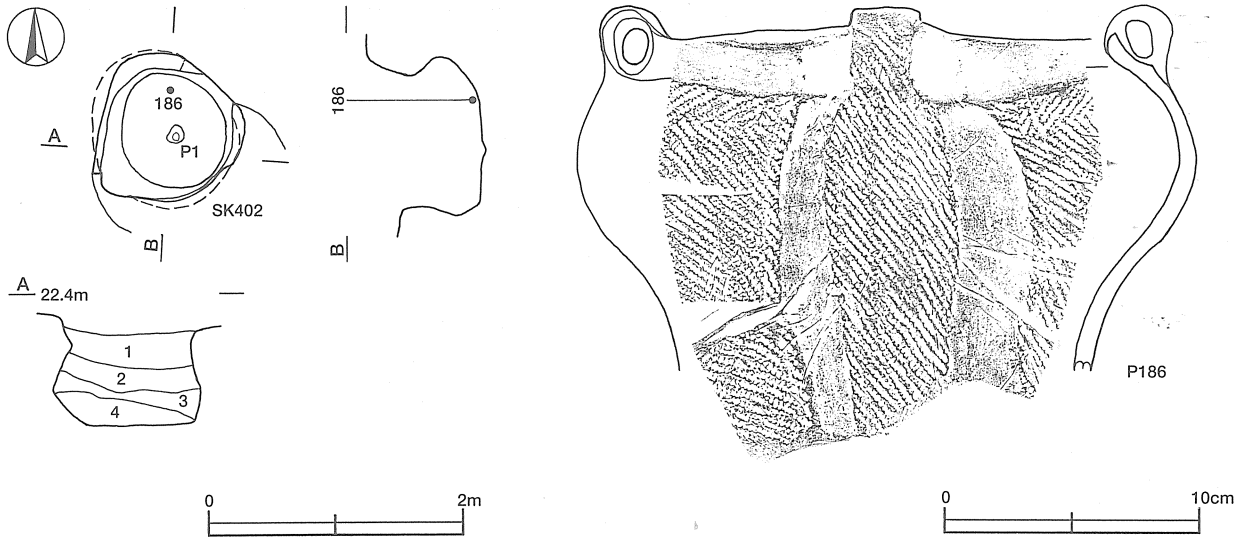
覆土　４層からなり，含有物や堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子・炭化物少量
2　暗 褐 色　ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化物微量
3　暗 褐 色　ローム粒子・炭化物微量
4　極暗褐色　ローム粒子・炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片105点（口縁部10，胴部91，底部４），礫２点が出土している。土器は中央部の覆土中から出土しているものがほとんどであり，摩滅しているものや細片がほとんどである。加曽利EⅢ～Ⅳ式期の土器が混在しているが，時期的に多くは加曽利EⅣ式期のものである。186は北部の底面から出土しており，本跡に伴うものと考えられる。

所見　本跡は下部が全体的に内傾し，主体的な出土土器から時期は縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。



第115図　第445号土坑・出土遺物実測図

第445号土坑出土遺物観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考（出土位置）
186	縄 文 土 器	深　鉢	［20.0］	（14.5）	—	口辺部に無文帯を有し，微隆帯によって胴部の懸垂文帯にＬＲの単節縄文施文	長石・石英・雲母	普通	褐色	北部底面 ＰＬ27

第458号土坑（第116図）

位置　調査Ⅱ区南部，G６b9区の平坦部に立地し，第36号住居跡と重複している。

重複関係　第36号住居跡の中央部を掘り込んでいる。

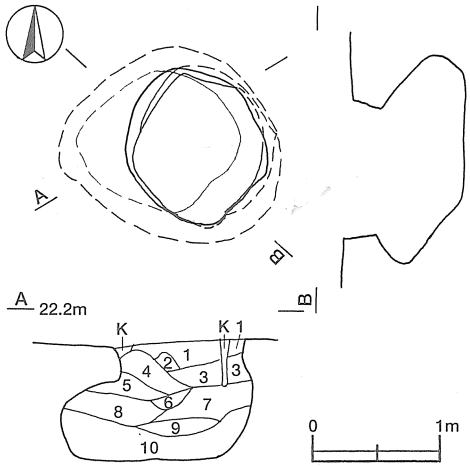
規模と形状　長径1.26m，短径1.10mの楕円形で，長径方向はN－12°－Wである。深さは92cm，底面はほぼ平

坦であり，壁は下部が袋状を呈している。

覆土　10層からなり，含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗　褐　色	炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2	暗　褐　色	ローム粒子・炭化物少量
3	褐　　色	ローム粒子中量，炭化物微量
4	褐　　色	ロームブロック多量，焼土粒子・炭化物微量
5	褐　　色	ロームブロック中量，炭化物微量
6	にぶい赤褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化物微量
7	暗　褐　色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
8	褐　　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
9	にぶい赤褐色	ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化物微量
10	褐　　色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量



第116図　第458号土坑実測図

遺物出土状況　縄文土器片16点（胴部16），礫５点が出土している。土器の多くは覆土中から出土し，摩滅しているものや細片がほとんどであるため，図示できるものはない。加曽利EⅢ～Ⅳ式期の土器が混在しているが，多くは加曽利EⅣ式期のものである。

所見　本跡は下部が袋状を呈しており，時期は主体的な出土土器から縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。

第537号土坑（第117図）

位置　調査Ⅱ区南部，G６j6区の緩やかな斜面部に立地し，第539号土坑と重複し，第442・443号土坑が隣接している。

重複関係　第539号土坑の中央部を掘り込んでいる。

規模と形状　長径1.62m，短径1.52mの円形である。深さは77cm，底面はほぼ平坦で，壁はやや袋状を呈している。

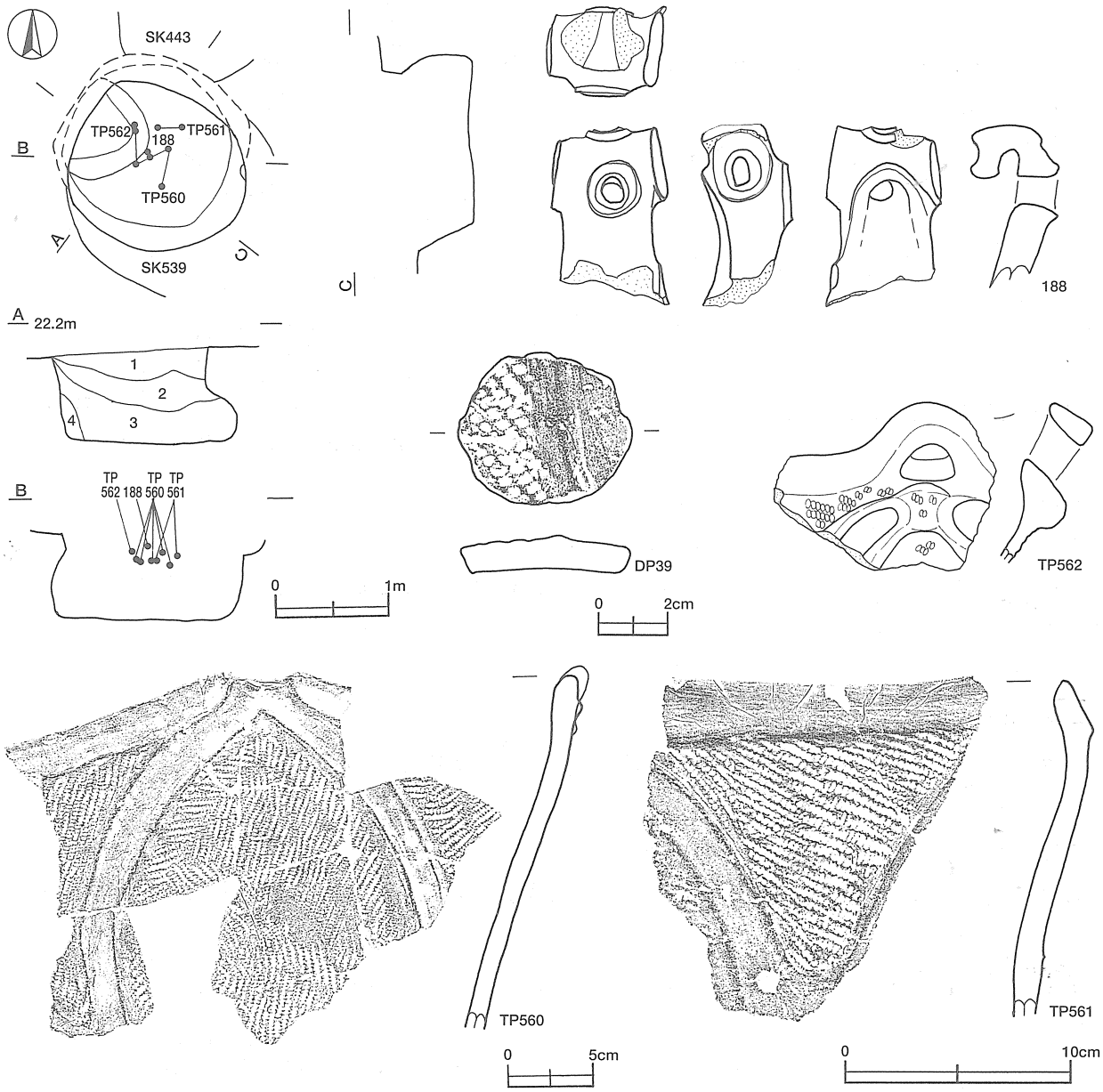
覆土　４層からなり，投棄された状況を示しており含有物などから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	褐　色	ローム粒子中量，炭化物微量
2	黒褐色	炭化物少量，ロームブロック微量
3	褐　色	ロームブロック少量，炭化物微量
4	暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片276点（口縁部33，胴部240，底部３），土製品１点（円板），礫３点が出土している。土器の多くは中央部の覆土上層から覆土下層にかけて出土しており，投棄された状況を示している。時期的には加曽利EⅣ式期のものが中心である。TP561は中央部の覆土上層から出土している土器片が接合された資料である。

所見　本跡は南壁部以外が袋状を呈しており，時期は縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。



第117図　第537号土坑・出土遺物実測図

第537号土坑出土遺物観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
188	縄文土器	深　鉢 (把手)	—	—	—	無文のT字状の把手であり，若干器面荒れ	長石･赤色粒子･ 白色粒子･雲母	普通	にぶい橙	中央部上層 PL27

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
560～ 562	縄文時代中期後葉	いずれも口縁部片で，562は，突起部に孔を有す。これらはいずれも微隆帯によって文様帯を区画し，区画内にRLの単節縄文充填	中央部上層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備考
DP39	土器円板	4.6	5.2	1.1	24.0	土製	周辺部研磨	覆土中	PL37

第639号土坑（第118図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｆ６b8区の中央部に立地し，第620・640号土坑が隣接している。

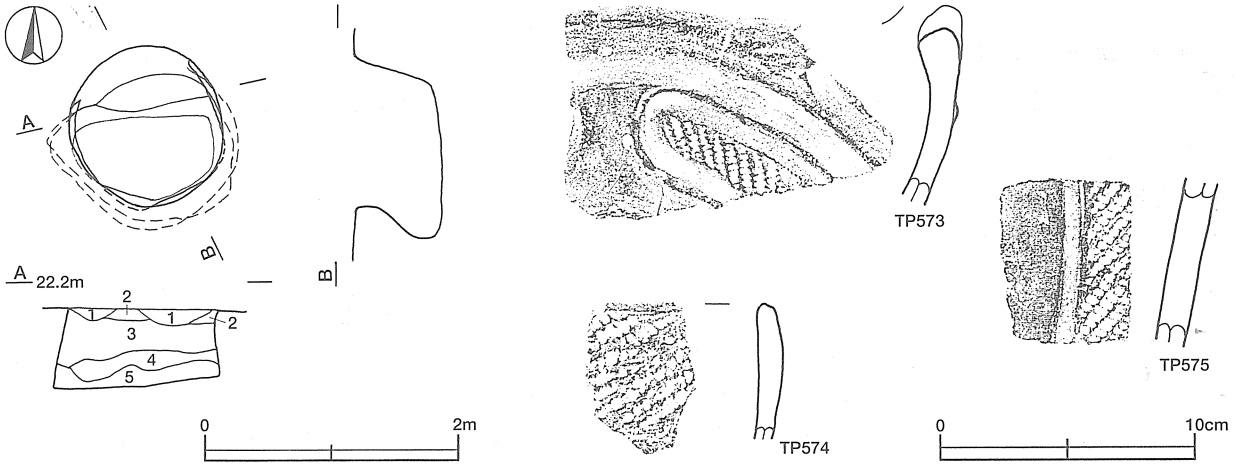
規模と形状　長径1.28m，短径1.21mの円形である。深さは69cmで底面はほぼ平坦であり，壁は南半分が袋状を呈している。

覆土　５層からなり，含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　暗褐色　ロームブロック中量
3　褐　色　ロームブロック多量
4　褐　色　ロームブロック多量　締まり有り
5　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　縄文土器片24点（口縁部６，胴部18）が覆土中から出土している。加曽利EⅢ～Ⅳ式期の土器が混在している。

所見　本跡は南半分の底部がやや広い袋状を呈しており，時期は主体的な出土土器から縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ～Ⅳ式期）と考えられる。



第118図　第639号土坑・出土遺物実測図

第639号土坑出土遺物観察表

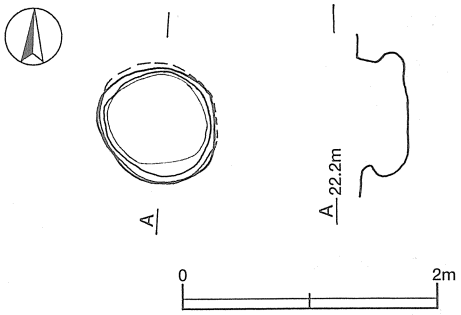
TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
573～575	縄文時代中期後葉	573･574は口縁部片で,573は沈線により文様帯を区画し,区画内にLRの単節縄文充填,574は単節縄文施文,575は胴部片で,懸垂文帯内に,RLの単節縄文施文	覆土中	

第643号土坑（第119図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｆ６b7区の平坦部に立地し，第641・642号土坑が隣接している。

規模と形状　長径0.92m，短径0.80mの楕円形で，長径方向はN－7°－Wである。深さは38cm，底面はほぼ平坦であり，壁は袋状を呈している。

遺物出土状況　縄文土器片９点（胴部９）が出土している。土器の多くは覆土中から出土し，摩滅したものや細片がほとんどであるため，図示できるものはない。



第119図　第643号土坑実測図

所見　本跡は全体的に底部の広い形状を呈し，時期は縄文時代中期後葉と考えられる。

（エ）その他の土坑

第１号土坑（第120図）

位置　調査Ⅰ区北部，Ｃ６a2区の平坦部に立地している。東には第２・４号土坑が隣接し，東には第１号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.07m，短径1.02mの円形で，深さは22cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　２層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片13点（口縁部２，胴部11）が出土している。TP331は北西部，TP332は中央部の覆土中層から出土しており，縄文時代中期加曽利EⅣ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は主体的な土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。

第２号土坑（第120図）

位置　調査Ⅰ区北部，Ｃ６a3区の平坦部に立地している。第１・４号土坑が隣接し，東には第１号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.52m，短径1.40mの円形で，深さは30cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　２層からなり，レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
2　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片32点（胴部32）が出土している。TP333は中央部の覆土中層から出土しており，縄文時代中期の加曽利EⅢ式土器が混在している。

所見　本跡の時期は主体的な土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第４号土坑（第120図）

位置　調査Ⅰ区北部，Ｃ６b3区の平坦部に立地している。第１・２号土坑が隣接し，東には第１号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.32m，短径1.10mの楕円形で，長径方向はN－58°－Eである。深さは77cmほどで，底面はほぼ平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　５層からなり，含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物微量
2　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　にぶい褐色　ロームブロック中量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　出土していない。

所見　本跡の時期は遺構の形態などから縄文時代中期と考えられる。

第６号土坑（第120図）

位置　調査Ⅰ区北部，Ｃ６a5区の平坦部に立地し，第１号住居跡と重複している。

重複関係　第１号住居跡の北部を掘り込んでいる。

規模と形状　長径1.16m，短径1.0mの楕円形で，長径方向はN－55°－Wである。深さは79cm，底面はやや皿状を呈して，壁はほぼ直立する。

覆土　６層からなり，含有物や不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　暗褐色　ロームブロック・炭化物少量
3　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
4　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　黒褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
6　暗褐色　ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　本跡は北西部の壁が特に内傾しており，時期は遺構の形態などから縄文時代中期と考えられる。

第19号土坑（第120図）

位置　調査Ⅰ区中央部，Ｃ６i3区の平坦部に立地し，北には第16号土坑，南には第３号住居跡が隣接している。

規模と形状　長径1.55m，短径1.43mの円形で，深さは90cm，底面は皿状を呈し，壁は直立する。また，北側の床面が７cmほど円形状に窪んでいる。

覆土　９層からなり，含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
4　黒 褐 色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
5　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック中量
7　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8　黒 褐 色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
9　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片24点（口縁部１，胴部23），礫１点が出土している。TP335・TP336をはじめ覆土中から出土しており，縄文時代中期の加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は主体的な土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第38号土坑（第120図）

位置　調査Ⅰ区中央部，Ｄ６e9区の平坦部に立地し，北には第16号土坑，南には第３号住居跡が隣接している。

重複関係　第39号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　径0.88mの円形で，深さは70～75cmである。床面はほぼ平坦であり，壁は直立する。

覆土　７層からなり，含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
3　暗 褐 色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
4　暗 褐 色　ロームブロック中量
5　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック中量
7　暗 褐 色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片５点（胴部４，底部１）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片がほとんどで図示できるものはない。

所見　本跡の時期は遺構の形態などから縄文時代中期と考えられる。

第40号土坑（第120図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｄ６e8区の平坦部に立地している。西には第42号土坑が隣接し，南東には第10号住居跡が位置している。

規模と形状　長径2.26m，短径1.54mの長楕円形で，長径方向はN－29°－Wである。深さは23cm，底面はⅢ状を呈しており，外傾して立ち上がる。ピットは南北部に２か所検出され，深さはいずれも８cmほどである。

覆土　５層からなり，含有物や不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量　締まり有り
3　極暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
4　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量
5　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量

遺物出土状況　縄文土器片12点（口縁部２，胴部10）が出土している。TP338・TP339をはじめ，ほとんどが覆土中から出土し，縄文時代中期の加曽利EⅢ式土器が出土している。

所見　本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第56号土坑（第120図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｄ６g5区の平坦部に立地している。第38号住居跡と重複し，第７号住居跡が隣接している。

重複関係　第38号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長径1.15m，短径0.98mの楕円形で，長径方向はN－５°－Wである。深さは42cm，底面はほぼ平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　５層からなり，含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒 褐 色　炭化物中量，ロームブロック微量
2　極暗褐色　炭化物少量，ロームブロック微量
3　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物微量
4　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片66点（口縁部10，胴部56）が出土している。摩滅しているものや細片がほとんどである。TP341は南部の覆土中から出土し，縄文時代中期の加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は主体的な土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第73号土坑（第120図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｄ６i5区の平坦部に立地し，南には第９号住居跡や第74号土坑が隣接している。

規模と形状　長径1.14m，短径0.98mの楕円形で，長径方向はN－67°－Wである。深さは22cm，底面はほぼ平坦で，壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土　５層からなり，含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　出土していない。

所見　本跡の時期は遺構の形態などから縄文時代中期と考えられる。

第75号土坑（第121図）

位置　調査Ⅱ区北部，D７f1区の平坦部に立地している。第76号土坑や第78号土坑に隣接し，西には第10号住居跡が位置している。

規模と形状　長径0.79m，短径0.68mの楕円形で，長径方向はN－55°－Wである。深さは52cm，底面には凹凸があり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　２層からなり，含有物や水平の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック中量
2　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片６点（胴部６）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片がほとんどで図示できるものはない。

所見　本跡の時期は出土土器や遺構の形態などから縄文時代中期後葉と考えられる。

第77号土坑（第121図）

位置　調査Ⅱ区北部，D７f2区の平坦部に立地している。第76号土坑や第79号土坑が隣接し，西には第10号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.13m，短径1.04mの円形で，深さは65cmほどである。底面はほぼ平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　６層からなり，含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ロームブロック中量
2　褐　色　ロームブロック中量　締まり有り
3　褐　色　ロームブロック多量
4　褐　色　ロームブロック中量
5　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片17点（口縁部１，胴部16）が出土している。TP344～TP346をはじめほとんどが覆土中から出土し，縄文時代中期の加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は主体的な土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第79号土坑（第121図）

位置　調査Ⅱ区北部，D７f2区の平坦部に立地している。第77号土坑や第78号土坑が隣接し，西には第10号住居跡が位置している。

規模と形状　径1.15mほどの円形で，深さは32cmほどである。底面はⅢ状を呈しており，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　５層からなり，含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　暗褐色　ロームブロック中量
3　暗褐色　ロームブロック中量　締まり有り
4　褐　色　ロームブロック中量
5　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片31点（口縁部２，胴部28，底部１），石器１点（打製石斧），礫２点が出土している。TP347をはじめほとんどが覆土中から出土し，縄文時代中期の加曽利EⅢ～Ⅳ式土器が混在している。

所見　本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ～Ⅳ式期）と考えられる。

第86号土坑（第121図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｄ６h0区の平坦部に立地し，東には第39号住居跡が隣接している。

規模と形状　長径2.41m，短径1.45mの長楕円形で，長径方向はN－45°－Eである。深さは35cmほどで，底面は皿状を呈しており，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなり，含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　色　ロームブロック中量
4　褐　色　ロームブロック中量，ローム粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片19点（口縁部２，胴部17）が出土している。TP351～354をはじめほとんどが覆土中から出土し，縄文時代中期の加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は主体的な土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第88号土坑（第121図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｄ６j7区の平坦部に立地し，第37号住居跡に重複している。

規模と形状　長径2.25m，短径1.60mほどの楕円形で，長径方向はN－21°－Eである。深さは66cmほどで，底面には凹凸があり，壁は外傾して立ち上がる。また，ピット１か所が南部に検出され，深さは10cmほどである。

Ｐ１土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量
2　黒褐色　ロームブロック少量

覆土　４層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量　締まり有り
5　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　黒 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片56点（口縁部５，胴部51）が出土している。TP355をはじめほとんどが覆土中から出土し，縄文時代中期の加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第90号土坑（第121図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｄ６j0区の平坦部に立地し，南東には第11号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.86m，短径1.18mの不定形であり，長径方向はN－16°－Eである。深さは52cmで底面は皿状を呈し，壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片16点（口縁部２，胴部14）が出土している。TP356はじめ，すべてが覆土中から出土し，時期的には加曽利EⅢ式期の土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第94号土坑（第121図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｅ６a8区の平坦部に立地し，南には第13号住居跡が隣接している。

規模と形状　長径1.22m，短径1.14mの円形で，深さは42cmほどである。底面は皿状を呈しており，壁は外傾

して立ち上がる。

覆土　3層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック中量
2　暗褐色　ロームブロック中量　締まり有り
3　暗褐色　ロームブロック中量，ローム粒子微量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　本跡の時期は遺構の形態などから縄文時代中期と考えられる。

第111号土坑（第121図）

位置　調査Ⅱ区南部，E7e1区の平坦部に立地し，北西には第12号住居跡，南西には第18号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.20m，短径0.92mの楕円形であり，長径方向はN－8°－Wである。深さは82cmほどで，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　6層からなり，含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒褐色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
3　黒褐色　炭化粒子少量，ロームブロック微量　締まり有り
4　褐　色　炭化物少量
5　褐　色　炭化物中量
6　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片4点（口縁部1，胴部3）が覆土中から出土している。土器は摩滅している細片が多く，図示できるものはなく，阿玉台式の土器が含まれている。

所見　本跡の時期は出土土器や遺構の形態から縄文時代中期と考えられる。

第114号土坑（第121図）

位置　調査Ⅱ区北部，E6b5区の平坦部に立地し，北には第8・9号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.28m，短径1.12mの楕円形で，長径方向はN－80°－Eである。深さは18cmで底面はⅢ状を呈し，壁は外傾して立ち上がる。床の北は，深さは40cmほどのピット状を呈している。

覆土　7層からなり，含有物やブロック状の堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　　色　炭化粒子中量，焼土ブロック・ロームブロック微量
2　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量
4　黒 褐 色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
5　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック少量
7　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片200点（口縁部14，胴部185，底部1），礫4点が出土している。TP358はピットの覆土下層，TP359はピットの覆土上層，TP360は覆土中から出土している。時期的には加曽利EⅢ式及び加曽利EⅣ式土器が混在しているが，多くは加曽利EⅣ式土器である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。

第121号土坑（第121図）

位置　調査Ⅱ区北部，E6b5区の平坦部に立地し，北西には第8号住居跡が位置している。

規模と形状　長径0.74m，短径0.66mの楕円形であり，長径方向はN－92°－Wである。深さは58cmほどで，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　2層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
2　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　本跡の時期は遺構の形態などから縄文時代中期と考えられる

第125号土坑（第121図）

位置　調査Ⅱ区北部，E 6 b6区の平坦部に立地し，東には第13号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.54m，短径1.14mの楕円形であり，長径方向はN－40°－Eである。深さは73cm，底面はⅢ状を呈しており，壁は袋状を呈している。ピットは中央やや西に検出され，深さは6 cmである。

覆土　3層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　極暗褐色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
2　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量
3　黒 褐 色　炭化粒子・ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片32点（口縁部10，胴部21，底部1）が出土している。TP361～365をはじめほとんどが覆土中から出土し，加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器や遺構の形態などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第131号土坑（第122図）

位置　調査Ⅱ区北部，D 6 f6区の平坦部に立地し，東には第38号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.20m，短径1.06mの楕円形で，長径方向はN－39°－Eである。深さは22cm，床面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　4層からなり，不連続な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ロームブロック中量
3　褐　色　ロームブロック中量
4　褐　色　ロームブロック中量　締まり有り

遺物出土状況　縄文土器片2点（胴部2）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片がほとんどで，図示できるものはない。

所見　本跡の時期は出土土器や遺構の形態などから，縄文時代中期後葉と考えられる。

第134号土坑（第122図）

位置　調査Ⅱ区北部，D 6 h7区の平坦部に立地している。南には第37号住居跡，第130号土坑が隣接し，西には第38号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.92m，短径1.30mの楕円形で，長径方向はN－16°－Wである。深さは23cm，底面は凹凸が見られ，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　3層からなり，含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　暗褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　本跡の時期は遺構の形態などから縄文時代中期と考えられる。

第135号土坑（第122図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｄ６g6区の平坦部に立地し，東には第13号住居跡が位置している。

規模と形状　径1.10mほどの円形で，深さは49cmである。底面は平坦で，壁は直立する。

覆土　３層からなり，水平な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片８点（口縁部５，胴部３）が出土している。TP366は中央部，TP369は北部の覆土中層からそれぞれ出土している。加曽利EⅢ～Ⅳ式土器が混在しているが，加曽利EⅣ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。

第136号土坑（第122図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｄ６j6区の平坦部に立地し，西には第９号住居跡，東には第37号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.24m，短径1.06mほどの楕円形で，長径方向はN－65°－Eである。深さは52cm，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック中量
3　暗褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　本跡の時期は遺構の形態などから，縄文時代中期と考えられる。

第140号土坑（第122図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｅ６e7区の平坦部に立地し，北東には第12号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.08m，短径0.86mほどの楕円形で，長径方向はN－37°－Wである。深さは42cm，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量
2　黒褐色　ローム粒子少量
3　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　本跡の時期は遺構の形態などから，縄文時代中期と考えられる。

第141号土坑（第122図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｅ６d9区の平坦部に立地し，北には第12号住居跡が隣接している。

規模と形状　長径1.92m，短径1.10mの楕円形で，長径方向はN－18°－Wである。深さは30～36cm，底面は西側部がやや高く，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　５層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　黒褐色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　黒褐色　ロームブロック少量，炭化物微量　締まり有り
4　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量　締まり有り

遺物出土状況　縄文土器片６点（口縁部２，胴部４）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片がほとんどで図示できるものはない。

所見　本跡の時期は縄文時代中期と考えられる。

第142号土坑（第122図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｄ７g1区の平坦部に立地している。第143号・182号土坑が隣接しており，東には第10号住居跡が位置している。

規模と形状　長径0.80m，短径0.63mの楕円形で，長径方向はN－69°－Wである。深さは37cm，底面は皿状を呈しており，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック少量
2　暗褐色　ロームブロック中量
3　黒　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片18点（胴部18）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片がほとんどで図示できるものはない。

所見　本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期後葉と考えられる。

第144号土坑（第122図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｅ６i7区の平坦部に立地している。南には第23号住居跡が位置し，第176・194・217号土坑が隣接している。

規模と形状　長径1.64m，短径0.86mの楕円形で，長径方向はN－13°－Wである。深さは28cm，底面はほぼ平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなり，含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　炭化物中量，ロームブロック微量
2　褐　色　ロームブロック中量
3　褐　色　ロームブロック中量，ローム粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片23点（胴部22，底部１）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片がほとんどで図示できるものはない。

所見　本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期後葉と考えられる。

第146号土坑（第122図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｅ６e9区の平坦部に立地し，北東には第12号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.46m，短径1.32mの楕円形で，長径方向はN－68°－Wである。深さは52cm，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片８点（胴部７，底部１）が出土している。165は中央部，TP372は北西部，TP373は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第150号土坑（第122図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｅ６e7区の平坦部に立地し，南西には第40号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.12m，短径0.92mの楕円形で，長径方向はN－81°－Eである。深さは30cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　２層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量
2　暗褐色　ロームブロック少量，ローム粒子微量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　本跡の時期は遺構の形態などから縄文時代中期と考えられる。

第156号土坑（第122図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｅ６e6区の平坦部に立地し，南西には第40号住居跡が位置している。

規模と形状　長径0.98m，短径0.89mほどの楕円形で，長径方向はN－27°－Wである。深さは40cm，底面は平坦で，壁はほぼ直立する。

覆土　３層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　褐色　ローム粒子少量
2　褐色　ロームブロック中量
3　褐色　ローム粒子中量

遺物出土状況　縄文土器片23点（胴部23）が覆土中から出土している。摩滅している細片がほとんどである。TP375は覆土中から出土し，時期的には加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第157号土坑（第122図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｅ６e6区の平坦部に立地し，南西には第40号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.23m，短径0.85mほどの楕円形で，長径方向はN－69°－Wである。深さは33cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　２層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　縄文土器片４点（口縁部２，胴部２）が出土している。TP376をはじめほとんどが覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第158号土坑（第123図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｅ７g2区の平坦部に立地し，第18号住居跡が重複している。

重複関係　第18号住居跡の南東部を掘り込んでいる。

規模と形状　長径1.20m，短径1.10mの円形で，深さは66cm，底面は皿状を呈し，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量
2　暗 褐 色　ロームブロック微量
3　極暗褐色　ローム粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片24点（口縁部１，胴部23）が出土している。TP377をはじめほとんどが覆土中から出土し，加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第159号土坑（第123図）

位置　調査Ⅱ区北部，E６f9の平坦部に立地し，東には第18・19号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.11m，短径0.98mの楕円形で，長径方向はN－72°－Eである。深さは40cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなり，不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　暗褐色　ロームブロック少量
4　暗褐色　ロームブロック少量，ローム粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片39点（口縁部４，胴部35）が出土している。TP378～380をはじめほとんどが覆土中から出土し，加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第166号土坑（第123図）

位置　調査Ⅱ区北部，E６f9の平坦部に立地し，東には第18・19号住居跡が位置している。

規模と形状　径1.10mほどの円形で，深さは32cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　暗褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片16点（口縁部２，胴部14）が出土している。TP384をはじめほとんどが覆土中から出土し，加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第168号土坑（第123図）

位置　調査Ⅱ区北部，E７h2の平坦部に立地し，北西には第18・19号住居跡が位置している。

規模と形状　径1.07mほどの円形で，深さは43cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，不自然な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック中量
2　黒褐色　ロームブロック少量
3　暗褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片11点（口縁部１，胴部10）が出土している。TP385をはじめほとんどが覆土中から出土し，時期的には加曽利EⅢ式期の土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第170号土坑（第123図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｅ６g2の平坦部に立地し，東には第18・19号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.52m，短径1.26mの不定形で，長径方向はN－38°－Wである。深さは82cm，底面は平坦で，壁は直立する。

覆土　４層からなり，不自然な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量
3　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片46点（口縁部２，胴部44）が出土している。TP386～TP388をはじめほとんどが覆土中から出土し，加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第194号土坑（第123図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｅ６j7の平坦部に立地し，南西には第23号住居跡が隣接している。

規模と形状　長径2.00m，短径1.45mの楕円形で，長径方向はN－６°－Wである。深さは57cm，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，不連続な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量
2　褐　色　ロームブロック少量
3　黒褐色　ローム粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片53点（口縁部３，胴部50），礫１点が出土している。土器はTP396をはじめほとんどが覆土中から出土し，加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第200号土坑（第123図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｆ７b1の平坦部に立地し，北には第20号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.56m，短径1.28mの楕円形で，長径方向はN－13°－Wである。深さは36cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗褐色　炭化物少量，ロームブロック微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　黒褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片23点（口縁部５，胴部18），土製円板１点が出土している。TP395やDP29をはじめほとんどが覆土中から出土し，加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第203号土坑（第123図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｆ７j1の平坦部に立地し，北には第20号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.45m，短径1.20mの楕円形で，長径方向はN－３°－Wである。深さは53cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。覆土は２層からなり，不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　炭化物少量，ロームブロック微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片441点（口縁部29，胴部407，底部５），土製有孔円板１点，礫６点が出土している。TP397は覆土下層，TP404は覆土上層，TP405は覆土中層のそれぞれ中央部から，ＤＰ30は北部の覆土上層から出土し，加曽利EⅢ～Ⅳ式土器が混在している。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ～Ⅳ式期）と考えられる。

第223号土坑（第123図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｅ７e2の平坦部に立地し，南西には第18号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.50m，短径1.32mの楕円形で，長径方向はN－35°－Wである。深さは63cm，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　にぶい赤褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片22点（口縁部３，胴部19），礫６点が出土している。土器はTP408～TP410をはじめほとんどが覆土中から出土し，加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第228号土坑（第123図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｅ６d7の平坦部に立地し，北西には第25号住居跡が位置している。

規模と形状　径1.70mほどの円形で，深さは68cmである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　５層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　褐　色　ロームブロック中量
2　褐　色　ロームブロック中量　締まり有り
3　暗褐色　ロームブロック中量
4　褐　色　ロームブロック中量
5　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片28点（口縁部２，胴部25，底部１），礫２点が出土している。TP411～TP413をはじめほとんどが覆土中から出土し，加曽利EⅣ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。

第230号土坑（第123図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｆ６e7区の平坦部に立地し，南には第21号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.17m，短径0.95mの楕円形であり，長径方向はN－９°－Eである。深さは18cmで底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　２層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量
2　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片５点（胴部５）が覆土中から出土し，時期的には加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は遺構の形態や土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第249号土坑（第124図）

位置　調査Ⅱ区北部，F７b2区の平坦部に立地し，第200・291号土坑が隣接している。

規模と形状　長径1.80m，短径1.19mの楕円形で，長径方向はN－43°－Wである。深さは18～38cm，底面はほぼ平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。北部にピット１か所が検出され，深さは24cmほどである。

覆土　２層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量
2　褐　色　ローム粒子多量

遺物出土状況　縄文土器片３点（口縁部１，胴部２）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片がほとんどで，図示できるものはない。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉と考えられる。

第251号土坑（第124図）

位置　調査Ⅱ区北部，F６c5区の平坦部に立地し，西には第25号住居跡が隣接している。

規模と形状　径1.25mほどの円形で，深さは35cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量
2　褐　色　ロームブロック中量
3　褐　色　ロームブロック中量，ローム粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片19点（口縁部３，胴部16）が覆土中から出土している。摩滅した細片がほとんどで，図示できるものはない。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第255号土坑（第124図）

位置　調査Ⅱ区北部，F６g6区の平坦部に立地し，第21号住居跡と重複している。第76号土坑や第78号土坑が隣接し，西には第10号住居跡が位置している。

重複関係　第21号住居跡の西部を掘り込んでいる。

規模と形状　長径1.22m，短径0.98mの楕円形で，長径方向はN－27°－Eである。深さは46cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量
2　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
3　褐　色　ロームブロック中量
4　暗褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片５点（口縁部２，胴部３）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片がほとんどである。TP461は東部の覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第259号土坑（第124図）

位置　調査Ⅱ区北部，F７c3区の平坦部に立地し，北西には同時期の第249号土坑が位置している。

規模と形状　長径1.28m，短径1.21mの不整円形で，長径方向はN－54°－Wである。深さは51cmである。底面は皿状を呈し，壁はほぼ直立する。また，長方形状のピットが北部に検出され，深さは15cmほどである。

覆土　２層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　褐　色　ロームブロック中量
2　黒褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片６点（胴部６）がTP462・TP463をはじめ覆土中から出土し，加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第266号土坑（第124図）

位置　調査Ⅱ区北部，F６e4区の平坦部に立地し，北には第25号住居跡が隣接している。

規模と形状　長径1.86m，短径0.87mほどの楕円形で，長径方向はN－17°－Wである。深さは22cm，底面はほぼ平坦であり，壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　褐　色　ロームブロック中量
3　褐　色　ロームブロック中量，ローム粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片３点（口縁部１，胴部２）が覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。

第267号土坑（第124図）

位置　調査Ⅱ区北部，F６c5区の平坦部に立地し，北には第25号住居跡や第251号土坑が位置している。

規模と形状　長径1.43m，短径1.24mの楕円形で，長径方向はN－12°－Wである。深さは50cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片19点（口縁部４，胴部15），土製円板１点，礫１点が出土している。TP468～TP470，DP32も含めてほとんどが，覆土中から出土し，加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第268号土坑（第124図）

位置　調査Ⅱ区中央部，F６e5区の平坦部に立地し，北には第25号住居跡，西には第266号土坑が隣接している。

規模と形状　長径1.56m，短径0.96mほどの楕円形で，長径方向はN－55°－Wである。深さは23cm，底面は皿状を呈し，壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなり，不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　褐　色　ロームブロック中量
4　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片33点（口縁部１，胴部32）が出土している。TP471をはじめほとんどが覆土中から出土し，縄文時代中期後葉の加曽利EⅣ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。

第272号土坑（第124図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｆ７g4区の平坦部に立地し，南西には第273号土坑が位置している。

規模と形状　長径1.25m，短径0.94mの楕円形で，長径方向はN－72°－Wである。深さは72cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　褐　色　ロームブロック中量
2　褐　色　ロームブロック中量　締まり有り
3　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片２点（胴部２），礫１点が出土している。TP473は南東部の覆土中層から出土し，加曽利EⅢ式期が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第281号土坑（第124図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｆ６e5区の平坦部に立地している。第282号土坑が重複し，北には第25号住居跡が位置している。

重複関係　第282号土坑の北西部を掘り込でいる。

規模と形状　長径1.11m，短径0.75mの不整楕円形であり，長径方向はN－74°－Wである。深さは36cm，底面は皿状を呈しており，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，炭化物微量
2　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片30点（口縁部１，胴部29）が出土している。TP492・TP493をはじめほとんどが覆土中から出土し，縄文時代中期後葉の加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第282号土坑（第124図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｆ６e5区の平坦部に立地している。第281号土坑が重複し，北には第25号住居跡が位置している。

重複関係　第281号土坑に北西部を掘り込まれている。

規模と形状　第281号土坑に北西部を掘り込まれているため，長径1.17m，短径1.06mだけが検出され，N－75°－Wを長径方向とする不定形と推定される。深さは39cm，底面は皿状を呈し，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量
3　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片41点（口縁部7，胴部33，底部１）が出土している。TP494をはじめほとんどが覆土中から出土し，縄文時代中期後葉の加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第283号土坑（第124図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｆ７h2区の平坦部に立地し，南には第273号土坑が位置している。

規模と形状　長径0.92m，短径0.87mの円形で，深さは61cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック中量
2　褐　色　ロームブロック中量
3　暗褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片33点（口縁部４，胴部28，底部１）が出土している。TP495・TP496をはじめほとんどが覆土中から出土し，加曽利EⅣ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。

第284号土坑（第124図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｆ６d4区の平坦部に立地し，南には第25号住居跡が重複している。

規模と形状　長径1.28m，短径1.22mの不整円形で，長径方向はN－19°－Wである。深さは88cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなり，ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
2　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子少量
3　褐　　色　ロームブロック少量，炭化物微量
4　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片67点（胴部62，底部５），有孔円板１点，礫１点が出土している。土器はTP497・TP498を含めてほとんどが覆土中から出土し，加曽利EⅣ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。

第302号土坑（第125図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｆ６g5区の平坦部に立地し，東には第21号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.30m，短径0.93mの隅丸長方形で，長径方向はN－67°－Eである。深さは29cm，底面は凹凸が見られ，壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量

遺物出土状況　縄文土器片８点（胴部８）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片がほとんどで図示できるものはない。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期と考えられる。

第308号土坑（第125図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｆ６c7区の平坦部に立地し，西には第17・25号住居跡が位置している。

規模と形状　長径2.00m，短径1.59mほどの不定形で，長径方向はN－58°－Wである。深さは35cm，底面はやや皿状を呈しており，壁は外傾して立ち上がり，北部が円形状に窪んでいる。

覆土　３層からなり，不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック少量
2　褐　色　ロームブロック中量，ローム粒子微量
3　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片93点（口縁部7，胴部86）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片がほとんどである。縄文時代中期の阿玉台式土器と加曽利EⅢ式土器が混在している。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期と考えられる。

第310号土坑（第125図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｆ６g5区の平坦部に立地し，東には第21号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.38m，短径0.80mほどの長楕円形で，長径方向はN－65°－Eである。深さは28cm，底面はほぼ平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量
2　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片９点（胴部９）が出土している。TP499をはじめほとんどが覆土中から出土し，縄文時代中期後葉の加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第311号土坑（第125図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｆ６f5区の平坦部に立地し，東には第21号住居跡が隣接している。

規模と形状　長径1.50m，短径0.87mほどの長楕円形で，長径方向はN－54°－Eである。深さは32cm，底面はほぼ平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　縄文土器片４点（胴部４）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片がほとんどであり，図示できるものはない。縄文時代中期後葉の加曽利E式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉と考えられる。

第324号土坑（第125図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｆ６h5区の平坦部に立地し，東には第14・21号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.96m，短径1.23mの不定形で，深さは28cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなり，含有物やブロック状の堆積状況であるが自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量　締まり有り
4　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片27点（口縁部２，胴部25），礫１点が出土している。TP500・TP501をはじめ，ほとんどが覆土中から出土し，時期的には加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第346号土坑（第125図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｆ６i9区の平坦部に立地し，北西には第14号住居跡が位置している。

規模と形状　長径2.54m，短径1.21mほどの長楕円形で，長径方向はN－27°－Eである。深さは25cm，底面はほぼ平坦であり，壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土　７層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック中量
2　暗褐色　ロームブロック少量
3　明褐色　ロームブロック中量
4　明褐色　ロームブロック中量，ローム粒子微量
5　褐　色　ロームブロック中量
6　褐　色　ロームブロック中量，ローム粒子微量
7　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　本跡の時期は遺構の形態などから縄文時代中期と考えられる。

第354号土坑（第125図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｆ６j0区の平坦部に立地し，北東には第273号土坑，南西には第36号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.63m，短径1.15mの楕円形であり，長径方向はN－25°－Wである。深さは78cmで底面はほぼ平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　本跡は近接する土坑の形態などから，時期は縄文時代と考えられる。

第371号土坑（第125図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｆ６d7区の平坦部に立地し，南には第21号住居跡，西には第25号住居跡が位置している。また，372号土坑と重複している。

規模と形状　長径1.96m，短径0.92mほどの長楕円形で，長径方向はN－78°－Wである。深さは20cm，底面は皿状を呈しており，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなり，不連続な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量
2　暗褐色　ロームブロック少量　締まり有り
3　褐　色　ロームブロック中量
4　褐　色　ロームブロック中量，ローム粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片８点（胴部８）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片がほとんどであり，図示できるものはない。

所見　本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期後葉と考えられる。

第401号土坑（第125図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｇ６ｂ5区の平坦部に立地し，東には第436号土坑が隣接し，南には第22号住居跡が位置している。

規模と形状　径1.50mの円形で，深さは17cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　２層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　極暗褐色　焼土粒子中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片226点（口縁部14，胴部212）が出土している。176は南西部の覆土上層から出土している多くの土器片が接合した資料であり，縄文時代中期の阿玉台Ｉｂ式の土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期前葉（阿玉台Ｉｂ式期）と考えられる。

第439号土坑（第125図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｇ６ｈ5区の平坦部に立地し，北東には第25号住居跡，北には第456号土坑が位置している。

規模と形状　長径2.40m，短径1.94mの楕円形で，長径方向はＮ－81°－Ｗである。深さは69cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなり，ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片52点（口縁部６，胴部44，底部２），礫４点が出土している。土器はTP531～TP533をはじめほとんどが覆土中から出土し，加曽利ＥⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅢ式期）と考えられる。

第440号土坑（第126図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｇ６ｉ6区の平坦部に立地し，北西には第439号土坑，北東には第425号土坑が位置している。

規模と形状　長径1.83m，短径1.65mの楕円形で，長径方向はＮ－78°－Ｗである。深さは44cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化材微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
3　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片42点（口縁部１，胴部40，底部１）が出土している。TP534～TP537をはじめほとんどが覆土中から出土し，加曽利ＥⅢ～Ⅳ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅢ～Ⅳ式期）と考えられる。

第443号土坑（第126図）

位置　調査Ⅱ区南部，G６j6区の平坦部に立地し，北には第425号土坑，北西には第440号土坑が位置している。

規模と形状　径1.38mほどの円形で，深さは33cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック・炭化物微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片５点（口縁部３，胴部２）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片のため図示できるものはない。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉と考えられる。

第447号土坑（第126図）

位置　調査Ⅱ区北部，G７a4区の平坦部に立地し，西には第364号土坑が位置している。

規模と形状　長径0.95m，短径0.82mの楕円形で，長径方向はN－14°－Eである。深さは33cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　２層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片４点（口縁部２，胴部２）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片がほとんどで，図示できるものはない。

所見　本跡の時期は遺構の形態などから，縄文時代中期と考えられる。

第461号土坑（第126図）

位置　調査Ⅱ区北部，G７d2区の平坦部に立地し，西には第364号土坑が位置している。

規模と形状　長径1.37m，短径1.00mの楕円形で，長径方向はN－30°－Wである。深さは58cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　５層からなり，不連続な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ロームブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量
4　暗褐色　ロームブロック中量
5　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片10点（口縁部３，胴部７），礫１点が出土している。土器はTP544～TP546をはじめほとんどが覆土中から出土し，加曽利EⅢ～Ⅳ式土器が混在している。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ～Ⅳ式期）と考えられる。

第471号土坑（第126図）

位置　調査Ⅱ区南部，H６b7区の緩斜面部に立地し，東には第32号住居跡が位置している。

規模と形状　長径2.74m，短径2.14mの楕円形であり，長径方向はN－50°－Wである。深さは36cmで底面には凹凸が見られ，壁は緩やかに外傾して立ち上がる。深さ14cmほどのピットが中央部に検出されている。

覆土　３層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　褐　色　ロームブロック中量
2　褐　色　ロームブロック中量　締まり有り
3　褐　色　ロームブロック中量，ローム粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片24点（口縁部５，胴部16，底部３），礫11点が出土している。土器はほとんどが中央部の覆土中から出土し，時期的には加曽利EⅣ式土器が中心である。TP548～TP550は中央部覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は遺構の形態や土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。

第483号土坑（第126図）

位置　調査Ⅱ区南部，G６a8区の平坦部に立地し，南には第36号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.05m，短径0.87mの楕円形で，長径方向はN－31°－Eである。深さは67cmで底面はほぼ平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　褐　色　ロームブロック中量
3　暗褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　本跡の時期は形態や他の土坑との比較から縄文時代中期と考えられる。

第491号土坑（第126図）

位置　調査Ⅱ区南部，G７e3区の平坦部に立地し，西には第27号住居跡が隣接している。

重複関係　第26号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状　長径1.08m，短径0.92mの楕円形で，長径方向はN－78°－Eである。深さは48cmで底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　５層からなり，ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ロームブロック中量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　褐　色　ロームブロック中量
4　褐　色　ロームブロック中量　締まり有り
5　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片41点（口縁部４，胴部37），磨石１点が出土している。土器はTP551・TP552をはじめ，覆土中から出土しているものが多く，時期的には加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期はの形態や出土土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第496号土坑（第126図）

位置　調査Ⅱ区南部，G７e2区の平坦部に立地し，西には第27号住居跡が隣接している。

重複関係　第26号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状　長径0.95m，短径0.73mほどの楕円形で，長径方向はN－37°－Eである。深さは31cmで底面はⅢ状を呈しており，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，含有物や不自然な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　極暗褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片29点（口縁部５，胴部24）が出土している。P199は南西部覆土中から出土しており，本跡に伴うものと考えられる。

所見　本跡の時期は形態や出土土器などからなどから縄文時代中期後葉（加曽利EⅡ式期）と考えられる。

第509号土坑（第126図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｇ７e2区の平坦部に立地し，第26号住居跡と重複している。

重複関係　第26号住居跡の南西部を掘り込んでいる。

規模と形状　径1.70mの円形で，深さは37cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなり，不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量
2　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
4　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量　締まり有り

遺物出土状況　縄文土器片７点（胴部７）が出土している。細片のため図示できるものはない。

所見　本跡の時期は遺構の形態などから縄文時代中期後葉と考えられる。

第515号土坑（第127図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｇ６f0区の平坦部に立地し，南には第29号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.34m，短径0.85mの楕円形で，深さは100cmである。底面は中央部が平坦で，東部にかけては階段状を呈し，他の壁は直立する。

覆土　３層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック・炭化物少量
2　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片29点（口縁部１，胴部28）が出土している。TP555は中央部やや西寄りの覆土下層，TP556は西部の覆土中層からそれぞれ出土し，時期的には加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡は東側で，土坑が重なり合っている可能性がある。時期は出土土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第578号土坑（第127図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｆ６e9区の平坦部に立地し，西には第14号住居跡や第21号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.48m，短径1.00mほどの長楕円形で，長径方向はN－75°－Wである。深さは19cm，底面は皿状を呈しており，壁は緩やかに外傾して立ち上がる。北西部にピット１か所が検出され，深さは14cmほどである。

覆土　３層からなり，不連続な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，炭化物微量
3　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　本跡の時期は遺構の形態などから，縄文時代中期と考えられる。

第602号土坑（第127図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｆ６d9区の平坦部に立地し，南西には第21号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.40m，短径1.14mの楕円形で，長径方向はN－38°－Eである。深さは30cmで底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなり，ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量，炭化物微量
2　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ロームブロック中量
4　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片５点（胴部５）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片のため図示できるものはない。

所見　本跡の時期は遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期と考えられる。

第608号土坑（第127図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｅ６j9区の平坦部に立地し，西には第23号住居跡が位置している。

規模と形状　径1.22mほどの円形で，深さは45cmである。底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなり，含有物や不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
2　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片３点（胴部３）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片のため図示できるものはない。

所見　本跡の時期は遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期と考えられる。

第615号土坑（第127図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｅ６j7区の平坦部に立地し，西には第23号住居跡が隣接している。

規模と形状　長径1.30m，短径0.90mの楕円形で，長径方向はN－82°－Eである。深さは18～25cm，底面は凹凸が見られ，壁は緩やかに外傾して立ち上がる。南部でピット１か所が検出され，深さは５cmほどである。

覆土　５層からなり，不連続な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
2　褐　色　ローム粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　縄文土器片13点（胴部13），礫１点が覆土中から出土している。土器は摩滅した細片がほとんどであり，図示できるものはない。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉と考えられる。

第616号土坑（第127図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｅ６j8区の平坦部に立地し，西には第23号住居跡が位置している。

規模と形状　径0.90mほどの円形で，深さは32cmである。底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，炭化物微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　褐　色　ローム粒子多量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片２点（口縁部１，胴部１）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片のため図示できるものはない。

所見　本跡の時期は遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期後葉と考えられる。

第617号土坑（第127図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｅ６j7区の平坦部に立地し，西には第23号住居跡が隣接している。

規模と形状　長径1.60m，短径1.35mほどの楕円形で，長径方向はN－66°－Wである。深さは30cm，底面はほぼ平坦であり，壁は緩やかに外傾して立ち上がる。東部にピット１か所が検出され，深さは７cmほどである。

覆土　３層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片９点（胴部９）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片がほとんどであり，図示できるものはない。縄文時代中期後葉の土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉と考えられる。

第618号土坑（第127図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｆ６a7区の平坦部に立地し，南には第17号住居跡が隣接している。

規模と形状　径0.85mの円形で，深さは29cmである。底面はⅢ状を呈し，壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土　２層からなり，含有物とブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化材微量
2　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片20点（口縁部２，胴部18）がTP569・TP570をはじめ覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。

第624号土坑（第127図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｅ６j4区の平坦部に立地し，北には第16号住居跡が位置している。

規模と形状　長径2.03m，短径1.23mほどの不整楕円形で，長径方向はN－80°－Eである。深さは50cm，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
4　褐　色　ローム粒子中量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片36点（口縁部５，胴部31），礫１点が出土している。土器はTP689をはじめほとんどが覆土中から出土し，縄文時代中期後葉の加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第629号土坑（第127図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｆ６a6区の平坦部に立地し，北東には第23号住居跡，西には第17号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.73m，短径0.95mほどの長楕円形で，長径方向はN－49°－Wである。深さは30cm，底面はほぼ平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。中央部からやや南東にピット１か所が検出され，深さは20cmほどである。

覆土　２層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片16点（胴部16）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片がほとんどであり，図示できるものはない。縄文時代中期後葉の土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉と考えられる。

第635号土坑（第128図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｆ６a4区の平坦部に立地し，南には第17号住居跡が隣接している。

規模と形状　長径2.15m，短径1.32mの不整楕円形で，長径方向はN－12°－Wである。深さは63cmで底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。深さは９cmほどのピットが西部に検出されている。

覆土　４層からなり，含有物とブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化材微量
2　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
3　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片41点（口縁部３，胴部38）がTP571・TP572をはじめ覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第644号土坑（第128図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｆ６b5区の平坦部に立地し，西には第17号住居跡が隣接している。

規模と形状　径0.98mの円形で，深さは32cmである。底面はほぼ平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　２層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
2　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　縄文土器片11点（口縁部２，胴部９）が出土している。TP576は中央部の覆土中層から出土し，時期的には加曽利EⅣ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は，土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。

第653号土坑（第127図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｇ７i4区の平坦部に立地し，西には第31号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.58m，短径1.10mの楕円形で，長径方向はN－59°－Eである。深さは100cmで底面は平坦であり，壁は直立する。

覆土　８層からなり，含有物やブロック状の堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
4　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
5　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
6　褐　　色　ロームブロック少量，炭化物微量
7　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
8　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片29点（口縁部13，胴部160，底部２），礫２点が出土している。TP580は北部の覆土下層，TP581は北東部の覆土上層からそれぞれ出土し，時期的には加曽利EⅣ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は，出土土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。

第661号土坑（第128図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｆ６f8区の平坦部に立地し，第21号住居跡と重複している。

重複関係　東部が第21号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状　東部が第21号住居跡に掘り込まれているため，長径1.76m，短径1.65mだけが検出され，N－68°－Eを長径方向とする長楕円形と推定される。深さは23cm，底面はほぼ平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなり，不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・炭化物微量
2　褐　色　ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　縄文土器片12点（胴部12）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片がほとんどであり，図示できるものはない。縄文時代中期後葉の加曽利EⅡ～Ⅲ式土器が混在している。

所見　本跡は第21号住居跡に掘り込まれており，やや古い遺構と思われる。時期は出土土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅡ～Ⅲ式期）と考えられる。

第662号土坑（第128図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｆ６f8区の平坦部に立地し，西には第21号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.35m，短径0.95mほどの不整楕円形で，長径方向はN－56°－Eである。深さは20cm，ほぼ平坦であり，壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土　４層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片17点（口縁部１，胴部16），礫１点が覆土中から出土しているが，摩滅した細片がほとんどであり，図示できるものはない。縄文時代中期後葉の加曽利EⅡ～Ⅲ式土器が混在しているが，多くは加曽利EⅢ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は出土土器などから，縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第664号土坑（第128図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｇ７h4区の平坦部に立地し，西には第31号住居跡が位置している。

規模と形状　東部が調査区域外のため，検出できたのは長径1.60mと短径は0.84mであり，本来は楕円形と推定され，長径方向はN－10°－Eである。深さは46cmで底面はほぼ平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　６層からなり，含有物やブロック状の堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
2　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量　締まり有り
3　極暗褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
4　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
6　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片29点（口縁部７，胴部55，底部２），礫１点が出土している。TP582は北西部の覆土中層から出土し，時期的には加曽利EⅣ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は，出土土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。

第665号土坑（第128図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｆ６e7区の平坦部に立地し，南には第21号住居跡が位置している。

規模と形状　長径1.80m，短径1.13mほどの長楕円形で，長径方向はN－80°－Wである。深さは28cm，底面はほぼ平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　６層からなり，含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量　締まり有り
3　褐　色　ロームブロック中量
4　褐　色　ロームブロック中量，ローム粒子微量
5　褐　色　ロームブロック中量
6　褐　色　ロームブロック中量，ローム粒子微量

遺物出土状況　ミニュチュア壷形土器１点，縄文土器片12点（胴部12）が出土している。191は東部の覆土中層から出土しており，縄文時代中期の阿玉台式土器と加曽利EⅢ式土器が混在している。

所見　本跡の時期は出土土器などから縄文時代中期（阿玉台式期）と考えられ，墓壙の可能性が考えられる。

第668号土坑（第128図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｆ６e8区の平坦部に立地し，南西には第665号土坑が隣接している。

規模と形状　長径1.92m，短径1.53mの楕円形であり，長径方向はN－79°－Eである。深さは19cmで底面はほぼ平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。深さ125cmほどのピットが北東部に検出されている。

覆土　８層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説

1　暗褐色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　褐　色　ロームブロック中量
7　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
8　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片36点（口縁部１，胴部35）が覆土中から出土しているが，摩滅した細片がほとんどで図示できるものはない。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や土器などから縄文時代中期後葉と考えられる。

第673号土坑（第128図）

位置　調査Ⅱ区南部，Ｇ６j9区の緩やかな斜面部に立地している。第601号土坑と重複し，南東には第600号土坑が隣接している。

重複関係　第601号土坑の西部を掘り込んでいる。

規模と形状　長径2.10m，短径1.82mの隅丸長方形であり，長径方向はN－０°である。深さは43～50cmで，底面は皿状を呈しており，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　5層からなり，含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子少量
4　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片11点（胴部11）が覆土中から出土している。土器は摩滅した細片が多く，図示できるものはない。

所見　本跡は第601号土坑を掘り込んでおり，第601号土坑よりやや新しい土坑と想定される。時期は出土土器から縄文時代中期後葉と考えられる。

第676号土坑（第128図）

位置　調査Ⅱ区南部，G7i4区の平坦部に立地し，西には第31号住居跡が隣接している。

重複関係　第677号土坑の中央部を掘り込んでいる。

規模と形状　長径1.42m，短径1.28mの楕円形で，長径方向はN－27°－Eである。深さは54cmで，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　6層からなり，自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
3　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量，ローム粒子・焼土ブロック微量
4　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
6　黒 褐 色　ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片21点（口縁部3，胴部18），礫1点が出土している。192は中央部覆土中層から，TP584・TP585は北西部の覆土下層・中層から出土し，時期的には加曽利EⅣ式土器が中心である。

所見　本跡の時期は，土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる。

第700号土坑（第128図）

位置　調査Ⅱ区南部，G7h4区の平坦部に立地し，西には第31号住居跡が隣接している。

重複関係　第677号土坑の北部を掘り込んでいる。

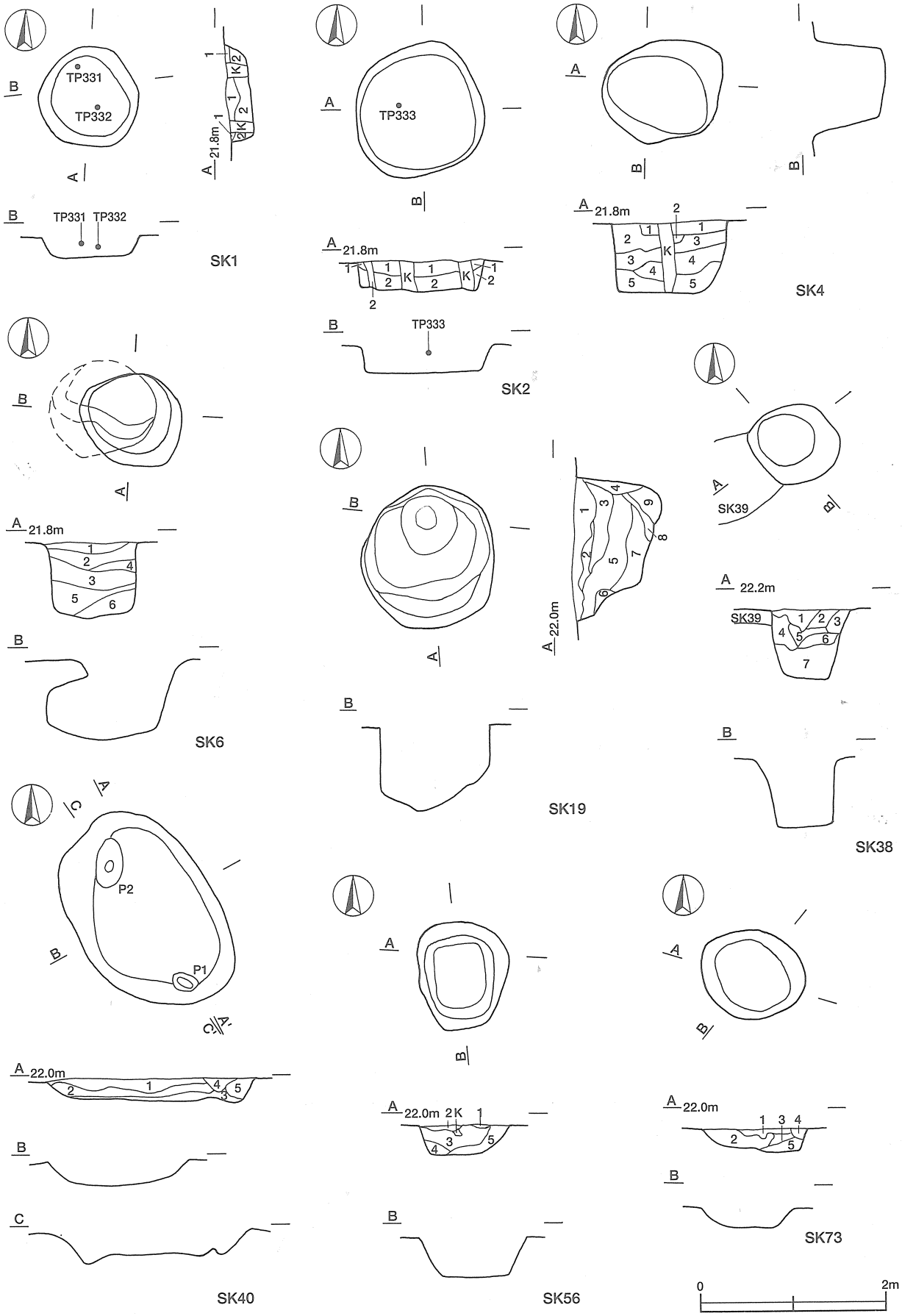
規模と形状　長径0.95mの円形で，深さは54cm，底面は皿状を呈しており，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　3層からなり，含有物や堆積状況から人為堆積と考えられる。

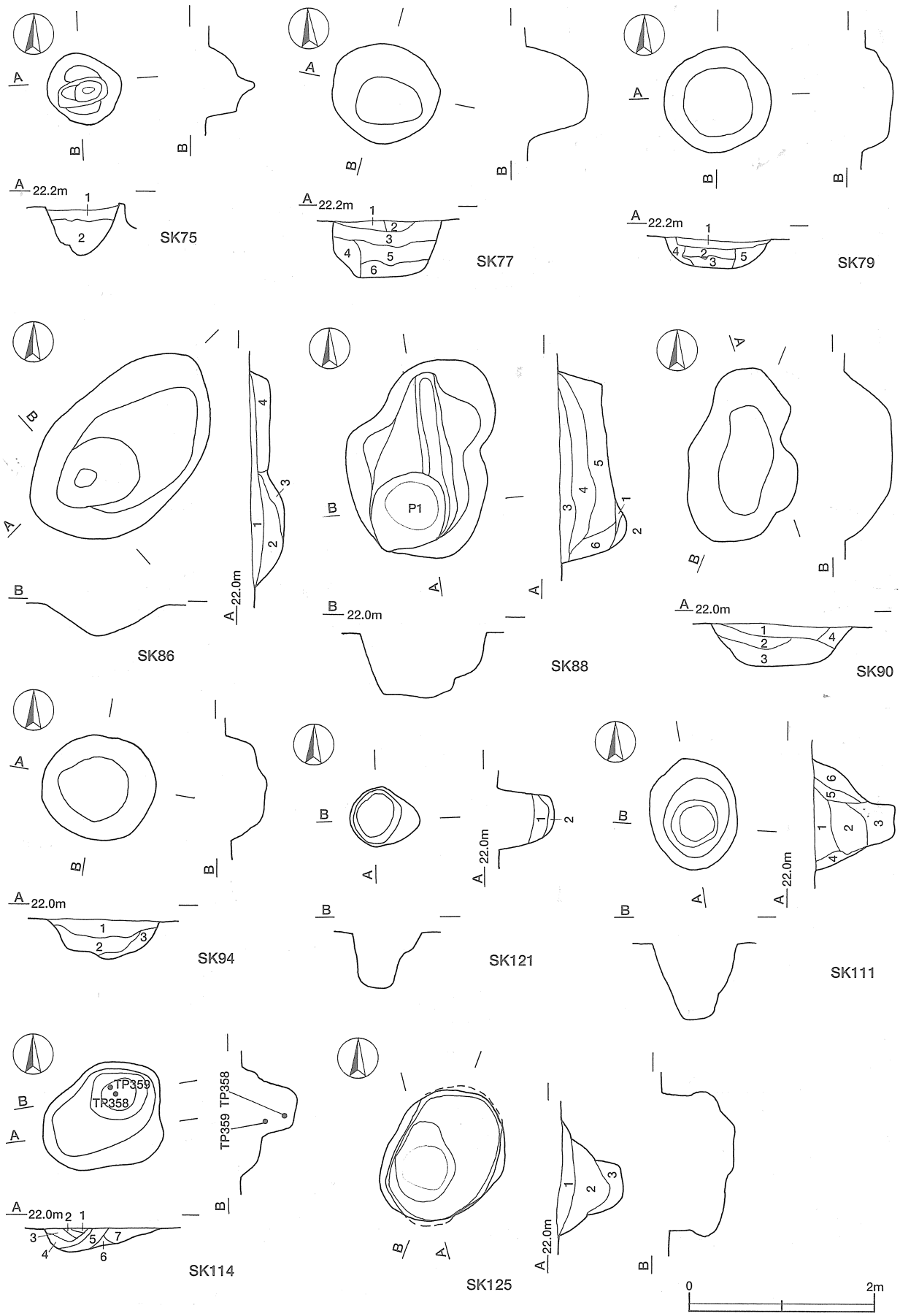
土層解説
1　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック中量，炭化物少量

遺物出土状況　縄文土器片76点（口縁部9，胴部67），礫1点が出土している。土器は193，TP590～TP592をはじめ覆土中から出土し，時期的には加曽利EⅣ式土器が中心である。

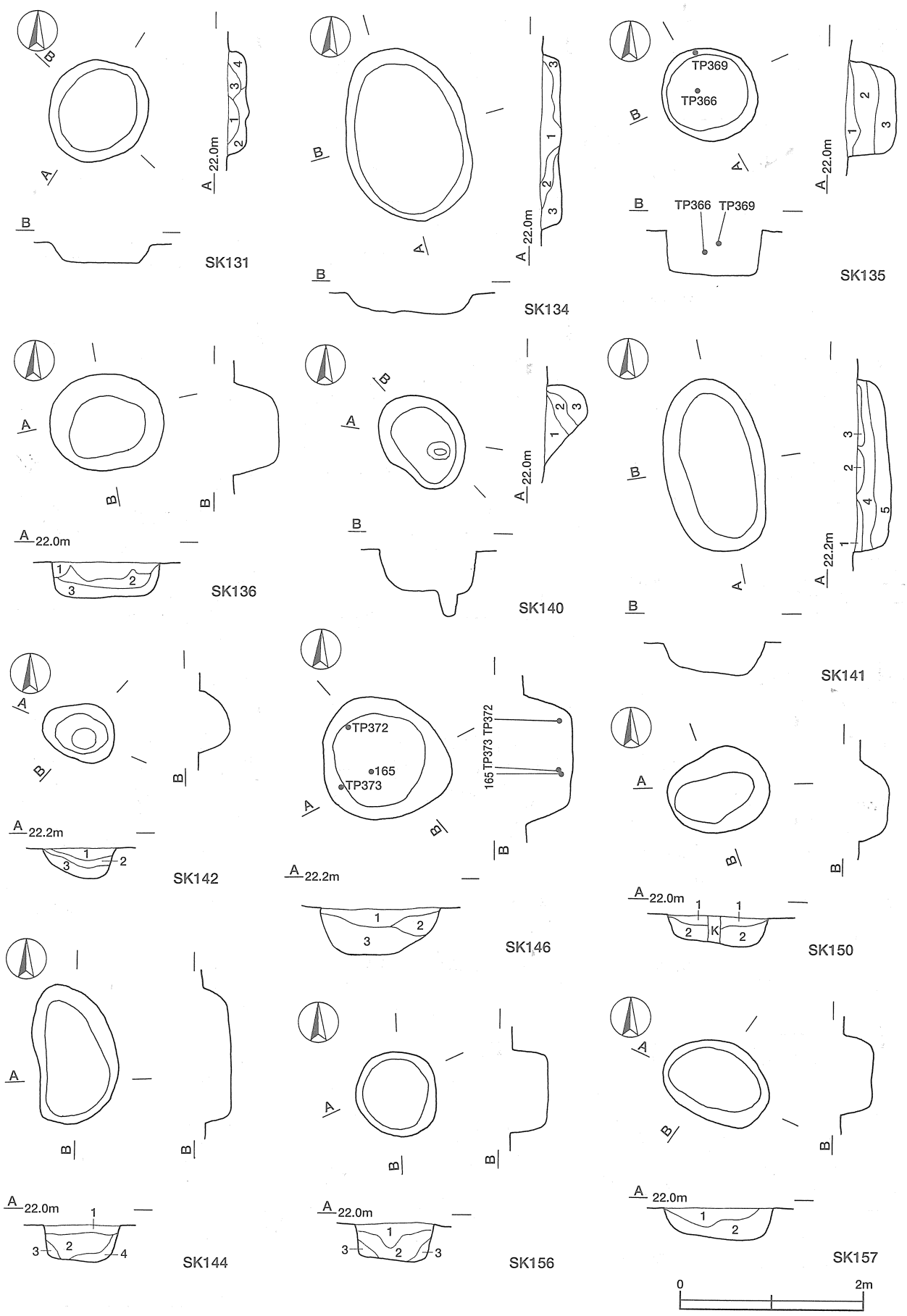
所見　本跡の時期は，土器などから縄文時代中期後葉（加曽利EⅣ式期）と考えられる



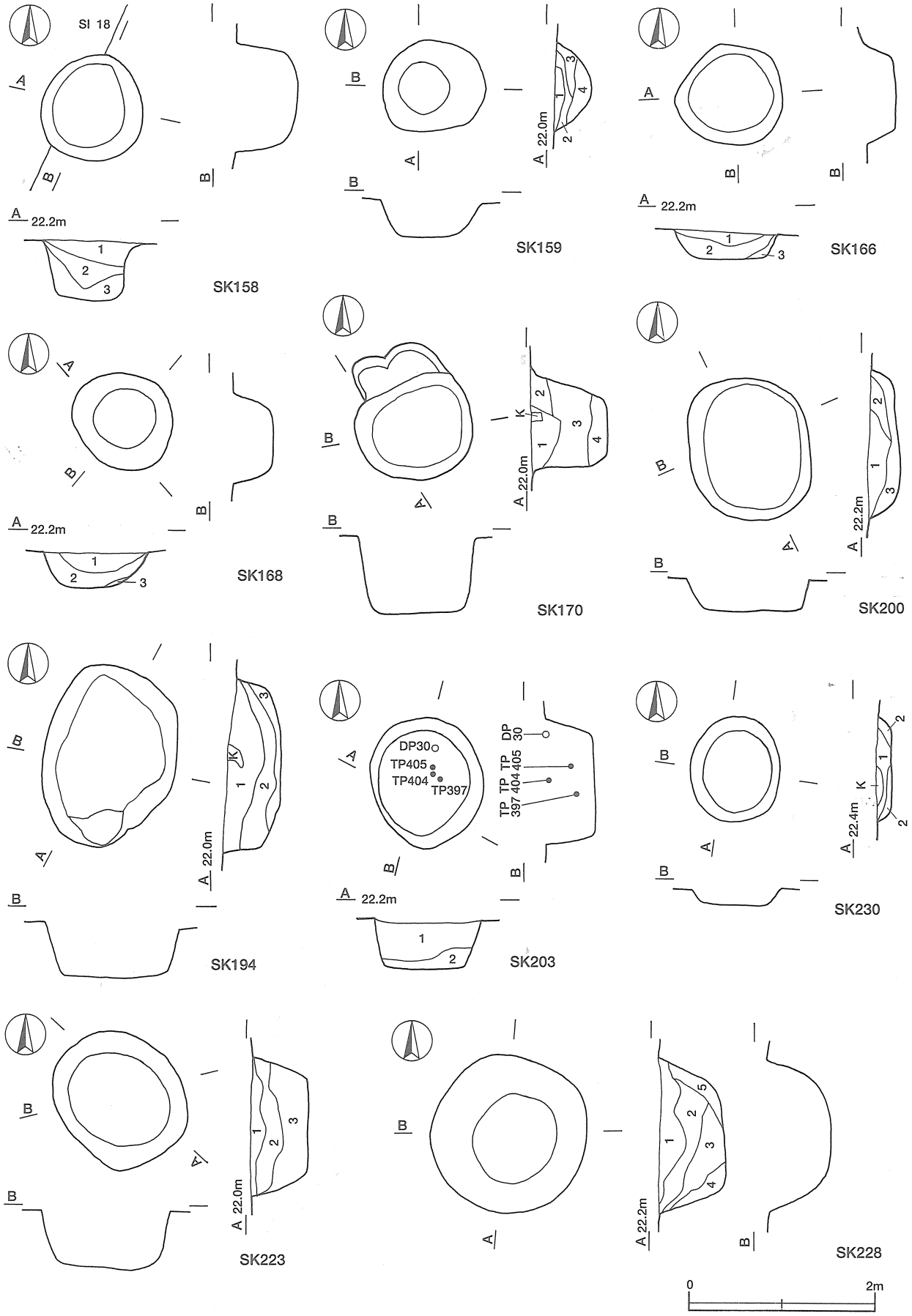
第120図　第1・2・4・6・19・38・40・56・73号土坑実測図(1)



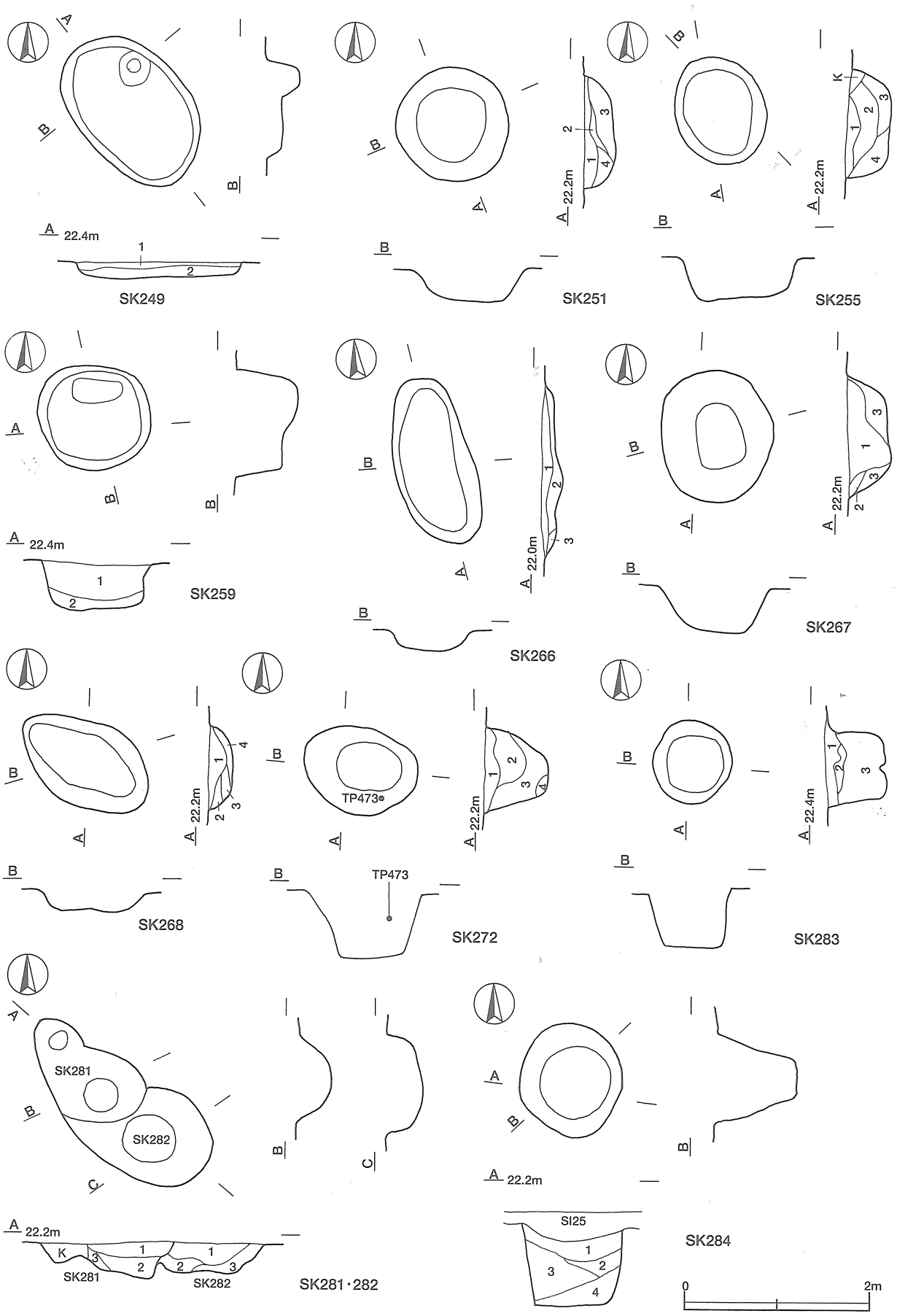
第121図　第75・77・79・86・88・90・94・111・114・121・125号土坑実測図(2)



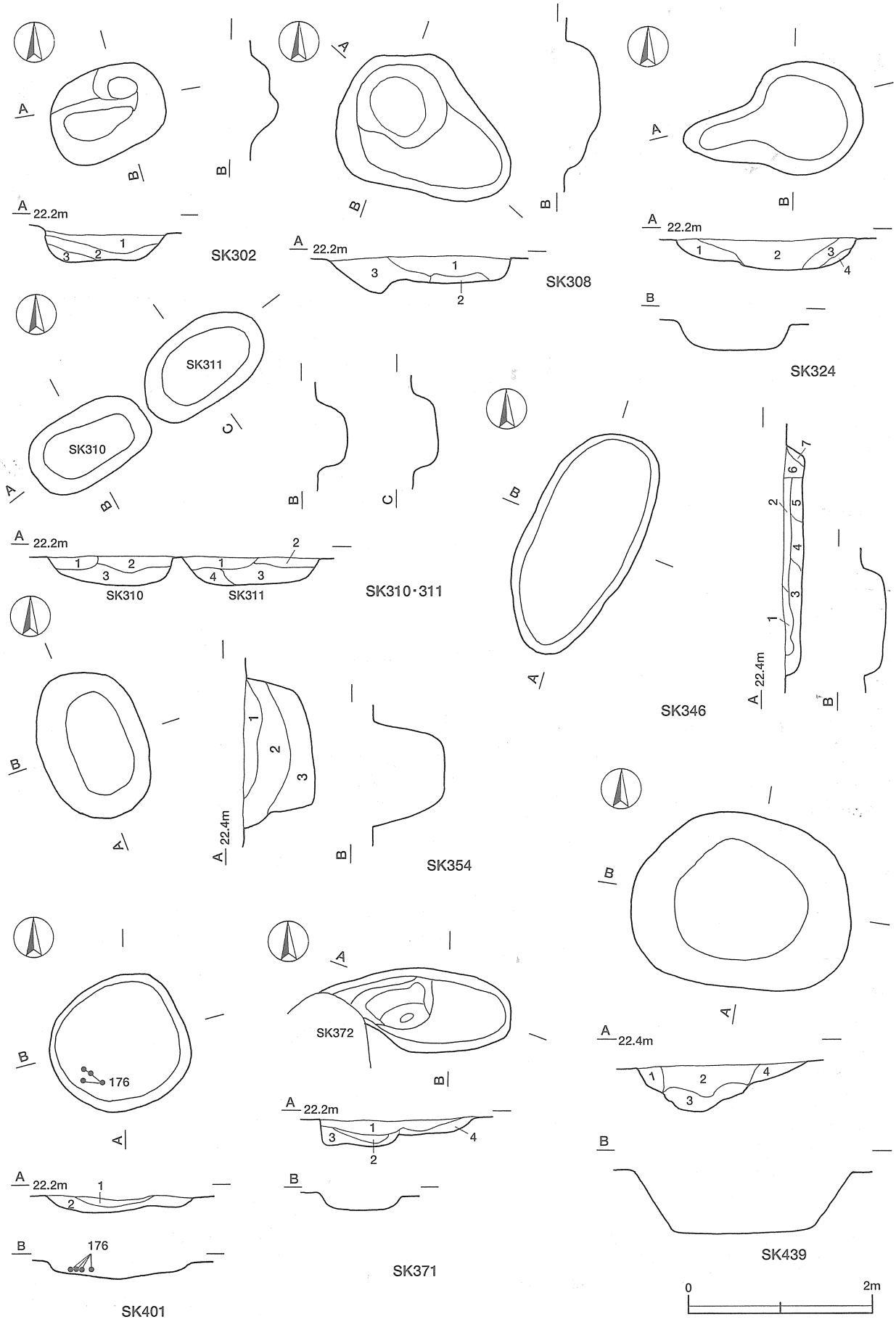
第122図　第131・134・135・136・140・141・142・144・146・150・156・157号土坑実測図(3)



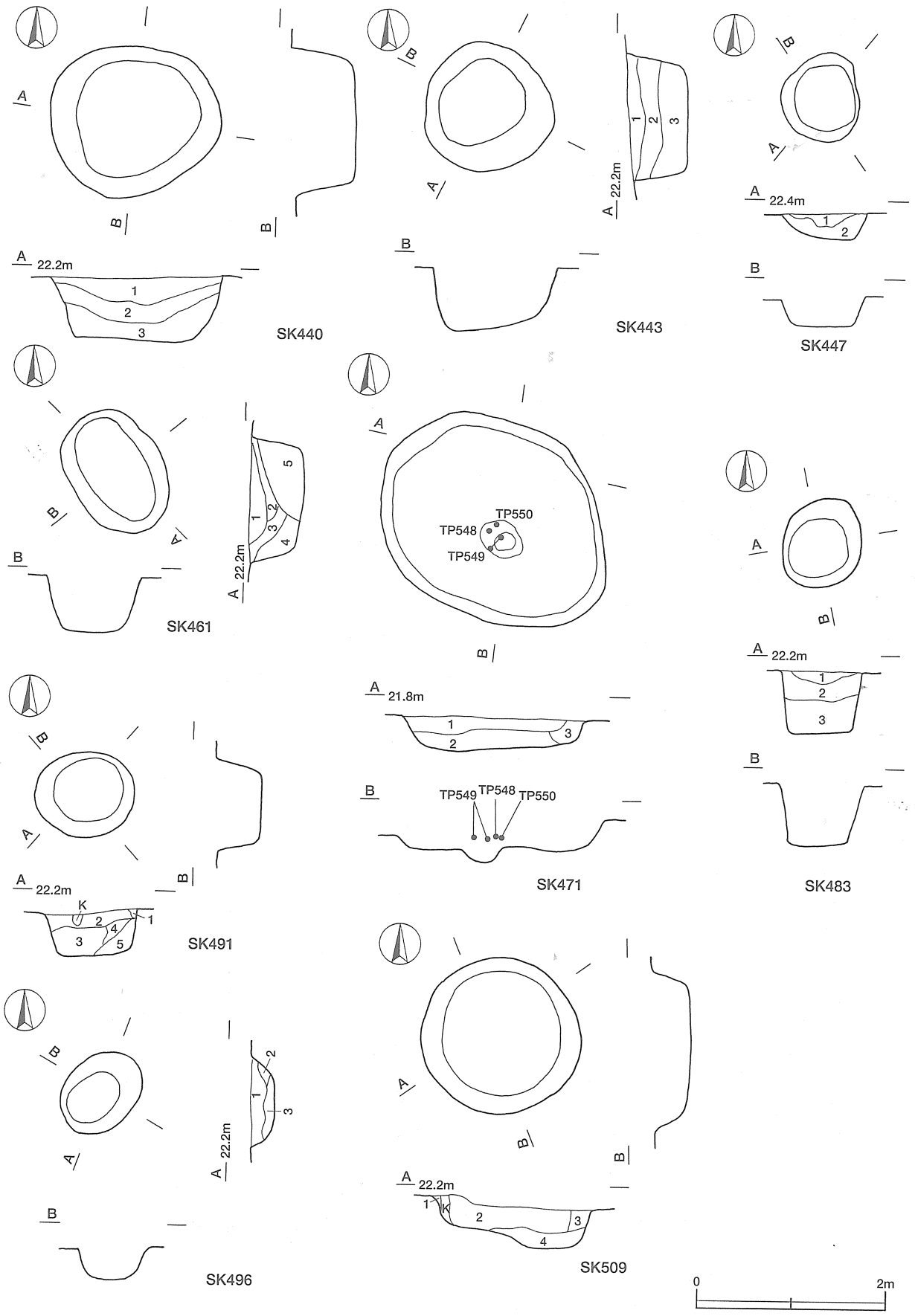
第123図　第158・159・166・168・170・194・200・203・223・228・230号土坑実測図(4)



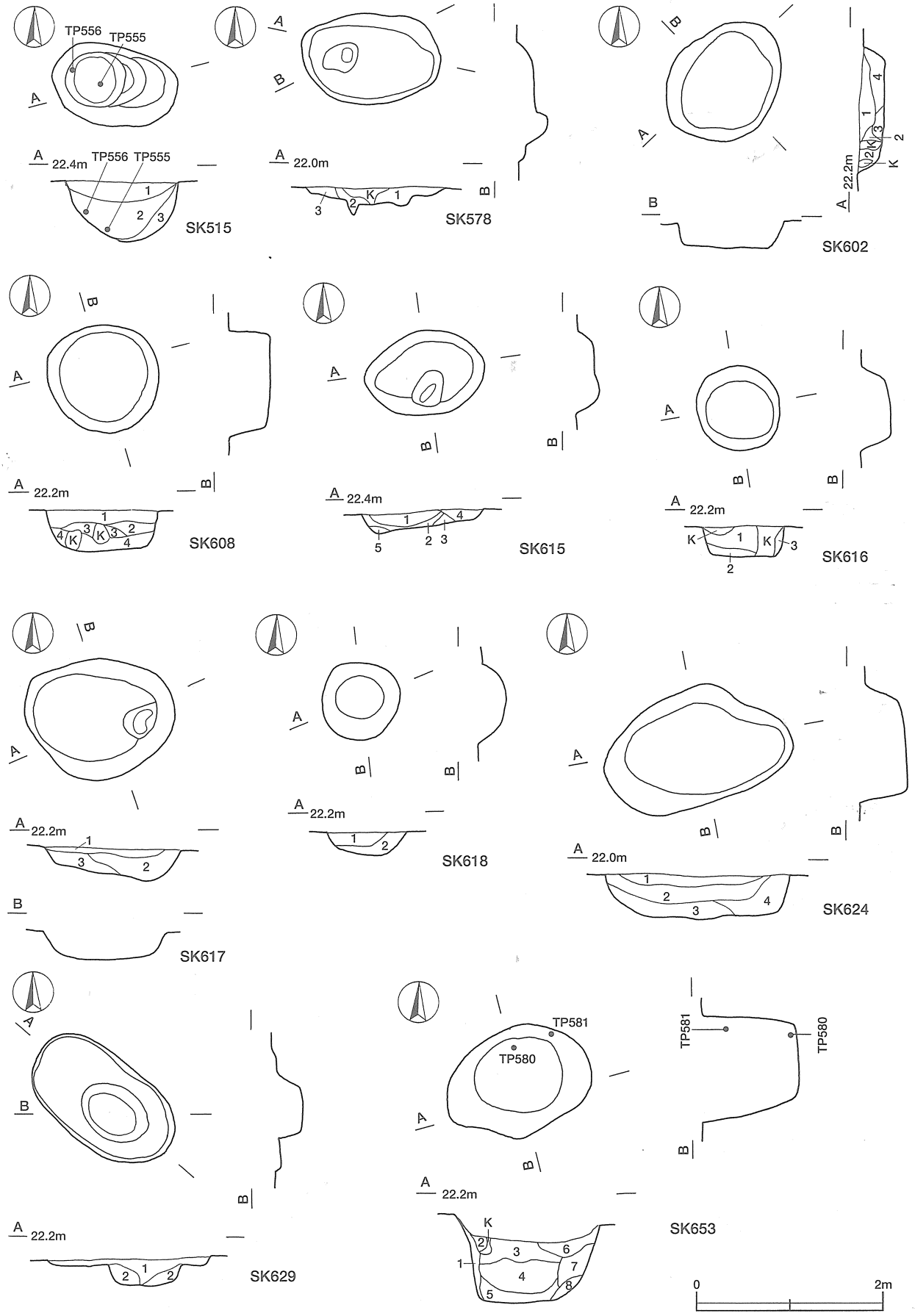
第124図　第249・251・255・259・266・267・268・272・281・282・283・284号土坑実測図(5)



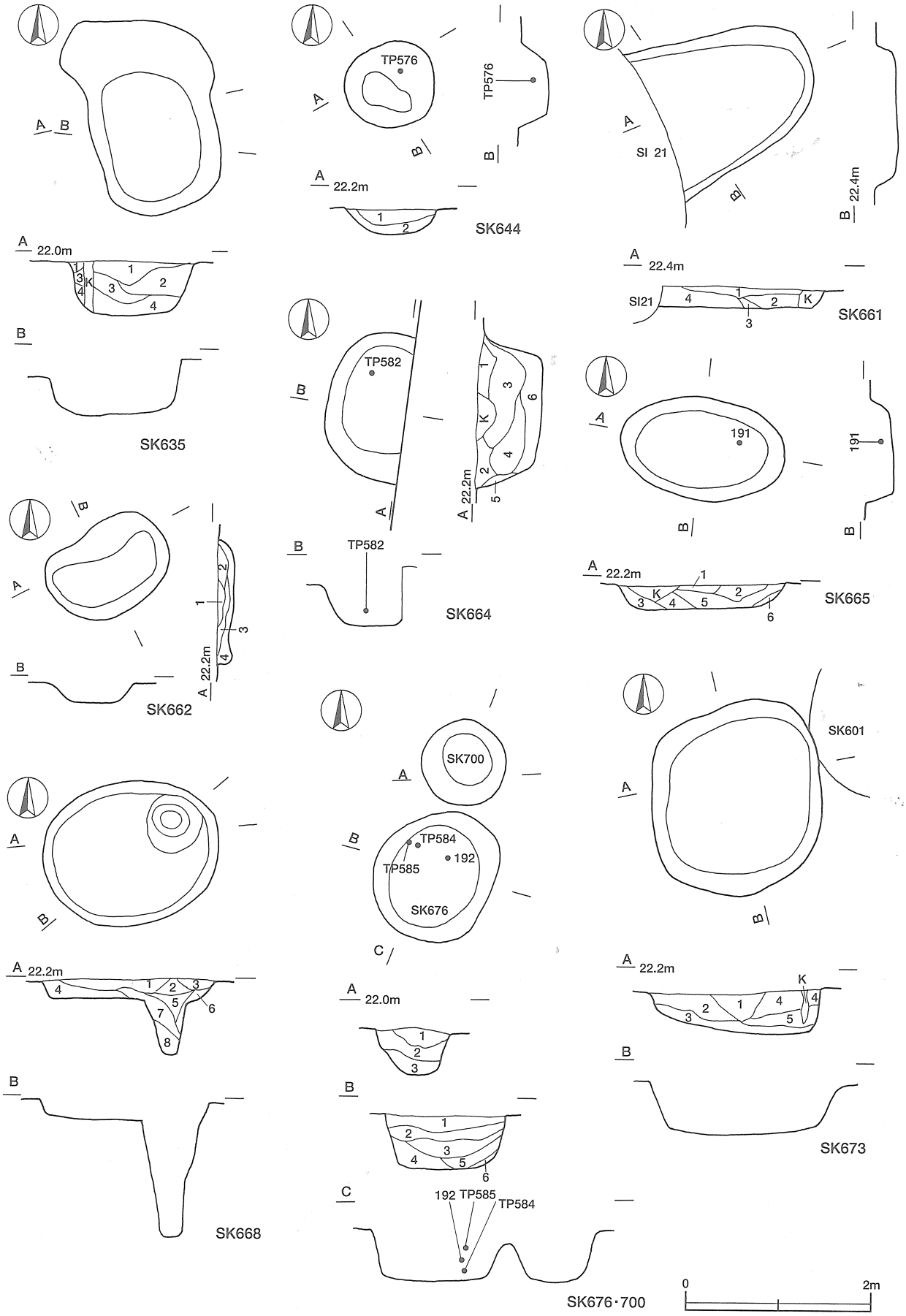
第125図　第302・308・310・311・324・346・354・371・401・439号土坑実測図(6)



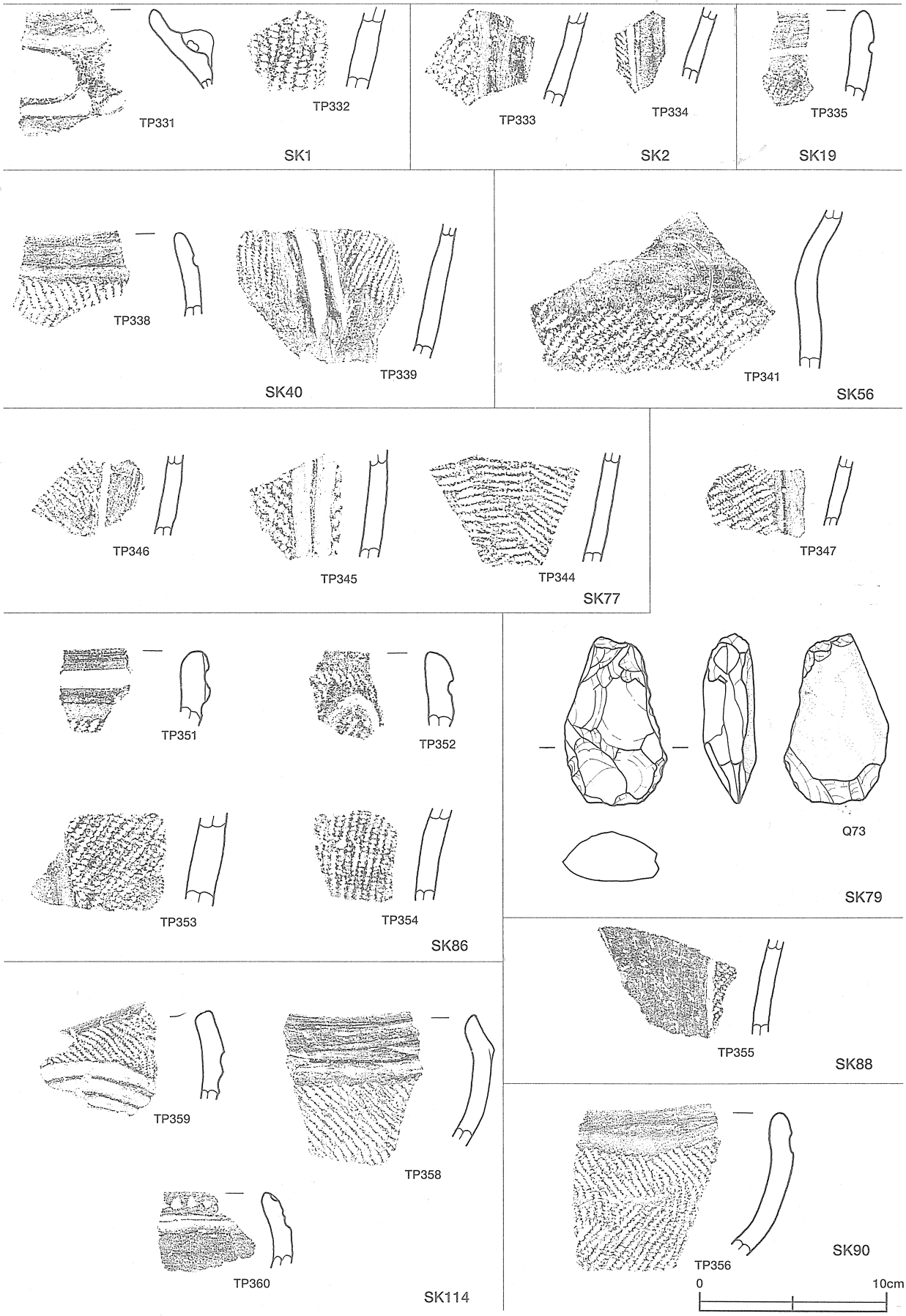
第126図　第440・443・447・461・471・483・491・496・509号土坑実測図(7)



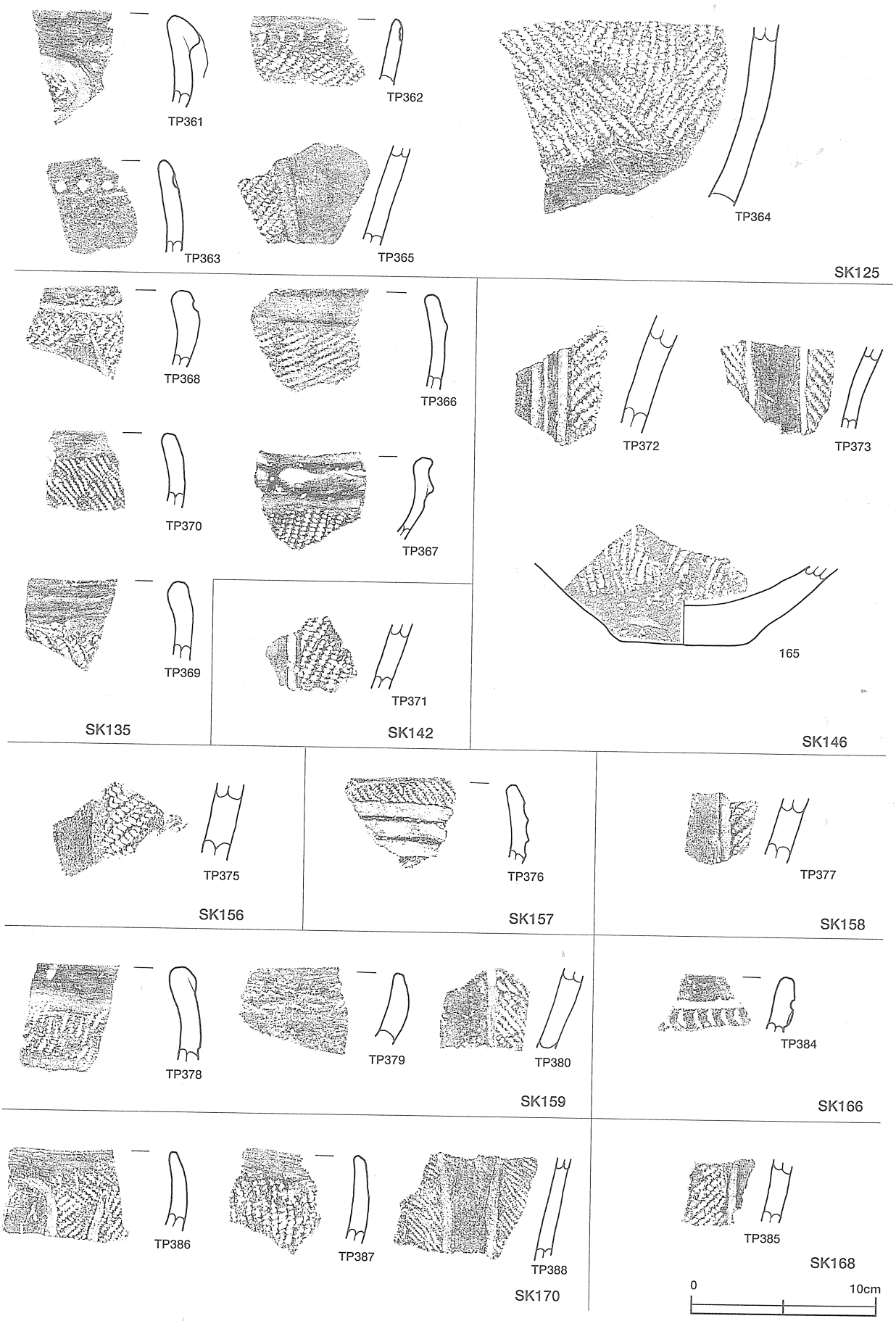
第127図　第515・578・602・608・615・616・617・618・624・629・653号土坑実測図(8)



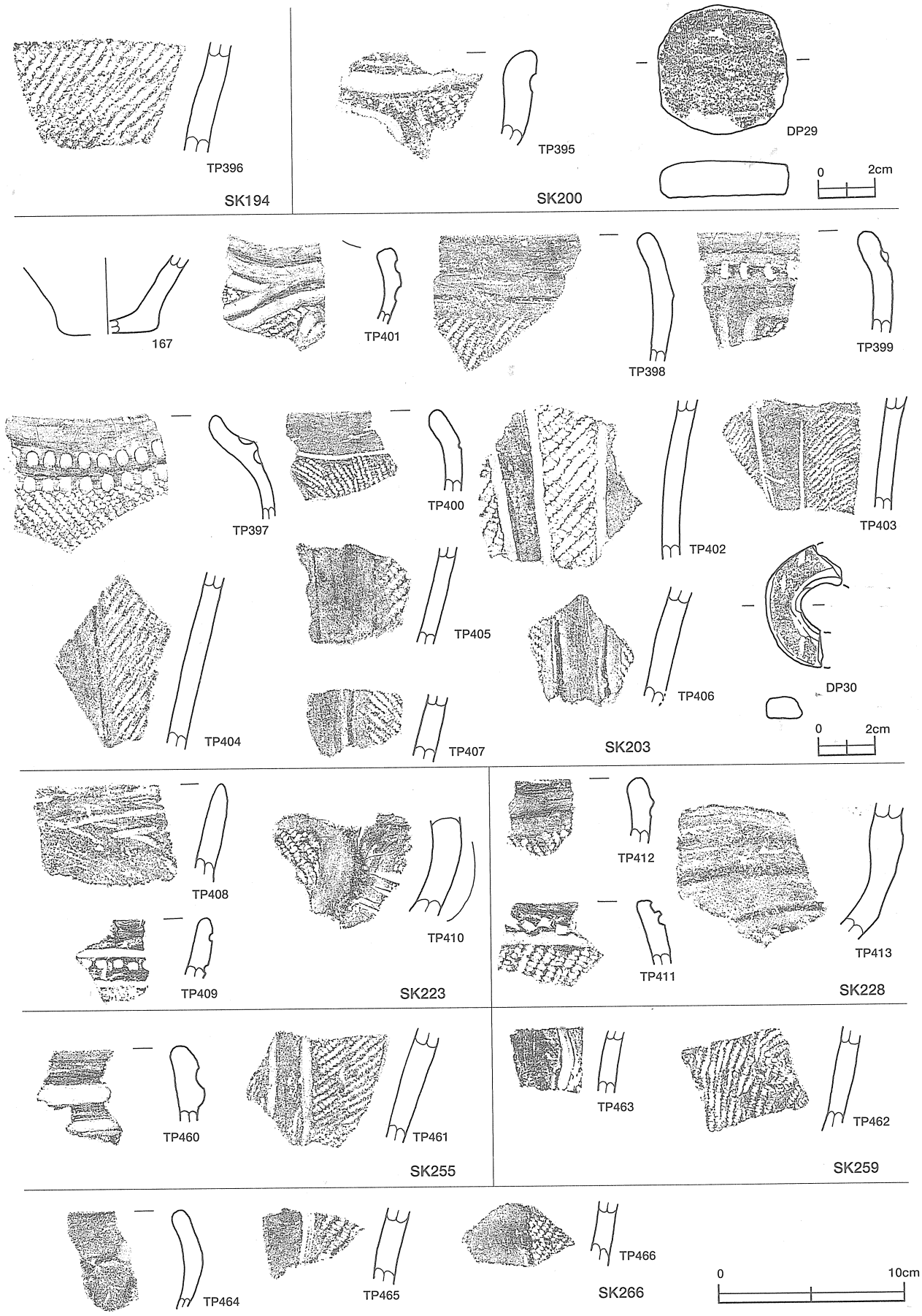
第128図　第635・644・661・662・664・665・668・673・676・700号土坑実測図(9)



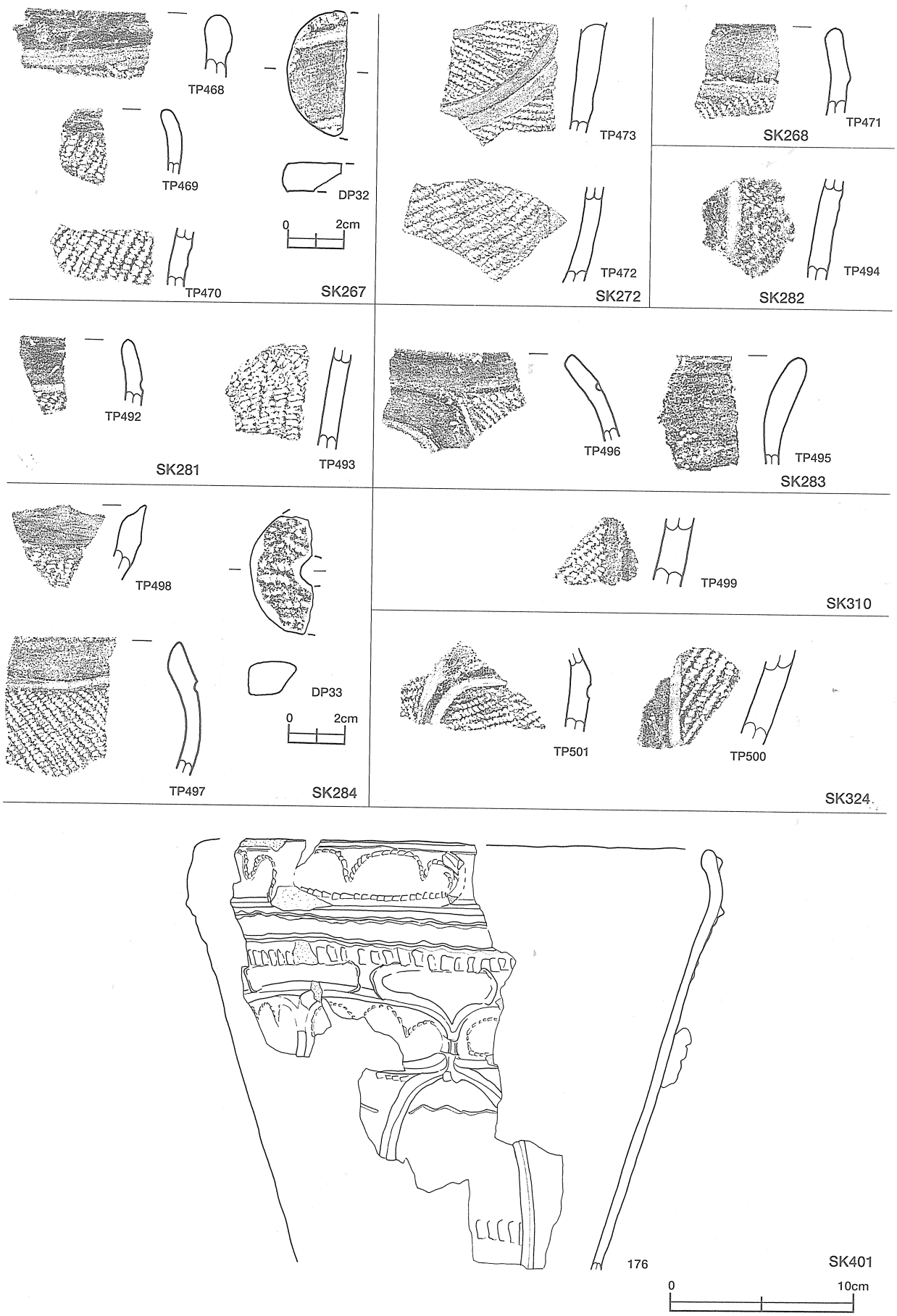
第129図　第1・2・19・40・56・77・79・86・88・90・114号土坑出土遺物実測図(1)



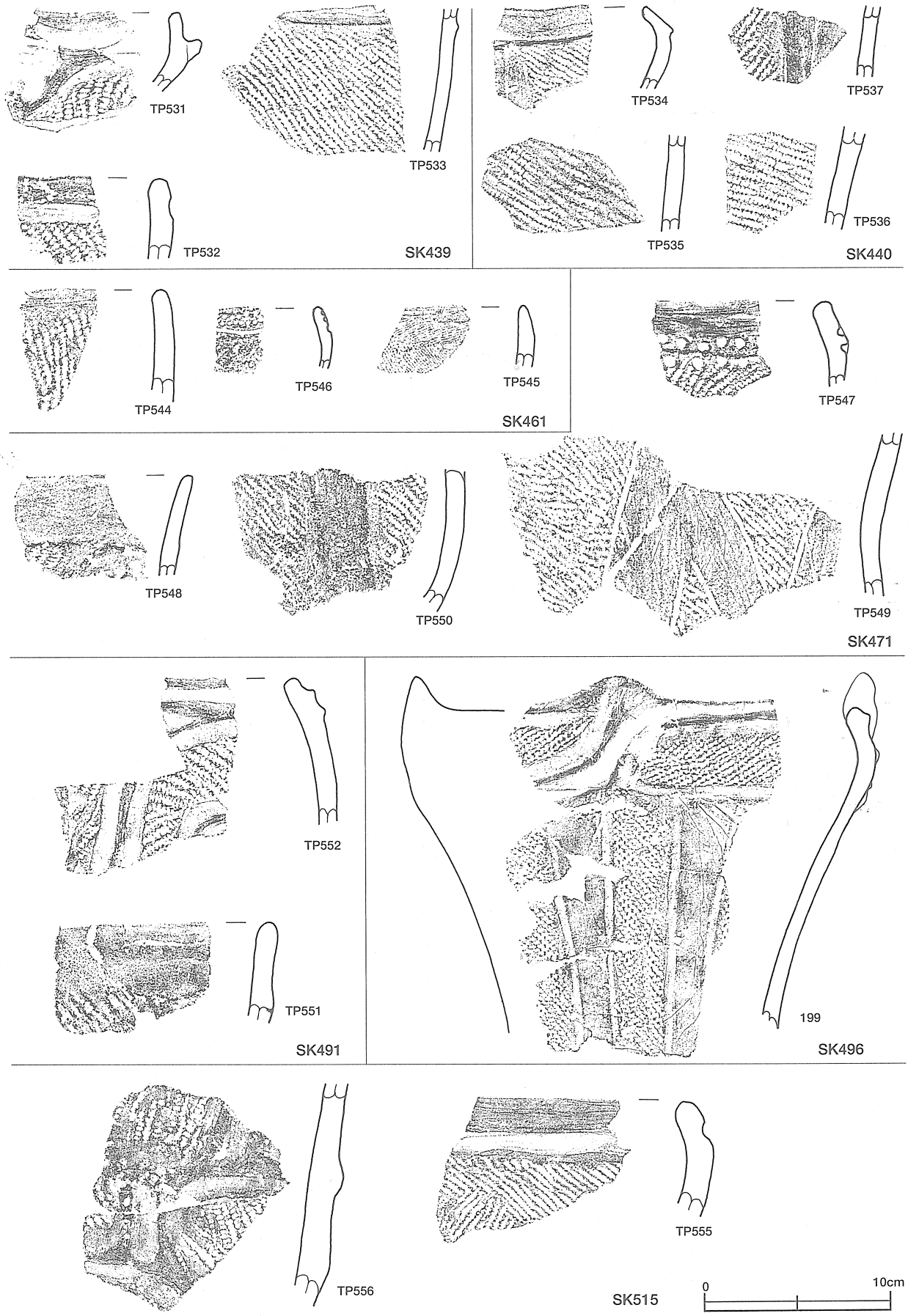
第130図　第125・135・142・146・156・157・158・159・166・168・170号土坑出土遺物実測図(2)



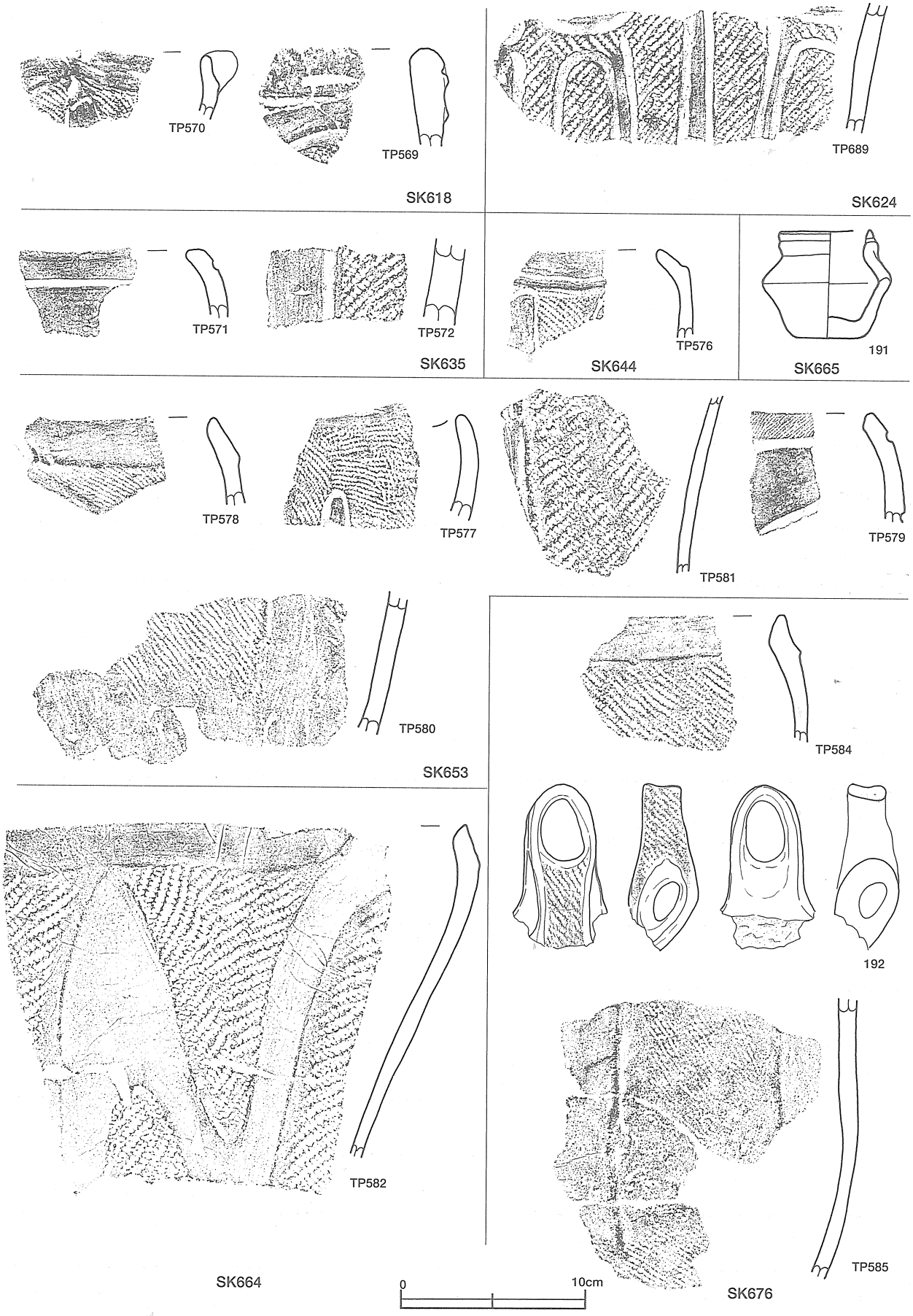
第131図　第194・200・203・223・228・255・259・266号土坑出土遺物実測図(3)



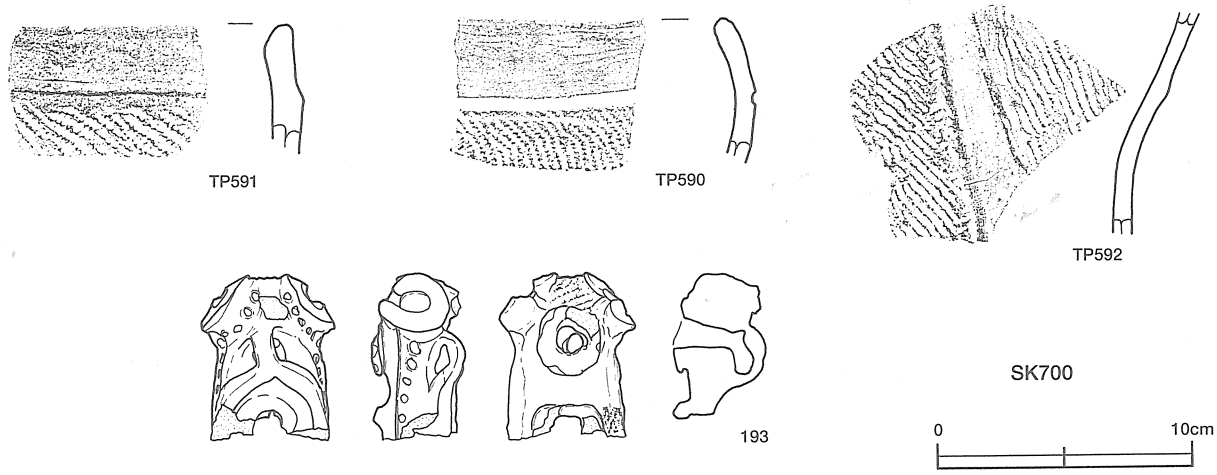
第132図　第267・268・272・281・282・283・284・310・324・401号土坑出土遺物実測図(4)



第133図　第439・440・461・471・491・496・515号土坑出土遺物実測図(5)



第134図　第618・624・635・644・653・664・665・676号土坑出土遺物実測図(6)



第135図　第700号土坑出土遺物実測図(7)

第１号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
331･332	縄文時代中期後葉	331は橋状把手を有する口縁部片で，口辺部無文帯は微隆帯によって区画 332は胴部片で，ＲＬの単節縄文施文	331北西部，332中央部中層	

第２号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
333･334	縄文時代中期後葉	胴部片で，懸垂文帯を有し333はＲＬの単節縄文，334は無節縄文をそれぞれ充填	333中央部中層，334覆土中	

第19号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
335	縄文時代中期後葉	口縁部片で，口辺部無文帯を有し，胴部はＲＬの単節縄文施文	覆土中	

第40号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
338･339	縄文時代中期後葉	338は口縁部片で，口辺部無文帯を区画し，胴部にＲＬの単節縄文施文 339は胴部片で，隆帯と沈線で懸垂文帯を区画し，ＲＬの単節縄文施文	覆土中	

第56号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
341	縄文時代中期後葉	頸部から胴部片で，頸部は無文であり，胴部にはＲＬの単節縄文施文	覆土中	

第77号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
344~346	縄文時代中期後葉	胴部片で，344はＲＬの単節縄文，345・346は懸垂帯を区画	覆土中	

第79号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
347	縄文時代中期後葉	胴部片で，微隆帯によって文様帯を区画し，区画内にＲＬの単節縄文充填	覆土中	

番号	種　別	長さ	幅	厚さ	重量	種　別	特徴	出土位置	備考
Q73	打製石斧	9.1	5.6	2.8	158.0	ホルンフェルス	撥形に片面剥離で刃部は両面剥離	覆土中	

第86号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
351･352	縄文時代中期後葉	口縁部片で,351は隆帯と沈線で口辺部文様帯を区画し,352も沈線によって文様帯描出	覆土中	
353･354	縄文時代中期後葉	胴部片で,354はRLの単節縄文,353は懸垂文帯を有す	覆土中	

第88号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
355	縄文時代中期後葉	胴部片で,懸垂文帯にRLの単節縄文施文	覆土中	

第90号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
356	縄文時代中期後葉	口縁部片で,口辺部無文帯を区画し,胴部にRLの単節縄文施文	覆土中	

第114号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
358～360	縄文時代中期後葉	口縁部片で,358は口辺部無文帯を区画し,胴部にRLの単節縄文施文,359は3本の沈線によって文様を描出しRLの単節縄文施文,360は無文帯を有し,口唇部に円形刺突文施文	358Ｐ下層，359上層，他覆土中	

第125号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
361～363	縄文時代中期後葉	口縁部片で,361は口辺部無文帯を沈線で区画し,区画内に単節縄文充填,362･363は口辺部に刺突文を施文し,362はRLの単節縄文施文	覆土中	
364･365	縄文時代中期後葉	胴部片で,364はLRの単節縄文施文,365は懸垂文帯にRLの単節縄文施文	覆土中	

第135号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
367･368	縄文時代中期後葉	口縁部片で,367は隆帯により口辺部文様帯を区画し,RLの単節縄文施文,368は口辺部に無文帯を区画し,懸垂文帯描出	覆土中	
366･369･370	縄文時代中期後葉	口縁部片で,口辺部無文帯を有し,単節縄文施文	366中央部中層，369北部中層，370覆土中	

第142号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
371	縄文時代中期後葉	胴部片で,懸垂文帯を区画し,RLの単節縄文施文	覆土中	

第146号土坑出土遺物観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
165	縄文土器	深　鉢	—	(4.4)	7.0	底部片で,胴部にRLの単節縄文が施文され,下端はヘラ削り	長石･赤色粒子･雲母	普通	にぶい橙	中央部下層

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
372･373	縄文時代中期後葉	胴部片で，懸垂文帯を区画し，単節縄文施文	372北西部・373南西部下層	

第156号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
375	縄文時代中期後葉	胴部片で，懸垂文帯にＲＬの単節縄文施文	覆土中	

第157号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
376	縄文時代中期後葉	口縁部片で，３本の沈線により文様帯を描出し，ＲＬの単節縄文施文	覆土中	

第158号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
377	縄文時代中期後葉	胴部片で，懸垂文帯に単節縄文施文	覆土中	

第159号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
378～380	縄文時代中期後葉	378･379は口縁部片で,378は沈線によって文様帯を区画し,区画内にRLの単節縄文施文,379は無文帯,380は胴部片で,懸垂文帯にRLの単節縄文施文	覆土中	

第166号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
384	縄文時代中期後葉	口縁部片で，沈線区画内に，爪形文施文	覆土中	

第168号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
385	縄文時代中期後葉	胴部片で，懸垂文帯にＲＬの単節縄文施文	覆土中	

第170号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
386～388	縄文時代中期後葉	386・387は口縁部片で，口辺部に無文帯を有し，ＲＬの単節縄文施文，388は胴部片で，ＬＲの単節縄文を懸垂文帯に施文	覆土中	

第194号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
396	縄文時代中期後葉	胴部片で，ＲＬの単節縄文施文	覆土中	

第200号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
395	縄文時代中期後半	口縁部片で，沈線によって文様を描出し，ＬＲの単節縄文施文	覆土中	

番号	種　別	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特徴	出土位置	備考
DP29	土器円板	4.6	4.7	1.3	36.0	土　製	周縁部雑な研摩	覆土中	ＰＬ37

第203号土坑出土遺物観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
167	縄文土器	深　鉢	—	(4.1)	[5.5]	底部片で，無文	長石･雲母	普通	にぶい黄橙	中央部覆土下層

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
398･401	縄文時代中期後葉	口縁部片で,398は微隆帯による口縁部無文帯を区画し,胴部はRLの単節縄文施文 401は隆帯と沈線によって文様帯を描出し,RLの単節縄文施文	覆土中	
397･399･400	縄文時代中期後葉	口縁部片で,399は沈線によって文様を区画して,刺突文を配し,区画内に単節縄文施文 397は一条の微隆帯を境に2列に刺突文が施文され,以下RLの単節縄文施文	397中央部下層，他覆土中	ＰＬ35
402･403	縄文時代中期後葉	胴部片で,懸垂文帯にRLの縄文施文	覆土中	
404~407	縄文時代中期後葉	胴部片で,微隆帯により,懸垂文帯を区画し,区画内にRLの単節縄文充填	404中央部上層･405中層,他覆土中	

番号	種　別	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特徴	出土位置	備考
DP30	有孔円板	(4.4)	(2.8)	0.8	(8.0)	土　製	周縁部を研摩した土器円板に孔を穿つ	北部上層	

第223号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
408～410	縄文時代中期後葉	408・409は口縁部片で，408は無文，409は沈線，区画内に円形刺突文施文 410は口辺部片で，隆帯によって文様帯を区画し，ＲＬの単節縄文施文	覆土中	

第228号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
411～413	縄文時代中期後葉	411･412は口縁部片で,411は口辺部に刺突文を巡らし,横位の沈線区画,412は口辺部無文帯を微隆帯で区画し,単節縄文施文,413は頸部片で,微隆帯によって文様帯描出	覆土中	

第255号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
460･461	縄文時代中期後葉	460は口縁部片で，口辺部文様帯を隆帯と沈線によって描出，461は懸垂文帯にＲＬの単節縄文施文	覆土中	

第259号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
462･463	縄文時代中期後葉	胴部片で，462はＲＬの単節縄文施文，463は懸垂文帯を有す	覆土中	

第266号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
464～466	縄文時代中期後葉	464は口縁部片で，無文，465は胴部片で，懸垂文帯に，ＲＬの単節縄文施文 466は微隆帯によって文様を描出し，区画内にＲＬの単節縄文充填	覆土中	

第267号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
468～470	縄文時代中期後葉	468・469は口縁部片で，468は口辺部無文帯を描出，469も口辺部無文帯を有し，以下ＲＬの単節縄文施文，470は胴部片で，ＲＬの単節縄文施文	覆土中	

番号	種　別	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特徴	出土位置	備考
DP32	土器円板	4.5	(2.1)	1.1	(12.0)	土　製	懸垂文帯に単節縄文充填	覆土中	ＰＬ37

第268号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
471	縄文時代中期後葉	口縁部片で，口辺部無文帯を区画し，以下ＬＲの単節縄文施文	覆土中	

第272号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
472･473	縄文時代中期後葉	胴部片で，472はＲＬの単節縄文，473は微隆帯によって文様を描出し，ＲＬの単節縄文施文	473南東部中層，472覆土中	

第281号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
492･493	縄文時代中期後葉	492は口縁部片で,沈線で口辺部を区画し,以下単節縄文施文,493は胴部片で,RLの単節縄文施文	覆土中	

第282号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
494	縄文時代中期後葉	胴部片で，懸垂文帯にＲＬの単節縄文施文	覆土中	

第283号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
495･496	縄文時代中期後葉	口縁部片で,495は無文,496は微隆帯によって文様を描出し,区画内に刺突文とRLの単節縄文が施文	覆土中	

第284号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
497･498	縄文時代中期後葉	口縁部片で，497は口辺部無文帯を微隆帯によって区画し，以下ＲＬの単節縄文施文，498も口辺部無文帯を区画し，以下ＬＲの単節縄文施文	覆土中	

番号	種　別	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特徴	出土位置	備考
DP33	有孔円板	4.3	(2.3)	1.2	(13.0)	土　製	周縁部を研摩した土器円板に孔を穿つ	覆土中	ＰＬ37

第310号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
499	縄文時代中期後葉	胴部片で，懸垂文帯にＲＬの単節縄文施文	覆土中	

第324号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
500･501	縄文時代中期後葉	いずれも胴部片で，沈線による区画にＲＬの単節縄文施文	覆土中	

第401号土坑出土遺物観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
176	縄文土器	深　鉢	[39.0]	(10.1)	—	胴部に隆帯による枠状文を描出し,区画内には角押文を施し,口辺部にも連弧状の角押文施文	長石･石英･雲母	普通	赤褐	南西部上層 ＰＬ27

第439号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
531～533	縄文時代中期後葉	531･532は口縁部片で,531は隆帯により文様を描出し,RLの単節縄文施文,532は口辺部無文帯を区画し,以下LRの単節縄文施文,533は微隆帯によって文様帯を区画し,LRの単節縄文施文	覆土中	

第440号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
534～537	縄文時代中期後葉	534は口縁部片で,535～537は胴部片,534･537は微隆帯によって文様帯を区画し,区画内に534はLRの単節縄文,537はRLの単節縄文充填,535･536は胴部片で,RLの単節縄文施文	覆土中	

第461号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
544～546	縄文時代中期後葉	口縁部片で，544はＲＬの単節縄文が，545は無節縄文が羽状に施文，546は口辺部無文帯に２段の刺突文を有す	覆土中	

第471号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
547･548	縄文時代中期後葉	口縁部片で，口辺部無文帯を微隆帯によって区画し，以下ＲＬの単節縄文施文，547は微隆帯を挟んで２列の円形刺突文を有す	548中央部中層，547覆土中	ＰＬ35
549･550	縄文時代中期後葉	胴部片で，549は沈線によって文様帯を区画し，ＬＲの単節縄文充填 550は微隆帯によって文様帯を区画し，区画内にＬＲの単節縄文充填	中央部中層	

第491号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
551･552	縄文時代中期後葉	口縁部片で，551は口辺部無文帯を有し，以下ＲＬの単節縄文施文，552は隆帯と沈線によって文様を描出し，ＲＬの単節縄文施文	覆土中	

第496号土坑出土遺物観察表

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎　土	焼成	色　調	備考(出土位置)
199	縄文土器	深　鉢	[24.2]	(29.3)	—	口辺部文様帯は隆帯と沈線によって文様帯を区画し，区画内にＬＲの単節縄文充填し，胴部にも懸垂文帯にＬＲの単節縄文充填	砂粒･雲母	普通	橙	南西部覆土中 ＰＬ27

第515号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
555･556	縄文時代中期後葉	555は口縁部片で，口辺部を横位の沈線によって区画し，以下ＬＲの単節縄文施文，556は胴部片で，隆帯によって文様を描出し，ＲＬの単節縄文施文	555中央部下層，556西部中層	

第618号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
569･570	縄文時代中期後葉	口縁部片で，569は隆帯によって文様帯を区画し，区画内に縄文施文，570は口辺部無文帯を区画し，沈線によって文様を描出し，ＬＲの単節縄文施文	覆土中	

第624号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
689	縄文時代中期後葉	胴部片で，沈線によって胴部文様帯を描出し，ＲＬの単節縄文施文	覆土中	

第635号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
571･572	縄文時代中期後葉	571は口縁部片で,口辺部無文帯を区画,572は胴部片で,懸垂文帯にRLの単節縄文施文	覆土中	

第644号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
576	縄文時代中期後葉	口縁部片で,口辺部無文帯を区画し,沈線によって懸垂文帯を描出し,LRの単節縄文施文	中央部中層	

第653号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
578･580･581	縄文時代中期後葉	578は口縁部片,580･581は胴部片,微隆帯によって文様帯を区画し,区画内に578･580はLRの単節縄文,581はRLの単節縄文施文	580北部下層，581東部上層，578覆土中	
577･579	縄文時代中期後葉	口縁部片で,577はRLの単節縄文地文に沈線により文様帯を描出し,579はRLの無節縄文を施文	覆土中	

第664号土坑出土遺物観察表

TP番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
582	縄文時代中期後葉	口縁部から胴部片で,微隆帯によって文様帯を区画し,区画内にRLの単節縄文充填	北西部中層	ＰＬ35

第665号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
191	縄文土器	壷	[5.0]	6.0	3.9	器面は荒れており,口辺部には一対の孔が穿たれ,無文	長石・赤色粒子・雲母	普通	にぶい褐色	東部中層 ＰＬ27

第676号土坑出土遺物観察表

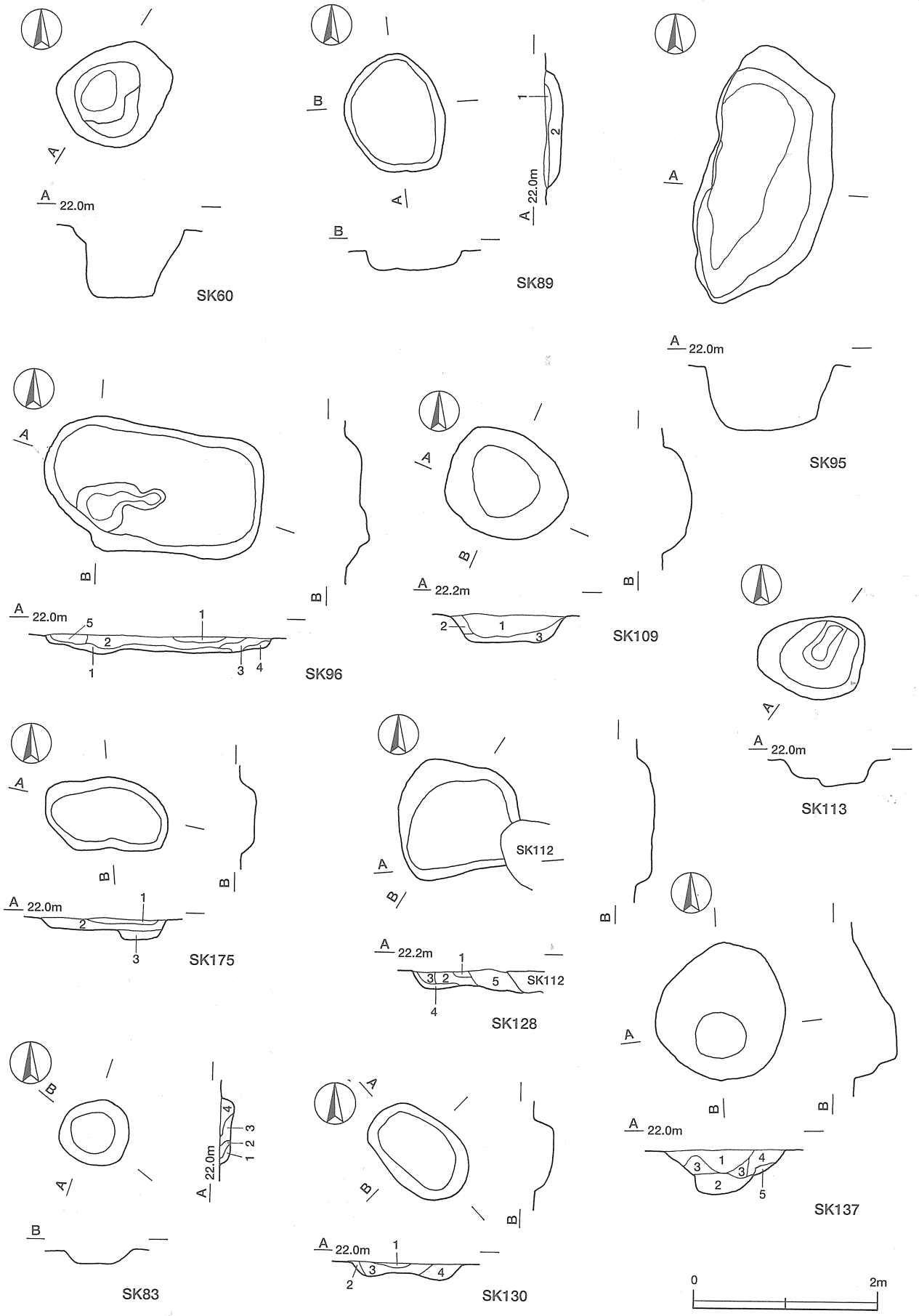
番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
192	縄文土器	深鉢 (把手)	—	—	—	LRの単節縄文施文	長石・赤色粒子・雲母	普通	にぶい褐色	中央部中層 ＰＬ27

TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
584・585	縄文時代中期後葉	584は口縁部片で,口辺部無文帯を微隆帯で区画し,以下RLの単節縄文施文,585は胴部片で,微隆帯によって文様帯を区画し,区画内にLRの単節縄文充填	北西部585中層，584下層	

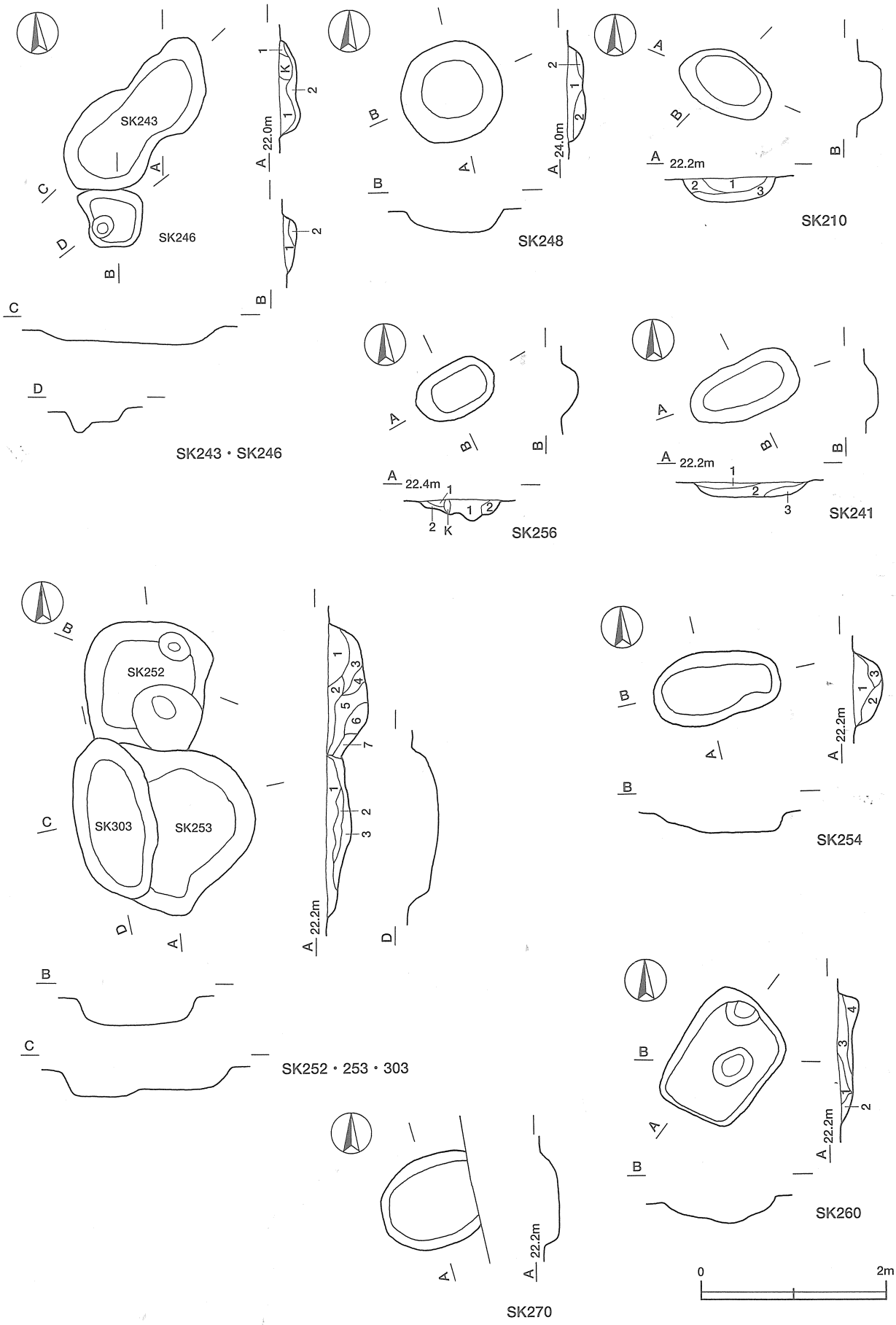
第700号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
193	縄文土器	深鉢 (把手)	—	—	—	双頭の把手で，中部側面から内部にかけて円形刺突文施文	長石・赤色粒子	普通	にぶい橙	覆土中 ＰＬ27

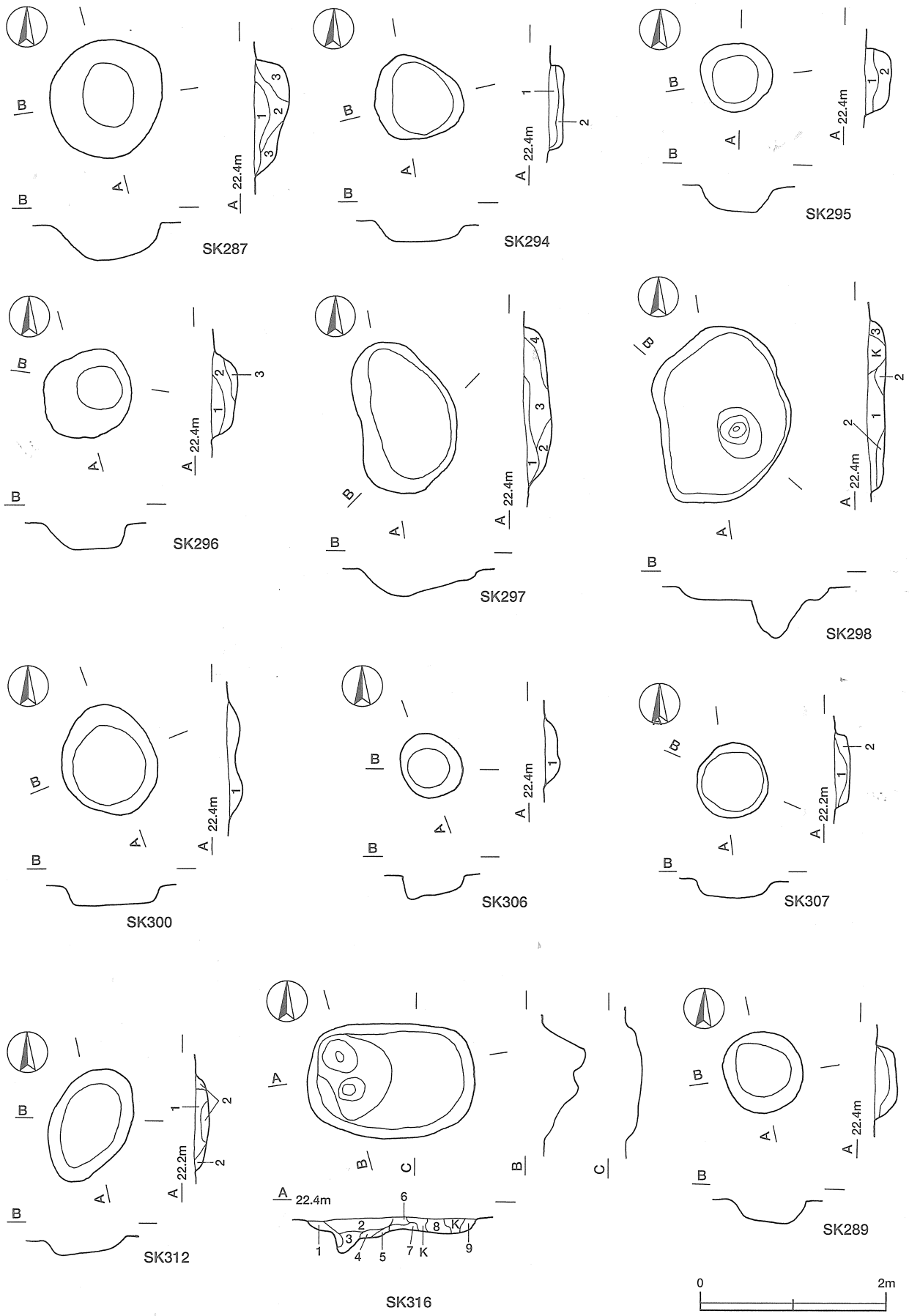
TP番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
590～592	縄文時代中期後葉	590・591は口縁部片で,590は口辺部無文帯を横位の沈線により区画し,以下RLの単節縄文を,591も口辺部無文帯は横位の微隆帯で区画し,以下LRの単節縄文施文,592は胴部片で,微隆帯によって文様帯を区画し,区画内にLRの単節縄文充填	覆土中	



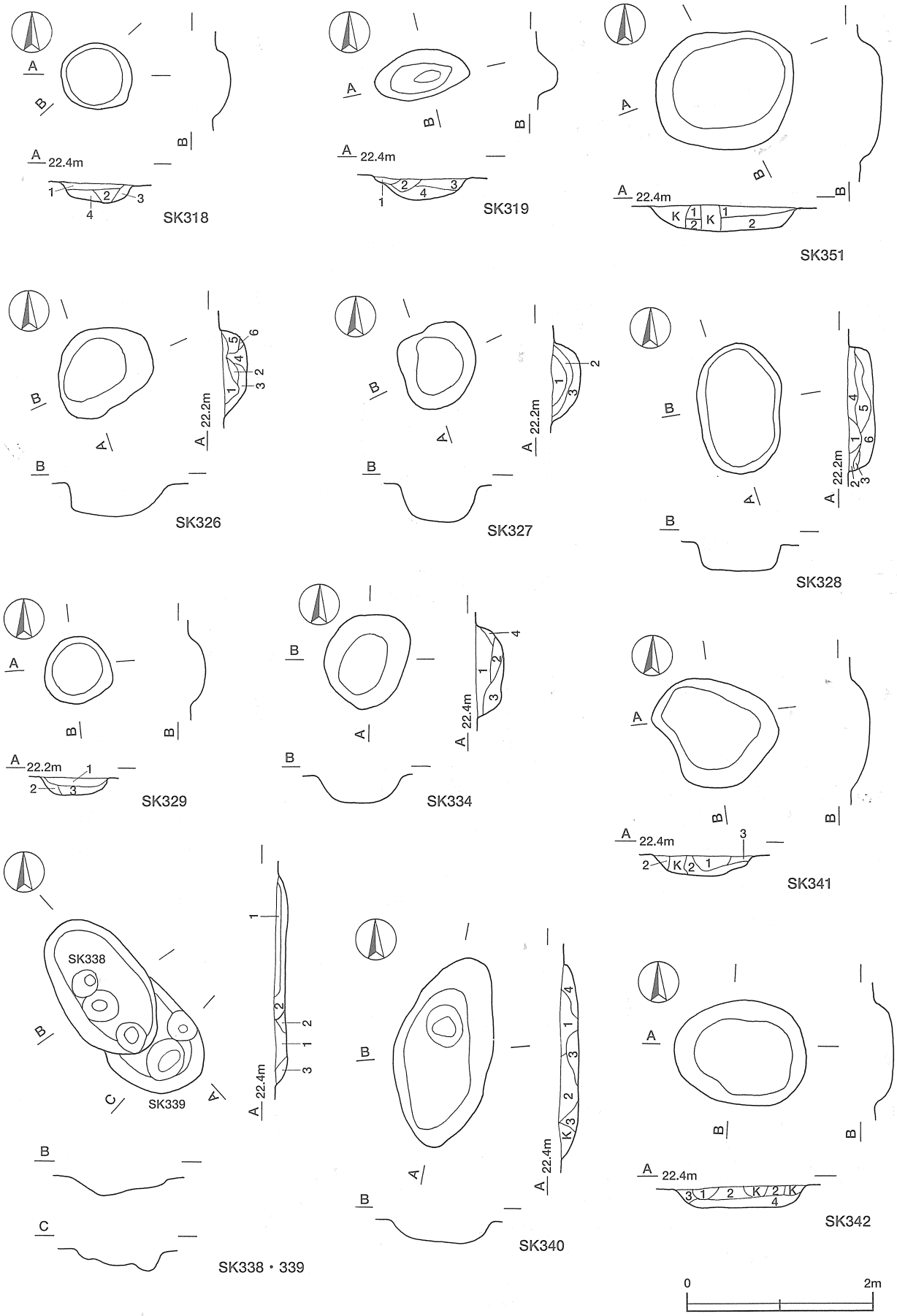
第136図　第60・83・89・95・96・109・113・128・130・137・175号土坑実測図(10)



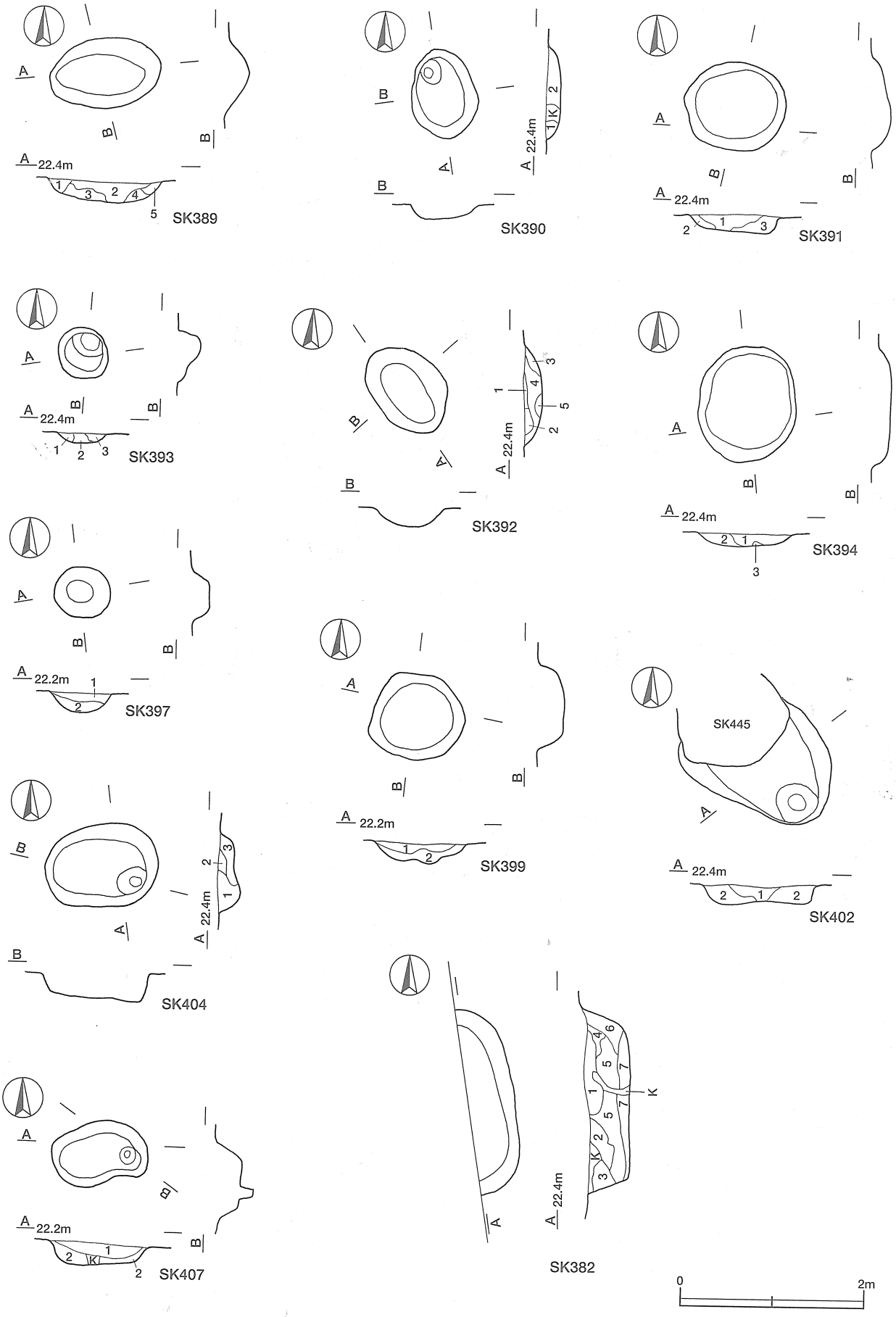
第137図　第210・241・243・246・248・252・253・254・256・260・270・303号土坑実測図(11)



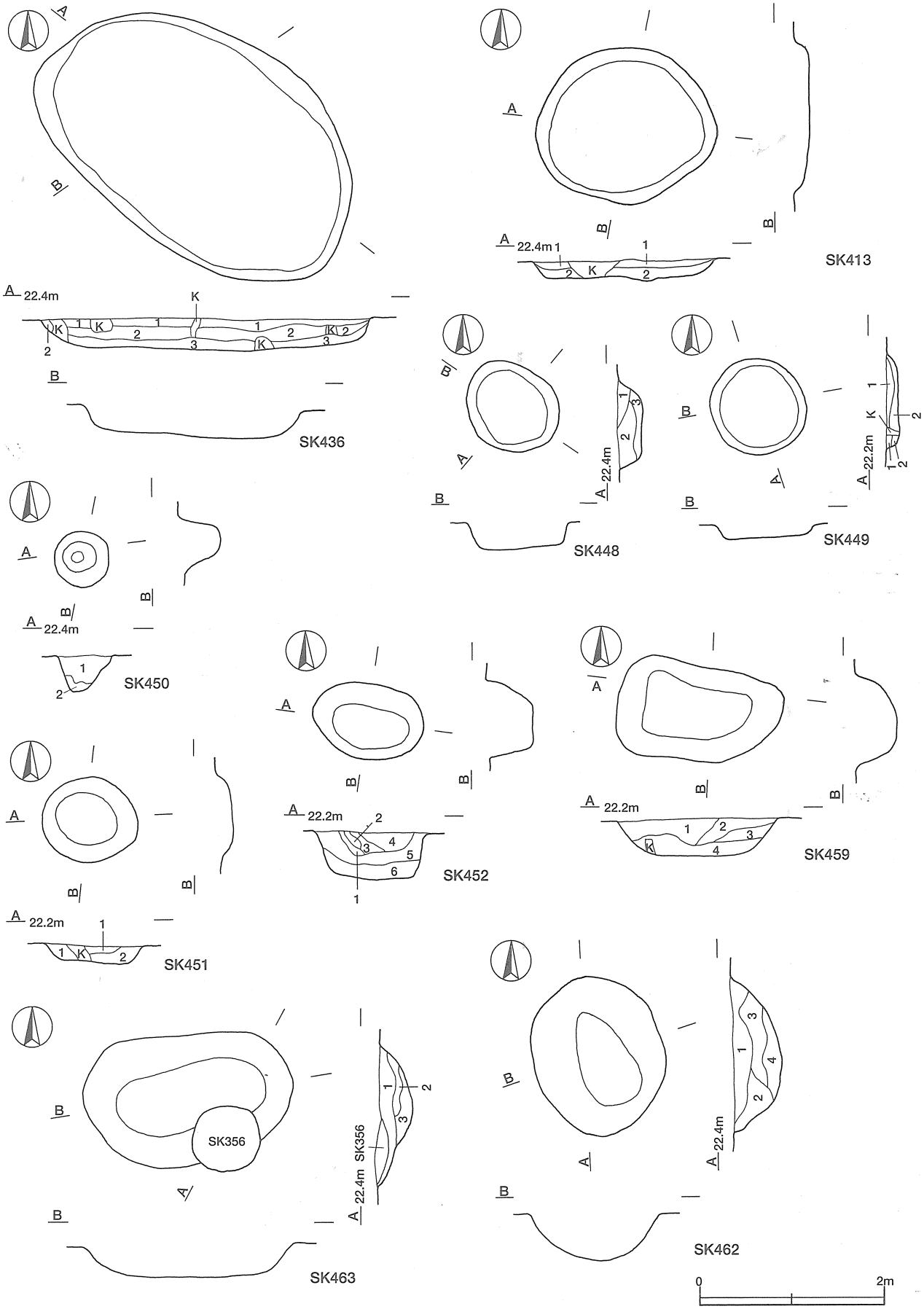
第138図　第287・289・294・295・296・297・298・300・306・307・312・316号土坑実測図(12)



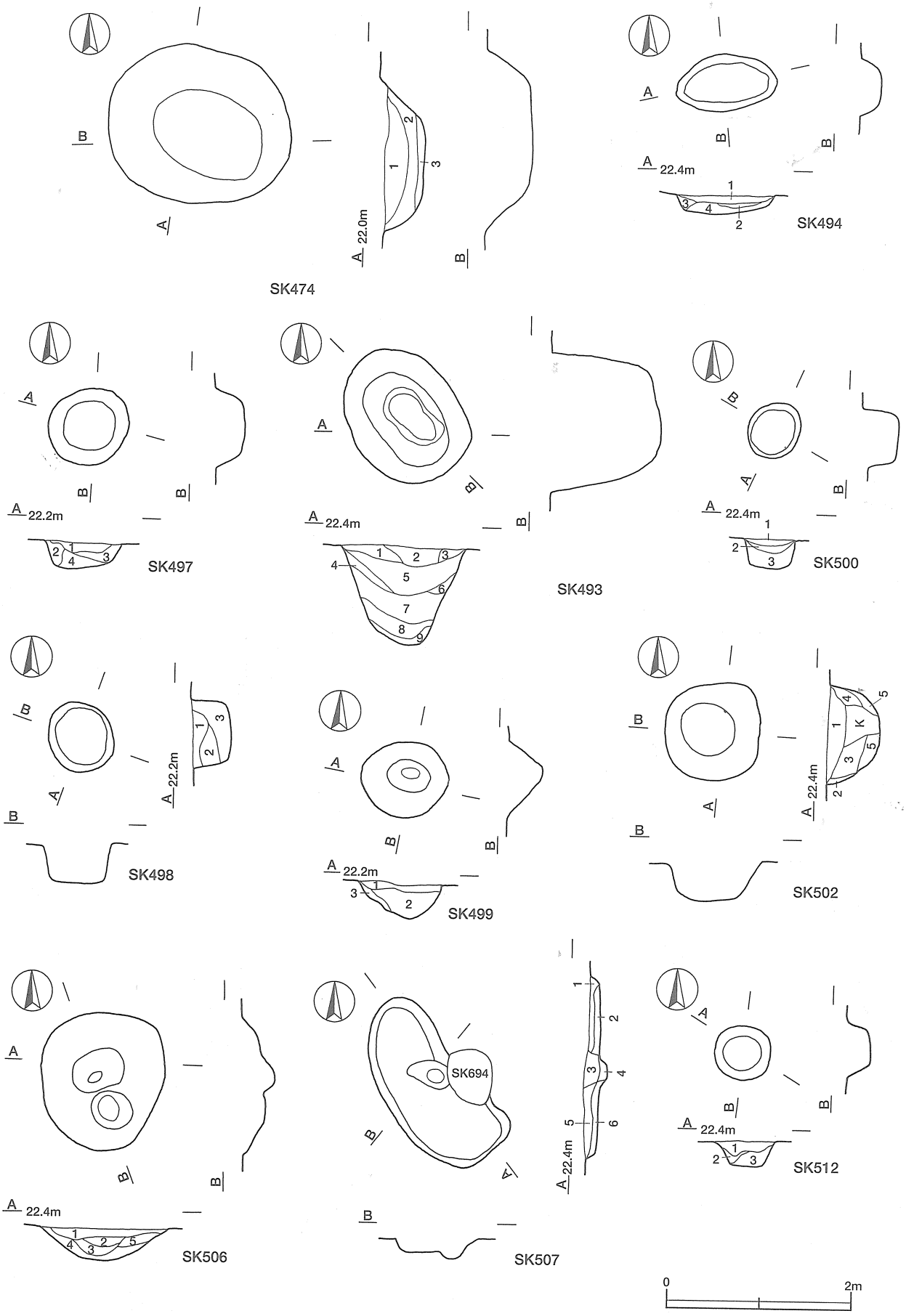
第139図　第318・319・326・327・328・329・334・338・339・340・341・342・351号土坑実測図(13)



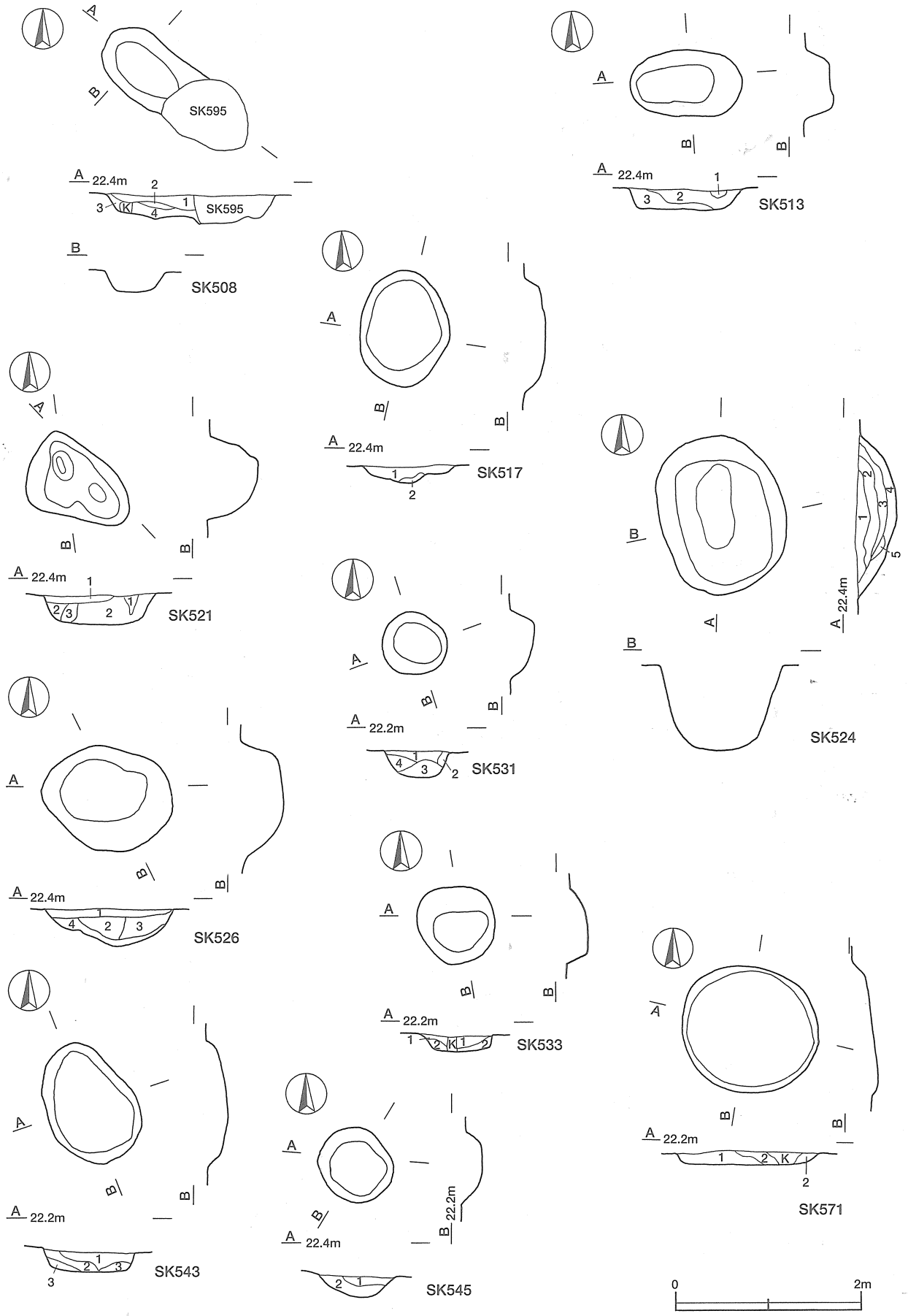
第140図　第382・389・390・391・392・393・394・397・399・402・404・407号土坑実測図(14)



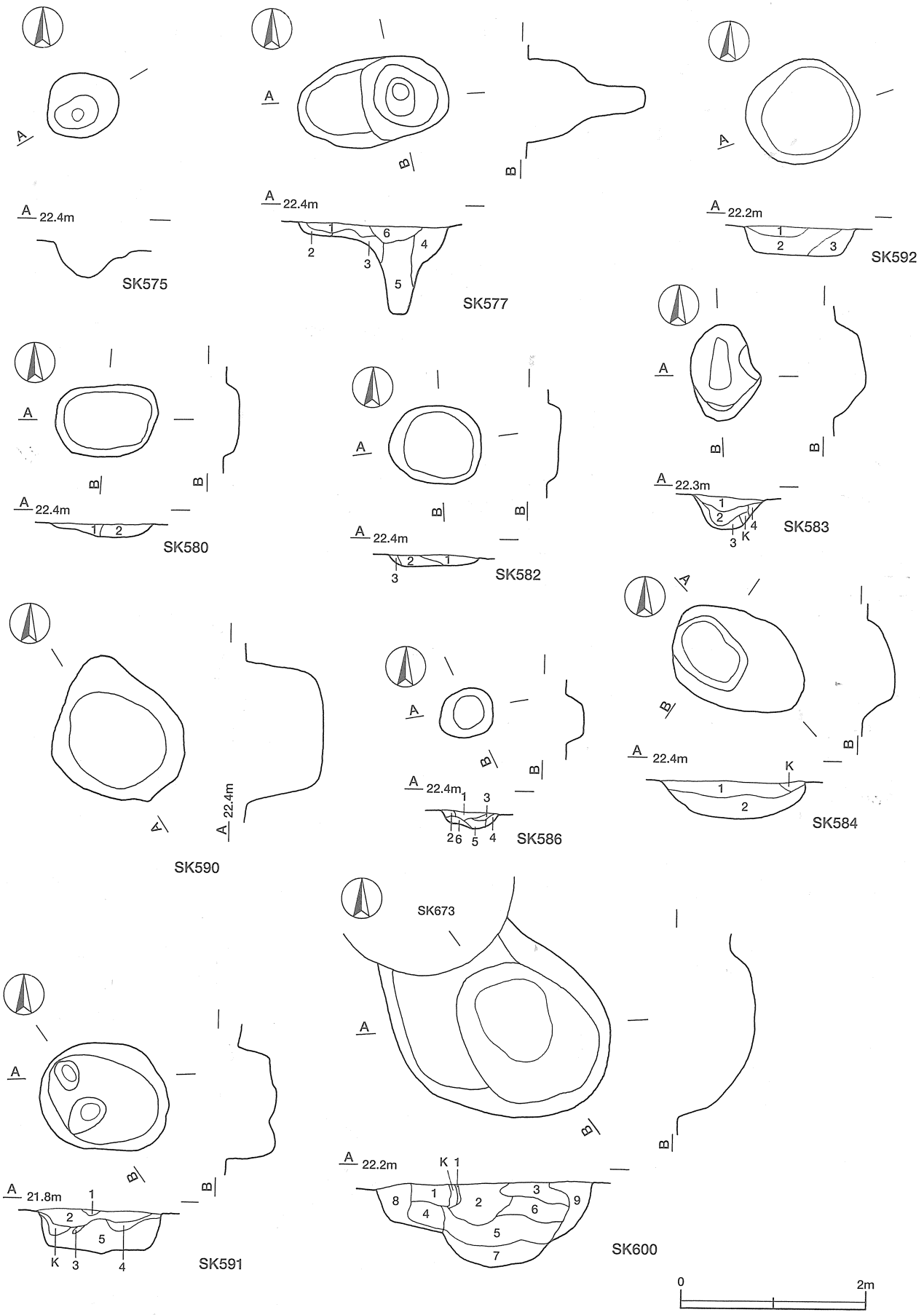
第141図　第413・436・448・449・450・451・452・459・462・463号土坑実測図(15)



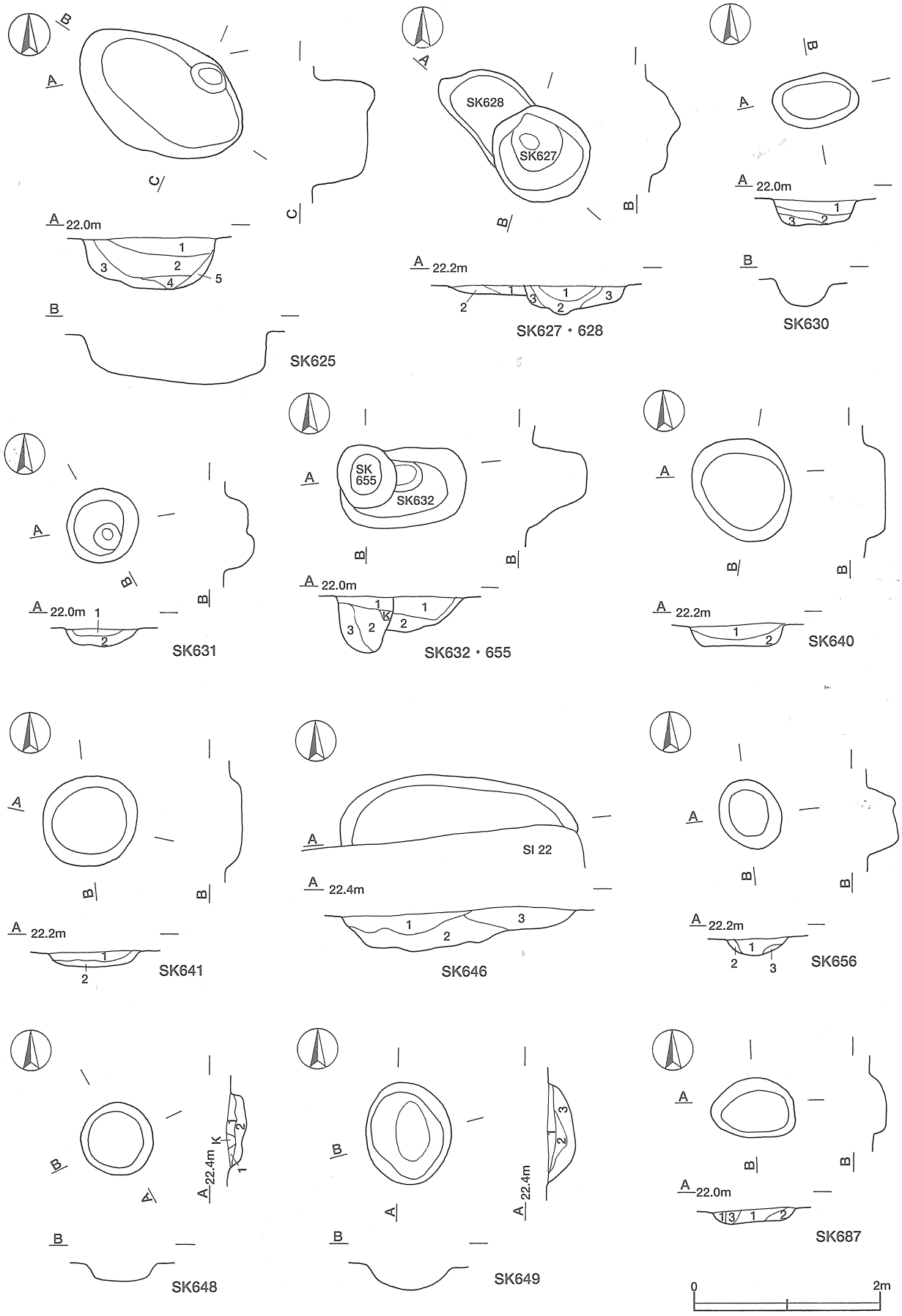
第142図　第474・493・494・497・498・499・500・502・506・507・512号土坑実測図(16)



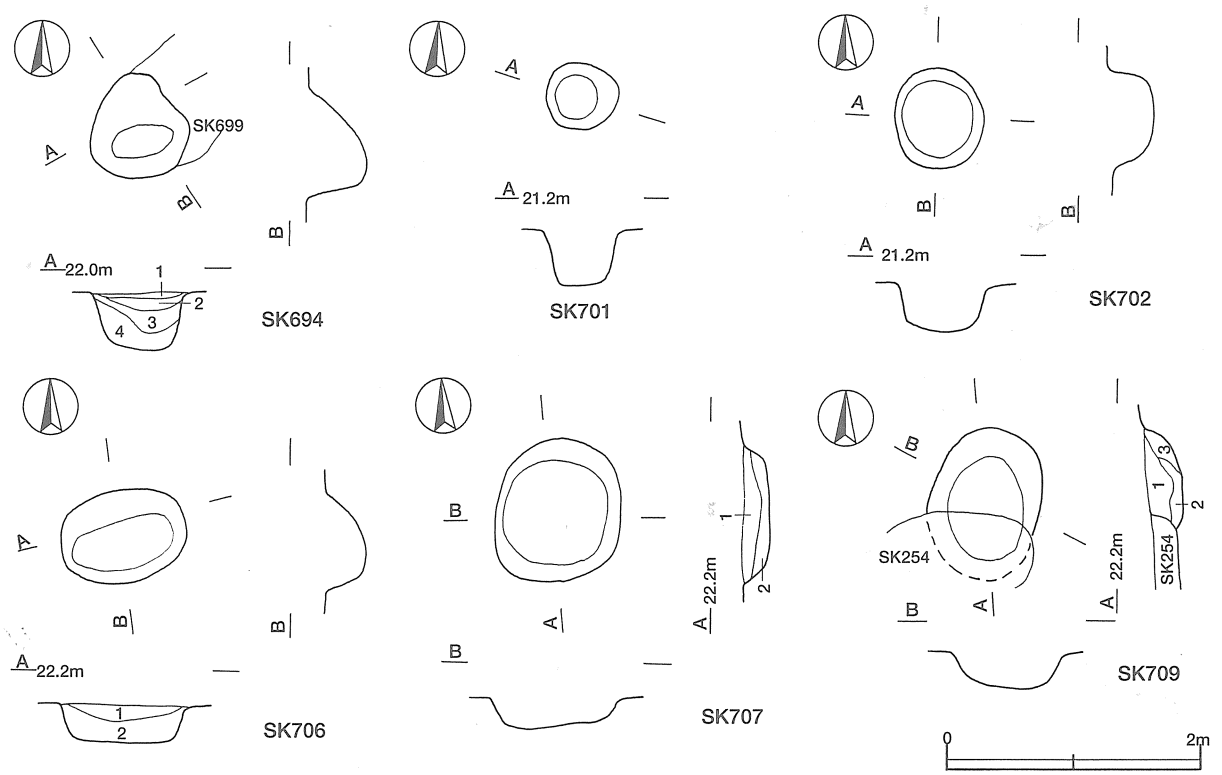
第143図　第508・513・517・521・524・526・531・533・543・545・571号土坑実測図(17)



第144図　第575・577・580・582・583・584・586・590・591・592・600号土坑実測図(18)



第145図　第625・627・628・630・631・632・640・641・646・648・649・655・656・687号土坑実測図(19)



第146図　第694・701・702・706・707・709号土坑実測図(20)

第83号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量
2　黒 褐 色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
3　褐　　色　ロームブロック少量
4　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第89号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

第96号土坑土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
2　黒　　色　炭化物中量，ロームブロック少量
3　暗 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
4　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子少量
5　黒 褐 色　炭化物少量，ローム粒子微量

第109号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第128号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化物微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック多量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量
5　黒 褐 色　ロームブロック少量

第130号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量
4　黒 褐 色　ロームブロック微量

第137号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子中量
4　褐　　色　ロームブロック中量
5　褐　　色　ローム粒子中量

第175号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子中量
2　褐　　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量

第210号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック・炭化物微量

第241号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　褐　　色　ローム粒子多量

第243号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　暗 褐 色　ロームブロック中量　締まり有り

第246号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック微量

第248号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第252号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量　締まり有り
3　褐　　色　ロームブロック少量，炭化物微量
4　暗 褐 色　ロームブロック少量
5　褐　　色　ロームブロック少量　締まり有り
6　褐　　色　ロームブロック少量
7　褐　　色　ロームブロック中量

第253号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック中量　締まり有り

第254号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子少量
第256号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量
第260号土坑土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック微量
第287号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック微量
3　褐　　色　ロームブロック少量
第289号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量
第294号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子中量
第295号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量
第296号土坑土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量
第297号土坑土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子中量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
第298号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック中量
3　極暗褐色　ロームブロック微量
第300号土坑土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子少量
第306号土坑土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子少量
第307号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量
第312号土坑土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子中量
第316号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
3　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量
4　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック・炭化粒子微量
5　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
7　黒 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
9　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量，炭化粒子微量
第318号土坑土層解説
1　黒 褐 色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
2　黒 褐 色　炭化粒子少量，ロームブロック・ローム粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
第319号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量
2　黒 褐 色　ロームブロック少量
3　暗 褐 色　ロームブロック微量
4　暗 褐 色　ロームブロック中量
第326号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック多量
3　褐　　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子中量
5　暗 褐 色　ローム粒子少量
6　褐　　色　ローム粒子中量，ロームブロック微量
第327号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック多量
3　褐　　色　ロームブロック多量，ロームブロック微量
第328号土坑土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック少量
2　極暗褐色　ロームブロック中量
3　暗 褐 色　ロームブロック中量
4　褐　　色　ロームブロック中量
5　褐　　色　ロームブロック中量，ロームブロック微量
6　褐　　色　ロームブロック多量
第329号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック多量
3　褐　　色　ロームブロック中量
第334号土坑土層解説
1　黒 褐 色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
第338号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量
第339号土坑土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック中量　締まり有り
第340号土坑土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量
第341号土坑土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子多量
3　黒 褐 色　ローム粒子少量
第342号土坑土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　褐　　色　ローム粒子多量
4　褐　　色　ローム粒子中量，ロームブロック微量
第351号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
第382号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック・炭化物微量
4　褐　　色　ロームブロック少量
5　暗 褐 色　ロームブロック少量
6　極暗褐色　ロームブロック微量
7　褐　　色　ロームブロック微量

第389号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ロームブロック・炭化粒子少量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ロームブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック少量

第390号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量

第391号土坑土層解説
1　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量
2　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量

第392号土坑土層解説
1　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量
2　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量
5　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量

第393号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　暗 褐 色　ローム粒子微量

第394号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック多量
3　褐　　色　ローム粒子多量

第397号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック少量

第399号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック・炭化物微量
2　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

第402号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
2　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量

第404号土坑土層解説
1　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量
2　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量

第407号土坑土層解説
1　黒 褐 色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第413号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第436号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
2　暗 褐 色　ロームブロック・炭化物微量
3　暗 褐 色　ロームブロック・炭化物微量　粘性有り

第448号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量

第449号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量

第450号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量　粘性有り

第451号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量

第452号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
4　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量
5　褐　　色　ロームブロック中量
6　褐　　色　ロームブロック中量　粘性弱し

第459号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
3　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物微量
4　褐　　色　ロームブロック多量，炭化物微量

第462号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量
4　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第463号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
3　黒　　色　炭化物多量，ローム粒子少量

第474号土坑土層解説
1　黒 褐 色　炭化物中量，焼土ブロック少量，ロームブロック微量
2　褐　　色　炭化物微量
3　暗 褐 色　炭化物少量，ローム粒子・焼土粒子微量

第493号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物少量
2　暗 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
3　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物微量
4　褐　　色　ロームブロック中量，ローム粒子・炭化物微量
5　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化物少量
6　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
7　暗 褐 色　ロームブロック中量，ローム粒子・炭化物少量
8　褐　　色　ロームブロック少量，炭化材微量
9　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第494号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　暗 褐 色　ロームブロック中量
4　褐　　色　ロームブロック多量

第497号土坑土層解説
1　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量

第498号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，ローム粒子・炭化物微量
3　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量

第499号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

第500号土坑土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック中量，炭化物少量
2　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第502号土坑土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
5　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第506号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量
3　暗 褐 色　ロームブロック中量
4　褐　　色　ロームブロック中量，ローム粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック中量

第507号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量
4　黒 褐 色　ロームブロック中量
5　褐　　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
6　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第508号土坑土層解説
1　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量，
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ロームブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

第512号土坑土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
2　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第513号土坑土層解説
1　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量
2　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量，炭化物微量

第517号土坑土層解説
1　黒 褐 色　炭化物中量，ロームブロック微量
2　褐　　色　ロームブロック少量

第521号土坑土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック多量
3　褐　　色　ロームブロック中量

第524号土坑土層解説
1　黒 褐 色　炭化材中量，焼土ブロック少量，ロームブロック微量
2　極暗褐色　ロームブロック・炭化材少量
3　黒　　色　炭化材多量，ローム粒子微量
4　黒 褐 色　ロームブロック少量，炭化物・焼土ブロック微量
5　暗赤褐色　炭化物・焼土粒子少量，ロームブロック微量

第526号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子少量
2　黒 褐 色　ローム粒子少量
3　極暗褐色　ローム粒子少量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量

第531号土坑土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第533号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第543号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第545号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第571号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子・焼土ブロック微量

第577号土坑土層解説
1　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物微量
4　褐　　色　ロームブロック中量，ローム粒子・炭化物微量
5　暗 褐 色　ロームブロック・炭化物微量
6　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量

第580号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第582号土坑土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物微量
2　暗 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第583号土坑土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量
2　黒 褐 色　ローム粒子少量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ロームブロック微量
4　黒 褐 色　ローム粒子少量

第584号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第586号土坑土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子少量
6　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第591号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子・焼土ブロック微量
2　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
3　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子・焼土粒子微量
4　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
5　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第592号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量

第600号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
3　褐　　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土ブロック微量
4　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
6　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
7　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8　褐　　色　ロームブロック少量
9　褐　　色　ロームブロック微量

第625号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　暗 褐 色　ロームブロック中量
4　褐　　色　ロームブロック中量，ローム粒子微量
5　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量

第627号土坑土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，炭化物微量

第628号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第630号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量
3　暗 褐 色　ロームブロック中量
第631号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
第632号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
第640号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化物微量
第641号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック・炭化物微量
2　褐　　色　ローム粒子中量
第646号土坑土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物微量，焼土ブロック少量
3　暗 褐 色　ロームブロック中量
第648号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化物微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
第649号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量
第655号土坑土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量
第656号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化物微量
2　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，炭化物微量
第687号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子中量
2　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック中量
第694号土坑土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック・炭化物微量
2　暗 褐 色　ローム粒子・炭化物・焼土粒子微量
3　極暗褐色　炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック少量，炭化物微量
第706号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック中量，ローム粒子微量
第707号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量
第709号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
2　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量，炭化物微量

2　古墳時代の遺構と遺物

今回の調査で，古墳時代の竪穴住居跡７軒を検出した。以下，検出した遺構と遺物について記述する。

（１）竪穴住居跡

第12号住居跡（第147～149図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｅ６c0区の平坦部に立地し，北には第11号住居跡，北西には第13号住居跡，南には第18号住居跡が位置している。

規模と形状　長径6.20m，短径5.96mの方形であり，主軸はN－25°－Wである。壁高は42～58cmで，ほぼ直立する。

床　ほぼ平坦であり，撹乱を受けた中央部を除いた周辺部が踏み固められている。壁溝は北壁と南壁の一部を除いて，壁下をほぼ全周している。

竈　砂混じりの褐色粘土で，北壁中央部に構築されている。天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。焚口部から煙道部まで160cm，両袖部幅105cm，壁外への掘り込みは20cmほどである。火床部は床面とほぼ同レベルで火熱を受けて赤変硬化し，煙道部は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒微量
2　にぶい橙色　ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
3　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
4　赤　褐　色　焼土ブロック多量，粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
6　にぶい褐色　粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量
9　褐　　色　ローム粒子少量
10　暗　褐　色　ローム粒子少量，粘土粒子・砂粒微量
11　にぶい褐色　粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　にぶい褐色　粘土粒子・砂粒多量，炭化粒子微量
13　褐　　色　ローム粒子中量，粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子微量（掘り方）

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ51～76cmで規模や配列から主柱穴と考えられる。Ｐ５は粘土や灰が含まれているため，竈から掻き出した灰の，灰溜の可能性があるが，貯蔵穴とも考えられる。深さは14cm，底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。

Ｐ５土層解説

1　にぶい褐色　粘土粒子中量，炭化物・灰少量，砂粒微量
2　にぶい褐色　粘土粒子中量，砂粒少量，ローム粒子・灰微量
3　にぶい褐色　粘土粒子少量，ローム粒子・灰・砂粒微量

貯蔵穴　長軸96cm，短軸75cmの隅丸長方形で，南壁寄りの中央に付設され，周りには馬蹄形状の高まりが検出された。深さは65cmで，底面は平坦で外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

1　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化材微量

覆土　16層からなり，含有物や不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

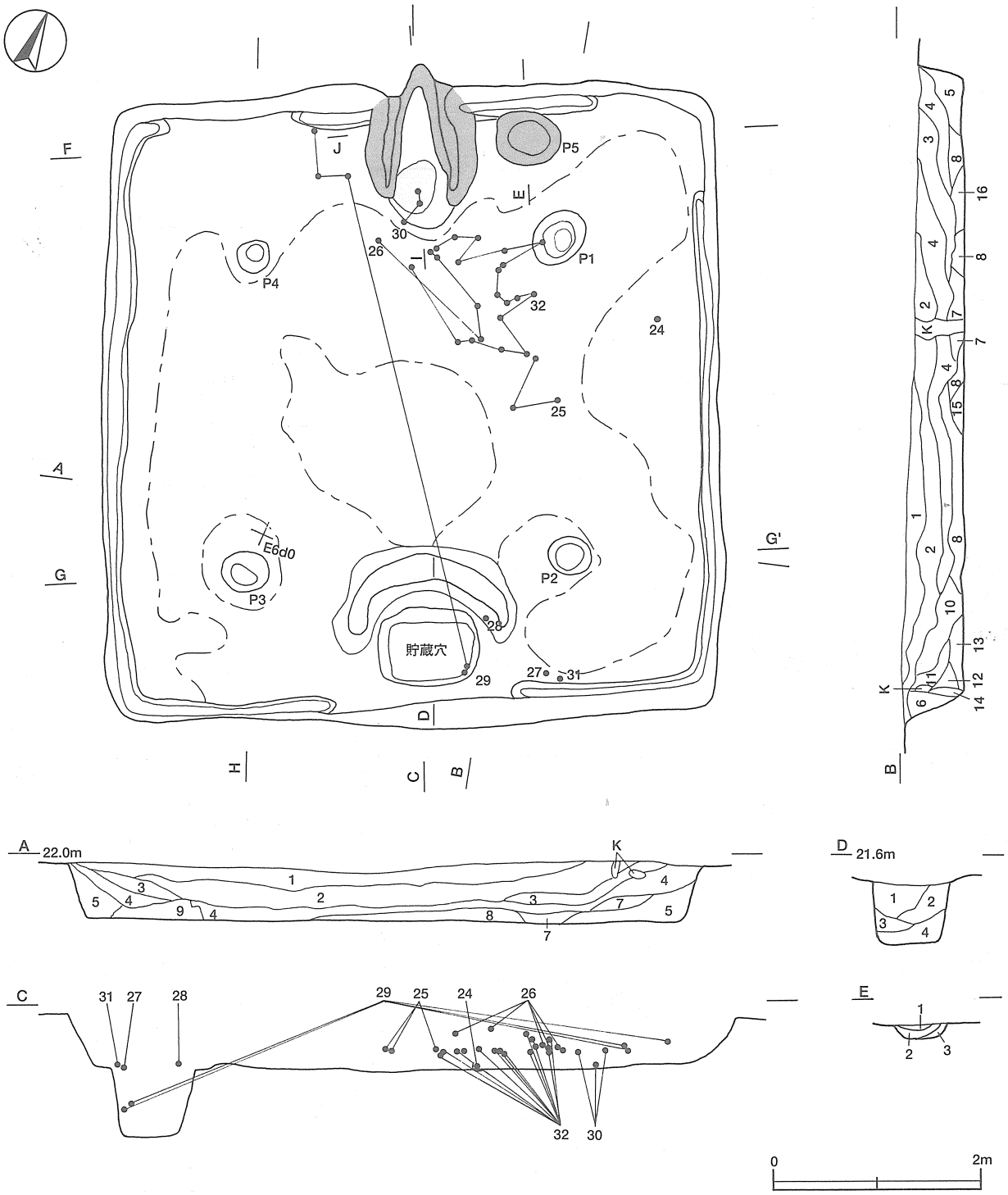
土層解説

1　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化物少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化物少量，焼土粒子微量
8　褐　　色　ロームブロック多量，炭化物少量，焼土粒子微量
9　褐　　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化物微量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
11　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
12　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
13　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
14　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
15　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，炭化物少量，ローム粒子微量
16　褐　　色　ローム粒子多量，炭化物少量，焼土粒子微量

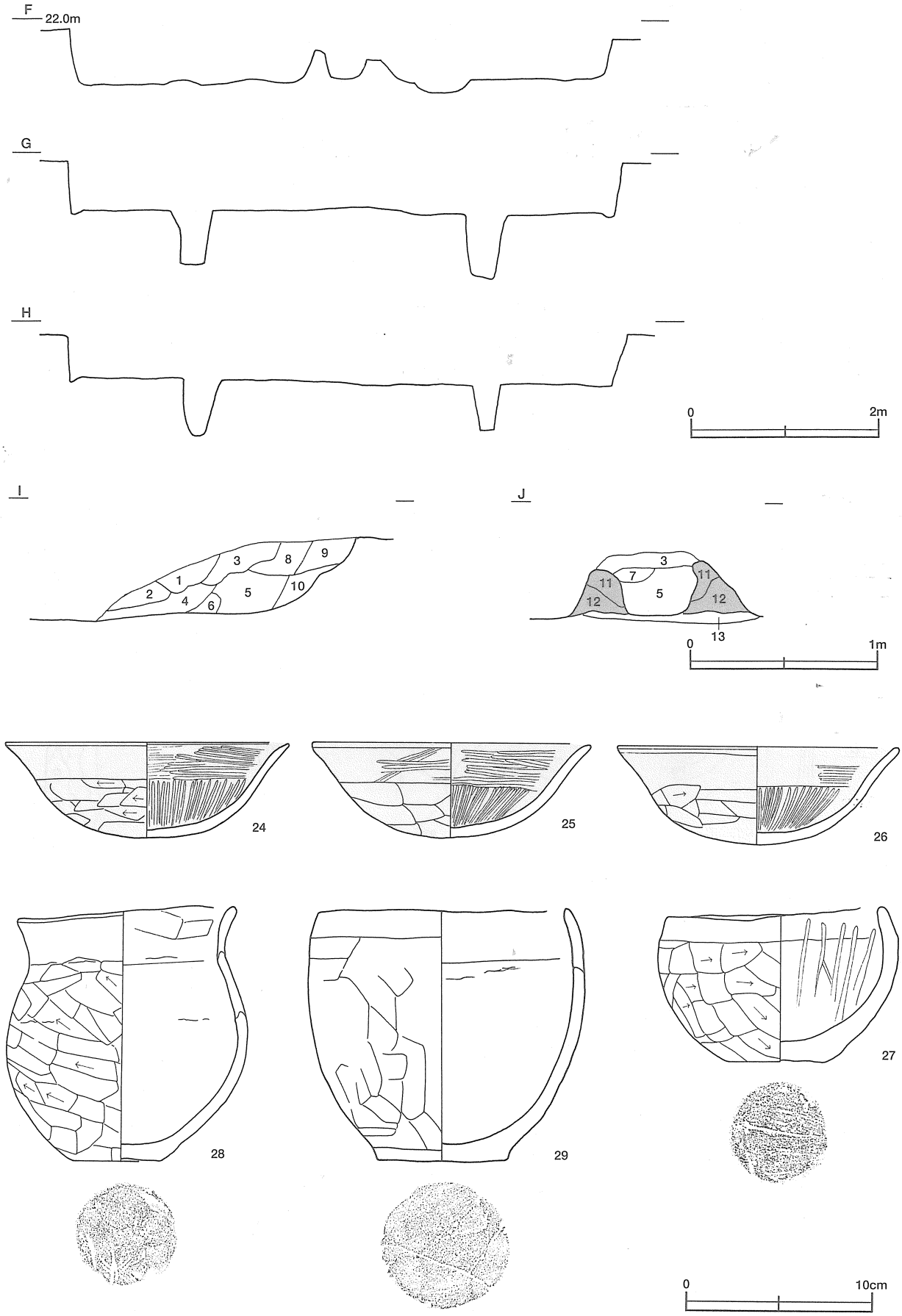
遺物出土状況　土師器片210点（坏32，甕178），縄文土器片265点（口縁部21，胴部244），陶器１点，土製品１点，石器（石錘）１点，礫４点，炭化材，焼土塊が出土し，縄文土器片，陶器片，礫は混入である。出土土器は中央部からやや北東側の覆土下層中の出土量が多い。24は東部床面，27は正位で南壁貯蔵穴寄りの床面から

出土し，また，28は貯蔵穴周辺の床面から斜位で出土している。29は竈左袖部付近の覆土中層と貯蔵穴内の覆土中層から出土した土器片が接合した資料である。30は竈内の覆土中層・下層から出土した土器片が接合された資料であり，32はＰ１付近の覆土中層からの多く土器片が接合された資料である。また，炭化材，焼土塊は壁周辺の覆土下層及び床面から出土している。

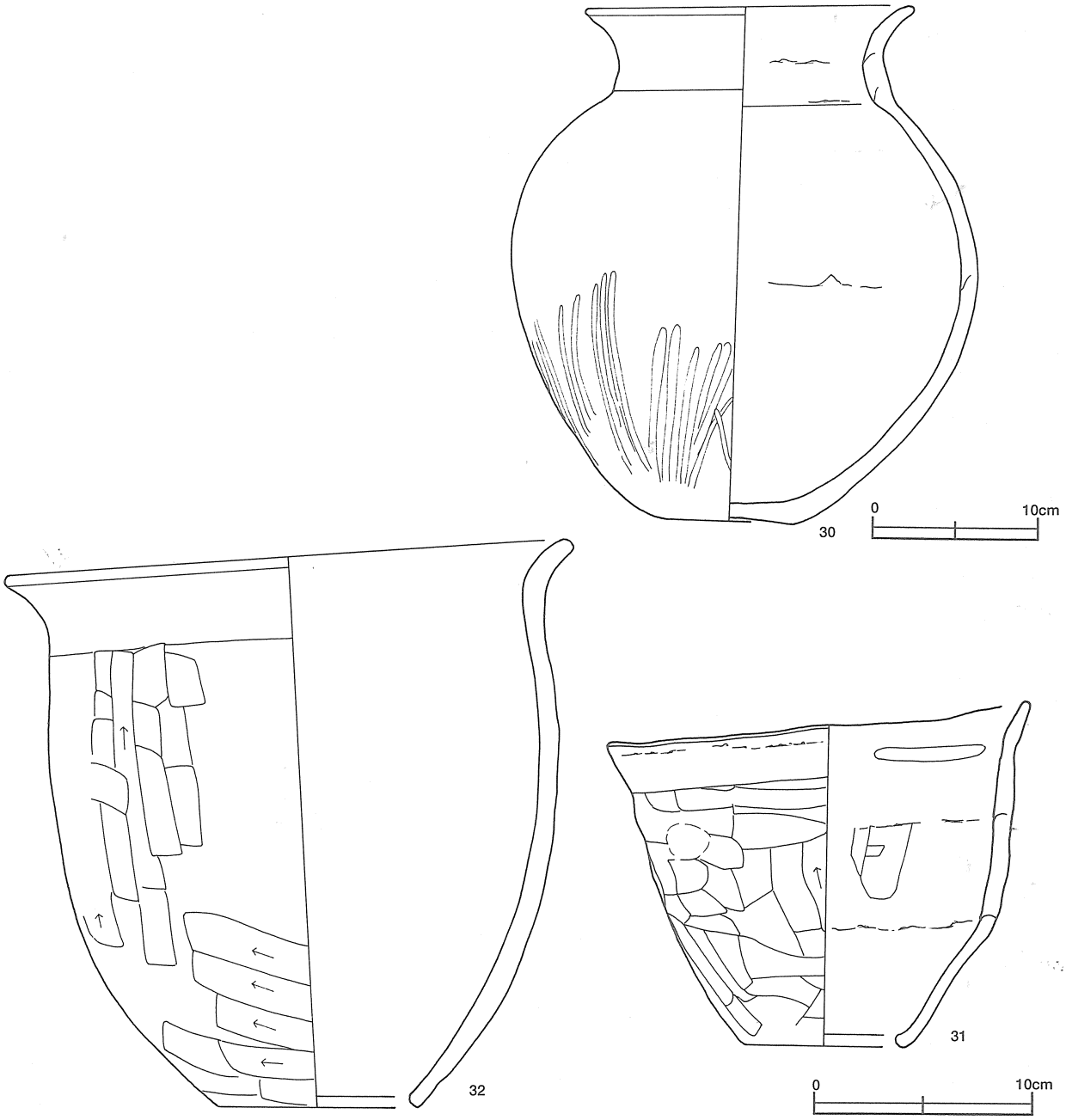
所見　本跡は炭化材，焼土塊が壁周辺の覆土下層及び床面から出土しており，焼失家屋と考えられる。時期は出土土器や竈の煙道部の掘り込みが浅く古手の様相を示していることなどから，６世紀前半と考えられる。



第147図　第12号住居跡実測図



第148図　第12号住居跡・出土遺物実測図



第149図　第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
24	土師器	坏	15.2	5.2	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ,内面ヘラ磨き	東部床面	100%内外面赤彩 PL28
25	土師器	坏	15.0	5.1	—	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	口縁部内・外面ヘラ磨き	中央部中層	100%内外面赤彩 PL28
26	土師器	坏	15.0	5.2	—	長石・雲母・白色粒子	赤褐色	普通	口縁部両面横ナデ,内面ヘラ磨き	中央部中層	50%内外面赤彩 PL28
27	土師器	椀	11.8	8.4	5.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部ヘラ切り後,ヘラナデ"	南部壁際床面	100% PL28
28	土師器	小形甕	11.8	13.8	5.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部木葉痕でヘラ切り後,ヘラナデ	南部床面	100% PL28
29	土師器	小形甕	13.4	13.7	7.0	長石・白色粒子・雲母	にぶい橙	普通	底部ヘラ切り後,ヘラ削り	竈左袖部付近・貯蔵穴中層	70%器面がやや荒れている PL28
30	土師器	甕	20.2	31.9	8.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部ヘラ削り後,ヘラナデ"	竈中・下層	90%口縁部・胴部輪積み痕 PL28
31	土師器	甑	19.4	15.8	7.4	長石・石英・雲母・白色粒子・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ,体部内面ヘラナデ	南部壁際床面	95%胴部輪積み痕 PL28
32	土師器	甑	25.6	26.3	9.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ	中央部中層	80% PL28

第14号住居跡（第150～153図）

位置　調査Ⅱ区北部，Ｆ６h7区の平坦部に立地し，第21号住居跡及び第１号土器焼成遺構と重複関係にあり，南には第36号住居跡が位置している。

重複関係　縄文中期の第21号住居跡と第１号土器焼成遺構を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸5.32m，短軸5.31mの方形で，主軸はN－12°－Wである。壁高は44～68cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦であり，竈の右及び東壁周辺の一部を除いて，ほぼ全面が踏み固められている。壁溝は竈右の一部を除いて，壁下を全周している。さらに，焼土塊が中央部を取り囲むように西壁周辺の床面から出土している。

焼土土層解説

1　赤　褐　色　焼土ブロック中量，炭化物微量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，炭化物微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量
4　褐　色　ロームブロック多量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

竈　砂混じりの褐色粘土で，北壁中央部に構築されている。天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。焚口部から煙道部まで158cm，両袖部幅100cmで，壁外への掘り込みは17cmである。火床部は床面とほぼ同レベルで，浅い皿状を呈しており，火熱を受けて赤変硬化している。また，煙道部は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量，焼土ブロック微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック多量，粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子多量，砂粒少量
4　灰　褐　色　粘土粒子多量，砂粒中量，ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
5　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，砂粒・焼土ブロック中量
6　極暗褐色　焼土ブロック中量，粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
7　暗赤褐色　焼土ブロック中量，粘土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
8　暗赤褐色　焼土ブロック多量，粘土粒子・砂粒少量，炭化物微量
9　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック中量，炭化物少量
10　暗　褐　色　粘土粒子多量，焼土ブロック中量，砂粒少量
11　にぶい褐色　焼土ブロック多量，粘土粒子・砂粒中量，炭化物少量
12　にぶい褐色　粘土粒子多量，焼土ブロック・炭化物・砂粒少量
13　にぶい赤褐色　粘土粒子・砂粒中量，炭化物少量
14　にぶい褐色　粘土粒子中量，炭化物少量，ローム粒子微量
15　褐　色　粘土粒子・砂粒中量，炭化物少量，ローム粒子微量
16　褐　色　粘土粒子・砂粒中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
17　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量，粘土粒子微量
18　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・粘土粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ39～60cmで規模や配列から主柱穴と考えられる。Ｐ５は深さ20cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

Ｐ１土層解説

1　暗褐色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土ブロック・砂粒微量
2　褐　色　ローム粒子中量，砂粒少量
3　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

Ｐ２土層解説

1　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
2　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子少量
3　褐　色　ロームブロック多量
4　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

Ｐ３土層解説

1　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
2　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量

Ｐ４土層解説

1　黒褐色　炭化物少量，焼土ブロック・砂粒微量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化物少量，焼土粒子・砂粒微量
3　褐　色　ローム粒子中量

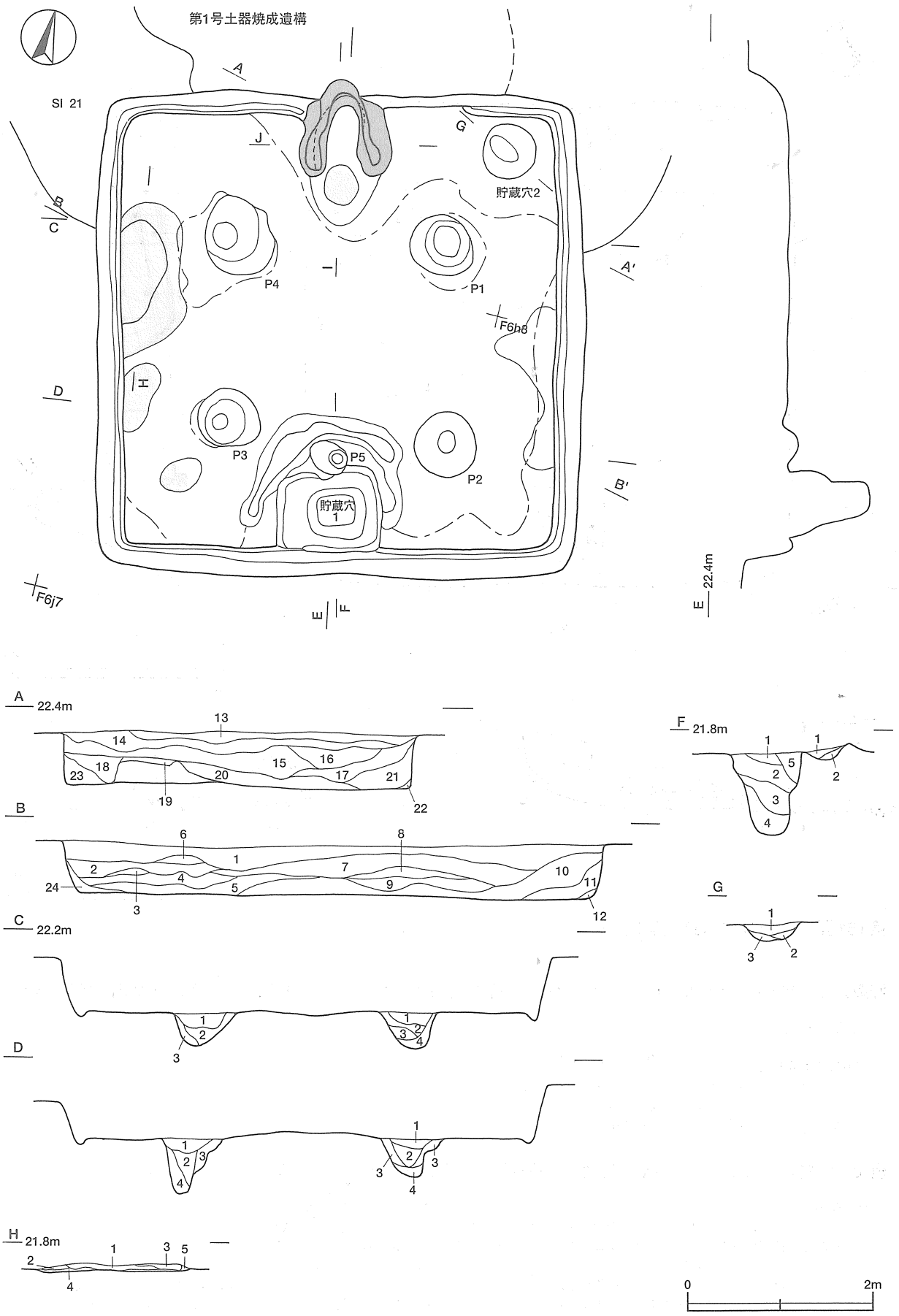
Ｐ５土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・炭化物少量
2　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量

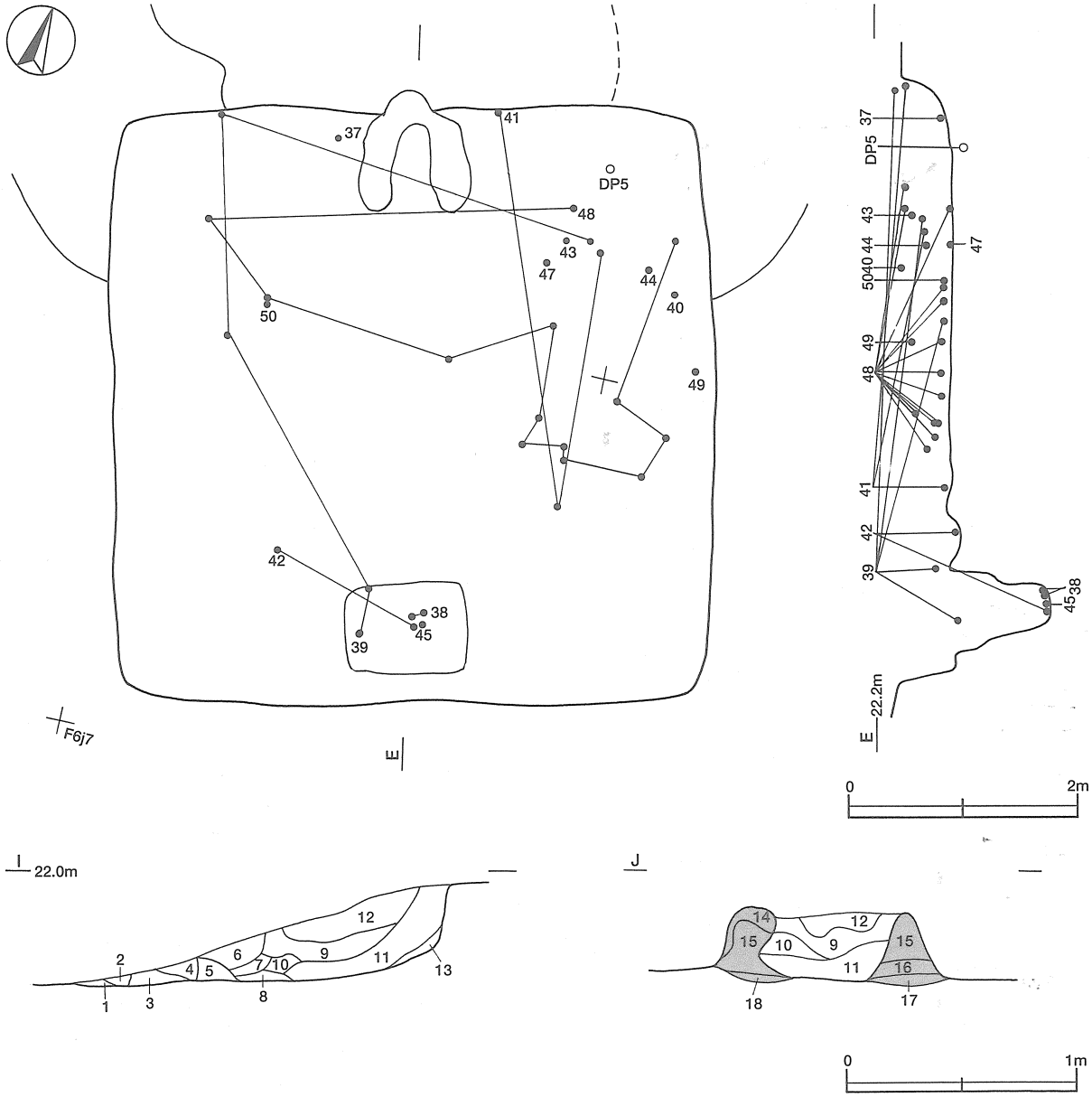
貯蔵穴１　長軸110cm，短軸80cmの隅丸長方形で，南壁寄りの中央に付設されている。深さは95cm，底面は平坦で外傾して立ち上がる。

貯蔵穴１土層解説

1　褐　色　ロームブロック多量，炭化物少量
2　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量
3　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量
5　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量



第150図　第14号住居跡実測図(1)



第151図　第14号住居跡実測図(2)

貯蔵穴 2　径60cmほどの円形で，北東コーナー部に付設されている。深さは15cm，底面は皿状を呈し外傾して立ち上がる。

貯蔵穴 2 土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物微量
2　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

覆土　24層からなり，含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

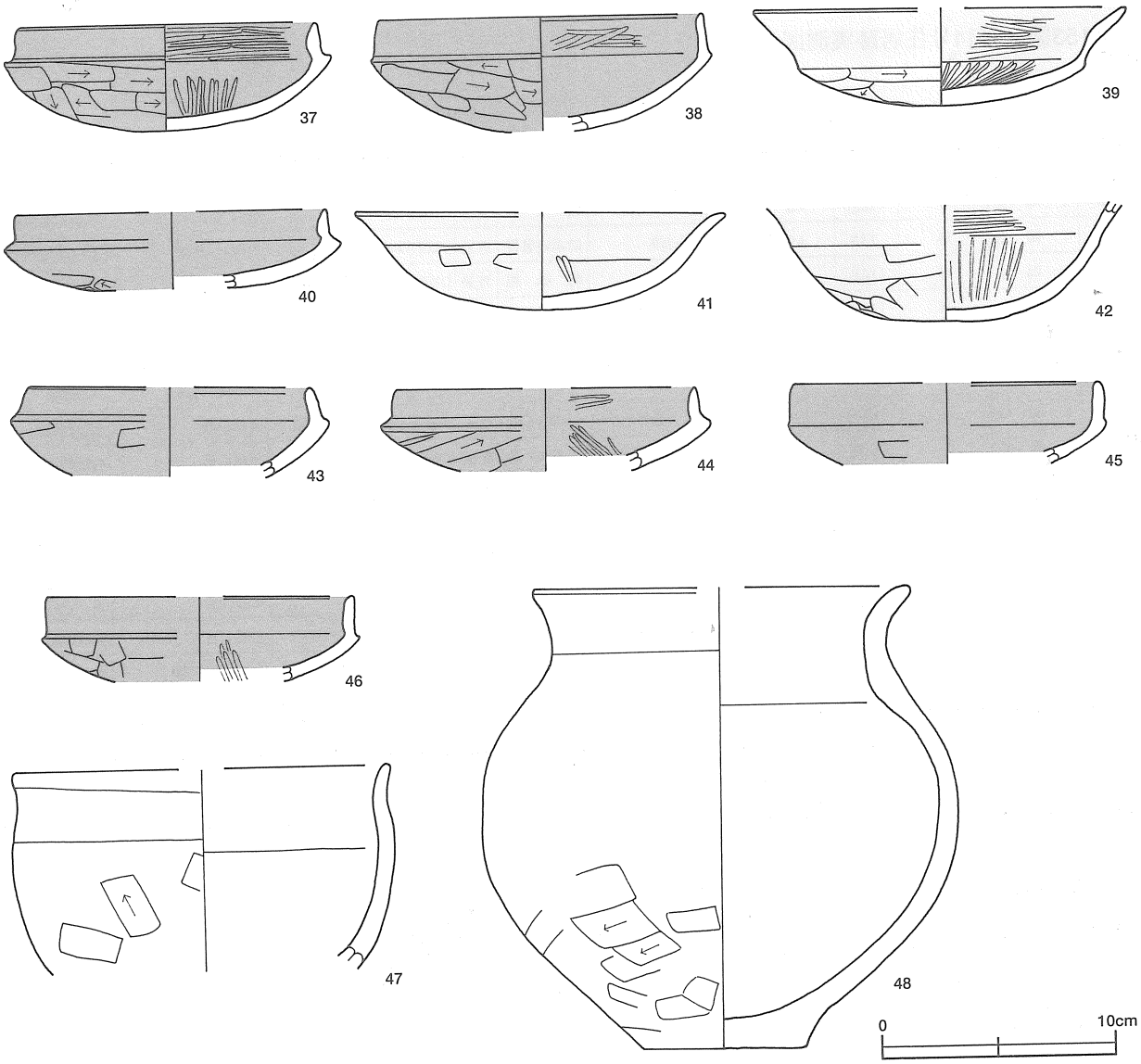
土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
2　極暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック多量，炭化物少量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック多量，炭化物少量
5　褐　　色　ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化物少量
6　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
7　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量
8　褐　　色　ロームブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物中量
10　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化物少量
11　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
13　極暗褐色　焼土ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量
14　黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック少量

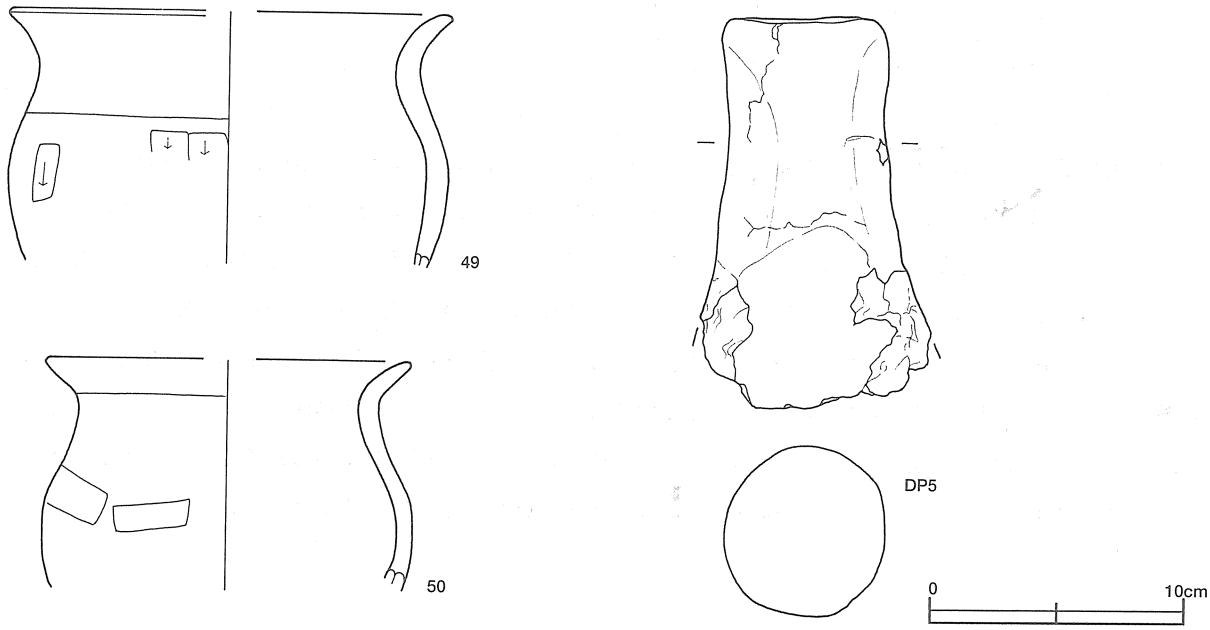
15　黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子微量
16　黒 褐 色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
17　褐　　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
18　暗 褐 色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
19　暗 褐 色　粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
20　黒 褐 色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化物中量
21　暗 褐 色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
22　褐　　色　ローム粒子中量
23　暗 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子微量
24　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量

遺物出土状況　土師器片262点（坏123，甕139），縄文土器片1210点（口縁部98，胴部1101，底部11），土製品（支脚）1点，焼土塊が出土し，縄文土器片は混入である。全体的に土器が出土しているが，特に北東部コーナー付近から，集中して出土している。37は竈左袖部付近壁際の覆土下層，38は貯蔵穴の底面からそれぞれ出土している。39は貯蔵穴周辺と北側の，覆土上層から下層の土器が接合した資料である。DP 5 は貯蔵穴 2 の覆土下層から斜位で，焼土塊は中央部を取り囲むように東壁・南壁・西壁の周辺の，床面から出土している。

所見　本跡は焼土塊が壁周辺の床面から出土していることや，土層中にも炭化物が含まれていることなどから焼失家屋と考えられる。竈際の壁面は，縄文の焼土遺構を掘り込んで構築しているため赤変した土が露出している。時期は出土土器や竈の煙道部の掘り込みが浅く古手の様相を示していることなどから 6 世紀中頃と考えられる。



第152図　第14号住居跡出土遺物実測図(1)



第153図　第14号住居跡実測図(2)

第14号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
37	土師器	坏	12.7	4.5	—	長石・石英・雲母	黒色	普通	口縁部外面横ナデ	竈左袖部付近下層	100%内外面黒色処理 PL28
38	土師器	坏	13.8	(4.9)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横ナデ	貯蔵穴1底面	50%内外面黒色処理 PL28
39	土師器	坏	[16.0]	4.2	—	長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部外面横ナデ,底部ヘラ削り	貯蔵穴1上層	50%内外面赤彩 PL28
40	土師器	坏	[13.2]	(3.3)	—	長石・雲母・白色粒子	黒色	普通	口縁部両面横ナデ	東部上層	20%内外面黒色処理
41	土師器	坏	[15.6]	4.1	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ	中央部底面	20%内外面赤彩
42	土師器	坏	—	(5.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ,底部ヘラ削り	貯蔵穴1底面	15%内外面赤彩
43	土師器	坏	[12.0]	(3.8)	—	長石・赤色粒子・雲母	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ,器面やや摩滅	東部中層	5%内外面黒色処理
44	土師器	坏	[12.6]	(3.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外面横ナデ,器面やや摩滅	東部中層	5%内外面黒色処理
45	土師器	坏	[12.8]	(3.4)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横ナデ,器面摩滅	貯蔵穴1底面	5%内外面黒色処理
46	土師器	坏	[13.0]	(3.5)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部両面横ナデ,一部ヘラナデ	覆土中	5%内外面黒色処理
47	土師器	鉢	[16.0]	(8.6)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ	東部床面	20%
48	土師器	甕	[15.8]	19.7	7.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ,底部ヘラ削り	北部下層	60%外面煤付着
49	土師器	甕	[17.3]	(10.0)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ,器面摩滅	東部壁際中層	20%
50	土師器	小形甕	[14.2]	(9.1)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ,体部内面ヘラナデ	西部下層	10%器面摩滅

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP 5	支脚	(15.5)	(9.0)	(8.3)	(798.0)	土製	外面ナデ，器面やや摩滅	貯蔵穴2底面	

第15号住居跡（第154～158図）

位置　調査Ⅱ区北部，E 6 g2区の平坦部に立地し，東には第40号住居跡，南には第16号住居跡が位置し西側の約半分は調査区域外に延びている。

重複関係　第224・225号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　西側部分が約2分の1ほど調査区域外に延びているため，長軸6.30m，短軸は3.02mだけが検出され，N－14°－Wを主軸とする方形または長方形と推定される。壁高は50～59cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，検出された中央部が踏み固められており，壁溝が南部中央壁下を除いて周回している。また，北コーナー付近に粘土塊が検出されている。

粘土塊土層解説

1	褐　　色	粘土粒子中量
2	にぶい赤褐色	粘土粒子中量，焼土粒子少量
3	褐　　色	ローム粒子中量

竈　砂混じりの褐色粘土で北壁に構築されている。天井部は崩落しており，左袖部が調査区外のため，右袖部のみ検出されている。規模は焚口部から煙道部まで130cm，壁外への掘り込みは25cmほどである。火床部は浅い皿状を呈して火熱を受けて赤変硬化し，煙道部は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	暗　褐　色	粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子・ローム粒子微量
2	暗　褐　色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物・砂粒微量
3	にぶい赤褐色	粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4	黒　褐　色	砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
5	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子少量
6	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7	褐　　色	ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
8	褐　　色	粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
9	にぶい赤褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・砂粒微量
10	にぶい褐色	粘土粒子微量
11	黒　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量（掘り方）

ピット　3か所。P1～P2は深さ43～46cmで規模や配列から主柱穴と考えられ，P3は出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　径80cmほどの円形と推定され，南壁寄りの中央に付設されている。深さは29cm，底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

21	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

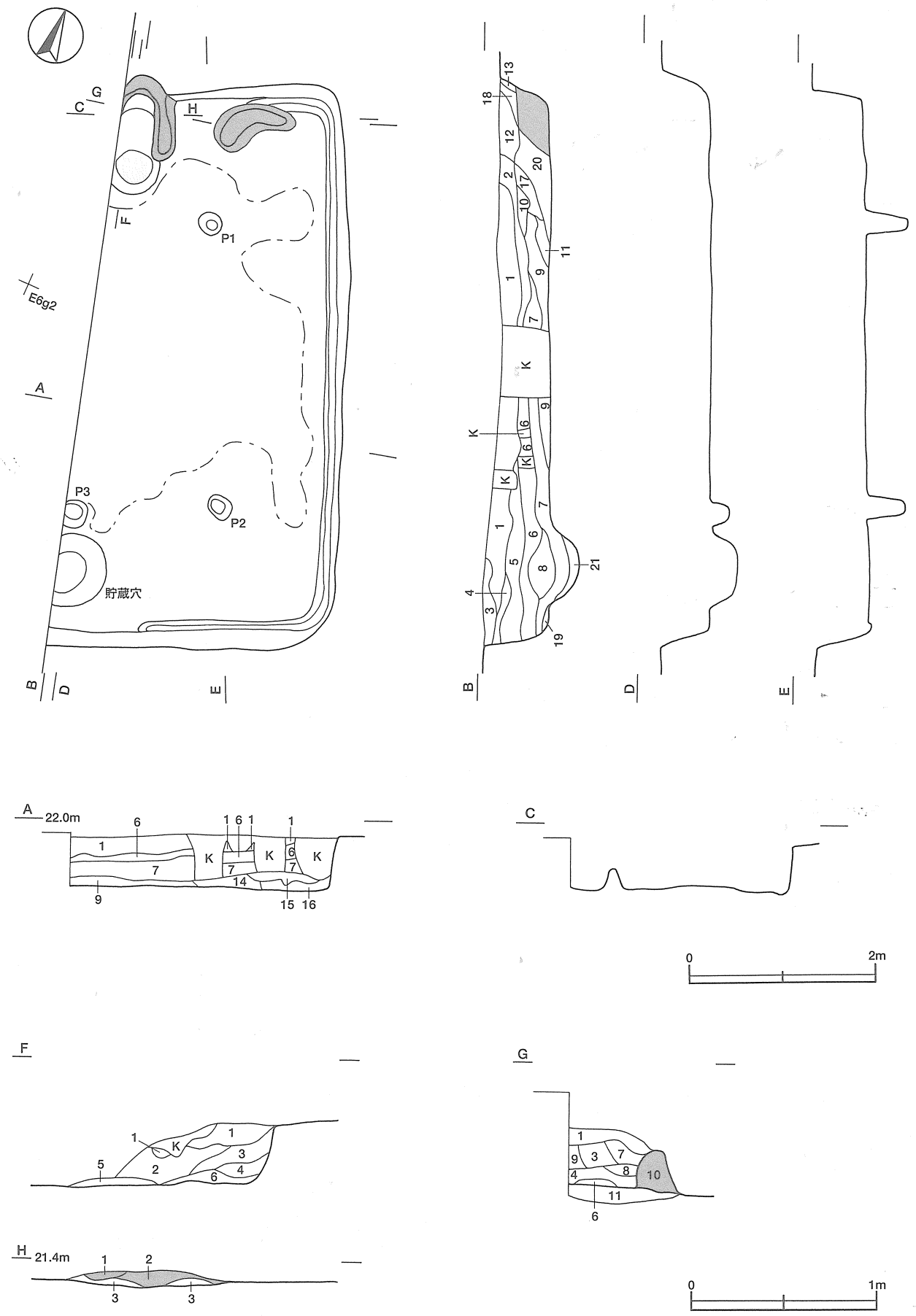
覆土　20層からなり，含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

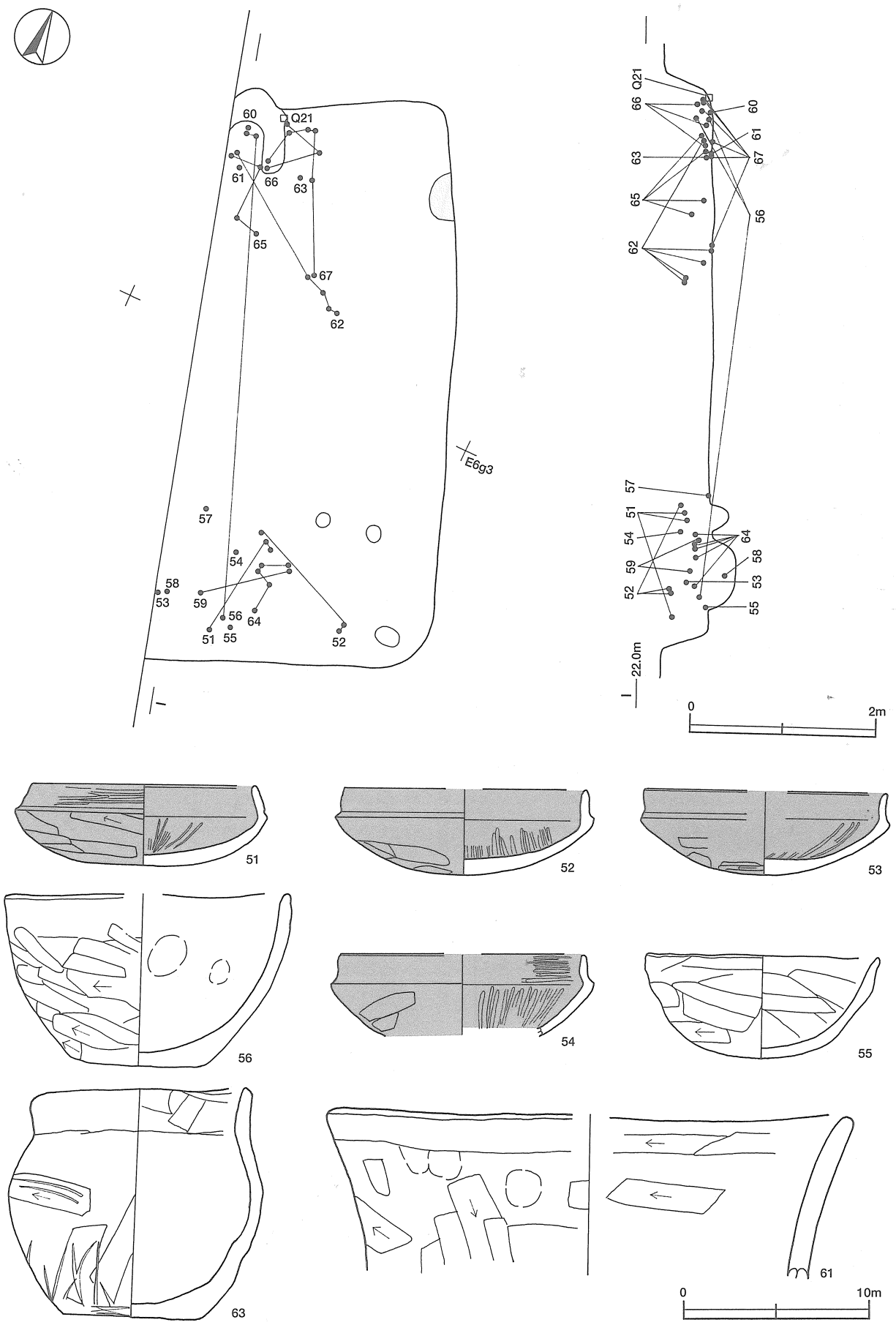
1	黒　　色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
2	極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
3	黒褐色	ロームブロック少量
4	暗褐色	ロームブロック少量
5	暗褐色	ロームブロック中量
6	暗褐色	ロームブロック微量
7	暗褐色	ロームブロック少量，炭化物微量
8	褐　　色	焼土ブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
9	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量
10	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
11	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
12	黒褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック微量
13	明褐色	ロームブロック中量
14	褐　　色	ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
15	暗褐色	ロームブロック中量，炭化物微量
16	暗褐色	炭化物多量，ロームブロック中量
17	褐　　色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
18	暗褐色	ロームブロック中量
19	褐　　色	ローム粒子多量
20	褐　　色	ロームブロック中量，炭化材・焼土粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片602点（坏90，甕503，甑9），縄文土器片165点，土製品（支脚）1点が出土し，縄文土器片は混入である。土器は北部と南部の覆土中や床面からの出土がほとんどである。55・57は貯蔵穴付近の床面から出土し，特に57は長胴形の特徴的な器形を呈し，58は貯蔵穴の覆土中層から横位で出土している。60は竈内の底面から逆位で出土し，貯蔵穴付近の土器が接合された資料である。また，63は竈右袖側の下層から斜位で出土した，ほぼ完形品である。67は竈内の覆土下層の土器と中央床面の土器が接合された資料である。さらに，焼土や炭化材・炭化物は北部と南部の床面及び覆土中から出土している。

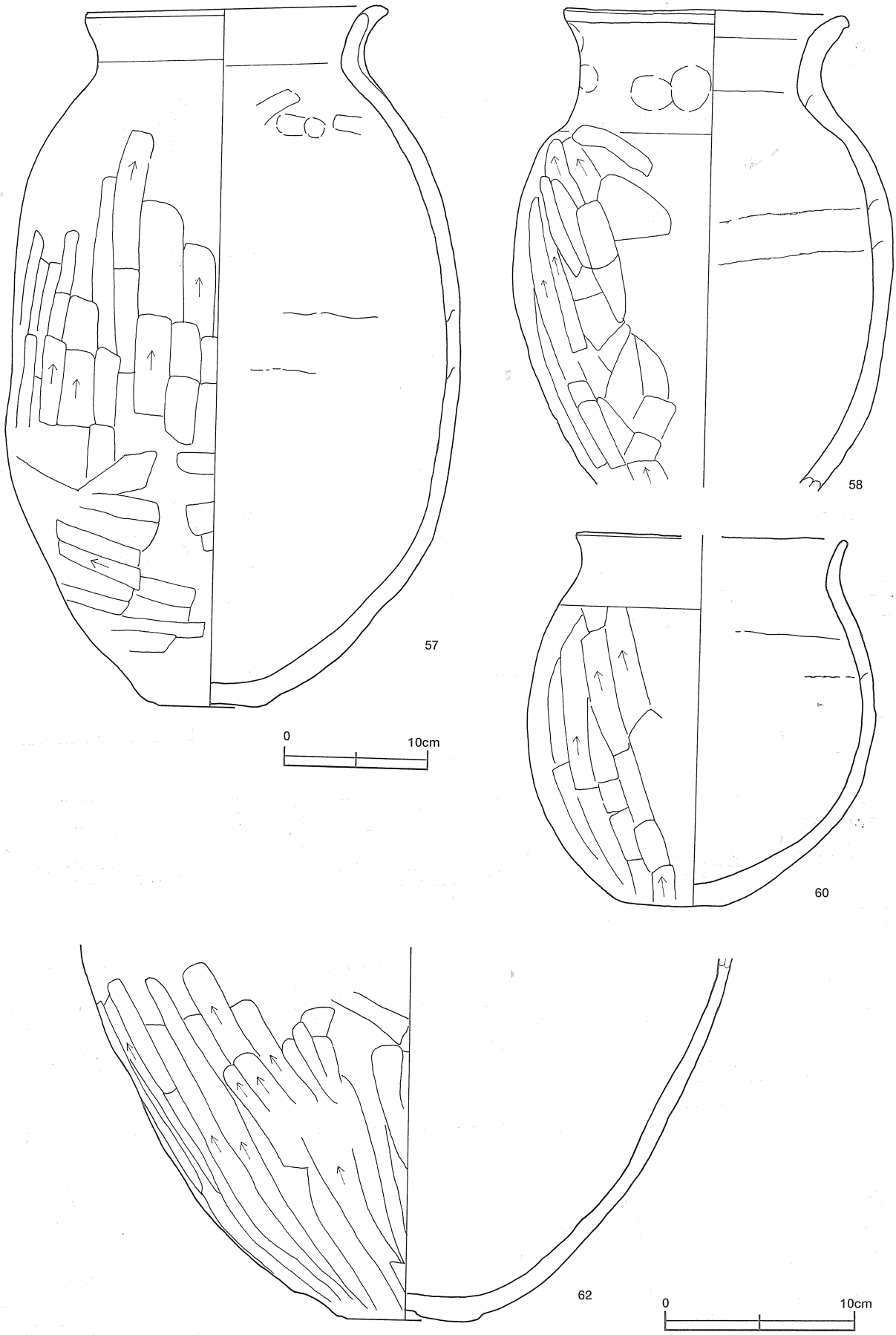
所見　本跡は西側約半分が調査区外のため，調査された部分は少ないが，出土遺物は豊富である。特に，甕類はほとんどが厚手に作られている。覆土や床面から焼土や炭化材・炭化物が出土しているため，焼失家屋と想定できる。竈内では甕が逆位で出土し，支脚として利用された可能性もあり，甑は南壁中央の土器と接合され，居住段階での焼失と考えられる。時期は，出土土器から6世紀後半と考えられる。



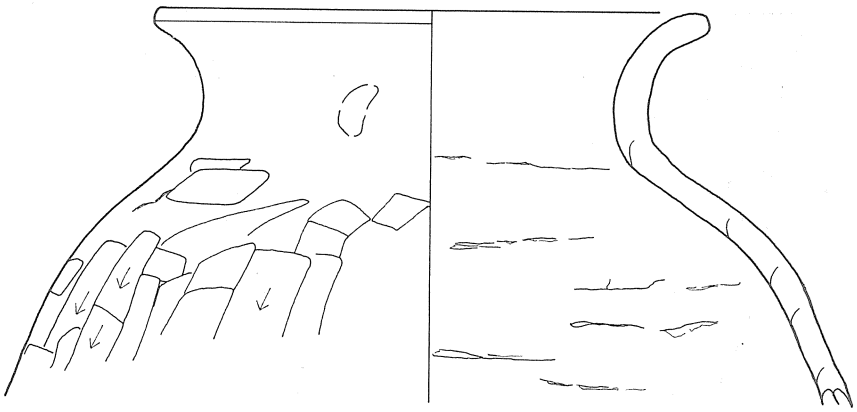
第154図　第15号住居跡実測図

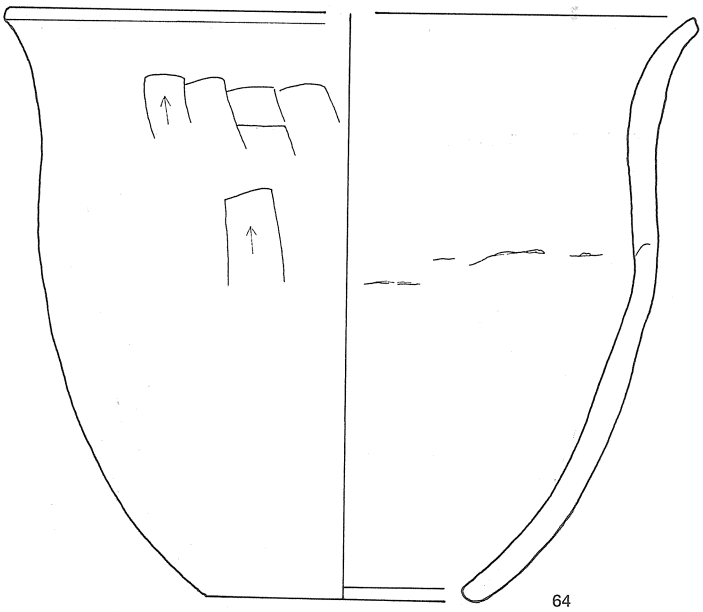


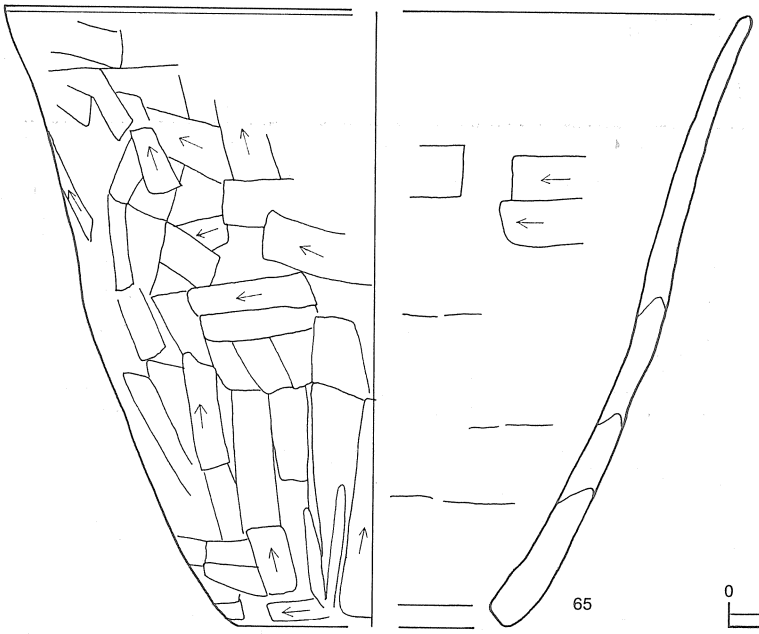
第155図　第15号住居跡・出土遺物実測図

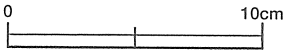


第156図　第15号住居跡出土遺物実測図(1)

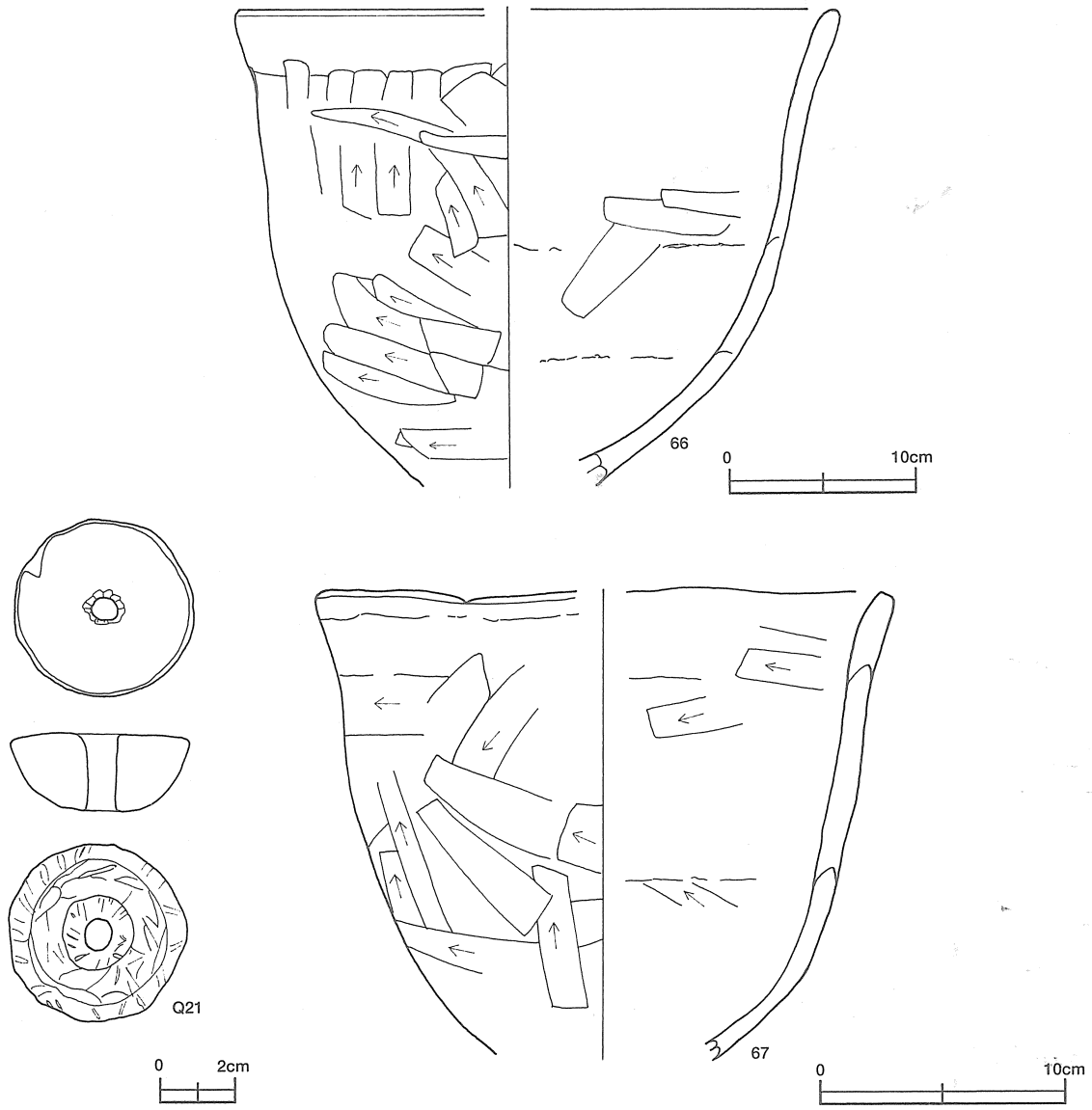








第157図　第15号住居跡出土遺物実測図(2)



第158図　第15号住居跡出土遺物実測図(3)

第15号住居跡出土遺物観察表

番号	種　別	器　種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
51	土　師　器	坏	12.1	4.4	—	長石・雲母	に ぶ い 褐	普通	口縁部内面横ナデ	南部中層	80%内外面黒色処理 PL.28
52	土　師　器	坏	[13.0]	4.6	—	雲母	に ぶ い 褐	普通	口縁部両面横ナデ	南部上・中層	40%内外面黒色処理 PL.28
53	土　師　器	坏	[13.0]	4.5	—	長石・雲母	に ぶ い 褐	普通	口縁部両面横ナデ	南部中層	30%内外面黒色処理
54	土　師　器	坏	[13.0]	(4.4)	—	石英・雲母	に ぶ い 橙	普通	口縁部外面横ナデ,内面ヘラ磨き	南部中層	15%内外面黒色処理
55	土　師　器	椀	12.4	5.5	—	石英・雲母・赤色粒子	に ぶ い 橙	普通	体部両面ヘラ削り	南部床面	95% PL.28
56	土　師　器	鉢	[15.1]	9.6	7.2	長石・雲母	に ぶ い 橙	普通	口縁部両面横ナデ	北・南下層	50% PL.28
57	土　師　器	甕	21.7	49.9	8.1	長石・雲母・赤色粒子	に ぶ い 橙	普通	口縁部両面横ナデ,体部内面ナデ	南部床面	85% PL.29
58	土　師　器	甕	14.6	(25.0)	—	長石・石英・雲母	明　褐　灰	普通	口縁部両面横ナデ,体部内面ナデ	貯蔵穴中層	80% PL.29
59	土　師　器	甕	21.4	(15.6)	—	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ,体部内面ヘラナデ	南部中・下層	30% PL.29
60	土　師　器	甕	[14.0]	19.9	6.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ,体部内面ナデ	竈底面	60% PL.29
61	土　師　器	甑	[28.0]	(8.7)	—	雲母	に ぶ い 橙	普通	口縁部外面横ナデ,口縁部・体部内面ヘラナデ	竈底面	10%
62	土　師　器	甕	—	(19.8)	7.8	砂粒・長石・雲母・赤色粒子・石英	に ぶ い 橙	普通	体部外面ヘラ削り,内面ナデ,底部中央に窪み有り	中央部中・下層・床	40% PL.29

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
63	土師器	小形甕	11.4	12.7	7.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ・内面ヘラナデ,体部内面ナデ	竈際下層	90%,体部下端に筋状の研磨痕 PL29
64	土師器	甑	[27.0]	23.3	10.8	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ,体部下半やや摩滅	南部下層	60% PL29
65	土師器	甑	[29.4]	24.5	[11.0]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ,体部内面ヘラナデ	竈中・下層	30%
66	土師器	甑	[32.4]	(26.4)	—	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ,体部内面ヘラナデ	竈下層	40% PL30
67	土師器	甑	[23.0]	(19.4)	—	雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ,体部内面ヘラナデ	北部下層・床	60%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	石材	特徴	出土位置	備考
Q21	紡錘車	4.8	4.9	2.1	55.0	泥岩	器面線刻，孔径0.7cm	竈右袖床面	PL36

第16号住居跡（第159～161図）

位置　調査Ⅱ区中央部，E6i3区の平坦部に立地し，北には前述した第15号住居跡，南には第17号住居跡が位置しており，西側は調査区域外に延びている。

規模と形状　西側部分が約3分の1ほど調査区域外に延び，長軸5.58m，短軸は3.86mだけが検出され，N－19°－Wを主軸とする方形または長方形と推定される。壁高は35～42cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，中央部のピット（P10～12）を伴った不定形状の掘り込み部を除いて，踏み固められている。壁溝は東部分の壁下に検出されている。

竈　砂混じりの褐色粘土で北壁に構築されている。天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。規模は焚口部から煙道部まで150cm，両袖部幅125cmで，壁外への掘り込みは15cmほどである。火床部は浅い皿状を呈して，火熱を受けて赤変硬化し，煙道部は外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　暗褐色　粘土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量
3　灰褐色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・砂粒微量
4　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物・砂粒微量
5　赤褐色　焼土ブロック多量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
6　褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
7　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量
8　褐色　ローム粒子多量
9　にぶい赤褐色　焼土粒子多量
10　暗赤褐色　焼土ブロック多量

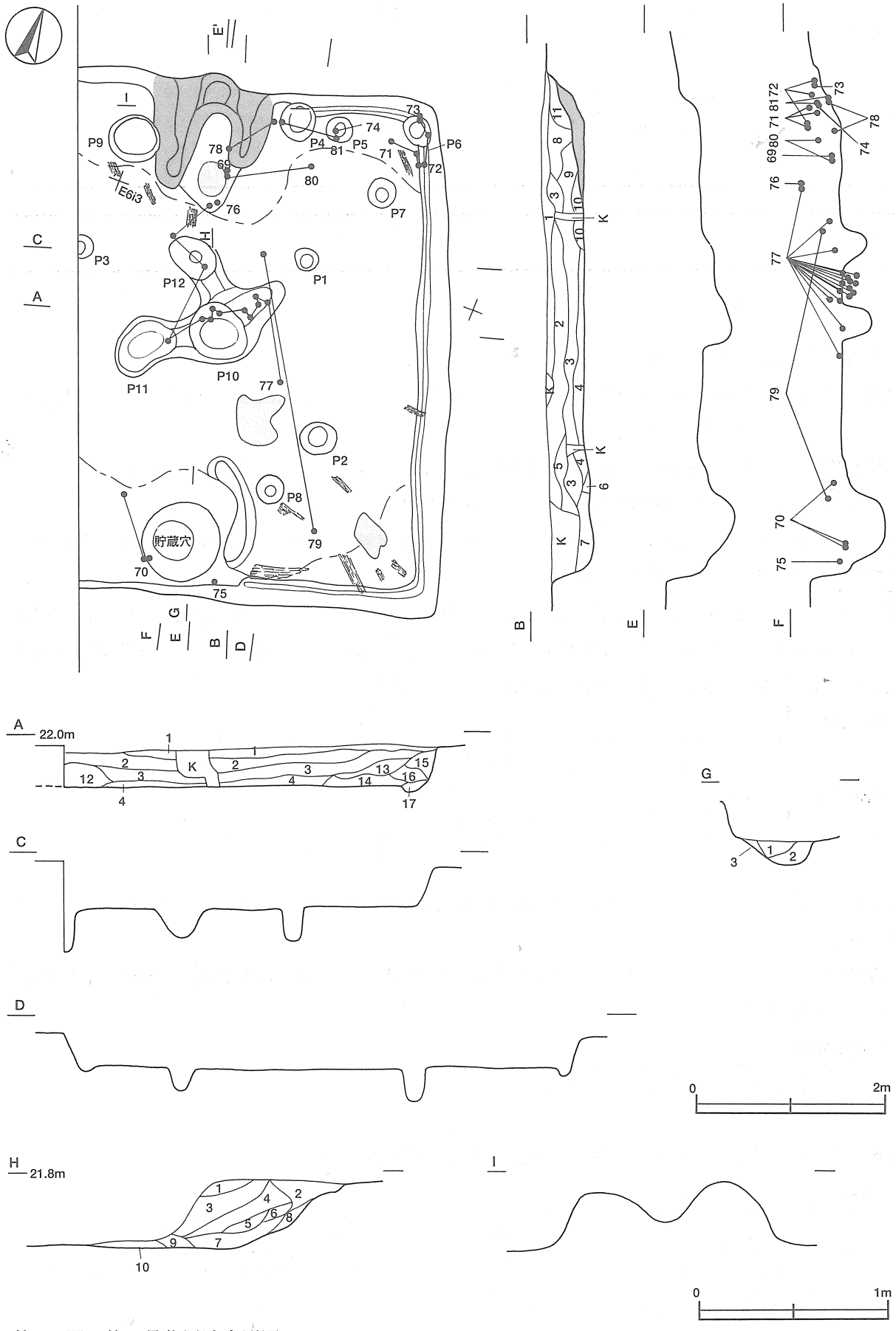
ピット　12か所。P1・P2・P3は深さ24～48cmで規模や配列から主柱穴と考えられ，その他のピットの性格は不明である。

貯蔵穴　径85cmほどの円形と推定され，南壁寄りの中央に付設されている。深さは41cm，底面は皿状で壁は外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック微量
2　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　炭化物中量，ローム粒子微量

覆土　17層からなり，含有物や不連続な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒色　炭化物多量，ロームブロック・焼土ブロック少量
2　黒色　炭化物多量，ロームブロック・焼土ブロック微量
3　黒褐色　炭化物中量，ロームブロック・焼土ブロック微量
4　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
5　黒色　炭化物中量，ロームブロック・焼土ブロック微量
6　褐色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化物微量
7　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量
8　黒褐色　炭化物中量，ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量
9　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量

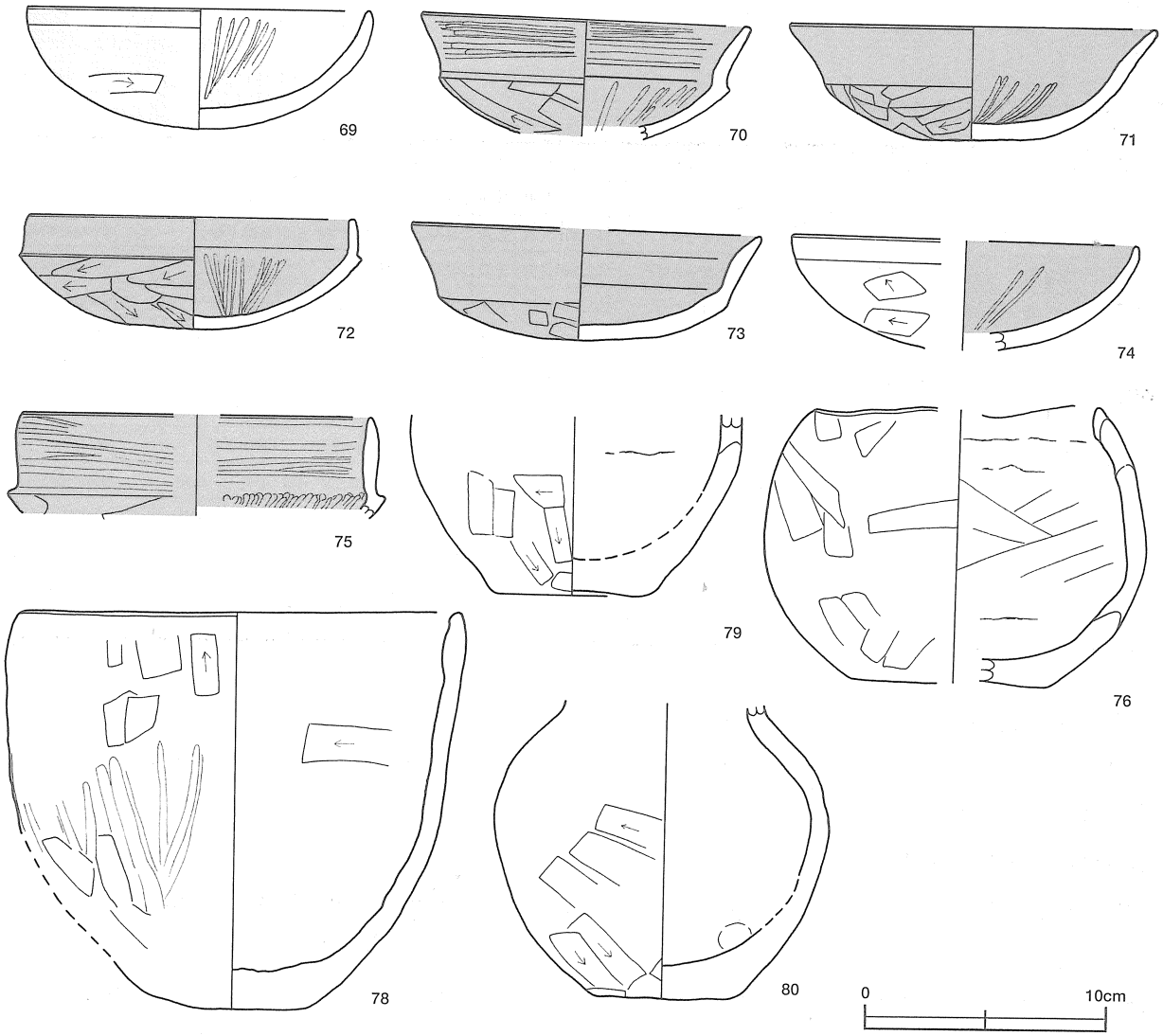


第159図　第16号住居跡実測図

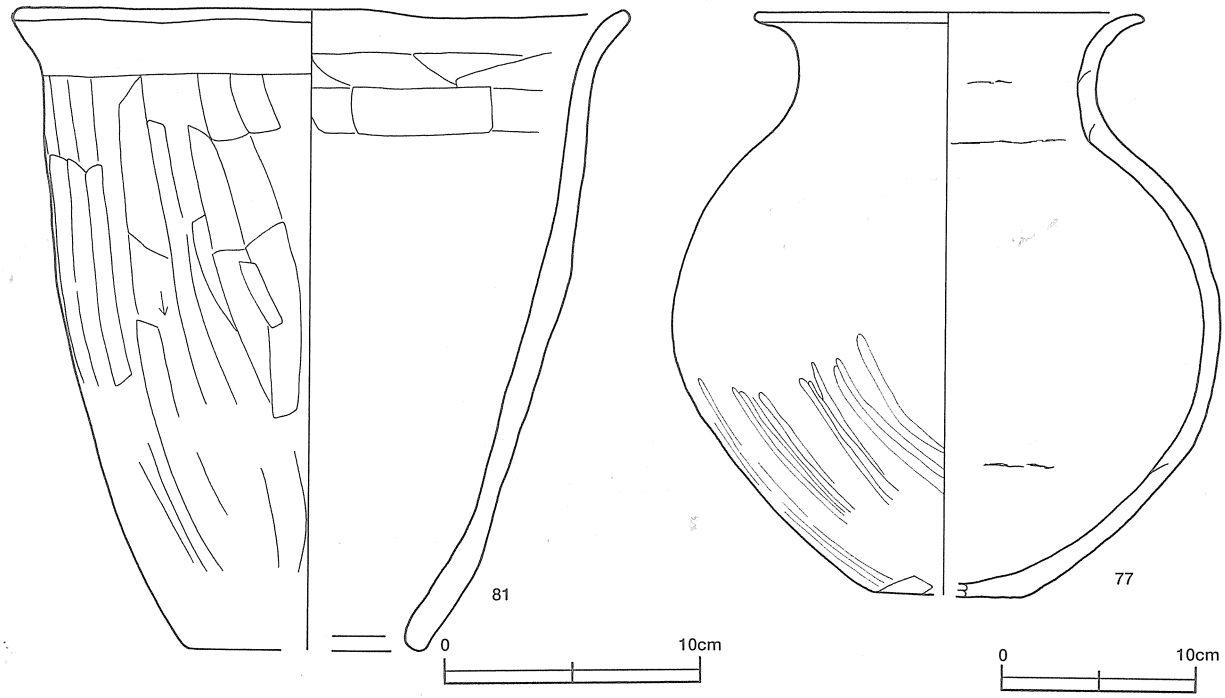
10　極暗褐色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量
11　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化物微量
12　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
13　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック微量
14　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
15　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化物微量
16　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
17　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片517点（坏142，甕366，鉢９），須恵器片１点，縄文土器片253点，土製品（支脚）２点，炭化材，礫８点が出土し，縄文土器片は混入である。また，土器は北部を中心に出土し，69は竈の南側覆土下層，78は竈右袖部近くの底面からそれぞれ出土している。さらに，77は中央部のP10～P12を伴った不定形の掘り込みや床面及び覆土下層から出土した多くの破片が接合された資料である。炭化材や焼土が竈周辺部や南部から出土している。支脚は原形をとどめていないので，図示できなかった。

所見　本跡は西側約３分の１が調査区外になっており，調査された部分がやや少ないが，出土遺物は豊富である。とくに甕類は厚手に作られているものが見られ，周辺部遺跡の同時期の土器とはやや様相が異なる。この様相は前述した第15号住居跡にも見られた特徴である。また，焼土や炭化材・炭化物が覆土や床面から出土しており，焼失家屋と考えられる。前述した第15号住居跡同様，居住段階での焼失と想定され，時期は出土土器や竈の煙道部の掘り込みが浅い古手の様相を示していることなどから，６世紀中頃と考えられる。



第160図　第16号住居跡出土遺物実測図(1)



第161図　第16号住居跡出土遺物実測図(2)

第16号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
69	土師器	坏	14.3	5.0	—	雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横ナデ,体部外面ヘラ削り	竈下層	60%内外面赤彩 PL29
70	土師器	坏	13.7	(4.9)	—	石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部両面・体部内面ヘラ磨き	南部下層	80%内外面黒色処理 PL29
71	土師器	坏	15.3	5.3	—	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ	北部上層	90%内外面黒色処理 PL29
72	土師器	坏	13.4	4.8	—	雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ	北部上層	60%内外面黒色処理 PL29
73	土師器	坏	[15.0]	4.6	—	石英	にぶい橙	普通	口縁部両面・体部内面横ナデ	北コーナー上層	60%内外面黒色処理 PL29
74	土師器	坏	[14.4]	(4.6)	—	砂粒	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ	北部上層	30%内外面黒色処理
75	土師器	坏	[14.5]	(4.2)	—	雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部両面ヘラ磨き	南壁際下層	10%内外面黒色処理
76	土師器	鉢	[11.8]	11.7	[8.0]	雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り,内面ヘラナデ	竈際上層	40%
77	土師器	甕	20.2	31.4	8.0	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部両面横ナデ,体部外面ヘラ磨き	中央上・床面	80%体部上半器面やや摩滅 PL30
78	土師器	甕	18.0	16.8	8.0	石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後,ヘラ磨き	竈下層・底面	50% PL29
79	土師器	小形甕	—	(7.5)	6.6	雲母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り,内面剥落	中央・南中層	20%
80	土師器	小形甕	—	(12.4)	6.0	石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り,内面ナデ	竈中・下層	40%
81	土師器	甑	24.0	25.5	[9.3]	砂粒・雲母	にぶい橙	普通	口縁部両面ヘラナデ,内面ヘラナデ	北部中層	80%PL30

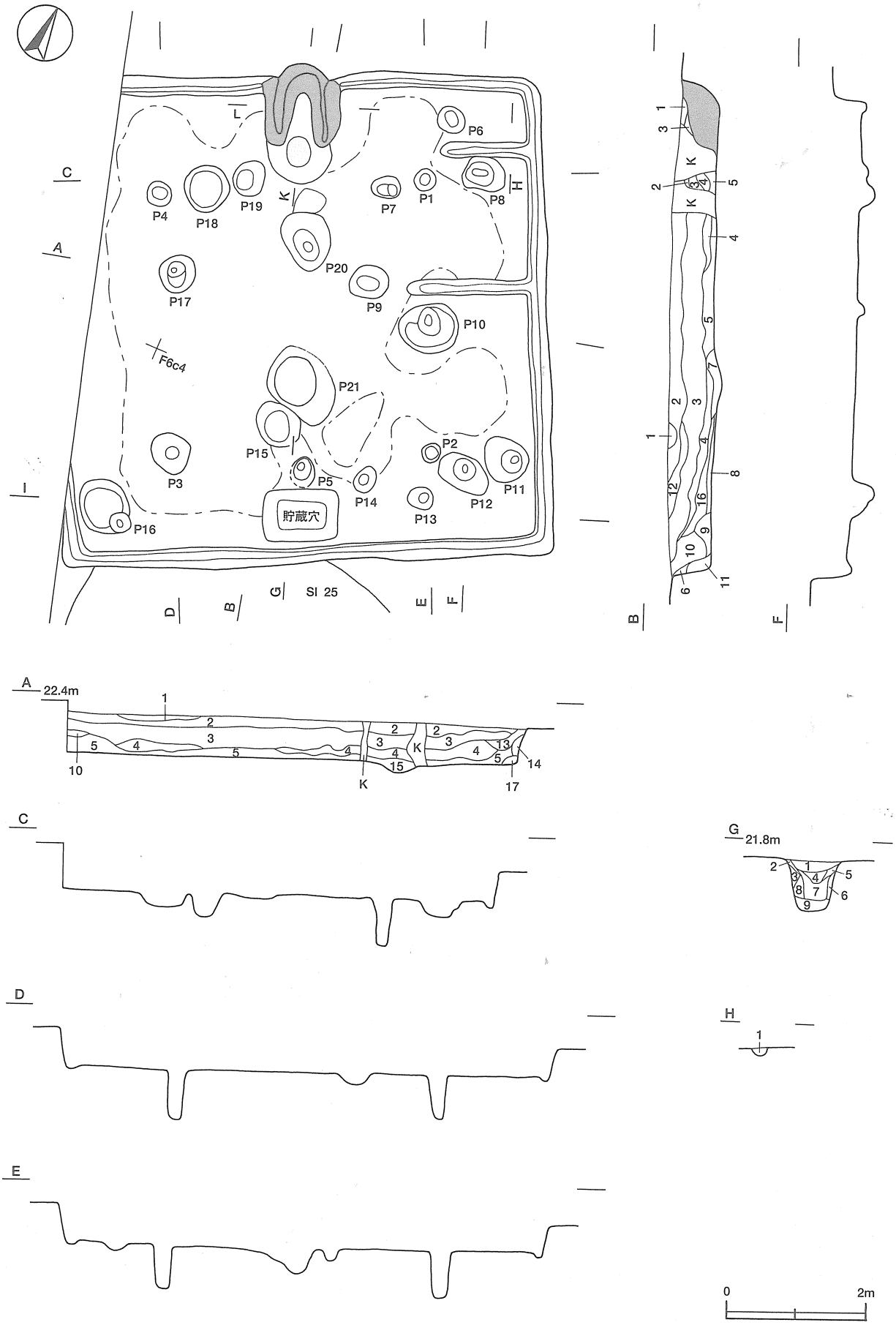
第17号住居跡（第162～165図）

位置　調査Ⅱ区中央部，Ｆ６b4区の平坦部に立地し，第25号住居跡と重複している。北には第16号住居跡，北東には第23号住居跡が位置している。

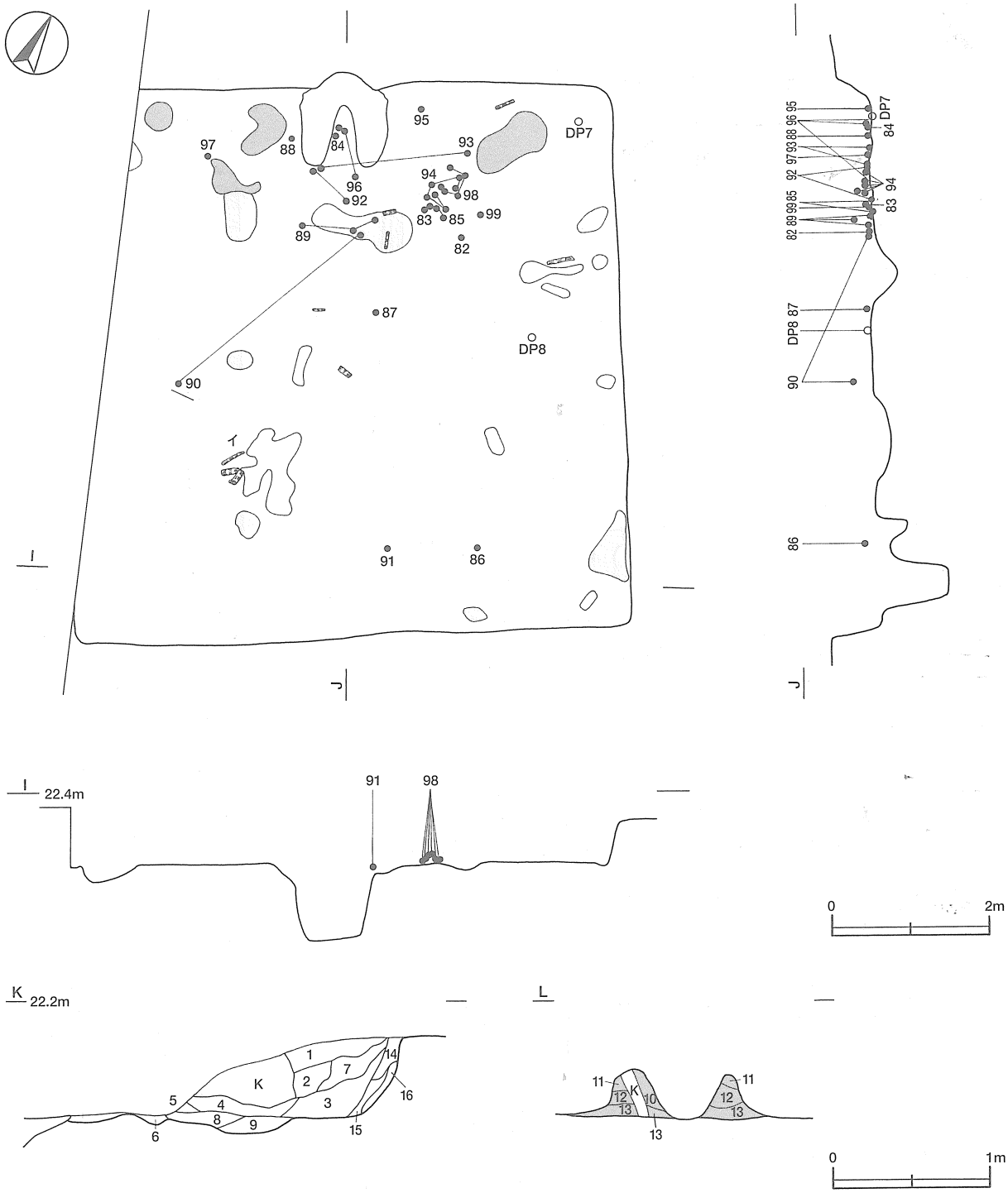
重複関係　第25号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　西側部分が調査区域外に延び，長軸7.03m，短軸は6.98mだけが検出され，主軸はN－22°－Wの方形と推定される。壁高は40～54cmで，ほぼ直立する。

床　ほぼ平坦であり，中央部分が全体的に踏み固められている。壁溝は全周しているものと考えられる。また，東壁下から２条の間仕切り溝が中央部に向かって延び，幅20～25cm，深さは８～12cmである。また，北東コーナー周辺には粘土混じりの土が床面上に検出され，竈の構築材が流れ出して堆積したものと考えられる。



第162図　第17号住居跡実測図(1)



第163図　第17号住居跡実測図(2)

間仕切り土層解説

1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量

竈　砂混じりの褐色粘土で北壁に構築されている。天井部は崩落しているが，両袖部が遺存している。規模は焚口部から煙道部まで175cm，両袖部幅105cm，壁外への掘り込みは20cmほどであり，両袖部の先端部分は撹乱を受けている。火床部は浅い皿状で，火熱を受けて赤変硬化しており，煙道部は外傾して立ち上がる。竈土層断面図中の，3・4層は天井部の崩落土である。

竈土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化物微量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化材中量，ローム粒子微量
4　暗赤褐色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・粘土粒子微量
6　暗赤褐色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
7　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
8　赤　褐　色　焼土ブロック多量，炭化物微量
9　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
10　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子少量
11　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　にぶい褐色　粘土粒子多量，焼土粒子微量
13　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
14　にぶい褐色　粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
15　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化物微量
16　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，粘土粒子少量，ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量

ピット　21か所。P1～P4は深さ61～72cmで規模や配列から主柱穴と考えられる。P5は深さ42cmほどで位置や形状から出入り口施設に伴うピットと考えられ，その他のピットの性格は不明である。

貯蔵穴　長軸108cm，短軸76cmほどの隅丸長方形で，南壁寄りの中央に付設されている。深さは88cm，底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・炭化物少量，焼土ブロック微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　極暗褐色　焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量
4　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・ローム粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子・炭化物少量
6　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
7　黒褐色　炭化物少量，ローム粒子・焼土粒子微量
8　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9　灰褐色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量

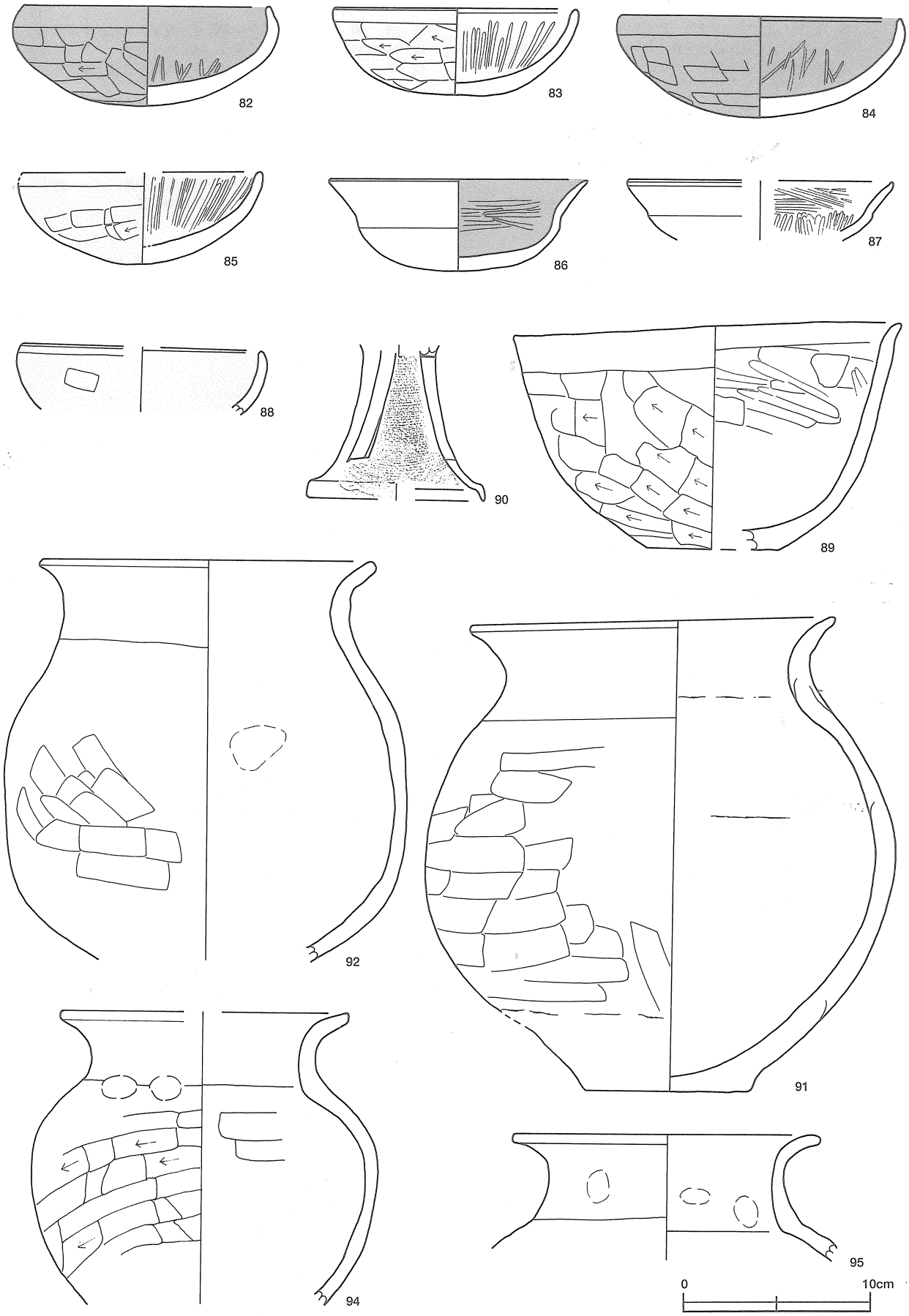
覆土　17層からなり，含有物や不連続な堆積の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

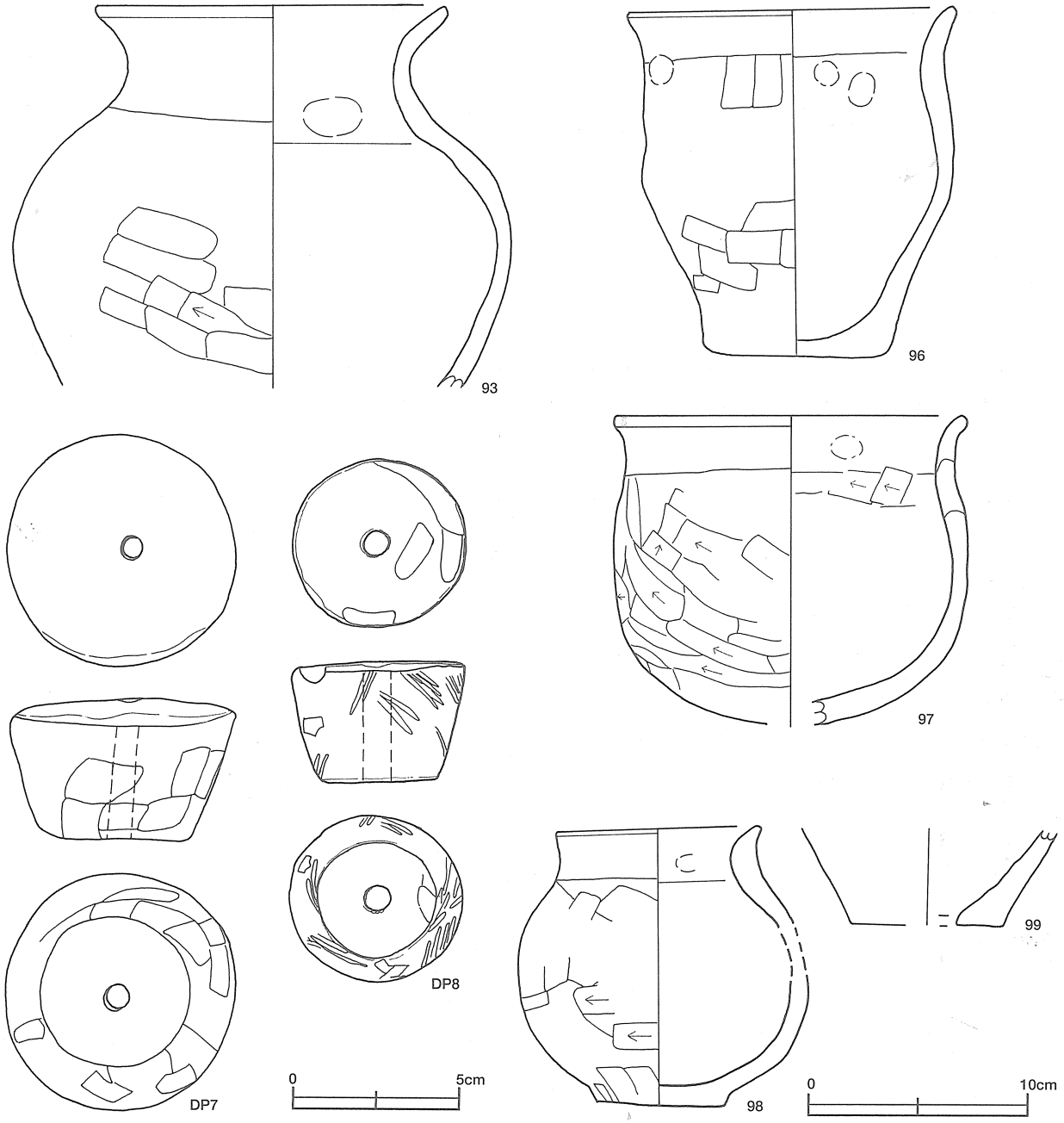
1　黒　褐　色　ローム粒子中量
2　黒　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化物少量，焼土粒子微量
6　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化材微量
7　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
12　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
13　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
14　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，炭化粒子微量
15　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
16　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化物微量
17　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片526点（坏71，甕454，甑1），須恵器片3点（高坏3），縄文土器片727点，土製品（紡錘車）2点，礫10点，炭化材，焼土が出土し，縄文土器片は混入である。図示した土器は土師器と須恵器であり，遺物は全体的に散在しているが，特に竈周辺部からの出土が多い。82・83は北東部床面から正位で出土し，ほぼ完形品に近いものである。84は竈内の火床面，92は竈左袖部前の床面から逆位で出土している。91は南壁中央寄りの床面から横位で出土し，94は北東部床面に散在していた土器片が接合された資料である。97は北西部の床面から出土し，その周りには粘土塊が出土している。90は中央部からやや竈寄りの床面の土器と北西部の覆土中層の土器が接合し，さらに第22号住居跡南東部の覆土下層から出土した土器も接合した須恵器高坏の脚部であり，カキ目調整が施されている。また，全体的に床面から炭化材や焼土が散在した状態で出土している。この炭化材イの樹種同定を行った結果，クヌギ節であることが明らかとなり，住居用の構築材の一部として使用されたものと考えられる。（「付章」参照）

所見　本跡は西側壁が調査区外に位置し，遺構の遺存状況も良いとは言えないが，出土遺物は豊富であり，とくに甕類は厚手に作られているものが見られる。焼土や炭化材・炭化物は，覆土や床面から出土し，焼失家屋と考えられる。須恵器の高坏脚部は，第22号住居跡の覆土下層から出土した遺物と接合され両者の住居廃棄の段階で投棄された可能性があり，これらは同時に存在した住居と考えられる。また，接合関係から祭祀行為も想定されるが明確ではない。時期は出土土器や竈の煙道部の掘り込みが浅い古手の様相を示していることなどから，6世紀中頃と考えられる。



第164図　第17号住居跡出土遺物実測図(1)



第165図　第16号住居跡出土遺物実測図(2)

第17号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
82	土師器	坏	13.3	5.4	—	雲母	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ	北部床面	95%内外面黒色処理 PL29
83	土師器	坏	13.6	5.8	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ	北部床面	90%内外面赤彩 PL30
84	土師器	坏	15.1	5.5	—	石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ	竈床面	60%内外面黒色処理
85	土師器	坏	[12.9]	5.2	—	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横ナデ	北部床面	60%内外面赤彩 PL30
86	土師器	坏	14.0	5.0	—	雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ,内面ヘラ磨き	東部下層	50%内面黒色処理
87	土師器	坏	[14.2]	(3.2)	—	雲母	橙	普通	口縁部外面横ナデ,内面ヘラ磨き	中央部床面	5%
88	土師器	坏	[12.9]	(3.5)	—	石英	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ	竈際床面	10%内外面赤彩
89	土師器	鉢	20.7	12.4	[7.0]	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部両面横ナデ	北部床面	70%PL30
90	須恵器	高坏	—	(8.4)	[9.6]	砂粒	黄灰	良好	脚部カキ目調整,透かし孔ヘラ切り	北・西床面	20%PL30
91	土師器	甕	19.7	25.9	9.1	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ,内面輪積み痕	南部床面	70%PL30

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
92	土師器	甕	17.8	(21.7)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ,体部内面ナデ	竈際床面	70% PL30
93	土師器	甕	16.0	(17.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ,体部内面ナデ	北部床面	60% PL30
94	土師器	甕	[15.5]	(15.8)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ,体部内面ヘラナデ	北部床面	45%
95	土師器	甕	16.5	(6.7)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ	北部床面	25%
96	土師器	甕	14.9	16.3	8.0	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ,体部内面ナデ	竈床面	70% PL30
97	土師器	甕	15.7	(14.2)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ,体部内面ヘラナデ	西部床面	70% PL30
98	土師器	小形甕	9.2	13.0	5.8	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ,体部内面ナデ	北部床面	70% PL30
99	土師器	甑	—	(4.5)	[7.1]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部両面ナデ	北部床面	5%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP 7	紡錘車	7.11	7.0	4.3	208.0	土製	上面ナデ,側面ヘラ削り，孔径0.7cm	北コーナー床面	P L 36
DP 8	紡錘車	5.11	5.2	3.7	108.0	土製	上下面ヘラナデ,側面ヘラ磨き，孔径0.8cm	東部床面	

第22号住居跡（第166～168図）

位置　調査Ⅱ区南部，G 6 f7区の平坦部に立地し，第34号住居跡と重複している。東には第29号住居跡，南東には第30号住居跡が位置している。

重複関係　第34号住居跡と第646号土坑を掘り込んでおり，第457号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸6.47m，短軸6.46mの方形で，主軸方向はN－8°－Wである。壁高は48～50cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部を中心に竈周辺から南壁中央までよく踏み固められ，壁溝が貯蔵穴付近を除いてほぼ全周している。

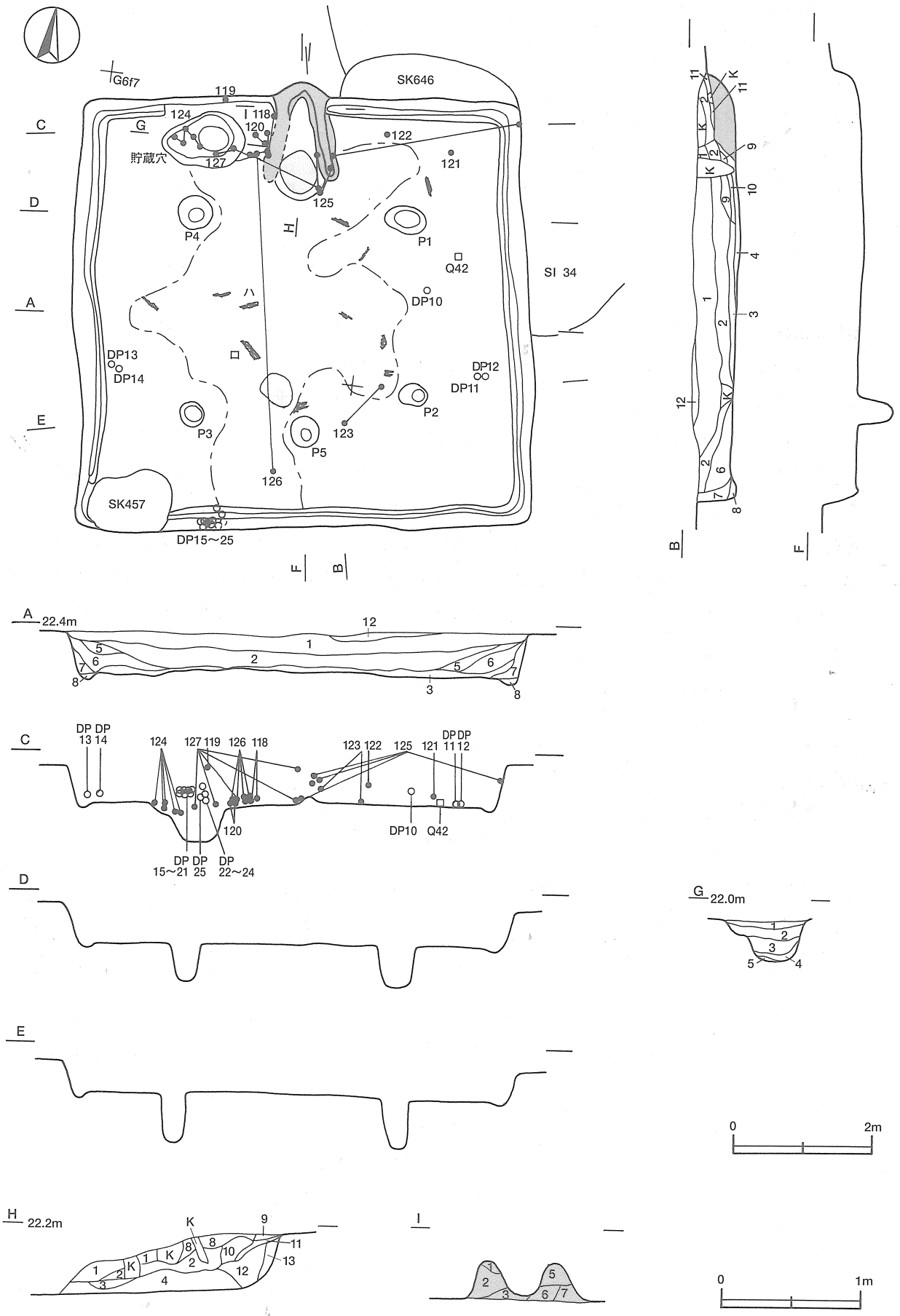
竈　砂混じりの褐色粘土で北壁中央に構築されている。規模は焚口部から煙道部まで167cm，両袖部幅100cm，壁外への掘り込みは20cmほどであり，左袖部は残存状況が悪く，粘土が少量残っているのみである。火床部は浅い皿状を呈し，火熱を受けて赤変硬化しており，煙道部は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量，ロームブロック・炭化物微量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量，炭化物微量
3　にぶい赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量，炭化材微量　締まり有り
4　暗赤褐色　焼土ブロック多量，粘土粒子・砂粒中量，灰少量，ロームブロック・炭化物微量
5　にぶい赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・炭化物微量
6　にぶい赤褐色　粘土粒子・砂粒中量，焼土ブロック・炭化物微量
7　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，粘土粒子・砂粒少量，ロームブロック・炭化粒子微量
8　にぶい褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化物微量
9　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量，粘土粒子・砂粒微量
10　褐色　ローム粒子中量，粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　暗褐色　ローム粒子少量，炭化物・粘土粒子・砂粒微量
12　褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
13　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化物微量

ピット　5か所。P 1 ～P 4 は深さ54～72cmで規模や配列から主柱穴である。P 5 は位置や形状から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　長径117cm，短径77cmほどの楕円形で，竈の左に付設されている。深さは58cm，底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。



第166図　第22号住居跡実測図

貯蔵穴土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
3　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　極暗褐色　ローム粒子・炭化物少量，焼土粒子・粘土粒子微量

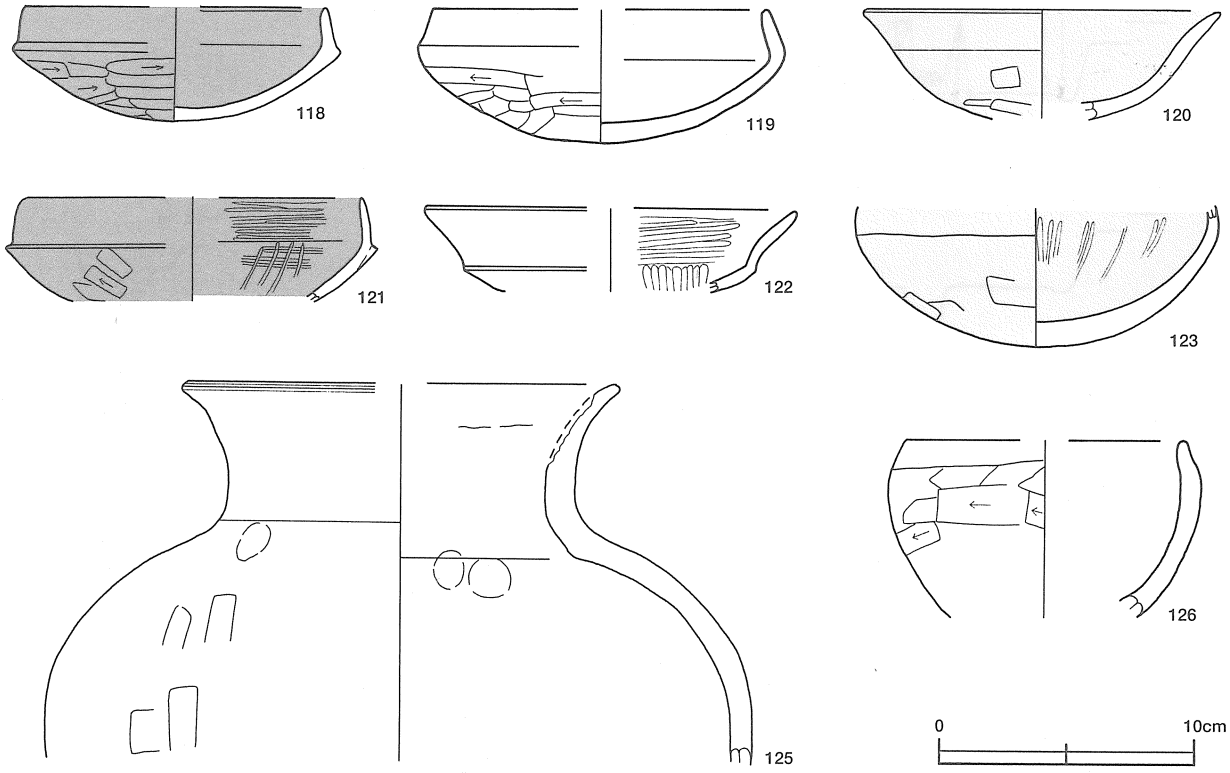
覆土　12層からなり，含有物などから人為堆積と考えられる。

土層解説

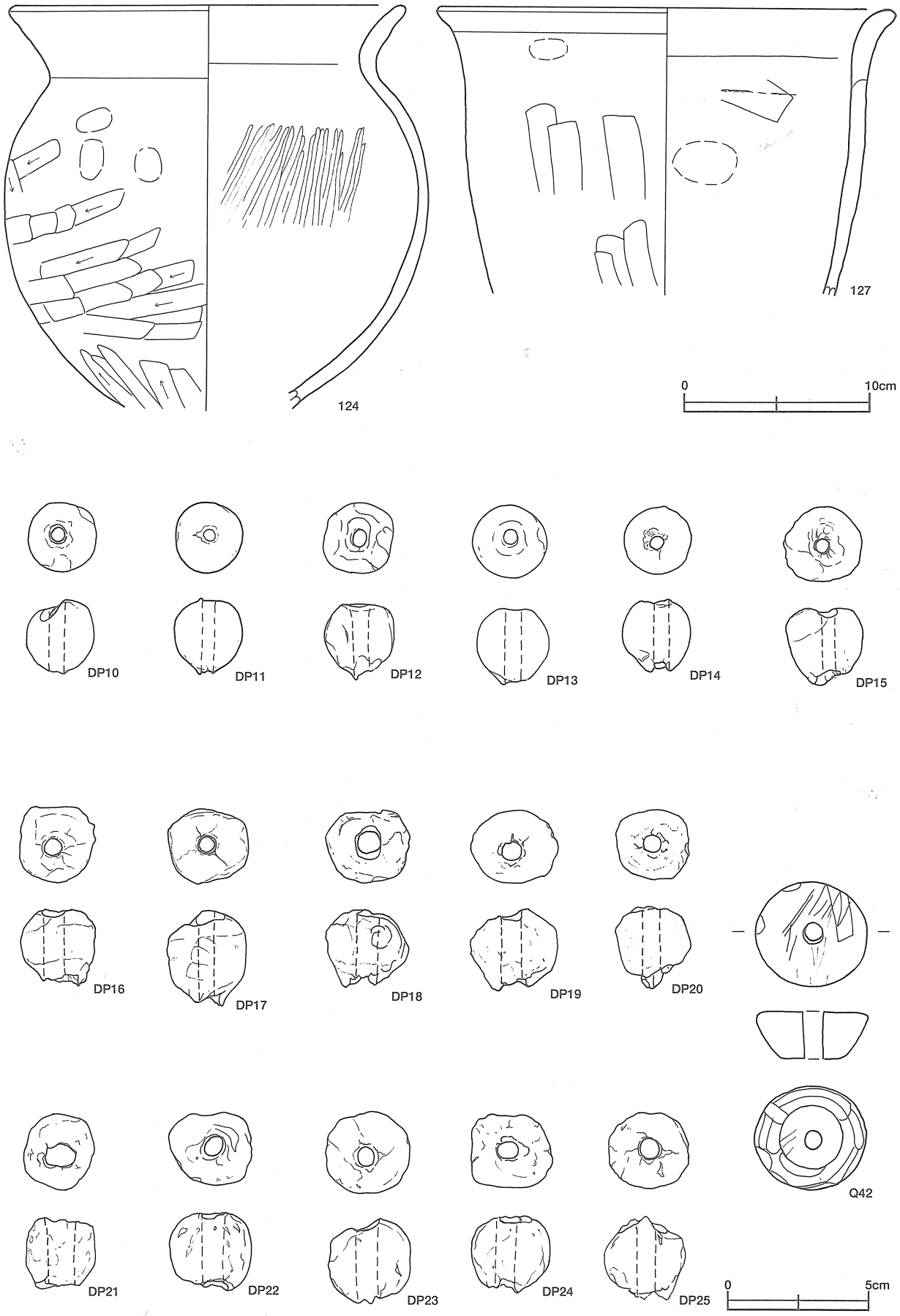
1　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
3　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
4　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量
5　暗 褐 色　炭化物少量，ローム粒子微量
6　暗 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
7　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
8　褐　　色　ローム粒子中量
9　極暗褐色　焼土ブロック・炭化物少量，ローム粒子・粘土粒子微量
10　暗 褐 色　炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
11　灰 褐 色　粘土粒子中量，砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
12　黒 褐 色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片437点（坏130，甕307），須恵器片２点（高坏２），縄文土器片202点，土製品16点（球状土錘），石製品１点（紡錘車），礫34点が出土し，縄文土器片は混入である。土器は竈周辺部からの出土が目立つ。118は竈左袖部付近の覆土下層から正位の状態で出土し，124は貯蔵穴の覆土上層から潰れた状態で出土している。北東部の覆土下層から出土した須恵器高坏片は第17号住居跡から出土した90に接合されており，DP15～25は南側壁の中央からやや西コーナー寄り壁際の覆土下層から並んだ状態で出土している。炭化材ロ，ハは散在した状態で床面から出土し，樹種同定の結果コナラ節であることが明らかになった。（「付章」参照）

所見　本跡は出土遺物が豊富で，甕類は厚手に作られているものがほとんどであり，前述した住居との類似が認められる。炭化材は全体的に散在した状態で床面から出土しており，焼失家屋と考えられる。また，南壁際から球状土錘が並んで出土している状態や須恵器高坏片が他の住居跡から出土した高坏片と接合関係にある状況から住居を廃絶する際，何らかの祭祀的行為が行われたと想定される。時期は出土土器や竈の煙道部の掘り込みが浅い古手の様相を示していることなどから，６世紀中頃と考えられる。



第167図　第22号住居跡出土遺物実測図(1)



第168図　第22号住居跡出土遺物実測図(2)

第22号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
118	土師器	坏	[12.0]	4.5	—	雲母	橙	普通	口縁部両面・体部内面横ナデ	竈際下層	60%内外面黒色処理
119	土師器	坏	[13.2]	5.3	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部両面・体部内面横ナデ	北部壁際上層	40%
120	土師器	坏	[14.0]	(4.2)	—	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面・体部内面横ナデ	竈際下層	5%内外面赤彩
121	土師器	坏	[13.4]	(4.2)	—	雲母	黒	普通	口縁部外面横ナデ,内面ヘラ磨き	北部下層	5%内外面黒色処理
122	土師器	坏	[14.8]	(3.3)	—	砂粒	明赤褐	普通	口縁部外面横ナデ,内面ヘラ磨き	北部中層	5%
123	土師器	坏	—	(5.5)	—	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ,内面ヘラ磨き	中央部下層	60%内外面赤彩
124	土師器	甕	21.6	(21.9)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ	貯蔵穴上層	80% PL31
125	土師器	甕	[16.8]	(15.0)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ,体部内面ナデ	北部中層	30% PL31
126	土師器	椀	[12.0]	(7.0)	—	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部両面・体部内面横ナデ	北・南下層	20%
127	土師器	甑	24.4	(15.5)	—	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ,体部内面ヘラナデ	竈際下層	30% PL30

番号	器種	径	厚さ	孔径	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
DP10	球状土錘	2.5	2.4	0.6	14.0	土製	ナデ，下面ヘラ削り，片面穿孔	東部中層	PL37
DP11	球状土錘	2.7	2.5	0.5	15.0	土製	ナデ，片面穿孔	東部床面	PL37
DP12	球状土錘	2.6	2.5	0.9	14.0	土製	ナデ，側面ヘラ削り，上面剝離擦痕，片面穿孔	東部床面	PL37
DP13	球状土錘	2.7	2.6	0.6	17.0	土製	ナデ，上下面ヘラ削り，片面穿孔	西部下層	PL37
DP14	球状土錘	2.6	2.4	0.5	14.0	土製	ナデ，孔部剝離擦痕有り，片面穿孔	西部下層	PL37
DP15	球状土錘	2.8	2.7	0.6	18.0	土製	ナデ，上下面ヘラ削り，片面穿孔	南部壁際下層	PL37
DP16	球状土錘	2.8	2.7	0.7	18.0	土製	ナデ，上下面ヘラ削り，片面穿孔	南部壁際下層	器面やや荒れ PL37
DP17	球状土錘	3.5	2.7	0.6	22.0	土製	ナデ，側面ヘラ削り，片面穿孔	南部壁際下層	PL37
DP18	球状土錘	2.8	3.0	0.9	15.0	土製	ナデ，側面ヘラ削り，片面穿孔,指頭痕有り	南部壁際下層	PL37
DP19	球状土錘	3.0	3.1	0.7	17.0	土製	ナデ，側面ヘラ削り，片面穿孔	南部壁際下層	
DP20	球状土錘	2.9	2.6	0.7	15.0	土製	ナデ，上下面ヘラ削り，片面穿孔	南部壁際下層	
DP21	球状土錘	2.5	2.8	1.1	12.0	土製	ナデ，両面穿孔	南部壁際下層	
DP22	球状土錘	2.8	3.0	0.9	18.0	土製	ナデ，側面ヘラ削り，片面穿孔	南部壁際下層	PL37
DP23	球状土錘	3.1	3.0	0.9	20.0	土製	ナデ，側面ヘラ削り，片面穿孔	南部壁際下層	PL37
DP24	球状土錘	2.8	2.9	0.7	18.0	土製	ナデ，ヘラ状工具による削痕有り，両面穿孔	南部壁際下層	PL37
DP25	球状土錘	3.0	2.9	0.7	17.0	土製	ナデ，上下面ヘラ削り，両面穿孔	南部壁際下層	PL37

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石材	特徴	出土位置	備考
Q42	紡錘車	3.7	4.0	1.7	36.0	泥岩	器面線刻，表面研磨,孔径0.7cm	東部床面	PL36

第28号住居跡（第169～171図）

位置　調査Ⅱ区南部，G7h1区の緩やかな斜面部に立地し，第31号住居跡と重複している。北西には第29号住居跡，西には第30号住居跡，南には第35号住居跡が位置している。

重複関係　第31号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸5.48m，短軸5.37mの方形で，主軸方向はN－21°－Eである。壁高は45～60cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部が中心によく踏み固められており，壁溝が全周している。さらに，焼土が各コーナー部から出土している。

焼土土層解説

1　極暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量，灰微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化物少量，ロームブロック微量
4　にぶい赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量

竈　砂混じりの褐色粘土で北壁中央に構築されている。規模は焚口部から煙道部まで124cm，両袖部幅88cmで，壁外への掘り込みは20cmほどである。火床部は浅い皿状を呈し，火熱を受けて赤変硬化しており，煙道部は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量，灰微量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量，灰微量
3　にぶい赤褐色　粘土粒子・砂粒少量，焼土ブロック・炭化物・灰微量
4　にぶい赤褐色　粘土粒子・砂粒中量，焼土ブロック・炭化物・灰微量
5　暗赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量，炭化物・灰微量
6　暗赤褐色　粘土粒子・砂粒少量，焼土ブロック・炭化物・灰微量
7　暗赤褐色　焼土ブロック中量，粘土粒子・砂粒少量，炭化物・灰微量
8　にぶい赤褐色　焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒少量，ローム粒子・炭化物微量
9　にぶい赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
10　暗赤褐色　焼土ブロック中量，粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・灰微量
11　にぶい赤褐色　粘土ブロック・砂粒中量，ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量
12　にぶい赤褐色　粘土ブロック・砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子微量
13　灰褐色　粘土ブロック・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子微量
14　褐色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化物微量
15　褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
16　灰褐色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
17　にぶい褐色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
18　赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，粘土粒子・砂粒少量
19　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，粘土ブロック少量
20　にぶい褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量
21　橙色　焼土ブロック中量，ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土粒子微量
22　褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土粒子微量
23　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ロームブロック少量，粘土ブロック微量
24　にぶい褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土粒子微量
25　橙色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量

ピット　14か所。P１～P４は深さ48～80cmで規模や配列から主柱穴と考えられ，P５は位置や形状から出入り口施設に伴うピットと考えられる。その他のピットの性格は不明であるが，P８・P10は位置的に棟持ち柱の柱穴と考えられる。

貯蔵穴　長径88cm，短径65cmほどの楕円形で，竈の右に付設されている。深さは50cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

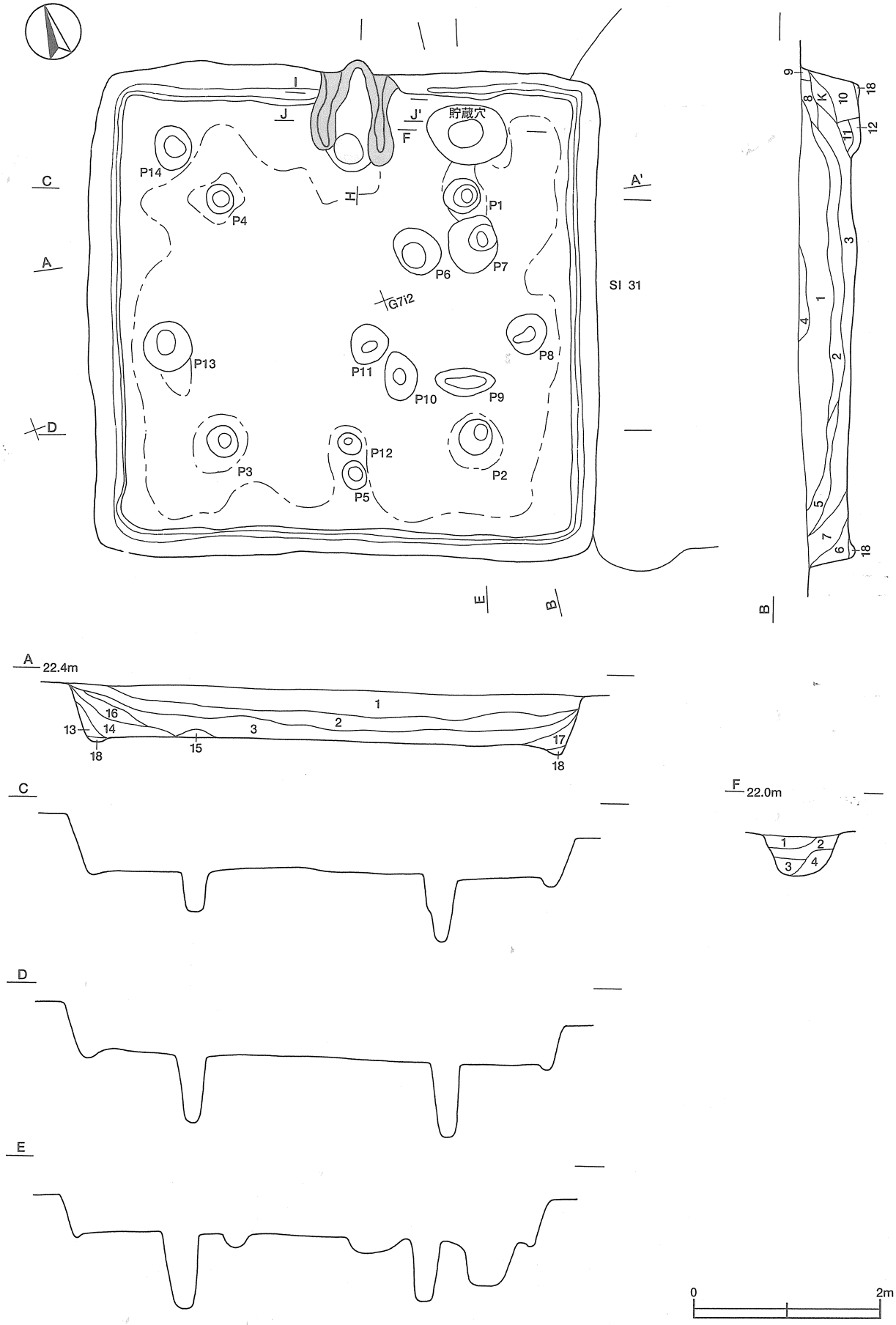
1　黒褐色　ロームブロック・炭化材少量，焼土ブロック微量
2　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
3　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量
4　極暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

覆土　18層からなり，自然堆積の状況を示している。

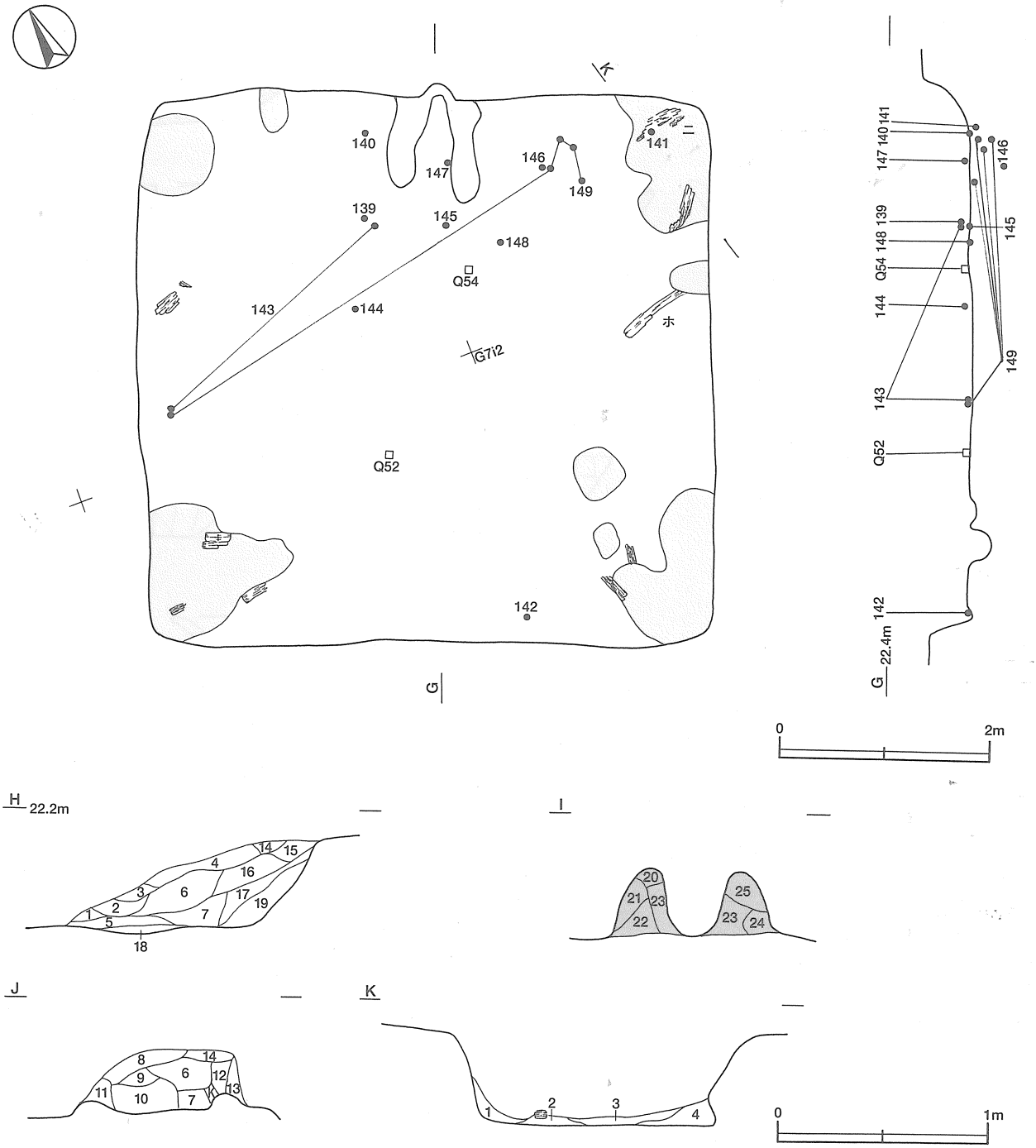
土層解説

1　黒褐色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
3　黒褐色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
4　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
5　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
6　暗褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
7　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
8　褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒微量
9　黒色　炭化物中量，ロームブロック微量
10　極暗褐色　ロームブロック・炭化材・粘土粒子・砂粒微量
11　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量
12　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
13　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
14　黒褐色　ロームブロック・炭化材少量，焼土ブロック微量
15　暗褐色　ロームブロック・炭化物・焼土ブロック微量
16　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
17　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
18　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片144点（坏42，甕100，鉢２），須恵器片１点（高坏１），縄文土器片240点，石製品３点（臼玉２，有孔円板１），礫９点，炭化材が出土し，縄文土器片は混入であり，遺物は竈付近を中心に出土している。141は北東コーナー付近，145・148・Q54は竈前，140は竈の左袖部，142は南壁中央のそれぞれ床面から出土している。147は竈内の火床部，146は貯蔵穴の底面からそれぞれ斜位の状態で出土している。149



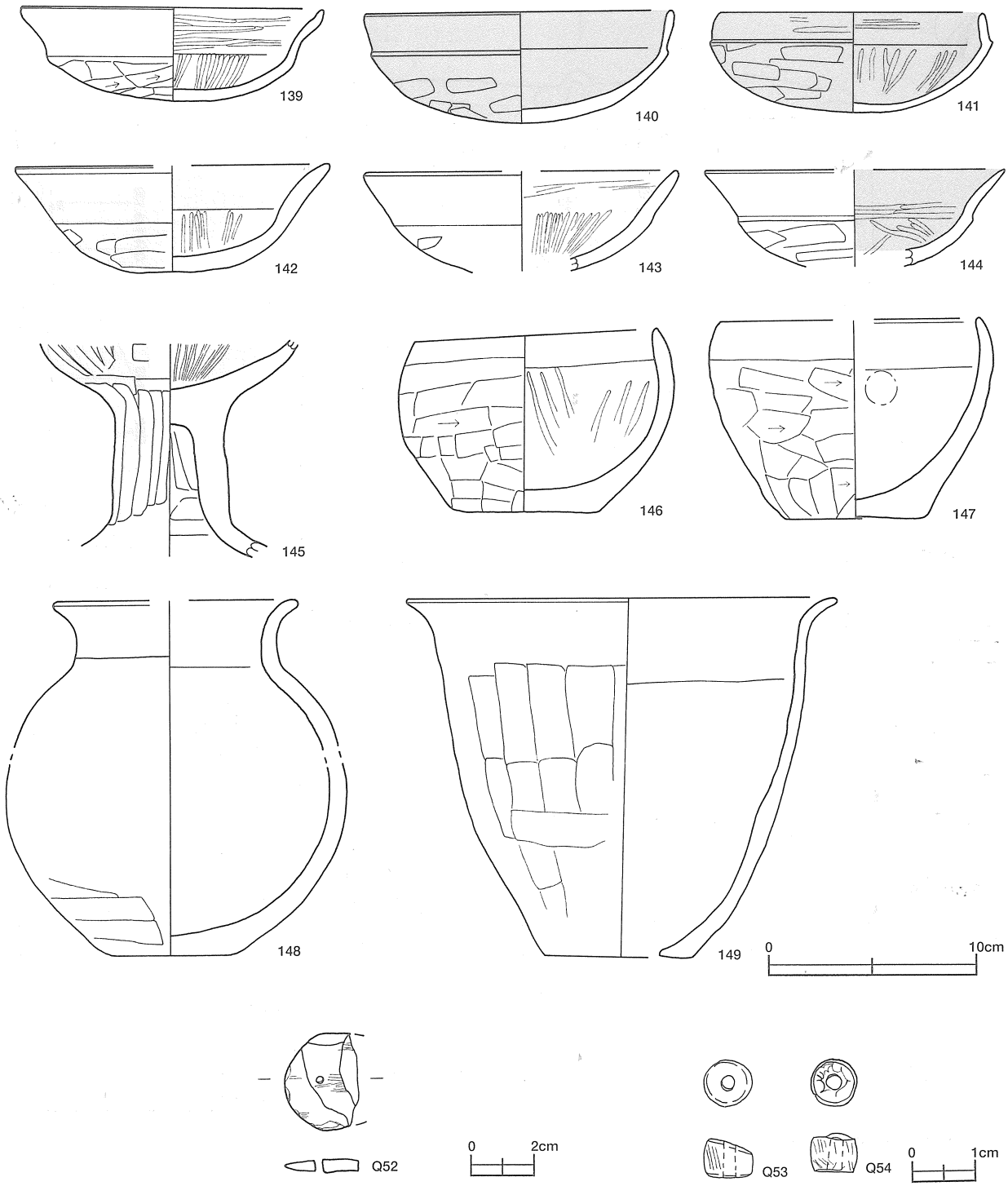
第169図　第28号住居跡実測図(1)



第170図　第28号住居跡実測図(2)

は貯蔵穴の覆土上層と西部の床面から出土した土器が接合された資料である。また，炭化材や焼土塊は各コーナー部の床面から出土している。この炭化材ニ，ホの樹種同定を行った結果，クヌギ節であることが明らかとなり，住居用の構築材の一部として使用されたものと考えられる。(「付章」参照)

所見　甕類は厚手でに作られているものが見られる。焼土や炭化材・炭化物は，各コーナー部の床面から出土しており，焼失家屋と考えられる。竈内では鉢が斜位で出土し，高坏の脚部のほか竈付近からの出土が多く，住居の廃絶は居住していた時の状況をほぼ示していると考えられる。時期は，出土土器から6世紀中頃と考えられる。



第171図　第28号住居跡出土遺物実測図

第28号住居跡出土遺物観察表

番号	種　別	器　種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
139	土　師　器	坏	14.7	4.5	—	砂粒・雲母	赤　　褐	普通	口縁部両面･体部内面横ナデ	中央部下層	95%P L31
140	土　師　器	坏	14.9	5.4	—	雲母	黒　　褐	普通	口縁部両面･体部内面横ナデ	竈際床面	70%P L31内外面黒色処理
141	土　師　器	坏	12.9	4.9	—	砂粒	にぶい褐	普通	口縁部両面･体部内面ヘラ磨き	西部床面	70%P L31内外面黒色処理
142	土　師　器	坏	[15.2]	5.2	—	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ	南部床面	70%内外面赤彩
143	土　師　器	坏	[15.0]	(4.8)	—	石英・雲母	浅　　黄	普通	口縁部外面横ナデ,内面ヘラ磨き	中央・西床面	30%内外面赤彩
144	土　師　器	坏	[14.5]	(4.7)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ	中央部下層	15%内面黒色処理

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
145	土師器	高坏	—	(10.4)	—	石英・雲母	にぶい褐	普通	坏部・脚部外面ヘラナデ	竈際床面	40%内外面赤彩 PL31
146	土師器	鉢	11.8	9.0	7.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ	貯蔵穴底面	95%体部下端煤付着 PL31
147	土師器	鉢	[12.5]	9.6	7.0	石英・雲母	橙	普通	口縁部両面横ナデ,体部内面ナデ	竈底面	50%
148	土師器	甕	12.0	[17.3]	6.0	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ,体部内面ナデ	東部床面	30%
149	土師器	甑	20.9	17.6	7.1	雲母	橙	普通	口縁部両面横ナデ,体部内面ナデ	貯蔵穴中層	60% PL31

番号	器種	径	厚さ	孔径	重さ	石材	特徴	出土位置	備考
Q52	双孔円板	3.10	0.40	0.25	(4.80)	滑石	両面横位の研磨，片面穿孔,幅（2.4）cm	中央部床面	PL36
Q53	臼玉	0.77	0.65	0.20	0.62	滑石	側面が直線的な円筒状，片面穿孔	覆土中	
Q54	臼玉	0.73	0.61	0.20	0.51	滑石	側面がやや膨らむ太鼓状，片面穿孔	中央部床面	

住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸 (m)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴	覆土	主な出土遺物	備考 (時期)
1	C 6 b5	N-33°-E	[楕円形]	7.58 × 7.52	3～5	平坦	—	8	—	1	炉2	—	自然	縄文土器(深鉢)	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)
2	D 6 b3	—	[楕円形]	4.90 × 4.50	0	平坦	—	3	—	—	炉1	—	不明		縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)
3	C 6 j3	N-7° -W	[楕円形]	3.85 ×(2.82)	12～22	平坦	—	5	—	1	炉1	—	一部人為	縄文土器(深鉢),礫	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)
4	C 6 i0	N-42°-E	[楕円形]	[8.00]×[6.20]	0	平坦	—	6	—	4	炉2	—	不明	縄文土器(深鉢),石鏃,粘土塊,礫	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)
5	D 6 a6	N-90°-W	[楕円形]	5.11 ×[4.60]	4～8	平坦	—	8	—	1	炉1	—	自然	縄文土器(深鉢),磨石,炭化材	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)
6	D 6 b4	N-20°-W	[楕円形]	5.88 ×(4.65)	4	平坦	—	3	—	9	炉2	—	自然	縄文土器(深鉢),土製品(球状耳飾)	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)
7	D 6 g4	N-34°-W	楕円形	4.28 × 4.12	6～14	平坦	—	4	—	2	炉1	—	自然	縄文土器(深鉢),磨石,剥片,礫	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)
8	D 6 j4	—	[楕円形]	8.88 ×(3.78)	17～30	平坦	—	3	—	4	炉1	—	自然	縄文土器(深鉢),磨石,打製石斧,礫器,礫,土師器	縄文時代中期(加曽利EⅡ～Ⅲ式期)
9	D 6 j4	N-69°-W	[楕円形]	7.85 ×(4.28)	6～10	平坦	—	5	—	6	炉1	—	自然	縄文土器(深鉢),石鏃,磨石,礫	縄文時代中期(加曽利EⅢ～Ⅳ式期)
10	D 6 f0	N-35°-W	楕円形	4.75 × 4.16	11～14	平坦	—	4	—	7	炉1	—	自然	縄文土器(深鉢),土製品,磨石,石皿(凹石)	縄文時代中期(加曽利EⅣ式期)
11	E 6 a0	N-5° -E	[楕円形]	5.10 ×(5.00)	7～18	平坦	—	6	—	4	炉1	—	自然	縄文土器(深鉢),土製品,石鏃未製品	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)
12	E 6 c0	N-25°-W	方形	6.20 × 5.96	42～58	平坦	[全周]	4	—	1	竈	1	人為	土師器(坏・椀・甕・甑)	6世紀前半
13	E 6 b8	N-41°-E	楕円形	4.37 × 3.90	12～20	平坦	—	4	—	—	炉1	—	自然	縄文土器(深鉢),石鏃,土師器,礫	縄文時代中期(加曽利EⅡ～Ⅲ式期)
14	F 6 h7	N-12°-W	方形	5.32 × 5.31	44～68	平坦	全周	4	1	—	竈	2	人為	土師器(坏・鉢・甕),土製支脚	6世紀中頃
15	E 6 g2	N-14°-W	[長方形]	6.30 ×(3.02)	50～59	平坦	全周	2	1	—	竈	1	人為	土師器(坏・椀・鉢・甕・甑),石製紡錘車	6世紀後半
16	E 6 i3	N-19°-W	[長方形]	5.58 ×(3.86)	35～42	平坦	一部	3	—	9	竈	1	人為	土師器(坏・鉢・甕・甑)	6世紀中頃
17	F 6 b4	N-22°-W	[方形]	7.03 × 6.98	40～54	平坦	[全周]	4	1	16	竈	1	人為	土師器(坏・鉢・甕・甑),須恵器(高坏),土製紡錘車	6世紀中頃
18	E 7 f1	N-74°-W	楕円形	7.94 × 7.54	6～26	平坦	—	6	—	3	炉1	—	人為	縄文土器(深鉢・鉢),剥片,磨製石斧,敲石,凹石,石皿,礫	縄文時代中期(加曽利EⅡ～Ⅲ式期)
19	E 6 g0	N-46°-W	[楕円形]	8.40 ×(2.30)	4～12	平坦	—	5	—	2	炉1	—	自然	縄文土器(深鉢),凹石	縄文時代中期(加曽利EⅡ～Ⅲ式期)
20	E 7 i1	N-2° -E	楕円形	4.39 × 3.90	13～20	平坦	—	5	—	8	炉1	—	自然	縄文土器(深鉢),土製品,礫	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)
21	F 6 g7	N-70°-E	[円形]	7.75 ×(5.16)	22～39	平坦	—	6	—	2	炉4	—	一部人為	縄文土器(深鉢),石鏃,磨石,凹石,石核,剥片	縄文時代中期(加曽利EⅡ～Ⅲ式期)
22	G 6 f7	N-8° -W	方形	6.47 × 6.46	48～50	平坦	全周	4	1	—	竈	1	自然	土師器(坏・甕・椀・甑),球状土錘,石製紡錘車	6世紀中頃
23	E 6 j6	N-57°-E	円形	5.15 × 5.02	12～20	平坦	—	3	—	3	炉1	—	人為	縄文土器(深鉢),石鏃,石斧,石棒,凹石,礫	縄文時代中期(加曽利EⅣ式期)
25	F 6 d4	N-20°-W	[楕円形]	5.27 × 4.61	9～16	平坦	—	9	—	3	炉1	—	人為	縄文土器(深鉢),礫	縄文時代中期(加曽利EⅣ式期)
26	G 7 e2	N-90°-W	円形	5.58 × 5.32	10～22	平坦	—	3	—	7		—	人為	縄文土器(深鉢),凹石,礫	縄文時代中期(加曽利EⅣ式期)
27	G 7 d2	N-26°-E	[楕円形]	6.00 ×(3.57)	7～10	平坦	—	3	—	4	炉1	—	自然	縄文土器(深鉢),磨製石斧,礫,粘土塊	縄文時代中期(加曽利EⅣ式期)
28	G 7 h1	N-21°-E	方形	5.48 × 5.37	45～60	平坦	全周	4	1	9	竈	1	自然	土師器(坏・高坏・鉢・甕・甑),双孔円板,臼玉	6世紀中頃
29	G 6 g0	N-18°-E	円形	5.30 × 5.00	16～24	平坦	—	4	—	7	炉2	—	人為	縄文土器(深鉢),土製円板,凹石,礫	縄文時代中期(加曽利EⅣ式期)
30	G 6 h0	N-75°-W	楕円形	5.38 × 4.88	17～22	平坦	—	6	—	4	炉1	—	人為	縄文土器(深鉢),土製円板,石鏃,磨製石斧,敲石,凹石,礫	縄文時代中期(加曽利EⅡ～Ⅲ式期)
31	G 7 i3	N-20°-E	[楕円形]	6.22 ×(4.76)	4～10	平坦	—	2	—	7	炉1	—	人為	縄文土器(深鉢),土器片錘,石鏃,磨製石斧,剥片	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)
32	H 6 b0	N-22°-W	楕円形	4.81 × 4.32	11	平坦	—	—	—	—	炉1	—	人為	縄文土器(深鉢),土師器片,礫	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸 (m)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	備考 (時期)
								主柱穴	入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
33	G 7 g3	N-65°-W	円　形	5.22 × 4.86	5～12	平坦	—	6	—	3	炉1	—	人為	縄文土器(深鉢)	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)
34	G 6 e8	N-38°-W	[楕円形]	6.52 ×(3.85)	0～5	平坦	—	6	—	10	炉1	—	人為	縄文土器(深鉢),礫器	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)
35	G 7 j2	N-35°-E	円　形	7.30 × 7.00	6～16	平坦	—	6	—	16	炉3	—	人為	縄文土器(深鉢),石鏃,磨石,礫	縄文時代中期(加曽利EⅣ式期)
36	G 6 b9	N-80°-W	円　形	8.21 × 7.89	5～21	平坦	—	4	—	16	炉1	—	人為	縄文土器(深鉢),石鏃	縄文時代中期(加曽利EⅣ式期)
37	D 6 i7	N-0°	[円　形]	(8.20)×(7.60)	—	平坦	—	4	—	10	炉1	—	不明	縄文土器(深鉢)	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)
38	D 6 g5	N-66°-E	[楕円形]	(7.90)×(6.70)	—	平坦	—	4	—	3	炉1	—	不明	縄文土器(深鉢)	縄文時代中期(加曽利EⅢ～Ⅳ式期)
39	D 7 i1	N-0°	[円　形]	(5.00)×(4.60)	8～12	平坦	—	—	—	5	炉1	—	人為	縄文土器(深鉢)	縄文時代中期(加曽利EⅢ～Ⅳ式期)
40	E 6 f4	N-18°-E	隅丸方形	3.34 × 3.10	8	平坦	—	2	—	—	炉1	—	一部人為	縄文土器(深鉢),石鏃,礫	縄文時代中期(阿玉台Ⅰb～Ⅱ式期)

3　その他の遺構と遺物

今回の調査で，時期不明の土坑451基と不明遺構４基を検出した。特に，第４号不明遺構については，住居跡として調査を進めたが検討の結果，不明遺構とした。以下，検出した遺構と遺物について記載する。

（１）土坑

土坑の特徴については，一覧表と全体図（付図）で掲載する。

土坑一覧表

番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径（軸）(m) × 短径 (m)	規模 深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考（時期）
1	C 6 a2	N－0°	円形	1.07 × 1.02	22	外傾	平坦	自然	縄文土器	縄文時代中期（加曽利EⅣ式期）
2	C 6 a3	N－0°	円形	1.52 × 1.40	30	外傾	平坦	自然	縄文土器	縄文時代中期（加曽利EⅢ式期）
3	C 6 a4	N－86°－W	長楕円形	1.76 × 1.20	32	外傾	平坦	自然		
4	C 6 b3	N－58°－E	楕円形	1.32 × 1.10	77	外傾	平坦	人為		縄文時代中期
5	C 6 b3	N－15°－E	楕円形	1.15 × 0.98	32	外形	皿状	自然		
6	C 6 a5	N－55°－W	楕円形	1.16 × 1.00	79	垂直	皿状	人為		縄文時代中期
7	C 6 c5	N－15°－W	楕円形	1.15 × 1:15	63	緩斜	皿状	自然		
8	C 6 a7	N－2°－E	隅丸長方形	1.17 × 1.07	5	外傾	平坦	自然		
9	C 6 c4	N－78°－W	長楕円形	1.56 × 0.67	7	緩斜	平坦	自然		
10	C 6 c5	N－86°－W	長楕円形	1.06 × 0.40	9	外傾	平坦	自然		
11	C 6 d6	N－2°－E	隅丸方形	1.17 × 1.07	5	外傾	平坦	自然		
12	C 6 d4	N－83°－W	不定形	2.56 × 1.16	10	緩斜	平坦	自然		
13	C 7 g1	N－32°－E	楕円形	2.10 × 1.83	29	外傾	平坦	自然		
14	C 6 f2	N－74°－E	楕円形	0.81 × 0.66	21	外傾	皿状	自然		
15	C 6 f3	N－1°－E	長楕円形	1.21 × 0.73	26	緩斜	皿状	自然		
16	C 6 b3	N－71°－E	舟形	2.54 × 1.81	24	外傾	皿状	自然		
17	D 7 b2	N－62°－W	楕円形	0.54 × 0.51	24	外傾	皿状	自然		
18	D 7 b2	N－13°－E	楕円形	0.67 × 0.43	14	外傾	凹凸	自然		
19	C 6 i3	N－0°	円形	1.55 × 1.43	90	垂直	皿状	人為	縄文土器	縄文時代中期（加曽利EⅢ式期）
20	C 6 c7	N－30°－E	長方形	0.59 × 1.24	66	外傾	平坦	自然		
21	C 6 h7	N－36°－E	楕円形	0.85 × 0.61	45	外傾	平坦	自然		
22	C 6 i9	N－68°－W	楕円形	0.76 × 0.69	10	—	平坦	自然		
23	D 7 a2	N－90°－W	隅丸長方形	1.89 × 1.08	7	緩斜	平坦	自然		
24	D 7 a2	N－0°	楕円形	0.45 × 0.42	22	外傾	皿状	自然		
25	C 7 i2	N－76°－W	楕円形	(1.08) × 0.76	7	外傾	平坦	自然		
26	C 7 i1	N－80°－E	長楕円形	1.08 × 0.54	9	外傾	平坦	自然		
27	C 7 j1	N－7°－E	隅丸長方形	1.88 × 1.07	7	緩斜	平坦	自然		
28	C 6 i8	N－78°－E	不整長方形	2.31 × 0.51	47	外傾	凹凸	自然		
29	C 6 g8	N－55°－E	不定形	1.78 × 1.20	15	緩斜	凹凸	自然		
30	C 6 i5	N－87°－W	長楕円形	1.04 × 0.60	7	緩斜	皿状	自然		
31	C 6 g0	N－84°－W	長楕円形	1.06 × 0.56	7	緩斜	皿状	自然		
32	C 7 d1	N－87°－E	不整長方形	2.03 × 0.85	12	外傾	皿状	自然		
33	D 7 a1	N－4°－E	楕円形	0.64 × 0.53	12	外傾	皿状	自然		
34	D 7 b1	N－44°－W	楕円形	1.16 × 1.02	44	外傾	平坦	自然		
35	D 7 c2	N－88°－E	不定形	1.02 × 0.42	30	緩斜	皿状	自然		
36	D 6 a0	N－40°－W	楕円形	0.55 × 0.48	38	外傾	平坦	自然		

番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径(軸)×短径 (m) (m)	規模 深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考(時期)
37	D 6 e0	N－10°－E	楕円形	2.11 × 1.90	17	緩斜	平坦	自然		
38	D 6 e9	N－0°	円形	0.88 × 0.84	75	垂直	平坦	人為	縄文土器	縄文時代中期
39	D 6 e9	N－66°－E	[長楕円形]	(0.96) × 0.86	20	緩斜	皿状	自然		
40	D 6 e8	N－29°－W	長楕円形	2.26 × 1.54	23	外傾	皿状	人為	縄文土器	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)
41	D 6 f8	N－76°－W	楕円形	0.90 × 0.53	28	緩斜	皿状	自然		
42	D 6 e7	N－62°－W	楕円形	2.45 × 2.10	22	外傾	凹凸	自然		
43	D 6 f7	N－0°	不整楕円形	1.06 × 0.68	37	—	凹凸	自然		
44	D 6 f7	N－55°－E	楕円形	1.72 × 1.28	30	外傾	凹凸	自然		
45	D 6 f7	N－0°	円形	0.42 × 0.41	12	緩斜	皿状	自然		
46	D 6 f7	N－0°	円形	0.52 × 0.51	27	緩斜	V状	自然		
47	D 6 g7	N－43°－W	楕円形	1.00 × 0.78	24	外傾	凹凸	自然		
48	D 6 g7	N－34°－E	不定形	3.78 × 2.98	59	外傾	平坦	自然		
49	D 6 f4	N－45°－W	不定形	(1.63) × 1.61	15	緩斜	凹凸	自然		
50	D 6 e4	N－33°－W	楕円形	0.78 × 0.66	18	外傾	皿状	自然		
51	D 6 f5	N－25°－W	楕円形	1.07 × 0.95	22	緩斜	平坦	自然		
52	D 6 f5	N－0°	円形	0.71 × 0.69	14	緩斜	平坦	自然		
54	D 6 f4	N－20°－W	隅丸長方形	1.15 × 0.75	3	外傾	平坦	自然		
55	D 6 h0	N－9°－W	不整楕円形	1.38 × 0.91	26	緩斜	皿状	自然		
56	D 6 g5	N－5°－W	楕円形	1.15 × 0.98	42	外傾	平坦	人為	縄文土器	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)
57	D 6 g5	N－74°－W	不整長方形	1.87 × 1.10	20	外傾	平坦	自然		
58	D 6 h8	N－61°－E	楕円形	1.85 × 1.45	42	外傾	凹凸	自然		
59	D 6 f9	N－32°－W	楕円形	1.75 × 1.52	28	緩斜	凹凸	自然		
60	D 6 g4	N－75°－E	不整楕円形	1.42 × 1.09	75	緩斜	平坦	自然	縄文土器	縄文時代
61	D 6 h4	N－22°－W	楕円形	0.70 × 0.66	34	緩斜	平坦	自然		
62	D 6 h4	N－10°－E	長楕円形	0.82 × 0.58	18	外傾	平坦	自然		
63	C 7 g1	N－19°－W	卵形	0.71 × 0.50	15	外傾	皿状	自然		
64	C 7 g1	N－68°－W	不整長方形	1.20 × 0.71	21	緩斜	皿状	自然		
69	D 7 b1	N－81°－E	長楕円形	0.74 × 0.43	12	緩斜	皿状	自然		
71	D 6 c4	—	不定形	(1.87) × [0.63]	40	緩斜	皿状	自然		
72	D 6 h9	N－66°－W	楕円形	0.84 × 0.52	15	緩斜	皿状	自然		
73	D 6 i5	N－67°－W	楕円形	1.14 × 0.98	22	緩斜	平坦	人為		縄文時代中期
74	D 6 i5	N－26°－E	楕円形	1.76 × 1.57	42	外傾	皿状	自然		
75	D 7 f1	N－55°－W	楕円形	0.79 × 0.68	52	外傾	凹凸	人為	縄文土器	縄文時代中期後葉
76	D 7 f1	N－52°－W	長楕円形	0.82 × 0.52	26	外傾	皿状	自然		
77	D 7 f2	N－0°	円形	1.13 × 1.04	65	外傾	平坦	人為	縄文土器	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)
78	D 7 f1	N－76°－W	楕円形	1.12 × 0.82	37	緩斜	凹凸	自然		
79	D 7 f2	N－0°	円形	1.15 × 1.14	32	外傾	皿状	人為	縄文土器,打製石斧,礫	縄文時代中期(加曽利EⅢ式～Ⅳ式期)
80	D 7 e1	—	不定形	2.34 × [1.02]	16	外傾	平坦	自然		
81	D 6 h9	N－58°－W	長楕円形	1.10 × 0.49	26	緩斜	凹凸	自然		
82	D 6 h9	N－55°－W	長楕円形	1.13 × 0.63	23	緩斜	皿状	自然		
83	D 6 h9	N－30°－E	楕円形	0.75 × 0.74	16	緩斜	平坦	自然	縄文土器	縄文時代
84	D 6 h0	N－63°－E	長楕円形	1.36 × 0.78	25	外傾	凹凸	自然		
85	D 6 h0	N－82°－E	楕円形	0.93 × [0.66]	38	外傾	皿状	自然		
86	D 6 h0	N－45°－E	長楕円形	2.41 × 1.45	35	外傾	皿状	人為	縄文土器	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)
87	D 6 h9	N－60°－E	楕円形	0.80 × 0.71	20	緩斜	凹凸	自然		
88	D 6 j7	N－21°－E	楕円形	2.25 × 1.60	66	外傾	凹凸	自然	縄文土器	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)

番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径(軸)×短径 (m)	規模 深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考(時期)
89	D 6 i9	N－39°－W	楕円形	1.31 × 1.05	20	外傾	凹凸	自然	縄文土器	縄文時代
90	D 6 j0	N－16°－E	不定形	1.86 × 1.18	52	緩斜	皿状	自然	縄文土器	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)
91	D 6 j9	N－54°－E	隅丸台形	1.25 × 0.94	15	外傾	皿状	自然		
92	E 6 a8	N－14°－E	楕円形	1.02 × 1.00	41	外傾	凹凸	自然		
93	D 6 f0	N－0°	円形	0.90 × 0.85	7	緩斜	皿状	自然		
94	E 6 a8	N－0°	円形	1.22 × 1.14	42	外傾	皿状	自然		縄文時代中期
95	E 6 b9	N－12°－E	不定形	2.85 × 1.38	88	—	—	自然	縄文土器	縄文時代
96	E 6 a6	N－83°－W	隅丸長方形	2.40 × 1.37	17	緩斜	凹凸	自然	縄文土器	縄文時代
97	E 6 a6	N－60°－W	楕円形	0.65 × 0.46	13	外傾	平坦	自然		
98	E 6 a6	N－81°－W	楕円形	0.85 × 0.52	13	緩斜	平坦	自然		
99	E 6 a5	N－55°－W	楕円形	0.74 × 0.68	21	緩斜	皿状	自然		
100	D 7 i1	N－14°－E	楕円形	1.10 × 0.72	22	緩斜	皿状	自然		
101	D 6 h6	N－68°－W	楕円形	0.63 × 0.59	21	外傾	凹凸	自然		
102	E 7 a2	N－10°－E	[楕円形]	[0.72] × 0.67	10	外傾	凹凸	自然		
103	E 7 a2	N－88°－E	楕円形	1.47 × 1.17	11	外傾	凹凸	自然		
104	D 7 i1	N－67°－E	楕円形	0.71 × 0.50	25	緩斜	皿状	自然		
105	E 7 a2	N－44°－W	不定形	1.62 × 1.20	34	緩斜	凹凸	自然		
106	E 7 b2	N－41°－W	楕円形	2.36 × 1.85	9	外傾	平坦	自然		
107	E 7 b1	N－2°－E	隅丸長方形	1.60 × 0.83	17	緩斜	皿状	自然		
108	E 7 d1	N－38°－W	楕円形	0.64 × 0.53	42	外傾	皿状	自然		
109	E 7 c1	N－62°－W	楕円形	1.32 × 1.11	32	緩斜	皿状	人為	縄文土器	縄文時代
110	E 7 c2	N－75°－E	楕円形	1.62 × 1.48	20	緩斜	凹凸	自然		
111	E 7 e1	N－8°－W	楕円形	1.20 × 0.92	82	外傾	平坦	人為	縄文土器	縄文時代中期
112	D 7 g1	N－63°－W	不整楕円形	[1.30] × 0.78	24	緩斜	平坦	自然		
113	D 6 i9	N－83°－W	楕円形	1.13 × 0.90	26	緩斜	凹凸	自然	縄文土器	縄文時代
114	D 6 b5	N－80°－E	楕円形	1.28 × 1.12	18	外傾	皿状	人為	縄文土器,礫	縄文時代中期(加曽利EⅣ式期)
115	E 7 a1	—	不定形	0.88 × [0.81]	15	外傾	凹凸	自然		
116	E 7 a1	—	不定形	0.71 × [0.60]	10	—	凹凸	自然		
117	E 7 b2	N－0°	円形	0.65 × 0.65	28	外傾	平坦	自然		
119	E 6 b6	N－77°－E	楕円形	1.07 × 0.75	30	緩斜	凹凸	自然自然		
120	E 6 b5	N－84°－E	卵形	1.00 × 0.76	30	緩斜	皿状	自然		
121	E 6 b5	N－92°－W	楕円形	0.74 × 0.66	58	外傾	平坦	自然		縄文時代中期
122	E 6 c4	N－69°－W	楕円形	0.92 × 0.63	20	緩斜	凹凸	自然		
123	E 6 c6	N－32°－W	長楕円形	2.57 × 1.94	14	緩斜	平坦	自然		
124	E 6 f4	N－65°－E	不定形	1.70 × 1.12	6	緩斜	凹凸	自然		
125	E 6 d6	N－40°－E	楕円形	1.54 × 1.14	73	袋状	皿状	自然	縄文土器	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)
126	D 6 g4	N－62°－E	楕円形	0.69 × 0.63	18	緩斜	凹凸	自然		
127	D 7 h2	N－56°－W	楕円形	1.24 × 0.87	20	外傾	凹凸	自然		
128	D 7 g1	N－40°－E	不定形	1.45 × [1.38]	21	緩斜	凹凸	人為	縄文土器	縄文時代中期
129	D 6 f0	N－17°－E	長楕円形	0.83 × 0.40	28	外傾	凹凸	自然		
130	D 6 h6	N－50°－W	長楕円形	1.22 × 0.78	21	外傾	凹凸	自然	縄文土器	縄文時代
131	D 6 f6	N－39°－E	楕円形	1.20 × 1.06	22	外傾	平坦	人為		縄文時代中期後葉
132	D 6 g6	N－4°－E	楕円形	2.50 × 2.16	30	外傾	平坦	自然		
134	D 6 h7	N－16°－W	楕円形	1.92 × 1.30	23	外傾	凹凸	人為		縄文時代中期
135	D 6 g6	N－0°	円形	1.12 × 1.04	49	垂直	平坦	人為	縄文土器	縄文時代中期(加曽利EⅣ式)
136	D 6 j6	N－65°－E	楕円形	1.24 × 1.06	52	外傾	平坦	人為		縄文時代中期

番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径（軸）×短径（m）	規模 深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考（時期）
137	E 6 a7	N－20°－E	楕円形	1.46 × 1.33	46	緩斜	皿状	人為		縄文時代
138	F 7 c2	N－45°－E	楕円形	1.09 × 0.80	35	垂直	平坦	自然		
139	D 6 j6	N－84°－W	長楕円形	1.01 × 0.62	26	外傾	皿状	自然		
140	E 6 e7	N－37°－W	楕円形	1.08 × 0.86	42	外傾	平坦	自然		縄文時代中期
141	E 6 d9	N－18°－W	楕円形	1.92 × 1.10	36	外傾	平坦	自然	縄文土器	縄文時代中期
142	D 7 g1	N－69°－W	楕円形	0.80 × 0.63	37	外傾	皿状	自然	縄文土器	縄文時代中期後葉
143	D 7 g1	N－23°－W	楕円形	0.58 × 0.50	18	外傾	平坦	自然		
144	E 6 i7	N－13°－W	楕円形	1.64 × 0.86	28	外傾	平坦	人為	縄文土器	縄文時代中期後葉
145	E 6 e8	N－11°－E	長楕円形	1.17 × 0.58	21	外傾	皿状	自然		
146	E 6 e9	N－68°－W	楕円形	1.46 × 1.32	52	外傾	平坦	人為	縄文土器	縄文時代中期（加曽利EⅢ式期）
147	E 6 c6	N－62°－E	不定形	1.40 × 0.62	23	緩斜	皿状	自然		
149	E 6 d7	N－69°－E	楕円形	1.33 × 1.23	15	外傾	平坦	自然		
150	E 6 e7	N－81°－E	楕円形	1.12 × 0.92	30	外傾	平坦	自然		縄文時代中期
151	E 6 c4	—	半隅丸長方形	3.20 × 1.27	22	緩斜	平坦	自然		
152	E 6 d4	N－61°－E	楕円形	1.90 × 1.48	8	外傾	平坦	自然		
153	E 6 e5	N－25°－E	長楕円形	1.22 × 0.78	28	外傾	凹凸	自然		
154	E 6 e5	N－50°－E	楕円形	0.83 × 0.74	12	緩斜	皿状	自然		
155	E 6 e7	N－62°－E	不整楕円形	1.30 × 1.00	33	外傾	平坦	自然		
156	E 6 e6	N－27°－W	楕円形	0.98 × 0.89	40	垂直	平坦	自然	縄文土器	縄文時代中期（加曽利EⅢ式期）
157	E 6 e6	N－69°－W	楕円形	1.23 × 0.85	33	外傾	平坦	自然	縄文土器	縄文時代中期（加曽利EⅢ式期）
158	E 7 g2	N－0°	円形	1.20 × 1.10	66	外傾	皿状	人為	縄文土器	縄文時代中期（加曽利EⅢ式期）
159	E 6 f9	N－72°－E	楕円形	1.11 × 0.98	40	外傾	平坦	人為	縄文土器	縄文時代中期（加曽利EⅢ式期）
160	E 6 f9	N－13°－W	不整楕円形	1.38 × 0.44	18	緩斜	平坦	自然		
161	E 6 f9	N－82°－E	楕円形	0.70 × 0.61	30	緩斜	平坦	自然		
162	E 7 h1	N－46°－E	長楕円形	2.03 × 1.37	55	外傾	平坦	自然		
163	D 6 g8	N－13°－W	不整楕円形	1.58 × 0.90	22	緩斜	皿状	自然		
164	D 6 g7	[N－31°－E]	[楕円形]	[2.10] × [1.80]	92	緩斜	皿状	自然		
165	E 6 g9	N－57°－E	[楕円形]	0.90 × 0.80	20	外傾	平坦	自然		
166	E 6 f9	N－0°	円形	1.16 × 1.10	32	外傾	平坦	自然	縄文土器	縄文時代中期（加曽利EⅢ式期）
167	E 6 f9	N－66°－E	不整楕円形	1.41 × 0.81	30	外傾	平坦	自然		
168	E 7 h2	N－0°	円形	1.07 × 1.04	43	外傾	平坦	人為	縄文土器	縄文時代中期（加曽利EⅢ式期）
169	E 6 f6	N－36°－W	不整長方形	1.65 × 0.80	24	緩斜	皿状	自然		
170	E 6 g2	N－38°－W	不定形	1.52 × 1.26	82	垂直	平坦	人為	縄文土器	縄文時代中期（加曽利EⅢ式期）
171	E 6 f9	N－0°	円形	0.76 × 0.73	16	緩斜	平坦	自然		
172	E 6 h5	N－25°－W	楕円形	1.10 × 1.08	20	外傾	凹凸	自然		
174	E 6 f9	N－75°－E	楕円形	1.13 × 0.86	20	外傾	平坦	自然		
175	E 6 g8	N－65°－W	不整楕円形	1.38 × 0.86	15	緩斜	平坦	自然	縄文土器	縄文時代
176	E 6 i6	N－0°	円形	0.60 × 0.58	19	外傾	平坦	自然		
177	E 6 i6	N－0°	円形	0.73 × 0.69	13	緩斜	皿状	自然		
178	E 7 g3	N－43°－W	楕円形	1.07 × 0.86	63	緩斜	皿状	自然		
179	E 7 g3	N－24°－E	長楕円形	[1.96] × 1.12	15	外傾	平坦	自然		
180	D 7 f2	—	半円形	[0.93] × [0.35]	30	緩斜	皿状	自然		
181	D 7 e2	N－0°	円形	0.67 × 0.65	15	緩斜	皿状	自然		
182	D 7 g2	N－52°－E	楕円形	1.25 × 0.99	16	緩斜	平坦	自然		
183	D 7 e2	N－49°－W	楕円形	0.52 × 0.42	17	緩斜	皿状	自然		
184	E 7 f3	N－74°－W	隅丸台形	1.05 × 0.90	25	緩斜	皿状	自然		

番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径(軸)×短径 (m)	規模 深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考(時期)
185	D 7 e2	N－36°－W	楕円形	0.62 × 0.54	14	緩斜	皿状	自然		
186	E 6 h4	N－0°	円形	1.08 × 1.07	70	緩斜	凹凸	自然		
187	E 7 i2	N－42°－W	不定形	2.37 × 2.20	46	外傾	凹凸	自然		
188	E 7 j2	—	不定形	(2.25) × (1.86)	68	緩斜	凹凸	自然		
189	D 6 h7	[N－32°－W]	[楕円形]	[0.69] × 0.43	28	外傾	—	自然		
190	E 6 d8	N－70°－E	不整方形	1.50 × 1.32	30	緩斜	皿状	自然		
192	E 6 d7	N－0°	円形	0.66 × 0.62	20	緩斜	皿状	自然		
193	E 6 d8	N－36°－W	楕円形	1.61 × 1.16	13	外傾	平坦	自然		
194	E 6 j7	N－6°－W	楕円形	2.00 × 1.45	57	外傾	平坦	人為	縄文土器,土製円板	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)
195	D 6 h7	N－80°－W	楕円形	0.95 × 0.84	48	外傾	皿状	自然		
196	F 7 b1	N－5°－W	楕円形	1.13 × 0.94	22	緩斜	皿状	自然		
197	F 7 b0	N－47°－E	楕円形	1.26 × 1.02	46	緩斜	平坦	自然		
198	F 7 a1	N－37°－W	不整楕円形	0.75 × 0.62	68	外傾	平坦	自然		
199	E 5 j0	N－47°－W	隅丸方形	0.77 × 0.71	8	緩斜	平坦	自然		
200	F 7 b1	N－13°－W	楕円形	1.56 × 1.28	36	外傾	平坦	自然	縄文土器,土製円板	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)
203	E 7 j1	N－3°－W	楕円形	1.45 × 1.20	53	外傾	平坦	人為	縄文土器,土製有孔円板,礫	縄文時代中期(加曽利EⅢ～Ⅳ式期)
205	F 7 a1	N－0°	楕円形	0.80 × 0.64	16	緩斜	皿状	自然		
206	F 7 b1	N－0°	円形	0.48 × 0.46	19	緩斜	皿状	自然		
207	F 7 b1	N－0°	円形	0.66 × 0.62	35	緩斜	皿状	自然		
208	E 6 e8	N－41°－W	円形	0.52 × 0.50	18	緩斜	平坦	自然		
209	E 6 c8	N－45°－W	卵形	0.87 × 0.55	29	外傾	皿状	自然		
210	E 6 i6	N－66°－W	楕円形	1.04 × 0.67	26	緩斜	平坦	自然	縄文土器	縄文時代
211	E 6 c7	N－78°－E	楕円形	1.07 × 0.50	20	緩斜	皿状	自然		
212	D 6 i0	N－80°－E	楕円形	0.82 × 0.74	23	緩斜	凹凸	自然		
213	D 6 h0	N－50°－E	楕円形	0.87 × 0.66	28	外傾	凹凸	自然		
214	D 7 i2	N－40°－E	楕円形	1.00 × 0.84	21	緩斜	凹凸	自然		
215	F 6 c9	N－73°－W	楕円形	1.50 × 0.94	15	緩斜	平坦	自然		
216	F 6 b0	N－59°－W	楕円形	0.59 × 0.52	13	緩斜	皿状	自然		
218	F 7 a1	N－37°－W	楕円形	0.58 × 0.49	26	緩斜	皿状	自然		
219	E 6 h7	N－0°	円形	0.78 × 0.76	15	緩斜	皿状	自然		
220	E 7 f3	N－0°	円形	1.36 × 1.27	30	緩斜	皿状	自然		
221	E 6 h7	N－20°－E	楕円形	0.65 × 0.64	9	緩斜	皿状	自然		
222	F 6 d0	N－36°－E	楕円形	1.00 × 0.65	15	緩斜	皿状	自然		
223	E 7 e2	N－35°－W	楕円形	1.50 × 1.32	63	外傾	平坦	自然	縄文土器,礫	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)
224	E 6 g2	N－20°－E	[隅丸長方形]	1.20 × 0.95	34	外傾	平坦	自然		
225	E 6 g2	N－54°－E	不整楕円形	1.23 × 0.76	50	外傾	平坦	自然		
226	E 6 h0	N－40°－E	楕円形	1.37 × 1.22	4～12	緩斜	凹凸	自然		
227	E 6 h4	N－10°－E	不整長方形	0.51 × 0.41	4	緩斜	平坦	自然		
228	F 6 d7	N－0°	円形	1.74 × 1.69	68	外傾	平坦	自然	縄文土器,礫	縄文時代中期(加曽利EⅣ式期)
229	F 6 e7	N－78°－W	楕円形	0.64 × 0.58	21	外傾	平坦	自然		
230	F 6 e7	N－9°－E	楕円形	1.17 × 0.95	18	外傾	平坦	自然	縄文土器	縄文時代中期(加曽利EⅢ式期)
231	F 6 e6	N－25°－E	不整楕円形	1.09 × 0.87	25	緩斜	平坦	自然		
232	F 6 e0	N－30°－W	楕円形	0.99 × 0.78	33	緩斜	皿状	自然		
233	F 6 j0	N－0°	円形	0.62 × 0.60	17	外傾	平坦	自然		
234	F 6 d0	N－10°－E	楕円形	0.61 × 0.47	19	緩斜	皿状	自然		
235	F 6 c0	—	舟形	0.90 × 0.65	11～21	緩斜	凹凸	自然		